

# 改訂 しまね レッドデータブック 2014 動物編

島根県の絶滅のおそれのある野生動物





SHIMANE RED DATA BOOK 2014

# 改訂しまね レッドデータブック 2014動物編

島根県の絶滅のおそれのある野生動物

島 根 県



# 哺乳類



ニホンアシカ 絶滅

26ページ



ニホンカモシカ 絶滅

27ページ



ツキノワグマ 絶滅危惧Ⅰ類

28ページ



ヤマネ 絶滅危惧Ⅱ類

30ページ



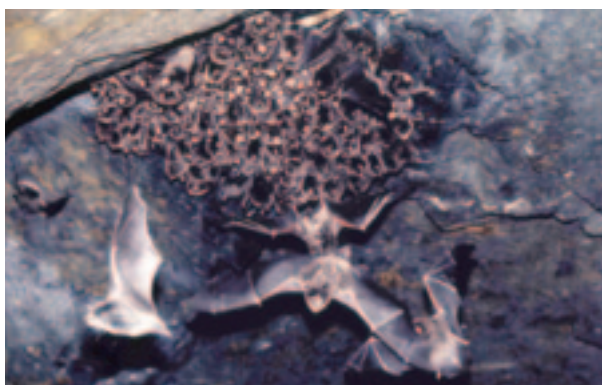
カワネズミ 準絶滅危惧

31ページ



キクガシラコウモリ 準絶滅危惧

31ページ



ユビナガコウモリ 準絶滅危惧

32ページ



ニホンイタチ 準絶滅危惧

33ページ

# 鳥 類



カラスバト 絶滅危惧Ⅰ類

38ページ



ヒメクロウミツバメ 絶滅危惧Ⅰ類

38ページ



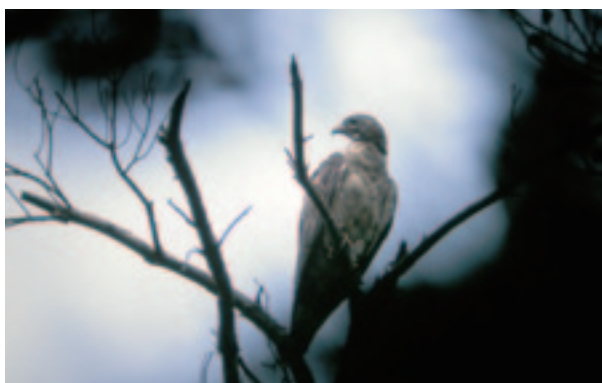
ヨシゴイ 絶滅危惧Ⅰ類

39ページ



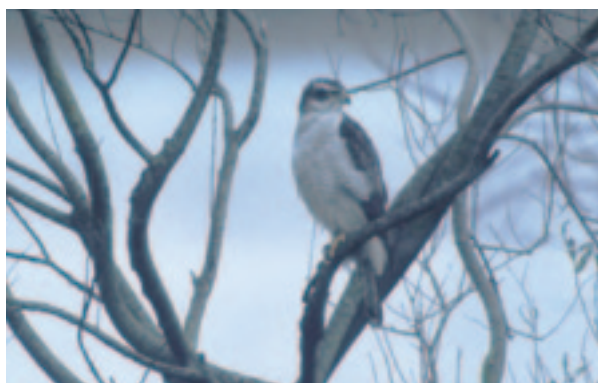
カンムリウミスズメ 絶滅危惧Ⅰ類

40ページ



ハチクマ 絶滅危惧Ⅰ類

40ページ



オオタカ 絶滅危惧Ⅰ類

41ページ



サシバ 絶滅危惧Ⅰ類

41ページ



クマタカ 絶滅危惧Ⅰ類

42ページ



ブッポウソウ 絶滅危惧Ⅰ類 42ページ



ハヤブサ 絶滅危惧Ⅰ類 43ページ



ヤイロチョウ 絶滅危惧Ⅰ類 43ページ



ウチヤマセンニュウ 絶滅危惧Ⅰ類 44ページ



イワミセキレイ 絶滅危惧Ⅰ類 44ページ



コイカル 絶滅危惧Ⅰ類 45ページ



ヒシクイ 絶滅危惧Ⅱ類 46ページ



カリガネ 絶滅危惧Ⅱ類 46ページ



オオハクチョウ 絶滅危惧Ⅱ類

47ページ



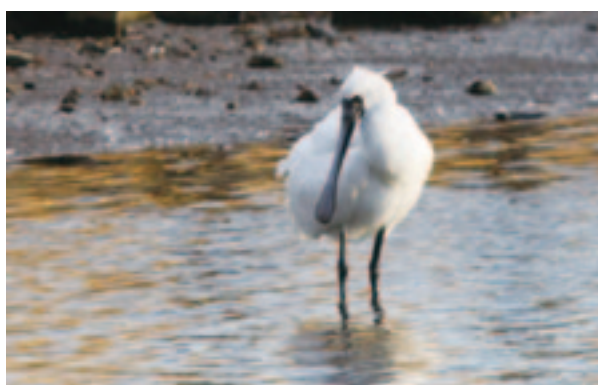
アカツクシガモ 絶滅危惧Ⅱ類

47ページ



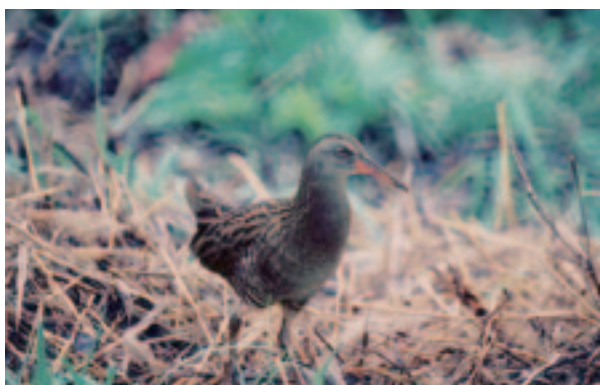
ミゾゴイ 絶滅危惧Ⅱ類

48ページ



クロツラヘラサギ 絶滅危惧Ⅱ類

48ページ



クイナ 絶滅危惧Ⅱ類

49ページ



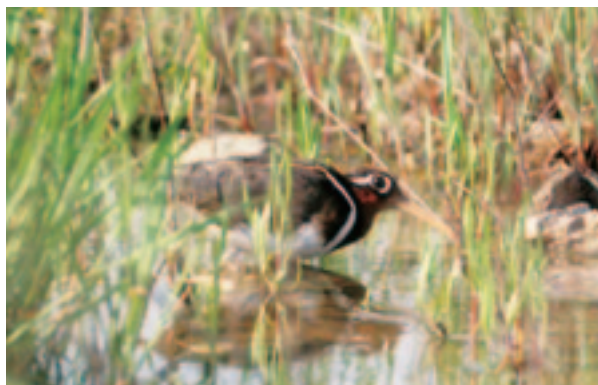
ヒクイナ 絶滅危惧Ⅱ類

49ページ



ヨタカ 絶滅危惧Ⅱ類

50ページ



タマシギ 絶滅危惧Ⅱ類

50ページ





コアジサシ 絶滅危惧Ⅱ類

51ページ



ミサゴ 絶滅危惧Ⅱ類

51ページ



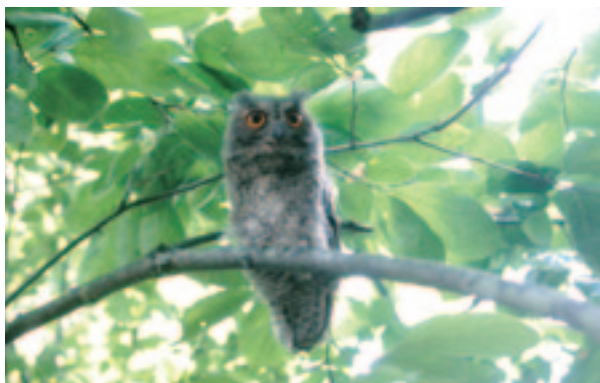
オジロワシ 絶滅危惧Ⅱ類

52ページ



チュウヒ 絶滅危惧Ⅱ類

52ページ



オオコノハズク 絶滅危惧Ⅱ類

53ページ



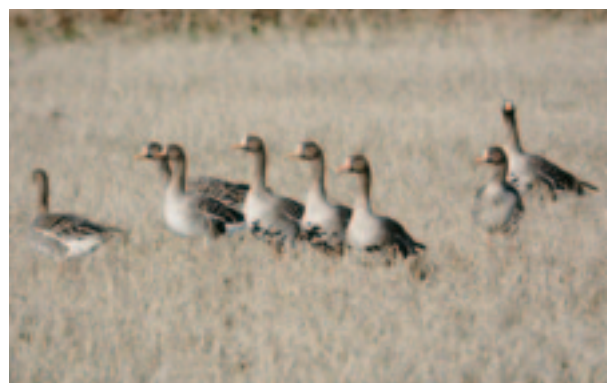
アカショウビン 絶滅危惧Ⅱ類

54ページ



ヤマセミ 絶滅危惧Ⅱ類

54ページ



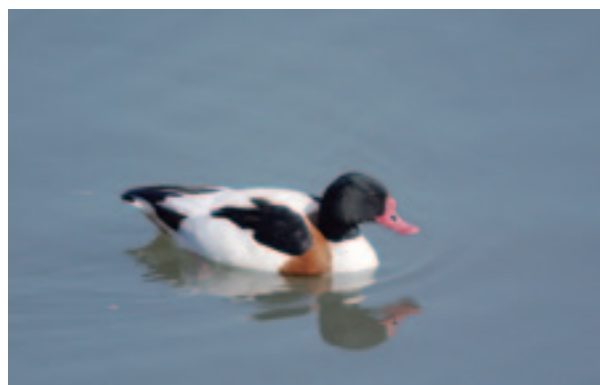
マガン 準絶滅危惧

55ページ



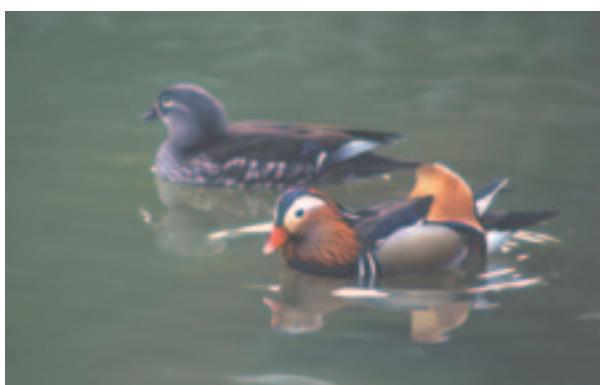
コハクチョウ 準絶滅危惧

55ページ



ツクシガモ 準絶滅危惧

55ページ



オシドリ 準絶滅危惧

56ページ



サンカノゴイ 準絶滅危惧

56ページ



コシアカツバメ 情報不足

66ページ



コルリ 情報不足

67ページ



コサメビタキ 情報不足

67ページ



クロジ 情報不足

68ページ

# 両生類・爬虫類



オオサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類 72ページ



オキサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類 72ページ



カミサンショウウオ 準絶滅危惧 73ページ



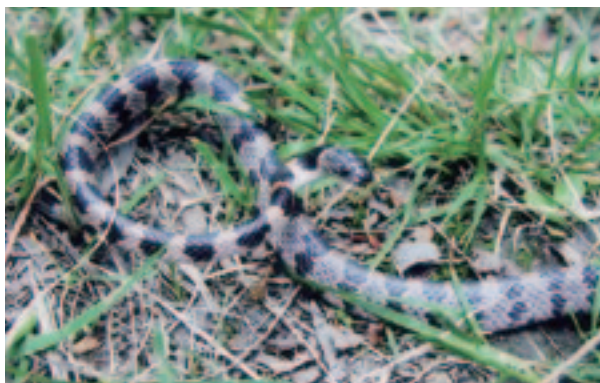
ブチサンショウウオ 準絶滅危惧 73ページ



ヒダサンショウウオ 準絶滅危惧 73ページ



オキタゴガエル 準絶滅危惧 74ページ



シロマダラ 準絶滅危惧 76ページ



ナガレタゴガエル 情報不足 77ページ

# 汽水・淡水魚類



ドウクツミミズハゼ 絶滅

82ページ



ミナミアカヒレタビラ 絶滅危惧Ⅰ類

83ページ



イシドジョウ 絶滅危惧Ⅰ類

83ページ



ゴギ 絶滅危惧Ⅰ類

84ページ



日本海系イトヨ 絶滅危惧Ⅰ類

84ページ



クルマサヨリ 絶滅危惧Ⅰ類

85ページ



オヤニラミ 絶滅危惧Ⅰ類

85ページ



スナヤツメ南方種 絶滅危惧Ⅱ類

86ページ



カワヤツメ 絶滅危惧Ⅱ類

86ページ



サクラマス 絶滅危惧Ⅱ類

87ページ



ヨウジウオ 絶滅危惧Ⅱ類

87ページ



サンゴタツ 絶滅危惧Ⅱ類

88ページ



カジカ (大卵型:河川陸封型) 絶滅危惧Ⅱ類

88ページ



イシドンコ 絶滅危惧Ⅱ類

89ページ



ルリヨシノボリ 絶滅危惧Ⅱ類

89ページ



シンジコハゼ 絶滅危惧Ⅱ類

90ページ



アブラボテ 準絶滅危惧

91ページ



ズナガニゴイ 準絶滅危惧

91ページ



サンインコガタスジシマドジョウ 準絶滅危惧

91ページ



アカザ 準絶滅危惧

92ページ



アユカケ (カマキリ) 準絶滅危惧

92ページ



ウツセミカジカ(小卵型・中卵型;両側回遊型) 準絶滅危惧

92ページ



オオヨシノボリ 準絶滅危惧

93ページ



カワアナゴ 情報不足

94ページ

# 昆虫類



ヒメシロチョウ 絶滅

106ページ



コバネアオイトトンボ 絶滅危惧I類

107ページ



モートンイトトンボ 絶滅危惧I類

107ページ



ヒロシマサナエ 絶滅危惧I類

108ページ



マイコアカネ 絶滅危惧I類

108ページ



コカワゲラ 絶滅危惧I類

109ページ



カワラバッタ 絶滅危惧I類

109ページ



タガメ 絶滅危惧I類

110ページ



トゲナベブタムシ 絶滅危惧Ⅰ類 110ページ



ハラビロハンミョウ 絶滅危惧Ⅰ類 111ページ



カワラハンミョウ 絶滅危惧Ⅰ類 111ページ



オオヒョウタンゴミムシ 絶滅危惧Ⅰ類 112ページ



イワタメクラチビゴミムシ 絶滅危惧Ⅰ類 112ページ



イツチビゴミムシ 絶滅危惧Ⅰ類 113ページ



マルコガタノゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅰ類 113ページ



ゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅰ類 114ページ





シャープゲンゴロウモドキ 絶滅危惧Ⅰ類 114ページ



ダイコクコガネ 絶滅危惧Ⅰ類 115ページ



オオハナカミキリ 絶滅危惧Ⅰ類 115ページ



キマダラルリツバメ 絶滅危惧Ⅰ類 116ページ



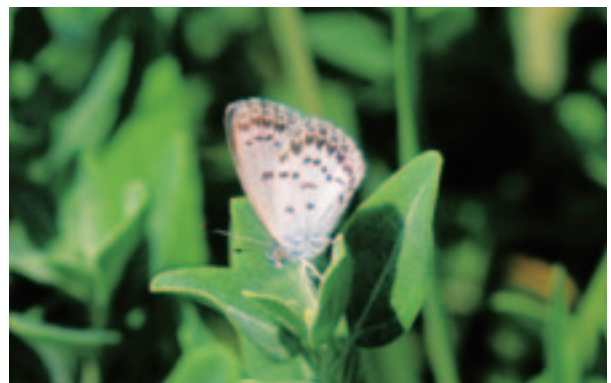
ルーミスジミ 絶滅危惧Ⅰ類 117ページ



ウラナミアカシジミ 絶滅危惧Ⅰ類 117ページ



クロシジミ 絶滅危惧Ⅰ類 118ページ



シルビアシジミ 絶滅危惧Ⅰ類 118ページ



ヒメシジミ本州・九州亜種 絶滅危惧Ⅰ類 119ページ



ゴマシジミ 絶滅危惧Ⅰ類 119ページ



ウラギンスジヒョウモン 絶滅危惧Ⅰ類 120ページ



オオウラギンヒョウモン 絶滅危惧Ⅰ類 120ページ



ヒョウモンモドキ 絶滅危惧Ⅰ類 121ページ



ウスイロヒョウモンモドキ 絶滅危惧Ⅰ類 121ページ



シータテハ 絶滅危惧Ⅰ類 122ページ



ホシミスジ近畿地方以西亜種 絶滅危惧Ⅰ類 122ページ



ウラナミジャノメ本土亜種 絶滅危惧Ⅰ類 123ページ



クロヒカゲモドキ 絶滅危惧Ⅰ類 123ページ



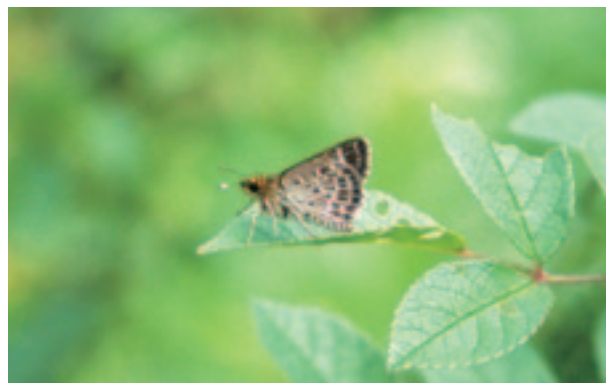
ウラジャノメ 絶滅危惧Ⅰ類 124ページ



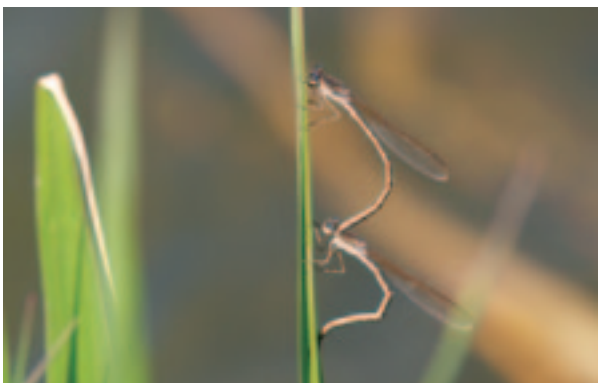
キバネセセリ 絶滅危惧Ⅰ類 124ページ



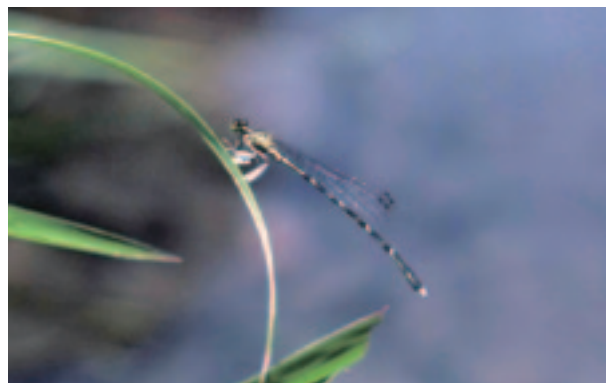
コキマダラセセリ 絶滅危惧Ⅰ類 125ページ



ホシチャバネセセリ 絶滅危惧Ⅰ類 125ページ



オツネトンボ 絶滅危惧Ⅱ類 126ページ



グンバイトンボ 絶滅危惧Ⅱ類 126ページ



ベニイトトンボ 絶滅危惧Ⅱ類 127ページ



ネアカヨシヤンマ 絶滅危惧Ⅱ類 127ページ



ナゴヤサナエ 絶滅危惧Ⅱ類 128ページ



ハネビロエゾトンボ 絶滅危惧Ⅱ類 128ページ



キイロヤマトンボ 絶滅危惧Ⅱ類 129ページ



ハッチョウトンボ 絶滅危惧Ⅱ類 129ページ



コオイムシ 絶滅危惧Ⅱ類 130ページ



ズイムシハナカメムシ 絶滅危惧Ⅱ類 130ページ



コエゾゼミ 絶滅危惧Ⅱ類 131ページ



サイカチマダラキジラミ 絶滅危惧Ⅱ類 132ページ



ハマベゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類 132ページ



コガタノゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類 133ページ



オオツノハネカクシ 絶滅危惧Ⅱ類 134ページ



アオハナムグリ島前亜種 絶滅危惧Ⅱ類 134ページ



ツヤネクイハムシ 絶滅危惧Ⅱ類 135ページ



ニッポンハナダカバチ 絶滅危惧Ⅱ類 135ページ



キバラハキリバチ 絶滅危惧Ⅱ類 136ページ



オオズグロメバエ 絶滅危惧Ⅱ類 136ページ



ギフチョウ 絶滅危惧Ⅱ類 137ページ



ジャコウアゲハ 絶滅危惧Ⅱ類 137ページ



スジボソヤマキチョウ 絶滅危惧Ⅱ類 138ページ



カラスシジミ 絶滅危惧Ⅱ類 138ページ



ウスイロオナガシジミ 絶滅危惧Ⅱ類 139ページ



オナガシジミ 絶滅危惧Ⅱ類 140ページ



ヒロオビミドリシジミ 絶滅危惧Ⅱ類 140ページ



ミドリシジミ 絶滅危惧Ⅱ類 141ページ



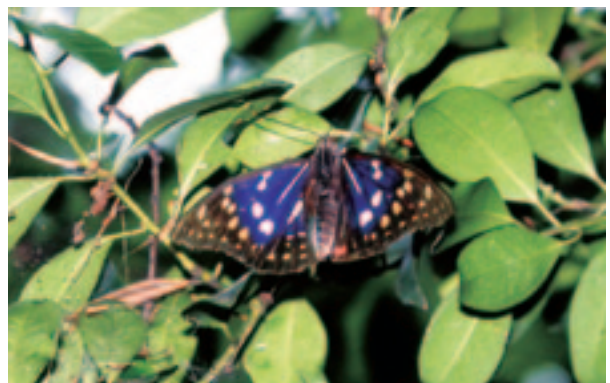
クモガタヒヨウモン 絶滅危惧Ⅱ類 141ページ



メスグロヒヨウモン 絶滅危惧Ⅱ類 142ページ



ミスジチョウ 絶滅危惧Ⅱ類 142ページ



オオムラサキ 絶滅危惧Ⅱ類 143ページ



ヒメヒガゲ中部・近畿・中国地方亜種 絶滅危惧Ⅱ類 143ページ



ギンイチモンジセセリ 絶滅危惧Ⅱ類 144ページ



スジグロチャバネセセリ 絶滅危惧Ⅱ類 144ページ



ミヤマチャバネセセリ 絶滅危惧Ⅱ類 145ページ



エゾトンボ 準絶滅危惧 150ページ



ヤマトマダラバッタ 準絶滅危惧 152ページ



シリアカハネナガウンカ 準絶滅危惧 153ページ



ハルゼミ 準絶滅危惧 154ページ



エノキカイガラキジラミ 準絶滅危惧 155ページ



アダチアカサシガメ 準絶滅危惧 158ページ





ハマベナガカメムシ 準絶滅危惧 158ページ



ハマベツチカメムシ 準絶滅危惧 159ページ



アオクチブトカメムシ 準絶滅危惧 160ページ



ハマベウスバカゲロウ 準絶滅危惧 161ページ



コオナガミズスマシ 準絶滅危惧 163ページ



アヤスジミゾドロムシ 準絶滅危惧 167ページ



ケスジドロムシ 準絶滅危惧 167ページ



ハガマルヒメドロムシ 準絶滅危惧 168ページ



ヨコミゾドロムシ 準絶滅危惧 168ページ



ホシミスジ隠岐亜種 準絶滅危惧 183ページ



イソハサミムシ 情報不足 185ページ



チッチゼミ 情報不足 186ページ



シャシャンボキジラミ 情報不足 188ページ



ミヤケミズムシ 情報不足 188ページ



イシハラカメムシ 情報不足 192ページ



カワラゴミムシ 情報不足 192ページ



コハンミョウ 情報不足

193ページ



アイヌハンミョウ 情報不足

193ページ



コニワハンミョウ 情報不足

193ページ



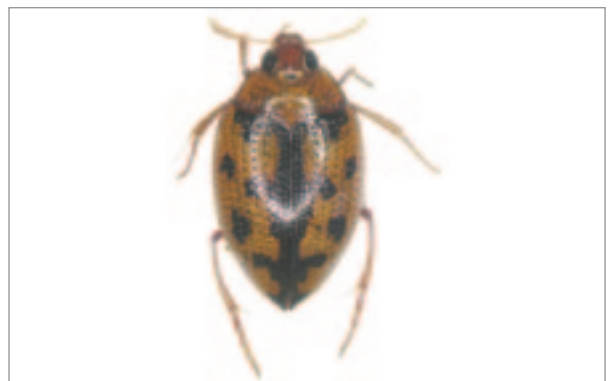
ホソハンミョウ 情報不足

193ページ



ウミミズギワゴミムシ 情報不足

195ページ



マダラコガシラミズムシ 情報不足

195ページ



ムツボシツヤコツブゲンゴロウ 情報不足

195ページ



クロコブセスジダルマガムシ 情報不足

197ページ



ウマヅライソハネカクシ 情報不足 197ページ



ホソキマルハナノミ 情報不足 198ページ



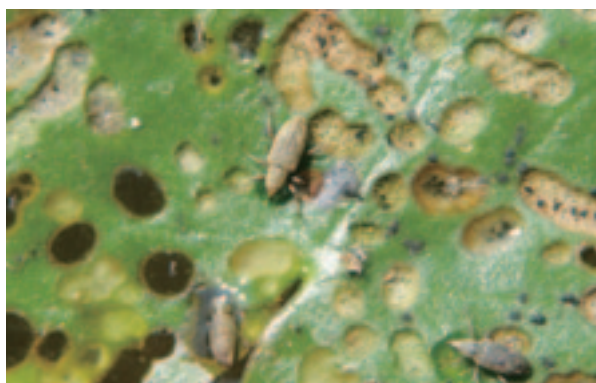
ババチビドロムシ 情報不足 201ページ



ヒゲナガヒラタドロムシ 情報不足 201ページ



クロゲンセイ 情報不足 204ページ



バッキングムカギアシゾウムシ 情報不足 209ページ



ババスケヒメゾウムシ 情報不足 210ページ



フクイアナバチ 情報不足 211ページ



ダルマアリ 情報不足

211ページ



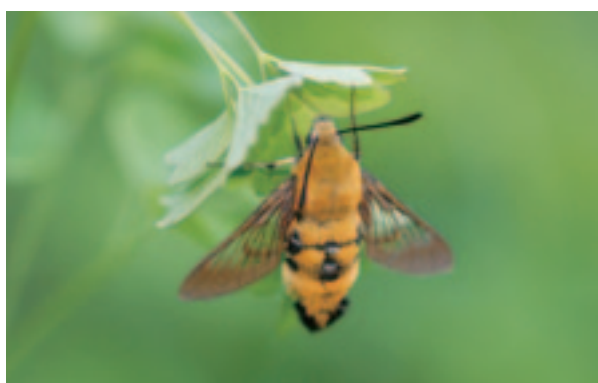
ケンランアリノスアブ 情報不足

212ページ



ギンボシスズメ 情報不足

216ページ



スキバホウジャク 情報不足

216ページ



ウスジロドクガ 情報不足

217ページ



トラサンドクガ 情報不足

217ページ



クビジロツメヨトウ 情報不足

219ページ



トビイロアカガネヨトウ 情報不足

220ページ

# 甲 殻 類



ハマガニ 絶滅危惧Ⅰ類

233ページ



ヒラテテナガエビ (ヤマトテナガエビ) 準絶滅危惧

234ページ



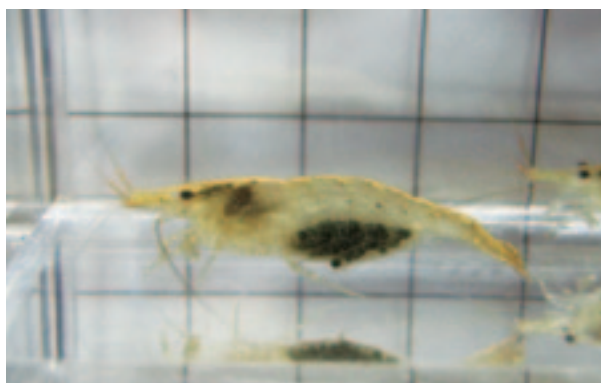
ヒメヌマエビ 準絶滅危惧

234ページ



ヤマトヌマエビ 準絶滅危惧

235ページ



ミナミヌマエビ 準絶滅危惧

235ページ



マメコブシガニ 準絶滅危惧

235ページ



バンケイガニ 準絶滅危惧

236ページ



トゲナシヌマエビ 情報不足

237ページ



タイワンヒライソモドキ 情報不足 237ページ



フタバカクガニ 情報不足 237ページ



ニホンハマワラジムシ 情報不足 238ページ



ニッポンヒロワラジムシ 情報不足 238ページ

# クモ類



イソコモリグモ 絶滅危惧Ⅱ類 225ページ



ワスレナグモ 準絶滅危惧 226ページ



キノボリトタテグモ 準絶滅危惧 226ページ

# 陸・淡水産貝類



ニシノシマガセル 絶滅危惧Ⅰ類 243ページ



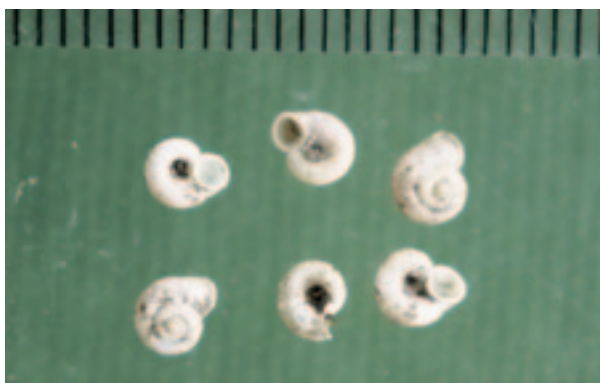
オキヒロウドマイマイ 絶滅危惧Ⅰ類 243ページ



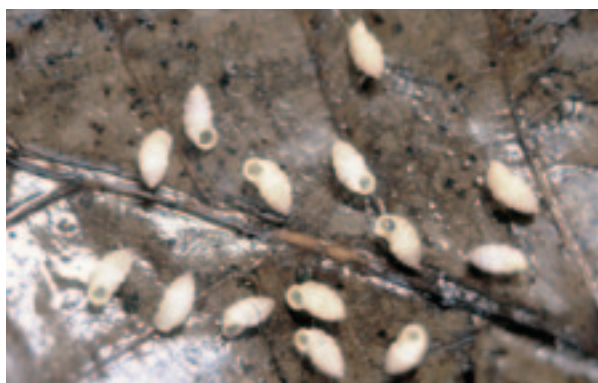
アラハダシロマイマイ 絶滅危惧Ⅰ類 244ページ



カワシンジュガイ 絶滅危惧Ⅰ類 244ページ



オキムシオイガイ 絶滅危惧Ⅱ類 245ページ



オキゴマガイ 絶滅危惧Ⅱ類 245ページ



ヒメナミギセル 絶滅危惧Ⅱ類 246ページ



オキノクニキビガイ 絶滅危惧Ⅱ類 246ページ





オキシメクチマイマイ 絶滅危惧Ⅱ類 247ページ



オキニシキマイマイ 絶滅危惧Ⅱ類 247ページ



オキマイマイ 絶滅危惧Ⅱ類 248ページ



ヘソアキコベソマイマイ 準絶滅危惧 253ページ



ダイセンニシキマイマイ 準絶滅危惧 254ページ



カラスガイ 準絶滅危惧 254ページ



マツカサガイ 準絶滅危惧 255ページ

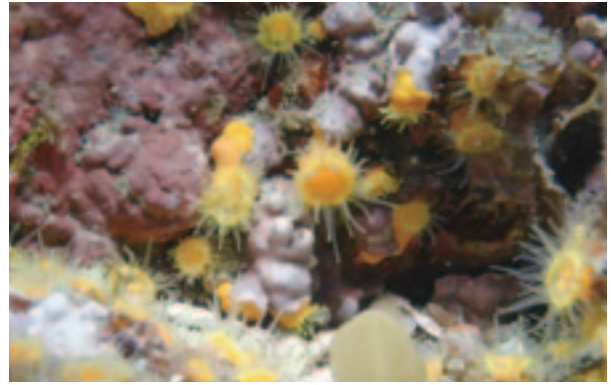


ニセマツカサガイ 準絶滅危惧 255ページ

## サンゴ類

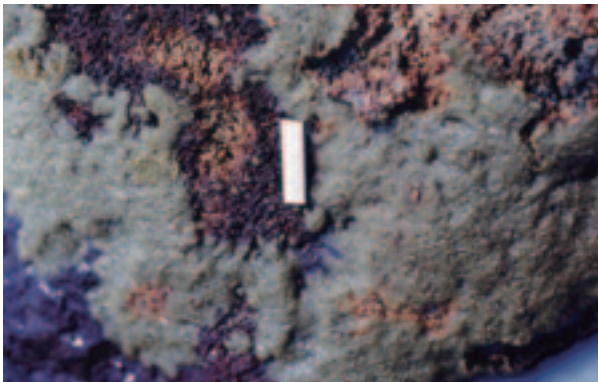


イソバナ(写真中央)・イボヤギ(写真上方) 準絶滅危惧 259ページ

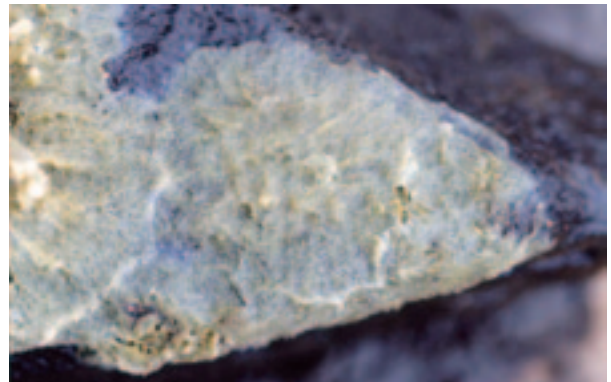


ムツサンゴ 準絶滅危惧 259ページ

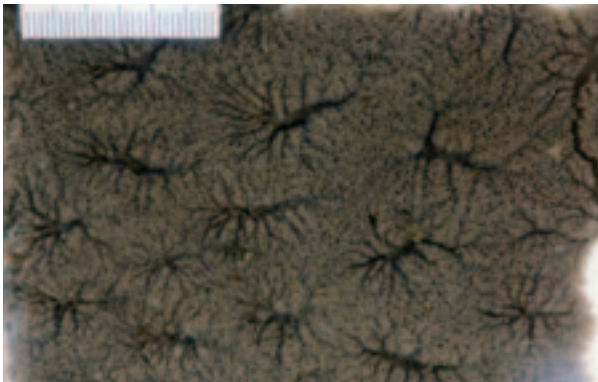
## 淡水海綿類



シロカイメン 準絶滅危惧 263ページ



ヨコトネカイメン 準絶滅危惧 263ページ



ツツミカイメン 情報不足 264ページ

## 目 次

刊行にあたって	1
「しまねレッドデータブック」について	3
改訂の背景	5
改訂作業の概要	7
選定結果（動物編）	14
選定種の解説項目と内容	16
島根県市町村地図	18
自然保護に関する主な法令等	19
<b>選定種の解説</b>	21
哺乳類	23
鳥類	35
両生類・爬虫類	69
汽水・淡水魚類	79
昆虫類	95
クモ類	223
甲殻類	231
陸・淡水産貝類	241
サンゴ類	257
淡水海綿類	261
<b>資 料</b>	265
執筆者一覧	267
文 献	280
写真撮影者等一覧	306
<b>索 引</b>	312



## 刊行にあたって

鳥根県は、東西およそ200kmにわたる細長い本土部分と日本海に浮かぶ隠岐諸島などからなります。南部県境に連なる中国山地ではブナの自然林など豊かな森林地帯が広がり、斐伊川、江の川、高津川などの源流となっています。古くから農業や林業、良質な砂鉄を原料とするたたら製鉄などが営まれ、自然と調和した里山などの地域が形成されてきました。

また、国内最大の汽水域でラムサール条約湿地に登録されている宍道湖・中海、さらに特異な地質形成や独自の生態系などが認められ、平成25年9月に世界ジオパークに認定された隠岐諸島など、優れた自然環境を有し、多様な野生動植物が生息・生育しています。

一方で、近年の産業や生活様式の変化による自然環境への負荷や、外来種の侵入などにより、多くの動植物が絶滅の危機に直面しています。鳥根の豊かな自然を未来に引き継いでいくことは、私たちの願いであるとともに、課せられた責務でもあります。

県では、平成11年に「鳥根環境基本計画」を策定し、「人と自然の共生の確保」を基本目標の一つに掲げ、生物多様性の確保に向けて施策を進めています。また、「鳥根県希少野生動植物の保護に関する条例」を平成22年3月に公布し、絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策の強化を図っています。

こうした施策の一環として、県内の希少な野生動植物の状況について、県民の皆様へ情報提供を行うため、平成9年に全国に先駆けて、「しまねレッドデータブック」を発行しました。その後、平成16年に改訂を行い、開発行為等に際しての保護対策の基礎資料としても活用いただけてきました。

平成22年には、生息生育実態等の状況変化など最新の情報を反映させた第2次改訂版を作成するために、「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置しました。委員会で検討を重ね、昨年3月に「改訂しまねレッドデータブック」の「2013植物編」を先行して発行し、そして、このたび「2014動物編」を発行する運びとなりました。

本書が鳥根の豊かな自然環境や多様な野生動植物を守るための基礎資料として活用され、県民の皆様の自然保護に対する理解を深めていただくきっかけになることを願っております。

終わりに、しまねレッドデータブック改訂委員会委員の皆様をはじめ、本書の発行に御協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

鳥根県知事 溝 口 善兵衛



「しまねレッドデータブック」について





## 改訂の背景

### 1 これまでのレッドデータブック発行状況について

#### (1)平成9年3月「しまねレッドデータブック」発行

(経緯等)

平成5年6月に「島根県貴重野生動植物選定委員会」を設置し、平成7年3月に学術的貴重性により整理した「島根県貴重野生動植物リスト」を作成。このリストの中から保護施策を展開していくことを主眼に選定し、平成9年3月に「しまねレッドデータブック」を発行。

(掲載種数)

掲載種数は下表のとおりである。

分類群		緊急保護	要保護	要注意	合計
動物	哺乳類	3	1	9	13
	鳥類	4	8	25	37
	両生類・爬虫類		4	3	7
	汽水・淡水魚類		8	7	15
	昆虫類	3	25	60	88
	陸・淡水産貝類		14	17	31
	動物小計	10	60	121	191
植物（維管束植物）		6	42	76	124
合計		16	102	197	315

#### (2)平成16年3月「改訂しまねレッドデータブック」発行

(経緯等)

平成13年7月に「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置し、カテゴリー区分、掲載分類群の見直し等について検討し、掲載種の選定、評価を行い、平成16年3月に「改訂しまねレッドデータブック」を発行。

(主な改正点)

国に準じてカテゴリー区分を変更、分類群の追加（甲殻類、クモ類、蘚苔類、地衣類、菌類など）、掲載種数の追加（315種→836種）

(掲載種数)

掲載種数は下表のとおりである。

分類群	絶滅 野生絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計	
		絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類					
動物	哺乳類	4	1	2	3	9	4	20
	鳥類	1	9	17	26	26	22	75
	両生類			3	3	6		9
	爬虫類				0	4		4
	汽水・淡水魚類	1	3	9	12	6	3	22
	昆虫類		32	33	65	102	119	286
	クモ類		1		1	2	9	12
	甲殻類			1	1		6	7
	陸・淡水産貝類		4	8	12	18	4	34
	サンゴ類				0	3		3
	淡水海綿類				0	2	1	3
動物小計	6	50	73	123	178	168	475	
植物	維管束植物	3	82	125	207	111	18	339
	蘚苔類		4	1	5	3		8
	藻類			1	1			1
	地衣類		5	1	6			6
	菌類		5	2	7			7
植物小計	3	96	130	226	114	18	361	
合計	9	146	203	349	292	186	836	

## 2 今回の第2次改訂について

- ・平成25年3月「改訂しまねレッドデータブック2013植物編」発行
- ・平成26年3月「改訂しまねレッドデータブック2014動物編」発行

### (1)改訂の必要性等について

- ①前回の改訂しまねレッドデータブック（平成16年3月発行）では、『掲載された動植物の状況は、年数とともに変化していく。また、今回の改訂に際して、その情報が不足しており、「情報不足」と評価された種や掲載すらできなかった種も少なくない。今後、継続的に調査、情報収集を行い、それらの情報に基づいた評価の見直しが行われる必要がある。このことから、5年～10年後を目処に改訂を行う必要がある。』と明記されている。
- ②平成22年3月に制定した「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」により、絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策を強化したところであるが、この条例をより効果的に運用するためにも、しまねレッドデータブックの改訂が必須である。

このため、平成22年11月に「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置し、改訂作業を開始した。

### (2)改訂概要について

#### ①見直し内容について

前回の改訂（平成16年3月）では、掲載種の見直しだけでなく、カテゴリー区分や掲載分類群の見直し等も併せて行ったが、今回の改訂では、掲載種の見直しを主として行い、カテゴリー区分や掲載分類群は前回と同様とした。

#### ②掲載種数等について

今回の改訂により動植物あわせて計944種が選定された。前回と比較すると108種（動物75種、植物33種）の増加となっており、その内訳は、新規掲載151種（動物109種、植物42種）、今回掲載対象外等としたものは46種（動物37種、植物9種）であった。

新規掲載種は、新たに県内で発見され、生息が明らかになった種や、情報の蓄積により生息地や個体数の状況が明らかになった種などであった。

また、カテゴリー区分の変更状況は、上位のカテゴリー区分への変更が71種（動物24種、植物47種）、下位のカテゴリー区分への変更が22種（動物12種、植物10種）であった。

#### (掲載種数一覧)

分類群	絶滅 野生絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計	
		絶滅危惧 I類	絶滅危惧 II類					
動物	哺乳類	4	1	3	4	9	2	19
	鳥類	1	15	18	33	17	29	80
	両生類			2	2	8	1	11
	爬虫類				0	4		4
	汽水・淡水魚類	1	6	9	15	7	1	24
	昆虫類	1	38	39	77	116	148	342
	クモ類			1	1	3	10	14
	甲殻類		1		1	7	9	17
	陸・淡水産貝類		4	7	11	20	2	33
	サンゴ類				0	3		3
	淡水海綿類				0	2	1	3
	動物小計	7	65	79	144	196	203	550
植物	維管束植物	2	146	108	254	93	17	366
	蘚苔類		1	2	3	5	3	11
	藻類			1	1			1
	地衣類		5	1	6			6
	菌類		5	2	7	3		10
	植物小計	2	157	114	271	101	20	394
合計	9	222	193	415	297	223	944	

## 改訂作業の概要

### 1 検討体制と経過について

#### (1) しまねレッドデータブック改訂委員会の設置

しまねレッドデータブックの改訂に当たっては、平成22年11月1日に専門家による「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置し、改訂作業を開始した。

また、委員以外にも各分類群の専門家に協力者として掲載種の選定、評価及び解説原稿執筆等について御協力をいただいた。

#### (2) 会議の開催

##### ①平成22年11月1日

第1回しまねレッドデータブック改訂委員会全体会議開催

(検討事項等) 改訂方針、作業スケジュール、改訂作業の実施体制、各委員担当分野、掲載種の見直し作業等

##### ②平成23年12月15日

第2回しまねレッドデータブック改訂委員会全体会議開催

(検討事項等) 改訂スケジュール、改訂方針、現地調査、RDBの構成と作成様式、原稿作成等

### 2 改訂方針について

上記会議により改訂方針は以下のとおりとなった。

#### (1) 改訂作業について

##### ①修正の考え方について

基本的には前回改訂したRDB（平成16年3月発行）の時点修正を行う。

##### ②情報収集について

㊦各委員及び協力者との連携による情報収集

㊧既存の文献・資料による情報収集

㊨必要に応じて現地調査による情報収集

#### (2) カテゴリー区分について

前回のカテゴリーと同様とする。

(絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類、準絶滅危惧、情報不足)

#### (3) 分類群（選定対象範囲）について

前回の分類群と同様とする。

##### ○動物

哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、汽水・淡水魚類、昆虫類、クモ類、甲殻類、陸・淡水産貝類、サンゴ類、淡水海綿類

##### ○植物

維管束植物、蘚苔類、海藻類、地衣類、菌類

#### (4) RDBの作成時期等について

今回の改訂は、植物編と動物編の分冊で発行し、発行時期は、植物編を平成24年度、動物編を平成25年度を目処とする。

#### (5) アウトプットの方向性について

前回と同様に印刷物（冊子）と電子媒体（県ホームページ掲載）を作成。ただし印刷物は予算を考慮して作成。

### 3 現地調査（動物編）について

今回の動物編の改訂に当たり県が実施した現地調査の実施概要は以下のとおりであるが、それ以外にも各委員及び協力者が独自に現地調査等の情報収集をしていただいていることを申し添える。

#### (現地調査の実施概要)

それぞれの調査について、調査年月日、調査地、調査者名を記した。

## 哺乳類

平成23年 8月2日、10月27日 邑南町（大畑、井上）  
平成24年 5月20日、7月2日、9月9日 浜田市（大畑）  
平成24年 9月22日 江津市（大畑）  
平成25年 7月21日、9月17日 浜田市（大畑）  
平成25年10月21日 江津市（大畑）

## 鳥類

平成23年 4月25～28日 西ノ島町、海士町（佐藤、八幡、森、倉長、豊田、深谷）  
平成24年 4月24～28日 海士町、知夫村（八幡、森、豊田、深谷、前川）  
平成24年 5月27～31日 海士町、西ノ島町、隠岐の島町（八幡、森、中森、深谷、前川）  
平成25年 4月22～26日 海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町（佐藤、森、齋藤、深谷、前川）  
平成25年 6月28日～7月3日 隠岐の島町（佐藤、八幡、森、市橋、江崎、深谷、前川）  
平成25年 7月20～22日 隠岐の島町（八幡、森、市橋、深谷、前川）

## 両生類・爬虫類

平成24年 3月3日 安来市、奥出雲町（山口、岩田）  
平成24年 5月4日～平成25年 3月9日の間のうち延40日間 隠岐4町村を除く15市町（岩田）  
平成25年 8月3日～平成26年 1月18日の間のうち延8日間 松江市、安来市、西ノ島町など8市町（岩田）

## 汽水・淡水魚類

平成23年 8月2～4日 益田市、浜田市（田久和、中野）  
平成23年 8月30日 邑南町（桑原、辻井）  
平成24年 3月18日 松江市（山口、門脇和也）  
平成24年 8月1～3日 益田市、津和野町（山口、浅津）  
平成24年 8月20～22日 江津市、川本町、美郷町、邑南町（浅津、桑原）  
平成24年 9月19～20日 浜田市（浅津、中野）  
平成24年10月29～30日 隠岐の島町（越川）  
平成24年10月29～30日 松江市（桑原、田久和）  
平成25年 8月5～7日 浜田市（中野、中畑）  
平成25年 8月20～22日 益田市（寺岡、三宅）  
平成25年 9月18日 邑南町（山口、高橋）

## 昆虫類

平成23年 6月14日、7月13日、8月8～9日、8月27～28日、10月21～22日 雲南市（門脇、林）  
平成23年 7月12～13日 西ノ島町、知夫村（淀江、坂田）  
平成23年 7月28日 出雲市（門脇、林）  
平成23年 8月8日 松江市（門脇、林）  
平成23年 8月9～11日 隠岐の島町（淀江、坂田）  
平成24年 5月16日、6月17日 大田市（尾原）  
平成24年 5月19～20日 出雲市、邑南町（松田）  
平成24年 6月1日 大田市、江津市、浜田市（皆木、新部、星川）  
平成24年 6月14日、6月18日 出雲市（尾原）  
平成24年 6月30日～7月1日 浜田市、大田市、江津市（皆木、新部、星川）  
平成24年 7月23～24日 大田市、江津市、浜田市、益田市（新部、松田）  
平成24年 7月25日 出雲市（淀江、大浜、松田、三島）  
平成24年 7月25～26日 江津市、浜田市、益田市（門脇、林）  
平成24年 7月29日 江津市、浜田市（前田）  
平成24年 8月5日 大田市、益田市（前田）  
平成24年 8月11日 浜田市（門脇、林）  
平成24年 8月18日 益田市（皆木、新部、星川）  
平成24年 8月～9月 出雲市、大田市（皆木、林）  
平成25年 7月27～28日 出雲市、雲南市（門脇）  
平成25年 8月30～31日 大田市、江津市（淀江）  
平成25年 9月14日 松江市（淀江）

## クモ類

- 平成23年 8月10～11日 益田市（景山、皆木）
- 平成24年 9月 1日 松江市、出雲市（景山、皆木）
- 平成24年 9月30～10月 1日 津和野町（景山、皆木）

## 甲殻類

- 平成23年 6月 1～2日 江津市、川本町、邑南町、美郷町（山口、辻井）
- 平成23年 8月23～24日 隠岐の島町（山口、桑原）
- 平成23年 8月31日～9月 1日 浜田市、江津市（桑原、辻井）
- 平成24年 9月 5～6日 海士町、西ノ島町、隠岐の島町（桑原、中野）
- 平成24年 9月19～20日 浜田市（浅津、中野）
- 平成25年 8月 5～7日 浜田市（中野、中畑）
- 平成25年 8月20～22日 益田市（寺岡、三宅）
- 平成25年 8月26～27日 松江市、出雲市（桑原）

## 陸・淡水産貝類

- 平成23年10月24日、11月25日、12月22日、平成24年 2月19日 松江市（戸田、岸）
- 平成24年 3月12～14日 海士町、西ノ島町、隠岐の島町（黒住、近見、野津、深谷）
- 平成24年 7月15日 西ノ島町（近見、深谷）
- 平成24年 7月26～28日 隠岐の島町（野津、増野）
- 平成24年 8月 3～5日 海士町、西ノ島町（近見、深谷、増野）
- 平成24年 9月17～20日 海士町、西ノ島町、隠岐の島町（戸田、八幡、黒住、野津、深谷）
- 平成25年 8月21～23日 隠岐の島町（八幡、深谷、増野）
- 平成25年11月 1日 海士町（近見、深谷）
- 平成25年11月20～22日 隠岐の島町（戸田、八幡）
- 平成25年12月20～21日 海士町（戸田、近見、深谷）

## (参考)

改訂方針については、上記「2 改訂方針について」のとおりであるが、その他の改訂作業の取扱は前回改訂と同様な取扱としている。

参考となる改訂作業の取扱について、前回の改訂しまねレッドデータブック（平成16年3月発行）から抜粋する。

### 1 カテゴリーについて

国や他の都道府県との比較を行う上でも、また、広く一般の方にわかりやすくするためにも、できるだけ統一的なカテゴリー区分と要件を用いることが望ましいと判断し、基本的に環境省のカテゴリー区分に準拠することとした。

ただし、カテゴリーの要件については、鳥根県では定量的に評価するために必要な十分なデータが得られない種も多いことから、環境省カテゴリーの定性的要件のみを採用することとした。したがって、「絶滅危惧Ⅰ類」は、「ⅠA」と「ⅠB」に区分はしていない。

### 2 鳥根県固有評価の付記について

掲載された種について、鳥根県の固有・特産種、中国地方の固有・特産種等、全国的に分布域が局限される種、県内において分布域が隔離されている種、分布の限界が存在する種、基準標本産地がある種については、絶滅の危惧の度合いによるカテゴリー区分とは別に、県固有評価として評価区分を並記することとした。

### 3 選定対象範囲について

#### (1)共通の対象要件について

全ての分類群に共通する選定評価の対象要件は下記のとおりである。

なお、「種」には、「亜種」を含むものとした。

- ①県内で生息生育の記録がある種

- ②生物学的知見が比較的蓄積されている種
- ③陸産、汽水・淡水産及び人為の影響を受けやすい海岸棲の生物種
- ④外来種は対象外

明治維新以降に県外から導入された種を外来種とし、外国から導入された種だけでなく、国内の他の地域から導入された種も外来種として対象外とした。

- ⑤迷鳥や迷蝶等、県内に安定的に生息・生育しているとは考えにくい種、確認記録があるが誤同定が疑われる種は除く。

(2)分類群ごとの対象条件について

上記の共通の対象要件に加え、各分類群ごとに独自の対象要件を設定した場合は、各分類群の概説において、その旨を説明している。

## しまねレッドデータブック改訂委員会委員及び協力者名簿

### しまねレッドデータブック改訂委員会委員

	氏名	所属等	担当分類群
委員長	松野 焯	島根大学生物資源科学部名誉教授	両生類・爬虫類
副委員長	杵村 喜則	元島根大学生物資源科学部助教授	維管束植物
委員	秋吉 英雄	島根大学生物資源科学部准教授	両生類・爬虫類、サンゴ類、海藻類
	大畑 純二	(公財)しまね自然と環境財団客員研究員	哺乳類
	門脇 久志	環境省希少野生動植物種保存推進員	昆虫類
	國井 秀伸	島根大学汽水域研究センター教授	維管束植物(水生植物)
	越川 敏樹	(公財)ホシザキグリーン財団	汽水・淡水魚類
	佐藤 仁志	(公財)日本野鳥の会理事長	哺乳類、鳥類、汽水・淡水魚類、甲殻類
	下瀬 敏	日本蘚苔類学会会員	蘚苔類
	戸田 顕史	(公財)島根県環境保健公社	陸・淡水産貝類
	前川 二太郎	鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター教授	菌類
	八幡 浩二	隠岐自然倶楽部	隠岐の生物
淀江 賢一郎	山陰むしの会	昆虫類	
委員及び作業チーム(注)	井上 雅仁	(公財)しまね自然と環境財団	維管束植物
	星野 由美子	(公財)しまね自然と環境財団	鳥類
	皆木 宏明	(公財)しまね自然と環境財団	昆虫類
	森 茂晃	(公財)ホシザキグリーン財団	鳥類
	山口 勝秀	(公財)ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類

(注) 作業チーム：(公財)しまね自然と環境財団及び(公財)ホシザキグリーン財団には、今回のしまねレッドデータブック改訂作業に係る作業チームとして各委員・協力者との連絡調整や情報収集の取りまとめを行っていただいた。

### 動物編協力者(選定・評価、原稿執筆、現地調査)

氏名	所属等	分類群
浅津 紳司	(公財)ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類、甲殻類
市橋 直規	山階鳥類研究所協力調査員	鳥類
伊藤 文紀	香川大学農学部教授	昆虫類
岩田 貴之	日本爬虫両棲類学会会員	両生類・爬虫類
江崎 逸郎	日本鳥学会会員	鳥類
大浜 祥治	山陰むしの会	昆虫類
鴛海 智佳	ミナミアカヒレタビラ研究会	汽水・淡水魚類
尾原 和夫	山陰むしの会	昆虫類
景山 純孝	日本蜘蛛学会会員	クモ類
門脇 和也	島根県自然保護レンジャー	汽水・淡水魚類
川野 敬介	豊田ホタルの里ミュージアム	昆虫類
岸 真	(公財)島根県環境保健公社	陸・淡水産貝類

倉長 裕 幸	隠岐ジオパークガイド倶楽部会員	鳥類
黒住 耐 二	千葉県立中央博物館主任上席研究員	陸・淡水産貝類
桑原 友 春	(公財) ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類、甲殻類
桑原 崇	(公財) 島根県環境保健公社	陸・淡水産貝類
劔持 康 弘	株式会社ウエスコ	昆虫類
近藤 高 貴	大阪教育大学自然研究講座教授	陸・淡水産貝類
齋藤 正 幸	隠岐ジオパーク戦略会議	鳥類
坂田 国 嗣	山陰むしの会	昆虫類
佐々木 興	(公財) ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類
鈴木 謙 治	山陰むしの会	昆虫類
祖田 周	山陰むしの会	昆虫類
高橋 由 也	(公財) ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類
田久和 剛 史	(公財) ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類
近見 芳 恵	NPO法人 隠岐しぜんむら	陸・淡水産貝類
辻井 要 介	島根大学汽水域研究センター協力研究員	汽水・淡水魚類、甲殻類
寺岡 誠 二	(公財) ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類、甲殻類
豊田 暁	(公財) ホシザキグリーン財団	鳥類
長瀬 翔	山陰むしの会	昆虫類
中野 浩 史	(公財) ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類、甲殻類
中畑 勝 見	(公財) ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類、甲殻類
中森 純 也	山階鳥類研究所協力調査員	鳥類
新部 一太郎	島根大学生物資源科学部	昆虫類
野津 大	環境省自然公園指導員	両生類・爬虫類、陸・淡水産貝類
林 成 多	(公財) ホシザキグリーン財団	昆虫類
平田 正 礼	隠岐ジオパークガイド倶楽部会員	陸・淡水産貝類
深谷 治	NPO法人 隠岐しぜんむら	鳥類、陸・淡水産貝類
福井 修 二	山陰むしの会	昆虫類
星川 和 夫	元島根大学生物資源科学部教授	昆虫類
前川 文 吾	隠岐自然保護官事務所	鳥類、陸・淡水産貝類
前田 泰 生	島根大学名誉教授	昆虫類
増野 和 幸	山口県萩市立川上中学校校長	陸・淡水産貝類
益田 芳 樹	川崎医科大学自然科学教室教授	淡水産海綿類
松田 隆 嗣	島根大学大学院生物資源科学研究科	昆虫類
三島 秀 夫	島根県立三瓶自然館研究員	昆虫類
三宅 恭 輔	(公財) ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館	汽水・淡水魚類、甲殻類
宮永 龍 一	島根大学生物資源科学部教授	昆虫類
山内 健 生	富山県衛生研究所主任研究員	甲殻類

(敬称略、50音順、所属等は平成26年2月1日現在)

※写真撮影者等は、306～311ページに掲載。



## 改訂版 カテゴリーの定義

カテゴリー及び基本概念	要件
<b>絶滅 Extinct (EX)</b> <b>本県ではすでに絶滅したと考えられる種</b>	過去に本県に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、本県ではすでに絶滅したと考えられる種
<b>野生絶滅</b> Extinct in the Wild (EW) <b>飼育・栽培下でのみ存続している種</b>	過去に本県に生息したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、本県において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。
絶滅危惧 <b>絶滅危惧Ⅰ類</b> Critically Endangered +Endangered (CR+EN) <b>絶滅の危機に瀕している種</b> 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑤それほど遠くない過去（30年～50年）の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
	<b>絶滅危惧Ⅱ類</b> Vulnerable (VU) <b>絶滅の危険が増大している種</b> 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。
<b>準絶滅危惧</b> Near Threatened (NT) <b>存続基盤が脆弱な種</b> 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	次に該当する種 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生息条件が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 ④交雑可能な別種が侵入している。
<b>情報不足</b> Data Deficient (DD) <b>評価するだけの情報が不足している種</b>	次に該当する種 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 ①どの生息地においても生息密度が低く希少である。 ②生息地が局限されている。 ③生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 ④生活史の一部又は全部で特殊な環境条件を必要としている。

## 改訂版 島根県固有評価の定義

区分	要件
島根県固有種・特産種	「固有種」は世界的に島根県だけに分布。「特産種」は世界的に分布があるが国内では島根県だけに分布。
中国地方固有種・特産種・準特産種	「準特産種」は、中国地方を分布の本拠とするが、他地域にも分布が見られる種。具体的には中国地方以外の数（1～2）県に分布するもの。
分布域局限種	上記以外で全国的に分布が局限される種。具体的には本県以外の5県前後に分布するもの。
隔離分布種	島根県内において、分布域が隔離されている種。
分布限界種（北限、南限等）	島根県内に分布の限界（北限、南限等）が存在する種。
基準標本産地	島根県内に基準標本産地がある種について記載。

## 選定結果（動物編）

今回選定された掲載種数一覧

分類群	絶滅 野生絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計	
		絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類					
動物	哺乳類	4	1	3	4	9	2	19
	鳥類	1	15	18	33	17	29	80
	両生類			2	2	8	1	11
	爬虫類				0	4		4
	汽水・淡水魚類	1	6	9	15	7	1	24
	昆虫類	1	38	39	77	116	148	342
	クモ類			1	1	3	10	14
	甲殻類		1		1	7	9	17
	陸・淡水産貝類		4	7	11	20	2	33
	サンゴ類				0	3		3
	淡水海綿類				0	2	1	3
	動物小計	7	65	79	144	196	203	<b>550</b>

【参考】前回改訂（平成16年3月発行）の掲載種数一覧（動物）

分類群	絶滅 野生絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計	
		絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類					
動物	哺乳類	4	1	2	3	9	4	20
	鳥類	1	9	17	26	26	22	75
	両生類			3	3	6		9
	爬虫類				0	4		4
	汽水・淡水魚類	1	3	9	12	6	3	22
	昆虫類		32	33	65	102	119	286
	クモ類		1		1	2	9	12
	甲殻類			1	1		6	7
	陸・淡水産貝類		4	8	12	18	4	34
	サンゴ類				0	3		3
	淡水海綿類				0	2	1	3
	動物小計	6	50	73	123	178	168	<b>475</b>

前回改訂と比較したカテゴリー等変更状況一覧

変更状況等の区分	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	汽水・淡水魚類	昆虫類	クモ類	甲殻類	陸・淡水産貝類	サングソ類	淡水海綿類	合計
カテゴリー区分変更なしの種	17	59	8	4	15	205	11	6	31	2	3	361
上位のカテゴリー区分への変更種	0	3	0	0	4	17	0	0	0	0	0	24
下位のカテゴリー区分への変更種	0	0	1	0	0	9	1	1	0	0	0	12
新規掲載種	0	5	2	0	2	85	2	10	2	1	0	109
情報不足からの変更種	2	5	0	0	1	22	0	0	0	0	0	30
情報不足への変更種	0	8	0	0	0	3	0	0	0	0	0	11
その他変更種	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
小計	19	80	11	4	24	342	14	17	33	3	3	550
掲載対象外等となった種	1	0	0	0	2	30	0	0	3	1	0	37

# 選定種の解説項目と内容

## 1. 構成

選定種の解説は、対象分類群ごと、カテゴリー区分ごとに掲載した。まず、分類群ごとに、分類群についての概要や選定の概要などの解説を行い、次に選定種ごとの解説を記載している。なお、参考文献については分類群ごとに、執筆者名については各選定種ごとに一括して巻末に掲載した。

## 2. 種ごとの解説項目と内容

### (1)動物群名

目名と科名を記載した。

### (2)種名(亜種名)

和名と学名を記載した。学名については、命名者、命名年も含めて記載した。

### (3)カテゴリー区分

- ①鳥根県 鳥根県における評価区分を記載した。
- ②鳥根県固有評価 鳥根県における固有評価区分を記載した。
- ③環境省 環境省第4次レッドリスト(2012及び2013)のカテゴリー区分を記載した。

### (4)写真掲載ページ

写真の掲載ページを記載した。

### (5)選定理由

選定評価した理由を記載した。

### (6)概要

形態、生態、国内分布などを記載した。

### (7)県内での生息地域・生息環境

県内での生息地域は、できるだけ広域な名称や地形名及び市町村名を使用するが、生息場所が特定される地名等の使用は極力控えた。

例：県西部、隠岐諸島、宍道湖、松江市など

#### ①表について

生息地域及び生息環境を表で表した。

表中において、生息地域の区分は、別図のとおりである。

生息環境の区分のうち、山地、里地、平地の区分は下記のとおりとした。

山地地域 = 人口密度が50人未満、林野率が80%以上かつ耕地率が10%未満の地域。ただし、この条件に該当する場合でも、地形分類が丘陵地、台地、低地に該当する地域は里地とする。

里地地域 = 山地地域と平地地域の間位置する地域。

平地地域 = 人口密度が300人以上かつ林野率が50%未満の地域。ただし、この条件に該当する場合でも、地形区分が山地、山麓に該当する地域、または標高100メートル以上の地域は里地とする。

また、生息環境の区分は、下記のとおりとした。

森林 = 樹林地帯。林縁を含む。

農地 = 水田、畑地等。休耕田、水路等を含む。

河川 = 河川。河川敷、ヨシ原等を含む。

湖沼 = 湖、池、沼、湿地等。岸辺、ヨシ原等を含む。

なお、生息環境の区分は分類群、選定種特性により、必要に応じて付加して表示している。

例：地中、崖地、洞窟、海上など

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
	△	○	◎	○																		

<表中の記号について>

◎ = 数少ない繁殖地・群生地があるなどの重要な情報がある。

○ = 生息の確認記録がある。

△ = 生息記録はないが、生息の可能性がある。生息記録はあるが、古いかきわめてまれな確認例。

× = 絶滅・野生絶滅種のかつて確認地点。

## ②分布図について

基本的には、絶滅危惧（Ⅰ類及びⅡ類）について、分布図を表示している。

生息地を2次メッシュ（約10km四方）により表示している。

表示している生息地については、執筆者が既存の情報を整理確認し、生息が認められるメッシュを表示したものである。したがって、表示されていないメッシュについても、今後の調査により生息が確認される可能性がある。

ただし、次のような場合には、分布図を表示していない。

⑦分布図を表示することにより、盗採等の危険が生じる種。

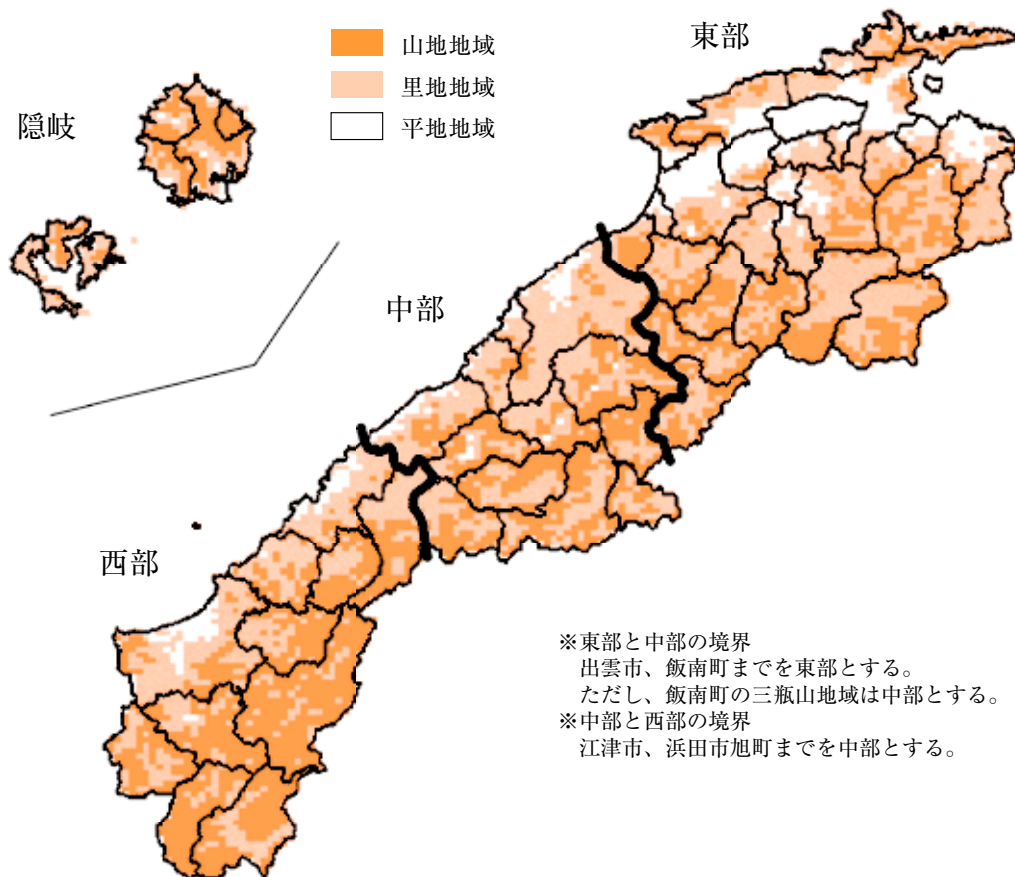
④県内の分布を把握するに足りる十分な情報がなく、一部の確認地域を表示することにより、分布域について誤解を招くおそれがある種。

## (8)存続を脅かす原因

選定種の存続を脅かす原因を簡潔に記載した。

## (9)特記事項

特に記すべき必要がある事項について、随時記載した。



# 島根県市町村地図



## 自然保護に関する主な法令等

### (優れた自然環境の保全を主な目的とする法令)

#### ■自然公園法、鳥根県自然公園条例

優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図るため、国立公園、国定公園、県立自然公園の地域を指定している。公園区域内では一定の行為が規制されるとともに、指定された動植物の捕獲採取が禁止されている。

#### ■自然環境保全法、鳥根県自然環境保全条例

優れた自然環境を保全することが特に必要な地域を「自然環境保全地域」として指定し、その保全を図っており、地域内に指定した「野生動植物保護地区」では、野生動植物の捕獲、採取、損傷等の行為が禁止されている。

### (野生生物の保護を主な目的とする法令)

#### ■鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護法）

哺乳類及び鳥類を対象としており、鳥獣保護事業計画を策定し、鳥獣保護区の設定や鳥獣保護思想の普及啓発等による保護対策が行われている。また、狩猟の取り締まりや適正化を内容とする狩猟対策も行われている。

#### ■絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

#### ■鳥根県希少野生動植物の保護に関する条例

野生動植物保護の中核となっている法令であり、希少野生動植物種（指定希少野生動植物）の指定による個体等の捕獲や譲渡に関する規制、生息地等の保護に関する規制、保護増殖事業（保護管理事業）などが規定されている。現在、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種は89種、県条例に基づく指定希少野生動植物は5種（ダイコクコガネ、ミナミアカヒレタビラ等）が指定されている。

#### ■特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）

もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすものについて特定外来生物として指定し、飼養・栽培・保管・運搬・輸入などが原則として禁止されている。

#### ■文化財保護法、文化財保護条例

学術的価値の高い動植物やその生息生育地などを天然記念物として指定し、保護のための措置を講じている。

### (開発行為に際しての環境配慮に関する法令等)

#### ■環境影響評価法、環境影響評価条例

環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業を実施する者が、事業の実施前に、その事業が環境に及ぼす影響について調査、予測及び評価を行い、必要な環境保全措置を検討することにより、その事業を環境保全上、より望ましいものとするための制度を法制化したものである。

#### ■鳥根県土地利用調整要綱による開発協議

開発事業者は一定規模の開発行為に際して、自然環境に著しい影響が及ばないように、十分な配慮を行うことが求められており、開発計画について知事との協議が必要となる。

#### ■鳥根県公共事業環境配慮指針

県が行う公共事業について環境配慮の方針を示すとともに、環境影響評価対象事業に準じた事業に係る環境配慮システムを構築し、その継続的改善を図るものである。

環境配慮の手順については、事業全体をその進捗に応じて調査・計画、設計、実施の三段階に分け、それぞれの段階において事前に環境配慮事項を設定し、その実行に努め、事業実施後その達成状況を自己評価し、継続的に環境配慮の向上に努めていくものである。





# 選定種の解説



# 概説

## RED DATA BOOK

# 哺乳類

## 1. 野生動物の保護

野生生物種の「保護」には、種そのものの保存と、生態系構成要素としての種の保存が考えられるが、種の保存には人為を全く排除した厳正保存の他に適正な人為管理も含まれる。特に、日本のように国土が狭く人間による自然の利用率が高い国においては、自然に全く人為的影響を及ぼさないで厳正保存することは不可能であるし、原生的自然がほとんど無く、部分的または大部分が破壊されてしまっているような自然を保存維持しようとするれば、破壊された部分を人為で補わざるを得ないことも生じてくる。

例えば、ニホンオオカミは我が国の陸上生態系における最高次の消費者としてシカやイノシシなどの大型植食動物を捕食し、結果として彼らの極端な増殖を抑え、生態系全体が急激に大きく変動するのを抑制する役割を果たしてきた。ニホンオオカミが絶滅した今、シカやイノシシの激増を抑制する自然的な要因は、激増した植食動物自身の過食等による植生破壊に伴う食物不足や伝染病の蔓延などである。今や、ニホンオオカミに代わって捕食者の役割を担うことができるのは、人間か、人為的に導入されたニホンオオカミに近縁の別亜種オオカミしかないだろう。とは言え、人間が管理できる自然の範囲と内容には限界があるし、別亜種オオカミの導入に合意を得ることは非常に困難と思われる。

「種の保存」と「生態系の一員としての種の保存」とは本来同じでなければならないが、現実には必ずしもそのように考えられてはいない。ニホンオオカミ・ニホンカモシカ・ホンシュウジカ・イノシシ・ツキノワグマなどの大型哺乳類は、生態系の中で重要な生態的地位を担っている「鍵的種」であり、それらの消滅によって他の種に与える影響は大きい。

全国的には絶滅の恐れがない種でも、既にその種が消滅してしまっている地域はたくさん見られる。そのような地域の生態系に、消滅してしまった種を復活させることなど現実にはまったくと言っていいほど為されていないし、それを行うかどうかの議論もかみ合わないことが多い。絶滅した種に代わる近縁の種を導入することについては、なおさらである。

種は、形態だけで存在するのではない。その生息する環境の中で、環境から及んでくる諸々の刺激に対して主体的に反応し、生活し、進化できて初めて種として存続できるものである。野生動物の保護は、飼育下に置かれたり、個体群の生活場の広がりや種の地理的な広がりよ

りもずっと狭い範囲に閉じ込められた状態では、完全には行い得ないということである。生息範囲を限りなく狭めつつ、その中での生息適正頭数を云々することは、種の保護にはならない。また、陸上を歩行移動する哺乳類では、特に小型の種の場合、ダムや道路などの建設物によって生息域が分断されてしまい、分断された集団の間での交流ができなくなってしまう恐れも生じる。哺乳類の場合、行動が個体の経験や他個体との交流によって成立する部分が多くあって、自然の環境から引き離されて飼育下に置かれた状態では、例え形態的には完全に見えても種として備わっている性質を「正常」には発揮できないだろうし、やがては野性を喪失してしまうだろう。もしかしたら、人間活動の影響が地球上の隅々にまで及んでいる現在においては、人為的影響を全く受けることのない野生生物などいないのかもしれない。

## 2. 島根のレッドデータ哺乳類

現在、本県に生息している野生哺乳類は、食虫目6種・翼手目8種・霊長目1種・兎形目1種・齧歯目12種・食肉目8種・偶蹄目2種の合計38種が確認されている。このうちヌートリア(齧歯目)、チョウセンイタチ(食肉目)、アライグマ(食肉目)の3種は外来種である。ここには、ノネコ・ノイヌなどやアライグマ以外のペットの野生化したものは含まれていない。ニホンアシカ(齧脚目)・ニホンオオカミ・ニホンカワウソ(以上、食肉目)・ニホンカモシカ(偶蹄目)の4種は、現在の島根県で見ることができないので、上記の生息種数に含めてない。過去の本県の狩猟統計にリス類の捕獲の記録があるが、ニホンリスかどうか不明なので、ニホンリスも生息種数に含めてないし、かつて、ヒナコウモリ(翼手目)が隠岐で採集されているが、偶然に飛来した可能性があるので、これも含めてない。一方、樹洞を利用する翼手目は、今後、何種か見つかる可能性がある。

かつて、県内にもニホンオオカミ・ニホンアシカ・ニホンカワウソ・ニホンカモシカが生息していたが、ニホンオオカミは恐らく江戸時代末に、ニホンカワウソとニホンカモシカは明治時代から昭和時代の間減少し絶滅した。これらは本県では絶滅種に指定されている。

ニホンアシカはクジラ類とともに海生哺乳類に含められるが、近年になって地球上から絶滅した哺乳類である。脂と肉・皮を得るためと、漁網に掛かった魚を食害し漁網を破る害獣として、主要な繁殖群を中心に幼獣も含めて捕獲(殺)を繰り返したことが「絶滅」の大きな

原因になったと思われる。また、近代的な漁法による魚類の大量漁獲が、ニホンアシカの食糧難を引き起こしたのかもしれない。

いずれにせよ、この数千年間における「絶滅」の大部分が人為的な原因によるものであり、このような絶滅は今後も起こりうるものである。特に、害獣とされるものは、保護が困難な場合が多い。

ツキノワグマは、本県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。日本の本土地区（本州・四国・九州）で最大の肉食動物であり、人が襲われる事故が時々あるので「肉食猛獣」のイメージが強い。しかし、実際には植物食中心であり、人を食べるために襲った例はほとんど無いと思われる。中国山地脊梁部の森林で生息適地が減少し中山間地域に分散せざるを得ない状況があるのか、そのような地域の植林地内での冬眠や人身事故もみられる。ツキノワグマが分散し集落付近にまで出現するようになって、有害獣として駆除されることが多くなると、生息数や生息密度が低下し雌雄の出会いが困難になることも考えられる。

本県の準絶滅危惧種に取り上げられている哺乳類は、「情報不足」に入れてもよいようなものや、今すぐには絶滅の恐れはなく、種類によっては今後増加する可能性のあるものも含まれている。

洞穴性のコウモリ類（翼手目）の場合、多くの種は現時点では激滅する恐れは少ないが、特定の洞穴に集団で休息や冬眠・繁殖を行うという性質を有することから、このような洞穴環境が消失したり悪化すれば、そこを利用している数百、数千頭（ユビナガコウモリの繁殖群の場合は数万頭）というコウモリ類がいつ頃に失われてしまうことになる。また、翼手目や食虫目は大量の昆虫を食べるので、生物濃縮による農薬の被害も考えられる。特に翼手目の場合、食虫目などと比べると寿命が非常に長く（20年近く生きるものがある）、それだけ殺虫剤な

どの農薬が体内に濃縮蓄積される率が高くなることも考えられる。

ホンシュウジカの場合、全国的には絶滅の恐れはないが、本県においては個体群が確認されているのは島根半島だけである。ホンシュウジカは、江戸時代末期頃には県下全域に広く分布していたが、明治時代以降、恐らく乱獲によって次第に減少し、昭和時代の中頃にはほとんど島根半島だけに取り残された状態になってしまった。一時期、生息数が極端に減少し絶滅が心配された時期がある。このような歴史を持ち、他の個体群から遠く離れた孤立個体群であるために、本県では準絶滅危惧種にランク付けされていたが、捕獲制限が功を奏し、かなりの数に増加している。また、島根半島以外の場所での目撃例が増え、捕獲例もある。そのため、この度、ランク外とした。

ホンシュウジカ島根半島個体群は長く半島西部の出雲北山山地に限られて分布していたが、狩猟の調整と計画的な駆除による保護管理が行われた結果、分布域は拡大しつつある。また、生息個体数の増加と個体群密度の増大に伴って、造林地や農林作物への被害、自動車と衝突するなどのトラブルも増加している。このような被害やトラブルの対策も考えられなければならない。今後、被害対策と生息個体数調整の手段として狩猟を解禁するにしても駆除数を増やすにしても、本個体群が、田園の広がる平野と湖水と都市によって中国山地から「島」状に隔離された島根半島という特殊な地域に孤立した状態にあることを念頭に置いて、慎重に推移を見守る必要があるだろう。

本概説の目の名称は、日本哺乳類学会種名・標本検討委員会・目名問題検討作業部会（2003）によった。また、学名については、日本哺乳類学会編（1997）によった。

（大畑純二）

## 哺乳類掲載種一覧

計19種

## 絶滅 (EX)

- ニホンアシカ
- ニホンオオカミ
- ニホンカワウソ
- ニホンカモシカ

計4種

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

- ツキノワグマ

計1種

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- ◇ ミズラモグラ
- ニホンモモンガ
- ヤマネ

計3種

## 準絶滅危惧 (NT)

- カワネズミ
- ◇ コモグラ(西日本産小型アズマモグラ)
- キクガシラコウモリ
- コキクガシラコウモリ
- モモジロコウモリ
- ユビナガコウモリ
- テングコウモリ
- コテングコウモリ
- ニホンイタチ

計9種

## 情報不足 (DD)

- ホンドノレンコウモリ(注)
- ニホンリス

計2種

## 今回の改訂により掲載対象外となった種

ホンシュウジカ

計1種

(注) 今回の改訂で種名が変更になった種

(前回改訂) (今回改訂)

ノレンコウモリ → ホンドノレンコウモリ

- : カテゴリー区分変更なしの種 (17種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (0種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (2種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)

アザラシ目（鱈脚目）アシカ科

# ニホンアシカ

*Zalophus californianus japonicus* (Peters, 1866)

## 島根県：絶滅（EX）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類（CR）

写真 口絵1

### 【選定理由】

今は絶滅した可能性が高いニホンアシカが、最後まで生息していたのは島根県であり、竹島を中心に隠岐諸島や島根半島においてその生息記録が多く残されている。本県は、あらゆる意味において、ニホンアシカともっとも関係が深い県である。

### 【概要】

アシカには、カリフォルニアアシカ、ニホンアシカ、ガラバゴスアシカの3亜種が知られており、本亜種は太平洋東西両海岸に分布するアシカの中の日本近海産亜種とされている（近年独立種とする説が有力）。1950年代初期までは島根県竹島・隠岐諸島・島根半島などでその生息情報があるが、その後確実な生息情報がなく、現在本県では絶滅したと思われる。古くは、本州・四国・九州近海に生息し、島根県の沿岸部の他、津軽・房州・伊豆神津島・相模湾・大阪・淡路島・徳島県・能登七つ島・福岡県などに生息記録が残されている。カリフォル

ニアアシカによく似ているが、メスの毛色が淡色であることや、歯のサイズが大型であることなどの違いが知られている。しかし、その生態等についての詳しい研究が進んでおらず、未解明の部分が少なくない。繁殖期に1頭のオスが数頭から15頭くらいのメスを率いてハーレムをつくり、群で生活することや、5～6月に陸上で1頭の子を産むこと、食物としてはイカ・タコ・魚類を好むことなどが分かっている。また、メスや子供は集団で生活するが、オスは非繁殖期に単独又は複数で回遊し、隠岐諸島などに渡来していた可能性が高い。また、洞窟を好んで休息場としていたことなども最近の調査で判明している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

竹島・隠岐諸島・島根半島などの岩礁や近海に生息していた。

### 【存続を脅かした原因】

狩猟圧、漁網への絡まり、繁殖場の環境悪化など。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
×	×	×	×																			×

ネコ目（食肉目）イヌ科

# ニホンオオカミ

*Canis lupus hodophilax* Temminck, 1839

## 島根県：絶滅（EX）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅（EX）

### 【選定理由】

江戸時代の諸国産物帳等に産物として記載されているが、現在は生息しない。

### 【概要】

オオカミ *C. lupus* は全北区に広く分布する種であり、亜種ニホンオオカミ *C. l. hodophilax* は国内では本州・四国・九州に分布した。本種は、オオカミの仲間としては小型で、原始的な形態をしているといわれる。

動物食中心の大型肉食獣であるため、餌動物を狩るための広大な行動圏が必要である。個体群密度はきわめて低く、開発によって生息域が分断されたり餌動物が乱獲された結果、食物や配偶者の確保が困難になったことが絶滅した原因の一つと考えられる。また、伝染病の蔓延とともに家犬との交雑もニホンオオカミ絶滅の原因となった可能性がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

江戸時代末まで、中国山地脊梁部あたりに生息してい

たらしい。享保元文（1688～1736）刊『諸国産物帳集成第三卷（隠岐・出雲・播磨・備前・備中）』に産物として、文政三年（1820）刊『石見外記』に狼目撃のかなり詳細な聞き書きの記載があるが、実際にニホンオオカミが生息したことを証明するような頭骨や毛皮などの物的な証拠は、県内では見つかっていない。

### 【存続を脅かした原因】

シカやイノシシなど餌となる大型植食動物の減少や、外来畜犬よりもたらされた伝染病等・家犬との交雑の可能性・生息域の分断狭小化による個体群密度の低下等。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
×	×	×		×				×														

ネコ目（食肉目）イタチ科

## ニホンカワウソ

*Lutra nippon* Imaizumi et Yoshiyuki, 1989

島根県：絶滅（EX）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅（EX）

## 【選定理由】

大正時代には県内各地に生息していたらしい。昭和38年の豪雪時に江の川流域で足跡を見たという不確実情報がある。その後の情報はない。

## 【概要】

日本固有種。本州・四国・九州・対馬に分布。特別天然記念物。本州以南のニホンカワウソを日本本土の固有種とする説や、北海道やユーラシア大陸に産する種と同一であるとする見解がある。河川や湖沼で淡水魚や両生類などを捕食する生活のため、水辺で目撃されることが多かった。海岸に生息するものもいた。おもに、夜行性。1個体が15km前後の範囲内に3～4カ所の泊まり場を持っていて、そこを渡り歩くらしい。水辺だけを移動するのではなく、陸上を別の河川へと移動することもある。本種の食性と広い行動圏から考えると、全国に広く生息していたのだろうが、もともと個体群密度は低かったものと思われる。

県内における最近の目撃情報のほとんどが、ヌートリアの誤認である。

## 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐を除く県内各地河川流域に生息していたらしい。享保元文（1688～1736）刊『諸国産物帳集成第三卷（隠岐・出雲・播磨・備前・備中）』や文政三年（1820）刊『石見外記』に本種の記録がある。江の川には「えんこう淵」という名の淵や、支流の濁川には「瀬越（おそごえ）」の地名があり、かつて本種が生息していたことをうかがわせる。

## 【存続を脅かした原因】

密猟。河岸整備などの河川工事。自然河岸の消失。河川汚濁・汚染。淡水魚の減少。河川周辺の森林破壊。生息域の分断による個体群密度の低下。漁網の設置等。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
×	×	×				×	×				×	×				×	×			×	×

ウシ目（偶蹄目）ウシ科

## ニホンカモシカ

*Capricornis crispus* (Temminck, 1845)

島根県：絶滅（EX）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真口絵1

## 【選定理由】

江戸時代の諸国産物帳に記録があり、明治時代の初め頃には、まだ、中国山地に生息していたらしい。現在は生息しない。

## 【概要】

日本固有種。本州・四国・九州に分布。特別天然記念物。ヤギに比較的近縁の原始的なウシ科動物であり、森林内をおもな生息場所としている。雌雄ともに15cm程度の鋭くとがった角を有し、特定のホームレンジ内で単独生活することが多い。おもに樹木の枝や葉を食べる「木の葉食い」である。

## 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地あたりでは、「うししか」と呼ばれていた。享保元文（1688～1736）刊の『諸国産物帳集成第三卷（隠岐・出雲・播磨・備前・備中）』によると出雲国産物として「カモシカ」が、また、文政三年（1820）刊の『石見外記』には「走獣部」の項に「羚羊（かもしし）」が

記されている。明治時代初め頃には、まだ、西中国山地脊梁部に残存していたようである（一説では、昭和初期まで生息していたとされる）。森林の伐採と造林は必ずしもニホンカモシカの食糧不足を招くことにならず、これだけでニホンカモシカを絶滅に追いやることはできない。ニホンカモシカは、猟犬や野犬などに追われると断崖の狭い岩棚などに逃げ込む。また、冬期には隠れ場所となる崖の岩棚に、1日中、立ちつくしていることがある。この結果、銃猟者には非常にたやすく撃ち取られてしまうことになる。県内からの絶滅は、おそらく、乱獲によるものと思われる。

## 【存続を脅かした原因】

乱獲。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
×	×	×		×																	

ネコ目（食肉目）クマ科

# ツキノワグマ

*Selenarctos thibetanus* (Cuvier, 1823)

## 島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵1

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅のおそれのある地域個体群 (西中国地域のニホンツキノワグマ) LP

### 【選定理由】

平成6年度に絶滅の恐れがあるという理由で狩猟による捕獲が禁止された。今後、生息環境の破壊が進行すれば、生息個体数が減少し生息密度が低下して、急速に絶滅に向かう恐れがある。

### 【概要】

国内では本州・四国・九州、国外では台湾、インドシナ北部、ロシア極東地域、中国東北地方、朝鮮半島などに分布する。昆虫や蜂蜜、動物の死骸を食べたり、ごくまれに大型草食獣を捕食することがあるが、植物食が中心で、堅果類や球根・塊根・草本類の地上部など多量の植物を食べている。果樹園や飼養ミツバチへ被害を与えたり、時に、人畜に危害を加えることがあり、有害獣・危険動物として駆除の対象となることがある。冬眠中に出産する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

おもに中国山地脊梁部に分布し、夏緑樹林帯をおもな

生活域としている。近年は、里地域を徘徊してカキやクリなどの果樹園に食害を及ぼすことがある。ツキノワグマの冬眠は、おもに大木の地上よりかなり高い位置にある樹洞で行われるが、大木の根元の土穴や岩穴、大きな倒木の下など地上で行われることもある。造林地内で冬眠する個体も見られる。近年になって大木の茂る森林が少なくなってからは、地上部での冬眠が増えているかもしれない。冬眠期以外の季節に、中国山地脊梁部から遠く離れた平地や、時に海岸付近にまでやって来ることがあるが、この移動の全てが、食物不足や生息環境の破壊によるものかは不明。

### 【存続を脅かす原因】

生息環境の分断や破壊による個体群の孤立化と生息数の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○				○														



モグラ目（食虫目）モグラ科

# ミズラモグラ

*Euroscaptor mizura* (Günther, 1880)

## 島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：中国地方固有亜種

環境省：準絶滅危惧（亜種ヒワミズラモグラssp. hiwaensis）NT

### 【選定理由】

生息数が少なく、生息地が限定されていると考えられる。県内での情報はほとんどない。

### 【概要】

日本固有種。本州のみに分布し、山岳地帯に生息するとされる。中国地方の他県では広島県と鳥取県で確認されているが、生息確認地点は少なく、発見個体も少ない。県内産は、亜種ヒワミズラモグラに属するものと考えられる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

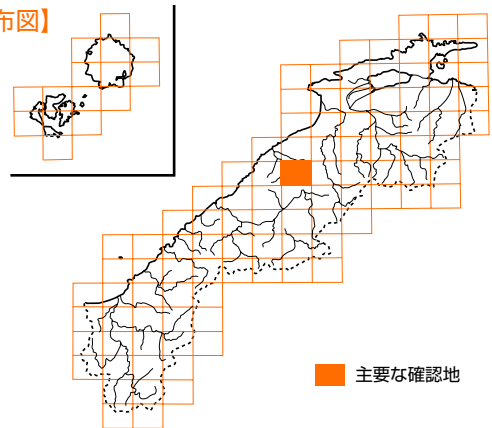
2000年に三瓶山でキツネの糞中から1個体分の骨と毛が発見され、2012年には完全な姿の死体が採集された。広島県境付近等にも生息する可能性があるが、現時点では三瓶山が県内唯一の生息地である。三瓶山の生息地は既知の生息地から遠く離れている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の開発。個体群の孤立・狭小化。農業等の体内

蓄積も懸念される。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○	○																

齧歯目リス科

# ニホンモモンガ

*Pteromys momonga* Temminck, 1844

## 島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

西中国山地のブナ帯に生息しているが、目撃例はきわめて少ない。森林環境の悪化による絶滅が危惧される。

### 【概要】

日本固有種。本州・四国・九州に分布。本種はブナ帯から亜高山帯の針葉樹林にかけて分布するとされている。樹木の葉や芽・花などのほか、昆虫や鳥類の卵を食べる。繁殖のため小鳥用の巣箱を利用することがある。夜行性で樹上性。

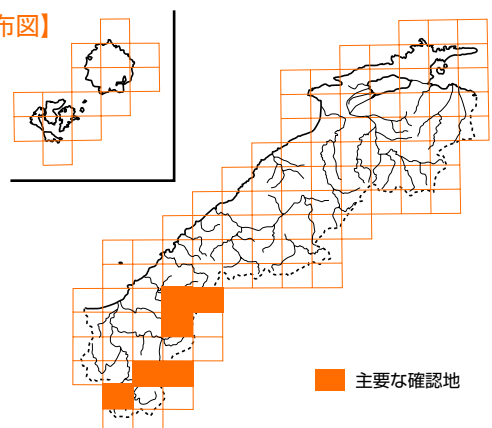
### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の標高800m以上の夏緑樹林に生息するがくわしい生息状況は不明である。他県では標高500m以下でも生息が確認され、標高だけで生息域を推定できないことがわかった。

### 【存続を脅かす原因】

森林の破壊。森林の分断による個体群の孤立・狭小化。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	△	○		○																	

齧歯目ヤマネ科

# ヤマネ

*Glirulus japonicus* (Schinz, 1845)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

発見例は局地的で少なく、ほとんどが冬眠時に偶然に見つけられたもの。森林環境の悪化による絶滅が危惧される。

**【概要】**

本州・四国・九州・隠岐諸島に分布し、平地から亜高山帯にまで生息。日本固有属固有種。天然記念物。虫食中心の雑食性と考えられる。全国的には冬眠や飼育生態等についての情報量は多いが、野生での生態や分布の情報は非常に少ない。

**【県内での生息地域・生息環境】**

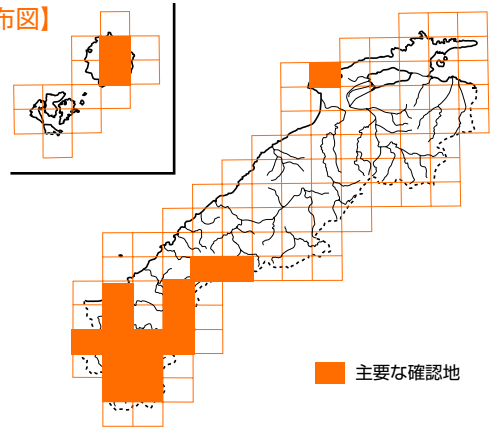
県内では、おもに隠岐（島後）と本土側西部山地で冬眠個体の発見例があり、発見は偶然的。生態や分布範囲等の詳細は不明。発見例の多くが「里山」的な環境である。

**【存続を脅かす原因】**

里山を含めた森林環境の破壊と、森林（生息域）の分断による個体群の孤立・狭小化。殺虫剤等の体内蓄積も

懸念される。

**【分布図】**



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○				○														

モグラ目（食虫目）トガリネズミ科

# カワネズミ

*Chimarrogale platycephala* (Temminck, 1842)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵1

### 【選定理由】

河川流域を住み場所としているため、護岸改修や水質汚染・汚濁等による生息環境の悪化によって、生息数と生息地の急速な減少が心配される。

### 【概要】

本州・四国・九州に分布。日本固有種。半水生生活で、溪流に面した石垣や岩礫の間等に巣を営み出産し、移動や捕食はおもに溪流を泳いで行う。水生昆虫やカエル、溪流魚などを捕食し、時に、ヤマメなどの養魚場に大きな被害を及ぼすことがある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

かつては、隠岐諸島を除く県内各地の河川渓流域にふつうに生息していたが、河川改修などによって岸や川床までもがコンクリートで固められたり、餌となる小魚や水生昆虫が減少して、本種の生息数や生息地も減少している。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修及び水質汚染と汚濁、河川周辺の森林環境の破壊。生息域の分断による個体群の孤立・狭小化。農業等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○					○										

モグラ目（食虫目）モグラ科

# コモグラ(西日本産小型アズマモグラ)

*Mogera imaizumii* Kuroda, 1957 (Small type)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

現在知られている県内での生息地点は3カ所。目撃や生息に関する情報はほとんどない。

### 【概要】

日本固有種。本州・四国に分布。中国地方では広島県と山口県にも生息。近年は、コモグラという亜種を認めないでアズマモグラに含める学者が多い。しかし、中四国産はアズマモグラとは別種の可能性があるため、県内産はコモグラ（西日本産小型アズマモグラ）としておく。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1995年に出雲平野西部南端付近で収拾されたのが県内の初記録。その後、三瓶山北の原と江の川中流域西側付近で1カ所ずつ採集例がある。分布域の詳細は不明だが、本土側全域に分布している可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の開発。個体群の孤立・狭小化。農業等の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○	○			○	○	○											

コウモリ目（翼手目）キクガシラコウモリ科

# キクガシラコウモリ

*Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵1

### 【選定理由】

現時点で絶滅の恐れは少ないが、生息洞の周辺環境及び洞内環境の変化または破壊・洞穴そのものの破壊等により激減する恐れがある。

### 【概要】

北海道中西部から屋久島まで分布。日本産の小翼手目としては大型で、翼を広げた長さは30cmほどになる。「短広翼型」コウモリのため体が大きいわりに小回りができ、狭い洞穴にでも入ることができる。日中は洞穴の天井などに後足で逆さにぶら下がって休息し、夜になると活動

する。森林内などを飛びながら夜行性の飛行性昆虫を捕食する。外気温が10℃以下になると冬眠する。1産1仔。小型の哺乳類としては異例に長寿で、野生で20年以上生存した例がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内全域に分布。海食洞や自然の岩穴、貯蔵穴、廃坑で休息・冬眠。

### 【存続を脅かす原因】

洞穴環境の変化や破壊、洞穴周辺の森林破壊等。生息洞穴への不用意な入洞。農業等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域									
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞窟	林地	草地	砂浜	河口	海食洞
○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○				○

コウモリ目（翼手目）キクガシラコウモリ科

# コキクガシラコウモリ

*Rhinolophus cornutus* Temminck, 1835

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

現時点で絶滅の恐れは少ないが、生息洞の周辺環境及び洞内環境の変化または破壊・洞穴そのものの破壊等により激減する恐れがある。

### 【概要】

日本固有種の可能性が高い。北海道西部から奄美群島まで分布。外観はキクガシラコウモリに似ているが、ずっと小型。「短広翼型」のため狭い洞穴に入ることができる。日中は廃坑や海食洞などの天井に後足で垂下して休息し、夜間に森林内を飛び回って、ユスリカやヤブカナ

どの非常に小さい飛行性昆虫を捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（西ノ島）を含む県内全域に分布。海食洞や自然の岩穴、貯蔵穴、廃坑などで休息・冬眠する。200頭以上の冬眠コロニーが見られる洞穴もある。

### 【存続を脅かす原因】

洞穴環境の変化や破壊、洞穴周辺の森林破壊等。生息洞穴への不用意な入洞。農業等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域									
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	林地	草地	砂浜	河口	海食洞
○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○				○

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

# モモジロコウモリ

*Myotis macrodactylus* (Temminck, 1840)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

現時点で絶滅の恐れは少ないが、生息洞の周辺環境・洞穴の破壊等により激減する恐れがある。1洞当たりの生息数はあまり多くないが、各地の廃坑や洞穴で見られ、目撃はそれほど困難ではない。

### 【概要】

北海道から奄美大島までと対馬、サハリン、ロシア沿海地方、朝鮮半島に分布。日中の休息や冬眠は、洞穴などで単独で行い、夜、森林内や林冠部などを飛び回って小型の昆虫類を捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含む県全域に分布。海食洞、廃坑、利用されていないトンネルなど各地で見られるが、ふつう一度に見られるのは1～数頭程度である。繁殖期には50頭位のコロニーが見られることもある。

### 【存続を脅かす原因】

生息洞穴環境の変化や破壊、洞穴周辺の森林破壊等。生息洞穴への不用意な入洞。農業等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域									
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	林地	草地	砂浜	河口	海食洞
○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○				○

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

# ユビナガコウモリ

*Miniopterus fuliginosus* (Hodgson, 1835)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵1

### 【選定理由】

現時点で絶滅の恐れはないが、生息洞（特に冬眠洞と繁殖洞）及び森林など採食空間等の環境変化や破壊によって、激減する恐れがある。

### 【概要】

アフガニスタン・インド・中国などに分布。国内では本州・四国・九州・対馬・佐渡などに生息する。日本産のコウモリのうち最大の集団を形成する種で、冬眠時には数千頭、繁殖期には数万頭のコロニーを形成することがある。森林などの上を高速で飛行しながら飛行性昆虫

を捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内全域。停空飛行ができないため、比較的大きな洞穴を好む。廃坑や、夏には海食洞などで見られる。県東部海岸には、4～5万頭の繁殖コロニーが形成される海食洞がある。冬眠には別の洞穴が利用されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息洞の環境変化と破壊及び洞穴周辺の生息環境の変化と破壊。繁殖洞や冬眠洞などへの不用意な入洞。農業等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域									
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	林地	草地	砂浜	河口	海食洞
○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○				○

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

# テングコウモリ

*Murina leucogaster* Milne-Edwards, 1872

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

もともと生息数が多くない。県内では冬眠洞が2～3カ所知られているのみで、1年間に1～5頭が目撃されている程度である。

### 【概要】

北海道・本州・四国・九州、サハリン、ロシア沿海地方、朝鮮半島に分布。日本産を亜種や別種として分ける研究者もいる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を除く県内。現在、県中部の4カ所で生息が

確認されており、洞穴内で冬眠している個体が観察されている。出産や育児は樹洞で行われると思われるが、県内では報告例がない。森林内を飛翔しながら昆虫類を捕食し、日々の休息はおもに樹洞で行われるものと思われる。廃坑などの内壁のくぼみや発破の穴にもぐって冬眠していることがある。

### 【存続を脅かす原因】

休息や冬眠するための洞穴環境の変化と破壊、樹洞のある大径木が茂る森林の消失。周辺の森林環境の破壊。農薬等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○		○				○	○												

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

# コテングコウモリ

*Murina ussuriensis* Ognev, 1913

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

過去、県内の数カ所で目撃例があるが、目撃個体数は少ない。

### 【概要】

外観はテングコウモリに似るが、ずっと小型。北海道から屋久島・隠岐諸島・対馬、サハリン、ロシア沿海地方、朝鮮半島に分布。日本産を亜種とする研究者もいる。休息や繁殖の場所として樹洞を利用し洞穴内には入らないが、山間部では、捕食のために民家や家畜舎に入ることがある。他県では、蔓に付いたままのクズなどの

枯れ葉にくるまって休眠していた例が報告されている。また、広島県八幡高原では、雪中で「冬眠」していたコテングコウモリが見つかった。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含む県内の森林に生息。過去、隠岐（西ノ島）と三瓶山地域・匹見川中流域での生息確認がある。

### 【存続を脅かす原因】

休息と冬眠のための樹洞がある大径木が生育するような森林の破壊。農薬等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	樹洞	森林	草原	農地	河川	湖沼	樹洞	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○	○	○				○	○					○									

ネコ目（食肉目）イタチ科

# ニホンイタチ

*Mustela itatsi* Temminck, 1844

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵1

### 【選定理由】

過去に比べて、生息地・個体数ともに減少している。

### 【概要】

日本固有種。本州・四国・九州・屋久島などに分布し、近年は北海道にも侵入。導入飼育されたチョウセンイタチが野生化し、おもに西日本で分布を広げており、ニホンイタチを駆逐していると言われていたが詳細は不明。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内全域に分布。隠岐諸島は自然分布か否か不明。かつては、水田や池や川などの水辺周辺でよく目撃された。

近年は水田の減少や溜池の消失、河川環境の変化などによって生息環境が悪化している。県内でもチョウセンイタチは分布を広げて集落伝いに山間部にまで侵入しており、平野部ではニホンイタチがほとんど見られなくなっている。

### 【存続を脅かす原因】

水辺環境の変化と減少。チョウセンイタチとの競合。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	△		△	△	△		△	△	△		△	△	△					

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

## ホンドノレンコウモリ

*Myotis nattereri* (Kuhl, 1818)**【選定理由】**

全国的に生息洞・生息数はきわめて少ない。県内では、毎年秋から冬にかけて1～数頭が目撃されていたが、現在は見るできない。

**【概要】**

ヨーロッパ西部からアフリカ北部・アジア東部などに分布。国内では北海道・本州・四国・九州に分布。冬眠は、洞穴の壁面にあるくぼみやクラック・発破の穴などで単独で行う。

**島根県：情報不足（DD）**

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

**【県内での生息地域・生息環境】**

過去、県中部の使われていなかったトンネルで、毎年9月に1～5頭が目撃できたが、1998年頃からはトンネルが改修され使用されるようになり見られなくなった。

**【存続を脅かす原因】**

生息洞穴の環境の変化と破壊。洞穴周辺の森林破壊。生息洞への不用意な入洞。農業等の体内蓄積も懸念される。

ネズミ目（齧歯目）リス科

## ニホンリス

*Sciurus lis* Temminck, 1844**【選定理由】**

過去の狩猟統計に「リス類」の捕獲記録が見られるが、ニホンリスか否かは不明。過去の生息や、県内に現在も生息しているかは不明。

**【概要】**

日本固有種。本州・四国に広く分布するが、現在は九州での生息確認はない。平地から亜高山帯にまで分布し、低地では松林などを好むとされるが、照葉樹林の動物ではないらしい。昼行性で、早朝と午後に活動する。ドングリやクルミなど堅果類やマツの実などの果実や種子を

**島根県：情報不足（DD）**

島根県固有評価：－

環境省：絶滅のおそれのある地域個体群（中国地方以西のニホンリス）LP

好んで食べる。

**【県内での生息地域・生息環境】**

国内での分布状況から推察すると、県内からは比較的近年になって人為的な原因によって減少又は消滅した可能性がある。

**【存続を脅かす原因】**

狩猟、森林破壊等。

## 1. 鳥根県の鳥類相

日本鳥類目録改訂第7版には、国内で記録された種として、24目81科633種と、国内で繁殖記録のある外来種43種が報告されている。鳥根県でこれまでに報告された鳥類は、明治24年に渡辺盈作が動物学雑誌に「鳥根県下鳥類目録第一回報告」として62種を発表して以来、多くの報告があるが、まとまったものは比較的限られる。和名や分類が現在と異なっているものもあり、一概に比較はできないが、1970年の「鳥根県に分布する鳥類」（鳥根県発行）では21目48科224種（亜種11種を含む）、1978年の「鳥根県鳥類目録」（根岸啓二監修、鳥根県発行）では18目55科286種（亜種を含めば298種）、1983年の「鳥根県の鳥類」（内田 映著、鳥根野鳥の会発行）では297種（亜種を含めば305種）、1984年の「しまねの野鳥」（佐藤仁志ほか著、山陰中央新報社発行）では323種・亜種、1994年の「しまねの野鳥（II）」（濱田義治ほか著、山陰中央新報社発行）では338種・亜種、1997年の「しまねの鳥」（日本野鳥の会鳥根県支部編、鳥根県発行）では358種・亜種が報告されている。さらに、近年確認された種を含めれば、本県で確認された種・亜種は400種余りに及ぶ。

このように、本県に生息する鳥類相については、次第にその概要が明らかになってきており、これまでに本県で確認された鳥類は、国内で記録されている鳥類の約65%に及び、豊富な鳥類相が見られる地域といえよう。

鳥類相の特徴は、地理的条件や自然環境と不可分の関係にある。本県の北西部は日本海に面し、日本海に浮かぶ隠岐諸島もある。また、南部には標高1,000m級の中国山地が連なり、脊梁部を形成している。中国山地は標高がさほど高くなく、古くからたたら製鉄に伴う薪炭生産が盛んに行われてきたため、多くの地域はアカマツやコナラを中心とする二次林が優占し、自然林はごくわずかしか残っていない。また、中海・宍道湖といった国内で5番目と7番目に大きい湖も抱えている。これらの周辺には、出雲平野や安来平野などの広大な水田地帯も広がっており、一帯は水鳥類の絶好の生息域となっている。さらに、朝鮮半島を含む中国大陸と比較的近い位置

にあるなど、自然環境や地理的条件には、他県にみられないようないくつかの特徴があり、それらを反映した鳥類相がみられる。具体的には、マガンやコハクチョウなど冬鳥の日本列島における南限の越冬地となっていることや、大陸系の珍しい鳥類の渡来が多いこと、日本海を直接横断して渡来・渡去する渡り鳥が多いこと、宍道湖・中海が国内最大級の水鳥の渡来地になっていること、カンムリウミスズメなどの稀少な鳥類が隠岐諸島などの無人島で繁殖していることなどが上げられる。

## 2. 掲載種の選定に当たって

このたびの改定作業に当たっては、改訂しまねレッドデータブック（2004年、鳥根県）に掲載されている種をベースに、カテゴリー区分のもとに見直しや追加を行った。また、前回の選定と同様に、環境省のレッドデータブック掲載種にはこだわらず、本県における生息状況や絶滅の危険性といった独自の観点から選定作業を行った。特に、留鳥や夏鳥については、繁殖状況を重要視した。なお、国内に渡来することがまれな種や、迷鳥的な種については、その取り扱いが難しいところがある。本県では、環境省のレッドデータブックに掲載されている種の多くが記録されているが、迷鳥的な種については取り上げないこととし、ほぼ恒常的に渡来する種に絞って選定を行った。

亜種の取り扱いについては、亜種の識別が可能で亜種ごとの評価が異なる場合には、亜種を種と同様の扱いとした。

絶滅した鳥類としては、トキのみを取り上げた。トキのほかにもコウノトリ、タンチョウ、キタタキなど、過去において繁殖していたり恒常的に渡来していた可能性が高く、絶滅種として取り上げてもよいと思われる種もあったが、確かな生息や繁殖の記録がないため、このたびは取り上げなかった。

分類や学名等については、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）を採用した。

（佐藤仁志）

# 鳥類掲載種一覧

計80種

## 絶滅 (EX)

- ・ トキ

計1種

## 絶滅危惧I類 (CR+EN)

- |             |             |          |
|-------------|-------------|----------|
| ・ カラスバト     | ◇ ヒメクロウミツバメ | ・ ヨシゴイ   |
| ・ オオヨシゴイ    | ◇ カンムリウミスズメ | ・ ハチクマ   |
| ・ オオタカ      | ・ サシバ       | ・ クマタカ   |
| ・ ブッポウソウ    | ・ ハヤブサ      | ↑ ヤイロチョウ |
| ○ ウチヤマセンニュウ | ◇ イワミセキレイ   | ◇ コイカル   |

計15種

## 絶滅危惧II類 (VU)

- |           |           |            |
|-----------|-----------|------------|
| ・ ヒシクイ    | ・ カリガネ    | ・ オオハクチョウ  |
| ・ アカツクシガモ | ◇ ミゾゴイ    | ・ クロツラヘラサギ |
| ・ クイナ     | ・ ヒクイナ    | ・ ヨタカ      |
| ・ タマシギ    | ・ コアジサシ   | ・ ミサゴ      |
| ・ オジロワシ   | ↑ チュウビ    | ・ オオコノハズク  |
| ・ コノハズク   | ・ アカショウビン | ↑ ヤマセミ     |

計18種

## 準絶滅危惧 (NT)

- |           |            |          |
|-----------|------------|----------|
| ・ マガン     | ・ コハクチョウ   | ・ ツクシガモ  |
| ・ オシドリ    | ・ トモエガモ    | ・ サンカンゴイ |
| ・ クロサギ    | ・ イカルチドリ   | ・ シロチドリ  |
| ・ ハマシギ    | ・ ハイイロチュウビ | ・ フクロウ   |
| ・ アオバズク   | ・ トラフズク    | ・ コミミズク  |
| ・ チョウゲンボウ | ・ ホオアカ     |          |

計17種

## 情報不足 (DD)

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| ・ コクガン     | ・ オオミズナギドリ | ・ コウノトリ    |
| ・ ヘラサギ     | ◆ ササゴイ     | ・ マナヅル     |
| ・ ナベヅル     | ◆ セイタカシギ   | ・ オオジシギ    |
| ◆ ホウロクシギ   | ・ ズグロカモメ   | ・ マダラウミスズメ |
| ・ ウミスズメ    | ・ コウミスズメ   | ・ オオワシ     |
| ◆ ツミ       | ◆ ハイタカ     | ・ イヌワシ     |
| ・ コチョウゲンボウ | ◆ サンショウクイ  | ◆ サンコウチョウ  |
| ・ アカモズ     | ○ コシアカツバメ  | ・ コヨシキリ    |
| ◆ ホシムクドリ   | ○ コルリ      | ・ ノビタキ     |
| ○ コサメビタキ   | ○ クロジ      |            |

計29種

### 【記号説明】

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (59種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (3種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (5種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (5種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (8種)



# トキ

*Nipponia nippon* (Temminck, 1835)

## 島根県：絶滅 (EX)

島根県固有評価：－

環境省：野生絶滅 (EW)

### 【選定理由】

島根県内にも、過去においてトキが生息していたが、昭和初期に絶滅してしまった。

### 【概要】

トキは古くは日本全国に生息していたが、1870年代には乱獲などにより各地で数を減らした。1934年に天然記念物に指定され、1952年に国の特別天然記念物に指定されたが、この時点では能登半島と佐渡島にわずかに生息するのみで、すでに絶滅寸前の状態となっていた。1967年、新潟県は佐渡トキ保護センターを建設し、野生のトキへの給餌や飼育個体での人工繁殖を試みた。その後、1976年に環境庁が人工繁殖に取り組むことを決め、1981年には、最後に残っていた5羽の野生のトキを捕獲し、人工繁殖を本格的にスタートさせた。1999年に初めて人工繁殖に成功したが、2003年に日本産最後のトキが死亡した。その後は、中国産トキによる人工繁殖によりその数を増やし、2007年には国内飼育下のトキが100羽を超

え、2008年には佐渡島で10羽を放鳥し、以後、毎年放鳥が続けられている。また、2008年に分散飼育実施地として石川県、出雲市、長岡市の3カ所が決まり、出雲市では2011年より飼育を開始している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

昭和の初期から中ごろには、隠岐諸島全域に多数生息していたが、狩猟圧などにより急激に減少した。最後の確認は1937年の西ノ島美田地区であるが、1939年の聞き取り調査では、まだ4～6羽が生息していたとの記録が残っており、絶滅は1945年と考えられる。

### 【存続を脅かした原因】

人口増加や社会の変化に伴うトキの生息環境(採餌地、営巣地など)の消失、狩猟圧、農薬汚染によるエサの減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
			×					×		×	×				×	×						

# カラスバト

*Columba janthina janthina* Temminck, 1830

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵2

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

タブノキなど常緑広葉樹の林を中心に生息するが、そのような環境は限られている。また、生息数も少なく、繁殖地も限られている。隠岐諸島は、日本海側における数少ない生息地であるが、生息数も多くないことなどから、絶滅が危惧される。

**【概要】**

ハト科中最大の大きさを誇るカラスバトは種カラスバトの基亜種で、国内では伊豆諸島、本州の温暖部と九州の海岸部およびその周辺の島嶼、沖縄諸島などに分布する。国の天然記念物。国外では韓国南部の海岸や島嶼に生息しており、鬱陵島では郡の鳥に指定されている。キジバトより大型で、全身が紫や緑色の金属光沢のある黒色を呈す。スタジイやタブノキ、ヤブツバキなどからなるよく繁った常緑広葉樹林に生息し、地上や樹上で餌を採る。おもな餌はタブノキやクロガネモチなど果肉のある果実のほか、ヤブツバキやスタジイの堅果など。繁殖

期にはつがいが生息し、大木の枝や樹洞に小枝を積み重ねた浅い皿形の粗雑な巣を作り1個の卵を産む。「ウツウツウウ ウツウウ」と大きく奇妙な太い声で鳴き、ウシの声を連想させることからウシバトと呼ばれることもある。なお、小笠原諸島にはアカガシラカラスバト、先島諸島にはヨナクニカラスバトと呼ばれる別亜種が生息している。

**【県内での生息地域・生息環境】**

本県で確実に繁殖しているのは隠岐諸島のみで、島後や西ノ島などの大きな島のほか、大波加島や大森島などの無人島にも生息する。隠岐諸島以外では、高島で確認されているほか、島根半島などでもまれに観察されることがある。生息地は、照葉樹などが生い茂った比較的人の出入りが少ない森林。

**【存続を脅かす原因】**

森林の伐採や開発行為など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	島嶼
△		○	◎	○				○										○				◎

ミズナギドリ目ウミツバメ科

# ヒメクロウミツバメ

*Oceanodroma monorhis* (Swinhoe, 1867)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵2

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

県内で繁殖が確認されているのは隠岐諸島のみであり、生息数も少ないことから、存続基盤はきわめて脆弱である。

**【概要】**

全長17-20cmの小型の海鳥。全体に黒褐色で、腰に白色部はない。翼はウミツバメ類としては短めで、上面は大雨覆が淡色のため、その部分が淡い帯状に見える。初列風切基部の羽軸は白いが、野外での確認は難しい。日本のほかロシア極東部、韓国、中国沿岸の無人島などで繁殖している。国内には夏鳥として渡来し、青森県、岩手県、石川県、京都府、福岡県などの島嶼で繁殖している。繁殖地では、夜間に飛来し、夜明け前に飛去する。岩の隙間や土中に穴を掘って営巣するほか、オオミズナギドリの古巣などを利用して繁殖する。

され、本種の繁殖が明らかになったが、その後はわずかな目撃情報のみであった。現在は、2005年に環境省自然環境局生物多様性センターのモニタリングサイト1000海鳥調査において、無人島の1つで繁殖していることが改めて確認された。また、同調査は2010年にも実施されており、この時の調査では島全域の飛来数は不明としながらも、調査時の状況から100羽以上の規模と報告している。繁殖が確認されている島では、現在のところ本種の繁殖地存続の脅威となるネズミ類の生息は確認されていないが、一旦侵入した場合の影響は計り知れず、船舶の接岸時にネズミ類を持ち込まない注意喚起などを含め、十分な配慮と見守りが必要である。

**【存続を脅かす原因】**

ネズミ類やカラス類などによる卵や雛の捕食など。

**【県内での生息地域・生息環境】**

隠岐諸島では、昭和28年および29年に成鳥と雛が採集

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	海上	島嶼
△			◎																		○	◎

# ヨシゴイ

*Ixobrychus sinensis sinensis* (Gmelin, 1789)

島根県:絶滅危惧 I 類(CR+EN)

写真 口絵2

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

本種(亜種)は、大河川の河口部などにある広大なヨシ原や草原が、人為的な改変により急激に減少してきたことや、中継渡来地の環境悪化などにより、近年渡来数が激減している。

**【概要】**

日本産のサギ類中でもっとも小型で、全長36cm内外。夏鳥として5月中旬から下旬頃に渡来し、大河川の河口部に広がるヨシ原や、マコモ、ガマなどの繁った湿地の草原に生息する。常にヨシ原などの中に潜み、見通しのよいところに現れることはほとんどない。移動する時は、ヨシ原の上空をすれすれに飛ぶ。夕暮れや夜明け頃によく活動し、じっと立ち止まり待ち伏せして、魚類やカエルなどを捕食する。繁殖期には、「ウー ウー ウー」とうめくように連続して鳴く。5~8月に水辺にあるヨシやマコモの草原に営巣し、5~6個の卵を産む。18日前後で孵化し、約3週間で巣立つ。外敵が近づくと、頸を

ピンと伸ばして正面を向き動かなくなるといった擬態をとることでよく知られている。

**【県内での生息地域・生息環境】**

以前は、斐伊川や神戸川など大河川の河口部や、隠岐諸島などに渡来し繁殖していた。築地松が点在する斐伊川河口部の水田地帯では、昭和30年代まで竹藪や灌木などに普通に営巣していたようである。斐伊川河口部のヨシ原では、40年ほど前まで比較的普通に見られ繁殖もしていたが、近年激減し姿を見る機会はきわめて少なくなった。

**【存続を脅かす原因】**

河口部や沼沢地に広がっていた広大なヨシ原の消失や湿地の改変、東南アジアなど越冬地における生息環境の悪化、中継渡来地における環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○												△	○	○				○

# オオヨシゴイ

*Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe, 1873)

島根県:絶滅危惧 I 類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧 I A 類 (CR)

**【選定理由】**

本種はヨシゴイと同様に、大河川の河口部などにある広大なヨシ原や草原が、人為的な改変により急激に減少してきたことや、中継渡来地の環境悪化などにより、近年渡来数が激減している。

**【概要】**

ヨシゴイより一回り大きい全長39 cmほどの小型のサギ類。オスは頭が黒褐色で、背中が黒っぽい栗褐色。喉から胸にかけて一本の細い縦じまがある。夏鳥として3~4月ごろ渡来し、主として北海道や本州中部以北などで繁殖する。ヨシ原や水草の繁茂した中に潜み、草の間の地上や水中を歩いて活動する。夕暮れ時や夜明け頃によく活動し、魚やカエル、エビ類などを餌としている。繁殖期には「ウォー ウォー ウォー」とある間隔をおいてうめくように連続して鳴く。ヨシやマコモが生育する水辺の草原の上に、茎や葉を束ねて24~30cmの粗末な皿型の巣を作り、5~7月に純白色の卵を5~6個産む。

抱卵中に外敵が接近した時などには、頭と頸部を上方に細長く伸ばし、嘴を空に向け静止し擬態する。冬季は、フィリピンなど東南アジアに渡る。

**【県内での生息地域・生息環境】**

斐伊川河口部や隠岐諸島などに渡来し繁殖していたが、ヨシ原などの消失に伴い急速に生息数が減少している。斐伊川の河口部では、40年ほど前まで比較的普通に見られ繁殖もしていたが、近年は観察情報がほとんどなく、確実な繁殖記録も見あたらない。

**【存続を脅かす原因】**

河口部や沼沢地に広がっていた広大なヨシ原の消失や湿地の改変、東南アジアなど越冬地における生息環境の悪化、中継渡来地における環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		△	○													○	○				○

チドリ目ウミスズメ科

# カムリウミスズメ

*Synthliboramphus wumizusume* (Temminck, 1836)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵2

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

### 【選定理由】

確実な繁殖地は隠岐諸島のみで、生息数も多くはないと考えられ、本種の存続基盤はきわめて脆弱である。また、冬鳥としても県下の日本海域に回遊するが、その実態などは不明であり、併せて情報収集を行っていく必要がある。

### 【概要】

全長24-27cm。夏羽は頭頂に黒く細長い冠羽がある。日本近海で繁殖し、宮崎県の枇榔島、伊豆諸島の三宅島や鳥島、福岡県の沖ノ島や小屋島などが集団繁殖地として知られている。冬季、ウミスズメなどに混じって県内の沿岸海上などに姿を見せることもある。潜水し、魚類や甲殻類を捕食する。国の天然記念物。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島では1969年に採集された卵標本の存在や、1995年に同島で鳴き声が確認されたことなどから、その生息や繁殖の可能性が示唆されてきたが、近年における

確実な繁殖については確認されていなかった。現在は、2010年に環境省自然環境局生物多様性センターのモニタリングサイト1000海鳥調査において無人島の1つで繁殖が確認され、その後の島根県の調査でも繁殖していることなどが確認されている。他の隠岐諸島の島嶼でも、夜間に周辺海上に本種が集まっている様子が観察されており、繁殖の可能性が高いものの確認には至っていない。繁殖が確認されている島以外は、本種の繁殖の脅威となるネズミ類の生息情報があることから、仮に繁殖していたとしても、その数は多くはないと考えられる。海上では、益田市の沖合でも観察されているほか、隠岐航路でもまれに確認される。

### 【存続を脅かす原因】

ネズミ類やカラス類などによる卵や雛の捕食のほか、油の流出、海洋汚染、魚網への絡まりなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	海上	島嶼
△	△	○	◎																		○	◎

タカ目タカ科

# ハチクマ

*Pernis ptilorhynchus orientalis* Taczanowski, 1891

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵2

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧(NT)

### 【選定理由】

本種(亜種)は良好な環境を保つ里山の丘陵帯から山地において、食物連鎖の頂点に立つ猛禽類といえる。県内の生息状況について十分に把握されていないが、個体数は多くない上に、生息適地は減少していると考えられる。

### 【概要】

種としては、ユーラシア大陸の温帯・亜寒帯で繁殖し、東南アジアやインドに渡って越冬する。国内には本亜種が夏鳥として丘陵地から山地の林に渡来し、5月中旬から10月上旬まで過ごす。全長オス約57cm、メス約61cmと、トビ(全長約60cm)と同じくらいか少し小さい程度の猛禽類で、姿はクマタカに似ているが、本種の方が飛翔時の翼の幅が狭く見える。また、飛翔中、他のタカ類に比べると頸が細長く見える。全体に褐色を主体にした色彩であるが、黒っぽいもの、白っぽいものなど個体による変化が大きい。タカの仲間でありながら蜂を好んで食べ

るといった特異な習性を持っている。もっとも好んで餌にするのは地バチで、特に小型のクロスズメバチ類の幼虫(蜂の子)であるという報告がある。ほかに、アリ、シロアリなどの昆虫、カエル、ヘビなども捕食することもある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

夏鳥として渡来し、丘陵地から山地にかけて生息するが、個体数は多くない。1990年に浜田市で雛のいる巣に蜂の巣を運び込む様子が確認されるなど、里山を中心に営巣が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

森林の伐採や開発、林相変化などによる生息適地の減少や餌動物の減少などが考えられる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○				○														

# オオタカ

*Accipiter gentilis fujiyamae* (Swann et Hartert, 1923)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵2

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

本種(亜種)は里山部における食物連鎖の頂点に立つ大型の猛禽類で、その生息基盤が脆弱である。関東などでは近年生息数が増加し、レッドデータブックのランクが下げられたりしているが、本県においてはそのような状況はみられない。県内で繁殖が確認されている地域は、比較的人の生活圏に近く開発行為が行われやすいことや、松くい虫による営巣木の枯死などにより急速に生息環境が悪化してきている。

**【概要】**

種オオタカは、ユーラシア大陸および北アメリカ大陸の北部を中心に北半球に広く分布している。本亜種は、本州・四国のほか、北海道から千島列島・サハリンに分布する。オスの全長約50cm、メス約56cmのカラス大の猛禽類で、森林内や森林に接した草地や農地に生息する。おもにハト類などの鳥類を餌としており、まれにノウサギなどの哺乳類も捕食する。アカマツなど針葉樹の太枝

の付け根などに、小枝を組み合わせた直径60~70cm、厚さ55cmほどの巣をかける。5月ごろ3~4個の淡青灰色の卵を産み、抱卵日数は35~38日で、おもにメスが抱卵する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では、冬に漂行した個体が農耕地や川原などで比較的良好に見られる。以前は、夏期にも個体が確認されることなどから、繁殖が確認されていたが、営巣確認には至っていなかった。近年(2000年頃)からになって、数は多くはないが繁殖が確認されるようになった。繁殖は低山部の森林で行い、営巣木はアカマツが多い。

**【存続を脅かす原因】**

高速道路や林道整備などの開発行為による生息環境の悪化、近年の松くい虫被害に伴う営巣木として利用するアカマツの枯死など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			○	○	○	△		○	○	○	○		○			○

# サシバ

*Butastur indicus* (Gmelin, 1788)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵2

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

かつては、県内の里山で普通に見られたが、近年渡来数が激減した。人里に近い環境に営巣するため、人為的な改変により影響を受けやすく、タカ類の中でもっとも減少率が高い種と考えられ、絶滅が危惧される。

**【概要】**

夏鳥として渡来する中型のタカで、全長約50cm、翼開長110cm。頭部の白色の眉斑が特徴で、本州から九州の低山や丘陵などで繁殖する。アカマツ林に営巣することが多く、巣はアカマツなどの10~20mの枝上に作り、生息環境がよければ毎年同じ巣を補修して連続して使用することが多い。餌場は、水田や畑、伐採跡地などの開けた土地で、谷に水田が入り込んだ地域を特に好む。電柱や木の枝などにとまって、地上にいるヘビやカエル、トカゲ、大型昆虫などを捕食する。「ピックイー」とか「キンミー」と聞こえる独特の鳴き声の特徴。春に南方から渡来し、4月末から5月初めにかけて2~4個の卵を産

む。1カ月ほどで雛がかえり、40~45日で巣立つ。10月初旬頃、大群で渡りをする事が知られているが、日本海側では太平洋側のように大きな群れを見ることがないことから、山陰地方で繁殖した個体は、瀬戸内海に抜けて九州に入り、鳥づたいに東南アジア方面へ渡っていくのではないかと考えられる。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内全域の里山に生息し、特に谷あいの入り組んだ水田地域を好む。中には、里山の森林地帯を中心に生息する個体もいる。

**【存続を脅かす原因】**

里部における森林の開発、松くい虫による営巣木の減少、谷奥部の水田や畑地の放棄、東南アジアなど越冬地や中継渡来地における生息環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			○	○	○			○								

タカ目タカ科

# クマタカ

*Nisaetus nipalensis orientalis* (Temminck et Schlegel, 1844)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵2

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧ⅠB類(EN)

### 【選定理由】

森林性の大型のタカで、生態系の頂点に立つ種である。生息数が多くない上に、山林の伐採や開発などによる影響が懸念される。また、近年繁殖率の低下も指摘されている。

### 【概要】

種としては、スリランカ・インド南西部から中国南部・日本にかけて分布する。日本に生息する亜種クマタカは、韓国で観察された情報もあるが、日本が主要な生息地であり、ほぼ日本特産の亜種といえる。国内では、北海道から九州にかけて留鳥として分布し、1年中、同一地域で暮らす。国内の生息数については、最低でも約900ペア(1,800羽)が確認されたという報告がある。生息地の地形的要素としては、大きな谷が重要で、なわばりは普通20km前後。餌はノウサギ、テンなどの哺乳類や、アオダイショウ、シマヘビなどの爬虫類、ヤマドリ、キジなど中型以上の鳥類が多い。1～2月頃、求愛行動や巣

材運びを行い、3月下旬から4月に産卵する。繁殖は古い巣を直しながら毎年使用することが多く、行動圏内に予備の巣を持つことが知られている。営巣に使用する木は、アカマツやモミなどの針葉樹の大木が多く、幹上部の大枝の分かれ部などに、直径1m以上、厚さ70cm以上の大きな巣を作る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

ある程度急峻な斜面を持つ谷のある森林地帯が主たる生息域で、平野部と里山低地部を除くほぼ全域に生息している。営巣は、山地の中腹より下部の針葉樹林の大木で行うことが多く、高樹齢の林内や伐採跡地などを餌場とする。

### 【存続を脅かす原因】

ダムや道路建設などの林地開発、森林伐採、松くい虫、有害化学物質の蓄積による繁殖力の低下など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△	○	○			○	○												

ブッポウソウ目ブッポウソウ科

# ブッポウソウ

*Eurystomus orientalis calonyx* Sharpe, 1890

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵3

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧ⅠB類(EN)

### 【選定理由】

以前は、県内の山間地で比較的普通に見られたが、近年急激に姿が見られなくなった。営巣木の確保などの保護対策が講じられなければ、絶滅する恐れがある。

### 【概要】

本亜種は、日本のほか中国東北地方、アムール地方、朝鮮半島に分布する。青緑色の体に赤い嘴を持つ異国情緒の鳥で、夏鳥として渡来する。全長約30cmで、キジバトより少し小型。野外では全体的に黒っぽく見え、ふわふわと飛ぶことが多いが、急旋回することもある。飛ぶと翼の白い紋がよく目立つ。神社や寺など、大きな樹木のある場所を好む。見晴らしのよい高所に止まり、セミやコガネムシ、トンボなどの昆虫を捕食する。餌を捕らえると、また元の場所に戻る習性を持っている。「ゲッゲッ」と濁った声で鳴く。5月下旬から7月上旬、大木に開けられたキツツキの古巣などを利用して営巣する。3～5個の卵を産み、22～23日で孵化し、その後20～26

日ぐらいで巣立ちする。貝殻や缶ジュースの栓などを、巣内に持ち込む変わった習性がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

近年では、繁殖地は限定された場所に限られてきている。以前は、木の電柱にキツツキなどによって掘られた穴に営巣することが比較的普通に見られたが、木の電柱がコンクリート製にかえられたことなどから激減し、近年急速に姿が見られなくなった。岡山県や鳥取県、広島県などでは、電柱などに人工の巣箱を設置し繁殖場所を確保するなどの保護対策が行われており、本県でも一部の地域で取り組まれている。河川の橋脚にある隙間を利用し、繁殖をしている個体も見られる。

### 【存続を脅かす原因】

営巣木の消失(特に木製電柱の撤去)、生息環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○		△	○										

ハヤブサ目ハヤブサ科

# ハヤブサ

*Falco peregrinus japonensis* Gmelin, 1788

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵3

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

### 【選定理由】

海岸部における生態系の頂点に立つ重要な種であるが、日本全体での推定個体数が700~1,000羽と少ない。県内の海岸部は、北海道や三陸海岸に次ぐ国内有数の繁殖地域である日本海側地域に含まれるが、近年、繁殖地付近への人の立ち入りなどによる生息環境の悪化や、有害化学物質の蓄積などによる繁殖率の低下などが危惧される。

### 【概要】

種ハヤブサは、ほぼ全世界に分布し、このうち亜種ハヤブサは東アジア北部と日本に分布する。本県には、留鳥として生息し、人の近寄れない海岸や山の断崖の岩棚に営巣する。羽ばたきと滑翔を交互に行い、直線的に高速で飛翔し、ヒヨドリなどの中型の小鳥類を中心に捕食する。飛翔中の鳥の上空から翼をすぼめて急降下し、脚で蹴り落とし捕らえることが多い。繁殖期は3月下旬から4月上旬で、岩だなの平坦部に直接3~4個の卵を産

む。約1カ月で雛がかえり、40日ほどで巣立つ。冬季など、非繁殖期には全国各地の海岸や平野部などに漂行し、特に広い水面や平坦地のある環境を好む。本県では、冬季に水田地帯などで漂行してきた個体が比較的良好に確認される。

### 【県内での生息地域・生息環境】

繁殖個体は、切り立った岩場のある海岸部に多く、島根半島や隠岐諸島の海岸部で繁殖地が確認されている。近年になって、内陸部においても繁殖が確認されたが、これはまれなケースである。一方、非繁殖期に漂行する個体は、斐伊川など大河川の河口部や平野部で多く見られ、冬季に個体密度が増加する。

### 【存続を脅かす原因】

繁殖地付近への釣り人などの立ち入り、有害化学物質の蓄積による繁殖力低下など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	崖地
○	○	○	○	△	△			○	△	○			○	○	○	○		○	○		○	◎

スズメ目ヤイロチョウ科

# ヤイロチョウ

*Pitta nympha* Temminck et Schlegel, 1850

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵3

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧Ⅰ類(EN)

### 【選定理由】

まれな夏鳥で、ごく限られた地域でしか繁殖せず生息数も多くない。本種の生息環境は、照葉樹などが生い茂る豊かな自然が残存した傾斜地などであり、このような優れた自然環境の消滅とともに本種の生息基盤が脆弱となっていることが考えられる。

### 【概要】

本種は、日本、朝鮮半島および中国にかけて繁殖し、中国南部からインドネシア、ボルネオ島にかけての地域で越冬する。全長約18cmのムクドリ大で、嘴が太く尾が短い。脚は比較的長くて丈夫。地上を歩きながらミミズなどを捕食する。餌はミミズが多いが、サワガニや昆虫、多足類なども捕食する。その名のとおり体色に特徴があり、頭上部は茶褐色、黒い頭央線があり、黒くて太い過眼線との間に黄色の眉線がある。背は緑色、腰と肩は光沢のある青色、尾の基部は黒く先端は青、喉から胸は黄白色、腹の中央から下尾筒には鮮やかな赤色の部分があ

る。翼には白斑があり、飛ぶと目立つ。雌雄同色。近年において生息記録のあった地域は、暖温帯の照葉樹林が発達する地域とほぼ一致し、繁殖が確認された森林は、常緑と落葉の広葉樹およびスギ・ヒノキ植林の混成林が多いとされる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県内における確認例はさほど多くはないが、ほぼ県内全域に及んでいる。龍頭が滝や鱒淵寺周辺など、優れた照葉樹林が残っている斜面部で確認されることが多い。確実な繁殖の記録はほとんどないが、1977年7月に、掛合町で巣立ち後間もない幼鳥が保護されたこともあり、本県内で繁殖していることは明らかである。

### 【存続を脅かす原因】

伐採などに伴う照葉樹林の消滅、生息地への人の立ち入り、越冬地の環境悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	崖地
○	○	○	○	○				○														

スズメ目センニュウ科

# ウチヤマセンニュウ

*Locustella pleskei* Taczanowski, 1890

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵3

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧ⅠB類(EN)

## 【選定理由】

県内では、本土側の島嶼1カ所で繁殖が確認されているほか、隠岐諸島のいくつかの島嶼で夏季に観察記録がある。日本海に浮かぶ県内の小さな島の一部に渡来・生息しているが、その個体数は非常に少なく、存続基盤はきわめて脆弱である。

## 【概要】

全長17cm。シマセンニュウによく似ているが、体はやや大きめで嘴が長い。さえずりは、「チッチ チョイチョイチョイ」などと聞こえる鳴き方で、シマセンニュウに似るが、1~2音短い傾向がある。以前は、シマセンニュウの亜種とされていたが、日本鳥類目録改訂第6版(2000)から別種扱いとなった。本種は、ロシア沿海地方や朝鮮半島、日本の沿岸の島嶼で繁殖し、中国南東部やベトナムで越冬する。国内では、夏鳥として渡来し、伊豆諸島のほか紀伊半島周辺や九州近海の小島などで繁殖している。海岸に近いササ藪や草地、照葉樹林などに

生息する。分布がきわめて局所的であり、総個体数は少ないと考えられている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

本土側の島嶼1カ所で2008年に繁殖が確認されている。隠岐諸島では、複数の島嶼で夏季に観察記録があり、繁殖の可能性は高いと考えられるが、現在のところ営巣や巣立ち雛などの確認はできていない。いずれの場合も、小さな島の一部にある草原と灌木が混在するような環境に見られるが、このような適度な生息環境が維持されるかなど、今後の動向について注意深く見守っていく必要がある。

## 【存続を脅かす原因】

植生の遷移や人為的な環境の改変、釣り人の立ち入りなど。

生息地域		山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
本土側	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	島嶼
◎	○																△			◎

スズメ目セキレイ科

# イワミセキレイ

*Dendronanthus indicus* (Gmelin, 1789)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵3

島根県固有評価: -

環境省: -

## 【選定理由】

1960~70年代には県内で本種の繁殖が継続的に確認され、全国的にもまれな事例として注目されていたが、近年は確認されなくなった。原因究明や広範な情報収集をしていく必要がある。

## 【概要】

全長16cm。胸に二筋の黒帯があり、他のセキレイ類とは異なり尾を左右に水平に振るのが特徴。地上を歩きながら昆虫やクモ類などを採餌する。地鳴きは「ギーツクギーツク」と聞こえる濁った声を出し、「チュチュピーチュチュピー」という高く澄んだ声でさえずる。本種は、ユーラシア大陸東部の中国中北部で繁殖し、冬は中国南部、東南アジアなどに渡る。中国大陸系の種であり、国内には数少ない旅鳥として記録されることがほとんどであるが、1970年代に福岡県や鳥取県で繁殖が確認されたほか、中部から九州にかけて複数の県で繁殖期にさえずっていた記録があり、他地域においても繁殖の可能性

が考えられている。県内では、数カ所で渡来が確認されていたほか、海岸のマツ林で継続的な繁殖が確認され、注目されていた。林の中や林縁、農耕地や草地などに生息する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

1965年に大社海岸で繁殖が確認されて以来、継続的に繁殖が観察されていたが、海岸マツ林における松くい虫の蔓延や、林内環境の変化、1977年から開始された松くい虫の農薬散布の影響などから確認されなくなった。近年では、渡りの時期に海岸部に近い林などでまれに観察された記録がある。

## 【存続を脅かす原因】

松くい虫による海岸のマツ林の環境変化、松くい虫防除のための薬剤散布、人の立ち入りなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△	△										△	△	△			○	△		



# コイカル

*Eophona migratoria migratoria* Hartert, 1903

島根県:絶滅危惧 I 類(CR+EN)

写真 口絵3

島根県固有評価: -

環境省: -

### 【選定理由】

本種（亜種）は、浜田市で繁殖が確認されていたが、近年はみられなくなった。また、毎年越冬していた場所においても観察できなくなり、県内の観察記録はきわめて少なくなった。原因の究明や現状の生息情報の収集を行っていく必要がある。

### 【概要】

全長19cm。イカルに似るが、より小さくて風切と初列雨覆の羽先は白い。雄成鳥の頭部の黒色部はより広い。地鳴きは濁った声で「ギョッ」「キョッ」と鳴き、さえずりはイカルの声に似て「キーキョ キーコ」などと鳴く。種としては、ロシアのアムール、モンゴル、中国の北東部や中部、朝鮮半島などで繁殖し、冬季は中国南部、台湾、日本などに渡る。国内には、本亜種が旅鳥または冬鳥として渡来し、本州中部以南で比較的多い。1980年に熊本県で繁殖の記録がある。東京でも繁殖例があるが、かご抜けであろうと考えられている。平地から

山地の林に生息し、おもに木の実や草の種子などを食べる。本種（亜種）だけの小群で生活するか、イカルの群れに混ざることもある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1980年代に浜田市において3年間で複数の繁殖個体が観察されていたが、その後は確認されていない。松江市の城山公園では、近年まで少数が越冬していたが、2002年頃から観察されなくなった。その他の記録としては、冬季または渡りの時期の情報があるが少なく、生息の実態がつかめないことから情報の収集と整理が望まれる。

### 【存続を脅かす原因】

継続的に生息していた場所の環境改変など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○				○					○									

## ヒシクイ

*Anser fabalis* (Latham, 1787)

## 島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

本種の集団渡来地は東日本に片寄っており、それも局地的である。琵琶湖より西の集団渡来地は斐伊川だけで、ここに渡来するヒシクイは体サイズがやや小さい個体が多く、中にはマガンと同サイズの個体も見られる。さらに、亜種オオヒシクイと考えられる大型の個体も数割含まれる。東日本に渡来する個体群とは、繁殖地や渡来ルートが異なる可能性が高く、2010年4月には日本海を北上して大陸へ直接渡るルートが確認されるなど、学術的にも注目されている。マガンの個体数が急増しているのに対し、本種は100羽前後で増減し、増加しない状態が続いており、生息基盤も脆弱なことから県内における絶滅が危惧される。

## 【概要】

1971年に国の天然記念物に指定され保護されてから、その数が回復傾向にあるが、渡来地は局地的。現在国内には東北地方を中心に約18,000羽が渡来している。国内

に渡来するヒシクイを亜種レベルで見ると、タイガ地帯をおもな繁殖地とする亜種オオヒシクイと、ツンドラ地帯をおもな繁殖地とする亜種ヒシクイの2亜種が渡来しており、亜種オオヒシクイが約12,000羽、亜種ヒシクイが約6,000羽である。

## 【県内での生息地域・生息環境】

集団で定期的に渡来するのは、斐伊川中流から下流部のみで、ねぐらや餌場はおもに斐伊川の河川敷内で、中州をねぐらとし牧草やツルヨシの根などを餌としている。また、周辺の水田で餌をとることもある。この他、斐伊川下流部ではマガンやコハクチョウと行動を共にする個体も1～数羽見られる。

## 【存続を脅かす原因】

河川改修などの生息環境の改変、湿地などの餌場の消失・環境悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	○												○	○	○				△

## カリガネ

*Anser erythropus* (Linnaeus, 1758)

## 島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

斐伊川河口部を中心に、近年毎年渡来しているが、渡来数は少ない。毎年のように複数個体の渡来が確認されている地域は、宮城県などを除けばまれであり、その動向を注目していく必要がある。

## 【概要】

全長58cm、翼開長128cmのガンの仲間で、マガンより一回り小さい。マガンによく似ているが、嘴が小さくて短く、ピンク色味が強い。成鳥では額の白色部が頭頂の眼と眼を結ぶ線まで達しており、眼を取り巻く黄色いリングがある。鳴き声はマガンより調子が高い。ユーラシア大陸の極北部で繁殖し、中国南部、ハンガリー、カスピ海周辺で越冬する。総個体数は全世界で3～5万羽と推定されており、生息環境の悪化や狩猟の影響などでヨーロッパでも絶滅の危機にあるといわれている。1997年に中国と日本雁を保護する会の共同調査で、中国湖南省にある洞庭湖に13,700羽が確認され注目された。国内

には、ごくまれな冬鳥としてマガンに混じって渡来するが、毎年渡来している地域は限られている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖とその周辺に渡来する約4,000羽のマガンに混じって、近年は、ほぼ毎年1～数羽が観察されている。餌場やねぐらはマガンと同じで、おもに出雲平野の刈り取り後の水田を餌場とし、宍道湖の湖面や斐伊川の中州をねぐらとしている。これまでに本種が確認されたのは、宍道湖西岸の斐伊川河口部が多いが、ほかに潟の内の記録などがある。

## 【存続を脅かす原因】

秋耕や裏作などによる水田の餌場環境の悪化、中州や水面などのねぐら環境の不安定化など。また、近年では撮影者などによるストレスも懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			△												○	○	○				

## オオハクチョウ

*Cygnus cygnus* (Linnaeus, 1758)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

本県では、従前からコハクチョウに比べ渡来数がきわめて少なく、渡来状況も不安定であることから、動向を注意深く見守っていく必要がある。本種は、マコモが生息している水辺などを好む傾向があるが、そのような生息環境は限られており、水田をおもな餌場としているコハクチョウに比べると、生息基盤が不安定である。

## 【概要】

国内に渡来するハクチョウ類は、主としてオオハクチョウとコハクチョウの2種で、平成24年度の環境省のガンカモ類生息調査のデータによると、オオハクチョウが約27,000羽、コハクチョウが約40,000羽渡来している。本種は、コハクチョウより一回り大きく、全長約1.4m、翼開長約2.2mで、わが国に生息する鳥類の中でもっとも大きいものの一つ。コハクチョウよりも嘴の黄色部が広く、その先端が三角形にとがり黒色部に食い込むのが特徴。繁殖地は、ユーラシア大陸のタイガ地帯で、コ

ハクチョウが繁殖するツンドラ地帯よりも南部に位置する。日本には冬鳥として渡来し、越冬地は東日本がほとんどである。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県内に渡来するハクチョウ類の大半はコハクチョウで、本種はコハクチョウの群れに1～数羽が混じり、水田で採餌することが多いが、ファミリー単位で渡来することがまれにある。宍道湖西岸の斐伊川河口部や安来平野のほか、隠岐諸島などで観察されることがある。県内では、神戸川河口部には、以前連続して10羽ほどの個体群が渡来していたが、河川工事の影響などから最近では見られなくなった。

## 【存続を脅かす原因】

河川工事などによる生息環境の悪化、マコモなど餌の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	○								△				○	○	○				○

## アカツクシガモ

*Tadorna ferruginea* (Pallas, 1764)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

## 【選定理由】

本県は、朝鮮半島と近い位置にあることなどから、本種が渡来することが多い。特に、斐伊川河口部一帯には毎年のように渡来していたことがあり、貴重な地域となっている。本県は、地理的条件などから、中国大陸の奥部に繁殖する本種の定期的な渡来地として注目されていたが、近年は不安定な渡来状況が続いている。

## 【概要】

全長約64cmで、ツクシガモとほぼ同大の大型のカモ。全身キツネ色で、嘴と脚、尾羽と翼の先端が黒く、翼を広げると白と黒のコントラストが美しい。オスには頸部に黒色の輪があるが、メスにはない。黒海沿岸からバイカル湖以東までのユーラシア大陸中部に広く分布し、モンゴルやチベットなどで繁殖した個体が、朝鮮半島や国内に冬鳥として渡来する。朝鮮半島には群れで渡来し個体数も多いが、国内に渡来することはまれで、個体数もきわめて少ない。

## 【県内での生息地域・生息環境】

これまで、斐伊川河口部を中心に、宍道湖や中海の周辺、神西湖、隠岐諸島など数カ所で確認されている。渡来したほとんどの年は、1～数羽の記録であったが、1987年には斐伊川河口部に10羽の群れが渡来したことがある。その後、毎年のように見られていたが、2004年度以降は不安定な渡来状況が続く、記録がない年もある。ねぐらや休息場は河口部の砂州、餌場は周辺の水田を利用している。斐伊川河口部では、水田に飛来し落ち穂や青草などを採食する姿をよく見る。群れで渡来したときは独自で行動することが多いが、1羽の場合にはマガンの群れと行動を共にすることが多い。

## 【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化やカメラマンによる追いかけなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	△	△	○												○	○	○				△

ペリカン目サギ科

# ミゾゴイ

*Gorsachius gousagi* (Temminck, 1836)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

日本列島で繁殖する固有種。生息状況など不明な点が多いが、減少傾向にあると考えられる。情報の集積や調査が望まれる。

### 【概要】

全長約49cm。全体が栗色で、頭頂は濃い栗色、背中は暗栗褐色で、体の下面はバフ色で中央部に栗色の縦縞があり、のどにも黒い縦線がある。雌雄同色。本種は、おもに夏鳥として渡来し、低山や丘陵地のスギ、ヒノキなどの針葉樹やクリ、ナラ類などの落葉広葉樹、あるいは針広混交林の良く繁った樹林に生息する。沢筋や谷間の溪流などでサワガニやミミズ、魚類などを捕食する。丘陵地の谷戸田のような里山の環境が生息に適していると考えられる。おもに夕方から夜間にかけて、あるいは雨や曇りの日の日暮れから数時間と夜明け前の数時間、「ポォー ポォー」という低い声で鳴くとされる。樹上に皿形の巣をつくるが、コロニー性はなく、つがいごとに

分散して繁殖する。このように、開けた場所でないところで単独行動するために観察される機会は少ないと考えられる。冬季は、フィリピンおよび台湾を含む中国南部などで越冬するほか、一部は南西諸島や種子島などで越冬する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

夏鳥として4月上旬から中旬に渡来する。県内では西部を中心に繁殖も確認されているが、観察記録はきわめて少なく、生息状況や分布はほとんどわかっていない。

### 【存続を脅かす原因】

森林の開発や伐採、林相の変化などによる生息適地の減少など。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	△		△	△	○		○	○	○	○			△	△				

ペリカン目トキ科

# クロツラヘラサギ

*Platalea minor* Temminck et Schlegel, 1849

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

東アジアに局地的に分布する種で、学術的にも貴重である。生息環境の減少も深刻で、国際的に保護対策が必要とされている。

### 【概要】

全長約70-80cm。全身が白く、しゃもじ形の長い嘴は全体に黒い。ヘラサギに似ているが、目先は黒い皮膚が露出している。夏羽は胸に黄色味があり、後頭に冠羽がでるが、冬羽にはない。幼鳥や若鳥は、風切の先端と外側初列風切は黒く、飛翔時に目立つ。朝鮮半島北西部と中国東北部などで繁殖し、台湾、香港、中国、ベトナム、日本などで越冬する。2013年のクロツラヘラサギ世界一斉調査では、2,725羽が確認され、国内では277羽が記録されている。以前はまれな冬鳥であったが、近年は、九州と沖縄が主要な渡来地となり定期的に越冬している。冬鳥または旅鳥として渡来するが、越夏する個体もあり、その場合は若齢個体であることが多い。干潟、水田、河

川、湖沼などの湿地に生息し、嘴を半開きにして水の中に入れ、横に振りながら、魚類や甲殻類などを捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内には干潟のような湿地環境がほとんどないが、冬季または渡りの時期に見られる。斐伊川や飯梨川、益田川、高津川の河口部などで観察例がある。斐伊川河口では、一時的な滞在であることが多いものの、毎年のように渡来しており、夏季の記録もある。1羽で観察されることが多い。

### 【存続を脅かす原因】

湿地開発、河川改修などによる生息適地の減少（特に広くて浅い湿地環境の消失）など。有害化学物質の蓄積も懸念されている。最大の越冬地である台湾ではボツリヌス菌による大量死が起きたことがある。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	○	○												△	○	○				○

ツル目クイナ科

# クイナ

*Rallus aquaticus indicus* Blyth, 1849

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種(亜種)は、草原などの茂みの中に潜んでいることが多く、観察されにくいことから、生息状況が十分に把握されているわけではないが、個体数は多くないと考えられる。また、生息場所である水辺の草原などが減少しており、生息基盤が脆弱である。

### 【概要】

全長29cm。キジバトより少し小さく、体色は地味な褐色である。長い嘴は下嘴が赤く、腹部に白と黒の横縞がある。顔には褐色の過眼線があり、眼も赤色。脚は長く、尾は短い。種としてはユーラシア大陸の温帯・亜寒帯などで繁殖し、北方のものは冬季南下する。国内では本亜種が北海道と本州北部で繁殖し、冬は本州中部以南に移動する。湖沼などの水辺の草原やヨシ原、水田や休耕田などに生息するが、半夜行性で、草むらに生息するため、姿を見ることは容易ではない。朝夕には草むらの周りで餌をとることがある。湿地を歩いたり泳いだりしながら、

昆虫類、両生類、魚類、甲殻類などの動物質のほか、草の種子なども食べる。警戒心が強く、ちょっとした物音などにもすぐ反応して隠れる。単独あるいはつがいで生活し、雛を連れて育てている時期以外は群れをつくることはない。なわばり意識は強く、繁殖地でも越冬地でも一定の範囲を縄張りとして構え、他の個体が侵入してくると追い払うという。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として水辺の草原やヨシ原などで観察される。宍道湖西岸や潟の内、飯梨川や益田川周辺などで記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息状況などに不明な点も多いが、水辺の草原やヨシ原、水田などの生息適地の減少が考えられる。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○							○	○	○			○	○	○				

ツル目クイナ科

# ヒクイナ

*Porzana fusca erythrothorax* (Temminck et Schlegel, 1849)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本種(亜種)は、草原などの茂みの中に潜んでいることが多く、観察されにくいことから、県内の生息状況が十分に把握されているわけではないが、個体数は多くないと考えられる。また、生息場所である水辺の草原などが減少している。

### 【概要】

種としてはインドから東南アジア、中国、朝鮮半島にかけて分布する。全長約23cm。ムクドリくらいの大きさで、体の上面は暗緑褐色。顔から胸にかけて赤茶色。嘴は黒っぽく、脚が赤い。本亜種は夏鳥として九州以北に渡来して繁殖するほか、本州北部以南では少数が越冬する。河川や湖沼のヨシ原、水田などに生息する。非常に警戒心が強く、日中はほとんど姿を現さないが、雨の日などには日中に姿を見かけることがある。飛ぶときには、両脚を下げ、頸を伸ばして低空を直線的に飛ぶ。餌はおもに動物質で昆虫類が多く、両生類や草の種子も食べる。

繁殖期には、おもに夕方から夜にかけて「キョッキョッキョッキョキョキョ」と金属的な声で連続的に鳴く。水辺の草の中に、イネ科植物、ヨシなどの葉や茎を利用して皿形の巣をつくる。雛は早成性で、孵化後まもなく巣を離れ、親に連れられて歩く。

### 【県内での生息地域・生息環境】

おもに夏鳥として渡来し、宍道湖西岸や潟の内、益田川河口などで観察記録があるほか、冬季の記録もある。観察されにくく、県内の生息状況については、よく分かっていないのが現状である。

### 【存続を脅かす原因】

生息状況などに不明な点も多いが、水辺の草原やヨシ原、水田などの生息適地の減少などが考えられる。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○							○	○	○			○	○	○				

鳥類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ヨタカ目ヨタカ科

# ヨタカ

*Caprimulgus indicus jotaka* Temminck et Schlegel, 1844

## 島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内の生息状況が十分に把握されているわけではないが、近年急に個体数が少なくなってきたと思われる。本種（亜種）の好む環境が急激に少なくなってきたことも一つの要因と考えられる。

### 【概要】

全長約29cm。全体に褐色で、灰色や茶褐色などの斑紋が混じった複雑な模様をしている。嘴は小さいが根元の方が幅広く、扁平で、口を開けると非常に大きい。種としては中国から極東アジアに分布し、北方のものは冬、南へ移動する。国内には本亜種が夏鳥としておもに山地に渡来する。草原帯のある広大な山林地域を好み、草原や灌木の散在する落葉広葉樹や針葉樹の森林に生息する。おもに林縁や明るい林の地上に浅いくぼみを作り産卵する。日中は林内や林縁の大きな枝に平行にとまることが多く、一見木の瘤のように見える。体の模様が地上に落ちた枯れ葉のようで、じっとしているときは

姿を見つけることが難しい。夕方から夜にかけてと明け方に「キョキョキョキョキョ」と連続して鳴くために、存在に気づくことが多い。長い翼でゆっくり羽ばたいて飛び回るが、飛翔スピードは速い。飛びながら飛翔性の昆虫類を捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地のほか、本種の好む環境があるところでは、海岸に近い山でもまれに鳴き声を確認することがある。しかし、夜行性であるため観察されにくいこともあり、県内の生息状況や分布については不明な点が多い。県西部では、山地の伐採地で繁殖が確認されたことがある。

### 【存続を脅かす原因】

森林の開発や林相の変化などによる生息環境の減少、中継渡来地や越冬地における環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			○	○												

チドリ目タマシギ科

# タマシギ

*Rostratula benghalensis benghalensis* (Linnaeus, 1758)

## 島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本種（亜種）の県内の生息状況は十分に把握されていないわけではないが、個体数は少ないと考えられる。また、本種が生息するような湿地環境の減少に伴い、生息数が減少していく可能性がある。

### 【概要】

全長約24cm。目の回りの曲玉模様と胸から背中に走る白線がよく目立つ。メスは卵を産むだけで、巣づくりや抱卵、子育てはオスが行う。一妻多夫という繁殖習性を持っている。メスの方が額から胸にかけて赤褐色の美しい羽色をしており、繁殖期には「コーコー」と連続して鳴く。種としては中国南部からインドまでのアジア地域と、アフリカ大陸、オーストラリアにかけて分布する。国内では、本亜種が本州中部以南の水田、休耕田、蓮田、湿地などに周年生息し、稲の株の間、畦道の上、湿地の草地の中などに巣をつくる。巣をつくる場所は、背丈が低い草（15cmくらい）がまばらに生えたところで

あるという報告がある。越冬できるような年中浅く冠水している場所では周年生息している。成鳥は繁殖期にはほとんど群れをつくらないが、秋から冬にかけては群れをつくる傾向がある。餌はおもに動物質で、ミミズや昆虫類を捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

おもに平野部の水田地帯などで観察記録がある。繁殖期には鳴き声で確認されることも多い。

### 【存続を脅かす原因】

巣をつくるのに適した場所として、耕したまま放置した水田や埋め立て地のように一時的にできた草地があるが、このような場所は安定して存在しない。また、乾田化が進むなど生息適地が減少していることが考えられる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	○	○							○	○	○			○	○	○				

チドリ目カモメ科

# コアジサシ

*Sterna albifrons sinensis* Gmelin, 1789

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本種（亜種）は、かつては本州以南の各地の水辺で繁殖していたとされるが、近年では全国的に繁殖地が危機に瀕しているところが多い。近年の県内の記録は渡りの時期であり、旅鳥と見られるが、繁殖地が確認されれば、その保護を図る必要がある。

### 【概要】

全長26cm。全体的には白っぽい小型のアジサシ類。黄色い嘴で、額が白く頭部が黒い。本亜種は中国南部からフィリピン、オーストラリアまで分布する。国内には夏鳥として本州以南に渡来する。海岸、河川、湖沼などの水辺に生息し、水面上をゆっくり飛んで、時には停空飛翔をしながら、ダイビングして小魚を捕食する。繁殖適地は小石混じりの乾燥した裸地であり、砂浜海岸や、河川の河原や中州、埋め立て地などの砂礫地を利用して集団で繁殖する。しかし、砂浜や河川敷など自然の繁殖地は減少しており、人工的に造成された場所で繁殖するこ

とが少なくない。また、埋め立て地では工事の進行にともなって適地が失われることから、本種の営巣環境は不安定な状態にある。さらに、その他の要因として、卵や雛がカラス類などの捕食者によって捕食されたり、河川敷では梅雨時に増水することで流失したりするほか、人や車が砂浜や河原に立ち入ることで営巣地の放棄を招くことなどがあり、繁殖成功率は高くないとされる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

過去には飯梨川河口などで繁殖行動の記録があるが、現在は県内での繁殖は知られておらず、宍道湖・中海や河川の河口部などの水辺でもに渡りの時期に観察されている。

### 【存続を脅かす原因】

安定した繁殖適地の減少や、レジャー等による人の立ち入りなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	○	△												△	○	○				○

タカ目ミサゴ科

# ミサゴ

*Pandion haliaetus haliaetus* (Linnaeus, 1758)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本種（亜種）は、魚類をおもな餌とするタカで、海岸部や湖沼周辺を中心に県内に広く分布しているが、営巣地など本種を取り巻く環境が年々悪化してきている。中でも、営巣木として利用してきたマツの大木が、松くい虫のため枯死することが多く、深刻な状況にあるほか、餌としている魚類に蓄積した有害化学物質の取り込みに伴う影響も危惧される。沿岸・湖沼・河川部における生態系の頂点に立つ生物で、その環境指標ともなる種であるが、繁殖成功率が高いとはいえない状況にある。

### 【概要】

本種は広く世界中に分布する。国内には本亜種が留鳥として生息し、全長55-65cm、翼開長は170cmにも及ぶ。トビよりも翼が細長く、本種の方がスマートである。全体的に白っぽく、日本産のタカ類ではもっとも白く見える。空中で停空飛翔を行い、急降下して水中にいる魚を脚の爪で捕らえる。水上に突き出た杭の上などで、捕ら

えた餌を食している姿がよく見られる。巣は、海岸部の切り立った崖の先端部に作ることが多かったが、近年は大木の樹上にかけることが多くなった。さらに、近年、営巣木不足から、送電鉄塔など人工の構造物に営巣することもある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、海岸や湖沼部を中心に広く生息しており、その生息密度も全国有数の高密度地域と考えられる。特に、中海・宍道湖や神西湖周辺における個体密度が高く、隠岐諸島でもよく見られる。河川沿いに内陸部まで入り込むことがあり、ダム湖など山間部の水域でも見られる。

### 【存続を脅かす原因】

松くい虫による営巣木の枯死、釣り人などの海岸営巣部への接近、餌場環境の悪化、有害化学物質の体内蓄積など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	崖地
○	○	○	○	○		△	△	○			○	○	○			○	○	○			○	○

鳥類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

タカ目タカ科

# オジロワシ

*Haliaeetus albicilla albicilla* (Linnaeus, 1758)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本種（亜種）は北海道以外では珍しく、本県にはまれな冬鳥として渡来する。以前は、宍道湖西岸部に毎年のように渡来し越冬していたが、近年はその姿を見ることが少なくなった。

### 【概要】

その名のようにくさび型の白い尾を持ち、豊のように幅の広い翼を持つ褐色のワシ。全長69－92cmで、翼開長は2m以上にも及ぶ。少数が北海道の東部と北部の海岸に近い森林や、内陸の湖沼周辺の森林で繁殖している。北海道の営巣地は、やや増加傾向にあるが、繁殖は必ずしも安定していない。冬季、ロシア極東部などで繁殖した個体も渡来し、北海道や本州北部を中心に越冬する。関東以西ではまれで、特に西日本では渡来数も少ない。国内における越冬個体数は550～850羽とされているが、近年風蓮湖では1,000羽ほどが確認されるなど、渡来数は増加傾向にある。魚類をおもな餌とする海ワシで、厳

冬期には水禽類やほ乳類なども餌とする。海岸部や湖沼、大河川の河口部などでよく確認される。おもな繁殖地は、ロシアのカムチャツカ、サハリン、沿海地方などであるが、北海道東・北部などで約150つがいが繁殖している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として渡来し、宍道湖西岸部や神西湖などで比較的良好に見られる。魚類をおもな餌としているが、時にはカモ類を捕獲することもある。宍道湖の場合、斐伊川河口部の中州を休息場としてよく利用し、ねぐらは北部の山林地帯を利用することが知られている。

### 【存続を脅かす原因】

休息場などへの人の立ち入り（特にカメラマン）、ねぐらに利用していた大木の消失、有害化学物質の体内蓄積など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△	○										○			○	○	△			○

タカ目タカ科

# チュウヒ

*Circus spilonotus spilonotus* Kaup,1847

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅰ類 (EN)

### 【選定理由】

本種（亜種）は、湿地生態系における食物連鎖の頂点に位置し、その生物多様性の豊かさを象徴する種の1つである。以前は、斐伊川河口部を中心に多くの渡来がみられ、繁殖の可能性もあったが、近年では渡来数が減少した。渡来地も限定されており、絶滅が危惧される。

### 【概要】

オスは全長約48cm、メスは約58cm。翼と尾と足が長め。羽色に個体差が多く、国内で繁殖する個体はトビのような褐色味のある個体が多い。オス成鳥は翼先が黒っぽく、風切り羽と雨覆に黒っぽい黄帯がある。種としては、シベリア東部、モンゴル、中国東北部などで繁殖し、中国中南部、東南アジアなどで越冬する。国内にはおもに冬鳥として渡来するが、北海道、東北、中部地域で少数が繁殖しており、岡山県、山口県でも繁殖が確認されている。ヨシ原や平野部の草原、農耕地などに生息し、日中はヨシ原や草地の上をゆっくりとした羽ばたきと滑空を

繰り返しながら、ネズミや小鳥類、カエルなどの小動物を捕食する。翼をV字型に保って、低空を滑翔するのが特徴。営巣は、水のあるヨシ原の中で行う。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として、河川や湖沼の広いヨシ原や農耕地などに渡来し、斐伊川河口部などでは冬季を中心に常時数羽から5羽程度の飛翔が確認されていたが、近年は激減してきた。斐伊川流域では、まれに夏季の観察例があり繁殖の可能性もあったが、繁殖は確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

湿地開発による生息地の減少（特に広大なヨシ原のある湿地環境）、生息に適した草地や餌場（植生のギャップ地など）、ねぐらの減少、植生の自然遷移など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		△				○					○	○	○	○		○		○



# オオコノハズク

*Otus lempiji semitorques* Temminck et Schlegel, 1844

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

以前は、中国山地などで確認されることがあったが、最近ではほとんど見られなくなった。猛禽類である本種(亜種)は、豊かな森の象徴であり、本種が生息することは豊かな自然環境が残存している証ともなる。しかし、もともと個体数もさほど多くなく、その動向を注意深く見守っていく必要がある。

**【概要】**

種オオコノハズクの分布は、日本のほか、ウスリー地方、中国東北部、サハリン、台湾、フィリピン、インドシナ半島などと広い。全長24cmくらいで、コノハズクより少し大きく、耳羽が長い。眼は橙色で、金色の眼をしたコノハズクと見分けられる。県内には本亜種が留鳥として周年生息する。コノハズクよりも局地的で定着性が強いと言われている。夜行性であることや、鳴き声あまり目立たないことなどから生息確認が難しい種である。平地や山地の豊かな森に棲み、社寺林や竹藪、針葉

樹の密生林内などで確認されることが多い。冬季は暖地に移動することがあり、民家の周辺で観察されることもある。夕方から活動し、小鳥類や小型哺乳類、両生類、昆虫類などを捕食する。鳴き声は「ポッポッポッポ」または「ホッホッホッホ」という低い声で、「キューー」という声も出す。このほか「テイヤーオ」という声は一年中発する。5～6月頃、巨木の樹洞や民家の屋根裏などで繁殖する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

隠岐諸島や中国山地などの豊かな森に生息し、まれに確認される。近年では、島根半島(北山山系)で繁殖が確認されたことがある。

**【存続を脅かす原因】**

森林の開発、営巣木となる大木のある森林の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

# コノハズク

*Otus sunia japonicus* Temminck et Schlegel, 1844

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

「声の仏法僧」としてよく知られた鳥で、以前は中国山地などで比較的好く鳴き声が聞かれたが、最近ではほとんど聞かれなくなった。猛禽類である本種は、豊かな森の象徴であり、本種(亜種)が生息することは豊かな自然環境が残存している証ともなる。しかし、もともと個体数もさほど多くなく、本種が好む自然環境の減少などから、各地から姿を消しつつある。

**【概要】**

全長約20cmの小型のフクロウの仲間で、国内でみられるフクロウ類では最小。よく目立つ耳羽や、枯れ葉模様の外観、金色の眼などが特徴。体色に個体差があり、全身赤褐色の赤色型が比較的好く見られる。中国南部やインド、タイ北部、ベトナム北部などでは留鳥。マレー半島、ミンダナオ島などで越冬することが知られている。県内には本亜種が夏鳥として渡来し、5～6月ごろ樹洞内で産卵する。日中は森の中の枝の上や樹洞にいて、じっと

していることがほとんどである。夕方から活動し、オサムシやゴミムシ、ガ類などの昆虫類を捕食する。5月から8月上旬にかけて、夜間「ブッ キョッ キョー」と聞こえる三音を連続して鳴くことから、「姿のブッポウソウ」に対し「声の仏法僧」と呼ばれている。

**【県内での生息地域・生息環境】**

中国山地脊梁部のブナ帯を主とする豊かな自然環境が残存する森林に、わずかに生息している。安蔵寺山など西中国山地一帯には、良好な自然環境が残存しており、本種の鳴き声が比較的好く聞かれる。

**【存続を脅かす原因】**

森林の伐採や開発、営巣木となる大木の減少、越冬地や中継渡来地における生息環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

ブッポウソウ目カワセミ科

# アカショウビン

*Halcyon coromanda major* (Temminck et Schlegel, 1848)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種(亜種)は、夏鳥として渡来するが、その数は少なく、観察される地域も限られている。繁殖に利用する古木なども減少しており、渡来数の減少が危惧される。

### 【概要】

全長約27cmのカワセミ科の鳥類で、長く大きな嘴が特徴。「炎の鳥」と呼ばれるように、体の大部分は黄褐色を帯びた赤色を呈している。下面は黄色みの強い赤で、脚も赤い。腰にわずかに瑠璃色の羽毛がある。長い嘴は赤くて太い。冬季は台湾、フィリピン、セレベスなどで越冬し、国内には夏鳥として渡来する。山地のよく茂った落葉広葉樹林内の沢筋や溪流近くで見かけることが多い。餌は、カエルや魚、サワガニ、昆虫類など森林内の水辺に棲む小動物である。「キョロロロー キョロロロー」と聞こえるよく響く声で鳴き、その特徴のある鳴声から存在を知ることが多い。早朝によく鳴くほか、雨天や曇りの日には日中でもよく鳴く。繁殖は、森林中の樹洞や

朽木、垂直に切り立った粘土質の崖などに穴を掘って行う。穴は、あまり深くない。まれに、キイロスズメバチの古巣や、民家の土壁に営巣することもある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地や隠岐諸島などの森林地帯に夏鳥として渡来し、溪流沿いの林内を中心に生息する。サワガニなどが多く生息したり、大径木が多く残っているような豊かな自然環境の存する地域に多い。

### 【存続を脅かす原因】

森林の伐採や開発、営巣に利用する大木の減少、餌場としていた谷奥部の水田の耕作放棄、カメラマンによる追っかけなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○		○		○			○										

ブッポウソウ目カワセミ科

# ヤマセミ

*Megaceryle lugubris lugubris* (Temminck, 1834)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種(亜種)の個体数は多くない上に、魚食性でも主に溪流に依存し、営巣に適した土壁が必要なことなど、特定の生息環境を必要とする。このような場所は、人為的な影響を受けやすいため減少傾向にあり、今後の動向を注意深く見守っていく必要がある。

### 【概要】

全長約38cm。国内に生息するカワセミの仲間でもっとも大型。種としては、インドシナ半島北部、中国南部、朝鮮半島、日本に分布する。国内には、本亜種が九州、四国、本州に生息するほか、北海道に亜種エゾヤマセミが分布する。体の上面は白黒の鹿子模様であり、冠羽が目立つ。山地の溪流や湖に留鳥として生息し、水中にダイビングしておもに魚を捕る。飛びながらキャラキャラと聞こえる声で鳴く。1年を通してつがいごとになわばりを持って分散する。積雪期に平野部河川や下流域に漂行する個体もいる。繁殖期は3～8月で、垂直に近い土

の壁に深さ90～140cmくらいの穴を掘って営巣し、新しく掘ったり、古い巣を修復して使用したりする。1つの崖には1～数個の穴が掘られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

留鳥としておもに山地の溪流や湖などに広く生息が認められるが、生息密度は減少していると考えられる。営巣壁は、河川などの水辺から離れた場所にも存在する。斐伊川・神戸川水系で調査した結果では、営巣に利用する土の壁は、高さが5m以上で、傾斜は80度以上のものがほとんどであった。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修や開発などによる生息適地(営巣に適した土壁や餌となる魚類が多く生息する溪流など)の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△			○	○				○	○				△					△

カモ目カモ科

# マガン

*Anser albifrons albifrons* (Scopoli, 1769)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本種（亜種）は、宍道湖西岸を中心に安定して渡来し、福井平野から西では唯一の集団渡来地として貴重である。一極集中的傾向が強く、病気の発生等によっては個体群消滅の恐れがある。

### 【概要】

全長72cmの中型のガン類。シベリアなどの極北地で繁殖し、国内には冬鳥として東北地方を中心に約18万羽が渡来する。かつては全国各地で見られたが、狩猟圧や越冬環境の悪化などにより急激に減少した。国の天然記念物に指定され保護されるようになり、渡来数が回復して

きたが、分布は局地的である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

ねぐらは、宍道湖湖心部や斐伊川下流から河口部で、宍道湖西岸域の水田などを餌場とする。1979年以降渡来数が増加し、2010年以降は4,000羽以上を数えるようになった。しかし、最近では2000年代までの増加傾向と異なり、前年の最大数を下回る年もある。

### 【存続を脅かす原因】

鳥インフルエンザなどの伝染病、水田の秋耕などに伴う餌場の消失など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	○												○	○	○				○

カモ目カモ科

# コハクチョウ

*Cygnus columbianus jankowskyi* Alphéraky, 1904

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

宍道湖は、本種（亜種）の日本列島における集団渡来地の西南限にあたる。現在のところ、本種の個体群は安定しているが、餌場環境は年々悪化しており、今後さらに進行する恐れがある。

### 【概要】

シベリアのツンドラ地帯などで繁殖し、国内には冬鳥として渡来する。これまで、北海道を経由して日本列島を南下する渡りのコースが知られていたが、日本海を直接横断して渡来する個体群も確認されている。他地域とは繁殖地が異なる個体群の可能性など、学術的にも注目

される。

### 【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖周辺では、斐伊川下流から河口部を中心とする宍道湖西岸域や、潟の内に定期的に渡来し、最近では1,000羽前後を数える。中海周辺では、飯梨川河口や能義平野などに渡来する。餌場は広大な水田地帯であり、川の中州や水を張った田んぼ、潟の内にある池などをねぐらとする。

### 【存続を脅かす原因】

水田の乾田化、裏作、秋耕などに伴う餌場の消失など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	○							○	○			○	○	○				○	

カモ目カモ科

# ツクシガモ

*Tadorna tadorna* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

国内では、干潟の埋め立てなどにより生息地の減少などが懸念されている種で、県内にも毎年少数が渡来するが、県内には本種が好む干潟のような浅瀬はほとんどなく、生息基盤が脆弱である。

### 【概要】

全長約60cm。体は白く、頭と肩羽は緑色の光沢がある黒で、背から胸に栗色の帯がある。ヨーロッパ中部の沿岸、黒海周辺から中国東北地区までのアジア中央部など広い地域で繁殖し、冬は北アフリカ、ヨーロッパ南部、インド北部、中国、日本などに渡る。国内では、ほぼ全

国的に記録があるが、毎年定期的に渡来する地域は少ない。おもに海岸や河口部の干潟に生息し、甲殻類、貝類、底生動物を食べる。干拓地や水田などで見られることもある。

### 【県内の生息地と生息環境】

宍道湖や中海には少数が冬鳥として毎年渡来している。また、高津川河口などにも観察記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

河口域の工事や、湿地開発などによる生息適地の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	○												○	○	○				○

鳥類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カモ目カモ科

# オシドリ

*Aix galericulata* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

樹洞で営巣するなど、カモ類の中でも特異な生態を持ち、生息数も多くない。自然度のバロメータとしても貴重な種であるが、生息基盤が脆弱で、今後さらに生息環境の悪化が進行する恐れがある。

### 【概要】

全長45cmの小型のカモ類で、中国東北部、朝鮮半島、ウスリー、日本などに生息する。冬季には、日本で繁殖した個体が暖地へ移動するほか、大陸から冬鳥として渡来する。周囲を森林で囲まれた河川、溪流、池、ダム湖を好み、木の枝にもよくとまる。雑食性で、林の中の溪

流や陸上でシイ・カシ類などのドングリを好んで食べる。水辺やその周辺の大木の樹洞で繁殖し、巣箱を利用することも知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

山間部の溪流やダム湖などに生息し、江の川や高津川などには特に多い。冬季に群れて渡来する個体が多いが、中国山地や隠岐島の一部では繁殖もしている。

### 【存続を脅かす原因】

繁殖に適した樹洞のある古木の減少、シイ・カシ類の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○			○	○				

カモ目カモ科

# トモエガモ

*Anas formosa* Georgi, 1775

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

極東地域特有の種で、わが国には冬鳥として渡来するが、1930年前後に境に渡来数が急激に減少している。県内への渡来は年によって差があり、今後急速に減少する恐れがある。

### 【概要】

全長約40cmの小型のカモ。オスの顔には黄白色と緑色、黒色からなる巴形の模様がある。胸は赤紫褐色で、脇は青灰色。背からの上面は褐色に見える。メスは全体に褐色で嘴の基部に白斑がある。シベリア東部で繁殖し、多くは中国南部や朝鮮半島で越冬する。国内には冬鳥とし

て渡来し、個体数は石川県の片野鴨池など、本州以南の日本海側に比較的多い。

### 【県内の生息地と生息環境】

宍道湖などの湖沼のほか、高津川河口や溜池などでも見られる。渡来数は年により変動し、記録される数は数羽から数千羽になることもある。一時的な出現のことも多く、宍道湖で数千羽の群れが見られたときも、滞在期間は短かった。

### 【存続を脅かす原因】

生息適地の環境悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				△				○	○			○	○	○				△

ペリカン目サギ科

# サンカノゴイ

*Botaurus stellaris stellaris* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

本種(亜種)の国内の分布は局地的で、個体数も多くない。また、ヨシ原などの生息環境適地が減少しており、さらに進行する恐れがある。

### 【概要】

全長約70cmで、全体に淡黄褐色と暗褐色のまだら模様をしている。種としての繁殖分布はユーラシア大陸中部に広がり、北のものは東南アジア、インド、アフリカで越冬する。国内では、本亜種が北海道で夏鳥または留鳥、本州以南で留鳥または冬鳥として生息する。おもに平地の河川や湖沼のヨシ原など、広い湿性草原に生息するが、

個体数は少ない。日中はヨシ原に潜んでいて、開けた場所にはほとんど姿を現さないうえ、警戒心が強いいため観察されにくい。水辺で魚類や両生類、昆虫類、甲殻類などを採食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として河川や湖沼のヨシ原などに渡来するが、観察されにくいため、個体数などの生息状況について不明な点が多い。

### 【存続を脅かす原因】

湿地開発や河川改修などによるヨシ原などの生息適地の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		△	○													○	○				○

ペリカン目サギ科

# クロサギ

*Egretta sacra sacra* (Gmelin, 1789)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種（亜種）の県内における個体数は多くなく、生息基盤が脆弱であるため、今後容易に減少する恐れがある。

### 【概要】

全長約62cmで、全身が黒い（本種には白色型があり、南西諸島以南では白色型が多くなるとされている）。種としては、東南アジアからオーストラリアに広く分布する。国内では本亜種が本州以南に留鳥として特に岩礁の多い海岸に生息し、局地的に繁殖する。魚類、甲殻類などを採食する。繁殖期には、小集団あるいはつがいごと

に分散して、海岸などにある低い木の上や岩棚、岩の隙間などに巣をつくる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

留鳥として海岸に生息する。岩礁のある崖地、島嶼などで繁殖も確認されているが、個体数は多くないと考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

海岸部の開発などによる生息適地の減少。営巣地やその周辺への人（磯釣りなど）の立ち入りなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○	○	○	○																		○	○

チドリ目チドリ科

# イカルチドリ

*Charadrius placidus* Gray et Gray, 1863

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種は、以前は河川の中流域などで比較的普通に見られたが、近年その姿を見る機会が少なくなっている。生息基盤が悪化傾向にあり、今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

全長20cmほどのチドリの仲間で、河川の中流域などで繁殖する。繁殖期には「ピー ピー」と澄んだ声で鳴きながらテリトリーの上空を飛び回る。国内では九州以北で留鳥として分布し、北海道で夏鳥として渡来するほか、南西諸島では少数が越冬する。繁殖は、主として河川中

流域の川原で行い、小石を集めた簡単な巣を作る。留鳥として生息するが、北日本のものは冬季暖地に移動する。県内では、移動してきた個体を含め、冬季に多くの個体が観察される。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内の河川中流域などに留鳥として生息し、川原の砂礫地などで少数が繁殖している。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修や、河川の氾濫の減少に伴う砂礫河原の減少、河原の草地化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○	○	○	△							○	○	△			△	○	△				△	

チドリ目チドリ科

# シロチドリ

*Charadrius alexandrinus dealbatus* (Swinhoe, 1870)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本種（亜種）は、全国的に個体数が減少傾向にある。県内でも繁殖するが、その数は多くなく、人の活動の影響を受けやすい場所にも見られることから、今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

全長17cm。種としては、ユーラシア大陸や北アメリカ大陸などに広く分布し、おもに沿岸部で繁殖する。国内では、本亜種が本州以南で留鳥として、北海道で夏鳥として分布し、海岸の砂浜や河川の河口から中流部にかけての砂礫地で繁殖する。餌はおもに動物質で、昆虫類や

クモ類、ゴカイ類などを食べる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

留鳥として、砂浜海岸や大河川河口部の砂礫地などに生息する。繁殖はほとんどが砂浜やそれに隣接する造成地で、ある程度の広さが必要とする。県内37カ所の砂浜で調査したところ、繁殖の可能性があるつがいは海岸距離が500mよりせまい砂浜では確認できなかったという結果もある。

### 【存続を脅かす原因】

営巣地への人の立ち入り、砂浜の侵食、環境改変など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○	○	○	○												△	△				◎	○	

鳥類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チドリ目シギ科

# ハマシギ

*Calidris alpina* (Linnaeus, 1758)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

以前は、宍道湖・中海周辺の湿地や水田で普通に見られたが、近年極端に渡来数が減少してきた。今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

全長20cmほどの小型のシギ類。北半球の湿地に広く生息する。国内には、亜種ハマシギが旅鳥または冬鳥として渡来するとされるが、未記載のアラスカ産の亜種なども渡来していると考えられる。やや長めの嘴を持ち、嘴と脚は黒く、夏羽では腹の色が黒くなる。群れで行動し、一群の鳥は採餌、移動、休息などを一斉に行う。河口部

の湿地や水田などに飛来し、ゴカイや小型甲殻類などを採食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内には春と秋の渡りの時期や、冬季、越冬のために、大河川の河口部や湖沼周辺の水田などに渡来する。以前は数十から数百羽の群れが各地で見られたが、近年は越冬する個体群を中心に、著しくその数が減少している。

### 【存続を脅かす原因】

繁殖地や中継渡来地の環境悪化、餌場とする干潟や浅瀬の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○												○	○	○			○	○

タカ目タカ科

# ハイイロチュウヒ

*Circus cyaneus cyaneus* (Linnaeus, 1766)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

チュウヒに比べ減少傾向は顕著ではないが、渡来数も少なく、生息地である広いヨシ原の消失などもあり、今後急速に減少する恐れがある。

### 【概要】

オスは全長約45cm、メスは約50cm。オス成鳥は、上面と顔から胸までが灰色で下面外側初列風切羽が黒い。メスは上面が褐色で、下面は淡褐色に風切と尾羽に横帯があり、上尾筒は白い。種としては、ユーラシア大陸の亜寒帯や北アメリカ大陸の北部で繁殖し、冬期は南下して

越冬する。国内には冬季に関東以南のヨシ原や平野部の草原、農耕地などに渡来するが、個体数は少ない。ネズミや小鳥類、カエルなどの小動物を捕食する。翼をV字型に保って低空を滑翔する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として、河川や湖沼のヨシ原や農耕地、高原の草地などで観察される。

### 【存続を脅かす原因】

湿地開発、河川改修などによる生息適地の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	△	△				○					○	○	○	○		○		○

フクロウ目フクロウ科

# フクロウ

*Strix uralensis* Pallas, 1771

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

以前は、比較的普通に見られたが、近年、その姿を見ることが少なくなった。今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

全長約50cm。頭部から上面は淡褐色で下面には白地に褐色の縦斑がある。羽角はなく、眼は黒い。国内では4亜種に分類されているが、亜種ごとの分布域は明確ではない。留鳥として九州以北の平地から山地の林に生息する。日中は暗い林の中で休息し、夕暮れから活動し始めることが多いが、日中に活動することもある。おもにネ

ズミなどの小型哺乳類や小鳥類を捕食する。夜間に「ゴウホウ ゴロツケ ゴウホウ」と鳴く。おもに大木の樹洞に営巣する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

おもに山地の林に生息する。平野部でも見られるが、繁殖には営巣可能な樹洞が必要。冬季は河畔林で見ることがある。

### 【存続を脅かす原因】

森林の伐採や開発による生息地の減少など。特に営巣が可能な樹洞がある大木の減少が大きいと考えられる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	△			○	△	△			○	△	△	△					

フクロウ目フクロウ科

# アオバズク

*Ninox scutulata japonica* (Temminck et Schlegel, 1845)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

以前は、比較的普通に見られたが近年、その姿を見ることが少なくなった。今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

全長約29cm。頭部から上面は黒褐色で、下面には白地に黒褐色の太い縦斑がある。国内には、亜種アオバズクが夏鳥として渡来し、奄美諸島以南には別の亜種リュウキュウアオバズクが留鳥として分布する。本亜種は、平地から山地の林に生息し、営巣が可能な大きな木がある

社寺林などにも見られ、樹洞で営巣する。夜行性で、主として昆虫を採食するが、小鳥やネズミも捕る。夜間に「ホッホウ ホッホウ」と鳴く。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平野部から山地に広く分布し、営巣が可能な木があれば社寺林などでも見られる。

### 【存続を脅かす原因】

森林の伐採や開発によって生息地が減少しているほか、営巣が可能な樹洞がある大木の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○					○								

フクロウ目フクロウ科

# トラフズク

*Asio otus otus* (Linnaeus, 1758)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

比較的まれにしか確認されない種(亜種)で、県内での繁殖の可能性もある。渡来数は多くなく、今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

全長38cmほどの中型のフクロウの仲間で、耳の部分に当たる羽角が長く伸び出しておりよく目立つ。種としてはユーラシア大陸および北アメリカ大陸の冷温帯で繁殖し、北方の個体は南下して越冬する。国内では、本亜種が本州中部以北で局地的に繁殖し、本州中部以南では冬鳥として渡来する。平地や山地の林、農耕地、河畔林、

草地などに生息し、ネズミ類をおもな餌としている。越冬個体は、大河川の河口部の草原などで見られることが多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川河口部の草原や農耕地、河畔林などで冬季まれに観察される。冬鳥として渡来するが、繁殖の可能性もあり注目される。

### 【存続を脅かす原因】

生息地である林や草原、農耕地の減少、繁殖する森林の減少、生息地への人や車両の立ち入りなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△	○	△	△			○	○	○			○	○	○	○	○				○

フクロウ目フクロウ科

# コミミズク

*Asio flammeus flammeus* (Pontoppidan, 1763)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種(亜種)は、斐伊川河口部など、場所によっては比較的普通に見られたが、近年その姿を見ることが少なくなった。今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

種としてはユーラシア大陸、南北アメリカ大陸、ハワイ諸島などに広く生息し、国内には本亜種が冬鳥として渡来する。全長39cmほどのフクロウの仲間で、耳のように見える羽角はごく短く、わずかに出ている程度であまり目立たない。河口部や河川沿いの草原などに棲み、地

上近くを飛び回ってネズミなどの小動物を捕食する。普通、昼間は草むらの中で休息し、夕方から採餌行動を行う。フクロウ類としては珍しく、比較的明るい時間帯にも活動する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

河口部の土手沿いの草原や、農耕地、干拓地などの広々とした草原に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息地となる草原などの減少、人や車両の立ち入り、繁殖地の環境悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△	○										△	○	○	○	○		△		△

鳥類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ハヤブサ目ハヤブサ科

# チョウゲンボウ

*Falco tinnunculus interstinctus* McClelland, 1840

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

冬鳥として農耕地などに見られるが、近年渡来数が減少していると考えられ、今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

オスは全長33cm、メスは約39cm。キジバトほどの大きさのハヤブサ類。オスは頭頂から顔が青灰色、背中が茶褐色で黒い斑点がある。メスは上面が褐色で黒い斑点があり、下面は淡黄褐色で黒い縦斑がある。種としては、極地を除くユーラシアからアフリカに広く分布する。国内では本亜種が中部地方から北海道にかけて繁殖し、冬

は全国各地に広がる。平地から高山の草地、農耕地、河原などに生息し、羽ばたきと、短い滑空を繰り返して直線的に飛ぶ。獲物となる小動物は、ネズミ類や小鳥類などで、停空飛翔をしてねらうことが多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として、おもに平野部の農耕地や河川の草地などで見られる。

### 【存続を脅かす原因】

農耕地の減少や、河川改修などに伴う生息適地の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○						○	○				○	○	○					

スズメ目ホオジロ科

# ホオアカ

*Emberiza fucata fucata* Pallas, 1776

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種（亜種）は、本州中部以北がおもな繁殖地であり、県内でも繁殖の記録がある。生息地が局在していることなどから、今後さらに減少傾向が進行する恐れがある。

### 【概要】

全長16cm。ほぼスズメくらいの大きさで頬が赤褐色、頭から顎にかけては灰色、背中が褐色である。胸に黒と褐色の2本の横帯があるのが特徴。国内では、北海道、本州、四国、九州の各地で夏鳥として繁殖し、冬は本州の西南部以南で越冬する。平地から山地の草原に生息し、

なかでも比較的草丈の低い乾いたところを好むという。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では河川敷の草原や農耕地などで少数が越冬する。また、1988年の浜田市の繁殖例をはじめ、県西部や東部の河川の河口部あるいは周辺の草原で繁殖が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

草原の開発や、遷移による生息に適地した草原の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	◎	○		○				○	○				○	○	○					



カモ目カモ科

## コクガン

*Branta bernicla orientalis* Tugarinov, 1941

### 【選定理由】

本種（亜種）は、県内にはまれな冬鳥として渡来し、個体数は少ない。生息環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

### 【概要】

全長約60cm。全体に黒く、頸に不規則な白斑があり、下腹部から上・下尾筒は白い。国内では、北海道、東北地方に多く渡来し、西日本では少ない。おもに海岸の入江や内湾などで、アマモやアオノリなどを食べる。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

### 【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖や中海周辺のほか、島根半島や隠岐諸島などでも記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息適地の減少などが考えられるが、県内の渡来数は少なく、その状況の把握も十分ではないことから特定には至らない。

ミズナギドリ目ミズナギドリ科

## オオミズナギドリ

*Calonectris leucomelas* (Temminck, 1836)

### 【選定理由】

隠岐諸島の無人島などでコロニーが確認されているが、場所によってはその数が減少している。特殊な環境条件に生息し、生息地が局限されていることから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

### 【概要】

全長49cm、翼開長1.2mの海鳥で、日本近海などの島で繁殖し、海洋をおもな生息場とする。昼間は、魚群を求めて群れで海上を飛び回り、魚を捕食する。地中に穴

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

を掘って繁殖する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐郡知夫村の大波加島に大規模な集団繁殖地があり、星神島、沖ノ島などのほか、益田市高島が繁殖地となっている。

### 【存続を脅かす原因】

ネズミ類やカラス類などによる卵や雛の捕食など。

コウノトリ目コウノトリ科

## コウノトリ

*Ciconia boyciana* Swinhoe, 1873

### 【選定理由】

1960年代に国内で繁殖するものは絶滅し、現在は、大陸産の個体がまれに渡来する。県内への渡来数は少なく、生息環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

### 【概要】

全長約110cm。体は白くて、翼の風切羽が黒い。嘴は太くて長く黒い。繁殖地は、シベリア南東部から中国東北部で、冬季は中国東南部へ渡る。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類（CR）

### 【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川や飯梨川河口周辺などで記録があるほか、隠岐（島後）では複数回越夏したことがある。大陸産のものと見られる個体のほか、野生復帰による放鳥個体も飛来している。

### 【存続を脅かす原因】

開発などによる生息適地の減少や農薬の使用による採食条件の悪化など。

ペリカン目トキ科

## ヘラサギ

*Platalea leucorodia leucorodia* Linnaeus, 1758

### 【選定理由】

本種（亜種）は、国内に少数が渡来し、県内には1～2羽程度が渡来する。限られた湿地環境に渡来するなど、生息地が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

### 【概要】

全長約83cm。全身白く、しゃもじ形の嘴は黒く、上面に黄色部がある。クロツラヘラサギとは、目先の裸出部が狭く、目がはっきり見える点で識別できる。国内には、

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：情報不足（DD）

冬鳥または旅鳥として渡来し、干潟、水田、河川、湖沼などの湿地に生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として斐伊川や飯梨川、高津川の河口部などに渡来する。

### 【存続を脅かす原因】

湿地開発、河川改修などによる生息適地の減少など。

ペリカン目サギ科

## ササゴイ

*Butorides striata amurensis* (Schrenck, 1860)

### 【選定理由】

過去に繁殖していた場所で確認されなくなるなど、減少している可能性があるが、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

### 【概要】

国内には本亜種が夏鳥として九州以北に渡来する。九州南部から南西諸島では、越冬するものもいる。夕方から夜間にかけて盛んに活動するが、日中も活動する。水田や河川などの水辺で魚類や両生類、甲殻類などを捕食する。繁殖期には、水辺近くの雑木林、マツ、スギなど

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

の樹上に巣をつくる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

夏季に個体が確認されることがあるが少ない。以前、江津市で繁殖していた場所があったが、現在はなくなっている。

### 【存続を脅かす原因】

河川敷の工事や、水辺の樹林地の伐採などによる生息適地の減少など。

ツル目ツル科

## マナヅル

*Grus vipio* Pallas, 1811

### 【選定理由】

定期的な渡来地である鹿児島県などを除けば、本県は比較的渡来が多い県の一つである。新たな定期渡来地としての可能性もあるが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

### 【概要】

東シベリア南部、ロシア極東南部のハンカ湖とアムール川流域、中国東北部、モンゴル東北部で繁殖し、中国南東部の長江下流域、朝鮮半島、日本で越冬する。国内の定期的な渡来地は鹿児島県だけであり、出水地方には

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

総個体の約4割が渡来している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期に見られることが多く、単独または数羽のことが多い。出雲平野などで、まれに越冬する。

### 【存続を脅かす原因】

ねぐらや餌場環境の悪化、カメラマンによる追い回しなど。

ツル目ツル科

## ナベヅル

*Grus monacha* Temminck, 1835

### 【選定理由】

定期的な渡来地である鹿児島県や山口県を除けば、本県は比較的渡来が多い県の一つである。新たな定期渡来地としての可能性もあるが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

### 【概要】

ロシアのウスリー川東域からアムール川北側地域、中国北東部の一部などで繁殖し、国内には冬鳥として渡来する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期に見られることが多く、単独または数羽のことが多い。斐伊川河口部などでまれに越冬する。

### 【存続を脅かす原因】

ねぐらや餌場環境の悪化、カメラマンによる追い回しなど。

チドリ目セイタカシギ科

## セイタカシギ

*Himantopus himantopus himantopus* (Linnaeus, 1758)

### 【選定理由】

本種(亜種)の県内への渡来数は少なく、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

### 【概要】

全長約37cm。体の上面は緑色の光沢をした黒で、ほかは白い。長くてまっすぐな嘴と、非常に長い脚が特徴。本亜種は、国内に旅鳥として少数が渡来するほか、各地で繁殖が確認されているが局地的である。湿地で昆虫や甲殻類、小型の魚類などを食べる。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【県内での生息地域・生息環境】

旅鳥として水田や休耕田、河川の河口部や湖沼の浅瀬などの湿地に少数が渡来する。宍道湖、中海周辺の水田などで毎年1～数羽が見られる。2003年4月には宍道湖西岸で25羽の群れが観察されたことがある。

### 【存続を脅かす原因】

湿地環境の減少など。

チドリ目シギ科

## オオジシギ

*Gallinago hardwickii* (Gray, 1831)

### 【選定理由】

国内で繁殖する種で、生息地の減少などが危惧されている。中国地方で少数の繁殖例があり、県内でもその可能性があるが、ランクを判断するに足る情報が得られていない。広島県芸北町では繁殖が確認されていたが、近年は確認されなくなった。

### 【概要】

全長約30cm。タシギなどによく似ている。サハリンと日本列島で繁殖し、冬はオーストラリア東南部に渡る。繁殖期には、おもに本州中部の山地の草原、東北地方や

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

北海道の平地の草原に生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

おもに渡りの時期に、水田などの湿地で観察されている。三瓶山では、ディスプレイフライトが観察されたことがある。

### 【存続を脅かす原因】

生息適地の環境変化など。

チドリ目シギ科

## ホウロクシギ

*Numenius madagascariensis* (Linnaeus, 1766)

### 【選定理由】

国内では、おもに旅鳥として定期的に渡来するが、個体数は少ない。ランクを判断するに足る情報が得られていない。

### 【概要】

全長約61cm。長く下に湾曲した嘴が特徴。ダイシャクシギに似るが全体に褐色が濃く、腰と翼の下面が白くない。国内では、旅鳥として渡来し、海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地などで見られ、水田に入ることもある。長く湾曲した嘴を深く泥の中に差し込み、ゴカイ

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヤカニ類などを捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内には干潟のような環境がほとんどなく、渡来数は少ないが、旅鳥として春と秋に河口部の砂泥地や水田などで見られる。

### 【存続を脅かす原因】

乾田化をはじめとする湿地環境の減少など。

チドリ目カモメ科

## ズグロカモメ

*Larus saundersi* (Swinhoe, 1871)

### 【選定理由】

世界的にも局地的な分布をしており、個体数も限られている。県内では、冬季に少数が渡来するが、ランクを判断するに足る情報が得られていない。

### 【概要】

全長約32cm。中国の黄海沿岸や朝鮮半島北部の日本海沿岸などで繁殖し、おもに中国沿岸部や台湾、日本で越冬する。国内には、九州を中心に四国や本州西部、沖縄県などに冬鳥として渡来する。干潟や河口の水辺で魚やカニなどを捕食する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬季に斐伊川河口や飯梨川河口などで、1～数羽が観察されている。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修や開発などによる浅い水辺の減少、生息適地への頻繁な人の立ち入りなど。

チドリ目ウミスズメ科

## マダラウミスズメ

*Brachyramphus perdix* (Pallas, 1811)

### 【選定理由】

本種は冬鳥として県下の日本海域に渡来する。近年確認されることが少なくなっているが、ランクを判断するに足る情報が得られていない。

### 【概要】

全長24cmほどで、ウミスズメとほぼ同大。種としては、アリューシャン列島を中心に、東はカナダやアメリカの沿岸、西は日本沿岸に至る範囲に分布する。内陸部で樹上などに単独で営巣し、繁殖するといわれている。冬季、全国各地の沿岸海上などに南下し、魚類のほか甲殻類な

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

どを潜水して捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

日本海の海上や宍道湖・中海などで記録がある。半島部地先の海上や、隠岐航路の船上などで群れが観察される。

### 【存続を脅かす原因】

油の流出、魚網への絡まりなど。

チドリ目ウミスズメ科

## ウミスズメ

*Synthliboramphus antiquus* (Gmelin, 1789)

### 【選定理由】

冬鳥として県下の日本海域に渡来するが、近年確認されることが少なくなってきている。確認が難しく、ランクを判断するに足る情報が得られていない。

### 【概要】

全長25cmほどで、嘴が短くて太く、眼の上後方に白線がある。北太平洋、千島アリューシャン列島、北海道天売島などの断崖の岩の上や、岩の割れ目などで繁殖する。冬季、沿岸海上などに南下し、魚類のほか甲殻類などを潜水して捕食する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

### 【県内での生息地域・生息環境】

日本海の海上や宍道湖・中海などの湖上に渡来する。半島部地先の海上や、隠岐航路の船上などでまれに観察される。

### 【存続を脅かす原因】

油の流出や海洋汚染、魚網への絡まりなど。

チドリ目ウミスズメ科

## コウミスズメ

*Aethia pusilla* (Pallas, 1811)

### 【選定理由】

冬鳥として県下の日本海域に渡来することが分かっているが、その実態などは不明であり、ランクを判断するに足る情報が得られていない。

### 【概要】

全長15cmほどで、ウミスズメ類中もっとも小型の種。北方のチュコト半島、アリューシャン列島、プリビロフ諸島などで繁殖し、繁殖期以外はほとんど海上生活をしている。冬季、島根県沖の海上などに南下し、魚類のほか小型の甲殻類などを潜水して捕食する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

日本海の海上や宍道湖などに冬季、渡来する。隠岐航路の船上などから、海上に群れる姿が観察されることがある。

### 【存続を脅かす原因】

油の流出や海洋汚染、魚網への絡まりなど。

タカ目タカ科

## オオワシ

*Haliaeetus pelagicus* (Pallas, 1811)

### 【選定理由】

本種はまれに渡来するワシで、個体数も少ない。生息環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

### 【概要】

巨大な黄色の嘴がよく目立つ大型のワシで、翼開長は2.3mにも及ぶ。ロシアのオホーツク海周辺やカムチャッカ半島で繁殖し、北海道を中心に冬鳥として渡来する。海ワシの仲間、魚類を主食とするがカモ類なども捕食

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

する。北海道では、エゾジカの銃猟死体を食べて鉛中毒を起こし、問題となっている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖・中海周辺や海岸部、ダム湖などにまれな冬鳥として渡来する。

### 【存続を脅かす原因】

飛来する湖沼や海岸部の環境改変、カメラマンによる追い回しなど。

タカ目タカ科

## ツミ

*Accipiter gularis gularis* (Temminck et Schlegel, 1844)

### 【選定理由】

食物連鎖の頂点に位置するタカの1種で、その生息は生態系が豊かであることを証明する。県内で繁殖している可能性もあるが、ランクを判断するに足る情報が得られていない。

### 【概要】

オスは全長約27cm、メスは約30cm。日本のワシタカ類の内でもっとも小型である。国内では、本亜種が九州以北で繁殖するが、西日本では繁殖記録が少ない。平地から山地の林に生息する。おもに小鳥類を捕食するが、昆虫

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

虫や小型の哺乳類を捕食することもある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、少数ながら通年の観察例があり、繁殖の可能性もある。

### 【存続を脅かす原因】

森林の伐採や開発、林相変化などによる生息適地の減少など。

タカ目タカ科

## ハイタカ

*Accipiter nisus nisosimilis* (Tickell, 1833)

### 【選定理由】

食物連鎖の頂点に位置するタカの1種で、その生息は生態系が豊かであることを証明する。県内で繁殖している可能性もあるが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

### 【概要】

オスは全長約32cm、メスは約39cm。国内には本亜種がおもに本州中部以北で繁殖し、冬期は全国で見られる。平地から山地の林に生息し、秋冬には平野部の農耕地やヨシ原にも現れる。おもに小鳥類を捕食するが、小型の

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

哺乳類も捕らえることがある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬季に平地や農耕地などで観察されることが多い。夏季に山地などで観察例があり、繁殖の可能性もある。

### 【存続を脅かす原因】

森林の伐採や開発、林相変化などによる生息適地の減少など。

タカ目タカ科

## イヌワシ

*Aquila chrysaetos japonica* Severtzov, 1888

### 【選定理由】

県内では、ごくまれに観察されることがある。繁殖環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

### 【概要】

オスの全長は約82cm、メスは約89cm。本亜種は、日本および朝鮮半島に分布する。国内では、九州以北の山岳地帯に留鳥として生息しており、広い行動圏を持つ。個体数は少ない。主としてノウサギなどの哺乳類や鳥類、

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

爬虫類、両生類を捕食する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

迷行または通過の可能性も含め、中国山地の県境付近などでごくまれに観察される。過去に営巣していたとされる記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息適地の減少や生息地への人の接近など。

ハヤブサ目ハヤブサ科

## コチョウゲンボウ

*Falco columbarius insignis* (Clark, 1907)

### 【選定理由】

県内には冬鳥として渡来するが、個体数は少なく、生息環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

### 【概要】

オスは全長約28cm、メスは約32cm。コチョウゲンボウより小さい。国内には、冬鳥として広い農耕地、干拓地、河川の草原など開けた場所に生息するが少ない。スピードのある飛翔でも小鳥類を捕食するが、ネズミ類や

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

昆虫、カエルなども捕る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として、農耕地や河川敷などで見られるが、コチョウゲンボウよりも個体数は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

農耕地の改変や、河川改修などによる生息適地の減少など。

スズメ目サンショウクイ科

## サンショウクイ

*Pericrocotus divaricatus divaricatus* (Raffles, 1822)

### 【選定理由】

渡りや繁殖状況、生息環境ごとの個体数の変化などの詳しいデータが不足しており、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

### 【概要】

国内には2亜種が知られており、別亜種のリウキュウサンショウクイは、屋久島や南西諸島に留鳥として分布する。本亜種は、本州以南に夏鳥として渡来し、おもに山地の雑木林や広葉樹林に生息する。高い木のある広葉樹林に多く、樹林の上層部で活動し、繁殖期の初めを

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 II類 (VU)

除いてあまり下層部へは降りてこない。「ヒリヒリッ ヒリヒリッ」と、特徴のある声で鳴く。

### 【県内での生息地域・生息環境】

夏鳥として渡来し、おもに山地の広葉樹林などに生息する。

### 【存続を脅かす原因】

森林の伐採や、林相の変化などによる生息適地の減少など。

スズメ目カササギヒタキ科

## サンコウチョウ

*Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (Eyton, 1839)

### 【選定理由】

本種（亜種）は、近年観察される機会が多く、増加してきた可能性があるが、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

### 【概要】

オスは全長約45cm、メスは約18cm。ただし、オスの全長には、非常に長い尾が含まれる。国内には、夏鳥として渡来し、平地から低山の林に生息する。林床の比較的開けた広葉樹林や、スギ・ヒノキの植林地などの環境を好む。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

夏鳥として渡来し、低山地から中国山地にかけて比較的広く分布する。里山のスギ林などで観察されることも少なくない。

### 【存続を脅かす原因】

山地の開発や伐採などによる生息適地の減少、越冬地の環境悪化など。

スズメ目モズ科

## アカモズ

*Lanius cristatus* Linnaeus, 1758

### 【選定理由】

近年、国内各地で生息数が減少しているとされる。県内では亜種シマアカモズの繁殖記録があり、貴重な例といえる。本種の現在の生息状況は十分に把握されておらず、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

### 【概要】

亜種アカモズは国内では夏鳥として北海道、本州、四国で繁殖し、亜種シマアカモズはおもに九州南部や南西諸島で繁殖する。本種は平地から山地の明るい林や低木のある草原などに生息する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

### 【県内での生息地域・生息環境】

亜種アカモズは、まれに観察される。亜種シマアカモズは大社町で繁殖記録があるほか、三瓶山で観察例がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息適地の環境変化など。

スズメ目ツバメ科

## コシアカツバメ

*Hirundo daurica japonica* Temminck et Schlegel, 1845

### 【選定理由】

本種（亜種）は、夏鳥として県内に渡来するが、近年減少傾向にある。しかし、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

### 【概要】

全長19cm。ツバメよりもやや大きく、雌雄同色。頭から背は光沢のある紺色。目の後ろから後ろ首が赤茶色で、腰の橙色が名前の由来となっている。喉から腹までは、ごく薄い茶色で黒褐色の縦斑がある。国内には、夏鳥として渡来し、海岸から市街地の開けたところや農耕地、

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

丘陵地などに生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内に広く見られるが、営巣しているところは多くない。学校や庁舎などの大きなコンクリート製の建物に営巣していることが多い。

### 【存続を脅かす原因】

建造物の営巣に対する人為的な攪乱のほか、越冬地での環境改変など。

写真 口絵6

スズメ目ヨシキリ科

## コヨシキリ

*Acrocephalus bistrigiceps bistrigiceps* Swinhoe, 1860

### 【選定理由】

本種（亜種）は、おもに本州中部以北の草原で繁殖し、県内でも繁殖が確認されている。しかし、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

### 【概要】

全長13cm前後で、スズメより小さい。国内には夏鳥として渡来し、普通は本州中部以北の草原で繁殖する。オオヨシキリと同じような環境に生息するが、オオヨシキリが草丈の高い密生したヨシ原で繁殖するのに対し、より草丈の低い草原に営巣する傾向がある。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

旅鳥として渡来するが、一部繁殖する個体も見られる。斐伊川河口部の河川敷の草原で繁殖した事例などがある。

### 【存続を脅かす原因】

草原の消滅、人の立ち入りなど。

スズメ目ムクドリ科

## ホシムクドリ

*Sturnus vulgaris poltaratskyi* Finsch, 1878

### 【選定理由】

本種（亜種）は、国内では数少ない冬鳥または迷鳥とされるが、県内には定期的に個体群が越冬している。しかし、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

### 【概要】

全長22cm。ムクドリよりわずかに小さい。緑や紫色の光沢のある黒い体に黄白色の斑点が密にあることが特徴。国内では、本亜種が数少ない冬鳥としておもに西南日本に渡来し、農耕地などに生息する。ムクドリの群れ

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

の中に混じっていることが多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

飯梨川河口付近の農耕地に、10～20羽前後が越冬している。最近は、宍道湖西岸域でも秋冬に群れが観察されることがある。

### 【存続を脅かす原因】

農耕地における生息に適した環境の減少など。

スズメ目ヒタキ科

## コルリ

*Luscinia cyane bochaiensis* (Shulpin, 1928)

### 【選定理由】

県内で繁殖している可能性が高いが、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。生息（繁殖）地が限られており、存続基盤は脆弱である。

### 【概要】

国内では主として本州中部以北で繁殖し、西日本での繁殖個体数は少ない。広島県や鳥取県では繁殖が確認されており、岡山県、山口県でも夏季にさえずりが確認される。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵6

### 【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期に、低山の林などで観察されるほか、夏季に中国山地の標高1,000m前後のササ藪のあるブナ林などで複数のさえずりが確認されており、繁殖の可能性が高い。

### 【存続を脅かす原因】

繁殖に適した森林環境の改変など。

スズメ目ヒタキ科

## ノビタキ

*Saxicola torquatus stejnegeri* (Parrot, 1908)

### 【選定理由】

本種（亜種）は、おもに本州中部以北に夏鳥として渡来する。県内でも繁殖記録があるが、繁殖地が局在し、現在の繁殖状況もよく分かっていないため、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

### 【概要】

全長約13cm。国内では本州中部以北に夏鳥として渡来し、北海道では平地の草原、本州では山地の高原などに生息する。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期に、平野部の草地や農耕地で通過個体が見られる。三瓶山や弥栄村の草原で繁殖の記録があるが、その後の状況や他地域の生息状況は十分に把握されていない。

### 【存続を脅かす原因】

繁殖適地の環境変化など。

スズメ目ヒタキ科

## コサメビタキ

*Muscicapa dauurica dauurica* Pallas, 1811

### 【選定理由】

本種（亜種）は、夏鳥として県内に渡来するが、近年は繁殖記録のみならず、観察例も減少している。しかし、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

### 【概要】

全長13cm。国内では、北海道から九州までの全国各地に夏鳥として渡来して繁殖する。平地から標高1,000m程度まで分布し、落葉広葉樹林、雑木林、カラマツやスギ、ヒノキなどの人工林などに営巣する。木の枝にコケ

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵6

などで皿状の巣をつくる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

夏鳥として山間部などに渡来する。密生した林より明るい林を好む。比較的大きな樹木がある公園で営巣した例もある。

### 【存続を脅かす原因】

繁殖に適した森林環境の改変など。

スズメ目ホオジロ科

# クロジ

*Emberiza variabilis* Temminck, 1836

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵6

### 【選定理由】

本種（亜種）は、県内の中国山地で繁殖している可能性が高いが、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

### 【概要】

繁殖分布はカムチャッカ半島、サハリン、日本で、ユーラシア大陸東部のごく限られた地域。国内では、おもに本州中部以北で繁殖するが、広島県で繁殖が確認されており、鳥取県で営巣の確認例がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期や越冬期には、平地や低山でも少数が観察される。夏季に、標高1,000m前後のササ藪のあるブナ林や広葉樹林などの複数の場所で、複数のさえずりが確認されており、近隣県の生息状況からみて繁殖の可能性が高い。

### 【存続を脅かす原因】

繁殖に適した森林環境の改変など。



## 1. 両生類

島根県は、現在までに22種の生息が確認されている。有尾目はサンショウウオ科5種、オオサンショウウオ科1種、イモリ科1種の計7種、無尾目はヒキガエル科2種、アマガエル科1種、アカガエル科9種、アオガエル科3種の計15種である。

県内における分布の特徴は、豊かな自然を反映して海岸部から平野部、中国山地の険しい渓流域や森林の林床まで、多くの種類に恵まれている事である。平野部から中山間地にかけてはトノサマガエル、ヌマガエル、ツチガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、ウシガエル、アカハライモリが見られ、さらに山地にかけてはニホンヒキガエル、ヤマアカガエル、タゴガエル、モリアオガエル、カスミサンショウウオ、山地の中流から上流域の小河川などにはカジカガエルやオオサンショウウオ、渓流域にはナガレタゴガエル、ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオが生息している。隠岐諸島には、固有種であるオキサンショウウオとオキタゴガエルが2種生息しているが、どちらかというとも平地よりも高地に生息するサンショウウオやタゴガエルの仲間が平地にも生息していることは大変興味深い。

両生類の卵塊はゼリー状でブヨブヨしており乾燥に弱く、産卵場所は必ず水の中で行う。平野部から中山間地、山地にかけては流れのない平地の溜まった水場である水田や池、山地の中流域から上流域では水の清らかな溪流や小河川が産卵場となり、孵化後も水中で生活し、オタマジャクシから変態して成体になってはじめて陸地に生息する。モリアオガエルやシュレーゲルアオガエルは例外で、池の水際の樹上や水田の畦道の土手等に卵塊は産み付けられるが、孵化したオタマジャクシ（幼生）は、水中でないと生きていけない。両生類は産卵場所である水場が失われると繁殖が出来なくなり、絶滅の危機に瀕する動物である。それぞれの動物はお互いに生息環境や産卵活動が競合しないように、環境に適応し上手く棲み分けて生活しており、生息域でのバランスの変化はその環境に適応していた複数の種の絶滅をも意味することになる。

近年、島根県の豊かな自然にも少し翳りが見えてきたように思える現象がある。国の特別天然記念物であるオオサンショウウオの幼生の生息数がきわめて少なくなってきた。中型から大型のオオサンショウウオは自然環境の変化に対応できる能力を十分有しており、人工的

な池や水槽内でも長期間生活できるが、清楚な清流域で成長する幼生や小型のオオサンショウウオの発見例が年々減少していることは大変気になる事である。幼生の生活環は不明な点が多く、次世代を担う幼生の激減は、将来オオサンショウウオの絶滅が予想されるだけに事は重大である。いろいろな要因が考えられるが、産卵床である上流域の岸や岩の下の穴が砂で埋没して、産卵できない状況が生じている。原因は、大雨等による直接的な上流域の環境破壊ばかりでなく、山を構成する森林相や源流のさまざまな要因による水量の変化が重なって起こっていると推察している。特に、産卵場である河川の上流域から小渓流域の自然環境の悪化が懸念される。

環境省第4次レッドリスト（2012）によると掲載種数は43種、内訳は絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類22種、準絶滅危惧20種、情報不足1種である。有尾目はハコネサンショウウオ属以外の全種23種（掲載種全体の54%）、南西諸島固有種15種（同35%）、隠岐・対馬固有種4種（同10%）を占め、他はダルマガエル2種とトノサマガエルである。島根県に生息する両生類は、絶滅危惧種（オキサンショウウオ、カスミサンショウウオ、オオサンショウウオ）、準絶滅危惧種（ヒダサンショウウオ、ブチサンショウウオ、アカハライモリ、オキタゴガエル、トノサマガエル）である。

今回のしまねレッドデータブックの改訂にあたり、環境省のレッドリストを参考としながらも、島根県の豊かな自然の維持を願うとともに、未来にわたって人と生物の共存を意識した選定を行った。特に各地域や地形に応じて、産卵場となる水場における代表種を9種、隠岐島固有種のオキサンショウウオは絶滅危惧種、オキタゴガエルは準絶滅危惧種とするとともに、新たにカスミサンショウウオを準絶滅危惧種として計11種を掲載した。

人が多く住む平野部から山地の中流域にかけては、一昔前は水田地の農薬使用、コンクリート製側溝によるエサとなる昆虫の減少による要因が大きかったが、近年では都市開発に伴う、道路整備（車道・歩道・自転車道）、宅地の造成、公園整備等の公共事業によって小河川や溜池の形状が変化し、産卵場が減少することで影響を受ける種として、カスミサンショウウオ、モリアオガエル、カジカガエル、タゴガエルを選定した。

一方、山地の上流から渓流域では、局地的な自然災害による渓流域および河川の流失による改修工事、防災事業、林道や農道、森林部の公園整備等によって生息環境の変化の影響を直接受けて、今後減少していく要素を多分に持っているとして、分布域が非常に限られているオオサンショウウオ、ナガレタゴガエル、ブチサンショウ

ウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオを選定した。

大規模なダムや道路、公園等の建設は、必ず環境アセスメント調査が義務づけられており、その地域での生息調査が行われるとともに今後の影響が議論される仕組みがあるが、都市部における小規模な整備事業は、そこにどんな生物が生きているかさえ調査することもなく、工事が行われているのが実情である。それまで普通種とされていたようなカスミサンショウウオやトノサマガエル、ヌマガエル等の鳥根県ではどこにも生息している種でさえ減少してきている実情を考えると、今後はこれらの動物に自然を見張ってもらう事も考える時期に来ているかも知れない。

両生類は生息域の環境変化に対応するのが下手で、鳥のように変化を察知して飛んで移動することもできずに細々と生き続けるしかなく、絶滅する危険性に常にさらされている事を考慮していくべきである。

## 2. 爬虫類

本県では、現在までに15種の生息が確認されている。カメ目はイシガメ科2種、ヌマガメ科1種、スッポン科1種の計4種、トカゲ亜目はヤモリ科1種、トカゲ科1種、カナヘビ科1種の計3種、ヘビ亜目はタカチホヘビ科1種、ナミヘビ科6種、クサリヘビ科1種の計8種である。

県内における分布の特徴は、両生類と同様に豊かな自然を反映して多くの種類に恵まれている事である。カメ目では、クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンスッポンが生息している。アカミミガメは、アメリカ南部からペットとして輸入された子供たちに人気のあるミドリガメ（愛称名）で、成長して大型化したことで、脱走または放棄されて野生化しており、住宅地の多い河川では、かなり広範囲に分布している。水の都と呼ばれ松江地区の松江城のお堀、堀川にはアカミミガメが高密度に生息している。最近全国的に騒がれているカミツキガメなどの凶暴なカメの分布については、県内での確認はほとんどないが、まれに外来種の捕獲例が散見される。

外来動物であるミシシippアカミミガメは、非常に大型となり甲羅長が50cmに達する個体もいる。食欲は旺盛で繁殖力も強く、汚染された水質でも生存可能であることから、その生息範囲は急速に拡大している。ニホンイシガメやクサガメと生息域が重なることから、これら日本固有種の減少が問題になっている。県の許可（特別採捕願）を頂いてカニカゴによる捕獲調査を行った結果では、ミシシippアカミミガメ：ニホンイシガメ：クサガメの割合は50：1：1で、ミシシippアカミミガメが圧倒していた。ニホンイシガメ、クサガメは、河川改修などによって分布域が狭くなっていることに加え、外来種の影響を強く受けていることで加速度的に減少していると考えられる。またニホンスッポンは、県内での生息状

態は不明で、今後詳しい生息調査が必要であると考えている。

トカゲ亜目は、ニホンヤモリ、ニホントカゲが平野部の人家近くに比較的多く生息している。ニホンカナヘビはどちらかというと山間部に生息し、低山地では良く見かけることが出来る。

ヘビ亜目は、タカチホヘビ、ジムグリ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ニホンマムシが生息している。平野部から低山地にかけての人家の近くでは、シマヘビ、シロマダラ、水田ではヤマカガシ、山間部では、アオダイショウ、ヒバカリ、ジムグリ、ニホンマムシ、タカチホヘビが生息している。シマヘビ、ヤマカガシは良く見かけるが、シロマダラやタカチホヘビは夜行性で特有の食性や生息環境を有し、生息数も少ないと考えられ目撃例は少ない。

環境省第4次レッドリスト（2012）によると掲載種数は56種、内訳は絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類36種、準絶滅危惧17種、情報不足3種である。南西諸島固有種42種（掲載種全体の75%）、対馬、南鳥島、男女群島等の固有種8種（同15%）、ウミガメ3種（同5%）を占め、他はニホンイシガメ、タワヤモリ、ニホンスッポンの3種（同5%）である。今回の変更点として、ニホンイシガメは準絶滅危惧種にランク変更。情報不足にニホンスッポンが選定されている。本県に生息する爬虫類は、準絶滅危惧種（ニホンイシガメ）と情報不足種（ニホンスッポン）である。

今回のしまねレッドデータブックの改訂にあたり、両生類と同様に本県の豊かな自然の維持を願うとともに、未来にわたって人と生物の共存を意識した選定を行った。特に爬虫類は、ミミズや両生類、爬虫類、ねずみ等の小型哺乳類をエサとしているため、これらの動物の減少にともなって、年々発見報告例が減少していることを考慮して、平野部と山間部における代表種を掲載した。

平野部から山間地にかけての比較的人家の近くに生息する種としてシロマダラを選定した。シロマダラは、ニホントカゲやニホンカナヘビを捕食する特有の食性を示している。近年、住宅地周囲のコンクリート化やアスファルト化によって石垣や土砂地が減少し、エサとなるこれらの爬虫類の生息地が狭小化したことで、平野部と山間部との境界地域で細々と生きているのが現状である。今後減少していく要素を多分に持っていると推察して選定した。

山間部の代表種としてタカチホヘビ、ジムグリ、ヒバカリを選定した。タカチホヘビは、夜行性で土中に生息しており、環境に対する選択性が強く分布域も限られていることから目撃例も少ない希少種と考えられる。ジムグリは、森林地の代表種で高温環境に弱い特有の習性がある。ヒバカリは、山地の水田周辺に生息する代表種である。ともに局地的な自然災害による改修工事および防災事業、林道や農道、森林部の公園整備等による生息環境の変化の影響を強く受ける可能性が高く、今後減少していく要素を多分に持っていると推察して選定した。

爬虫類の生息分布域は、エサとなる両生類などの影響

を強く受ける可能性が高く、両生類と同様に絶滅する危険性に常にさらされている事を考慮していくべきである。都市部における小規模な整備事業等によって生息地が減少し、それまで普通種とされていたようなニホン

イシガメ、ニホントカゲでさえ目撃例が少なくなっている実情を考えると、継続的にこれらの動物を見守っていく必要があると思われた。

(秋吉英雄)

## 両生類・爬虫類掲載種一覧

計15種

### 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- ・ オオサンショウウオ
- ・ オキサンショウウオ

計2種

### 準絶滅危惧 (NT)

- |              |             |             |
|--------------|-------------|-------------|
| ○ カスミサンショウウオ | ・ ブチサンショウウオ | ・ ヒダサンショウウオ |
| ・ ハコネサンショウウオ | ・ タゴガエル     | ↓ オキタゴガエル   |
| ・ モリアオガエル    | ・ カジカガエル    | ・ ジムグリ      |
| ・ ヒバカリ       | ・ シロマダラ     | ・ タカチホヘビ    |

計12種

### 情報不足 (DD)

- ナガレタゴガエル

計1種

#### 【記号説明】

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (12種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (1種)
- : 新規掲載種 (2種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)

有尾目（サンショウウオ目）オオサンショウウオ科

# オオサンショウウオ

*Andrias japonicus* (Temminck, 1837)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵7

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

国の天然記念物に指定されており、学問的価値が高い。西日本の山地にのみ生息し、河川改修工事などにより生息環境が良好とは言えなくなっている。生息地が減少すると同時に、生息地での分布密度が次第に低下していると思われる。

## 【概要】

体長は50-70cm、体重は2-5kg位のもがよく発見されるが、中には体長150cm、体重30kgになる個体もある。体型は平べったい頭部と大きな尾が特徴で、体色は全身が茶色で、背側と尾に不規則な形の黒斑が点在する。この黒斑は個体によって異なっており、個体識別の手がかりとなる。目は非常に小さく、黒斑にまぎれて見つけにくい。成体は一生を水中で生活しており、昼間は穴に潜み、夜間に流れの緩い部分に出て、魚、サワガニ、カエルなど、目の前で動くものを何でも捕食する。雌雄とも体長40-50cmで性的に成熟し、繁殖活動を行う。産卵は

8-9月にかけて河川上流部の岸の横穴や大石の下などで行われ、1頭のメスは数珠状に連なった卵を400-500個産卵する。孵化した幼生は体長30mm程度で、黒っぽい体色をしている。外鰓が取れて変態を完了するまでには約3年かかる。

## 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地よりの河川に多く生息することが確認されている。河川の岩穴や石の下に潜んでおり、産卵期には上流域へと上って、石の下などで産卵する。

## 【存続を脅かす原因】

生息域および産卵域における水質汚濁、河川改修工事、砂防ダムの建設工事などの開発事業による生息環境の悪化。特に、土木建設工事関連事業による砂泥流出は、産卵床の埋没を引き起こし致命的である。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○					○										

有尾目（サンショウウオ目）オオサンショウウオ科

# オキサンショウウオ

*Hynobius okiensis* Sato, 1940

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵7

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

隠岐（島後）においては、昭和初期からおもに始まった山地の広葉樹から針葉樹への林業樹種転換作業は、戦後さらに増加し、本種の生息環境を悪化させた。さらに山奥での土木工事等による水系の破壊は、幼生の生育環境を悪化させ、本種に激減させる要因を与えた。

## 【概要】

成体の全長は約13cm、体色に黄味がかった斑紋が出る個体もいるが、ほぼ黒色の個体もいる。本種は前後肢を体側で合わせると、重なり合うことや、卵の色が淡緑白色である点などが異なっている。産卵は早春で、親は冬眠前に溪流の源流近くに集まっている。冬眠を終えると伏流水の中や溪流の岩の下などに産卵する。卵のうはバナナを長くしたような形で、外皮は丈夫である。早春にふ化した幼生は翌年の夏ごろに変態し、水中生活から陸上生活になる。親は溪流からかなり離れた山地までも移動するほど活発な行動力を持っており、夜間の運動量は

昼間の行動量からは考えられないほど大きい。

## 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の溪流から山地にかけて生息。山地に棲む流水性の種類のサンショウウオだが、海岸近くから高地まで広く分布している。

## 【存続を脅かす原因】

隠岐（島後）では常に一定の水量を保っている河川が少なくなってきた。本種の幼生にとっては安定した水量が年間を通してあることが生存の絶対条件でもあるが、夏などに完全に水の無くなる現象が見られる小川が増えてきている。また、親にとっては樹間の落ち葉の下や林間の岩の陰、砂礫の間など乾燥し過ぎない場所が必要であるが必ずしも多いとはいえない。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎			◎														

有尾目 (サンショウウオ目) サンショウウオ科

# カスミサンショウウオ

*Hynobius nebulosus* (Schlegel, 1838)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵7

### 【選定理由】

平野部の低山縁地から山地の渓流域にかけて広範囲に生息しており、近年沿岸部における道路建設、整備事業等により生息地が急ピッチに減少、この地域における個体数の激減が進行していることから絶滅が危惧される。

### 【概要】

全長は7-11cm前後で他のサンショウウオにくらべ小型である。体色は黄褐色、暗褐色、灰褐色と地域によって変異が見られる。低山に生息する低地型と標高の高い山地に見られる高地型があり、低地型は尾の上下に黄色の条線が見られるが高地型は不明瞭である。産卵期は12月から3月頃までと長く、低地型と高地型で時期が異なる。卵嚢は1対

でバナナ状または小さく巻いたひも状で透明である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

低地型は県内全域の標高30m前後の山縁部の低山地を中心に見られ、高地型は中山間地の里地から中国山脈の森林域にかけての標高400m以上を中心として生息している。産卵は沿岸部では山縁部側の湧水地や流れのゆるやかな小川等、高地型は湧水地の水溜まり等で行われるが、産卵時期以外は山地の湿地部に生息している。

### 【存続を脅かす原因】

沿岸部低山地の道路建設、宅地造成等の環境整備や中山間地の環境整備による森林伐採、道路建設等による産卵場所や生息地の消失。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎						◎		○			◎	◎		○			◎				

有尾目 (サンショウウオ目) サンショウウオ科

# ブチサンショウウオ

*Hynobius naevius* (Schlegel, 1838)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵7

### 【選定理由】

本種は溪流性で、標高の比較的高い森林地に多く見られる。道路建設や公園整備などの工事による生息環境の悪化や生息地の狭小化や個体数の減少。

### 【概要】

全長は8-15cmほどで、多くは地色が青みを帯びた暗褐色で白色ないし灰白色の不規則な斑紋を持っている。腹面にも地衣状斑がある。産卵は伏流水中に行い、丸く巻いた透明でやや青みを帯びた卵嚢の中に、10-20個ほどの卵を産む。幼生は爪が無いが、流水性であり越冬す

る事がある。カスミサンショウウオの高地型に外観はよく似る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

里地から山地にかけて県内の分布は広い。溪流付近の森林に多く見られる。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採や溪流の水を涸れさせてしまうような林道建設、局地的な自然災害による復旧工事、防災工事等。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		◎				◎					◎										

有尾目 (サンショウウオ目) サンショウウオ科

# ヒダサンショウウオ

*Hynobius kimurae* Dunn, 1923

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵7

### 【選定理由】

比較的高い溪流付近に生息地が限られている。山林伐採などによって生息環境が悪化することで生息地が狭小化し、個体数が減少してきている。

### 【概要】

全長は8-17cm、尾は棒状で、体色は全身が褐色で腹側には斑紋がなく、背側に不規則な形の橙黄色の斑紋がある。産卵は溪流の岩の下に丈夫な膜に包まれた卵塊を、1-3月にかけて産む。幼生は溪流にすみ、平衡棒が無いことから、流水性のサンショウウオである事が分かる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では山地に生息している。標高が高いところに多いと思われるが、低くても北側の斜面など気温や水温等の条件によっては生息しており、分布域も広い。

### 【存続を脅かす原因】

標高の低い溪流から高い渓谷にかけて発見例があることから、森林伐採や溪流の水を涸れさせてしまうような林道建設、局地的な自然災害による復旧工事、防災工事等。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		◎				◎					◎										

両生類 爬虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

有尾目（サンショウウオ目）サンショウウオ科

# ハコネサンショウウオ

*Onychodactylus japonicus* (Houttuyn, 1782)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

中国山地の標高の高い森林地の渓流域に生息するが、生息環境の悪化によって生息域が狭小化し、個体数も減少している。

### 【概要】

全長は11－19cmほどでスマートな体型をしているので、他の小型サンショウウオよりも小さく見える。体色は紫褐色で背側の中央部から尾の先まで朱色の縦帯があり、小さな斑紋が背側に見られる。産卵期は5～6月、半透明な丈夫な卵囊を流水中の岩に附着させる。幼生は3年以上かけて成体になる。溪流性のため足指に爪を

持っている。幼生期は外鰓により呼吸するが、成体は肺が発達していないため、主として皮膚呼吸に頼る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

自然度の高い山地の源流付近の森林の溪流に見られる。水質が清楚な溪流に産卵し、幼生は溪流域を生育地として成長する。

### 【存続を脅かす原因】

生息域および産卵域の森林伐採や溪流の水を涸れさせてしまうような林道建設、局地的な自然災害による復旧工事、防災工事等。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		◎																	

無尾目（カエル目）アカガエル科

# タゴガエル

*Rana tagoi tagoi* Okada, 1928

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種は標高の高い林床域や溪流域に多く生息しており、ニホンアカガエルやヤマアカガエルなどと比べて、生息域が狭いため、環境の変化による影響を受けやすい。山間部の林道や農道などの道路工事によって、生息地が減少してきている。

### 【概要】

体長はメスで6cm、オスは5－6cmほどで、体色は背側が黒褐色から赤茶色、腹側は雲斑状を呈している。繁殖期は3～7月で、溪流沿いの伏流水や岩の下などに、

卵黄が豊富な白く大型の卵を少数産みつける。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内に広く分布している。本種は他のアカガエルとは異なり、標高の高い溪流域に多く生息して繁殖を行っており、山地では水田近くまで降りてきていることもある。

### 【存続を脅かす原因】

生息域および産卵場所となる領域の森林伐採、水田地の道路建設などによる環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		○				◎	◎				◎								

無尾目（カエル目）アカガエル科

# オキタゴガエル

*Rana tagoi okiensis* Daito, 1969

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵7

### 【選定理由】

分布域の一部で生息条件が悪化しているため。具体的には溪流保全工（護岸工・落差工事）をはじめとする環境破壊の影響を考慮した。

### 【概要】

成体は背側隆起が鼓膜の後方で曲がり、前後指趾端が膨らむほか、後肢の水かきの発達が悪い。吻端は円く終わり、喉部に多数の黒色細密斑紋を有する。全長は53mmに達する。溪流近傍の冷涼多湿な林床に隠遁し、土壤動物等を捕食する。繁殖期は早春から春暖季までの間で、溪流沿いの伏流水中に産卵する。卵塊は球状である。卵

は径がやや大きくて卵黄に富む。水中で卵黄を消費する幼生期間は黒色素が少ないほか、口器が小さくて尾がかなり長い。日本固有種のタゴガエルの隠岐産亜種である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島後および西ノ島の、低地帯および山地帯に生息する。各地の環境は天然林、または中低木や草本を有する一部の人工林に覆われた谷間で清冽な流水を有する。

### 【存続を脅かす原因】

砂防施設、森林皆伐、道路建設、ダム開発および河川改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎				◎	◎												

無尾目（カエル目）アオガエル科

# モリアオガエル

*Rhacophorus arboreus* (Okada et Kawano, 1924)

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

沿岸部における道路建設等の都市整備によって、産卵に適した湖沼が減少していることから、個体数の減少がある。

### 【概要】

体長はメスで9 cm、オスで7 cm、体色は背側で緑色、腹側は薄黄色をしているが、場合により青緑色から灰褐色まで変化する。手足には吸盤が付いており、コナラ、ミズナラ、ブナなどの広葉樹の樹上で生活するのに都合が良い。産卵は5～7月にかけて淡黄色の泡に包まれた

卵塊を、池や水田などの水面に張り出した樹木の小枝に産みつける。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平野部から里地、山地にかけて、県内では比較的広い範囲に分布しており、条件の良い産卵地では数十個の卵塊が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

平地における土地造成、ほ場整備や産卵場所である池沼の公園整備などによる環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				◎					○								

無尾目（カエル目）アオガエル科

# カジカガエル

*Buergeria buergeri* (Temminck et Schlegel, 1838)

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

自然度の高い清澄な河川を生息域としているため、河川の汚染度を測る指標動物になる。生息環境の悪化による生息地の減少傾向がある。

### 【概要】

体長はメスで7 cm、オスは4 cmで、体型は平べったく、背側が灰褐色で黒褐色の斑点や縞模様があり、腹側は灰白色である。繁殖期は5～8月頃にオスの鳴き声が聞こえ、産卵は6～7月にかけて行われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市の猪目川や鱒淵寺の付近では、地元の小学生が定期的に観察・研究している事は有名だが、県内全域の山地の清流域や溪流に広く分布している。

### 【存続を脅かす原因】

中山間地を流れる河川における水質汚濁や河川改修工事による生息環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎				○		○				◎					○					

トカゲ目ナミヘビ科

# ジムグリ

*Elaphe conspicillata* (Boie, 1826)

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

高温が苦手な、おもに山地の森林域に生息しているので生息域が限られている。林道などの道路工事や開発などによって、生息地である森林地が減少してきていると思われる。

### 【概要】

全長は70–100cmで、背面は赤茶色の地に黒褐色の斑点が散在し、腹面には黒い角ばった市松模様が見られる。森林性で地中の穴に潜りやすく、やや低温を好むことから、夏の高温には弱い。8月ごろに孵化した幼蛇は、体

色が成蛇よりも鮮やかである。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、中国山地を中心とした山地や里地に生息しているが、目撃例が意外と少なく、移動範囲が狭く、ごく限られた領域に生息していると思われる。

### 【存続を脅かす原因】

里地の土地開発および山地における森林伐採、林道建設などによる森林環境の悪化、および餌となる生物の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			◎													

両生類・爬虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トカゲ目ナミヘビ科

# ヒバカリ

*Natrix vibakari* (Boie, 1826)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

おもに山地やその周辺の水田などで普通に見られる種であったが、最近では減少してきている。また、水田や山地などの環境の変化によって、餌となる動物が減少してきていることから、本種の減少も多大に考えられる。

### 【概要】

全長が40–60cmの小型のヘビで、背面は褐色または茶褐色、口角から頸部にかけて斜めに淡黄色の帯が入る。腹面は黄白色で、その両端には暗色の点刻がある。おもにカエルやオタマジャクシ、ドジョウなどの小魚、ミミズを食べており、森林や草原、水田や湿地などで生息し

ている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内には広く分布しており、山地付近の水場には餌を食べに来た個体を容易に見つける事が出来たが、最近では土地開発や道路工事などで生息環境が変化し、個体数が減ってきていると思われる。

### 【存続を脅かす原因】

里地から山地にかけての土地開発および山地における森林伐採、林道建設などによる環境の悪化、および餌となる生物の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			○	○	◎											

トカゲ目ヘビ科

# シロマダラ

*Dinodon orientalis* (Hilgendorf, 1880)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵7

### 【選定理由】

全国的に個体数は少ない種で、さまざまな土地開発などによる影響を強く受け、生息域の環境悪化によって、県内でも個体数が減少してきている。

### 【概要】

全長は30–70cmと小型のヘビで、背面は灰色もしくは白褐色で黒い黄帯がバンド状にはいる。夜行性で、トカゲやヘビなどをおもに食べる。捕らえようとすると威嚇した後に擬死を行うことが特徴的である。活動する時間帯は狭いが、山地から平地まで、さまざまな環境に生息

している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では隠岐（島後）をはじめとして、平野部から里地、山地まで広く分布していると思われるが、比較的個体数は少ないことから、目撃報告は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

住宅地周囲のコンクリート化やアスファルト化、ほ場整備、道路建設、公園整備などによる生息域の環境悪化、および餌となる生物の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			◎	○	◎			○	○	○						

トカゲ目ナミヘビ科

# タカチホヘビ

*Achalinus spinalis* Peters, 1869

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

全国的に個体数は少ない種で、土地開発などによる生息域の環境の変化を受けやすく、県内での分布も減少してきている。

### 【概要】

全長は30–60cmと小型で、幼蛇は全身が黒っぽく、成熟すると褐色から紫がかかった褐色となる。背中線上の黒いラインがはっきりと尾端まで入っている。夜行性でジムグリと同様に地中を這い、ミミズをおもに食べている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内は、山地の広い範囲で生息していると思われるが、個体数は少なく、夜行性で地中生活する特異な習性のため人の目に触れる機会は少なく、不明な点が多い。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採や溪流の水を涸れさせてしまうような林道建設、局地的な自然災害による復旧工事、防災工事等による生息域の環境悪化、および餌となる生物の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		◎	○		◎	◎	○			◎									



無尾目（カエル目）アカガエル科

# ナガレタゴガエル

*Rana sakurai* Matsui et Matsui, 1990

## 【選定理由】

生息地が局限しているが、十分な情報を得ていないため。県内初記録からこれまでの間の発見個体数が少数であることを考慮した。

## 【概要】

成体は後肢の水かきの発達が著しい。全長は63mmに達する。溪流近傍の冷涼多湿な林床に隠遁し、土壌動物を捕食する。繁殖期は早春から春暖季までの間で、渓流水中の岩石下に産卵する。繁殖期とその前後に亘っては皮膚が著しくのびて襞状に弛み、雄の前肢第1趾には一塊の婚姻瘤が生じる。卵塊は球を圧した形状である。卵は

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵7

径が大きくて卵黄に富む。水中で卵黄を消費する幼生期間は黒色素が少ないほか、口器が大きくて尾が長い。日本固有種で関東地方以西の本州に分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の一部で、標高700m以上の山地帯に生息する。当地の環境は、天然林と人工林から成る森林に覆われた谷間で清冽な流水を有する。

## 【存続を脅かす原因】

捕獲・採取圧および森林皆伐。

両生類  
爬虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
危惧Ⅰ類

絶滅  
危惧Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報不足



淡水魚類の生息域は、大小の河川、池沼から水田や灌漑用溜池のような人為的要素の強いものまで幅広い淡水環境にある。また、汽水性魚類の場合は、河川下流部や内湾に形成される感潮域と本県の場合、宍道湖・中海・神西湖のような汽水湖そのものが主要な生息環境となる。

## 1. 淡水環境の様相

淡水魚は、先にあげた多様な水域に生息するが、それぞれの環境は相互に密接につながっていることが普通で、その基本はその地を流れる河川にあるといえる。さらに、河川には、いろいろなタイプの回遊性魚類がくらししており、海とのつながりもまた直接的である。

本県には、一級河川の高津川、江の川、斐伊川を筆頭に、多数の中小河川が中国山地から日本海に向かって流れている。一級河川に次ぐ規模の神戸川は、平成25年に洪水調整目的の放水路で斐伊川とつながったことから、斐伊川水系を構成する一分流河川となった。

本県河川の現状は、総じて魚類全般の数量が減少していることが、漁業関係者をはじめ研究機関また関係する個人の感想としてよく聞かれるようになった。自身の調査経験からも、一昔前に比べて、オイカワやヨシノボリ類など、多くの地で「ハエゴ」・「ゴリンショ」と称される所謂「雑魚」が大幅に減ったことは多くの河川で共通している。実際に、以前には、生息調査等で投網を打つと、大量に網に掛ったこれらの「雑魚」を外すのに苦労したものの、現在ではそのようなことはほぼなくなった。その傾向は10年前と比べると実感でき、さらに20年前に遡るといっそうその差が明瞭となる。これらの「雑魚」は、水産上有用種であるアユやヤマメのように、移植放流がなされることはないので、生息量の変化は河川環境の変化を強く反映していることがうかがえる。

理由は、特定することは難しいが、よく見られる事例として、河床にシルトが堆積して石や岩の隙間がふさがり、そこにくらす多くの生物の生息空間が喪失していることがあげられる。さらに、石の表面がシルトや泥で覆われることによって、餌となるケイソウなどの付着藻類の生育が妨げられたり、流量や流速の変化によって、従来と異なった藻類が大量繁茂することなどがあげられる。さらに、カワウやサギ類のような水鳥の増殖も、捕食圧として無視できなくなっている。

## 2. 淡水魚（レッドデータブック掲載種）について

淡水魚のRDB種についての概要は、以下の通りである。

ドクツミミズハゼは、前回に続いて絶滅の判断をした。絶滅危惧Ⅰ類には、ゴギ、オヤニラミ、ミナミアカヒレタビラ、イシドジョウ、イトヨの5種がある。これらの魚種の生息環境は、渓谷の細流から下流の緩流域まで多様であるが、それぞれの種が生息するに適する環境が損なわれる傾向が依然続いているといえる。特に、イトヨにおいて、産卵期に遡上するのに適した河川環境の喪失、また、ミナミアカヒレタビラにおいては、本種の原因記載地である小河川における個体数の減少は深刻である。

絶滅危惧Ⅱ類には、サクラマス、カジカ（大型卵）、ルリヨシノボリ、カワヤツメ、スナヤツメ、イシドンコの6種が挙げられる。これらの種は、河川の清流にくらす種と両側回遊性のものが含まれる。生息環境の変化は、堰堤や護岸改修など洪水調整目的の人工構築物による影響が大きい。人為的な河川形態の平準化は、本来これらの魚種が必要とする淵と瀬のバランスが損なわれている例も少なからず見られる。また、回遊性の魚種にとっては、遡下上に効果的な魚道や生息しやすい下流環境の創造など、河川の連続性の観点から川のあり方を再度見直す必要がある。

準絶滅危惧には、ズナガニゴイ、アブラボテ、アカザ、アユカケ、オオヨシノボリ、サンインコガタスジシマドジョウ、ウツセミカジカ（中卵型）の7種がある。これらの種は、上の絶滅危惧Ⅰ類およびⅡ類の魚種のところで述べた原因と同様である。アブラボテに関しては、産卵に適した二枚貝の生息状況によるところも大きく、周辺生物の生息も同時に考えていく必要がある。また、サンインコガタスジシマドジョウについては、生息が確認される河川においては、少なからず個体数があると思われるが、分布する河川の確認および生息数の把握が今後必要なことと思われる。

## 3. 汽水環境の様相

先に述べたとおり、汽水性魚類がくらす「汽水環境」は、さまざまな場所と要因によって形成されるのであって、その現況をひとくくりで記述することは適切ではないので、ここでは、宍道湖と中海について述べることにする。

この二つの汽水湖の様相は、先の河川と同様に、生息する魚自体の減少を指摘しなくてはならない。一例をあげるならば、ピリングは、中海地方で「メゴズ」と呼ばれる水産上の有用魚種であるが、近年その減少が著しい。かつては、初夏のころには、方々の船着き場において、春先に生まれた若魚があたかも長い帯が漂うように群れていたものであるが、現在では、群れ自体の規模がきわめて小さく、散在的である。このような、減少の著しい種は、マハゼやワカサギ等の漁獲対象魚のみならず、タツノオトシゴの仲間やクルマサヨリ等多くあげられる。一方で、増加はないものの、減少幅が小さいものに、スズキやコノシロ等があり、それらの魚種は相対的に漁獲に占める割合が高くなっている。別な表現をするならば、生息する魚種数そのものは大きな変化はないものの、特定の種の数量割合が著しく高くなっているのが最大の特徴である。

要因は、河川の場合と同様に特定することは困難であるが、その中でも、湖底環境の悪化による生息域の減少と餌生物の不安定化があげられる。つまり、両湖において夏季を中心に発生する湖底の貧酸素水域の拡大は、多くの魚種の生息環境そのものだけでなく、餌生物の消失を伴うことが予想される。そのほかに、海水温の上昇傾向が続く中での海水の流入量の増加に伴う湖水の高塩分化和、反対に頻発する集中豪雨による塩分低下と水温の激変など、汽水環境を取り巻く状況は厳しさが増している。さら地球温暖化による水温の上昇は、夏季における生息環境の悪化とともにプランクトンやベントスなどの餌生物の変化なども懸念材料となる。

#### 4. 汽水性魚類（レッドデータブック掲載種）について

汽水性魚類の今回のRDB掲載種についての概要は以下の通りである。

今回該当する汽水性魚類は、I類のクルマサヨリ、II類のシンジコハゼ、サンゴタツ、ヨウジウオの4種である。シンジコハゼの場合は分布域の変化が生息数の減少に関係している可能性がある。本種の記載当時は、文字通り宍道湖を主要分布域としていたが、現在では西半分の水域に分布が後退している。原因は、海水温の上昇に伴う高塩分化和ともに近似種のピリングとの相互作用も考えられる。クルマサヨリ、サンゴタツ、ヨウジウオについては、産卵やそもそもの生息環境として必要なウミトラノオやコアマモなどの海藻・海草の減少と不安定化が挙げられる。現在は、オゴノリやジュズモがときに大量繁茂することがあるが、これらの魚種に利用されることは少ないようである。さらに、大量繁茂した藻類は、そのまま枯死することによって、湖底の貧酸素化を助長することになり、上の魚種の生息をいっそう脅かすことになる。

今回、汽水性魚類は4種を取り上げているが、汽水域は、淡水域に比べて生物の生産性が高く、必然的に魚の生息数も多い。また、塩分をはじめとする微妙な環境バランスの上に生態系が成り立っていることから、今後、減少の著しい魚種については、RDBの記載を検討すべき魚種が増えるものと思われる。

(越川敏樹)

# 汽水・淡水魚類掲載種一覧

計24種

## 絶滅 (EX)

- ドウクツミミズハゼ

計1種

## 絶滅危惧I類 (CR+EN)

- ミナミアカヒレタビラ ↑ イシドジョウ
- ↑ 日本海系イトヨ (注2) ↑ クルメサヨリ
- ゴギ
- オヤニラミ

計6種

## 絶滅危惧II類 (VU)

- スナヤツメ南方種 (注3)
- カワヤツメ
- サクラマス
- ヨウジウオ ○ サンゴタツ
- イシドコ ↑ ルリヨシノボリ
- カジカ (大卵型:河川陸封型) (注4)
- シンジコハゼ

計9種

## 準絶滅危惧 (NT)

- アブラボテ
- ズナガニゴイ
- サンインコガタスジシマドジョウ (注5)
- アカザ
- アユカケ (カマキリ)
- ウツセミカジカ (小卵型・中卵型:両側回遊型) (注4)
- オオヨシノボリ

計7種

## 情報不足 (DD)

- カワアナゴ

計1種

## 今回の改訂により掲載対象外となった種

- タモロコ
- カジカ

計2種

(注1) 前回の改訂で「アカヒレタビラ」とした亜種は、その後の分類学的な変更によりさらに3亜種に区分された。鳥根県産の旧「アカヒレタビラ」は、現在のミナミアカヒレタビラに対応しており、名称を変更した。

(注2) 前回の改訂で「イトヨ」とした種は、その後の分類学的な検討により、学名未決定の種を含んでいることが判明した。鳥根県産の旧「イトヨ」はこの学名未決定の種である「日本海系イトヨ」に対応することから、名称を変更した。

(注3) 前回の改訂で「スナヤツメ」とした種は、その後の分類学的な変更によりさらに2種に区分され、いずれも学名未決定の種とされた。鳥根県産の旧「スナヤツメ」はこの学名未決定の種である「スナヤツメ南方種」に対応することから、名称を変更した。

(注4) 前回の改訂で「カジカ」とした種は、カジカ大卵型、カジカ中卵型が含まれているとしていたが、分類学的な検討により、中卵型がウツセミカジカに含まれるとされたため、今回、カジカ (大卵型) とウツセミカジカ (小卵型・中卵型) を分けて掲載した。

(注5) 今回の改訂で種名が変更になった種

(前回改訂)

(今回改訂)

スジシマドジョウ小型種 点小型 → サンインコガタスジシマドジョウ

### 【記号説明】

- ・: カテゴリー区分変更なしの種 (15種)
- ↑: 上位のカテゴリー区分への変更種 (4種)
- ↓: 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (2種)
- ◇: 情報不足からの変更種 (1種)
- ◆: 情報不足への変更種 (0種)
- ◎: その他変更種 (2種)

# ドウツミミズハゼ

*Luciogobius albus* Regan, 1940

島根県：絶滅 (EX)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧 I A類 (CR)

写真 口絵8

**【選定理由】**

八束町大根島で最後に確認されたのは、1952年8月で、その後の確認例はない。50年以上確認されておらず、生息地の環境も悪化してきていることなどから、絶滅したものと考えられる。

**【概要】**

大根島の洞窟で1931年に採集された2標本に基づいて、1940年に日本固有の新種として記載された。生息地は大根島と長崎県五島列島富江町の溶岩洞穴、高知県の新莊川しか知られていない。国内で知られている唯一の洞窟性水生脊椎動物で、全長は5cmほど。眼は退化しており、小さな黒点状をなし皮下に埋没している。体表には黒色素胞が乏しく、生時の体色は淡紅色を呈する。他の盲目性ハゼであるネムリミズハゼやイドミズハゼに比べ頭が大きく、体長の1/4以上を占める。脊椎骨数は31で、ネムリミズハゼの36、イドミズハゼの35～37より少ない。また、近縁のミズハゼ類に比べ、本

種は背びれや尻びれが発達している。地下水中に生息するトビムシ類を餌とすると考えられている。現在、生息が確認されているのは福江町福江島の溶岩洞穴だけである。ここでも採集記録は少ない。本種は、もともと生息個体数がきわめて少なく、生物学知見に乏しい種である。

**【県内での生息地域・生息環境】**

大根島の溶岩洞窟内などに生息していたが、50年以上生息確認がなく、現在は絶滅したものと思われる。

**【存続を脅かした原因】**

もともと生息数がきわめて少なかったことや、洞窟内の土砂の堆積等による生息環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域					海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	潟池	林地	草地	砂浜	河口	
○																	○					

コイ目コイ科

# ミナミアカヒレタビラ

*Acheilognathus tabira jordani* Arai, Fujikawa and Nagata, 2007

島根県:絶滅危惧 I 類(CR+EN)

写真 口絵8

島根県固有評価:分布限界種(西限)

環境省:絶滅危惧 I A類(CR)

### 【選定理由】

県内での生息地はきわめて少なく、局所的である。近年生息が確認されている河川でも生息個体数の減少や産卵母貝であるイシガイ科二枚貝の減少が確認されており、近い将来絶滅が危惧される。

### 【概要】

従来アカヒレタビラとされていたものが、アカヒレタビラ、キタノアカヒレタビラ、ミナミアカヒレタビラの3亜種に分けられ、山陰地方と北陸地方に生息するタビラはミナミアカヒレタビラとなった。県中部の河川はミナミアカヒレタビラの西限分布域である。全長の最大は8cmで、野生化での寿命は2~3年、産卵期は4~6月である。なお本種は2012年3月に島根県の指定希少野生動植物に指定され、捕獲等が原則禁止となった。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部及び東部の限られた河川にのみに生息する。県中部の河川においてはきわめて狭い範囲にのみ生息して

おり、約10年間で生息数が10分の1以下に激減した。県東部では近年まで広範囲に分布していたが、現在その分布域は急速に縮小している。現在分布が確認されている河川においても河川環境の悪化などにより本亜種の産卵母貝が減少している。また、2013年度にミナミアカヒレタビラの主要な繁殖地でイシガイ科二枚貝の大量へい死が確認されたことから、次年度以降はさらに個体群が縮小すると予測される。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修等による生息環境の悪化やオオクチバス等の外来魚の移入、産卵母貝である二枚貝の減少などが考えられる。特に、二枚貝の減少はミナミアカヒレタビラ個体群の縮小にもっとも大きな影響を与えており、二枚貝は河川改修による生息場の消失、ヌートリアによる食害、水質や底質悪化により減少している。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○															○					

コイ目ドジョウ科

# イシドジョウ

*Cobitis takatsuensis* Mizuno, 1970

島根県:絶滅危惧 I 類(CR+EN)

写真 口絵8

島根県固有評価:基準標本産地

環境省:絶滅危惧 I B類(EN)

### 【選定理由】

県中西部の限られた水系にしか生息していない上に、生息に適した環境も限られている。生息個体数も多くなく、大きな移動もしないことなどから、絶滅が危惧される。

### 【概要】

日本固有の小型のシマドジョウ属魚類で、1970年に高津川水系の福川川で発見され、新種として記載された。全長は通常4~6cmで、最大でもオス6cm、メス8cm未満。尾柄背縁と腹縁に竜骨状隆起が発達し、他のシマドジョウ属魚類に比べ寸胴である。体色は白色から淡黄褐色で、背びれと尾びれに3~5本の暗色点列がある。中国地方と九州地方に分布している。頬部に縦帯を持ち、背部から体側中央にかけて3列の暗色縦帯を持つものが多い。河川上流から中流の礫が積み重なる水通しのよい淵尻に生息し、水温が13~15℃になると砂礫底に深く潜りこんで越冬する。5月下旬から7月中旬が繁殖期で、

その時の水温は16~20℃であることや、大きな移動は行わず、雑食性で、天然での寿命は約2年であることなどが分かっている。四国に分布しているものは他の地域に分布しているイシドジョウと比べて形態が違うことから、2006年11月に新種とされヒナイシドジョウとなった。その特徴は鼻先から眼を貫いて1本の褐色線があり、ほほに線が無く、尾びれの根元に小さな黒点があることなどで、イシドジョウと見分けられる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中西部の河川の上中流部で確認されている。一部の生息地はダム建設により消滅する。礫が積み重なった水通しのよい場所に生息し、泥の堆積のない淵尻部など、生息域はかなり限定されている。

### 【存続を脅かす原因】

ダムの建設、河川改修や流域開発による淵の消失、礫底の目詰まりなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○				○					○										

汽水淡水魚類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

サケ目サケ科

# ゴギ

*Salvelinus leucomaenis imbricus* Jordan and McGregor, 1925

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵8

島根県固有評価:基準標本産地

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

### 【選定理由】

西中国山地を流れる一部の河川にのみ分布し、河川上流域に生息する。開発や河川改修、自然林伐採などによる生息環境の荒廃で生息数が減少している。

### 【概要】

全長20-30cm前後だが、近年は30cmに達するものはまれである。他のイワナの亜種とは異なり、背部に見られる虫食い状の白色斑が吻端まで存在するのが本亜種の特徴である。本亜種は世界のイワナ属魚類の中で、もっとも南方に分布するもののひとつであり、氷期の遺存的な存在だと考えられる。水質が良好で、夏でも水温が20℃(多くは15℃以下)を超えない河川の最上流域に生息し、おもに昆虫類や小動物を捕食している。繁殖期は10月下旬から11月中旬で、メスが川底に産卵床を掘り、その中に産卵する。ふ化した仔魚は翌春まで産卵床内にとどまり、腹部の卵黄で発育していく。本亜種は稚魚期から障害物や岩陰に潜む性質が強く、野外ではなかなか発見し

づらい。

### 【県内での生息地域・生息状況】

県内では斐伊川水系から高津川水系まで分布するが、どの生息地でも生息数は減少傾向にあると思われる。近年、本亜種の生息域に別亜種ニッコウイワナの生息が確認されており、亜種間雑種形成による遺伝的独自性の喪失、遺伝子汚染が心配される。また、本亜種の生息域にヤマメなどのサケ科魚類を移入すると、競合によって本亜種が減少する可能性がある。近縁種、競合種の移入は厳に慎まなければならない。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修や構造物の建設。水質汚染。伐採による広葉樹の減少。近縁種の移入による遺伝的独自性の喪失。競合する魚類の移入。釣りなど捕獲による採集圧。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○															

トゲウオ目トゲウオ科

# 日本海系イトヨ

*Gasterosteus* sp.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵8

島根県固有評価:分布限界種(南限)

環境省:絶滅のおそれのある地域個体群LIP

### 【選定理由】

北方系魚種であり、県内は南限域となる。宍道湖・中海水域以外ではきわめてまれであり、当水域においても最近減少が著しい。

### 【概要】

本種は、背びれに3本と腹びれに1対の鋭い棘をもち、体側に連続した大きなうろこ(鱗板)が並ぶ。従来、イトヨと称されていたが、日本海系イトヨと太平洋系降海型イトヨ、太平洋系陸封型イトヨに分類された。日本海系イトヨの分布は、北海道から島根半島の日本海側、北海道から利根川の太平洋沿岸、北海道オホーツク海沿岸で、国外ではサハリンや千島列島、朝鮮半島東岸である。産卵期は春で、成魚は河川を遡上し、流れの緩やかな水草帯で産卵する。産卵生態はユニークで、赤と青の婚姻色の出たオスが水草などでトンネル状の巣を作り、メスを誘って産卵させ放精する。その後、オスは卵と孵化仔魚を保護する。水生昆虫や小型の甲殻類などを食べる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

かつては、産卵期の春に、全県下の河川の下流域や水田の用水路に普通に見られたが、戦後の高度成長期を境にして激減した。宍道湖・中海水域は一時の絶滅状態の時期を経て、生息数は徐々に回復していた。産卵遡上前の3月に、当水域に張られた小型定置網において、1994年頃は1回の操業で数十個体も漁獲されていたことがあるが、2001年頃からは数個体程度となり、一時漁獲数が増えた時期もあったが、2010年頃からはほとんど漁獲されなくなっている。

### 【存続を脅かす原因】

水質と河川改修などに伴う生息環境の悪化。産卵場所と巣の材料となる水生植物の減少。生息域における夏季の高水温。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
○	△	△	△													○					○	○



ダツ目サヨリ科

# クルマサヨリ

*Hyporhamphus intermedius* (Cantor, 1842)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

かつて宍道湖・中海水域においては一般的な魚種であったが、1990年前後より激減し、現在ではきわめてまれとなった。

### 【概要】

全長10～18cm。近縁のサヨリに似るが、本種は成長しても全長18cmと小型である。また、下顎がより長く、先端下面が黒色で、サヨリのように朱紅色はない。汽水性の魚で、サヨリほど海域と河川を広範囲に回遊することはない。青森県以南の内湾や河口に成育し、朝鮮半島や中国などに分布が知られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大型河川の感潮域と宍道湖・中海水域、神西湖などに見られる。だが、最近はいずれの水域でも減少が著しく、きわめてまれな魚種となった。宍道湖・中海水域においては、定置網や刺し網などで、1回に十数匹から数十匹単位で漁獲されていたが、最近ではこのようなことも減

少している。

### 【存続を脅かす原因】

宍道湖・中海水域の場合は、埋め立てや護岸工事による渚と藻場の減少が、産卵や餌場また稚幼魚の成育場の喪失につながり、個体数の減少を引き起こしたと思われる。汽水の当水域内で生活史の大半を送る本種にとっては、汽水域の環境悪化は直接存続につながってくる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
◎	△	△	△													○					○	○

スズキ目ケツギョ科

# オヤニラミ

*Coreoperca kawamebari* (Temminck and Schlegel, 1843)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

河川改修や水の汚れによる環境破壊により、生息域が狭められており、近い将来の絶滅も危惧される。

### 【概要】

全長は最大で13cmとされているが、多くの個体が10cm前後の大きさである。鰓蓋には暗朱色の線が放射状に伸び、ヨツメという地方名が示すように、その後端に眼状斑がある。体側には6～7本の横縞がある。清涼で、流れが緩やかな河川の中・下流域に生息する。砂礫底の単調な河床よりも、大小の石が転がっている場所を好む。肉食性で、エビや水生昆虫などを捕食する。産卵期は4月下旬から9月頃とされるが、産卵は5～6月にかけての期間に集中する。メスは、ヨシヤツルヨシなどの水生植物、倒れ込んでいるササの茎などに、およそ100個の卵を産み付ける。孵化するまでの間、オスは外敵を追い払ったり、新鮮な水を卵に送るなど、かいがいしく卵を保護する。国内では京都府桂川水系（保津川）・由良川

以西の本州や四国東北部、九州北部の限られた河川に、国外では朝鮮半島に生息している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県では高津川水系および江の川水系の本流や限られた支流にのみ生息している。本種を天然記念物に指定して保護活動を行っている自治体もある。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修などによる生息環境の悪化や産卵床となる水生植物の減少。また、観賞魚として乱獲されるおそれがある。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
	◎	○									○											

ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科

# スナヤツメ南方種

*Lethenteron* sp. S.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息地における生息条件の悪化が進み、近年、生息数が激減傾向にある。また、生息範囲も限定されている。

### 【概要】

全長15cm程度。円口類と呼ばれる無顎綱の仲間で、原始的な脊椎動物である。体は細長く、後半部でやや側扁する。口は円盤状で、顎がなく、眼の後ろに鰓孔が7つある。近縁種のカワヤツメは河川と海を回遊するが、本種は河川の中上流域で一生涯を過ごす陸封型である。川底の砂泥中に産卵し、生まれた幼生（アンモシーテス）はそのまま柔らかい砂泥の中で、有機物や珪藻などをロート状の口で食べている。幼生は数年を経て秋に変態して成体となり、翌年の春に産卵し斃死する。近年の研究から、本種は遺伝的に隔離された2集団（北方種と南方種）が確認されている。これらは形態からの識別は難しく、DNA解析を行う必要がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内の大型河川の中上流域やそこにつながる用水路の砂泥底部に生息する。特に、水がきれいで水の通りがよい細砂と多少泥の混じる場所を好む。河川には比較的良好的な生息場所が残っているが、それらにおいても近年は減少が著しい。1960年代まで県内の大中河川に普通に生息していたが、河川改修工事によって川筋が直線化し、川本来の多様な形態が失われ、生息環境が喪失している。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修に伴うコンクリート護岸化や直線化、水質汚濁による生息条件の悪化など。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○					○					

ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科

# カワヤツメ

*Lethenteron japonicum* (Martens, 1868)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本県西部を南限とする北方系種であり、もともと生息数は少ない。近年は河川改修工事等による生息環境の悪化により、多くの河川では絶滅かもしくはきわめてまれな種となっている。

### 【概要】

円口類に属し、口は吸盤状で顎がなく、内骨格はすべて軟骨性である。脊椎動物の中でもっとも原始的なグループに属する。体側の前部にえら穴が7つ並び、本物の目と合わせて「八つ目」と呼ばれる。回遊性で、河川で生まれた幼生はアンモシーテスと呼ばれ、2～3年間河川にとどまって泥の中の有機物や珪藻を食べて生活する。幼生はやがて変態して成体の形態となって海に降り、吸盤状の口で他の魚に吸い付いて体液を吸うといわれる。そして数年間における海域での生活を経て、再び河川に遡上し、産卵してその生涯を閉じる。北海道と茨城県、島根県以北の本州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本県においては、ほとんどの1級および2級河川での生息が知られているが、現在ではどこもきわめてまれである。宍道湖・中海では、時折定置網に入ることがあるので、流入河川で繁殖が行われているようで、実際に、中流域から下流域にかけて幼魚や変態した降海前の幼魚が採集されることがある。生息密度はごく低い。近年は、繁殖の為に河川に遡上する個体がほとんど見られなくなっている。

### 【存続を脅かす原因】

幼生は、川の流れのゆるやかな澄んだ砂泥底に潜伏して生活しており、近年の河川改修工事によってその生活環境は真っ先に影響を受けてきた。さらに、多くの河川に随所に設けられたダムや大小の堰堤によって、海とのつながりが妨げられていることも大きな要因である。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
◎	○	○									○					○					○	○

サケ目サケ科

# サクラマス

*Oncorhynchus masou masou* (Brevoort, 1856)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本種は、ヤマメ（河川生活タイプ）の降海したもので、県内はヤマメの自然分布の南方に位置し、もともと降海する割合は北日本に比べ少ない。近年はさらに降海する個体が減少している。

### 【概要】

全長40－60cm。先に述べた、ヤマメの降海したもので、パーマーク（楕円形の斑紋）が消失して全体が銀白色となり、背びれの先が黒くなる（銀化（ギンケ）またはスモルト）。河川の上流域で生まれてから、1年目の春に降海するものが多い。降海後は近海でオキアミや小魚などを食べ、翌年の春に40－60cmに育って河川を遡上し、その秋にヤマメに混じって産卵し死亡する。北海道・東北・箱根以東の関東・北陸・山陰・九州の瀬戸内海に注がない河川に分布する。それ以外の地域には、体側に朱点の散在する近縁のサツキマス（アマゴ）の分布域となる。国外では、樺太・朝鮮半島の東側・台湾に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本県では、沿岸の定置網にまれに入ることがある程度で、その数は少ない。宍道湖中海水域では20年ほど前までは、1棟の網で年間10尾程度獲れていたが、近年はほとんど漁獲されない。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採や砂防ダムおよび河川改修工事によるヤマメの生息環境の悪化があげられる。流域に設けられた魚道が十分に機能しないことや、各種のダムや堰堤によって、海との繋がりが断ち切られていることも原因である。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
○	○	○									○					○					○	○

トゲウオ目ヨウジウオ科

# ヨウジウオ

*Syngnathus schlegeli* Kaup,1856

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

中海を中心に生息しており、定置網などで時折混獲されているが、近年確認される機会が減少している。

### 【概要】

全長30cmほど。日本産ヨウジウオ類では大型の部類。体は大輪でおおわれて、吻は長い筒状で腹びれはない。体色は褐色で不規則な模様のあるものや緑銀色のものなど変異に富む。中海で同所的に生息するガンテンイシヨウジは吻が短いことなどから区別できる。北海道以南の日本各地、朝鮮半島、中国、台湾、東シナ海、南シナ海、トンキン湾、沿海州の沿岸域の浅い内湾に生息する。アマモ場に多く生息している。底生性だが、胸びれと背びれをせわしなく動かして浮遊している。プランクトンを吸い込むようにして食べる。メスがオスの育児嚢に産卵してオスがふ化するまで育てる。産卵期は、3月中旬から6月頃で、体長10mmで産出されるが遊泳能力はきわめて低く、稚魚は流れ藻とともに採集されることが多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中海を中心に大橋川や宍道湖東岸のアマモ場で確認されている。2000年頃から中海での定置網による漁獲数が減少傾向になり、2005年以降著しく減少している。近縁種のガンテンイシヨウジは、太平洋沿岸に多く分布しているが、近年の水温上昇の影響により、宍道湖の全域と大橋川、中海で普通に見ることができる。ヨウジウオとガンテンイシヨウジともに宍道湖西岸の塩分濃度の低い水域でも見られることがある。

### 【存続を脅かす原因】

アマモ場の消失など環境の改変による生息環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
◎	○	○																			○	○

汽水・淡水魚類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トゲウオ目ヨウジウオ科

# サンゴタツ

*Hippocampus mohnikei* Bleeker, 1853

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

中海を中心に生息しており、定置網などで時折漁獲されているが、近年確認される機会が減少している。

### 【概要】

全長8cmほど。日本産タツノオトシゴ類ではもっとも小型。タツノオトシゴに似るが頂冠がなめらかなことや生息域が異なる。体は大輪でおおわれて、吻は筒状で腹びれはない。タツノオトシゴの仲間の中では吻は短い部類に入る。黒色や黄色など体色の変異に富む。北海道から九州西部、東シナ海、中国の沿岸域の浅い内湾に生息する。アマモ場に多く生息し、海草に尾部を巻き付けて体を支え、浮遊しているプランクトンを吸い込むようにして食べる。本州中部での産卵期は春から秋で、メスがオスの育児嚢に産卵して、オスがふ化して泳ぎ出てくるまで育てる。孵化直後の仔魚は3.5mm程度で、8mm程に成長すると泳ぎ出てくる。稚魚は表層を漂い、流れ藻などについていることが多い。世界的に漢方薬の原料とし

てなどの需要により、乱獲が進んでいることから、絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の付属書Ⅱ（輸出入許可必要）にタツノオトシゴが記載されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中海を中心に大橋川や宍道湖東岸のアマモ場で確認されている。島根県立宍道湖自然館の採集記録(未発表データ)によると近年、採集個体数が著しく減少している。

### 【存続を脅かす原因】

アマモ場の消失など環境の改変による生息環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
◎	○	○																			○	○

スズキ目カジカ科

# カジカ(大卵型:河川陸封型)

*Cottus pollux* Günther, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本種は、河川の水質や水生生物の生息環境が良好に保持されていることを示す代表的な種であるが、すべての生息地において河川の生息環境が悪化し、個体数が減少している。

### 【概要】

日本固有種で、大卵型、中卵型・小卵型(ウツセミカジカ)があり、これらはすでに種レベルにまで分化していることが知られている。大卵型は河川の上流域に生息し、海に下ることはない。県内には、大卵型と中卵型が生息していると考えられるが、詳細な調査は行われていない。全長7-9cmで、時に12cmに達することもある。瀬の砂礫底や礫底に生息する底生魚である。体色は周囲の環境や体調によって異なり、灰褐色から暗褐色まで変化に富んでいる。体側に、4~5個の暗色の斑紋がある。体形はハゼ類に似るが、カジカ類にはうろこがないことや、頭部側面に棘を有することなど区別できる。水生昆

虫や小型甲殻類、時には小魚も食べる。産卵は、3月中旬から6月中旬で、川の瀬の石の下側にオスが空間を作り、メスを誘って石の下面に卵を産みつけさせる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内において生息が確かめられている河川は、高津川、江の川、神戸川、斐伊川、飯梨川などの大型の河川である。河川によっては、中~下流に両側回遊性の中卵型(ウツセミカジカ)が、上流部に陸封性の大卵型(カジカ)が生息している。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修に伴う人工護岸や河川構築物の影響、ダムによる流量の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
○	○	○				○					○											

汽水・淡水魚類  
絶滅危惧Ⅰ類  
絶滅危惧Ⅱ類  
準絶滅危惧  
情報不足

スズキ目ドンコ科

# イシドンコ

*Odontobutis hikimius* Iwata and Sakai, 2002

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵9

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息域は局所的で、生息域での繁殖は確認されているが、生息数はあまり多くない。鑑賞魚として乱獲されるおそれがある。

### 【概要】

高津川水系匹見川で採集された個体に基づき、2002年に新種として記載された。外部形態はドンコによく似るが、遺伝的に大きく離れているほか、後鼻孔から眼窩後方に伸びる孔器列とえら蓋上にある孔器列に違いが見られることや、うろこが小さく数が多いなどの違いがある。また、下顎下面の斑点の黄色味が強く、体高が低い傾向にある。ドンコが流れの比較的緩やかな場所を好むのに対し、本種は流れが速く石がごろごろしているような場所がよく見られ、川底の石の隙間に身を潜めていることが多い。5～7月の産卵期になると、オスはふだん隠れがにしている石の下にある砂や小石を口で掘り出して産卵室を作る。メスは産卵室の天井部分に産卵することが

多いが、壁面にまでおよぶこともある。卵は楕円形で、附着糸により産卵基質に附着する。産卵・放精後、オスはすぐにメスを追い出す。その後オスはふ化するまで卵のそばで胸びれを使って卵に新鮮な水を送り、卵に酸素を供給する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

高津川水系とその周辺にしか生息しておらず、きわめて局所的。匹見川がおもな生息地で、高津川本流での生息数は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修などによる生息環境の悪化やドンコとの交雑などが危惧される。また、観賞魚として乱獲されるおそれがある。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○				○					○										

スズキ目ハゼ科

# ルリヨシノボリ

*Rhinogobius* sp. CO

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内において本種の生息が確認されているのは、3つの河川と1つの湖沼だけである。生息数も少なく、いずれの地域においても近年個体数が減少してきており、中には絶滅した可能性の高い河川もある。

### 【概要】

ヨシノボリの仲間、形態、生態の両面で変異性に富み、現在全国の河川・湖沼に生息するものは10種以上に分類されている。県内には、両側回遊性のものが5種と、河川陸封性のものが1種生息している。ヨシノボリの中では大型で全長7～10cm、時に12cmに達するものもある。生時に頬に美しいルリ色の小さな斑点が散在する。しかし、標本では、そのルリ色斑点は消失するので、尾びれ基部にある太い八字状の濃色斑などが手がかりとなる。北海道から九州にかけての日本全国の小・中河川の中～上流域に生息し、まれに湖沼に陸封されている個体群もみられる。河川の早瀬から淵頭にかけての急流部に生息

していることが多い。雑食性で、附着藻類や小型の水生昆虫をおもな餌としている。西日本での産卵は5～7月で、オスが半ば砂に埋まった石の下に産卵室をつくり、メスが天井面に卵を産みつける。県内では、日本海に注ぐ河川勾配が大きく、水量の豊かな小・中河川の早瀬に生息しているほか、堰止め湖に陸封された個体群も確認されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内中東部の河川のほか、堰止め湖でも確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修などによる生息環境の悪化、湖沼においてはオオクチバスの放流など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○					○	○				○										

# シンジコハゼ

*Gymnogobius taranetzi* (Pinchuk, 1978)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵9

島根県固有評価：分布域限界種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

本種は、おもに汽水域に生息しており宍道湖以外の水域でも確認されているが、その確認場所および生息数は少ない。

**【概要】**

全長メス6cm、オス5.5cm。中海に多い近縁のピリングゴとは酷似するが、メスの婚姻色と頭部の感覚器官の形状で識別できる。婚姻色は本種が体側に6～7本のあざやかな橙色の横斑が現れるのに対してピリングゴの場合はそれがない。また、頭部の感覚器官では、本種が感覚管の両端2個の感覚孔が開口しているに対して、ピリングゴでは管が連結して孔は3個開いている。

**【県内での生息地域・生息環境】**

宍道湖での産卵は3月から4月上旬にかけて、オスが湖底に巣穴を掘ってメスを誘って行われる。孵化した仔魚は、わんどや船着場などの風波を避ける場所に集まって浮遊生活をおくる。成長は早く、夏過ぎには親魚サイズ

ズにまで達し、秋の深まりとともに生殖巣が発達してくる。食性は稚魚・成魚ともに、イサザアミ・ユスリカの幼虫・ゴカイ類・コツブムシなどの底生動物の他に藻類も食う。2000年頃までは、宍道湖全域で確認されたが、2009年以降は生息数が減少している。現在は、宍道湖西岸と周辺の水路、安来市の中海流入河川の水路で見られる。国内では、富山県、石川県、他にロシア沿海州や朝鮮半島からも確認されている。益田市にも生息が確認されていたが、近年見られなくなり絶滅した可能性が高い。また、松江近郊の溜池にも生息し、陸封の可能性が強い。最近の研究では、ロシアや韓国産の*Gymnogobius taranetzi*と国内に分布するシンジコハゼとは、遺伝的に分化が認められるとしている。

**【存続を脅かす原因】**

わんどや旧来の船着場などの、仔稚魚の生育する場所を保全することが必要。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
◎		△															○				○	○

コイ目コイ科

# アブラボテ

*Tanakia limbata* (Temminck and Schlegel, 1846)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 10

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内では、中西部の一部の水域にのみ生息する。生息数も多くはない。

### 【概要】

全長4－7cm。繁殖期は4～6月頃で、オスには追星と重油色と黒色を基調とした婚姻色があらわれる。メスでは腹部から産卵管が伸び、これを用いて二枚貝の鰓内に産卵する。本種を含むタナゴ類の繁殖には、産卵母貝となるイシガイ目の二枚貝の生息が不可欠である。また、二枚貝の繁殖時には、グロキディウム幼生が寄生する底生魚類の存在がなければならない。すなわち本種が

生息するためには、これらの生物たちが共存した多様な自然環境が必要である。また、貝から浮出した仔稚魚は水生植物などがある岸辺付近で群れを形成して生活するため、このような環境も本種にとって重要である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内中西部の限られた自然環境が良好な水域に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

河川や水路の改修、ヘドロの堆積や水質悪化などによる二枚貝の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○										○					○					

コイ目コイ科

# ズナガニゴイ

*Hemibarbus longirostris* (Regan, 1908)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 10

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地域が限られ、個体数も少ない。

### 【概要】

国内におけるニゴイの仲間は、本種とニゴイ、コウライニゴイの3種が知られている。コイに似るが、1対の口ひげ(コイの口ひげは2対)や低い体高、長い吻などで比別できる。本種は、ニゴイよりもさらに頭と吻が長く、体色は淡黄色で、背面と体側に褐色の斑紋と小褐色点が散在する。全長約20cmで、ニゴイよりも上流域の流れのゆるやかな底層近くに生息している。産卵は5～6月で、メスの方がオスよりも尻びれが長くなり、産卵直

前に水底の砂をかき混ぜる。カゲロウなどの水生昆虫の幼虫をおもな餌としている。近畿地方以西の本州の河川に不連続に分布している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は県内では県中部の限られた河川のみ生息が知られている。河底が岩、礫、砂と多彩に組み合わせさせた清流を好む。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修などによる生息環境の悪化や競合種の増加など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○										○										

コイ目ドジョウ科

# サンインコガタスジシマドジョウ

*Cobitis minamorii saninensis* Nakajima, 2012

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 10

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 【選定理由】

最近になってシマドジョウ属の分類が整理しなおされたことによる。

### 【概要】

従来、スジシマドジョウ小型種点小型 (*Cobitis* sp. 2, subsp. 3) と称されていたもの。全長5－7cmで、体はやや細長く、シマドジョウよりも小型である。体側の斑紋は雌雄で異なる。オスが線列型で、典型的なスジシマ型であるのに対し、メスは点列型か破線型で、シマドジョウの斑紋に似ている。平野部の河川の中・下流や農

業用水路、浅所の砂泥底に棲む。砂泥底にひそむユスリカの幼虫などの水生昆虫やミミズなどを食べる。繁殖期は6～7月と考えられるが、詳細は不明である。兵庫県岸田川から本県の神戸川までの山陰地方に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平野部を流れる砂泥底の河川や用水路。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修などによる生息環境の悪化。また、観賞魚として乱獲されるおそれがある。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○											○					○					

汽水・淡水魚類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

ナマズ目アカザ科

# アカザ

*Liobagrus reinii* Hilgendorf, 1878

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本種の生息にとって清流であることが必須条件である。

### 【概要】

全長7-10cm。日本の淡水魚では珍しい赤色系の体色をもつ小型のナマズである。8本の口ひげがあり、ひれは棘状になっていて、不用意に捕まえると刺される。水のきれいな川の中流から中上流の流れのある石の下に潜む。産卵は、5-6月に流れのかなり早い瀬の石の下に100-120個の卵がゼリー状に産みつけられる。日本固有

種で、宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中規模以上の河川の清流域に広く分布するが、もともとその分布密度は低い。近年は生息環境の悪化に伴って、姿を見なくなった河川も少なくない。

### 【存続を脅かす原因】

ダム・堰堤の他各種の河川工事によって、清流が減少し、本種の産卵場所や餌生物の生息環境が失われてきたことによる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○					○										

スズキ目カジカ科

# アユカケ(カマキリ)

*Cottus kazika* Jordan and Starks, 1904

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

かつては県内の多くの河川中流域に普通に見られた。しかし、現在では生息域・生息数ともに減少している。

### 【概要】

全長20cm、灰褐色の地に4本の暗色横帯があり、他のカジカ類同様、うろこはまったくない。体型は、ハゼ類に似るが、ハゼ類(ドンコは除く)のように腹びれは吸盤状になっておらず、分離している。河川中流域の瀬の礫底を好む。幼魚期はおもに水生昆虫を食べ、10cmを超えるとアユなどの小魚を食べる。日本固有種で、本州の

日本海側に多く、福井県ではアラレガコと呼ばれ、生息地が天然記念物に指定されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内のほとんどの河川の中流域に生息しているが、川を遡上する力は弱く、多くの河川では堰堤の存在により、本来の生息域ではない河口域に生息している場合が多い。江の川河口域では産卵場が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息に適した砂礫帯の河床の減少、遡上を妨げる堰堤の建設など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○					○					○

スズキ目カジカ科

# ウツセミカジカ(小卵型・中卵型・両側回遊型)

*Cottus reinii* Hilgendorf, 1879

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

河川の水質や自然環境が良好なところに生息するが、すべての生息地において生息環境が悪化し、個体数が減少している。

### 【概要】

県内には、カジカ(大卵型：河川陸封型)とウツセミカジカ(中卵型：両側回遊型)が生息していると考えられるが、詳細な調査は行われていない。ウツセミカジカ(中卵型：両側回遊型)の稚魚は夏場に河口域で数多く観察される。全長7-9cmで時に12cmに達する。瀬の砂礫底や礫底に生息する。体色は環境によって異なり、灰

褐色から暗褐色まで変化に富み、体側に4-5個の暗色の斑紋がある。ハゼ類に似るがうろこがないことや頬に棘を有することなど区別できる。水生昆虫や甲殻類などを食べる。産卵期は3月中旬から6月中旬で、川の瀬の石の下側にオスが巣を作り、メスが卵を産む。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内において生息が確かめられているのは斐伊川をはじめとする大型河川の中下流域。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修に伴う人工護岸や遡上を妨げる河川構築物、ダムによる流水量の減少など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○					○					○



## オオヨシノボリ

*Rhinogobius fluviatilis* Tanaka, 1925

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

水量が豊富で流れの早い場所に生息し、生息数もあまり多くない。近年、減少傾向にある。

## 【概要】

本種は従来「ヨシノボリ黒色大型（*Rhinogobius* sp. LD）」と称されていたもので、全長は約8cm、時に10cmを超える個体もみられる。全体的に黒味が強く、特に繁殖期のオスはほとんど黒一色となる。メスと未成魚は淡褐色の地に濃褐色の不規則の斑点がある。頬には斑紋がない。識別にもっとも有効な特徴として、胸びれの根元の明瞭な1個の黒色斑がある。また、尾びれの基部に上

下に長い黒色斑が1個あり、これも本種の特徴である。北海道を除く日本全国に分布し、雑食性で付着藻類や水生昆虫などをおもに食べる。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県内においては、比較的大型の河川に生息する傾向が強く、高津川など西部地方の河川で生息数が多い。県中央部から東部にかけての河川では、生息数が少ない。

## 【存続を脅かす原因】

河川改修などに伴う生息環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○					○										

スズキ目カワアナゴ科

## カワアナゴ

*Eleotris oxycephala* Temminck and Schlegel, 1845

### 【選定理由】

近年その生息が確認された。島根県西部での初確認後、徐々に県東部での確認事例も増加し、県内全域で生息域が拡大している可能性もあるが、なお詳細な調査が必要である。

### 【概要】

全長20-30cmほど。ハゼ類に似るが、腹びれは吸盤状ではなく左右に分離。頭部が大きく、下面には白い斑点が散在する。体色の変化が著しい。茨城県以南の本州太平洋側や、四国、九州、屋久島、および福井県から鹿児島にかけての日本海、東シナ海沿岸の河川に生息する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵10

比較的大きな河川の下流部域から河口域に棲み、日中は石や倒木の空隙に潜っており、おもに夜間に活動する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

2000年に益田川下流部で初めて確認された後、江川下流部でも確認。その後2010年には高津川および斐伊川水系、2011年に大社堀川水系、2013年に斐伊川水系で生息が確認されている。河川の下流部の流れの緩やかな淡水域や汽水域に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化など。

# 概説

RED DATA BOOK

# 昆虫類

昆虫は体が小さく、様々な環境に適応しており、種類数は圧倒的に多く全動物の3/4を占めるといわれている。日本国内ではこれまでに約3万種が記録され、府県では大阪府（2000）が5,567種、岡山県（2003）が7,673種、山口県（2002）が6,527種で、広島県（1995）は5,408種であるが、その後の調査により現在は約8,500種といわれている。

鳥根県では、三瓶山の1,996種（鳥根県昆虫研究会、1994）、斐伊川の1,978種（淀江ほか、1998）、宍道町の1,099種（淀江ほか、2000）などの記録はあるが、全県を網羅した目録はまだ整理されておらず、正確な種類数は把握できていない。おそらくこれまでに調査された種数をまとめれば、県全体では5,500種余と推計される。

このように種類数だけをみても鳥根県は、他府県に比べ昆虫相の解明は遅れている。これは県内に同好者が少ないこと、中央から遠く離れ専門家の指導や刺激の機会が少なかったこと、県立博物館に自然科学系の部門がなかったこと、大学や農業試験場などの研究機関も害虫だけを対象としたことなどによると思われる（しかし、近年、三瓶自然館が自然史博物館としての機能を有する大規模な施設に拡充されたのでその点は解消された）。

鳥根県は東西に200kmの細長い県土で、北は砂浜と岩礁の長い海岸線、南は標高1,000m級の中国山地、中間地域は雑木林などの里山と南から北に流れる大小の河川があり、日本海には隠岐諸島が存在するなど多様性に富んだ自然に恵まれており、多くの昆虫の種が未解明のまま残されているものと思われる。

## 1. 昆虫研究小史

鳥根県の昆虫研究は明治時代に始まる。明治14年（1881年）、小学校教則綱領の指導で小学校博物教育では「つとめて実物によって通常の動植物の名称を授け、つとめて標本を集めること」と定められた。昆虫採集や昆虫趣味の一般化はここにスタートしたといわれる。

明治24年、旧制松江中学の博物教師だった渡辺盈作（1891）は「動物学雑誌」に松江市のチョウ15種を正確な学名入りで報告した。渡辺はラフカディオ・ハーンとも深い親交があった人物で、ハーンの著書「日本瞥見記」にも登場する興味深い人物である。

国立農事試験場技師だった三宅恒方（1904）が隠岐を訪れチョウ・ガ179種を記録している。三宅の記録にはオキナワリチラシや新種として記載したオキホソバ（現ネズミホソバ）があり、当時の農事試験場八田分場

の田中房太郎が採集した標本も含まれている。田中自身の昆虫標本についての目録は見当たらないが、田中は「応用昆虫編」（1903、進学社）という152ページの小冊子を著わすなど愛書家でもあり、鳥根大学図書館には1フロアを使った田中房太郎コレクションが保存されている。

一方、害虫として鳥根農事試験場成績第25号（1912）にイネ、ムギ、野菜、果樹など農作物の害虫102種の分布と被害状況の報告がある。

大正時代は、一般の昆虫についてまとめたものはないが、農事試験場に野津六兵衛が赴任（1913）し、ダイコンサルハムシ、ウリハムシ、ナシヒメシンクイなど野菜、果樹を中心に多くの害虫の生態と防除法を明らかにした。1923年に野津と園山功が著した「鳥根の果実害虫」にはコツバメの幼虫がリンゴの幼果を加害するという報告がカラー図版付きで紹介しており、日本国内で最初の蝶類幼生期報告として注目されている。

昭和時代に入り、鳥根師範学校に酒井榮吾・雪吹敏光の指導のもと「鳥根師範学校博物学会」が立ち上がった（会誌「ユウグレナ」を発行）。会には丸山巖・林実・那須辰之輔・木村康信・広江寅三・安原辰郎・長島千代司（のちの石倉千代司＝八雲村村長）らがあり、以降長く鳥根県の博物学を支えるメンバーが集った。雪吹敏光は1903年に「昆虫と植物の関係」（富山房）を著していたし、広江寅三は昭和6年（1931）に三瓶山の蝶30種を報告した。この中にある「コヒョウモンモドキ」は疑いなく「ウスイロヒョウモンモドキ」で、広江は最初に鳥根県のウスイロヒョウモンモドキを発見した人物となる。広江は師範学校卒業後、伯太町赤屋小学校に勤務し同地からギフチョウを発見するなど有望なナチュラリストとして活躍したが惜しくも心臓麻痺で1936年に没した。なお鳥根県のギフチョウの最初の報告者は柳楽泰久で1935年、簸川郡出西村の記録となる。

旧制三刀屋中学に進学していた青木浩（鳥取県青谷町出身）は1931年に三刀屋でオオウラギンヒョウモン、ギフチョウをすでに採集していたことが没後まとめられたコレクション目録で明らかになった。この700箱5万頭の膨大な青木浩コレクションは没後に淀江の仲介で奥様から大阪市立自然史博物館に寄贈され、「日本一のコレクション」ともいわれている。アマチュアの集積した標本が自然史のサイエンスとして生きていく好例である。

岡部武夫（1931）は隠岐の動植物目録をまとめて昆虫272種を記録したが、この中には明らかに誤りと思われる種が含まれる。同じ頃、鳥根師範を卒業して故郷で奉職した木村康信（1932）が隠岐島前の昆虫82種を記録、

続いて昭和14年（1939年）には隠岐の昆虫354種を孔版で刊行した。このレポートはきわめて精度が高く、隠岐の昆虫研究の原点となるものである。木村はこれ以降も平成9年（1997年）90歳で亡くなる直前まで、古き良き博物学の伝統に従って陸続と報告を続けた。特に昭和15年（1940年）、ルーミスジミを発見したときの思い出日記を読むと、珍チョウ採集直後の興奮、ときめき、息づかいさえ生々しく伝わってくる。博物学の醍醐味であろう。

また、東京農業大学の神谷一男・山本玄（1934）は隠岐で自らの採集と田中房太郎の標本から甲虫160種を報告している。

第二次大戦中で中断していた昆虫の調査は、戦後、松江高校教諭に赴任した平田信夫によるカミキリムシやチョウなどの採集で再開された。台湾から引き揚げ島根県農事試験場に赴任したカミキリムシの権威水戸野武夫の指導もあり、その成果を後に「昭和20年代の島根県のカミキリムシ目録」として147種を報告（平田、1990）した。

昭和26年（1951）に水戸野武夫や平田信夫は増田耕作、上田常一とともに「島根生物学会」を立ち上げた。「会報」は5号まで発刊され、昆虫関係としてはスネケブカヒロコバネカミキリなどの報文がある。さらに同学会編集になる「生物の採集と標本の作り方」（1951）という116ページの小冊子も発刊しており、平田信夫が「松江市近傍に於ける採集地案内」を執筆している。

また、この頃から松江高校、出雲高校、大田高校、浜田高校、益田産業高校、津和野高校の生徒が中国山地や三瓶山などで熱心に採集し、その成果をそれぞれのクラブ雑誌（孔版）に発表した。戦後まもなくの新制高校生徒による情熱的な昆虫採集は全国的なものであり、この時代は昭和初期の第一次昆虫採集黄金時代に続く第二期黄金時代といわれている（因みに第三次黄金時代は1970年代である）。

ことに増田耕作が指導した益田産業高校の生徒は、西中国山地はもとより県西部の河川敷や海岸を熱心に探索し、エサキナガゴミムシ、ハマダナガチビゴミムシ、イソチビゴミムシ、ウミミズカメムシ、イソジョウカイモドキなどの新種や希少種を発見した。チョウでは恐羅漢山のウラジャノメの西日本新発見が特筆されるほかイシガケチョウやナガサキアゲハも採集した。これらは会誌「RARE INSECTS」に図入りで正確に記録されている。

昭和26年（1951）には、浜田高校生物部の山田隆保、岡田雅裕、成瀬吾朗らが社会人も混じえ「浜田昆虫同好会」を立ち上げ、会誌「昆虫石見」を発行した。この会誌は2号で終わったが、岡田が著した「島根県石見地方産蝶類採集目録」の小冊子とともに、今なお島根県西部の昆虫相を語る際には欠かせない資料となっている。ハヤシミドリシジミはその当時未記載種であったし、オオウラギンヒョウモンも普通にいたようである。山田隆保のコレクションは没後、淀江の仲介によって奥様から三瓶自然館に寄贈され目録が刊行されている。

昭和20年代後半から50年代にかけては、森山正治が奥出雲地域（おもに呑谷）のチョウやカミキリムシを採集して、シータテハなど多くの知見をもたらした。森山のコレクションは淀江の仲介で宍道湖自然館に寄贈された。

島根県事試験場に赴任した藤村俊彦は害虫防除試験の傍ら昆虫採集を行って、カミキリムシ186種（藤村、1966）など多くの記録を残した。

島根農科大学（のち島根大学農学部）の近木英哉は、島根県自然環境保全地域候補地調査で各地の昆虫類をまとめたほか、「山陰の蝶」「島根半島の昆虫」「三瓶山の昆虫」「山陰の虫たち」などの啓蒙書を多く執筆した。近木コレクション（枕木山のオオウラギンヒョウモンなどを含む）は淀江の仲介で宍道湖自然館に寄贈されている。

高校教員だった大島弘は一畑薬師など各地でガの灯火採集を行い、新種とされた種を含め多くの種類を記録した。大島は中国地方5県の鱗翅目研究者の集まり「六虫会」（2013年で27年目になる）の提唱者としても知られている。

昭和31年（1956）、松江高校の生徒たちを中心にして「松江昆虫同好会」が発足、会誌「千鳥」を発行した。指導者は鳥取の自然史学の大家・小林一彦。メンバーの中井衛、若槻匡志らはいまなお昆虫研究者として現役である。

昭和35年（1960）、島根大学教育学部の教官主導で「松江生物懇話会」が発足し、会誌「松江生物懇話会会報」を5年にわたって12号まで発行した。昆虫では、若浜健一によるショウジョウバエがあるくらいだが、注目すべきものとして上田常一による「島根の博物教育大家の列伝」の連載がある。上田は典型的ないわゆる博物学者で該博な知識と強い好奇心を持ち、「山陰の動物誌」「宍道湖の動物たち」「出雲の竜蛇」などの啓蒙書を著した。昆虫記事もオリジナルなものが含まれている。上田の標本は没後、三瓶自然館に寄贈された。

昭和43年（1968）、出雲市の高校生、岡義人が後藤雅人、石田明儀らと「島根昆虫同好会」を立ち上げ、会誌「NECYDALIS」を発行した。当時、六日市町の高校生だった能見豪がクロミドリシジミを報告したのは特筆すべき大発見だった。また岡義人は神戸川から多数のシルビアシジミを採集したが、その後40年以上再発見されていない。現存する標本はきわめて重要なものとなっている。石田明儀は高知大学に進学し昆虫学を専攻、卒業後は土佐高校で教員を勤めた。有望なナチュラリストだったが、若くして難病で没した。標本は大阪市立自然史博物館に寄贈された。

昭和47年（1972）、昆虫好きの中学生・曾田貞滋（現・京都大学大学院理学研究科動物生態学研究室教授）が「しまね虫屋連盟」を結成し、会誌「Longicorn」を発行した。その後誌名は「すかしば」と改称され、同・連盟は1975年に「山陰むしの会」に発展した。山陰むしの会には山陰地域（島根・鳥取・隠岐だけでなく萩を含む山口北部、丹波を含む兵庫県北部まで）に興味を持つ多く

の研究者、アマチュアが入会して、生息分布や生態の調査結果を発表した。「すかしば」はいま現在60号を数え、調査研究成果発表の場として、この地域の昆虫相を語る最重要文献資料として欠かせないものとなっている（「すかしば」は創刊したときからISSNを取得し、国立国会図書館、島根県立図書館を始め、県内の主要図書館に毎号欠かさず寄贈されている）。

山陰むしの会の活動をいくつかあげると、「山陰のトンボ」（山陰中央新報社、1993）は小泉八雲市民文化賞を受賞したし、「山陰のチョウたち」（1994）はいまなお愛読者が多くチョウの好きな人たちのバイブルともいわれている。

また、多くの同好者がこの会で育ったが一人だけ紹介すると、旧・匹見町の開業医・中村泰士があげられる。多忙の仕事の間隙を縫うようにして（シーズン中は朝4時半に出発して8時半には帰宅）、膨大なコレクションを作成した。これは没後、淀江の伸介で奥様から三瓶自然館に寄贈された。さらに、旧・六日市町で小学校の野外活動で昆虫採集を指導していた田中幾太郎が少なからぬコレクション（サツマジジミやクロコノマチョウなどを含む）を作成していた。これは長く幻となっており行方不明だったが、淀江が新築なった蔵木小学校の理科実験室の倉庫から見出し、関係者の了解を得て譲り受け、整理後、三瓶自然館に寄贈した。

このころ、島根大学の学生、久保田直哉（現・農水省）、伊藤文紀（現・香川大学教授）、鈴木謙治（現・山陰むしの会会員）らが、「島根大学野外研究会」というグループを結成し、隠岐諸島や匹見峡など各地で採集活動をしている。その結果は「CYGNUS」というクラブ誌に次々と報告された。とりわけ、久保田は知夫里島のオオウラギンヒョウモン、島後のエゾミドリシジミという大発見をなしている。

1991年からは数年間、島根県からの委託によって県内の昆虫相調査が実施されることになり、「島根県昆虫研究会」が新たに組織された（代表：前田泰生島根大学生物資源科学部教授）。この会は旧・匹見町加令谷、旧・瑞穂町、旧・頓原町、浜田市、江津市、三瓶山の昆虫相調査を行い充実した印刷物を発行した。

さらには近年、国土交通省による河川水辺の国勢調査（斐伊川、江の川、高津川）というきわめて大規模な組織的調査が5年ごとに実施され多くの新知見が大量の標本とともに蓄積されている。

平成に入り、2002年には三瓶自然館が拡充されて自然史博物館として生まれ変わり、昆虫担当学芸員も配属され、研究報告書も出版されるようになった。1997年には、ホシザキグリーン財団が野生生物研究所を立ち上げ、昆虫担当研究員も配属されて調査研究結果を充実した印刷物として発行を続けている。

以上のように、島根県内の昆虫相の解明も飛躍的に進展し、十分とはいえないまでもレッドデータ該当種の選定や検証が可能な状況となった。

## 2. 希少種から見た昆虫相の概要

以下、「希少種から見た昆虫相の概要」を述べるが、いわゆる普通種（ヤマキマダラヒカゲ、ヤマトスジグロシロチョウ、アサギマダラなど）や近年分布拡大している種（タイワンウチワヤンマ、イシガケチョウ、クロマダラソテツジミなど）には触れていないため、本来の意味での「島根県の昆虫相の概要」ではない。

〔東部地域〕

船通山、吾妻山、大万木山など1,000m級の山々にはコナラ、ミズナラや頂上部にはブナ林もあり、谷筋にはオニグルミ、ナラガシワなども見られる。フジミドリシジミ、エゾミドリシジミ、オナガシジミなどが生息する。猿政山山麓の呑谷にはヒサマツミドリシジミ、シータテハの古い記録があり、旧・頓原町の都加賀峠周辺からはゴマシジミが記録されている。谷間の溪流にはムカシトンボ、クロサナエが生息し、赤名湿原にはミドリシジミ、ヒメシジミ、ゴイシシジミ、ハッチョウトンボ、カラフトゴマフトビケラ、スゲハムシ、スジグロボタルなどの記録がある。

中山間地の雑木林や社寺林周辺では、局所的にギフチョウ、ヒロオビミドリシジミ、ウラゴマダラシジミ、ベーツヒラタカミキリの記録がある。里山の松林などに生息するハルゼミ、チッチゼミは環境の変化に注意を要する。

立久恵峡などの岩場ではナマリキシタバ、ホシミスジ、ウラナミジャノメなどが生息する。

点在する古い溜池などには、局所的にオオルリボシヤンマ、ルリボシヤンマ、ゲンゴロウ、タガメ、キンイロネクイハムシ、チュウブホソガムシ、ヤマトホソガムシ、コガタノゲンゴロウなどが生息する。このなかでゲンゴロウ、タガメの減少は著しい。

島根半島にはウラナミジャノメ、ヒメハルゼミ、オオセンチコガネ、アオヤンマ、エサキアメンボが生息し、ムネシロテンカバナミシヤク、オオハナカミキリの記録がある。海岸部（岩場～波打ち際）にはシルビアシジミ、ヘリグロチャバネセセリ、ハマベハサミムシ、ウミミズカメムシ、ウマヅライソハネカクシ、イソチビゴムシ、イソジョウカイモドキなどの重要種が生息する。近年、全国各地でシカによる環境破壊が問題になっている。滋賀県ではカンアオイ類がすべて食害されギフチョウが壊滅した報告があるほか、対馬特産種のツシマウラボシシジミも食草ヌスビトハギがすべて食害されて絶滅寸前（すなわち日本から消滅）となっているなど昆虫類に多大な悪影響を及ぼしている。島根半島西部山地のホンシュウジカ生息地ではまだそのような報告はないが今後注意を要する。

斐伊川の水辺の国勢調査では1992年調査で1,360種、1997年調査で1,395種、2002年調査で1,359種、2007年調査で1,122種が記録された（淀江ほか、1998など）。重複種を整理すると斐伊川水系の国交省管轄区間から3,035

種が確認されたことになる。これは一つの地域からの昆虫相解明率としては100%に近づきつつあると思われる。砂底の中流域はコカワゲラの国内唯一の産地であり、キイロヤマトンボ、アヤスジミゾドロムシも確認されている。下流域から宍道湖にかけてナゴヤサナエが生息し、堤防ではジャコウアゲハが見られる。派川河口域にはムスジイトンボも確認されている。

神戸川河口付近から差海川河口にかけての出雲砂質海岸には、良好な海浜植生が拡がり、オオヒョウタンゴミムシ、ハラビロハンミョウ、ニセマグソコガネ、キバラハキリバチ、ハマズズ、ハマベツチカメムシ、ハマゴウノメイガ、ハマベウスバカゲロウ、オオウスバカゲロウなどの重要種が生息しており、海浜とその植生の保全が重要である。

#### 〔中部地域〕

国立公園の三瓶山は、中国山地脊梁部から離れて位置し、室の内（特別保護地区）と呼ばれる旧火口を囲む6峰からなる活火山で、ブナ、カシワ、コナラ、クヌギなどの林や草原や放牧地からなり1,996種の記録（鳥根県昆虫研究会，1994）がある。とくにウスイロヒョウモンモドキは県内唯一の生息地として保護対策が進められているほか、ギフチョウ、ハヤシドリシジミ、クロミドリシジミ、ウラミスジシジミ、オナガシジミ、クロシジミ、ヒメヒカゲ、ダイコクコガネ、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、マルタンヤンマ、ルリボシヤンマ、アカエゾゼミなどが生息する。三瓶山には少なからず生息していたオオウラギンヒョウモンは1970年代前半に絶滅したものと推測されている。

広島県と接する旧・瑞穂町亀谷峠周辺では、1,292種の記録（鳥根県昆虫研究会，1994）があり、ギフチョウ、ウラジロミドリシジミ、ゴマシジミ、ムカシトンボ、ルリボシヤンマなどが生息する。旧・瑞穂町後木屋にはヒョウモンモドキ、ヒメシジミの記録があるが、生息地の湿地が埋め立てにより絶滅したと推定されている。旧・羽須美村のナラガシワ林にはヒロオビミドリシジミ、ウスイロオナガシジミが生息する。

西中国山地の東端に位置する天狗石山、雲月山、大佐山の一带は資料不足であるが、天狗石山にはフジミドリシジミ、雲月山にはヒメヒカゲ、ヒメシジミ、ホソハンミョウの記録があり、傍示峠からはヒョウモンモドキ、ヒメシジミ、ホシチャバネセセリの記録があるが、この湿地も荒廃し絶滅状態である。中山間部に点在する古い溜池や休耕田では、局所的にゲンゴロウ、タガメが生息するが、シャープゲンゴロウモドキが確認された生息地は荒廃し、その後採集されていない。

江の川での河川水辺の国勢調査（1999）では1,576種が記録（中村ほか，2001）されているが、347種は上流の広島県でのみ確認されており、それを除くと1,229種となる。この国勢調査は5年ごとに実施されており2004年の3回目の調査の結果では、重複種を整理して合計2,609種となる。マクガタtentウや最下流地点でタイリクアカネの記録がある。堤防のミヤコグサ群落にはシ

ルビアシジミも生息する。美郷町粕淵、江津市松川周辺の流域にはキイロヤマトンボが生息し、トンボ研究者には日本を代表する産地と称される。全国的にもまれになっているカワラバタも生息する。静間川下流にはナゴヤサナエ、キイロヤマトンボの記録がある。

大田・江津・浜田の砂質海岸には、オオヒョウタンゴミムシが生息し、江の川河口から石見海浜公園にかけての砂質海岸には局所的にハラビロハンミョウ、カワラハンミョウが生息する。また周布川河口の渚の礫下や岩礁でイソチビゴミムシ、イソジョウカイモドキが採集されている。

#### 〔西部地域〕

西中国山地の標高1,000mを超える恐羅漢山、安蔵寺山、冠山、平家ヶ岳や裏匹見峡、安蔵寺山加令谷などの渓谷には、ブナ、ミズナラ、トチノキ、サワグルミなど植生豊かな自然林が残され、昭和20年代に益田産業高校の生徒たちが分け入り熱心に採集した地域である。フジミドリシジミ、スギタニルリシジミ、ヒサマツミドリシジミ、ミスジチョウ、ウラジャノメ、オオチャイロハナムグリ、スネケブカヒロコバナカミキリ、コエゾゼミが生息し、ヒゲジロホソコバナカミキリ、オオホソコバナカミキリ、キバジュズハシアリの一種（未記載）も記録されている。谷間の溪流にはムカシトンボ、ヒメサナエが生息している。

山麓のナラガシワやクヌギ林ではヒロオビミドリシジミ、クロミドリシジミ、オオミドリシジミ、オオムラサキ、近隣のアカガシ林ではキリシマミドリシジミが生息し、道路沿いの灯火に飛来したタガメ、ゲンゴロウの記録もある。また海岸に近い大麻山にホシミスジやギフチョウの記録がある。

浜田市近郊の三階山は標高379mの低山地であるが、中国山地の出店的性格をもち、ギフチョウ、ヒメシジミ、ウラゴマダラシジミ、クロヒカゲモドキ、ウラナミジャノメ、ホシミスジ、オオムラサキなどを多産したが、近年の相次ぐ大規模開発によって生息地のほぼすべてが壊滅した。

高津川の水辺の国勢調査（1995）でシルビアシジミ、ギンイチモンジセセリ、ゲンバイトンボ、キイロサナエ、ヒメサナエ、アオヤンマ、マクガタtentウを含む1,036種が報告（松田ほか，1999）されている。この河川調査は5年ごとに実施されており、2005年までの合計は2,175種となる。上流の旧・匹見町匹見でトゲナベブタムシ、澄川でオキナワリチラシ、下流の河川敷ではカワラバタが採集されている。砂底の清流にはキイロヤマトンボも産する。田の浦から戸田小浜にかけての砂質海岸ではギンイチモンジセセリ、ハラビロハンミョウ、カワラハンミョウ、オオヒョウタンゴミムシが生息する。

益田市の小学生親子（宮本詔子、聡史）が50年ぶりとなる稀種ヒロシマサナエを再発見し、さらにベニイトンボを新発見したのも特筆すべきことであった。

#### 〔隠岐地域〕

隠岐諸島は島後と島前に大別され、昆虫相も大きく異

なる。明治年代に隠岐に渡りチョウ目179種を報告した三宅恒方は、隠岐の昆虫相について「面積に比べ種類数が多く、個体数も甚だ多い。田中房太郎氏は湿潤で草木が繁茂し、食草が豊富なためという。島前と島後は予想外に異なるが、面積、山の深さ、開発の度合いによるものであろう。全体の昆虫相は島根半島などに似ているが、個体数など詳細に見ると異なる(要旨)」と述べられ(三宅, 1908)、また江崎悌三(1941)には「注目すべき事実は、隠岐と紀伊・大和地方と類似し、両地方に産する特殊な昆虫が他の地域で見られない(要旨)」と記されている。

島後は最大の島で、大満寺山、時張山、横尾山など標高500~600mの山と急峻な谷が海岸まで延びて平地は少ない。コナラ、ミズナラ、クヌギ、オニグルミ、ウラジロガシ、スダジイ、アカガシなど植生は豊かで自然林も点在する。ルーミスシジミ、キリシマミドリシジミ、エゾミドリシジミ、オナガシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウラキンシジミ、カラスシジミ、オキナワリチラシ、ムカシトンボ、ハネビロエゾトンボ、スネケブカヒロコバナカミキリが生息し、ネズミホソバ、クビアカモモトホソカミキリ、タキグチモモトホソカミキリ、ベーツヒラタカミキリ、タガメの採集記録もある。近年キンコルリクワガタも発見され注目を浴びた。特産種にオキチャイロコガネ、オキツヤヒサゴゴミシダマシ、ダイセンオサムシ隠岐亜種、マイマイカブリ隠岐亜種、ヤコンオサムシ隠岐亜種がある。

島前は島の規模も小さく、西ノ島の焼火山(452m)を中心に中ノ島、知夫里島が環状に囲んで内海を形成する。焼火山、高崎山周辺は樹種に恵まれているが、多くは急傾斜の地形で灌木や放牧地が多い。ウラキンシジミ、アカシジミが生息する。知夫里島はオオウラギンヒョウモンの生息地として知られるが、近年は記録が途絶えている。アオハナムグリ島前亜種は最近記載された種で、島後には緑色のアオハナムグリ(原名亜種)が分布し、島後と島前の約10kmの距離で亜種が異なる例として注目される。ホシミスジ隠岐亜種、ウラゴマダラシジミ(本種もまた島後と島前で顕著な地理変異が見られる)、クロシジミ、ネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、タガメ、コガタノゲンゴロウなどが生息する。

以上を踏まえ、隠岐の主要な生態系を昆虫から見て整理すると、次のようになる。

- ①アカガシ、ミズナラなどの原生林：ルーミスシジミ、キリシマミドリシジミ、エゾミドリシジミ、キンコルリクワガタ、フタスジカタビロハナカミキリなど。
- ②オニグルミなどを含む溪谷：ムカシトンボ、オナガシジミなど。
- ③海岸岩場：ホシミスジ隠岐亜種、ナマリキシタバ、クビジロツメヨトウ、イソハサミムシ、ウミミズカメムシ、ハマベゴミムシ、オオツノハネカクシ、イソジョウカイモドキなど。
- ④牧場・草原：オオウラギンヒョウモン、クロシジミ、ウラギンスジヒョウモン、シルビアシジミ、フタテン

カメムシなど。

- ⑤里山の雑木林と溜池：オキナワリチラシ、ウラキンシジミ、ウラゴマダラシジミ、カラスシジミ、イチモンジチョウ隠岐亜種(未記載種)、スネケブカヒロコバナカミキリ、ダイセンオサムシ隠岐亜種、マイマイカブリ隠岐亜種、ヤコンオサムシ隠岐亜種、アオハナムグリ島前亜種、タガメ、ミズスマシなど。

### 3. 最新の分類群別の情報

主要な分類群について近年新たにまとめられているものがある。おもなものをコメント抜きで紹介しておく。

- 島根県のトンボ目は91種(大浜, 2013私信)。
- 島根県のゴキブリ目は7種(松田, 2011)。
- 島根県のバッタ目は115種(林, 2014準備中)。
- 島根県のカメムシ目異翅亜目(カメムシ類)は375種、頸吻亜目(セミ、ウンカ類)は202種(尾原, 2006)。
- 島根県のキジラミは74種(林・宮武, 2012)。
- 島根県のアブラムシは147種(吉富・安達, 2013)。
- 島根県のコウチュウ目は2,548種(林, 2011)。
- 島根県の水生甲虫は145種(林, 2012)。
- 島根県のネジレバナネ目は14種(前田・北村, 2006)。
- 島根県のメバエ類は15種(前田, 2006)。
- 島根県のニクバエは21種(柿沼, 2010)。
- 島根県のチョウ類は139種(淀江・坂田・藤原・山本, 2006) + ヒメシロチョウ、キマダラルリツバメ、クロマダラソテツシジミ。
- 島根県のガ類は1,952種(三島, 2013)。
- 隠岐島の直翅系昆虫類はバッタ目88種など(林・門脇, 2013)。
- 隠岐島のコウチュウ目は1,074種(林・門脇, 2012)。

### 4. 「しまねレッドデータブック1997」掲載種と保護対策

「しまねレッドデータブック1997」には、島根県の貴重野生動物リスト(島根県, 1995)に掲載された昆虫296種の中から、絶滅の危機に瀕し緊急に保護すべき種(緊急保護種)に、オオウラギンヒョウモン、ルーミスシジミ、ヒョウモンモドキの3種。生息状況が悪化し緊急保護種に移行するおそれのある種(要保護種)に、ウスイロヒョウモンモドキ、キリシマミドリシジミ、タガメ、ナゴヤサナエ、オオヒョウタンゴミムシなど25種。今後の推移に注意する必要がある種(要注意種)に、ムカシトンボ、ゲンゴロウ、オキナワリチラシなど60種の計88種が掲載されている。

緊急保護種のうちオオウラギンヒョウモンは、残された唯一の生息地であった知夫里島で、数年にわたり生息調査が実施されたが確認されず、ヒョウモンモドキも生息地であった湿地が荒廃しており、いずれも絶滅した可能性が高い。ルーミスシジミは生息地での継続調査により、面積は狭いながらもアカガシ林の環境が維持され、

キリシマミドリシジミとともに生息が確認されており、伐採の自粛、隣接地の松くい虫防除の農薬散布の除外など生息環境の保全が要請されている。

要保護種のウスイロヒョウモンモドキは、三瓶山で和牛の過放牧による衰退が進行しており、現在きわめて限られた場所に細々と生息している状況である。発生個体数の調査と食草の増殖などの保護対策が講じられている。タガメは一般の参加を求めた生息情報の収集で、密度は低いが各地で生息が確認され、幼虫飼育を委託する「タガメの里親事業」も行われている。イワタメクラチビゴミムシは再発見され、ヒロオビミドリシジミ、オオヒョウタンゴミムシ、ハラビロハンミョウは生息状況調査で実態が明らかになり、その他の要保護種や要注意種もゲンゴロウやトンボ類などで情報が集積されつつある。

## 5. 「改訂しまねレッドデータブック2004」の掲載種

総数は286種で大幅に増加したが、生息地や個体数の減少で新たに選定した種が大幅に増加したほか、情報不足の119種など選定基準の変更に伴うものも多い。

目別ではチョウ目95種（チョウ52種）、コウチュウ目87種、カメムシ目44種、トンボ目35種、ハチ目9種、バッタ目9種、ハエ目3種で、その他4目は各1種である。生息状況がよく把握されているチョウやトンボは既知の種数に対する割合が多い。

〔絶滅危惧Ⅰ類〕

絶滅の危機に瀕している種として、チョウ目14種（チョウ13種）、コウチュウ目11種、カメムシ目2種、トンボ目3種、バッタ目1種、カワゲラ目1種の計33種が選定されている。ルーミスシジミ、コカワゲラ、ダイコクコガネなど生息地が限られ個体数が少ない種である。オオウラギンヒョウモン、ヒョウモンモドキ、シータテハは絶滅した可能性が高い。

〔絶滅危惧Ⅱ類〕

絶滅の危機が増大している種として、チョウ目17種（チョウ16種）、コウチュウ目3種、カメムシ目5種、トンボ目5種、ハチ目2種、ハエ目1種の計32種が選定されている。タガメ、ゲンゴロウ、ギフチョウなど生息地は点在するが個体数が少ない種や、ナゴヤサナエ、キリシマミドリシジミなど生息地は限られるが個体数はやや多い種で、いずれも減少傾向がある。

〔準絶滅危惧〕

絶滅危惧種に移行する恐れがある種として、チョウ目35種（チョウ14種）、コウチュウ目16種、カメムシ目15種、トンボ目27種、ハチ目6種、バッタ目1種、ガロアムシ1種、ハエ目1種の計102種が選定されている。オオムラサキなど広く分布するが個体数が少ない種や減少傾向の種などである。

〔情報不足〕

減少傾向にあるが情報不足の種として、チョウ目29種（チョウ9種）、コウチュウ目57種、カメムシ目22種、バッ

タ目7種、カマキリ目1種、トビケラ目1種、ハチ目1種、ハエ目1種の計119種が選定されている。全国的な希少種や他府県のレッドデータ対象種で県内に生息するが情報不足の種、県内に基準標本産地があつて情報不足の種などである。

なお、「しまねRDB」（1997）で要注意種とされたムラサキツバメは、近年急速に北上を続けている個体群と昔から隔離されていた個体群の識別が困難であることから、レッドデータブック対象種から除外された。

## 6. 「改訂しまねレッドデータブック2014」の掲載種

今回の再改訂にあたって、昆虫分科会を設置し（委員は13名）、各分類群担当者から提出された候補種とランク付けについて検討し、分科会として決定した。

総数は342種と大幅に増加した。新規掲載種は85種である（これらは担当者各自がいわゆる定性的に判定したものであり、今後は定量的判定が必要になるだろう）。

目別ではチョウ目101種（チョウ54種）、コウチュウ目119種、カメムシ目59種、トンボ目27種、ハチ目12種、バッタ目8種、トビケラ目6種、ハエ目5種で、その他5目は各1種である。

50年以上前からの生息状況がよく把握されているチョウ類は既知の種数に対する割合が多い。チョウ類は長年のデータの蓄積があることに加え、食草や生息環境がほぼ解明されていることにより、環境のよしあしを判定する重要な指標生物となっている。コウチュウ目は種数が大きく増加したが、その多くは調査研究の進展により新たに選定されたものである。一方、トンボ目は種数が大きく減少したが、これがヤゴの生息する水辺環境の良好な改善を意味するものではない。

〔絶滅〕

ヒメシロチョウ：

2000年、倉敷市立自然史博物館に寄贈された平田信夫コレクション3万点のなかに、「1952年7月12日、仁多町呑谷」ラベルのヒメシロチョウ1♂が見出された。これを仔細に検討した結果、間違いなく「旧・仁多町呑谷峠」で採集されたものであることが判明した。白水隆博士が紹介した2つの文献（白水、1958,1959）の根拠がまったく別の情報によったものであることがわかり確定できたものである。その後の環境は放牧場から森林に遷移しており、すでに絶滅していると判断された。この検証ができたのは、残された標本そして古い文献がいかに自然史情報として大切なものか、「知識の保全活動」のたまものであった。なお、本種は広島県高野町でも1992年には絶滅したとされており、中国地方から消滅した。

〔絶滅危惧Ⅰ類〕

トンボ目4種、カワゲラ目1種、バッタ目1種、カメムシ目2種、コウチュウ目10種、チョウ目20種の計38種が選定された。

このなかにはオオウラギンヒョウモン、ヒョウモンモ



ドキ、ウスイロヒョウモンモドキ、シータテハのようにすでに絶滅している可能性が高い種と、今まさに絶滅寸前と思われるゴマシジミ、ウラジャノメ、クロヒカゲモドキ、ホシチャバネセセリなどが含まれている。

また、新たにキマダラルリツバメが加わった。本種はムネジワハリブトシリアゲアリと共生する変わった生態を持つチョウで鳥取市では国の特別天然記念物に指定されている。県内では板垣治による1例の記録しかない。

海浜性のハラビロハンミョウ、カワラハンミョウ、オオヒョウタンゴミムシ、良好な水辺環境に生息するヒロシマサナエ、コカワゲラ、タガメ、トゲナベブタムシ、ゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキなども含まれる。コカワゲラは斐伊川が国内唯一の生息地である。

コバネアオイトトンボ、モートンイトトンボ、マイコアカネは近年急速に減少している。

〔絶滅危惧Ⅱ類〕

トンボ目8種、カメムシ目5種、コウチュウ目6種、ハチ目2種、ハエ目1種、チョウ目17種の計39種が選定された。

このなかには分布域が狭く、個体数も少ないオツネトンボ、ベニイトトンボ、ハネビロエゾトンボ、キロヤマトンボ、ハッチョウトンボなどのトンボ類やコオイムシ、コガタノゲンゴロウ、ツヤネクイハムシなど水辺・湿地環境に生息する種が目立っている。

低山地のナラガシワ林に依存するヒロオビミドリシジミ、ウスイロオナガシジミも雑木林の荒廃で減少傾向にある。林縁性のスジボソヤマキチョウ、オオムラサキ、クモガタヒョウモンなども急速に減少しつつある。

海浜固有の生態系に依存するニッポンハナダカバチ、キバラハキリバチや、塩性湿地に生息するハマベゴミムシ、オオツノハネカクシなども含まれる。

〔準絶滅危惧〕

トンボ目15種、カマキリ目1種、バッタ目4種、ガロアムシ目1種、カメムシ目25種、アミメカゲロウ目1種、コウチュウ目30種、ハチ目6種、ハエ目1種、チョウ目32種の計116種が選定された。

ハマスズ、ショウリョウバッタモドキ、ヤマトマダラバッタなどのバッタ目、ホッケミズムシ、オヨギカタビロアメンボ、ハマベナガカメムシ、オオミズムシ、アダチアカサシガメ、シリアカハネナガウンカなどカメムシ目が増加している。アミメカゲロウ目のハマベウスバカゲロウは自然度の高い海浜植生に限定される。

〔情報不足〕

バッタ目3種、ハサミムシ目1種、カメムシ目27種、コウチュウ目73種、ハチ目4種、ハエ目3種、トビケラ目6種、チョウ目31種の計148種が選定された。

コウチュウ目が著しく増加した。これらは調査研究の進展によるものである。特に大畑純二による新属新種クロゲンセイの画期的な大発見は昆虫の調査に限界がないことを示し、全国的に注目された。その他、まだ採集地点が少なく分布の実態がつかめないものや、全国的な希少種などが含まれている。

カメムシ目のイシハラカメムシ、ミズカメムシなどは近年、県内で確認された希少種である。ミヤケミズムシは環境省第4次レッドリスト（2012）で追加された種である。

### カテゴリーが変更された種

上位のカテゴリー区分への変更種が17種ある。絶滅危惧Ⅰ類にランクアップした種がモートンイトトンボ、タガメ、ハラビロハンミョウ、ゲンゴロウ、ウラナミアカシジミ、シルビアシジミ、ゴマシジミ、ウラギンスジヒョウモン、キバネセセリである。ゴマシジミは隣県の広島県、岡山県ではほぼ絶滅状態である。

絶滅危惧Ⅱ類にランクアップした種がネアコヨシヤンマ、ハッチョウトンボ、アオハナムグリ島前亜種、ウスイロオナガシジミ、オナガシジミ、ミドリシジミ、ミスジチョウ、オオムラサキである。アオハナムグリ島前亜種は地理的変異が著しいため、商品として売買されている実態がある。

逆に下位のカテゴリー区分への変更種が9種ある。絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンした種がコオイムシ、コガタノゲンゴロウの2種。準絶滅危惧にランクダウンしたのは7種。そのなかのネズミホソバ、ツマグロキチョウはいずれも最近の調査で極端に少ないものではないということが判明したためである。

### ランクから外れた種

今回の再改訂により掲載対象外等となった種は計30種である。このなかではトンボ類10種、ガ類9種が目立っている。トンボ類では山間地の生息種、また移動性の強い種など、現状では生息環境、個体数などが大きく変わることがないと判断されたものである。ガ類は、調査の進展で新しい産地が発見されたことなどによるものである。

キマダラモドキは島根県未記録種として扱うべきとされ、キュウシュウエゾゼミは誤同定によるものであった。

ダイセンオサムシ隠岐亜種とマイマイカブリ隠岐亜種は現地ではまだ多いとされ対象外となったが、この2種が重要な地域個体群であることには間違いはない。分科会でも除外することに異論が出たことを明記しておく。

## 7. 衰亡する昆虫の系統

ここでいう系統とは、いわゆる南方系、北方系あるいは西部支那系、環日本海系といった生物地理上の系統である。詳しく論じるスペースはないが、チョウ類に限ってみれば、衰亡が著しいのは北方系の種である。20年以上前から草索性チョウ類（オオウラギンヒョウモン、ウスイロヒョウモンモドキ、ヒョウモンモドキ、ヒメシジミ、ゴマシジミ、ヒメヒカゲ、コキマダラセセリ、ホシチャバネセセリなど）の衰亡が指摘されていたが、これらはいずれも北方系の種であった。絶滅危惧Ⅰ類のシータテハ、キバネセセリ、ウラジャノメなどの森林性の種

も北方系種である。軽々には言えないが、いわゆる地球温暖化による最低気温の上昇が影響を与えている可能性もあると思われる。

## 8. 今後の課題

絶滅の恐れがあり、いままさに衰亡しつつある昆虫342種をリストアップしたあと、それを知った私たちは何をどうすればいいのだろうか。

高名なチョウ研究者として知られた小路嘉明は広島県のチョウの保護策として次のように提言した（小路, 1994, 1995）。すなわち、

- ①衰亡していると思われる種を認知する。
- ②衰亡の事実があるかどうか調べる。
- ③衰亡の原因は何かを調べる。
- ④適切な保護策を講じる。

これはもちろん一般的に俯瞰できるものであり、衰亡しつつある昆虫類の保護とは、その種の分布と生態を継続的に調査し、衰亡の原因となった要因を取り除く対策を講じることに尽きるのである。

そして、これができるのは、実はプロの昆虫研究者ではなく、アマチュアの昆虫同好者なのである。本稿では、鳥根県の昆虫研究の歩みをやや詳しく書いたが、鳥根県の多様性に富んだ昆虫相を解明し、分布や生態を詳細に調査し、衰亡の実態の大半を明らかにしてきたのは高校生を含むアマチュア・ナチュラリストの手によるものであった。もちろんこれは国内各地でも世界でも共通である。

趣味の昆虫採集は無償！で、未記録種を発見する、知られていなかった地理的変異を見出す、年次ごとの発生动向をモニタリングする、学界未知の生態を解明していく。その上で文献記録と貴重な標本が集積されることは学問的にも自然保護にも貢献できるものである。かつて、標本は分類学研究を目的として作成されてきたが、現在では高度経済成長時代からの自然破壊、環境激変を受け、過去と現在の変遷を具体的に知る自然史資料としての価値が高くなっている（しかし、前提として絶滅の恐れのある昆虫の採集には良識とマナーが必要であることはいうまでもない）。

絶滅の恐れのある昆虫類を保全していくことは無論だが、より重要なことはそれを含む多様性に富んだ昆虫類全体の保全であり、それは、生息環境が保全されるか否かに帰結する。多様な生態系の保全は地域の人々の手に託されている。その地域の人々はもとより多くの人に、そこに生息する種と環境保全の重要性を説き、理解を得て協力を得ることが、今に生きるナチュラリストに課せられた使命といえよう。

（淀江賢一郎）

注記1：

鳥根県内で具体的に「保護」施策がとられている昆虫類は次のとおりである。

- (1)国立公園特別保護地区：すべての昆虫が採集禁止（昆虫だけでなく、すべての動植物、土石、落葉などを含む）。
  - ・三瓶山（親三瓶山頂、室の内周辺など）
  - ・隠岐諸島（赤壁、国賀、白島、布施海岸、海苔田鼻、小敷原山周辺など）
  - ・鳥根半島（多古七ツ穴、潜戸鼻周辺など）
- (2)種の保存法（国内希少野生動植物種）
  - ・マルコガタノゲンゴロウ
  - ・シャープゲンゴロウモドキ
  - ・ヒョウモンモドキ※採集だけでなく、標本の譲渡、移動なども禁止
- (3)自然公園法（指定動物）
  - ・ウスイロヒョウモンモドキ（大山隠岐国立公園特別地域）
- (4)鳥根県天然記念物
  - ・ゲンジボタル（邑南町口羽）
- (5)鳥根県自然環境保全条例
  - ・ハッチョウトンボ、ヒメシジミ、ゴイシシジミ（赤名湿地野生動植物保護地区）
  - ・ギフチョウ、フタコブルリハナカミキリ、ホシベッコウカギバ（女亀山野生動植物保護地区）
- (6)鳥根県指定希少野生動植物
  - ・ダイコクコガネ、カワラハンミョウ
- (7)松江市文化財保護条例
  - ・ギフチョウ（星上山）
- (8)大田市自然環境保全条例
  - ・ウスイロヒョウモンモドキ（三瓶山）
  - ・ギフチョウ（大江高山）
- (9)雲南市文化財保護条例
  - ・ゲンジボタル（雲南市大東町の赤川水系全域）
- (10)雲南市ほたる保護条例
  - ・ほたる（雲南市大東町小河内、南村、中湯石、新庄、川井、下阿用）

注記2：

かつて希少昆虫調査では無視されていた身近な普通種のアキアカネ（赤トンボ）が、石川県、兵庫県ではこの数年で10分の1以下に激減しているという詳細な報告があることなどから、いわゆる普通種のデータ蓄積がますます重要となっている。

絶滅 (EX)

○ヒメシロチョウ

1種

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

- コバネアオイトトンボ
- マイコアカネ
- ↑ タガメ
- カワラハンミョウ
- イソチビゴミムシ
- シャープゲンゴロウモドキ
- カバフキシタバ
- ↑ ウラナミアカシジミ
- ヒメシジミ本州・九州亜種
- オオウラギンヒョウモン
- シータテハ
- クロヒカゲモドキ
- コキマダラセセリ
- ↑ モートンイトトンボ
- コカワゲラ
- トゲナベブタムシ
- オオヒョウタンゴミムシ
- マルコガタノゲンゴロウ
- ダイコクコガネ
- キマダラルリツバメ
- クロシジミ
- ↑ ゴマシジミ
- ヒョウモンモドキ
- ホシミスジ近畿地方以西亜種(注1)
- ウラジャノメ
- ホシチャバネセセリ
- ヒロシマサナエ
- カワラバッタ
- ↑ ハラビロハンミョウ
- イワタメクラチビゴミムシ
- ↑ ゲンゴロウ
- オオハナカミキリ
- ルーミスジミ
- ↑ シルビアシジミ (注1)
- ↑ ウラギンスジヒョウモン
- ウスイロヒョウモンモドキ
- ウラナミジャノメ本土亜種
- ↑ キバネセセリ

計38種

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- オツネイトンボ
- ↑ ネアカヨシヤンマ
- キイロヤマトンボ
- ズイムシハナカメムシ
- サイカチマダラキジラミ
- オキチビハネカクシ
- ツヤネクイハムシ
- オオズクロメバエ
- ◇スジボソヤマキチョウ
- ↑ ウスイロオナガシジミ
- ↑ ミドリシジミ
- ↑ ミスジチョウ
- ギンイチモンジセセリ
- グンバイトンボ
- ナゴヤサナエ
- ↑ ハッチョウトンボ
- ◇ゴミアシナガサシガメ
- ハマベゴミムシ
- オオツノハネカクシ
- ニッポンハナダカバチ
- ギフチョウ
- カラスシジミ
- ↑ オナガシジミ
- クモガタヒョウモン
- ↑ オオムラサキ
- ◇スジグロチャバネセセリ
- ベニイトトンボ
- ハネビロエゾトンボ
- ↓ コオイムシ
- コエゾゼミ
- ↓ コガタノゲンゴロウ
- ↑ アオハナムグリ島前亜種
- キバラハキリバチ
- ジャコウアゲハ
- ◇ミヤマカラスシジミ
- ヒロオビミドリシジミ
- メスグロヒョウモン
- ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種(注1)
- ◇ミヤマチャバネセセリ

計39種

準絶滅危惧 (NT)

- アオハダトンボ
- ムカシトンボ
- カトリヤンマ
- タベサナエ
- エゾトンボ
- ◇ウスバカマキリ
- ◇セグロイナゴ
- マエグロハネナガウンカ
- エゾゼミ
- エゾハルゼミ
- ヒメミズカマキリ
- ウミミズカメムシ
- アカスジオオカスミカメムシ
- ヨツモンカメムシ
- ↓ フタテンカメムシ
- フトハサミツノカメムシ
- イズモメクラチビゴミムシ
- コオナガミズマシ
- ルリクワガタ
- ムスジイトトンボ
- サラサヤンマ
- ルリボシヤンマ
- キイロサナエ
- ヒメアカネ
- ◇ハマズ
- ヤマトマダラバッタ
- シリアカハネナガウンカ
- アカエゾゼミ
- ヒメハルゼミ
- ↓ ホッケミズムシ
- オヨギカタビロアメンボ
- アダチアカサシガメ
- シロヘリツチカメムシ
- アカアシクチブトカメムシ
- ハマベウスバカゲロウ
- ◎タイシャクナガチビゴミムシ(注2)
- ◇ミズマシ
- キンキコルリクワガタ
- ホソミイトトンボ
- アオヤンマ
- ヒメサナエ
- ムカシヤンマ
- ミヤマアカネ
- ◇ショウリョウバッタモドキ
- ガロアムシ類
- アヤヘリハネナガウンカ
- ハルゼミ
- エノキカイガラキジラミ
- オオミズムシ
- エサキアメンボ
- ハマベナガカメムシ
- ハマベツチカメムシ
- アオクチブトカメムシ
- ◇セアカオサムシ
- コマルケシゲンゴロウ
- ◇チュウブホソガムシ
- ヒメオオクワガタ

- オオセンチコガネ
- ニセマグソコガネ
- オオチャイロハナムグリ
- ハガマルヒメドロムシ
- オオキノコムシ
- スネケブカヒロコバネカミキリ
- ◇ キンイロネクイハムシ
- キオビホオナガスズメバチ本州亜種
- ネジロハキリバチ
- オキナワリチラシ
- スカシサン
- ↓ ネズミホソバ
- ナマリキリガ
- ツクシカラスヨトウ
- コトラガ
- ◇ ゴイシジミ
- フジミドリシジミ
- ↓ エゾミドリシジミ
- ↓ キリシマミドリシジミ
- アサマイチモンジ
- ◇ シナノエンマコガネ
- ◇ コブナシコブスジコガネ
- アヤスジミゾドロムシ
- ヨコミゾドロムシ
- マクガタテントウ
- ヨコヤマヒゲナガカミキリ
- スゲハムシ
- キヌゲハキリバチ
- シロスジコシプトハナバチ
- シロシモフリエダシヤク
- クロウスタビガ
- ホソバミツモンケンモン
- ムラサキミツボシキリガ
- ◇ コシロシタバ
- ◇ オナガアゲハ
- ウラゴマダラシジミ
- ↓ ウラジロミドリシジミ
- クロミドリシジミ
- スギタニルリシジミ
- ◇ オオチャバネセセリ
- ◇ ミツノエンマコガネ
- ◇ アカマダラハナムグリ(アカマダラコガネ)(注1)
- ケスジドロムシ
- ◇ イソジョウカイモドキ
- ベーツヒラタカミキリ
- イッシキキモンカミキリ
- ヤマトスナハキバチ
- チビトガリハナバチ
- ムネグロメバエ
- フジキオビ
- タッタカモクメシヤチホコ
- クビグロケンモン
- ヨスジキリガ
- クロシモフリアツバ
- ↓ ツマグロキチョウ
- ウラキンシジミ
- ハヤシミドリシジミ
- ヒサマツミドリシジミ
- ホシミスジ隠岐亜種

計116種

情報不足 (DD)

- コバネコロギス
- イソハサミムシ
- キスジハネビロウンカ
- ◆ カタビロクサビウンカ
- ヒメベッコウハゴロモ
- ミヤケミズムシ
- アシマダラアカサシガメ
- マダラカモドキサシガメ
- ウデワユミアシサシガメ
- ノコギリカメムシ
- エゾツノカメムシ
- アイヌハンミョウ
- ノツメクラチビゴミムシ
- オキナガゴミムシ
- マダラコガシラミズムシ
- ヒメミズスマシ
- クロコブセスジダルマガムシ
- ツマグロマルハナノミ
- マダラクワガタ
- ツノコガネ
- オキチャイロコガネ
- シラホシダエンマルトゲムシ
- ヤマトタマムシ
- ガロアムネスジダダラコメツキ
- カドワキツヤミズギワコメツキ
- ルリヒラタムシ
- クロオオハナノミ
- クロソンホソハナカミキリ
- クロサワヒメコバネカミキリ
- ハタケノウマオイ
- ムネアカアワフキ
- アリヅカウンカ
- キノカワハゴロモ
- シャシャンボキジラミ
- イトアメンボ
- クロバアカサシガメ
- ヒゲナガサシガメ
- オオメダカナガカメムシ
- ウシカメムシ
- カワラゴミムシ
- コニワハンミョウ
- ササジメクラチビゴミムシ
- ウミホソチビゴミムシ
- ムツボシツヤコツブゲンゴロウ
- コミズスマシ
- ヤマトモンシデムシ
- ホソキマルハナノミ
- ネプトクワガタ
- クロオビマグソコガネ
- オオタケチャイロコガネ (注1)
- ババチビドロムシ
- アオマダラタマムシ
- オオベニホソヒラタコメツキ
- ヒメボタル
- キイロテントウゴミムシダマシ
- クロゲンセイ
- オオホソコバネカミキリ
- トラフホソバネカミキリ
- カヤコオロギ
- チッチゼミ
- キボシマルウンカ
- スケバハゴロモ
- ミズカメムシ
- キバネアシプトマキバサシガメ
- オオアシナガサシガメ
- クビアカサシガメ
- ヒメマダラナガカメムシ
- イシハラカメムシ
- コハンミョウ
- ホソハンミョウ
- マシダナガゴミムシ
- ウミミズギワゴミムシ
- マルケシゲンゴロウ
- エゾコガムシ
- ウマヅライソハネカクシ
- オニクワガタ
- ムネアカセンチコガネ
- セスジカクマグソコガネ
- アオアシナガハナムグリ
- ヒゲナガヒラタドロムシ
- クロマダラタマムシ
- ムネアカツヤケシコメツキ
- スジグロボタル
- オキツヤヒサゴゴミムシダマシ
- フタスジカタビロハナカミキリ
- ヒゲシロホソコバネカミキリ
- ルリボシカミキリ

- オオアオカミキリ
- モンクロベニカミキリ
- アヤモンチビカミキリ
- ◆ アサカミキリ
- バッキンガムカギアシゾウムシ
- クロホシタマクモゾウムシ
- ウマノオバチ
- ケンランアリノスアブ
- カラフトゴマフトビケラ
- モリクサツミトビケラ
- ハマゴウノメイガ
- ムネシロテンカバナミシヤク
- ワタナベカレハ
- スキバホウジャク
- ウスジロドクガ
- シロホソバ
- スギタニゴマケンモン
- クビジロツメヨトウ
- キスジウスキヨトウ
- ナマリキシタバ
- オオミドリシジミ
- ヤノトラカミキリ
- タキグチモモフトホソカミキリ
- ダイセンセダカコブヤハズカミキリ
- ヒメマルミツギリゾウムシ
- タカハシトゲゾウムシ
- モジヤモジヤツチイロゾウムシ
- ダルマアリ
- ネグロクサアブ
- ギンボシツツトビケラ
- ウジセトビケラ(ウジヒメセトビケラ)
- ギンツバメ
- トガリバナミシヤク
- オナガミズアオ
- ナカスジシヤチホコ
- ナチキシタドクガ
- ニセオオコブガ
- ゴマシオケンモン
- アヤモクメキリガ
- トビイロアカガネヨトウ
- ヨシノキシタバ
- キュウシュウチビトラカミキリ
- ◆ クビアカモモフトホソカミキリ
- ハンノキカミキリ
- ミツギリゾウムシ
- ババスゲヒメゾウムシ
- フクイアナバチ
- キバジュズフシアリ
- ゴヘイニクバエ
- ビワアシエダトビケラ
- アイミヤマシマトビケラ
- クロモンチビヒメシヤク
- フタキスジエダシヤク
- ギンボシズメ
- エゾクシヒゲシヤチホコ
- トラサンドクガ
- ヒメネグロケンモン
- ウスズミケンモン
- ムラサキハガタヨトウ
- ムラサキシタバ
- ヒメアシブトクチバ

計148種

今回の改訂により掲載対象外等となった種

オオカワトンボ (注3)	マルタンヤンマ	オオルリボシヤンマ
アオサナエ	クロサナエ	コサナエ
トラフトンボ	タイリクアカネ	コノシメトンボ
キトンボ	クツウムシ	カヤキリ
キュウシュウエゾゼミ (注4)	ハマダナガチビゴミムシ (注2)	ダイセンナガチビゴミムシ (注2)
ミスミメクラチビゴミムシ	オキオサムシ (注3)	オキマイマイカブリ (注3)
ハマダラハルカ	ウスベントガリバ	ウスズミカレハ
ヒサゴズメ	コシロオビドクガ	シロフヒメケンモン
ウスアカヤガ	アミメキシタバ	ウスイロキシタバ
テングアツバ	オオウラギンスジヒョウモン	キマダラモドキ

計30種

(注1) 今回の改訂で種名が変更になった種

(前回改訂)	(今回改訂)
シルビアシジミ本土亜種	→ シルビアシジミ
ホシミスジ西日本亜種	→ ホシミスジ近畿地方以西亜種
ヒメヒカゲ本州西部亜種	→ ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種
アカマダラコガネ	→ アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ)
ヒバチャイロコガネ	→ オオタケチャイロコガネ

(注2) 前回の改訂では「ハマダナガチビゴミムシ」、「ダイセンナガチビゴミムシ」と亜種ごとに記載していたが、近年他にも複数の亜種が存在が確認されていることから、今回の改訂では種として「タイシヤクナガチビゴミムシ」を掲載した。

(注3) 今回の改訂により掲載対象外となったが、現在の種名が前回改訂から変更されている種。

(前回改訂)	(現在の種名)
オオカワトンボ	→ ニホンカワトンボ
オキオサムシ	→ ダイセンオサムシ隠岐亜種
オキマイマイカブリ	→ マイマイカブリ隠岐亜種

(注4) 前回の改訂では「キュウシュウエゾゼミ」としていたが、「コエゾゼミ」の誤同定だったため、今回対象外とした。

- : カテゴリー区分変更なしの種 (205種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (17種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (9種)
- : 新規掲載種 (85種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (22種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (3種)
- ◎ : その他変更種 (1種)

チョウ目シロチョウ科

# ヒメシロチョウ

*Leptidea amurensis* (Ménétriès, 1858)

島根県：絶滅 (EX)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 11

### 【選定理由】

島根県から広島県境の呑谷峠（のんだにだわ）で1952年7月12日に平田信夫氏が採集した1オスが唯一の記録。その後、周辺は環境が一変し、現在は絶滅していると判断される。

### 【概要】

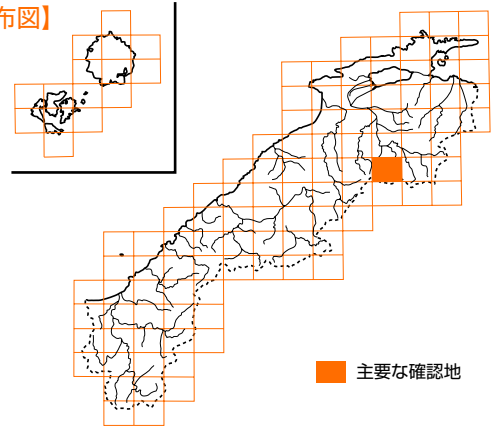
翅長20-24mm。食草ツルフジバカマの生える草地に生息。北海道、本州、九州に産するが西日本では広島県高野町、阿蘇山・九重山のみから知られていた。近年、倉敷市立自然史博物館に寄贈された平田信夫氏（元・松江高校教員）のコレクション中に「呑谷」ラベルの本種1オスがあり、これについて土橋重人・淀江賢一郎・奥島雄一の3氏が仔細に検討した結果、呑谷峠の島根県側で採集されたものに間違いがないことが判明した。

### 【県内での生息地域・生息環境】

旧・仁多町呑谷峠は、当時は放牧によって毛無山山頂から峠まで本種生息に適した大規模なシバ草原であった

が、現在は生息環境が失われ、絶滅していると判断される。広島県高野町でも1992年には絶滅したとされる。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域					海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○					○																	

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目アオイトトンボ科

# コバネアオイトトンボ

*Lestes japonicus* Selys, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

県内での分布がもともと限られる種であるが、近年、過去の産地のほとんどで生息の確認ができない状況。全国的にも減少が著しく、特に中部、関東地方では、ほとんどの県で絶滅状態である。微妙な環境変化が、本種の生息に大きなダメージを与え、他種に先駆けて絶滅するようである。

## 【概要】

全長38－44mm。金緑色があざやかな中型のイトトンボ。国産のアオイトトンボ属4種中、最小である。朝鮮半島・中国の一部に分布し、国内では青森から鹿児島まで分布するが、産地は局地的。

## 【県内での生息地域・生息環境】

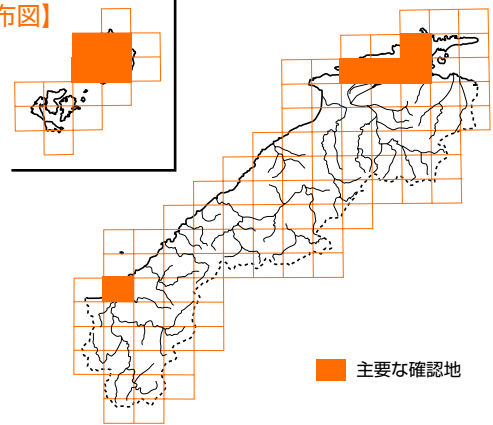
過去の記録は島根半島部と隠岐（島後）に集中している。一方を雑木林に囲まれた植生豊かで比較的大きな池沼に生息する。現在の確実な生息地は隠岐（島後）の油井ノ池だけで、ここ数年、本土側での記録が途絶えてい

る。

## 【存続を脅かす原因】

開発等による水域の植生環境の変化や背後林の消失。溜池改修等による長期間に渡る池沼の干し上げ。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○									○					○				

トンボ目イトトンボ科

# モートンイトトンボ

*Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

分布は幾分限られるものの、かつては県内で産地が散見されたが近年そのほとんどが消失。全国的にも西日本で減少傾向が著しく、絶滅したとされる県もある。

## 【概要】

全長22－32mmの小型のイトトンボ。オスは腹端部の鮮やかな橙色が目立ち、また眼後紋が弧状で、一見して他種と区別できる。未熟なメスは全身鮮やかな橙色であるが、成熟するにつれて黄緑色に変わり、腹部背面に黒条が現れる。5月中旬から6月下旬ごろが最盛期。交尾は早朝に行われ、メスが植物組織内に単独で産卵する。朝鮮半島から沿海州にかけて分布し、国内では北海道南端から九州南端まで分布。

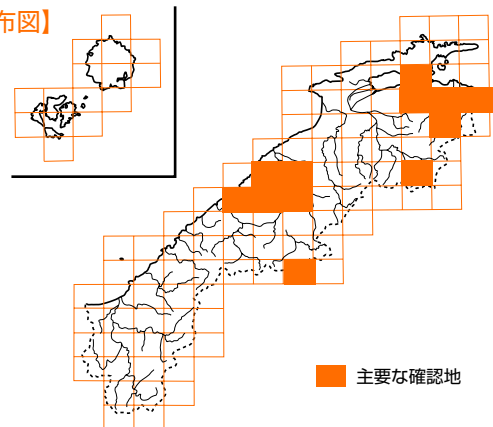
## 【県内での生息地域・生息環境】

平地から低山地にかけての湿地や休耕田等に分布するが、生息地が乾燥化、草原化する例が多く安定した産地はごくわずか。県西部と隠岐諸島では未記録。

## 【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息地の消失や湿地の乾燥化、草原化。水田への農薬散布。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○									○			○						○				

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目サナエトンボ科

# ヒロシマサナエ

*Davidius moiwanus sawanoi* Asahina et Inoue, 1973

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：中国地方固有亜種

環境省：－

### 【選定理由】

県内からは約50年間記録がなかったが、2007年に益田市で新産地が発見された。現在この産地が、県内唯一の生息地であり、また国内における本種分布域の西限となっている。

### 【概要】

全長40-46mm。黒地に黄色い条斑を持つ小型のサナエトンボ。日本特産種モイワサナエの西中国地方亜種で、1954年5月に出雲市所原町で採集された1オスが本亜種の国内初記録であり、標本も現存。その後、広島県の八幡高原で多数の生息が確認され、広島産標本に基づき亜種記載された。

### 【県内での生息地域・生息環境】

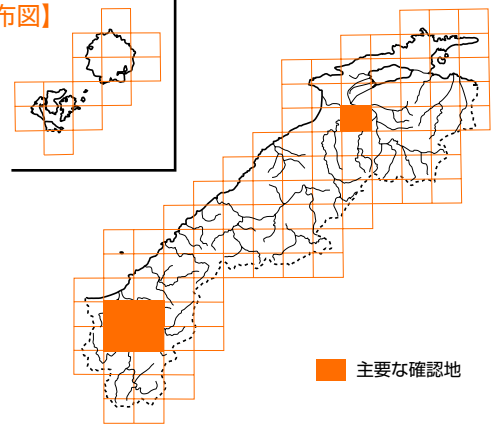
中国地方の他県の産地全てが、中国山地の分水嶺付近に形成された高標高 (alt.500~800m) の湿原等を流れる緩流であるが、益田市の生息地は低標高 (alt.100m前後) の里山的環境の溪流であり貴重。同様の環境は周辺

に少なくないことから、今後の新産地追加が大いに期待できる。

### 【存続を脅かす原因】

里山や山林開発による、生息環境の悪化や消失。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○						○						○									

トンボ目トンボ科

# マイコアカネ

*Sympetrum kunkeli* (Selys, 1884)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

過去の記録によれば、県東部の平野部で比較的普通に分布していたことがうかがえるが、ここ数年県内からの記録が途絶えており絶滅も懸念される。全国的にも近年急激な減少傾向が指摘されている。

### 【概要】

全長29-40mm。小型でやや細身のアカトンボ。成熟オスでは顔面が青白色になる。ヒメアカネ、マユタテアカネに似るが、本種では翅胸部側面に短い黒色条があることで識別できる。朝鮮半島や中国北東部にも分布し国内では北海道から九州まで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

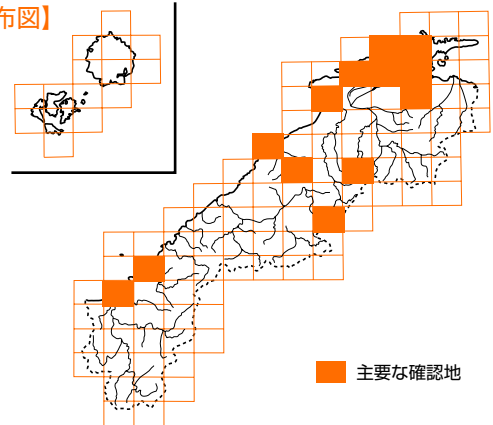
記録のほとんどが島根半島部周辺であり、中部・西部の沿岸部でも記録が散見される。おもに植生豊かな池沼に生息するが、本種は生息環境の変化に非常に敏感であり、生息地周辺の雑木林の伐採等わずかな環境変化であっても深刻な影響を受けてしまう。隠岐諸島では未記

録。

### 【存続を脅かす原因】

生息する池沼の植生環境や水質の悪化。生息地周辺の雑木林等の伐採。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○											○										



# コカワゲラ

*Miniperla japonica* Kawai, 1967

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：分布域局限種

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

斐伊川の中下流域が本種の唯一の確実な生息地とされているが、2000年以降は確認記録がなく、絶滅が危惧される。

**【概要】**

体長8mm 前後の小型のカワゲラで、1属1種の日本固有種。基準産地である京都府宇治川では1958～1959年に確認されて後、記録が途絶えている。成虫は7～8月に灯火に飛来する。幼虫の確認は斐伊川下流域の1例のみで生態は未知な部分が多い。

**【県内での生息地域・生息環境】**

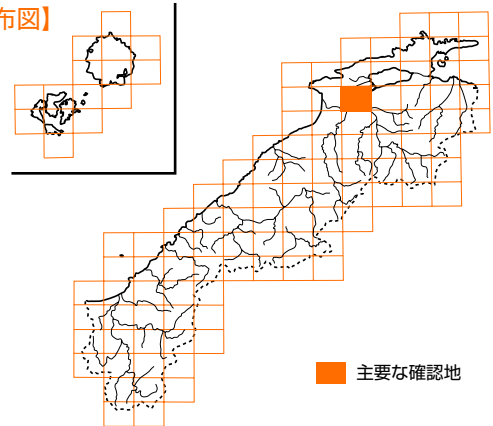
1997年に斐伊川で初めて生息が確認され、1998年に中下流域で広範に成虫、1999年に下流域の流水部の砂河床で幼虫が採集されている。しかしながらそれ以降は確認記録がなく、2006・2009・2010年には斐伊川中下流域において本種を対象とした生息調査が実施されたものの、確認に至っていない。経年調査による生息状況の把握、

幼虫の成育環境等の生態解明が急務である。

**【存続を脅かす原因】**

河川及び沿川の環境変化が考えられるが、生態未解明のため詳細は不明である。

**【分布図】**



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○											○					○					

# カワラバッタ

*Eusphingonotus japonicus* (Saussure, 1888)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内の分布は局地的であり、生息環境の変化により急激に生息数を減らす可能性がある。

**【概要】**

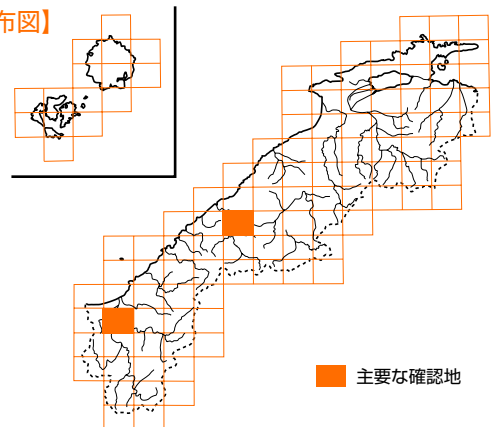
体長約25～45mm。体色は、灰色から青灰色に黒色紋を散布し、河原の礫に似た色彩を持つ。後翅中央部に褐色の半円帯があり、その内側は鮮やかな青色。中礫から大礫サイズの円礫が堆積し、草が疎らに生えるような河川敷に生息する。成虫は7～10月に出現し、河川からやや離れた場所の灯火に飛来することがある。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では江の川水系と高津川水系に局地的に生息している。過去に記録のある斐伊川水系や隠岐諸島では、現在は確認できない。過去の隠岐諸島における分布が確実であるとすると、現在は絶滅したとみられる。

洪水が起こらないことによる礫河原の草地化。大規模洪水が発生し後の復旧工事による河床礫の移動や除去。

**【分布図】**



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○	△			○					○										

**【存続を脅かす原因】**

カメムシ目コオイムシ科

# タガメ

*Lethocerus deyrollei* (Vuillefroy, 1864)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵11

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

県内では隠岐諸島も含めて広く分布するが、生息地の減少が著しく、灯火に飛来する個体の確認例も少なくなっている。危機的な状況である。

## 【概要】

体長48－65mm前後で日本最大の水生昆虫である。平野部から山間地の池や水田、休耕田、湿地などの止水域に生息している。成虫のオスが卵を守る習性がある。国外ではシベリア、朝鮮半島、台湾、中国、アッサムに分布し、国内では本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布する。

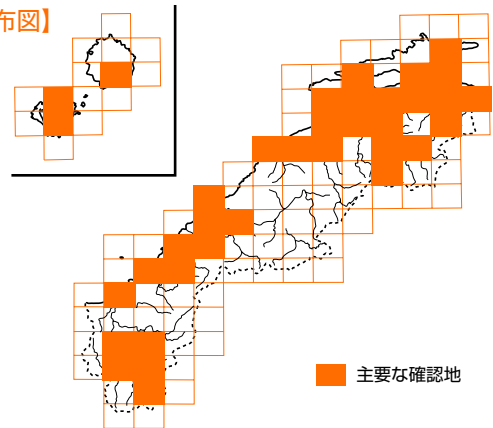
## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では各地に広く分布しているが、生息地そのものは少ない。水生植物の豊富な池や湿地でみられることが多いが、個体数の多い地域ではさまざまな止水域に生息している。特に水田は繁殖場所として重要な環境である。灯火へ飛来することがある。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移、農薬を含めた水田管理方法の変化、灯火に飛来した個体の轢死、採集。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○					○					○				

カメムシ目ナベブタムシ科

# トゲナベブタムシ

*Aphelocheirus nawae* Nawa, 1905

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

全国的にみても希少性が高く、生息環境の悪化による絶滅が危惧される。県内では西部で1カ所の産地が確認されているのみである。

## 【概要】

体長8.5－10mm前後。流速があり、底に砂や細礫のある水路や川に生息する。近縁種のナベブタムシとは腹背腺や前胸背などの特徴で見分けることができる。本州・九州、国外では朝鮮半島に分布するが国内では西日本に偏る。島根県では1998年に初めて発見された。

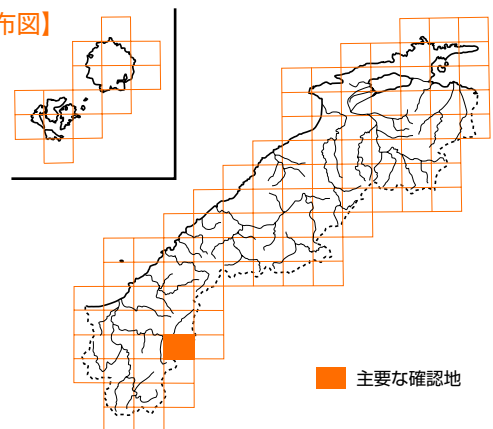
## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では益田市匹見町の1水路で採集されている。しかしこの水路は2012年の調査では、3面コンクリート化され底の細礫がほとんどなくなっており、本種は見つからなかった。かつては多産した同属のナベブタムシも見られなくなった。本県では新たに生息地が確認されなければ、絶滅した可能性が大きい。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川・水路の改修。水中の溶存酸素量の減少や泥の堆積は本種の生存に悪影響を与えることが予想される。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○					○														

コウチュウ目ハンミョウ科

# ハラビロハンミョウ

*Cicindela sumatrensis niponensis* Bates, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

砂質海岸の河口付近に生息するハンミョウで、県内の生息地が限られ、孤立化して個体数も少なく絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長 12-14mm。銅色で溝や点刻などは青緑色を帯び、上翅に黄白色で屈曲した帯紋がある。成虫は 5～9月に砂質海岸の河口部に出現し活動する。本州(中部以西)、九州、種子島などの限られた砂質海岸に分布するが、各地で減少が顕著といわれる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

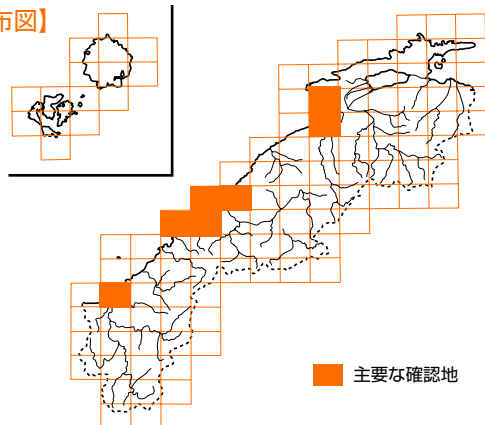
出雲海岸から益田海岸までの数カ所で生息が確認されている。生息地は背後に海浜植物の植生がある砂質海岸で、春季越冬成虫、夏季に新成虫が出現する。河口の河川側が活動域で、成虫は水際の湿った砂浜を敏捷に歩行する。幼虫は水辺に近い砂浜に巣穴をつくる。生息地であった神戸川河口、差海川河口は、近年は生息が確認さ

れていない。

### 【存続を脅かす原因】

大規模工事による砂浜の攪乱、堆砂の移動、砂浜の縮小、漂着物の堆積。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	◎	◎																		○	◎

コウチュウ目ハンミョウ科

# カワラハンミョウ

*Cicindela laetescripta* Motschulsky, 1860

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

砂質海岸の河口付近の砂浜などに生息するハンミョウで、限られた生息地は孤立化し、個体数もきわめて少なく、絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長15mm前後。上翅は白に銅緑色の模様があり地域によって模様に変異がある。細砂の河口や砂丘海岸に生息し、成虫は 7～8月に出現する。砂上を敏捷に歩行し、近づくと飛翔する。北海道、本州、四国、九州に分布し全国的に激減している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

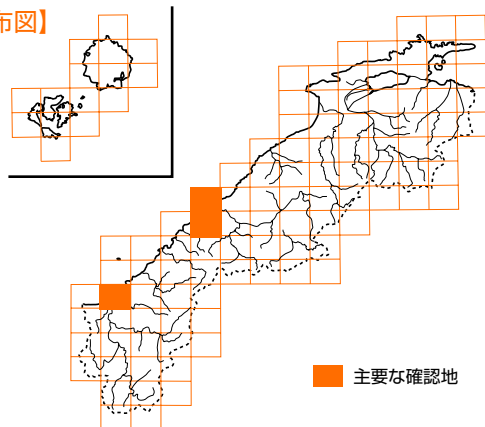
江の川以西の砂質海岸に局所的に生息するが、個体数はきわめて少ない。春季に越冬成虫、夏季に新成虫が出現し、水辺からやや離れた開けた砂浜を敏捷に歩行する。幼虫も成虫が活動する砂浜に巣穴をつくる。

堆積のほか、海浜植物の繁茂による砂浜の縮小。

### 【特記事項】

平成24年3月6日島根県条例に基づく指定希少野生動物植物に指定されたため採集は禁止されている。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	◎																		◎	○

コウチュウ目オサムシ科

# オオヒョウタンゴミムシ

*Scarites sulcatus* Olivier, 1795

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

砂質海岸に生息する大型のヒョウタンゴミムシで、全国的に減少しており、県内でも生息地が限られ、個体数も少なく絶滅が危惧される。

## 【概要】

円筒形で体長 28-38mm。全体が黒色で光沢がある。砂質海岸やそれに隣接する場所に生息し、成虫は5~10月に出現する。夜行性で日中は漂着物の下や地中の孔道に潜み、夜間に地表を徘徊して他の昆虫などを捕食する。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、台湾、東南アジアなどに分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

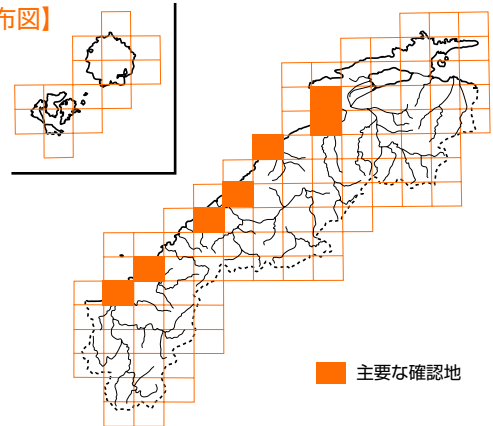
浜山公園を含む出雲海岸から益田海岸に至る砂質海岸で、生息が確認されているが個体数は少ない。汀線から離れた海浜植物の植生地から背後の防風林内の砂地が生息域となっており、出雲海岸では防風堆砂垣付近に多く見られたが破損埋没した。また、隣接する道路の側溝

に落ちている個体も少ない。

## 【存続を脅かす原因】

松枯れ防除の農薬散布、防風林の荒廃・消失。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○																○	○	○	

コウチュウ目オサムシ科

# イワタメクラチビゴミムシ

*Daiconotrechus iwatai* S.Uéno, 1970

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

松江市（大根島）にある玄武岩質の火山洞窟（竜溪洞）を基準産地とする大根島の固有亜属で、同島の地中環境が変化した場合、キョウトメクラヨコエビなど、他の地下性種とともに絶滅する危険が大きい。

## 【概要】

体長約3mm。黄褐色で扁平。複眼は完全に退化。背面に10対の長剛毛を有し、触角は長い。ダイコンメクラチビゴミムシ属（以下、チビゴミムシを省略）は、ノコメクラ属とチョウセンメクラ属の中間形態を示す属で、2007年に長崎県の対馬でホソメクラ亜属の2新種が記載され、本種と併せて3種を含む属となった。島根半島でノコメクラ属の新種（イズモメクラチビゴミムシ）が見つかったことと併せてチビゴミムシ属の系統と進化を考えるうえで本種の重要性はより高まっている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

本種が確認されているのは松江市（大根島）の竜溪洞

のみ。これまでに計10個体が採集されている（1970年2個体、1979年2個体、1997年1個体、2002年2個体、2005年2個体、2008年1個体）。幼虫は未知。地下適応が進んだ種であり、分布域は竜溪洞を含む大根島の地下空間の一部と考えられる。具体的な範囲は明らかではないが、同島のほかの洞窟（幽鬼洞）で見られないことから島内全域に分布しているわけではない。洞内では湿潤な泥上に転石があるような環境で見つかることが多く、特定の微環境を選好している可能性が高い。

## 【存続を脅かす原因】

周囲を中海に囲まれている大根島の地形特性から地下水水質の変化は脅威となり得る。また本種の生息に地下の微生物相が関与している可能性があることから、地表からの肥料などの薬剤浸透による微生物相の変化にも注意を要する。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞窟	林地	草地	砂浜	河口
○																		○				

コウチュウ目オサムシ科

# イソチビゴミムシ

*Thalassoduvallius mashidai mashidai* Uéno, 1956

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

周布川河口で発見されたチビゴミムシで、島根半島で再発見されたが、不安定な潮間帯の岩礁に生息し、絶滅が危惧される。

## 【概要】

体長4.6-4.9mm。浜田市周布川河口で発見され、新属新種として記載された。全体が褐色で頭部が大きく、上翅は丸味が強い。満潮線の近くの大きな石の下や積み重なった礫の底で、真水が海にしみ込むような場所を好むといわれる。愛媛県宇和島、神奈川県真鶴岬、伊豆大島などに別亜種が分布する。

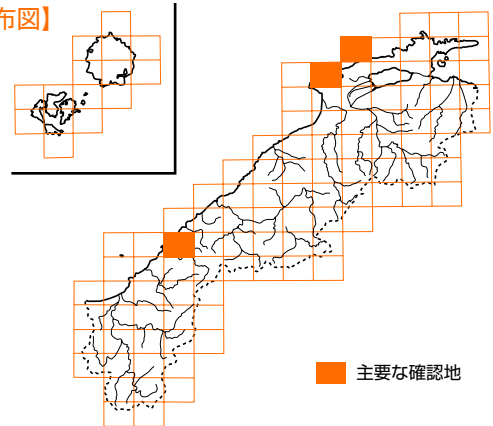
## 【県内での生息地域・生息環境】

周布川河口左岸の岩場で、こぶし大の小石が堆積した下の海水中から採集された。その後は長らく未発見であったが近年島根半島の海岸2カ所で再発見された。背後地の崖から淡水がしみ出すような岩礁地の礫の隙間や波打ち際の礫間で採集されている。

## 【存続を脅かす原因】

大規模工事による礫浜の改変、漂着物の堆積など生息環境の悪化。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○		○																			△	◎

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# マルコガタノゲンゴロウ

*Cybister lewisianus* Sharp, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

本種は国内ではもっとも絶滅の可能性が高いゲンゴロウの1つで、とりわけ西日本の個体群はきわめて危険な状況にある。県内では数例の記録があるのみである。

## 【概要】

体長21-26mm。背面は暗緑色で前胸背板・上翅に黄色の縁取りがある。腹面は全体に黄色。体は卵形で丸みが強い。似ているコガタノゲンゴロウの腹部は全体に黒色を帯びる。生息場所は、水生植物の多い池などの止水域である。比較的、大きな池に生息することが多い。

本種は中国、インドシナに分布し、国内では本州と九州に分布する。本州での分布は青森県から山口県までと広い。

## 【県内での生息地域・生息環境】

松江市では1955年の記録が残されている。2003年秋に県東部で採集された1頭が近年の確実な記録である。その後、県中部でも記録がある。県内での分布状況や生息

環境については不明な点が多く、調査が必要である。しかしながら、本種の生息可能な止水域環境の条件は、非常に限られている可能性が高く、何らかの環境の変化により絶滅するおそれがある。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（特にオオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニ）の侵入・繁殖、違法な採集。

## 【特記事項】

本種は「種の保存法」により2011年に国内希少野生動物種に指定されており、捕獲だけでなく、標本等の譲渡や貸借も許可無くすることはできない。生息状況を確認した上で具体的な保全措置を取る必要がある。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○	○											○					△					

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# ゲンゴロウ

*Cybister chinensis* Motschulsky, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

かつてはふつうにみられた水生甲虫である。しかし、現在は激減し自然度の高い止水域で確認されるのみであり、絶滅が危惧される。近年の確認例は著しく減少しており、危機的な状況である。

### 【概要】

体長34－42mm前後。前胸背板・上翅に黄色の縁取りがあり、腹面は全体に黄色だが、中央部は暗色。オスの上翅表面は平滑だが、メスには細かなシワ状の溝がある。水生植物の多い溜池や水路、水田などの止水域をおもな生息地としている。

国外では朝鮮半島、台湾、中国、シベリアに分布する。国内では、北海道、本州、四国、九州に広く分布し、垂直分布も広い。日本の代表的な大型水生甲虫であるが、全国的に減少傾向が著しく各都道府県のレッドデータブックに掲載されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△				○					○					△				

隠岐諸島では古い記録があるが、詳細は不明である。本土側では各地に分布しているが、産地は山間部など局地的である。とりわけ、平野部での生息は絶望的な状況である。浮葉植物や抽水植物の豊富な溜池などの止水域が県内でのおもな生息環境である。本種が生息する止水域には、微少種から大型種までのゲンゴロウ科やガムシ科、水生半翅類など多種多様な水生昆虫類が生息していることが多く、その生息環境は種多様性からみても貴重である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（ウシガエル、オオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニ）の繁殖。水田の管理方法の変更。採集。

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# シャープゲンゴロウモドキ

*Dytiscus sharpi* Wehncke, 1875

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

### 【選定理由】

県内では中部や西部で数カ所の産地が確認されているのみであり、生息環境の悪化や消滅による絶滅が危惧される。近年の確認例がないことも憂慮すべき状況である。また、全国的にみても希少性が高い大型種のゲンゴロウである。

### 【概要】

体長28－33mm前後。コナギやオモダカ、ヒルムシロなどの生えた泥深い湿地や水路などに生息し、特に湿地化した放棄水田は本種のもっとも好む環境である。日中は泥に潜っていることなどから、他のゲンゴロウ類に比べて発見されにくい。

本種は日本固有種であり、本州・佐渡に分布する。1990年代前後に生息が確認されている県は千葉、新潟、富山、石川、滋賀などである。島根県では1992年に初めて発見されたが、2001年に確認されたのが最後で、その後は新たな生息地も含めて確認されていない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では溜池で生息が確認されている。新たに生息地が確認される可能性はあるが、放棄水田などの湿地は遷移の進行により数年から数十年で乾燥化し、生息できなくなってしまう。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移、違法な採集。

### 【特記事項】

本種は「種の保存法」により2011年に国内希少野生動物種に指定されており、捕獲だけでなく、標本等の譲渡や貸借も許可無くすることはできない。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○					○					○									

コウチュウ目コガネムシ科

# ダイコクコガネ

*Copris ochus* (Motschulsky, 1860)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 13

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本種は全国的に減少傾向にあり、本県でも生息地は局限される。今後、牧畜形態の変化によっては絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長18-28mm。黒色で光沢は鈍い。オスは、頭部に後方に反った1本の大きな角を持ち、前胸背板にも2対の突起があるが、小型なオスになるほど目立たない。メスは頭部に板状の横隆起と前胸背板に弧状に突出した横隆条と1対のくぼみがある。成虫は、5~10月に発生する。牛糞下に坑道を掘り、育児室を作って数個の糞球を作り産卵する。シベリア、モンゴル、中国、朝鮮半島、北海道、本州、四国、九州、佐渡島、伊豆諸島、壱岐島、対馬、大隅諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は、三瓶山の放牧地にのみ生息が確認されている。

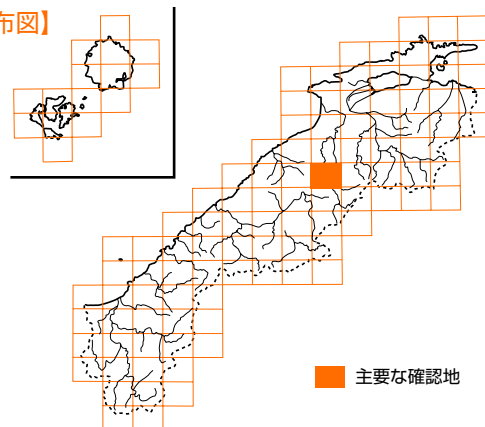
### 【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。採集圧の増加。

### 【特記事項】

平成22年12月に島根県条例に基づく指定希少野生動物植物に指定されたため採集は禁止されている。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎					○																

コウチュウ目カミキリムシ科

# オオハナカミキリ

*Kanoa granulata* (Bates, 1884)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 13

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：-

### 【選定理由】

日本特産種で冷温帯地域に生息する。本県では島根半島の枕木山周辺の低標高地に生息し、特異な分布であるとともに分布西限でもある。

### 【概要】

体長15-23mm。頭・胸部は黒色、上翅は暗赤色。全体が灰黄色の微毛を有する。成虫は5~8月に出現し、アカメガシワ、リョウブなどの花に飛来する。北海道、本州に分布。全国的にはブナ帯で生息している例が多い。幼虫の食樹種はブナ、モミ、アカマツからの発生記録がある。県内では、近年も島根半島部で少数採集されている。この地域では松くい虫被害によって大径のアカマツがほとんど消失している。モミは大木が残存しており、寄生樹種である可能性が高い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

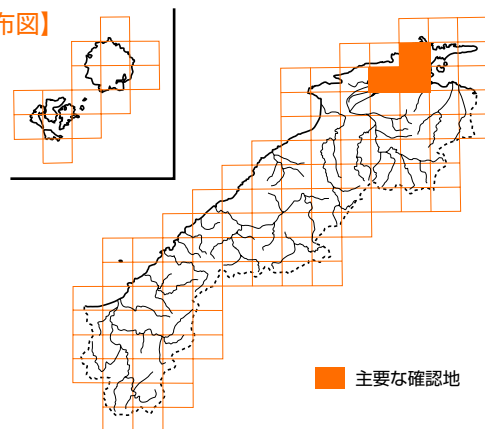
おもに島根半島東部で採集記録がある。古くは市街地での記録があるほか、平地の広葉樹林でも採集記録があ

る。

### 【存続を脅かす原因】

生息域での森林伐採、特に寄生樹種であるアカマツ、モミの大径木を有する生息環境の消失。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○					△								

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヤガ科

# カバフキシタバ

*Catocala mirifica* Butler, 1877

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

## 【選定理由】

国内および県内での生息地がきわめて限定され、個体数も少ない。

## 【概要】

前翅長26mm内外。前翅はキシタバ類に多い樹皮模様で、灰青色を帯びる。中央から翅頂部にかけては、前縁に接して、広い暗色部分がある。

成虫は7～8月に出現し、灯火や樹液に飛来する。また果樹にもやって来るといふ。幼虫の食樹はカマツカが知られる。

本州および四国に分布するが、局地的で、国内に産するキシタバ類のなかで、姿を見るのがもっとも困難な種といわれている。国外では中国に分布。

## 【県内での生息地域・生息環境】

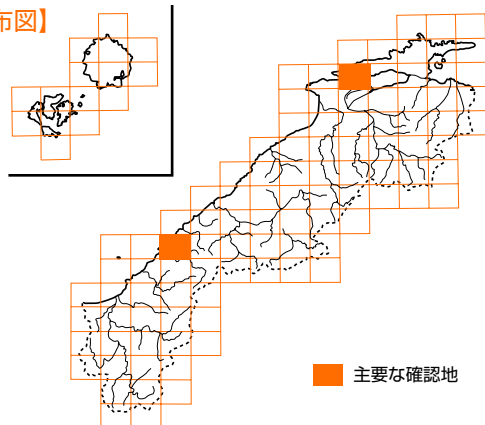
島根半島西部および県西部のやや海寄りの地域での古い採集例があるだけで、記録も途絶えている。生息環境が海寄りの地域のみともいいがたい。今後も調査を行い、

生息実態を把握する必要がある。

## 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な林の消失。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△		△						△					△								

チョウ目シジミチョウ科

# キマダラルリツバメ

*Spindasis takanonis* Matsumura, 1906

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵13

## 【選定理由】

生息地は限定され個体数も少ない。

## 【概要】

翅長13-17mm。朝鮮半島、本州（北限は岩手県、西限は広島県）に分布。クロマツ・ニセアカシア林、ソメイヨシノ・アカマツ林、クリやキリなどが混じる雑木林、カシワ林の4パターンの生息環境がある。年1回6月中旬から7月にかけて発生。夕刻、梢の先で占有行動をとって敏速に飛びまわる。鳥取市では天然記念物に指定されている。ムネジワハリブトシリアゲアリと共生して幼虫期（7令）をおくる。

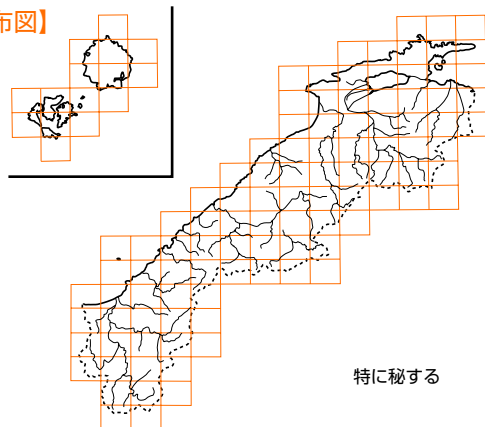
## 【県内での生息地域・生息環境】

安来市伯太町で1965年6月1日に板垣治氏が採集した1オスが唯一の採集記録。その他、三瓶山（伊藤宏氏）、匹見峡（山田学氏）でも確かな目撃記録があり、再確認が望まれている。出雲市と六日市町の古い記録には疑問点があり、引用すべきでない。

## 【存続を脅かす原因】

安来市伯太町の山の反対側の生息地（鳥取県米子市奈喜良）では農薬空中散布によって滅びた。シリアゲアリが巣をつくる樹木とその周辺の林の保全が必要である。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△		△				△	△	△											



チョウ目シジミチョウ科

# ルーミスシジミ

*Panchala ganesa loomisi* (H. Pryer, 1886)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

西日本の照葉樹林（常緑広葉樹林）に生息するが、その生息地は局限される。県内では隠岐（島後）が唯一の生息地で、個体数も減少傾向。

### 【概要】

翅長13-15mm。国内の確実な生息地は千葉県清澄山、山口県長門峡、和歌山県古座川町、鹿児島県屋久島など数カ所。奈良県春日山では国の天然記念物に指定されていたが、薬剤散布で絶滅した。アカガシが混じる常緑広葉樹の渓谷に生息する。具体的には、両岸は切り立って険しい斜面となり、川はゆるやかに流れ、カシ類が鬱蒼とおおい茂り、風通しの悪いという条件の渓谷。7月中旬に羽化し、そのまま成虫で越冬、翌年5月ごろから活動を再開、食樹アカガシの新芽のりん包内部に1卵ずつ産卵する。年1化である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）での野外観察では、アカガシの高所樹冠

に潜んでいることが多く、目撃は容易でない。しかし、気温が30度を超す日には、暑さを避けるように谷底に降りてきて、時に吸水もする。隠岐（島後）の生息地は、全国各地の生息地と比較して規模はごく小さく、近年の道路工事による伐採などで、危機的状況に陥っている。一度消滅すると二度と回復することがないため、アカガシ原生林を破壊する大規模な伐採・植林や林道開発などは厳重な注意が必要である。

隠岐諸島における最初の発見者は木村康信氏である。

なお1950年代に三瓶山や大田市近郊で採集記録が残されているが再確認されておらず、また、上記した特殊な渓谷環境が見い出せず疑問がある。

### 【存続を脅かす原因】

高標高地の林道建設や大規模な植林によるアカガシの混じった自然度の高い照葉樹林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

チョウ目シジミチョウ科

# ウラナミアカシジミ

*Japonica saepestriata* (Hewitson 1865)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【選定理由】

生息地・個体数とも著しく減少している。

### 【概要】

翅長18-22mm前後。山地のクヌギを含む疎林や林、平地、低山地のクヌギ、コナラ、ナラガシワなどを含む雑木林に生息しているが、クヌギへの依存度が強い。平地では6月に発生、山地では7月でも見られる。山陰ではアカシジミと混生するところもあるが、本種のほうが少し遅れて発生する。日中は脅かさないと思われ飛ぶことは少ないが、夕方から活発に飛び回る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

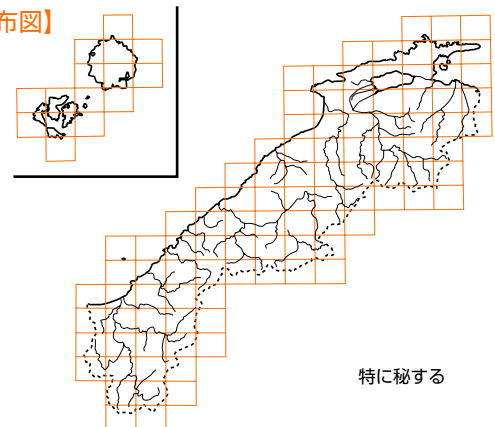
県内ではもともとクヌギ林に乏しいこともあり、西部（六日市町など）、東部（大東町など）にわずかに記録があったのみで、近年県内における本種の目撃記録はないようである。

古木ではなく若木を好むため、人為による定期的な雑木林の更新が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

クヌギ林を含む雑木林の手入れ不足による荒廃。雑木林（二次林）は適切な伐採更新によって生態系が維持される側面がある。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○					○								

チョウ目シジミチョウ科

# クロシジミ

*Niphanda fusca* (Bremer et Grey, 1853)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

1990年代から急激に生息地、個体数とも減少している。

### 【概要】

翅長20-22mm。本州、四国、九州に分布するが、生態が特異なため局地的。6月下旬から8月にかけて発生、山地のカシワ・クヌギの疎林、アキグミの生えた草原などが生息地。開発や伐採で人手が入りやすく、また植生遷移が進行しやすいなどの不安定な環境に多い。

メスは下草にいるが、オスは樹上に静止、夕方には敏速に飛び回る。ともにノアザミ、ヒメジョオン、オカトラノオなどで吸蜜する。産卵する草木はさまざま、隠岐ではアキグミ。そこには必ずグミキジラミがいる。クロヤマアリ（知夫里島）、クロオオアリが近くにいることが条件となり、産卵するメスは近くの草木に止まり、アリの様子をうかがいながら、キジラミの近くに産卵する。やがて孵化した幼虫はキジラミの分泌物をなめ、幼虫自身が分泌物を出すようになると、アリに巣へ運ばれ、

アリに餌をもらい成長し、翌年蛹になり巣から出て翅を伸ばす特異な生態をもつ。

### 【県内での生息地域・生息環境】

玉造は1960年代、三瓶山では1990年代以降の正式な報告はなく絶滅している可能性がある。1990年代以降確認されている生息地は隠岐（知夫里島、西ノ島）のみ。隠岐（島前）は牧畑という放牧場が1,000年以上にわたって維持・更新されており、良好な生息地となっていた。

隠岐島産は特異な地域個体群であり、特別な保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

計画的な雑木林、草地の更新が必要である。10年ほど前から隠岐（知夫里島）では、放牧場を近代的に整備するため除草剤によってアキグミが除去されるなど、憂慮される事態がおきている。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	△		○																		

チョウ目シジミチョウ科

# シルビアシジミ

*Zizina emelina emelina* (de l'Orza, 1869)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

産地が局地的で、1990年代から著しく個体数が減少している。

### 【概要】

翅長10-12mm。5月上旬ごろ第1化が現れ10月ごろまで年4回の発生と思われる。ヤマトシジミに酷似し、混生するが、後翅裏面の黒斑の並びで識別できる。食草ミヤコグサが繁茂するシバ状の草地に見られる。食草の花やウマゴヤシ、カラスノエンドウなどで好んで吸蜜し、時には吸水もする。

### 【県内での生息地域・生息環境】

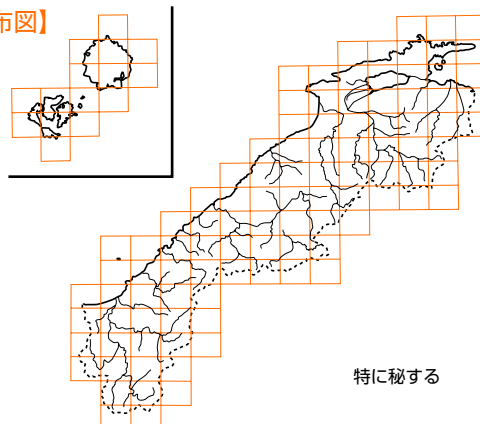
生息環境は牧場、河川堤防、海岸岩場の狭い草地など。旧・島根町、旧・大社町の日本海の潮をかぶるような岩場の発生環境は全国的にもまれであるために採集圧を受けている（西田秀行氏の発見）。高津川、江の川、周布川などの河川敷や堤防は草刈りを行う時期や範囲に工夫が必要と思われる（10月に一斉に広範囲に刈り取らない

など）。隠岐（知夫里島、西ノ島、中ノ島）の牧場にも生息している。

### 【存続を脅かす原因】

草地の荒廃、植生遷移。採集圧も大きい。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○															○			

チョウ目シジミチョウ科

# ヒメシジミ本州・九州亜種

*Plebejus argus micrargus* (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

中山間地から山地の湿性草地に生息するが、生息地は限定され個体数も少ない。

## 【概要】

翅長13-17mm。北海道では溪流沿いの河川敷で発生したり、中部地方では2,000m辺りの乾燥草原でも見られるが、中国地方ではおもに中国山地沿いの湿性草原に見られる。年1回6月中旬から7月にかけて発生。オスとメスは翅の色が異なる。飛翔はゆるやかで草地を低く飛び、アザミ、オカトラノオなどで吸蜜する。

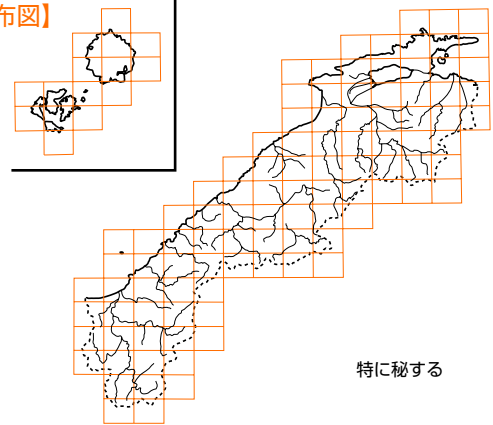
## 【県内での生息地域・生息環境】

旧・赤来町、旧・瑞穂町、雲月山の山頂部、旧・匹見町、旧・金城町など、狭い草地にわずかに残るのみである。近年、旧・仁多町でも発見されたが、おそらく隣県の広島県庄原市高野町からの飛来個体による一時的な発生と考えられる。赤名湿原では条例で採集が禁止されている。県内で確認されている食草はキセルアザミ。

## 【存続を脅かす原因】

湿原の埋立（産廃処分場）や乾燥化、草原の荒廃。温暖化も影響があるのではないと思われる

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○			○																

チョウ目シジミチョウ科

# ゴマシジミ

*Maculinea teleius kazamoto* (H. Druce, 1875)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

生息地も限定され、2000年代から著しく個体数が減少している。全国的にも減少が著しい。

## 【概要】

翅長18-22mm。ワレモコウのある草地に8月に発生するが、食草があっても見られないところが多い。有名な生息地、鳥取県大山山麓では、周囲に林がある急斜面の草地、田畑と山道に段差があり草の中にワレモコウが見られる場所に発生している。幼虫はワレモコウを食べ、途中からシワクシケアリの巣の中で、アリの幼虫を食べ、成長するという。

## 【県内での生息地域・生息環境】

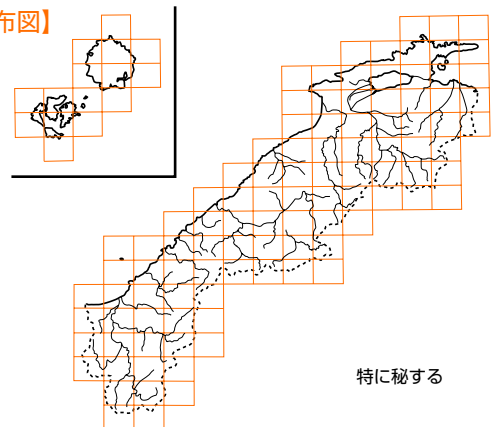
東部、中部の山地（邑南町、飯南町、奥出雲町など）に局地的に分布しているが、生息地は田畑ノリ面や道路際、林縁などのごく狭い範囲で個体数も少ない。遷移によって樹木が進出し、ワレモコウ自体が消滅していく傾向がある。アリと共生する特異な生態のため、保全が困

難な種でもある。

## 【存続を脅かす原因】

草地の荒廃、植生遷移。採集圧もある。

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○				○												

チョウ目タテハチョウ科

# ウラギンスジヒョウモン

*Argyronome laodice japonica* (Ménétrières, 1857)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

以前は人里近くで普通に見られた種であったが、1980年代より個体数が激減している。

## 【概要】

翅長28-37mm。6月中旬ごろ発生、林周辺の明るい草地で見られ、アザミやオカトラノオなどの花で吸蜜する。盛夏には夏眠し秋に再び現われ産卵、卵または1令幼虫で越冬する。1970年代は普通種のため注目されることはなかった。しかし、その後、急速に姿を消しつつある。

## 【県内での生息地域・生息環境】

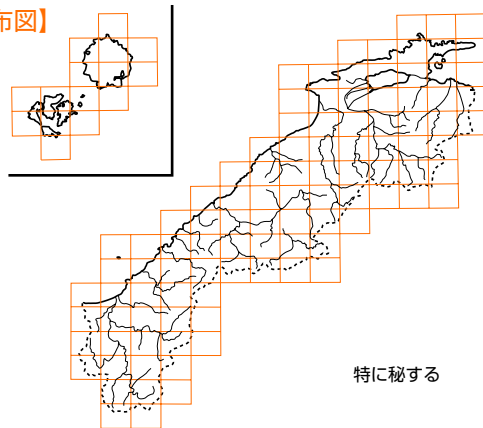
薪利用などで適度な伐採が入り、チョウ生息に良好な里山が、エネルギー改変により放置され、荒廃（遷移の進行）するにつれ減少した。1996年安来市の調査では、里山周辺の草地で少ないながら観察されていたが、現在では遷移が進み確認できない年が続いている。県全域で、なぜ激減しているのがはっきりとした要因がわからず、県内での発生状況や生息環境の詳しい調査が必要と思わ

れる。

## 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。農薬。

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○				○					○							

チョウ目タテハチョウ科

# オウウラギンヒョウモン

*Fabriciana nerippe* (C. et R. Felder, 1862)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

1970年代以降急激に減少し、絶滅がもっとも危惧される種になっている。

## 【概要】

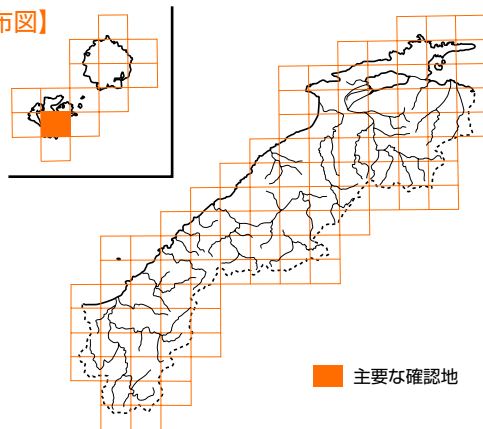
翅長33-42mm前後で、メスは大型になる。同属のウラギンヒョウモンに酷似するが、翅外縁部斑紋がハート型で識別は容易。年1回、6月上旬ごろから発生し7月に多く見られる。オスは活発に飛翔しオカトラノオ、アザミなどを訪れるが、メスは不活発でブッシュ内に潜んでいることが多い。近年、全国的に衰亡が著しく、残された産地は鹿児島県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、山口県などに数カ所しかない。生息環境は、石灰岩台地、火山性草原、牧場、自衛隊演習場などの大規模な草原で、スマレ、ツボスマレなどが多く見られるところに限られている。

1987年から始まった松枯れ対策殺虫剤空中散布によってほぼ絶滅した。

## 【存続を脅かす原因】

草原の荒廃、殺虫剤空中散布。

## 【分布図】



主要な確認地

## 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（知夫里島）が残された唯一の生息地であったが、

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○						○												

チョウ目タテハチョウ科

# ヒョウモンモドキ

*Melitaea scotosia* Butler, 1878

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

### 【選定理由】

1980年代より全国的に衰亡が著しく、日本国内からの絶滅が憂慮されている。県内でも絶滅が危惧されている。

### 【概要】

翅長26－30mm。6月中旬ごろから7月上旬にかけて年1回、食草のタムラソウやキセルアザミが繁殖する湿地に発生、ゆるやかな飛び方でノアザミ、ヒメジョオンなどの花をよく訪れる。関東地方、中部地方、中国地方に局地的に生息していた。全国的に衰亡が著しく絶滅した産地も多い。広島県の大和町周辺は残された唯一の生息地で「種の保存法」によって保護されている。湿地の乾燥化、植生遷移、開発などの影響もさることながら、採集圧が個体数減少の大きな原因のひとつだったように思われている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

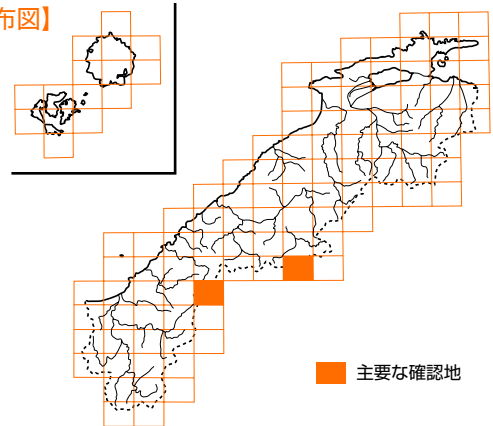
旧・金城町、旧・瑞穂町の2カ所（いずれも淀江賢一

郎氏による発見）。産廃処分場として埋め立てで湿地が破壊され、絶滅状態である。

### 【存続を脅かす原因】

湿原の開発。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○			○																

チョウ目タテハチョウ科

# ウスイロヒョウモンモドキ

*Melitaea protomedia* Ménétriès, 1858

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

### 【選定理由】

中国山地の草原に局所的に広く分布していたが、近年各地で急激に衰退し、多くの個体群が既に絶滅した。県内で唯一の生息地である三瓶山は、国内分布の西限でもある。自然公園法指定動物。

### 【概要】

標高400－800m前後のススキを主体とする乾性草原に生息。幼虫はカノコソウ、オミナエシを摂食する。成虫は6月中旬から7月中旬に現れ、草原をゆるやかに飛翔する。国内で存続が確認されている本種の個体群は2013年時点で5カ所余に過ぎない。本種は東アジア（中国北部・朝鮮半島・沿海州など）にも分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種が確認されているのは三瓶山のみ。三瓶山では中茎ススキ草原の下に生育するオミナエシをおもな食草としている。成虫期は7月上・中旬で、吸蜜植物はおもにオカトラノオ。かつては東の原、男三瓶山頂、室の内な

ど三瓶山のあちこちで成虫が見られたが、2000年には女三瓶山頂に残存するのみとなった。ここでは島根県などによる保全事業が取り組まれ、2006年には450個体の成虫発生（標識再捕による推定値）が確認され、男三瓶山頂や東の原にも一時的に個体群が復活したが、その後2006年豪雨（卵期）や2007年台風（成虫期）の影響で衰退し、2008年以降、個体群は飼育・放虫による「対策依存状態」に陥っていた。しかし、2010年7月3日に放虫した蛹の全てをネズミに食害され、その後、毎年成虫期に探索が続けられているが、2013年まで発生がまったく確認されていない現状にある。

### 【特記事項】

現在、環境省を主体として生息確認と生息環境維持の努力が続けられている。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎				◎																

チョウ目タテハチョウ科

# シータテハ

*Polygonia c-album hamigera* (Butler, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内では1950年代の古い記録のみで、近年の追加記録がなく、絶滅が懸念されている。

### 【概要】

同属で平地から山地まで見かけるキタテハに酷似するが、翅表に青い鱗粉がないなどの特徴があり識別は容易。年2回の発生で6月から8月に夏型が見られ、9月ごろから秋型が羽化する。樹林周辺や渓谷沿いに見られ、花で吸蜜したり地上で吸水したりする。飛び方はキタテハより敏速で、人が近づくと敏感に反応するが、吸水中驚いて飛び立っても再び戻ってきて同じ場所で吸水もする。秋型は翅の外縁の切れ込みが大きくなり、裏の模様も変化し、そのまま越冬する。冬の環境に対応するための衣替えだと思われる。翌春現われる越冬個体は、生息地を離れ遠くまで移動することがあるといわれている。既知の食草はハルニレ、エノキ、イラクサ科のコアカソなどだが、山陰ではハルニレと思われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

旧・仁多町呑谷など局地的に発生していた古い記録がある（森山正治氏による複数の採集記録。標本も現存する）。しかし、鳥取県智頭町沖の山で1985年に記録されて以来、山陰地方での確認情報はない。食草は現在でも多く見られるのに姿を消した原因はさだかでない。長野県信州地方では車の多い国道沿いの渓谷でも、20年前から変わらず見られる所もあり、環境が激変し見られなくなった場所もあることから、生息地自体の変化のほかに、北方系の種であることから温暖化も影響しているかもしれない。県内ではすでに絶滅している可能性も高い。今後は幼虫の探索が必要だろう。

### 【存続を脅かす原因】

渓谷沿いの開発、林道建設などによる環境変化。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△				△																	

チョウ目タテハチョウ科

# ホシミスジ近畿地方以西亜種

*Neptis pryri hamadai* Fujioka et Minotani, 2000

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され、激滅している。

### 【概要】

翅長26-32mm。翅裏の基部に黒い斑点があるのが特徴で、近似種との識別は容易。低山地の露岩地に見られる。山陽側では年2-3回の発生といわれているが、県内では8月には食樹イブキシモツケ、ユキヤナギの葉で巣を作り越冬態勢に入り年1回の発生（まれに2化）。飛翔はゆるやかで、ウツギなどに訪花、ときには吸水もする。近年、本県の個体群はmt-DNA研究によって特異な個体群であることがわかった。また、隠岐諸島の4島に生息している個体群も特異であり別亜種（ssp. *yodoei*）とされる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

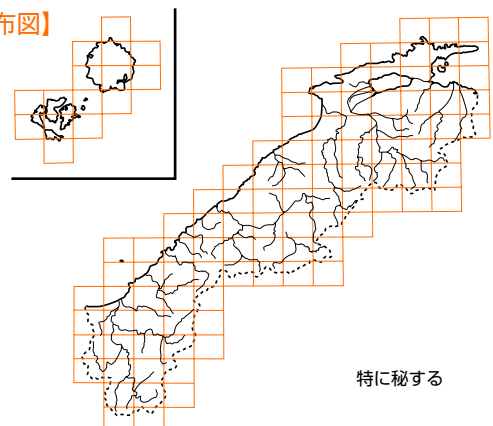
三瓶山、三階山、大麻山、立久恵峡、江の川流域（断魚溪など）で記録されている。いずれの生息地もイブキシモツケなどが生える露岩地。立久恵峡では6月に実施

される殺虫剤空中散布によって激滅した。

### 【存続を脅かす原因】

農薬空中散布、露岩地の荒廃。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○												○									

チョウ目ジャノメチョウ科

# ウラナミジャノメ本土亜種

*Ypthima motschulskyi nipponica* Murayama, 1969

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

1990年代ごろから、生息地が著しく狭められており、個体数も少ない。絶滅が憂慮される。

## 【概要】

翅長23－28mm。後翅裏面の眼状紋が3つで、同属のヒメウラナミジャノメは5つある。西日本の平地から低山地の露岩地草付、湿地、河川敷、田畑の山側のノリ面、雑木林林縁などに局所的に生息。対馬、屋久島など離島にも生息しているが、隠岐諸島には分布していない。年2回、6月と8～9月に出現。

## 【県内での生息地域・生息環境】

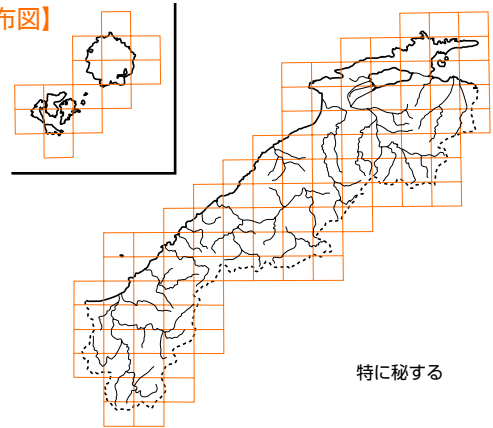
島根半島から益田市まで局所的に生息するが密度は低い。比較的個体数の多い浜田市での観察では、日あたりのよい乾燥した休耕畑や手入れの少ない果樹園で、丈の低いチガヤ、アシボソなどの茂った場所でよく見られた。最近の調査では県内における本種のもっとも重要な生息環境は平地～低山地の露岩地であることが判明した。そ

こでの食草はヤマカモジグサと推測される。

## 【存続を脅かす原因】

露岩地の荒廃、農薬空中散布、雑木林林縁の手入れ不足。

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	崖地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○							△				○		△				○			

チョウ目ジャノメチョウ科

# クロヒカゲモドキ

*Lethe marginalis* (Motschulsky, 1860)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

本州、四国、九州に分布するが産地は限られる。県内では浜田市周辺のみから知られていたが、衰亡が著しく絶滅が危惧されている。

## 【概要】

翅長30－34mm。同属のクロヒカゲに似るが眼状紋の大きさと識別できる。年1回7月中旬に出現。クヌギ、コナラなどの雑木林の林縁を生息域とし、昼間は林の中で静止しているが、曇った日や夕方には活発に活動する。クヌギ、タブの樹液を好み、訪花は観察されていない。多産する中部地方（長野県、山梨県など）も開発で雑木林が荒れ、減少している。

## 【県内での生息地域・生息環境】

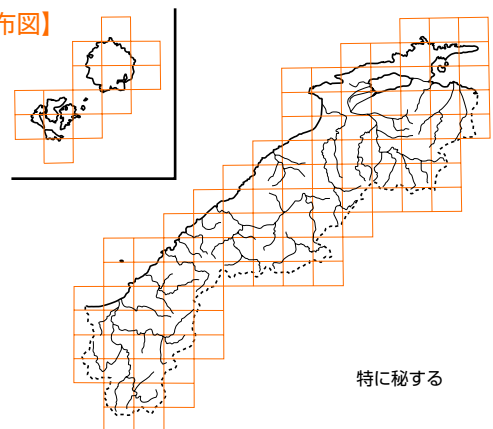
本種の生息が唯一確認されている浜田市三階山周辺は近年、高速道路、県立大学などの大規模開発がすすみ生息域が極端に減少している。わずかに残されたクヌギ林の保全が必要であり、このままクヌギ林の伐採が進めば

本県から姿を消す恐れがきわめて高い。

## 【存続を脅かす原因】

大規模な開発によるクヌギ雑木林の荒廃。

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	崖地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○														

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ジャノメチョウ科

# ウラジャノメ

*Lopinga achine* (Scopoli, 1763)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：－

### 【選定理由】

県内では奥匹見峡、旧・恐羅漢山など限られた場所のみ生息し、著しく減少している。

### 【概要】

翅長22-30mm。本州では1,000mを越える山地に生息地が見られ局地的になる。成虫は6月下旬から7月上旬ごろに見られ、ゆるやかに飛び、開けた場所に出てきてはすぐ葉に止まり翅をよく広げる。メスを生かして放置しておく、容易に産卵する習性がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

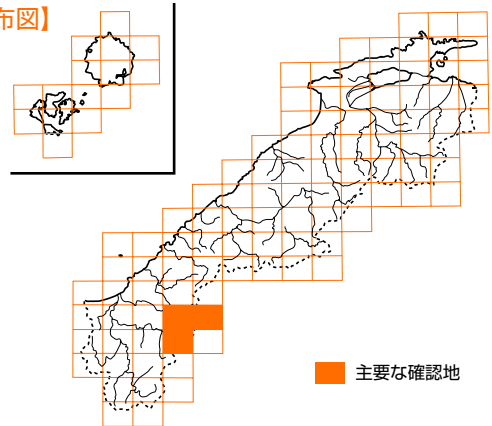
旧・恐羅漢山頂は周辺が林になり、中央部は開けて登山者の休憩場所にもなっている。周辺には低木やクマザサなどが見られる。晴天の日には朝8時半ごろより活動を始め、島根県側の林から多くは飛び出してきた。しかし現在はほとんどその姿を見ることはできず絶滅が憂慮されている (なお、このポイントは中村泰士氏が発見されたものである)。冬季は積雪も多く厳しい環境になる

が、幼虫はニシノホンモンズゲを食草として育つ。

### 【存続を脅かす原因】

山頂部の改変伐採。露岩地の荒廃。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	崖	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																				

チョウ目セセリチョウ科

# キバネセセリ

*Bibasis aquiline chrysaeglia* (Butler, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

隠岐 (島後) を除けば近年の記録がなく、絶滅が危惧されている。

### 【概要】

翅長21-22mm。年1回6月中～下旬ごろから落葉広葉樹林周辺や山道脇によく姿を現わし、獣の糞に來たり、時には吸水、オカトラノオなどの花にも來る。吸水時には自分の排出液を吸う吸い戻し行動を見かける。午後には山頂付近で占有行動をとる。

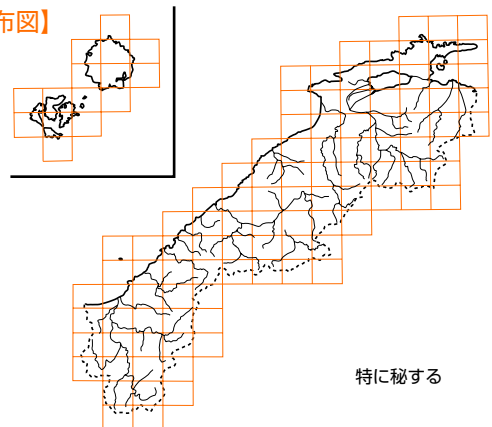
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、1957年仁多町呑谷で採集されたのが初記録。その後、雲月山、隠岐 (島後) で採集されているが、隠岐諸島を除けば記録が古く共に1例のみのため、現在では生息していないと思われる。隠岐 (島後) は海岸に近い所に生息地が見られるが、松枯れ対策の殺虫剤空中散布により、本種に悪影響が出ている。隠岐 (島後) で確認されている食樹はハリギリ (山本正志氏の発見)。

### 【存続を脅かす原因】

ハリギリを含む落葉広葉樹林の伐採、殺虫剤空中散布。

### 【分布図】



■ 特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△			○										○								



チョウ目セセリチョウ科

# コキマダラセセリ

*Ochlodes venatus* (Bremer et Grey, 1852)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

中国山地沿いに生息地がわずかに見られるのみで、絶滅が危惧されている。

### 【概要】

翅長20-22mm。北海道から山口県東部あたりまで分布するが、北海道では低地でも見られ小型であり、中部地方から中国地方にかけては、山間部の湿地性草原に見られ、大型化。中部地方では標高2,000m近い乾燥草原にも見られる。翅が赤橙色で白く薄い斑紋があり、明るい感じがするチョウで、一見ヒメキマダラセセリにも似るが識別は容易。7月に多く見られ、敏速に飛ぶ。ノアザミ、オカトラノオなどの花を訪れ、時には吸水もする。

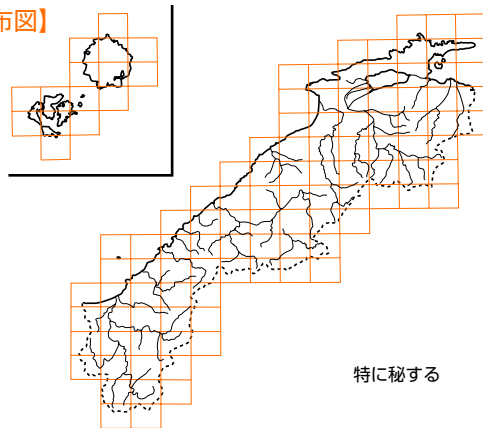
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では標高500m以上の湿原に見られるが、そのような条件に合う場所は中国山地沿いにわずかに見られるに過ぎず、個体数も少ない。湿地は遷移により植生変化する不安定な環境であり、今後の動向には注意を要する。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い湿地の開発。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			○																

昆虫類

チョウ目セセリチョウ科

# ホシチャバナセセリ

*Aeromachus inachus* (Ménétrières, 1858)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が限定され、減少が著しい。

### 【概要】

翅長10-15mmでセセリチョウの中では最小。本州、対馬に生息し、山陰では7-8月にかけて年1回の発生。食草オオアブラススキがある樹林周辺の草原に見られる。各種の花を訪れるが、飛び方は敏速でハエのようにも感じられ、また風景に溶け込んで見失うことが多く発見しにくい。1980年代より各地で減少しまれにしか見られなくなっているが、セセリチョウという地味なグループのため、中・大型のチョウのようにとりたてて騒がれることがない。

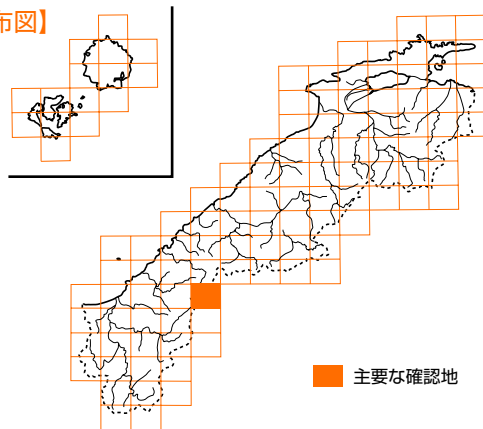
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では西部の中国山地沿いで傍示峠、雲月山の2カ所が知られるのみだが、1980年代より開発などの影響で生息地が破壊され、きわめてまれな種になっている。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い草原を破壊する開発、草地の荒廃。

### 【分布図】



主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○			○																

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目アオイトトンボ科

# オツネトンボ

*Sympecma paedisca* (Brauer, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内の分布が局限される。また過去に発見された産地のほとんどが絶滅状態である。

### 【概要】

全長35－41mm。全身淡褐色をした地味な色調のイトトンボ。未熟なホソミオツネトンボとよく似るが、閉じた翅の緑紋が重ならないことで区別できる。初夏に羽化した個体はそのまま林縁などで生活し、越冬を終えた翌春、生殖活動を行う。和名「オツネン（越年）」は、成虫で越冬することに由来する。ユーラシア大陸の北寄りに広く分布し、国内では北海道、本州、四国、九州北部に分布するが、西日本ではまれとなる。

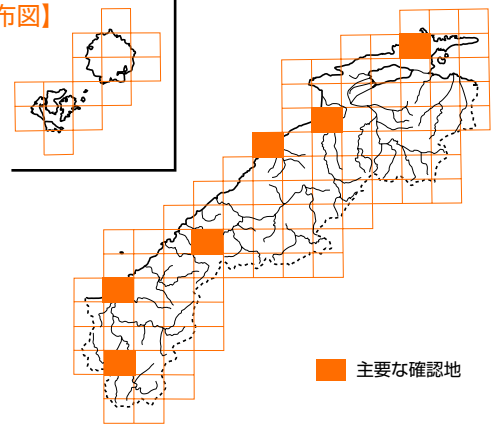
### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を除き沿岸部から内陸部まで広く分布するが産地は局限される。生息地はいずれも日当たりのよい植生豊かな溜池である。なお県内で越冬の様子は観察されていない。

### 【存続を脅かす原因】

池の水質悪化や産卵場所となる抽水植物の除去。成虫の生活場所となる林の消失。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○										○					○				

トンボ目モノサシトンボ科

# ガンバイトンボ

*Platynemis foliacea sasakii* Asahina, 1949

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 15

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

小規模で清澄な緩流に生息し、県内の産地はおもに江の川・高津川水系各々に数カ所程度。

### 【概要】

全長37－41mm。オスの中・後肢の一部は顕著な偏平形で白い米粒のように見える。メスでは、しばしば同所的に生息するモノサシトンボと似ており、識別には注意が必要。平野部から低山地の、水生植物の繁茂する緩やかな清流が代表的な生息環境。中国北部に原名亜種が分布し、国内では関東以西に分布する。特殊な生息環境のためか産地は全国的に局限され特に関東地方では近年急速に生息地が失われている。

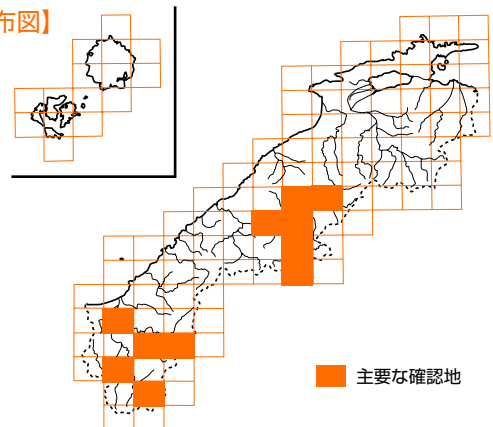
### 【県内での生息地域・生息環境】

今まで分布が江の川水系と高津川水系に限られていたが、近年、神戸川水系からも発見された。小規模な緩流のほか、常にきれいな水の流入が認められる溜池や砂防ダムの堆砂池等、止水的環境での生息も確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息地の埋め立て。湧水等の流入経路の分断。成虫の休息及び摂食場所となる雑木林の伐採。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○										○										○

トンボ目イトトンボ科

# ベニイトトンボ

*Ceriagrion nipponicum* Asahina, 1967

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

2007年に県内で初記録されたが、産地は益田市周辺と県中部地域の数カ所に局限される。

### 【概要】

全長32-45mm。オスは腹部を中心に全身が鮮やかな朱色でメスでは幾分淡色となる。モートンイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボのメスも未熟時には朱色であるが、本種と異なり成熟に伴い緑色から褐色に変わる。平野部から低山地にかけての、植生豊かな池沼が代表的な生息環境で、益田市では6-9月まで成虫が確認されている。国内では宮城県以南に分布するが産地はかなり局地的である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

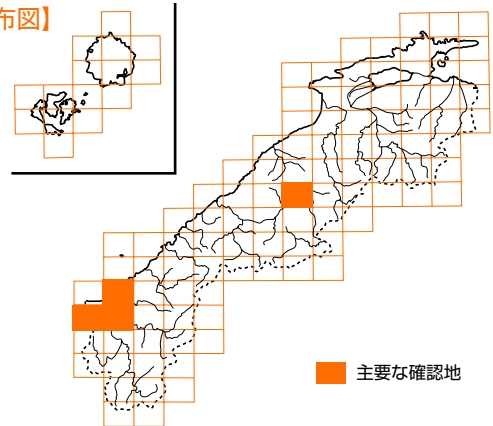
分布が県中部・西部の数カ所に限られ、東部からは未発見。益田市周辺における2007-2009年の調査では7カ所の農業用溜池等で確認されたが、多産した初記録地の益田市飯田町の溜池では改修により既に生息が途絶えて

おり、良好な生息地の保全が急務である。

### 【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息する池沼の埋め立て等。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域					海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
	○	○										○										

トンボ目ヤンマ科

# ネアカヨシヤンマ

*Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

沿岸平野部の林縁に形成された湿地的環境に生息するが、分布が非常に限られるうえ、既知産地の消失が顕著。

### 【概要】

全長75-88mmの大型ヤンマで、黒みの強いずん胴な体形が特徴的。幼虫は日本産ヤンマ科で唯一背棘を有し、識別が容易。同属のアオヤンマが、溜池やクリークなど水深の比較的深い開放的な水域を好むのに対し、本種は水田や湿地等水深がほとんどなく、一方を雑木林等に接するような半開放的環境を好む。初夏に羽化し未熟な個体は日中に林縁部をゆったりと摂食飛翔する。成熟すると黄昏活動性が強くなる。産卵はおもに日中、湿地の湿土や朽木に行う。国内ではおもに関東以西の本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

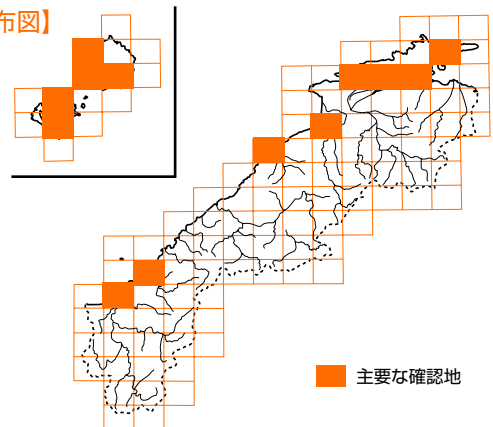
県全域に広く分布するが、生息地はいずれも沿岸部で内陸部からの記録はない。隠岐諸島では4島すべてに記

録がある。

### 【存続を脅かす原因】

造成、残土処理による湿地や放棄田の埋め立て。圃場整備による水田の乾燥化。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域					海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○												○			○				

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目サナエトンボ科

# ナゴヤサナエ

*Stylurus nagoyanus* (Asahina, 1951)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

全国的に産地に限られる中、宍道湖を含めた斐伊川下流域は本種の多産地として有名であるが、以前に比べ個体数が明らかに減少している。

### 【概要】

全長59－65mm。夏に出現する中型のサナエトンボ。大きな河川の下流域全体を生活場所とする生活スケールの大きなトンボ。オスは流れの上をかなり長時間飛び続けメスを探す。日本特産種。

### 【県内での生息地域・生息環境】

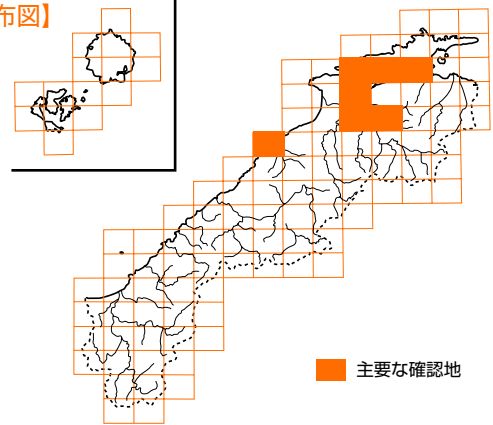
斐伊川および静間川下流域のほか、最近になって神戸川での生息が確認された。斐伊川では産み落とされた卵や孵化した幼虫のほとんどは流下し、宍道湖内で成長する。宍道湖岸での10年以上継続した羽化消長調査によれば、羽化は6月上旬から始まり、7月上旬をピークとして9月上旬まで続く。成虫の活動は羽化が観察される宍道湖岸ではまったく見ることができず、斐伊川河口部か

ら約30km上流までの斐伊川本川部で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地周辺の開発による水質等河川環境悪化。成虫の休息場所となる河畔林等の伐採。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○															○	○				

トンボ目エゾトンボ科

# ハネビロエゾトンボ

*Somatochlora clavata* Oguma, 1913

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県内における過去の記録は、隠岐諸島の数カ所と本土側の3カ所だけであり、いずれの産地も、現在、生息が確認されていない。全国的にも減少傾向が著しく、新たに産地が発見された場合は、その保全が急務である。

### 【概要】

全長58－66mm。全身金属光沢がありエゾトンボに酷似するが、オスは尾部上付属器、メスは産卵弁が長く突き出ることによって区別できる。未熟な成虫は林間の開けた空間で摂食飛翔を行い、成熟すると水域に戻って一定の区間ホバリングを交えて縄張りを張る。産卵は岸近くの水面やコケ、礫の隙間に行く。早朝や夕方には谷筋などを摂食飛翔や黄昏飛翔もする。日本特産種。

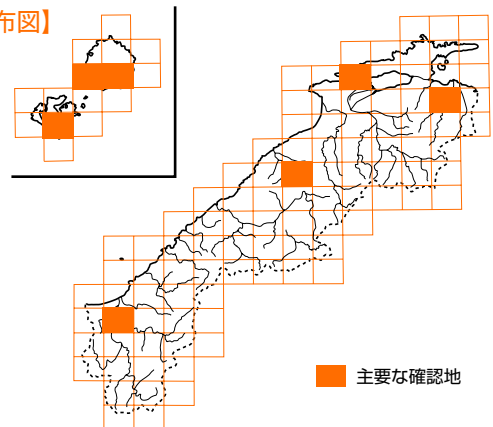
### 【県内での生息地域・生息環境】

近年、生息の情報が途絶えていたが、最近になって出雲市奥宇賀町で生息が確認された。本種の好む環境は林縁に接した緩やかな流れや湿地内を流れる細流である。

### 【存続を脅かす原因】

幼虫の生息場所となる水路のコンクリート化や水域の乾燥化。成虫の生活場所となる林の消失。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○										○						○				

トンボ目ヤマトンボ科

# キイロヤマトンボ

*Macromia daimoji* Okumura, 1949

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

周辺に樹林があり河床が砂質系の河川中下流域に生息するため産地が局地的である。

### 【概要】

全長75-83mm。同属のコヤマトンボに似るが、成虫は腹部第3節側面の黄条が上下で分断されること、幼虫は下唇の形状や爪の長さで区別できる。未熟個体は周辺の開けた空間などで摂食飛翔を行い、成熟すると水域に戻ってくる。オスは早朝と夕方を中心に河川の広範囲をパトロールする。産卵は薄暗くなるころから始まり、流れの緩やかな砂地の場所を不規則に飛翔しながら間欠的に打水を行う。国内では関東地方以西の本州、四国、九州に分布するが、産地は局地的で減少している地域も少なくない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

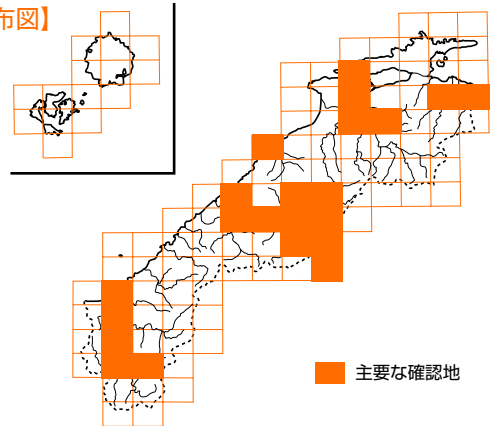
県内では斐伊川水系の中下流に広く分布しているが、最近になって県中・西部の江の川、高津川での生息が確

認された。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修等による河床の変化。未熟期間を過ごす河川周辺の林の消失。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○					○					

トンボ目トンボ科

# ハッチョウトンボ

*Nannophya pygmaea* Rambur, 1842

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

湿地を代表する種であるが、造成等による埋め立てや植生遷移による乾燥化のため生息地の減少傾向が顕著。

### 【概要】

全長17-21mm。世界でもっとも小さいトンボの一つで一円玉ほどの大きさ。オスは成熟すると全身が赤化し、メスでは黄色、褐色、黒のまだら模様となる。羽化は5月中旬ごろから始まり、しばらくすると未熟及び成熟個体が湿地に入り乱れて見られる。交尾時間は短く、交尾を解いたメスは単独で打水産卵を行う。オスの警護飛翔もしばしば見られる。東南アジアを中心に広く分布し、国内では本州以南に分布する。

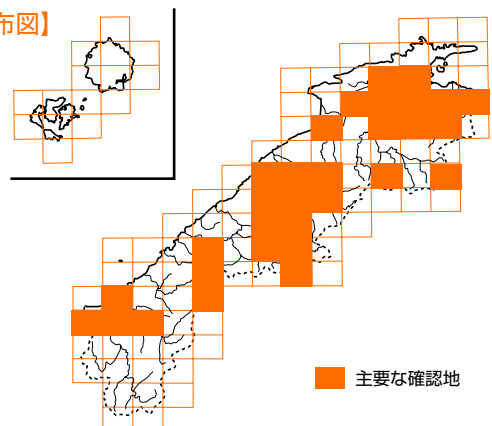
### 【県内での生息地域・生息環境】

低山地を中心に隠岐諸島を除く県全域に広く分布するが、産地は局地的。日当たりがよい浅い湿地を好む。休耕田で一時的に大発生し、マスコミを賑わすが、草原化により生息できなくなる場合が多い。

### 【存続を脅かす原因】

造成や残土処分等による生息地の埋め立てや、湿地の乾燥化、草原化。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○			○						○				○			

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目コオイムシ科

# コオイムシ

*Diplonychus japonicus* Vuillefroy, 1864

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内では隠岐（島後）を含む各地で局所的に生息が確認されているのみであり、生息環境の悪化による絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長17－20mm前後。平野部の池や河川敷、水田、休耕田、湿地などの浅い止水域に生息している。成虫のオスが背中に卵を背負う習性がある。近縁種にオオコオイムシがいるが、本種はより小型で体色が薄く、前胸背板がより狭まるなどの特徴により、区別可能である。しかし、正確な同定にはオス交尾器の検討が必要である。国外ではシベリア、朝鮮半島、中国に分布し、国内では本州、四国、九州に分布する。

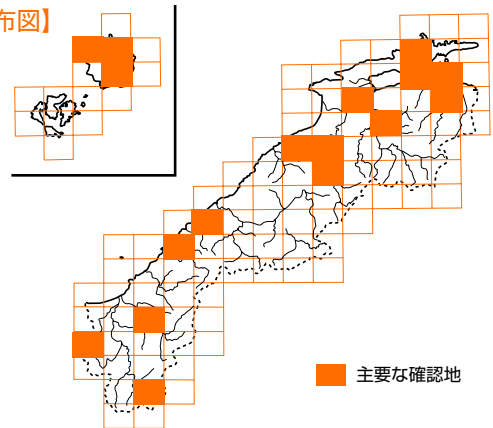
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では平野部を中心に生息しているが、まれに山間部にも生息地がある。近年の調査により、中海周辺に生息地が多いことが判明した。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○									○					

カメムシ目ハナカメムシ科

# ズイムシハナカメムシ

*Lyctocoris beneficus* (Hiura, 1958)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

戦後の稲作農法の改変や殺虫剤の大量投入によって激減し、全国的に絶滅に瀕している。近年東部数カ所で生息が確認されたが個体数は少ない。

### 【概要】

体長4mm前後のカメムシのなかまで、黒褐色で光沢があり、微毛を散布する。この科の中では比較的大型である。野積みの稲わらや枯れ枝の間に生息し、鱗翅目幼虫の体液を吸収する。ズイムシとはイネの害虫として知られるニカメイチュウの幼虫。本種はこのガの天敵として知られていたが、このガ自体が有機塩素系殺虫剤によって絶滅状態にある。本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

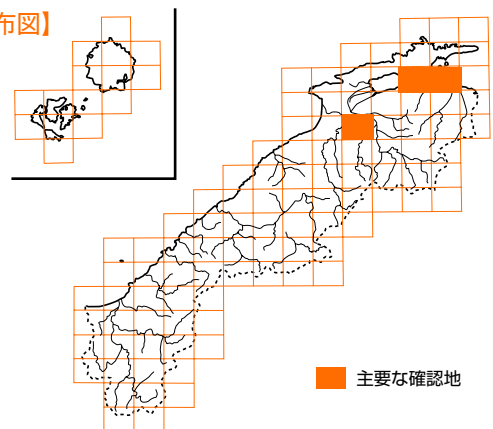
戦前には明確な記録がない。県東部で確認されているのは木次町から安来市にかけての斐伊川水系河川敷4カ所である。前述のように水田周辺では絶滅した可能性が高いが、河川敷のような場所でイネ科草本を寄主とする鱗翅目幼虫

によって個体群を維持しているものと考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

河川敷などのイネ科草原の破壊や、殺虫剤散布、火入れなど。管理不足による遷移の進行。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○														○							

カメムシ目サシガメ科

# ゴミアシナガサシガメ

*Myiophanes tipulina* Reuter, 1881

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

細長い大型のサシガメで、全国的に生息地が局限され絶滅状態にある。県内では1980年頃まで数カ所の記録があったが、それ以後の生息情報がない。

### 【概要】

体長17mm内外、淡褐色の地に濃淡の斑紋があり、長毛でおおわれる。脚、触角は細長く糸状で体長と同じかそれよりも長く、静止しているとガガンボのように見える。里山の林縁に生息し、家屋内外で発見されることも多く、小昆虫などを捕食する。山口県平生町では近年、築100年以上の古い家屋の便所で見ついている。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。

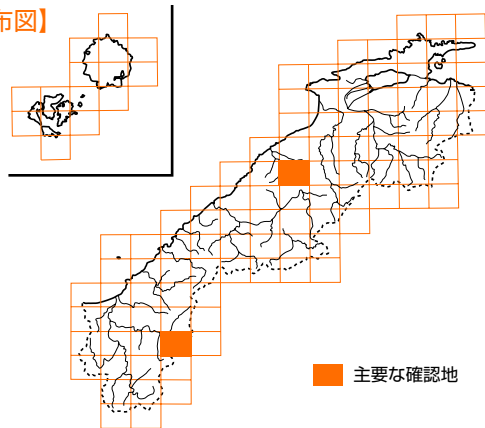
### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と益田市匹見町で古い記録がある。他県のように家屋を含む里山環境に適応した種のように、山里の崩壊とともに姿を消すとみられる。

### 【存続を脅かす原因】

山里の放置・無人化、住環境の近代化など。周辺の二次林の竹林化。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○							○													

カメムシ目セミ科

# コエゾゼミ

*Lyristes bihamatus* (Motschulsky, 1861)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵17

### 【選定理由】

本県の東部山地が、本州における本種分布の西限となる。標高1,000m以上のブナ林に局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長は31-37mmでオスがやや大きく、翅端までは47-56mmである。エゾゼミより小型で、前胸背後縁の黄褐色帯が外方の黒紋で切断される。色彩や斑紋には変異が多い。北海道・本州・四国、国外ではサハリン・千島に分布する北方系のセミであり、7-8月にブナ林に出現する。鳴き声はエゾゼミに似るがやや低く、細い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

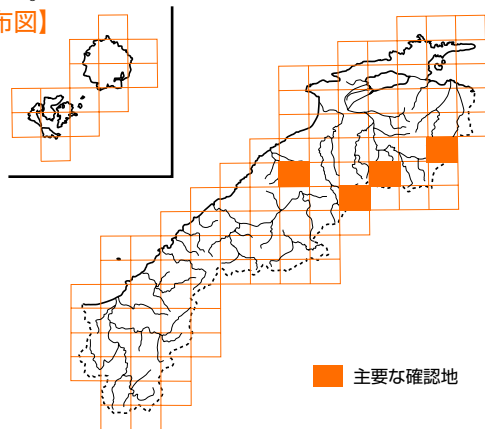
三瓶山および東部山地の標高1,000m以上の地点4カ所で記録されている。成虫は昼間はブナの梢上部で鳴いている。西部山地（旧・匹見町）において本種として記録されているのは県境を越えた広島県や山口県側で生息が確認されている同属のキュウシュウエゾゼミの可能性が

高い。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ林の伐採や分断は、地域個体群の絶滅をもたらす。また、寒地系のセミであるので、地球温暖化の影響も無視できない。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○																	

カメムシ目キジラミ科

# サイカチマダラキジラミ

*Euphalerus robiniae* (Shinji, 1938)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵17

### 【選定理由】

寄主植物のサイカチの生育地が県内では1カ所に限定されているため、本種の生息地も限定されている。

### 【概要】

体長2.0mm前後。胸部は全体に黒い。前翅には特徴的な黒い斑紋があり、翅脈上に黒い斑点がある。額錐は短く、触角は短い。ジャケツイバラキジラミに似ているが、小さく、前翅の斑紋が異なる。サイカチ（マメ科）を寄主し、幼虫は葉の縁を曲げた虫えい（虫こぶ）を形成する。新成虫は7月に出現する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

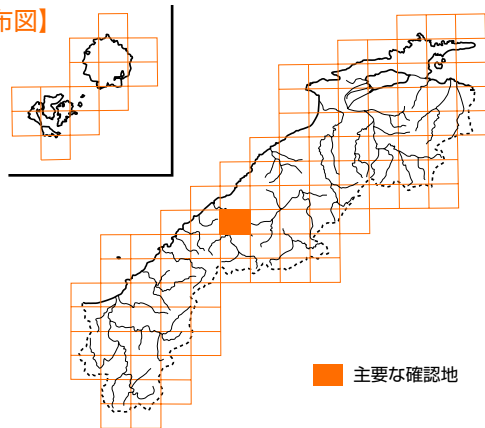
本種は寄主特異性が高いキジラミで、幼虫が成育できる寄主植物はサイカチのみである。県内の生息地は県中部のサイカチの生育地に限定されている。

### 【存続を脅かす原因】

サイカチ生育地の縮小や消滅。サイカチは「改訂しまねレッドデータブック2013植物編」において絶滅危惧Ⅰ

類に指定されている。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○						○														

コウチュウ目オサムシ科

# ハマベゴミムシ

*Pogonus japonicus* Putzeys, 1875

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵17

### 【選定理由】

塩性湿地に生息する種であり、本種の生息できる環境が県内ではきわめて限定されている。日本海側での分布という点においても注目される。全国的な希少種でもある。

### 【概要】

体長6.5mm前後。背面はつやのある黒色だが、上翅の側方から翅端付近は茶褐色をしている。上翅の条溝は明瞭である。

塩田跡や海岸の埋め立て地などに形成した潮性湿地に生息する。夜行性で灯火に飛来する。同属のドウイロハマベゴミムシは同じような環境に生息する種であるが、県内では確認されていない。

日本固有種で本州、四国に分布する。中国地方では岡山県と山口県で記録され、それぞれの県のレッドデータブックに掲載されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島の干拓地の牧場に生息している。同じ場所で塩性湿地に生息するオオツノハネカクシが確認されている。島根県内で同様な環境はほとんどなく、生息地が限定されている。本土側でも中海の埋め立て地や沿岸部の河口周辺などで、灯火による調査を行えば、生息を確認できる可能性はある。

### 【存続を脅かす原因】

塩性湿地の開発、生息地の塩分条件の変化。現状としては生息地の湿地は放牧地として管理され、状況は安定している。希少種が生息する塩性湿地としての価値が認められれば、本種の保全に繋がるのが期待される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	塩湿地
			○																			○



# コガタノゲンゴロウ

*Cybister tripunctatus orientalis* Gschwendtner, 1931

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

県内では隠岐諸島や三瓶山、県東部など限られた場所で記録があった。しかし、2000年以降、県東部を中心に確認例が増えてきており、今後の動向を注視する必要がある。

**【概要】**

体長24－29mm前後。大型種のゲンゴロウと同様、前胸背板・上翅に黄色の縁取りがあり、腹面は全体に黒色。水生植物の多い溜池や水路、水田などの止水域をおもな生息地としている。

本亜種は台湾、中国、朝鮮半島に分布する。国内では、本州、四国、九州、南西諸島、小笠原に分布する。かつては日本各地でふつうに見られたようであるが、全国的に減少傾向が著しく各都道府県のレッドデータブックに掲載されている。しかしながら2000年以降、西日本では確認例が相次いで報告されており、状況が変化してきている。南西諸島では水田や水路などの生息地は減少して

いる。

**【県内での生息地域・生息環境】**

本種はもともと県内では少なかったらしく、1990年代以前の記録はわずかである。しかし、2000年以降、県東部や隠岐諸島などで散発的な記録が報告されるようになり、繁殖地も確認されている。条例による保全が行われている鳥取県の個体群、あるいは九州などで増えている個体群が分散し、島根県内で定着した可能性も考えられるが、現時点では個体群を見分ける手段がない。また、このまま増加するかどうかについても予想が難しい。

**【存続を脅かす原因】**

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（外来魚など）の侵入・繁殖。過剰な採集。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		○				○					○					○				

# オキチビハネカクシ

*Micropeplus okiensis* Watanabe, 1990

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

**【選定理由】**

隠岐（知夫里島）で発見され記載されたハネカクシの微小種で、その後、鳥取市で採集されたが、分布が限定されている。

**【概要】**

体長1.6－2.0mm前後の微小種。全体が黄褐色から褐色で光沢がない。1983年に隠岐（知夫里島）で初めて採集され、既知の6種とは頭部、鞘翅、腹部の構造やオスの交尾器の形態が大きく異なることから新種記載された。本種は、1991年に鳥取市でも採集されており、県内の本土側で発見される可能性がある。

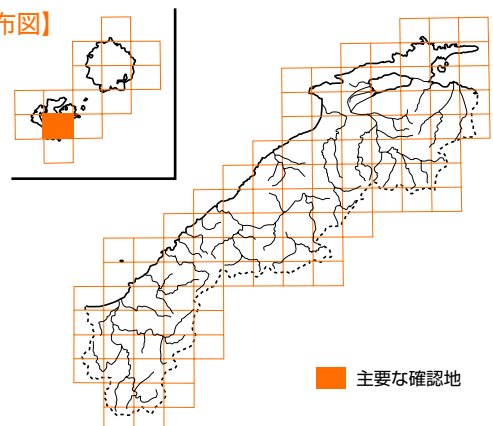
**【県内での生息地域・生息環境】**

本種は、県内では 知夫里島が唯一の既知産地である。林床下の腐葉土層に生息する微小種であるため発見し難く、特殊な採集法による調査が必要である。隠岐諸島でも知夫里島以外では発見されていないが、県内の社寺林など生息の可能性がある場所での調査が必要である。

**【存続を脅かす原因】**

生態等が明らかでなく不明であるが、自然度の高い森林、社寺林などの消失。

**【分布図】**



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○															○			

コウチュウ目ハネカクシ科

# オオツノハネカクシ

*Bledius salsus* Miyatake, 1963

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

## 【選定理由】

塩性湿地に生息する種であり、本種の生息できる環境が県内ではきわめて限定されている。日本海側での分布という点においても注目される。

## 【概要】

体長6.2–7.3mm。雄の頭部に2本の突起があるほか、前胸背板に1本の長い角状突起がある。雌にはこの突起がない。

塩田跡や海岸の埋め立て地などに形成した潮性湿地に生息する。夜行性で灯火に飛来する。塩田に無数の穴を掘ることから、かつては害虫とされていた。

日本固有種で本州、四国に分布する。中国地方では岡山県と山口県で記録され、それぞれの県のレッドデータブックに掲載されている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島の干拓地の牧場に生息している。同じ場所で塩性湿地に生息するハマベゴミムシが確認されている。

島根県内で同様な環境はほとんど無く、生息地が限定されている。本土側でも中海の埋め立て地や沿岸部の河口周辺などで、灯火による調査を行えば、生息を確認できる可能性はある。

## 【存続を脅かす原因】

塩性湿地の開発、生息地の塩分条件の変化。現状としては生息地の湿地は放牧地として管理され、状況は安定している。希少種が生息する塩性湿地としての価値が認められれば、本種の保全に繋がるのが期待される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	塩湿地
			○																			○

コウチュウ目コガネムシ科

# アオハナムグリ島前亜種

*Cetonia (Eucelonia) roelofsi iijimai* K. Sakai, 1996

島根県：絶滅危Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：隠岐島前固有亜種

環境省：－

## 【選定理由】

隠岐（島前）に生息する藍黒色のアオハナムグリで、島後には緑色の原名亜種が分布し、島前と島後で亜種が異なる初めての例である。近年個体数の減少が著しい。

## 【概要】

アオハナムグリは体長16–19mm前後。南西諸島を除く各地に分布し、背面は緑色で変異は少ないが、五島列島と種子島に分布するものは赤色を呈し別亜種とされている。隠岐（島前）の個体群は、背面が藍黒色を呈し、他の地域とは異なっている。

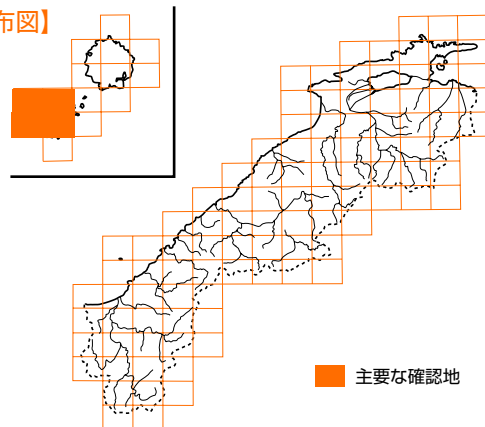
## 【県内での生息地域・生息環境】

本亜種は島前の3島にのみに分布し、島後は背面が緑色の原名亜種である。1994年に西ノ島で初めて藍黒色の1オスが採集され、翌年に採集された個体すべてが藍黒色であったため新亜種として記載された。成虫は6月ごろ出現しクリなどの花にくる。近年は個体数の減少が著しい。

## 【存続を脅かす原因】

生態等が明らかでなく不明であるが、幼虫の食餌とされる倒木・朽木の減少。珍種とされ採集圧もある。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	塩湿地
			◎																			○

コウチュウ目ハムシ科

# ツヤネクイハムシ

*Donacia nitidior* (Nakane, 1963)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

湿地に生息する甲虫で、県内における生息地は2カ所のみが知られている。

### 【概要】

体長5.0－6.5mm。背面は銅色または青色で金属光沢がある。肢は短く、腿節の基部は赤褐色。前胸背板は粗く点刻される。上翅間室は密な横シワがあるが、浅い。陰茎先端部のくびれは浅く、先端に小さな突起がある。骨片の中央突起は太短く、下方に向かって曲がる。カツラネクイハムシに似ているが、本種の複眼が小さいことで区別できる。成虫は5～6月に出現し、スゲ類に訪花する。生息環境は一般には日当たりの良い湿地である。

日本固有種で本州と佐渡に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

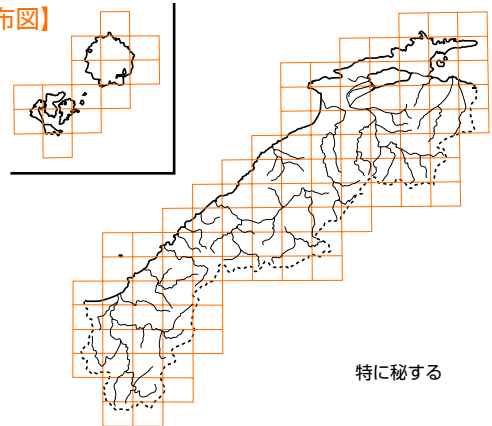
県中部と西部の湿地に生息している。今後、中国山地の小規模な湿地において生息が確認される可能性はあるが、島根県側の地形は一般に急峻であり、広島県側と比

べると湿地そのものが少ない。

### 【存続を脅かす原因】

湿地の自然遷移。林道等の開発。県東部の湿地は保全されており、生息環境としては安定した状態にある。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○						○														

ハチ目アナバチ科

# ニッポンハナダカバチ

*Bembix nipponica* F. Smith, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

典型的な海浜性のカリバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度が激減している。日本固有種。

### 【概要】

体長は雌雄間で差がなく、18mm前後の大型のカリバチである。体色は全体的に淡黄色で、胸部は黒色、腹部の各背板後縁には黒色の横縞がある。名前は、顔面の縦中央部が突起していることに由来する。海浜では風による砂の移動の少ない場所、すなわち松が疎らに生育する防風林内や民家の庭先などの日当たりのよい場所を好んで集団営巣する。育房は、緩やかに傾斜して穿孔された主坑（深さ約15－20mm）から分岐した側坑に水平方向に連結される。営巣地では、オスがメスを求めて翅音高く迅速にパトロールを行う。幼虫餌として、ハナアブ科をはじめとするさまざまな分類群のハエ類の成虫を狩る。卵は、育房内で最初に貯蔵した獲物の腹面に産下される。

ふ化した幼虫は、親バチの随時給食で発育する。閉鎖された育房口は、給餌のつど閉開が繰り返される。年1化性で、活動期間は6月末から8月中旬までの1.5カ月間である。越冬は繭中で前蛹態で行う。国内での分布域は広く、北海道から屋久島まで及ぶ。同胞種のタイワンハナダカバチ *Bembix formosana* Bishoff が台湾と八重山諸島に分布する。

### 【県内での生息域・生息環境】

大社砂丘（出雲市）、静間神社（大田市）、三里ヶ丘（益田市）。生息環境は、いずれも海浜かその近辺。

### 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

### 【特記事項】

海浜と類似した環境であれば、内陸でも営巣が見られる（京都銀閣寺の境内がその例）。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○																			○	

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

## キバラハキリバチ

*Megachile xanthothrix* Yasumatsu et Hirashima, 1964

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度がきわめて低い。

## 【概要】

体長はメスが16-17mm、オスが15-16mm。大型のハキリバチである。胸・腹部の背面が橙黄色ないし黄褐色の毛で覆われている。希種のため、生態的知見がきわめて乏しい。年1化性で、活動期間は夏から初秋である。最近の大社砂丘での調査によると、初見日はオスが7月上旬、メスが7月下旬であった。広食性であるが、花粉を採集できる花資源は大型のマメ科植物に限定される。海浜では、ハマナタマメが主花資源植物と目される。山陰の海浜ではこの植物の生育はまれで、これが原因で生息密度が極端に低いのかも知れない。営巣は砂地に穿孔して行われるほか、アナバチの1種の放棄巣や野ネズミの旧坑なども利用する。アナバチの1種の細い旧坑を利用した巣では、巣の構造は筒類営巣性のハキリバチ類のそ

れと類似している。すなわち、複数の育房が直列に連続的に配置される。また、ほかのハキリバチ類と同様に、育房のカップは卵形葉片で、育房栓と入口栓はいずれも円形葉片で閉鎖される。越冬態は前蛹である。国内では、西南日本においていずれも少数個体が採集されている。国外では、中国北東部と韓国で分布が記録されている。

## 【県内での生息域・生息環境】

大社砂丘だけで、ここでの2年間の綿密な調査でヤマハギとハマゴウにおいて3オスと18メスが採集されるに過ぎない。

## 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

## 【特記事項】

内陸でも河川敷で営巣が見られる。ここでは、クズが花資源植物として利用される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																				○	

## オオズグロメバエ

*Archiconops niponensis* (Vollenhoven, 1863)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

国内では、採集個体数がきわめて少ない 寄生性種である。

## 【概要】

体長はメスが13-16mm、オスが13-17mm。メバエ類のなかでは大型の美麗種である。雌雄は外形が酷似し、頭部は赤褐色、胸・腹部は灰色を呈している。メバエ類はすべて寄生性で、寄主として有剣類のハナバチ上科を中心に、スズメバチ上科、アナバチ科、ベッコウバチ上科が知られている。発達した口吻をもち、顕著な訪花性をもつ。生態がわかっているほかの種では、メバエ類は寄主のハチに抱きつきその腹部の背板間に産卵管を挿入して産卵するという。ふ化した幼虫は、最初は寄主の血リンパを体表から吸収するが、発育につれて寄主の腹部内臓を食べ尽くして、ここに囲蛹を形成する。寄主は砂丘地に多産するツチバチ類らしく、ハマグルマやハマゴウの花上での待ち伏せと、寄主成虫の追撃がしばしば観察

されている。最近の大社砂丘における生態調査によると、活動期間は7月上旬から8月中旬で、寄主と推測されるツチバチ類の活動期とよく符合した。越冬は、土中で死亡した寄主腹部内で囲蛹態で行うと考えられる。性比は、ややオスに傾斜している。国内では、本州・九州から分布が記録されている。国外では、熱帯アフリカ・東南アジア・中国にも広く分布する。

## 【県内での生息域・生息環境】

松江市、出雲市の大社砂丘のほか、江の川（江津市）と高津川（益田市）の河川敷でも採集されている。

## 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

## 【特記事項】

*Archiconops erythrocephalus* (Fabricius) とは別種であることが最近判明した。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○					○															○	

チョウ目アゲハチョウ科

# ギフチョウ

*Luehdorfia japonica* Leech, 1889

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県内広く分布しているが、開発や環境の変化で個体数や生息地自体も減少傾向にある。

### 【概要】

翅長29－32mm。日本特産種。年1回3～4月に発生する。成虫には顕著な陽光性があり、早朝から日中にかけて樹影のある山頂部や尾根筋、伐採斜面などに集まって活動する。この集合と分散によって地域全体の個体群が維持されるという側面がある。卵はカンアオイ類の新芽裏面に10個程度にかためて産みつけられる。ミヤコアオイは浅い谷筋や薄暗い林中に多いが、産卵は林縁部のものに集中する。春は明るく、夏は薄暗くなるような季節的推移のはっきりした林床が生息域となる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種の生息にもっとも適した環境は、雑木の疎林と藪や小川が混交する起伏に富んだ地形に適度に開けた空間、入り組んだ山裾の里山である。そのほかにも食草カ

ンアオイ類さえ生育していればブナ、カシ、スギ、マツ、タケなどさまざまな林縁環境で局所的にみられる。食草はミヤコアオイ、サンヨウアオイ、タイリンアオイ。それぞれの個体群が異なった分布成立要因をもつメタ個体群と考えられる。いずれの地域においても土地開発などにより産地が狭められつつある。生息地の全体像は把握できておらず、新産地の発見とその生息環境の実態を詳しく知ることが急務である。本種の記録がなくても、カンアオイ類の生育する土地の大規模な造成や伐採にあたっては、生息の可能性が高いので事前の調査が必要である。旧・赤来町女亀山で県条例により、松江市星上山・大田市大江高山では市条例によって保護されている。

### 【存続を脅かす原因】

大規模な土地開発、雑木林の手入れ不足による荒廃。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○					○								

チョウ目アゲハチョウ科

# ジャコウアゲハ

*Atrophaneura alcinous* (Klug, 1836)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が局地的で個体数も少ない。

### 【概要】

翅長46－58mm。山陰には食草がウマノスズクサ、マルバウマノスズクサの2種があり、前種は温帯から暖帯に広く分布しているが、山陰では局地的にしか見られないため、発生地も限られている。南西諸島では成虫が年周見られ、数も多いが、山陰では3化と思われる。飛翔はゆるやかで、アザミ、ネギボウズなど各種の草花で吸蜜する。吸水は確認されていない。卵から蛹まで特異な形をし、幼虫は共食いすることも知られている。蛹で越冬。ウマノスズクサ食のチョウは国内では本種しか生息していなかったが、近年同属のベニモンアゲハが八重山に土着し、またホソオチョウが人為的な放蝶により国内各地で繁殖している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

ウマノスズクサは堤防などに多く見られる。マルバウ

マノスズクサは本県が南限で、局所的に分布している多年草のつる草。県内では斐伊川、神戸川、飯梨川、周布川の堤防で本種が発生しているが、飯梨川では河川改良で食草が消滅した。本種は時には大発生することがあり、大山(マルバウマノスズクサ)、飯梨川(ウマノスズクサ)のように食草を食べつくし姿を消すこともある。鳥取県米子市法勝寺川堤防のように、定期的な草刈をしている所では、大発生防止になり、数は少ないが長期間生息できる環境となっている。隠岐(西ノ島、マルバウマノスズクサ食)でも複数の採集記録があるが、40年近く再確認されておらず絶滅している可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

里山の荒廃。河川堤防の過度の草刈りによるウマノスズクサ生息地の破壊。ウマノスズクサを公園や墓地などに人工的に植栽して生息地を増やすことを考えたい。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		△			○					○					○					

チョウ目シロチョウ科

# スジボソヤマキチョウ

*Gonepteryx aspasia niponica* Bollow, 1930

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

1990年代より、産地・個体数とも減少傾向である。

### 【概要】

翅長30-35mm。翅の先端が尖っているのが特徴。6月に発生した成虫はヒメジョオン、オカトラノオなどの花で吸蜜する。オスはよく吸水にくる。また、翅を閉じたまま葉裏に止まる性質もある。盛夏時には夏眠をし、秋再び現われて活動、そのまま越冬する。翌年3月ごろ暖かい晴天の日に見われてクロウメドキ類の枝先に産卵するが、1本の木に3-40個の卵を見かけることもある。越冬後の成虫は翅が痛んでいる。

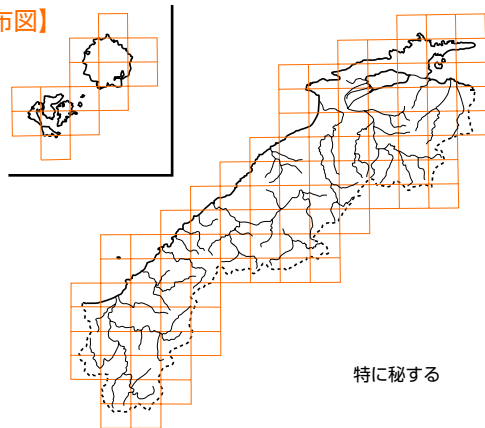
### 【県内での生息地域・生息環境】

匹見峡、松江市忌部、船通山、呑谷、三瓶山、三井野原などの林縁で見られるが減少が著しく近年はまれ。また、盛夏には高地のヒヨドリバナに吸蜜に来ていることがある。

### 【存続を脅かす原因】

クロウメドキを含む落葉樹林帯の伐採、雑木林の荒廃。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○													

チョウ目シジミチョウ科

# カラスシジミ

*Fixsenia w-album fentoni* (Butler, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

分布が限定され、個体数も激減してまれな種になってきた。

### 【概要】

翅長15-19mm。後翅裏面の白色条がW型になり、同属のミヤマカラスシジミと識別できる。北海道、本州、九州に分布し多産するところもある。食樹のハルニレがある落葉広葉樹林に見られる。年1回6月に発生、オスは夕方占有行動をし、三瓶山などではウツギなどで吸蜜するのを見ることができる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

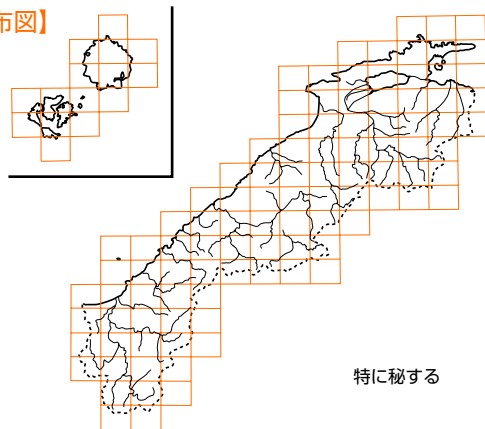
県内では西部、東部、隠岐諸島で記録があるが、開発などの伐採で絶滅していると思われるところもある。隠岐諸島は地理的変異をもつ独特の個体群が確認されているが、薬剤空中散布の影響を受け激減した。多産した三瓶山でも牧場拡張などでハルニレの大木が伐採され大きな影響を受け、個体数は減少した。近年、奥出雲町、雲

南市でも発見されている。

### 【存続を脅かす原因】

ハルニレを含む落葉広葉樹林の伐採。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○	○	○				○													

チョウ目シジミチョウ科

# ミヤマカラスシジミ

*Fixsenia mera* (Janson, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

1990年代より、産地・個体数とも減少傾向である。

## 【概要】

翅長16-18mm。山地性のチョウで、年1回6月下旬ごろより現われ、二次林や落葉樹林周辺の明るい場所を敏速に飛び回り、ヒメジョオンなどの花を訪れる。産卵は食樹クロウメモドキ類の枝にし、卵で越冬する。

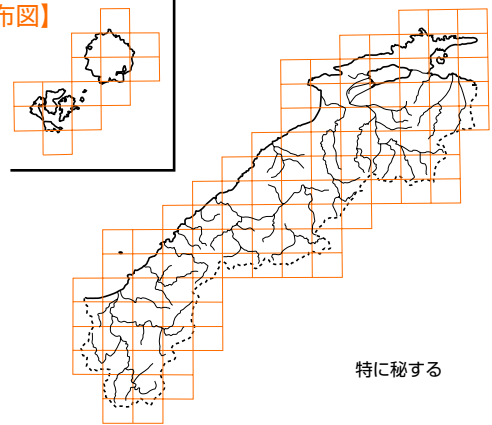
## 【県内での生息地域・生息環境】

食樹は落葉樹林帯の中に見られ、三瓶山、旧・匹見町、旧・横田町小八川などで記録がある。旧・横田町三井野原も良好な生息地であったが、1980年代には林が伐採され、さらにループ橋ができてからは生息環境が大きく変わり絶滅したと思われる。食樹が同じであるスジボソヤマキチョウともども減少が著しいのは、減少要因が同じだろうと推測される。

## 【存続を脅かす原因】

クロウメモドキを含む落葉樹林帯の伐採、荒廃。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

チョウ目シジミチョウ科

# ウスイロオナガシジミ

*Antigius butleri* (Fenton, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵18

## 【選定理由】

生息地、個体数ともに減少している。

## 【概要】

翅長16-18mm。鳥取県大山のような高標高地ではミズナラ林で6月下旬ごろから7月中旬ごろに発生するが、県内の低山地では6月中旬ごろナラガシワに発生する。ウラジロミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミのようにナラガシワのある程度まとまった林ばかりではなく、低山地の農道脇にポツリと点在する木にも少ないながら見られる。日中は葉陰に静止していることが多く、目立ちにくい種ではある。もともと少なかった種に思えるが、車の排ガスや遷移による影響も考えられ、昔は確認できた所も今では見られないところが多い。

## 【県内での生息地域・生息環境】

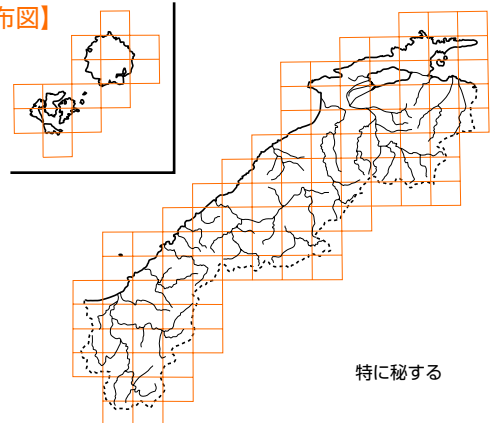
東部では2002年に低山地の農道脇の樹から確認できた所もあるが、樹が大きくなり枝が道路へ張り出せば伐採される恐れや、遷移進行で生息環境は決してよくない。

旧・木次町には毎年確認されているところも残されている。

## 【存続を脅かす原因】

食樹ナラガシワを含む雑木林の荒廃と伐採。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○													

チョウ目シジミチョウ科

# オナガシジミ

*Araragientha* (Janson, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

生息地、個体数とも減少している。

### 【概要】

翅長18mm前後。溪谷沿いに見られるオニグルミが食樹で、他のゼフィルスより少し遅れ7月中旬ごろ出現。昼間は葉陰で静止しているが、夕方になると食樹の梢を飛翔する。産卵は樹幹のシワ部分にするのを確認しているが、多くは休眠芽近くの枝で見られる。

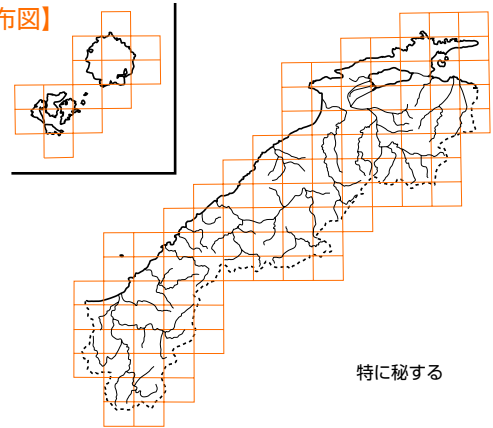
### 【県内での生息地域・生息環境】

オニグルミは湿った土地を好み、水分が少ないところでは成木しない。そのため溪流沿いに繁殖するが、三瓶山北の原での成木林は、地下に水分を多く含んでいる特殊な環境であろう。堰堤工事や林道改修などで伐採されたり、遷移が進行したりで、各地とも環境は決して良いとはいえず、現在では隠岐（島後）、奥出雲町などに散発的に見られるに過ぎない。また隠岐（島後）産は特異な個体群であり保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

溪谷沿いの道路拡幅による食樹オニグルミの混じる落葉広葉樹林の伐採。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		○	○		○															

チョウ目シジミチョウ科

# ヒロオビミドリシジミ

*Favonius latifasciatus* (Shirôzu et Hayashi, 1959)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

ナラガシワに依存しているため産地が限定され、個体数も減少傾向である。

### 【概要】

翅長22-24mm。中国地方のみに生息する。低山地に見られるナラガシワに依存。6月上旬から下旬ごろに発生するが、ある程度古木が存在する林に見られる。翅表が青緑色のミドリシジミ類の中では発生が早い。オスは晴天の日、朝10時ごろより活動を始め、昼ごろに一時活動が鈍くなり、2時ごろから再び活動する。追飛や卍飛翔など激しく飛翔するが、メスは不活発で葉上にいることが多く、早朝には下草にも降りている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

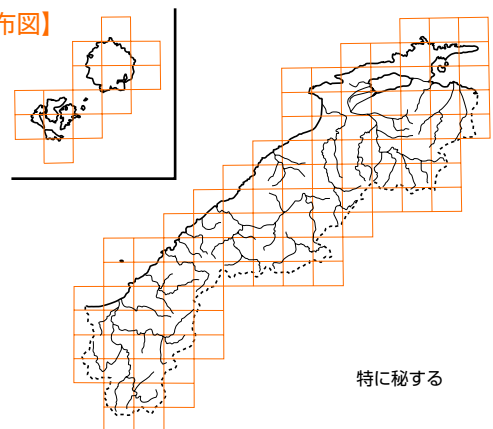
ナラガシワは県内の低山地に広範囲に点在するがごく小規模な林しかないので、本種の生息密度は低く生息地も限られている。旧・匹見町、旧・六日市町、旧・瑞穂町、旧・邑智町、旧・頓原町、旧・横田町、旧・赤来町

などに記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

ナラガシワはまったくの雑木として扱われるため伐採されやすく、保全が必要である。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○					○								



チョウ目シジミチョウ科

# ミドリシジミ

*Neozephyrus japonicus* (Murray, 1875)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され個体数も減少傾向。

### 【概要】

翅長18-20mm。食樹ハンノキ、ヤマハンノキが自生する湿地に、6月下旬から7月中旬ごろ発生する。北海道から九州まで広く分布し、平地から山地まで見られるが、山陰では山地性となる。オスの翅表は金緑色、メスは黒褐色で、A、B、AB、Oと呼ばれる4型の色斑が現れる。発生地を離れることなく、昼間は葉上で静止していることが多いが、夕方には活発に活動する。

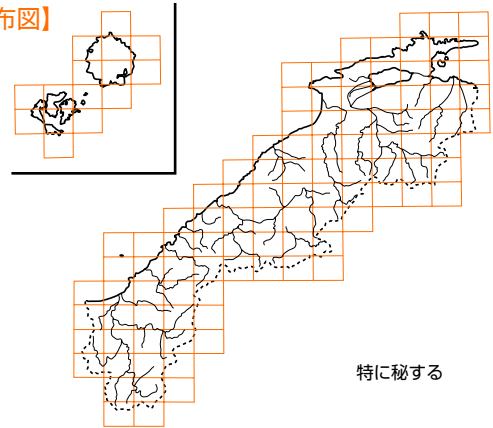
### 【県内での生息地域・生息環境】

県東・西部の湿地帯に食樹が点在し、生息が確認されているが、規模は小さい。ハンノキ林があっても本種が見られない場所、小川沿いの1本の樹に発生していたがすでに姿を消した場所もある。湿地は埋立てや遷移で不安定でもあり、現在の状況からすると、今後長期間安定した発生は望めないようにも思われる。

### 【存続を脅かす原因】

ハンノキの生える湿地の開発、埋め立て、乾燥化。谷沿いにある小湿地は産廃処分場として開発されつつある。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○											○									

チョウ目タテハチョウ科

# クモガタヒョウモン

*Nephargynnis anadyomene ella* (Bremer, 1864)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

分布は広いが極端に減少傾向にある。

### 【概要】

翅長30-41mm。他のヒョウモン類に先駆けて、平地では5月中旬ごろより出現する。低山地から山地まで広範囲に生息しているが、広い草原よりは雑木林周辺、谷筋にある明るい草地などで吸蜜しているのを見かけることが多い。比較的ゆるやかに飛ぶが、人には敏感で近づくとすぐ飛び立つ。やがて夏眠に入り姿を消し、秋再び現われて活動し産卵する。

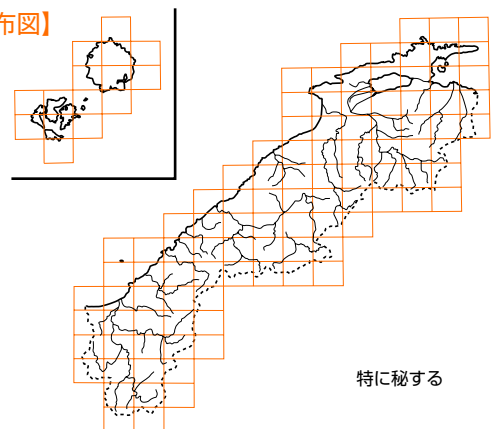
### 【県内での生息地域・生息環境】

里山域を中心にして、県内全域（隠岐諸島・島根半島含む）に低密度で分布していたが、近年は目撃することさえ困難になってきた。以前の三瓶山では遊歩道沿いなどのウツギに集まるが多かった。不用意に雑木林を伐採せず、その林縁部を欠かさず手入れしていくなど、里山環境を保全していくことが望ましい。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。農薬の影響も考えられる。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○				○						○							

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目タテハチョウ科

# メスグロヒョウモン

*Damora sagana liane* (Fruhstorfer, 1907)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵19

### 【選定理由】

1970年代には普通に見られたが、1990年代より減少傾向にある。

### 【概要】

翅長35－40mm。オスは他のヒョウモン類と似た色模様しているが、メスは地色が黒褐色でイチモンジチョウに似た色模様をし、別種のように見える。低山地の雑木林や二次林周辺に6月中旬ごろ現われ、各種の花を訪れたり、地上で吸水したりするが、盛夏には夏眠し秋再び現われ、木の幹など食草から離れた所に産卵、1令幼虫で越冬する。食草はスマレ類。

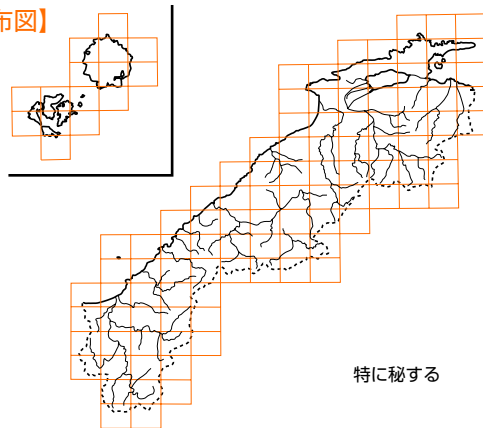
### 【県内での生息地域・生息環境】

低山地の雑木林の林縁などが主要生息地。ウツギ、クリ、ノアザミ、オカトラノオなどに訪花するのが観察されている。隠岐諸島でも以前のように多く見られることがない。秋季見られる越冬個体は人家周辺の草花で吸水するので発見されやすい。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○				○					○							

チョウ目タテハチョウ科

# ミスジチョウ

*Neptis philyra excellens* Butler, 1878

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵19

### 【選定理由】

近年個体数が減少している。

### 【概要】

翅長31－37mm。古くは松江市内や郊外の社寺林にも見られたが、急速に姿を消し、現在では溪谷沿いにカエデがある落葉広葉樹林にまれに見られる程度である。しかし、発生にはカエデ林は必要なく、1本の大きな木があり、周囲の環境さえよければ発生源になる。年1回6月上旬に発生、樹冠を滑空するように飛翔、よく吸水のため地上に降りてくる。幼虫越冬するが、カエデの葉が落ちないように柄を枝と糸で綴っているため冬季には目に付きやすい。

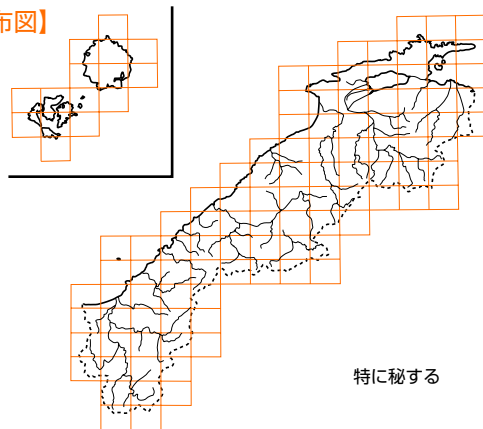
### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山、呑谷、匹見峡、大万木山などで確認されているが、どことも必ず見られる場所ではなく、カエデのある溪谷でも2～3年で幼虫さえも見られなくなることがある。

### 【存続を脅かす原因】

カエデの混じる自然度の高い落葉広葉樹林の伐採。林道のアスファルト舗装化。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○					○								

チョウ目タテハチョウ科

# オオムラサキ

*Sasakia charonda* (Hewitson, 1863)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 19

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

近年著しく減少している。

### 【概要】

翅を開くと100mmを超すタテハチョウ最大の大きさで、飛翔も樹の周りを滑空旋回し力強く勇壮。オスの翅表には綺麗な紫色がありたいへん美しく、国蝶にも選ばれている。年1回6月下旬から7月に発生、オス、メス共にクヌギなどの樹液に集まる。幼虫はエノキ、エゾエノキを食し、落葉裏で越冬する。農山村の生活習慣の変化から里山が変貌し雑木林は著しく荒廃が進んだ。里山を代表するチョウ類が衰亡していく様相が本種の動向から垣間見える。

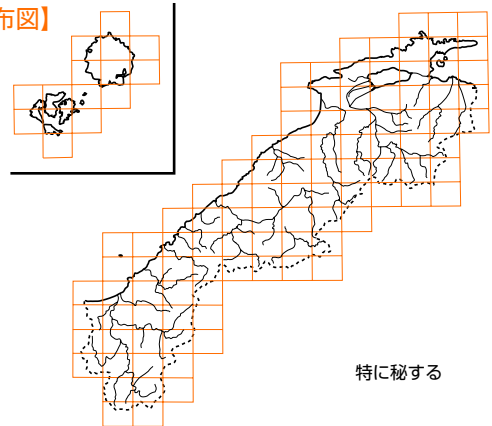
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内広く低密度で確認されているが、浜田市では開発、安来市のような自然林も樹液の出る樹が枯れるなど環境悪化が進んでいる。車の排ガスも影響が大きいと思われる。多産していた三瓶山でも少なくなってきた。

### 【存続を脅かす原因】

幼虫の食樹エノキ・エゾエノキ、成虫の蜜源クヌギ・アベマキを含む自然度の高い雑木林の伐採、手入れ不足、放置による荒廃。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○					○								

チョウ目ジャノメチョウ科

# ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種

*Coenonympha oedippus arothius* Okada et Torii, 1945

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 19

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が局限され、個体数も減少傾向である。

### 【概要】

翅長20-23mm。年1回6-7月に出現、翅裏面の眼状紋に特徴があり、地理的変異、個体変異が知られる。中部地方と中国地方の山陰側では高標高地の乾性草原に、東海地方と山陽地方では低標高地の湿性草原に見られるという特異な分布を示す。生息地では日あたりのよい草地をゆるやかに飛翔し、オカトラノオなどの花を訪れる。

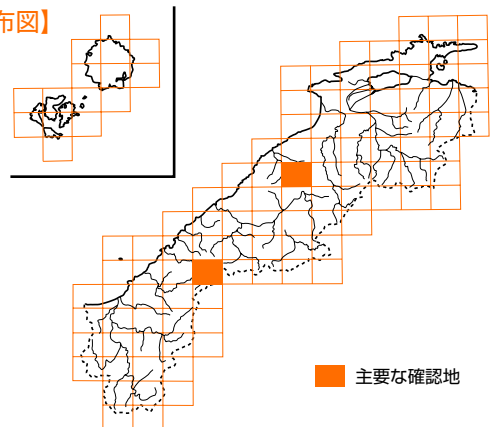
### 【県内での生息地域・生息環境】

雲月山と三瓶山の2カ所の乾性草原に生息する。雲月山では山頂近くの草地に多く見られたが激減した。三瓶山でも減少が激しく、西の原、北の原ではまれで、東の原で見られるに過ぎず、憂慮される事態になっている。県内での幼虫の食草は知られていないが、他県の例からイネ科であることは間違いない。

### 【存続を脅かす原因】

手入れ不足や過放牧による乾性草原の荒廃。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎				◎																

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目セセリチョウ科

# ギンイチモンジセセリ

*Leptalina unicolor* (Bremer et Grey, 1835)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵19

### 【選定理由】

生息地が減り個体数も減少している。

### 【概要】

翅長15-16mm。翅の裏面にはみごとな銀線がある特異な模様で近似種はいない。北海道から九州まで広く分布するが、どことも個体数の減少傾向が見られる。本種は食草のススキ・オギがある明るい草地在り生息地になっているが、クズ、カナムグラのような繁殖力の強い植物が入り被い尽くすと姿を消す。5月と7-8月年2回発生し、草上を弱々しく飛び続け、葉に止まったり花で吸蜜したりする。また湿ったところでは吸水もし、時には集団にもなる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

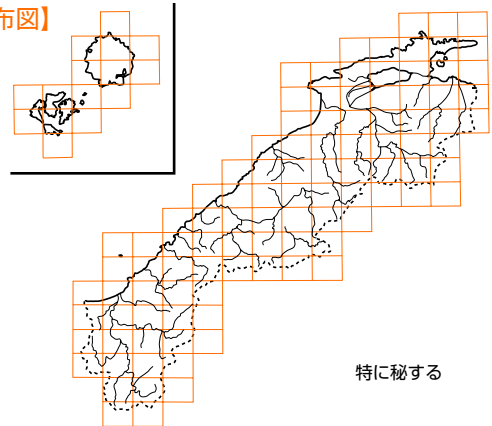
県東部では斐伊川、西部では旧・三隅町、高津川など数カ所が産地として知られている。開発などで産地が破壊され絶滅しているところもある。遷移の進行など残された産地も環境が悪くなっている。米子市では高速道路

のり面で発生しているところがあり、県内でもそういう可能性はある。

### 【存続を脅かす原因】

手入れ不足による草地の荒廃。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○					○			○		

チョウ目セセリチョウ科

# スジグロチャバネセセリ

*Thymelicus leoninus* (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵20

### 【選定理由】

局所的で個体数も減少傾向である。

### 【概要】

翅長14mm前後。地色は赤橙色、翅脈が黒い線状になりその名がある。オスは斜状性標があるが、メスはヘリグロチャバネセセリに酷似し識別が困難。7-8月に発生、溪谷沿いの林縁の明るい草をゆるやかに飛び、訪花や吸水をする。葉に止まるときは前翅を立て、後翅を開くセセリチョウ独特の姿勢をとる。

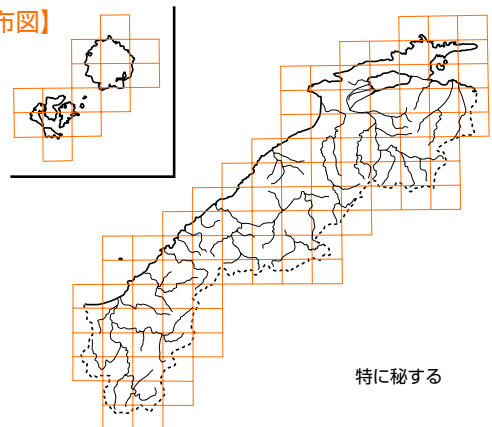
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では島根半島、船通山、立久恵峡、江の川流域、旧・頓原町などで確認されているが少ない。旧・仁多町呑谷は、年によって多産することもあるが、2013年は伐採後の山道が放置されて荒れて減少していた。近似種ヘリグロチャバネセセリが崖地の草付きに生息するのに対し、本種は谷沿いの林縁草地に多く、すみ分けをしている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の開発改修、自然遷移。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			△	△			△	△												

チョウ目セセリチョウ科

# ミヤマチャバネセセリ

*Pelopidas jansonis* (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

産地・個体数とも著しい減少傾向が見られる。

### 【概要】

翅長16-21mm。本州（隠岐諸島を含む）、四国、九州に分布。チャバネセセリの仲間は、後翅裏面の白斑の並び方で種別を識別するが、後翅の中室に大きな白斑があるのは本種のみで識別は容易。年2回、5月ごろと7～8月に発生する。山地樹林周辺の草地を敏速に飛び回り、ノアザミ、ヒメジョオンなどの花に好んで吸蜜し、湿地で吸水もする。

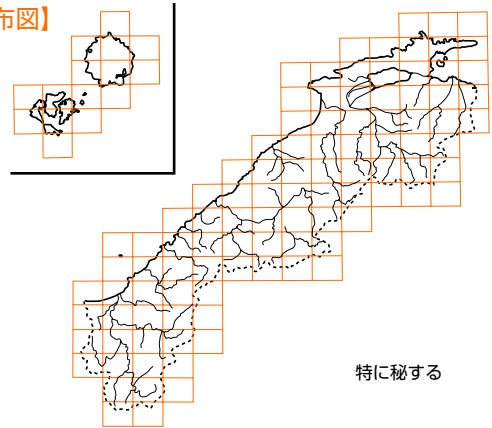
### 【県内での生息地域・生息環境】

以前は島根半島の山麓にも多かったが、近年減少傾向にある。隠岐（島後）でも最近の記録が少ない。三瓶山では比較的まだ多く見られる。採草地、牧場などの広い草原では見られない。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の草地の荒廃。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			○	○												

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目カワトンボ科

# アオハダトンボ

*Calopteryx japonica* Selys, 1869

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

水生植物が豊かな河川中流域に生息しており、河川改修等による環境変化に弱い。

### 【概要】

全長55－63mm。ハグロトンボによく似るが、成熟したオスでは翅が青藍色に輝き、また腹面末端が白色である。メスでは翅に白色の偽縁紋がある。羽化時期はハグロトンボより約1カ月早く5月中旬ごろから始まる。最盛期は6月で8月上旬まで見られる。本種はメスへの求愛行動が特異で、オスは飛びながら腹面末端の白色部を誇示し、ときに流水面に浮かんで流されるような行動をとる。

産卵はメス単独で水中植物に行うが、しばしば潜水産卵に移行する。朝鮮半島から中国東北部、東シベリアに分布し、国内では本州および九州の各地に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

流域の比較的大きな河川の中流域を中心に広く分布するが、生息河川はかなり限定される。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

生息地流域の開発等による水質悪化や、河川改修等による河川植生環境の消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○					○					

トンボ目イトトンボ科

# ムスジイトトンボ

*Paracercion melanotum* (Selys, 1876)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での記録が非常に少なく、現在確実に見られるのは中海沿岸部の池沼や河川下流域。

### 【概要】

全長30－39mmの中型のイトトンボ。同属のセスジイトトンボやオオイトトンボとは混生するうえ形態が酷似するため、同定に注意を要するグループの一つ。オスでは同属他種に比べ眼後紋が小さく体色の青みが強いが、確実な同定には尾部付属器による確認が必要。メスでは前胸後縁の中央部がへこむことなどで識別できる。国内で

は宮城県以南に分布。南方系の種で日本海側では産地が限定される。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）を含む県内沿岸部の数カ所から記録されている。平地の植生豊かで比較的大きな池沼、河川の河口域等がおもな生息環境。中海に面している鳥取県米子市の水鳥公園周辺は本種の多産地であるが、距離的に近い飯梨川河口周辺で近年生息が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による生息水域の消失や水質悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○														○				○

トンボ目イトトンボ科

# ホンミイトトンボ

*Aciagrion migratum* (Selys, 1876)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での分布が局限され、また単発的な記録が多く、確実な生息地が知られていない。

### 【概要】

著しく細身の中型のイトトンボ。本種は秋に羽化し、越冬後翌春に成熟する越冬型と、初夏に羽化し直ちに成熟する夏型の2タイプが知られる。全長は越冬型で33－37mm、夏型で29－33mm。未熟な個体は、オス、メスとも淡褐色であるが、成熟すると越冬型の方が、体色の青みがより強く鮮やかになる。産卵はオス、メス連結して植物組織内に行うのがよく観察される。台湾、朝鮮半島か

ら中国中部にかけて分布し、国内では関東・北陸地方以南に分布している。本種は南方系の種であり、比較的寒冷な気候の日本海側では分布が限られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平地から山間部まで広く分布するが産地は局部的。植生豊かで日当たりのよい池沼や水田等に生息。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

圃場整備や池沼の埋め立てによる生息地の消失。水田への農薬散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○								○		○			○		○				

トンボ目ムカシトンボ科

# ムカシトンボ

*Epiophlebia superstes* (Selys, 1889)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

河床の安定した山間部の溪流に生息するが、分布は局地的である。

### 【概要】

全長45－56mm。中生代に栄えた古代トンボの1群で、現生種は日本特産種である本種と、ヒマラヤ山地に生息するヒマラヤムカシトンボの2種のみ知られていたが、最近になって中国北東部から第3の種が報告されている。複眼が離れるなど体形はサナエトンボ科に似るが、翅はアオイトトンボ科に似るといふ特異な形態をしている。幼虫期間はきわめて長く、6、7年に及ぶと言われ

ている。おもに4月下旬から5月にかけて溪流周辺を敏捷に飛翔する。産卵はメスが単独でフキ、ワサビ、コケ類などの生体組織内に行く。成虫の出現期間が短いため、幼虫採集による分布調査が有効。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地沿いの源流域を中心に、島根半島部や離島である隠岐（島後）にも分布している。

### 【存続を脅かす原因】

林道やダム建設等、山間開発による溪流への土砂流入や水系の分断。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○						○									

トンボ目ヤンマ科

# サラサヤンマ

*Sarasaeschna pryeri* (Martin, 1909)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

周辺を樹林で囲まれた湿地や休耕田などに生息するが、産地は局地的である。

### 【概要】

全長57－68mm。黒地に黄色から緑色の斑紋を持つ小型のヤンマ。樹林に囲まれた丘陵地の湿地や休耕田に生息する。4月下旬ごろから羽化が始まり、未熟成虫は林間の開けた場所を高く飛びながら摂食飛翔を行う。成熟したオスは木陰のある湿地や休耕田をホバリングを交えながら縄張り飛翔を行い、メスの飛来を待つ。産卵は朽木

や湿った土、落ち葉などに行く。北海道、本州、四国、九州に分布するが、産地の減少している地域もある。日本特産種。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平野部から山間部まで広く分布するが、特殊な湿地環境に生息するため産地は局限される。隠岐（島後）にも分布する。

### 【存続を脅かす原因】

湿地や休耕田の乾燥化、開発による生息場所の消失。成虫の休息場所となる林の消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○				○						○									

トンボ目ヤンマ科

# アオヤンマ

*Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

生息池沼の埋め立てやヨシ原などの植生破壊により、産地が急速に減っている。

### 【概要】

全長66－79mm。全身黄緑が鮮やかで、一見して他のヤンマと区別できる。幼虫の頭部は顕著な逆三角形でネアカヨシヤンマに似るが、腹部に背棘がないことで識別できる。羽化は5月上旬ごろから始まり、成虫は8月中旬ごろまで見られる。成熟したオスは、おもに日中、ヨシ原の間を縫うように縄張り飛翔する。交尾はヨシ原の中や、林縁の小枝などで観察される。メスは単独で挺水植

物の茎に産卵する。国外では朝鮮半島と中国中部、北部に分布し、国内では北海道南部から九州熊本まで分布している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

挺水植物が繁茂する池沼やクリークに生息し、かつては平野部で普通に見られた。隠岐諸島では現在も比較的多産する。

### 【存続を脅かす原因】

挺水植物の多生する溝川や池沼の埋め立て。ヨシ原などの植生破壊。休息場所となる山林への薬剤散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○													○					

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目ヤンマ科

# カトリヤンマ

*Gynacantha japonica* Bartenef, 1909

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

圃場整備による水田の乾燥化や山裾の水田の放棄荒廃により、近年減少傾向が著しい。

### 【概要】

全長66－77mm。複眼が大きく腹部がほっそりとした中型のヤンマ。腹部背面の第2節の色は、成熟オスでは鮮やかな水色、メスでは緑色の斑紋となる。羽化は7月上旬ごろから始まり、成虫は秋遅く11月下旬ころまで見られる。黄昏活動性が強く、日中は薄暗い樹林の下枝にぶら下がっていることが多い。産卵はメス単独で水田の湿土や朽木などに行う。国外では中国中部、北部から朝鮮

半島に分布し、国内では北海道南部から九州まで広く分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

かつては平野部から低山地にかけての林縁の水田で普通に見られたが、圃場整備による水田の乾燥化や草原化により近年急速に生息状況が悪化している。隠岐の島後や、島前の知夫里島にも記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

圃場整備等による水田や湿地の乾燥化。成虫の休息場所となる林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○							○					○						

トンボ目ヤンマ科

# ルリボシヤンマ

*Aeshna juncea* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

おもに中国山地沿いの湿地や比較的小規模な池沼に生息するが、分布が局地的である。

### 【概要】

全長68－90mm。オオルリボシヤンマに似た大型のヤンマである。7月中旬ごろから羽化、成虫は10月中旬ごろまで見られる。成熟した成虫は、気温が下がり始める8月下旬ごろから水域に現れ、オスはホバリングをしばしば交えて縄張り飛行を行い、メスは単独で水面付近の植物組織内や湿土に産卵する。北半球北部一帯に分布し、

国内では北海道、本州、四国に分布。西南日本では産地に限られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

おもに中国山地沿いの湿地や休耕地、小規模で挺水植物の豊富な池沼で見られる。島根半島部や益田市周辺、大田市石見銀山周辺など標高の低い平野部での記録もあるが非常にまれ。隠岐諸島では未記録である。

### 【存続を脅かす原因】

造成や残土処理等による生息地の埋め立て。成虫の休息場所となる森林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○					○					○					○				

トンボ目サナエトンボ科

# ヒメサナエ

*Sinogomphus flavolimbatus* (Matsumura in Oguma, 1926)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

流域全体の環境が良好に保たれている大きな河川の流域に限って分布する。

### 【概要】

全長41－47mm。河川上流域を中心に生息する華奢な体形のサナエトンボ。体形がよく似たオジロサナエとしばしば混生するが側胸の斑紋等で識別は容易。幼虫は河川中下流域まで流下することが多く、そこで羽化した成虫は上流域に移動しながら成熟するという。匹見川では、6月に羽化が始まり7月中旬には溪流の石の上で縄張り

を張るオスが多数見られる。産卵はメスが単独で、流れの緩い岸辺に現れ打水産卵を行う。日本特産種。

### 【県内での生息地域・生息環境】

比較的流域の大きな河川の上流部で見られる。高津川水系の匹見川上流部では多産するが他の地域では単発的な記録がほとんどで個体数も多くない。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

林道工事等山間部開発に伴う木々の伐採や溪流への土砂流入。ダム設置による溪流環境の消失や水系の分断。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○					○										



トンボ目サナエトンボ科

# タベサナエ

*Trigomphus citimus tabei* Asahina, 1949

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

分布が限られるが、特に県東部ではまれで、絶滅した産地も少なくない。

### 【概要】

全長43－47mmの比較的小型のサナエトンボ。県内に分布するコサナエ属3種（本種、コサナエ、オグマサナエ）はお互い酷似し、また混生も見られるため、成虫の同定には注意を要する。ただし本種幼虫は、同属他種に比べ背棘・側棘が明瞭であり、また腹部先端が円筒形にならず、区別は容易である。県内平野部では4月上旬から羽

化が始まり6月まで記録がある。コサナエ属中で本種のみが日本特産種でなく、朝鮮半島から中国東北部にかけて別亜種が分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を除く県全域に分布するが、東部では産地が局限される。平野部を中心に、緩やかな流れの浅い小川に生息するが、溜池等止水的環境にも適応している。

### 【存続を脅かす原因】

小規模な流れのコンクリート水路化。生息地の植生環境の破壊。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○										○	○					○	○				

トンボ目サナエトンボ科

# キイロサナエ

*Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

平地や丘陵地の緩やかな流れの砂泥河川に生息するため、分布が限られる。

### 【概要】

全長60－69mmの大型のトンボ。ヤマサナエに似るが、オスでは尾部上付属器の先端が斜めに断ち切れ下部付属器よりも短いこと、メスでは産卵弁が長く突出することで識別は容易。羽化は5月中旬ごろから行われ、1週間前後で終わる。未熟個体は生息地周辺の林内で過した後、水域に戻ってくる。オスは河川の石や植物に静止し縄張

りを占有する。日本特産種で関東以南の本州、四国、九州に分布するが、全国的に産地の減少が顕著。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部を中心に記録があるが、中・西部では記録が少ない。隠岐諸島では未記録。おもな生息環境は砂泥河川の中下流域である。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修等による河川環境の変化。未熟期間を過ごす河川周辺の林の消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○											○						○				

トンボ目ムカシヤンマ科

# ムカシヤンマ

*Tanypteryx pryeri* (Selys, 1889)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

幼虫が山の斜面で水のしたたり落ちるような特殊な環境に生息するため分布が限られる。

### 【概要】

全長63－80mmのやや大型のトンボ。頭部が比較的小さく複眼が離れており、一見サナエトンボのように見えるが、腹部の斑紋が特異で縁紋もサナエトンボより長い。羽化は5月上旬ごろに始まり、成虫は7月下旬まで見られる。大型のトンボのわりに動作がのろく、飛翔しているより、木立の幹や地面および低木の葉上などに体を密着させて止まることが多い。産卵はメス単独で湿った柔

らかい泥やコケの間に行く。幼虫は湿った土やコケの間にトンネルを掘って生活している。日本特産種で本州、九州に分布しているが、四国には分布しない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

低山地から山間部にかけて広く分布するが、産地は限定される。島根半島部にも記録があるが、隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

林道建設等開発による生息湿地の消失。成虫の休息場所となる山林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○						○									

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目エゾトンボ科

# エゾトンボ

*Somatochlora viridiaenea* (Uhler, 1858)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

かつては休耕田等の増加に伴い、一時的に産地・個体数を増したが、植生遷移による生息地の乾燥化などにより多くの産地が消失した。

### 【概要】

全長53－74mm。全体が金属光沢のある暗緑色をした中型のトンボで夏から秋に出現する。成熟したオスは水田や湿地上で縄張り飛翔を行いメスの飛来を待つ。黄昏時には生息地周辺の高所を広範囲に飛び回る。同属のハネビロエゾトンボとは混生するうえ、特にオスの形態が酷

似するため、同定には注意を要する。雌雄とも腹部に黄斑があるのが本種であるが、成熟した雄では黄斑の消失する個体も見られ、尾部上付属器による確認が必要である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め、県内全域の丘陵地から山地にかけての湿地的環境に分布するが、生息地は限定される。

### 【存続を脅かす原因】

植生遷移等による湿地の乾燥化や草原化、造成・残土処分等による湿地の消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○						○						○	

トンボ目トンボ科

# ヒメアカネ

*Sympetrum parvulum* (Bartenef, 1912)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

湿地や水はけの悪い水田等に生息し、生息地が限定される。近年産地の減少が著しい。

### 【概要】

全長28－38mm。県内で見られるアカトンボ属の中では最小の種類。マユタテアカネに似るが、顔面の眉斑が無いかあっても薄く小さいことなどで区別できる。羽化は5月下旬ごろから始まり、成虫は平野部では11月ごろまで見られる。メスは交尾後、オスと連結あるいは単独で、腹部を泥の中に差し込むように産卵するのが観察される。朝鮮半島から中国東北部、ウスリーまで分布し、国

内では北海道から九州まで分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め県全域に広く分布するが、生息地は限定される。湿地的環境に生息し、産地ではモートンイトトンボやハッチョウトンボとの混生がしばしば観察される。

### 【存続を脅かす原因】

造成や残土処分等開発による、湿地・休耕田等生息地の消失やそのような環境の乾燥化、草原化。成虫の休息場所となる周辺雑木林等の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○						○						○	

トンボ目トンボ科

# ミヤマアカネ

*Sympetrum pedemontanum elatum* (Selys, 1872)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

低山地を中心にかつては比較的普通に見られたが、近年生息地の減少傾向が顕著である。

### 【概要】

全長30－41mmのやや小型のアカトンボ。翅の縁紋あたりから内側にかけて幅広い褐色帯があるのが特徴的である。羽化は6月下旬ごろから始まり、成虫は11月下旬近くまで見られる。ただ秋に羽化する個体もいるようで、一部2化の可能性があるという。オスは成熟すると縁紋も含めて全身が赤くなる。メスは成熟してもあまり赤くならず橙褐色だが、縁紋や腹部が少し赤くなるものもい

る。9月上旬ごろから交尾や産卵の生殖活動が見られる。国内では北海道から九州まで、国外では朝鮮半島、中国、ロシア、ヨーロッパに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島および島根半島部を除き、低山地を中心に広く分布する。水田やそれに付随する緩やかな流れがおもな生息環境である。最近平野部に近い生息地の減少が著しい。

### 【存続を脅かす原因】

圃場整備による水田の乾燥化や水田地帯を緩やかに流れる小川のコンクリート化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○													

カマキリ目カマキリ科

# ウスバカマキリ

*Mantis religiosa* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

県内ではまれな種であり、生息地が限られている。

### 【概要】

体長約45–65mm。成虫・幼虫共に前脚基節の内側に黒紋がある。卵のうはやや長い枕形で壁・石下などに産みつけられる。造成地などの草地や河川敷・海岸の草原など開けた明るい環境を好み、安定した草原に生息する。国内では北海道、本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮半島、台湾、中国、シベリア、インド、中～南ヨーロッパ、北アフリカ、北米に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本土域および隠岐諸島で記録されている。隠岐諸島の記録は再確認が必要である。沿岸部の記録が多い。

### 【存続を脅かす原因】

安定した草原の減少。河川改修。海岸の開発。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			△											○	○				○		

バッタ目コオロギ科

# ハマスズ

*Dianemobius csikii* (Bolivar, 1901)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

自然度の高い砂地環境に生息する種であり、県内での生息地も減少している。

### 【概要】

体長約10–20mm。灰白色の地に褐色（あるいは灰色）の斑があり、砂とそっくりの体色をしている。2化性で、成虫期は6–10月。時々「チョンチョン」という音をまじえながら「ピーピー」と鳴く。海岸植物が多い良好な自然の砂浜や河川敷に生息する。国内では北海道南部、本州、四国、九州、奄美諸島、国外では中国北部に分布

する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の海浜植物群落を伴った砂浜で記録されている。内陸での記録はまったく無く、確認は難しい。隠岐諸島には生息していないとみられる。

### 【存続を脅かす原因】

海浜植物群落を伴った砂浜の減少。海岸浸食。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○																		○	○

バッタ目バッタ科

# ショウリョウバッタモドキ

*Gonista bicolor* (de Haan, 1842)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

ススキやチガヤ草地の減少により、生息地が孤立している。

### 【概要】

体長約30–80mm。細長く直線的な体型。後脚は短い。体は淡緑色で、背中茶色っぽい。全身が褐色の個体もいる。飛ぶ時も発音しない。どちらかというと湿っぽい安定した草原を好む。国内では本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬、南西諸島、国外では中国、東南アジアに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島、松江市、雲南市、三瓶山および隠岐諸島から記録されている。隠岐では1950年の目録以降、記録が無かったが、2013年10月に島前の中ノ島で再確認された。

### 【存続を脅かす原因】

水田の畦の管理方法の変化。採草地の放棄による植生遷移。特にススキ草地の減少。ススキの群落であってもクズが進入すると本種は生息できなくなる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		○						○	○											

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

バッタ目イナゴ科

# セグロイナゴ

*Shirakiacris shirakii* (Bolivar, 1914)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生息地は限定されている。

### 【概要】

体長約30-40mm。中型のイナゴ類。体色は黒灰色から茶灰色で、黒褐色の斑紋がある。複眼には6条の黒線がある。河川敷、丘陵地の疎らな湿った草原に生息する。国内では本州、四国、九州、対馬、南西諸島、国外では朝鮮半島、沿海州南部、中国、カシミール、バルチスタンに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部、隠岐諸島で記録されている。近年の記録があるのは隠岐のみである。

### 【存続を脅かす原因】

採草地の放棄による植生遷移。草地を一斉に刈り取る事による単純化、放置によるマント群落化、セイタカアワダチソウなどの外来植物の繁茂。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○						○					○							

バッタ目バッタ科

# ヤマトマダラバッタ

*Epacromius japonicus* (Shiraki, 1910)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵20

### 【選定理由】

海浜植生を伴った砂丘海岸に生息する種であり、県内での生息地も自然度の高い砂浜に限定されている。

### 【概要】

体長30-35mm。体色は白地に黒や茶色の斑模様で多いが、緑色に赤褐色の斑模様を持つ個体もいる。基本的には生息地の砂地の色によく似ており、動かないと見つけることは難しい。日本固有種で北海道、本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部から西部までの砂丘の発達する海岸や河口の砂洲に生息している。県内の砂浜海岸は、大社から湖陵付近の出雲砂丘が最大で、本種の最大の生息地でもある。隠岐諸島では記録がなく、生息の可能性も低い。全国的にみれば島根県は自然度の高い砂浜が多く残されており、良好な生息地としての価値は高い。

### 【存続を脅かす原因】

砂浜海岸の開発、海岸浸食。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○																		○	

ガロアムシ目ガロアムシ科

# ガロアムシ類

*Galloisina* spp.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

原始的な形態を残す昆虫とされ、県内では東部および西部の山地 5カ所で採集記録があるが、詳細は不明である。

### 【概要】

ガロアムシは体長10mm前後。全体に鉛色がかかった褐色で、生時は淡色のものが多いといわれる。

国内では、エゾガロアムシ、オオガロアムシ、ガロアムシ、ヒメガロアムシなどの種が知られ、北海道から九州までの山地で点々と発見されており、本州にはガロア

ムシのほかオオガロアムシ、ヒメガロアムシが分布するとされる。近年、新たな知見に基づく再検討が行われている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1979年に県東部の大万木山でガロアムシの成虫が採集され、その後、立久恵などの樹林の湿った石の下で成虫と幼虫が採集されている。1984年に匹見の広見山で採集された幼虫は、オオガロアムシの可能性もあるとされる。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息地域、生態などが明らかでなく不明。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△		△		△																	

カメムシ目ハネナガウンカ科

# マエグロハネナガウンカ

*Zoraida pterophoroides* (Westwood, 1851)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

照葉樹を交えた自然林に生息する。県内での記録地は1カ所のみで個体数も少ない。

### 【概要】

体長6mm、翅端まで17mmの前翅の長い大型のウンカである。形態はアヤヘリハネナガウンカとよく似ているが、本種の前翅の前縁部暗褐色帯は後縁部が直線状であることで区別できる。本州、九州の山地で得られるが、個体数は少ない。国外では、台湾、ミャンマー、スリランカに分布する。アヤヘリハネナガウンカと同様生態等は未

知の部分が多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲部の丘陵地で1個体が得られているが、その後の記録はない。他地域でもアカガシなどの照葉樹をまじえた自然林に生息する可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

照葉樹林周辺の植生破壊・分断、市街化、殺虫剤散布、大気汚染など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○													

カメムシ目ハネナガウンカ科

# シリアカハネナガウンカ

*Zoraida horishana* Matsumura, 1914

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵20

### 【選定理由】

照葉樹を交えた丘陵地の里山に生息する大型のウンカで、個体数が少なく全国的に希種とされる。

### 【概要】

体長は6mm（翅端まで14mm）で、前翅が非常に長く黒褐色。頭部と触覚は黄色で、腹端は鮮紅色。小楯板は大きく褐色を帯びる。幼虫はウメの朽木に生えるキノコで育つことが知られている。本州・四国・九州、台湾に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐の島町中谷で近年確認された。上記の分布域から、県本土のあまり冷涼でない地域の里山で発見される可能性はある。

### 【存続を脅かす原因】

丘陵地の里山の破壊や伐採。これらの地域の長期間の放置による竹林化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

カメムシ目ハネナガウンカ科

# アヤヘリハネナガウンカ

*Losbanosia hibarensis* (Matsumura, 1935)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

低山地のスダジヤアカガシを交えた広葉樹林に生息する大型のウンカで、日本特産種。県内では数カ所で記録されている。

### 【概要】

体長5mm、翅端まで13mmの大型で美しいウンカである。体は黄赤色で前翅は長く、その外縁は直線状で基半から前縁部にかけては幅広く暗赤褐色で、その後縁はジグザク状。本州・四国・九州の山地で得られるがまれである。生態などは未知の部分が多い。幼虫は照葉樹につく菌類

を食するといわれている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市・雲南市・大田市の丘陵地の照葉樹をまじえた山林で得られているが、他地域では生息記録がない。

### 【存続を脅かす原因】

照葉樹林周辺の植生破壊・分断、市街化、殺虫剤散布、大気汚染など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○							○													

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目セミ科

# エゾゼミ

*Lyristes japonicus* (Kato, 1925)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

大型の寒地性のセミであり、森林の自然度の指標となる。近年県内では記録のあった平野部で見られなくなった。

### 【概要】

体長は37–43mmでオスがやや大きく、翅端までは雄雌とも58–65mmである。アカエゾゼミとよく似るが、全体に黒味が強く前胸背の上方に白線があり、側縁が白粉におおわれている。鳴き声もよく似ているが、数分間も連続的に鳴くことがある。日本全土および朝鮮半島に分布し、ヒノキなどが生える針葉樹林に多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

アカエゾゼミより標高の低いスギ、ヒノキなどの植林地にも生息する。県内では低山地から標高900mくらいが上限である。アカエゾゼミより分布域は広く、個体数も多いが、オスは高い梢上にいるので見つけにくい。隠岐(島後)にも生息する。出雲市大津町と湖陵町の記録は近年途絶えている。

### 【存続を脅かす原因】

低山地からブナ帯下部にかけての森林破壊や殺虫剤散布。スギ、ヒノキ人工林の放置。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○																	

カメムシ目セミ科

# アカエゾゼミ

*Lyristes flammatus* (Distant, 1892)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

国内のブナ帯に生息する大型の美しいセミで、県内では標高800m以上のブナ帯に生息する。本県西部山地が本州における西限分布域となる。

### 【概要】

体長は37–43mmでオスがやや大きく、翅端までは58–65mmである。エゾゼミとよく似るが、全体に赤味が強く前胸背の上方に白線がなく、側縁も白粉におおわれていない。また前翅の暗色斑の様子によって区別できる。北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。北海道や東北地方では平地にすむが、関東以西

では600–1,200mのブナ・ミズナラ帯に生息し、産地は局所的である。7月下旬から9月上旬にかけてあられ、日当たりのいい梢で、「ギィー……」と太く短く鳴く。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山および中国山地の山頂付近数カ所で確認されているが、ブナ帯下部の標高がやや低い場所での採集記録もある。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ、ミズナラを含む広葉樹林の伐採や分断。温暖化によるブナ林の衰退。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

カメムシ目セミ科

# ハルゼミ

*Terpnosia vacua* (Olivier, 1790)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵20

### 【選定理由】

アカマツやクロマツ林に生息するセミであるが、県内の平地では近年大規模なマツ枯れによって生息場所が失われつつある。

### 【概要】

体長はオスが26–31mm(翅端まで33–37mm)、メスが22–26mm(翅端まで31–36mm)である。体は黒色で細かな灰色の鱗毛を装う。オスの腹部は袋状で、メスの腹部は短く先端は細長い産卵管となる。北海道・本州・四国・九州に分布する。成虫は4月下旬から6月末に出現する。

分布域は関東以西の本州・四国・九州・神津島・天草諸島・五島列島・甌島、中国。

### 【県内での生息地域・生息環境】

全域のマツ林に生息するが、隠岐諸島には生息しない。山間部では発生が遅く個体数も少ない。近年平地では鳴き声が殆ど聞かれなくなった。

### 【存続を脅かす原因】

「マツ枯れ」による二葉生マツ林の衰退、「マツ枯れ予防」の殺虫剤散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○													

カメムシ目セミ科

# エゾハルゼミ

*Terpnosia nigricosta* (Motschulsky, 1866)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内では標高800m以上のブナ帯に生息し、本県西部山地が本州における西限分布域となる。

### 【概要】

体長はオスが30-35mm (翅端まで40-44mm)、メスが22-27mm (翅端まで38-42mm)である。北海道・本州・四国・九州に分布する。東北日本では低山地に、西南日本ではブナ帯に生息する。6月中旬から7月下旬に出現し、「ミョーキン・ミョーキン・ケケケケ……」と鳴く。合唱性があり、1匹が鳴くと他の個体も鳴きだす。同属

のハルゼミは、平地から低山地のマツを主体とする森林に広く分布し、体色は黒っぽい。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地および三瓶山の、標高800-1,000mのブナ林に生息する。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ林の伐採、分断。温暖化によるブナ林の衰退。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

カメムシ目セミ科

# ヒメハルゼミ

*Euterpnosia chibensis chibensis* Matsumura, 1917

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

一定規模以上の照葉樹林に生息する小型のセミであり、県内にわずかに残存する極相的自然の指標となる昆虫である。

### 【概要】

体長は23-29mmであるがオスがやや大きく、翅端まで32-37mmである。メスの産卵管はきわめて長く後方にのびる。国内では本州・四国・九州・沖縄本島・屋久島・トカラ列島・奄美大島、国外では朝鮮半島に分布する。6月中旬から7月下旬に出現し、シヤカシなどの常緑

樹上で「ウィーン・ウィーン」と鳴く。合唱性があり、森全体がうなっているように聞こえる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

極相に近い照葉樹林に生息するが、二次林的な要素をもつ地域にも見られる。出雲部では、海岸部から山間部まで生息場所が点在している。石見地方では、山間部でも確認されている。隠岐諸島には生息しない。

### 【存続を脅かす原因】

スダジイ林、カシ林などの破壊、分断。アカマツをまじえた林分の周辺における「松枯れ対策」殺虫剤散布等。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○													

カメムシ目キジラミ科

# エノキカイガラキジラミ

*Celtisaspis japonica* (Miyatake, 1968)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵20

### 【選定理由】

おもにエノキの大木がまとまって生える場所に生息する種である。古くからエノキが自生・植栽されている場所が減少しており、本種の生息地も限定されている。

### 【概要】

体長約3.6mm。体および前翅の大部分は黒色。秋型の成虫の前翅には透明な帯がある。触角の先端以外は全体に黄褐色。胸部の幅が広く、頭部は相対的に小さい。前翅の表面には細かく不規則なシワが多く、鈍い光沢がある。初夏に出現する幼虫はエノキの葉表にツノ状のゴ-

ルを形成し、葉裏には貝殻状の覆いがある。秋に出現する幼虫はゴールを作らず、葉裏に貝殻状の覆いがあるのみである。日本固有種で、本州と九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部や中部で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

エノキの大木の減少。低地におけるエノキノミゾウムシの増加も本種の生息に影響を与えている可能性がある。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○							○													

昆虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目タイコウチ科

# ヒメミズカマキリ

*Ranatra unicolor* Scott, 1874

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

全国的に平野部の溜池などの汚染・破壊によって、生息地が失われつつある。県内でも最近の確かな生息記録は少ない。

### 【概要】

成虫の体長は24－32mmの細長い水生カメムシである。体は黄褐色で体長の3分の2程度の呼吸管を持つ。産卵期は6月下旬から7月。卵はヒシやジュンサイなどの浮葉植物の組織内に産み付けられる。8月ごろに成虫が現れ、メダカなどの小動物を捕らえてその体液を吸収する。水中では水草上で静止していることが多い。分布域は北

海道・本州・四国・九州・沖縄、国外では朝鮮半島・中国北部・東シベリア。同属のミズカマキリは、一回り大きく、体長と同じ長さの呼吸管を持つ。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平野部や丘陵地の小規模な溜池など約10カ所で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

溜池などの埋め立てや破壊。各種排水の流入。ブルーギルやブラックバスなど外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○										○					○				

カメムシ目ミズムシ科

# ホッケミズムシ

*Hesperocorixa distanti hokkensis* (Matsumura, 1905)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

生息場所の止水域が開発や都市化によって失われ、全国的に絶滅に瀕している。本県でも近年生息が確認された場所は数カ所で、個体数も少ない。

### 【概要】

体長10mm前後の水生カメムシのなかまでである。体は淡青黄色で黒色の条斑がある。前胸背の黒色黄帯は9～12本。後肢をのばしてボートのオールのように動かし、水中を泳ぐ。このために、後肢ふ節には長毛が密集している。水中の小動物を捕らえて体液を吸収する。成虫で越冬し、3月ごろ産卵し、新成虫は6月ごろ出現する。北

海道・本州・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。西日本に生息するのは本亜種とされる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の丘陵地の溜池数カ所で生息が確認されている。これらはヒシやジュンサイが繁茂したやや富栄養化した水域である。池の周囲は里山の環境が維持されている。

### 【存続を脅かす原因】

溜池など埋め立て、各種排水の流入。ブルーギルなど外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○										○									

カメムシ目ミズムシ科

# オオミズムシ

*Hesperocorixa kolthoffi* (Lundblad, 1933)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本州西部、四国および九州に分布するが、池沼環境悪化により激減している。県内では、近年生息が確認されている。他地域でも生息環境があると考えられる。

### 【概要】

同属のホッケミズムシよりやや大きく、体長10.8－13.4mmでやや丸みがあり、雄の顔の中央部は広く凹む。生態もホッケミズムシとよく似ており、池沼に生息する小動物を捕食する。ときに群生するが、産地は局地的。国内では本州（近畿地方以西）、四国、九州、国外では

朝鮮半島、中国、ロシアに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の数カ所と隠岐（島前）で記録がある。比較的開けた環境の止水域に生息する。他県では学校のプールで発生したという報告もある。

### 【存続を脅かす原因】

溜池や水路などのコンクリート化や各種排水の流入。ブルーギルなどの外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○														○				



カメムシ目ミズカメムシ科

# ウミミズカメムシ

*Speovelia maritima* Esaki, 1929

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

自然度の高い海岸に生息するミズカメムシである。生息に適した環境が限られている上に、本種が好む微環境は港湾等の整備によって消失している。

### 【概要】

体長4mm内外、褐色で頭は大きく前下方に突出する。体は硬く頑丈。口吻は長く後脚基節に達する。無翅で、長翅型は確認されていない。海蝕洞や岩礁地帯の石下で発見される。幼虫は初夏から夏にみられる。分布域は北海道・本州・伊豆諸島・九州。遠く離れたハワイ諸島に

近縁種がいる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1957年頃浜田市の河口付近で得られ、その後しばらく確認されていなかった。2000年以降に島根半島や隠岐諸島で再発見された。隠岐島前の中ノ島では、湾内が良好な生息地となっており、個体数が多い。

### 【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の破壊、コンクリート化、水質汚濁などの環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○	○		○																			○

カメムシ目カタビロアメンボ科

# オヨギカタビロアメンボ

*Xiphovelia japonica* Esaki et Miyamoto, 1959

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息地が局地的であり、全国的に減少傾向にあるため。

### 【概要】

体長1.5-2.5mm。体は光沢のない黒色で、中胸背や腹部背面に銀灰色毛による紋様が見られる。ふつう無翅型だが、まれに長翅型が出現する。生息地では密集して生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

浜田市のみで確認されている。河川の護岸ブロックの間や溜池の岸部に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化と消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
		○														○	○					

カメムシ目アメンボ科

# エサキアメンボ

*Limnophorus esakii* (Miyamoto, 1958)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

アジア東部に分布するアメンボ。国内では関東地方から九州北部に生息するが、産地は限られる。

### 【概要】

体長10mm前後、中型の繊細なアメンボである。体は褐色で体側は銀白色、頭部は黒色で褐色の条斑がある。触角は長く、第4節が最長。国内では本州・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。池沼や流水域のヨシやマコモなどの抽水植物の間で活動するため見つかりにくい。水辺で産卵、越冬することや季節的分散飛行をしないことなどにより「新しい生息場所を開拓する能力に乏しい」とされてきたが、最近の調査・研究によると必ずしもそうではない。

いことなどにより「新しい生息場所を開拓する能力に乏しい」とされてきたが、最近の調査・研究によると必ずしもそうではない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部平野部の溜池や水路河口部などで確認されている。隠岐諸島にも生息する。

### 【存続を脅かす原因】

池沼や流水域のヨシ帯の破壊。これらの水域への各種排水の流入水質汚濁。ブルーギルやブラックバスなど外来魚の放流。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○			○													○	○					

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目カスミカメムシ科

# アカスジオオカスミカメムシ

*Gigantomiris jupiter* Miyamoto et Yasunaga, 1988

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

1988年に日本から新属・新種として記載された国内最大のカスミカメムシである。国内では、限られた地域のみで生息する。山陰では大山と扇ノ山が基準標本産地となっている。

### 【概要】

体長13-15mmで、この科のカメムシの中では世界最大クラスである。体色は黒褐色から黄色縞、赤色縞のものなど変異に富んでいる。寄主植物はオニグルミ、ヤナギ類、ミズメ、ミズナラ、スイカズラなど。分布域は、国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・ロシア沿

海州である。長野以西の本州では中国山地が主要な生息地である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶の太平山で1991年に発見、その後三瓶北の原や隠岐の島町でも採集された。生息域は、山地帯の広葉樹林の林縁部である。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ帯下部の落葉広葉樹林の伐採など。極相的な環境は必要としないと思われる。林縁部の二次林的環境を保つためには、適度の人為的管理が必要である。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○		○	○																	

カメムシ目サシガメ科

# アダチアカサシガメ

*Haematoloecha adachii* Tachikawa, 1968

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵20

### 【選定理由】

暖地に棲む地表性のサシガメであるが、同属の他種に比べてきわめてまれな種である。本県では隠岐（島後）で最近確認されている。

### 【概要】

体長10-13mmで前胸背板前葉が黒色となること、前翅革質部が広く赤色を呈することなどで、同属の他種から区別できる。今のところ本州（千葉県）・四国（高知県）・伊豆諸島（神津島、御蔵島）で記録されているに過ぎない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐島後（隠岐の島町）で冬季、海岸沿いの林床の腐朽木材中で越冬している1個体が発見された。冬季でも温暖な県西部の海岸林などでの生息が考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

海岸林の破壊や汚染。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○															○			

カメムシ目ナガカメムシ科

# ハマベナガカメムシ

*Peritrechus femoralis* (Kerzhner, 1977)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵21

### 【選定理由】

河口や海浜の草本間に生息するが、個体数が少なく確認地は全国的に限られる。県内では近年東部3カ所で確認されている。

### 【概要】

体長4.3-5.5mm、体は黄褐色で黒色点刻を散布するが目立った斑紋はない。草本群落が見られる開けた河原や河口や海浜で得られる。分布は北海道・本州・九州・四国、ロシア極東部・中国北東部。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三刀屋町、木次町の斐伊川河川敷、安来市赤江町の吉田川河口で得られている。他地域でも開けた砂地の草本群落において発見される可能性は高い。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い河原・河口や海浜などの汚染や破壊、近傍での殺虫剤散布。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○														○					○		

カメムシ目クヌギカメムシ科

# ヨツモンカメムシ

*Urochela quadrinotata* (Reuter, 1881)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

寒地系のカメムシで、県東部山地が本州における分布西限であり、個体数も少ない。

### 【概要】

体長15mm内外、赤みを帯びた褐色で各半翅鞘上に黒紋がある。触角は長い。山地のハシバミやシテ類に見いだされる。新成虫は9月に現れる。国内では北海道・本州・九州、国外では朝鮮半島・東シベリアに分布する。同属にはバラ科木本につくナシカメムシがあるが、近年では少なくなった。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部山地帯山麓部の落葉広葉樹林2カ所で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

山地帯の落葉広葉樹林の伐採、植生の遷移、気候の温暖化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○													

カメムシ目ツチカメムシ科

# シロヘリツチカメムシ

*Canthophorus niveimarginatus* (Scott, 1874)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

旧北区東北部を分布の中心とし、日本は分布の南端にあたる。全国的に絶滅に瀕しており、県内でも最近の記録は2カ所のみである。

### 【概要】

体長6－8mm、光沢のある黒藍色で粗い点刻におおわれる。体の側縁は黄白色に縁とられる。カナビキソウに寄生し、メス成虫は卵を保護する習性がある。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・シベリア・旧北区東北部に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

最近の記録は三瓶山と益田市にある。環境の良好な山地(温帯)の草原に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

山地草原の環境汚染や破壊、地球温暖化など。草原への低木の侵入などによる遷移の進行。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○			○																

カメムシ目ツチカメムシ科

# ハマベツチカメムシ

*Bysinus variansi* (Fabricius, 1803)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵21

### 【選定理由】

自然度が高く規模の大きい海浜砂丘に生息地が限定される。山陰海岸では数カ所が確認されているのみである。

### 【概要】

体長3.5－4.5mm、体は暗褐色から濃く褐色、触覚と各脚は黄褐色。海浜の草本植物の根際で得られる。植物からも吸汁することがある。国内では本州(山口・鳥取・和歌山・三重・新潟など)・九州(長崎・福岡)、国外では朝鮮半島・中国・東洋区。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市と大田市の砂質海岸で、コウボウムギやハマボウフウ群落の根際で多数得られている。他地域でも良好な砂質海岸で生息する可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

砂質海岸の汚染や破壊、近傍の植林地での殺虫剤散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○																			○	

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目カメムシ科

# フタテンカメムシ

*Laprius gastricus* (Thunberg, 1783)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種はシバ草原の地表に生息する特異なカメムシで、放牧業の衰退によって全国的に生息環境が失われている。県内で生息が確認されているのは隠岐（島前）と三瓶の2カ所のみである。

### 【概要】

体長13mm前後のカメムシのなかまでである。体は灰褐色から黒褐色で小楯板の上端2カ所に白点がある。草食性で、イネ科草本の根ぎわに生息する。成虫で越冬し、石下などに潜んでいる。国内では本州・四国・九州・対馬・

屋久島、国外では中国・インドに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島前）の知夫里島の生息地は大部分が牛の放牧地として利用されており、良好なシバ草原の状態が維持されている。その後三瓶北の原でも採集されており、土地的極相がシバ草原のような環境で生息するものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

放牧の中止など、シバ草原の放置。シバ草原はススキ草原から低木林へと移行するであろう。また、生息地およびその周辺における殺虫剤散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○		○						○												

カメムシ目カメムシ科

# アカアシクチブトカメムシ

*Pintheaus sanguinipes* (Fabricius, 1787)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

大型の捕食性カメムシで、県内の生息地が局限され個体数も少ない。森林の自然度の指標となる。

### 【概要】

体長14-18mm、緑色の光沢のある褐色で、前胸背側角黒みを帯び測方に突出し、先端は丸い。脚は赤褐色。山地の樹上で生活し、ガ類などの幼虫を捕食する。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・旧北区に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と西部山地2カ所で記録がある。山地の環境の良好な落葉広葉樹林に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

山地の落葉広葉樹林の伐採や大気汚染などの環境の悪化、殺虫剤散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

カメムシ目カメムシ科

# アオクチブトカメムシ

*Dinorhynchus dybowskyi* Jakovlev, 1876

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵21

### 【選定理由】

寒地系の捕食性カメムシで、暖地では少ない。県内の山地2カ所で20年前に採集されたが、その後の記録がない。

### 【概要】

体長18-23mm、金緑色の光沢のある美麗種。前胸背側角は棘状にとがり、口器は太い。山地の樹上で生活し、ガ類などの幼虫を捕食する。植物からも吸汁することがある。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・ロシア極東部。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と大万木山の2カ所で記録がある。山地の環境の良好な落葉広葉樹林に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

山地の落葉広葉樹林の伐採や大気汚染などの環境の悪化、殺虫剤散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

カメムシ目ツノカメムシ科

# フトハサミツノカメムシ

*Acanthosoma crassicauda* Jacovlev, 1880

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

大型のツノカメムシで、県内の生息地は局限され、全国的にも希少種とされる。

### 【概要】

体長17-18mm、鮮やかな緑色で、オスの生殖節のハサミ状突起は太く後方に開く。前胸背の後側縁に顕著な歯状突起がある。イヌザクラ、ソメイヨシノなどのバラ科木本類に寄生する。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・シベリア東部に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山の1カ所で記録がある。サクラ類をまじえた環境の良好な2次林に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科

# ハマベウスバカゲロウ

*Myrmeleon solers* Walker, 1853

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵21

### 【選定理由】

海浜植生を伴った砂丘海岸に生息する種であり、県内での生息地も自然度の高い砂浜に限定されている。

### 【概要】

前翅長27mm前後。翅は透明で顕著な模様はない。体は全体に黒く、前胸背にY字型の黄褐色斑紋がある。海浜砂丘に生息する。幼虫は、汀線から離れた砂浜や海浜植生帯の汀線寄りの砂地上にすり鉢型の巣穴を造るアリジゴクである。国内では日本海側を中心とした本州、九州の海岸に生息し、国外では中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部から西部までの砂丘の発達する海岸に生息している。県内の砂浜海岸は、大社から湖陵付近の出雲砂丘が最大で、本種の最大の生息地でもある。隠岐諸島では記録がなく、生息の可能性も低い。全国的にみれば島根県は自然度の高い砂浜が多く残されており、良好な生息地としての価値は高い。

### 【存続を脅かす原因】

砂浜海岸の開発、海岸浸食。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○																		○	

コウチュウ目オサムシ科

# セアカオサムシ

*Hemicarabus tuberculosus* Dejani et Boisduvai, 1929

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

山地草原性のオサムシで分布は局所的。

### 【概要】

体長16-22mm。前胸背板は赤銅色。頭部と上翅測縁部も赤銅色を帯びる。上翅の大部は黒色で凸型条列を持つ。中国地方近県では大山を含む中国山地の高標高地帯に残る草原地帯で生息が確認されている。成虫・幼虫ともおもに昆虫類を主食としていると推測される。

晩夏から秋に新成虫が出現して越冬する。

北海道、本州、四国、九州、ユーラシア東部、朝鮮半

島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山麓の草原周辺で生息している。隠岐で古い記録があるが、誤記の可能性はある。

### 【存続を脅かす原因】

開発や草原の衰退など、本種の生息に適した環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

昆虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目オサムシ科

# イズモメクラチビゴミムシ

*Stygiotrechus izumonis* S. Uéno, 2008

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

### 【選定理由】

島根半島西部が本種の基準標本産地で、分布も同地域に限定されている可能性が高いため、比較的絶滅のリスクが高い。

### 【概要】

体長約2.8mm。淡色、無眼などの地中に適応した形質をもつ。九州北部から瀬戸内に分布するノコメクラチビゴミムシ属の中でミスミクラチビゴミムシとともに日本海側に産する特異な種で、本属の一部が日本海の海岸沿いに分散した可能性を示唆する。本属全体の分化を考える上でも重要な種である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

2008年に島根半島西部の廃坑で採集された1オスで記載された種で、その後の採集努力にも関わらず追加の記録を見ない。周辺の廃坑や地下浅層のトラップ調査でも採集例はなく、分布は局所的で個体群の規模も小さいと考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

廃坑内の地下水位変動が少ないことから生息地の地中環境は安定していると思われ、これを攪乱するような地上・地下の改変は絶滅リスクを増大させる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	地下	林地	草地	砂浜	河口
○																		○				

コウチュウ目オサムシ科

# タイシャクナガチビゴミムシ

*Trechiana yokoyamai* S. Uéno, 1958

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【選定理由】

島根県に分布する亜種及び地域個体群は分布域が狭く個体群規模が小さいため環境改変による影響を受けやすい。

### 【概要】

体長5.4-6.4mm。体は茶褐色で光沢があり、地中に適応した形質をもつが、小さい複眼が見られるなど地表的な形質も残る。本種は中国地方中央部に広い分布域をもち、5亜種が記載されているほか、未記載のものも含めるとさらに3つ以上の亜種または地域個体群が存在すると考えられる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では浜田市に分布する県固有亜種（ハマダナガチビゴミムシ）のほか、石見銀山、月山（安来市）、船通山、島根半島で分布が確認されており、地理的には孤立しているものが多い。洞窟などのほか、川沿いの腐葉土層など地表付近でも見られることがあるが詳細な分布は不明。

### 【存続を脅かす原因】

ダム造成などの集水域単位での大規模改変は各亜種・地域個体群を絶滅させるおそれがある。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	地下	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○											○					○				

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# コマルケシゲンゴロウ

*Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内の生息地はきわめて局地的である。他県でも同じような傾向がみられる。

### 【概要】

体長2mm前後。体型は卵形で背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。マルケシゲンゴロウによく似ているが、より小型。水生植物の多い溜池の浅瀬や放棄水田をおもな生息地としている。非常に小型であるため、発見されにくい。中東から東アジアまで広く分布する。国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め、県内の溜池で生息が確認されている。浅瀬で他の小型種のゲンゴロウ類と共に得られることが多い。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。生息地の浅瀬は水位変動の影響が大きく、極端な渇水も生息地が消失する原因になる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○									○									

コウチュウ目ミズスマシ科

# コオナガミズスマシ

*Orectochilus punctipennis* Sharp, 1884

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵21

### 【選定理由】

河川中流域に生息する小型の流水性ミズスマシであり、県内での生息地は限られている。また、全国的にも減少が著しい水生甲虫の1つである。

### 【概要】

体長5.5-6.2mm。体は紡錘形。背面は全体に黒い。上翅表面には微細な毛が密生する。オナガミズスマシより明らかに小型である。オナガミズスマシが山地溪流に生息するのに対し、本種は河川中流域の挺水植物の生えた淀みに生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部や西部の河川で確認されている。過去の記録がほとんど無いため、現時点でどの程度減少したかは不明である。しかし、生息環境の立地が人間活動の大きな場所に近いため、影響を大きく受けていると見られる。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修。水質汚染、特に洗剤等の界面活性剤の流入。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○									○										

コウチュウ目ミズスマシ科

# ミズスマシ

*Gyrinus japonicus* Sharp, 1873

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

近年、急速に減少している。かつては溜池などの水面を群れて泳ぐ姿がよく見られたが、現在ではほとんど見られなくなっている。

### 【概要】

体長6.0-7.5mm前後。体型は紡錘形で背面に鉛色の光沢がある。一般に止水域の開けた水面を巡回しながら泳ぐが、流水環境にも生息する。近似種が数多く存在するが、体長により他種と区別できる。幼虫は水生で、腹部側面に細長い気管鰓を持つ。日本固有種で、北海道、本

州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含めた県内全域に分布する。池沼などの止水域や山地溪流の淀みなどに生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁（特に油の流入）、池沼の開発改修、自然遷移。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○	○				○	○									

コウチュウ目ホソガムシ科

# チュウブホソガムシ

*Hydrochus chubu* Balfour-Browne et M. Sato, 1962

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県東部のいくつかの溜池で生息が確認されている。県中部および西部の生息状況は不明である。

### 【概要】

体長2.5mm前後。体は細長く、体表面に青緑金属光沢を持つ。近縁種のヤマトホソガムシより小型である。止水域に生息する。日本固有種で本州に分布する。水中で遊泳ができず、動きは緩慢である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

やや富栄養な止水域に生息する。県内では溜池で確認

されている。生息地での個体数は多い。同所的にスジヒラタガムシが生息していることが多い。島根県東部の生息地は、県外の産地に比べて地点数が多く、全国的にみても重要な生息地域である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○												○									

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目クワガタムシ科

# ルリクワガタ

*Platycerus delicatulus delicatulus* Lewis, 1883

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

主として高齢級のブナ林に生息しており、生息地は限定される。

### 【概要】

体長オス9-14mm。メス8-13mm。オスは緑色を帯びた青藍色、メスは銅色。前胸背板後角が丸みを帯び突出しないことからコルリクワガタ属と区別される。成虫は5-7月に出現する。昼行性で、ブナ等の倒木に集まるほか、まれにカエデやミズナラの新芽に飛来することが知られている。産卵する枯れ木は、コルリクワガタに比べて太いブナの枝、倒木や立枯れ木に依存しているとき

れる。産卵翌年の秋に材中の蛹室内で羽化し、そのまま越冬後、野外へ脱出する。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部、西中国山地で採集されている。分布調査は十分でなく県東部の自然度の高いブナ林にも生息している可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

大径木を有するブナ林を主体とする森林の維持が必要。これらの森林の大規模開発による消失や、寸断化による生息環境の悪化による絶滅が危惧される。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

コウチュウ目クワガタムシ科

# キンキコルリクワガタ

*Platycerus acuticollis akitai* Fujita, 1987

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

主としてブナ帯に生息し、生息地は限定される。

### 【概要】

体長8-11mm。オスは青みの強い藍色、メスは黒っぽい銅色。成虫は5-6月に出現する。成虫は早春にカエデ類、ミズナラ等の葉が展開しはじめる新芽に飛来し吸汁することが知られている。産卵は林床に落ちた湿度の高い細めの枝や、ブナの倒木に行われる。幼虫はこれらの材を摂食して成長し、翌年秋に材内で羽化し成虫で越冬した後、野外へ脱出する。本州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地および三瓶山のブナ林で林床の落枝中やミズナラ等の新芽に飛来したものが確認されている。また、隠岐諸島では常緑広葉樹の枯れ枝から発生が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域であるブナを主体とする森林の開発による消失。また、地域によっては発生源となっている材の採集など、過度の採集圧による絶滅が危惧される。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○																	

コウチュウ目クワガタムシ科

# ヒメオオクワガタ

*Nipponodorcus montivagus* (Lewis, 1883)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

全国的に自然環境の良く保全された場所で記録されているが個体数は少ない。島根県での生息域は限定される。

### 【概要】

体長オス31-47mm、メス27-32mm。体は光沢のない黒色。成虫は5-10月に見られ、ヤナギ等の樹液に飛来する。植物に噛み傷を付け滲出する樹液を吸汁する行動をとることが知られるが、島根県での採集例のほとんどは地面を歩行中のものである。また、成虫越冬することも知られている。幼虫はブナ等広葉樹の立枯れ、倒木の材

を摂食する。北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地東部から西部のブナ帯で記録があるほか、三瓶山でも採集されている。中国山地の西部は採集個体が比較的多い。

### 【存続を脅かす原因】

樹洞を形成するような老径木が存在する発達した森林の保全が必要である。これらを有する自然度の高い森林の伐採などによる生息環境の悪化・消失。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		△																	



コウチュウ目センチコガネ科

# オオセンチコガネ

*Phelotrupes auratus* (Motschulsky, 1857)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が局限され、また、牛やシカの糞に依存しているため、これらの動物の減少によっては絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長14-22mm。体上面はふつう金赤色から紫赤色で、金属光沢がある。センチコガネに似るが、頭楯は長めの台形。成虫は4-11月、おもに山地で発生する。牛、馬、シカなどの糞に集まる。メスは地中へ糞を埋めこんで産卵する。幼虫は糞を食べて育つ。シベリア、朝鮮半島に

分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山の和牛放牧地、島根半島西部のシカ生息地。

### 【存続を脅かす原因】

三瓶山における牧畜形態の変化。野生シカの生息域の森林伐採や、シカの捕獲などによるシカの個体数の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○	○			○													

コウチュウ目コガネムシ科

# シナノエンマコガネ

*Onthophagus bivertex* Heyden, 1887

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

隠岐諸島の放牧地に生息するが、近年はまれになっている。

### 【概要】

体長7-10mm。体は黒色で、上翅は褐色を帯び、光沢は鈍い。頭頂の隆起は、大型のオスでは長く伸びた牛角状の突起となり、メスでは横長でわずかに波曲した隆起になる。成虫は、6-9月に出現し、山地の獣糞にあつま。国外ではシベリア、中国、朝鮮半島に分布し、国内では本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島(知夫里島)の放牧地に生息し、牛馬糞に依存しているが、個体数は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○						○				△								

コウチュウ目コガネムシ科

# ミツノエンマコガネ

*Onthophagus tricornis* (Wiedemann, 1823)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内における生息地が限定されている。

### 【概要】

体長12-18mm。黒色で光沢は鈍い。頭頂部に板状で両端が上方に突出する角状の隆起がある。前胸背板の前縁部中央は前方に鈍く太い突出がある。成虫は、5-11月に出現する。河川敷や海岸部に生息する。腐った魚肉に集まり、灯火にも飛来する。国外では中国、台湾、ジャワ、マレー半島、インドシナ、ミャンマー、インドに分布し、国内では本州、九州、壱岐島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部に生息する。生息地は、畑地や裸地、疎林が混在する環境である。

### 【存続を脅かす原因】

裸地的な環境の消失。農業形態の変化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○														○	○						

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目コガネムシ科

# ニセマグソコガネ

*Aegialia nitida* Waterhouse, 1875

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が局限されており、また、生息密度も少なく希少であるため。

### 【概要】

体長3.5–4.5mm。黒色で光沢があり、頭胸前縁、上翅会合部、脚は赤褐色。背面は強く隆起する。眼は上面に出ない。上翅には細い条溝がある。体の腹面には、黄色の長毛を生ずる。成虫は、ほぼ通年見られる。本種は、きれいな砂浜のイネ科植物などの根際に生息している。日本固有種で、北海道、本州、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部・中部の海浜植生の残された砂浜。

### 【存続を脅かす原因】

海浜の護岸工事、砂浜への車の乗り入れによる海浜植生の減少、松食い虫防除のための空中薬剤散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○																			○	

コウチュウ目コブスジコガネ科

# コブナシコブスジコガネ

*Trox nohirai* Nakane, 1954

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

成虫の記録が少なく、幼虫の成育場所が特殊である。

### 【概要】

体長5.5–6.7mm。体は長卵型で、強く膨隆する。背面は黒色で光沢がある。上翅の条溝内の点刻は強く、間室は強く膨隆し、短毛を密生したこぶや隆起を欠く。成虫は、4–10月に出現する。平地から山地にかけて分布し、おもに灯火で採集される。近年、本種の幼虫がフクロウの巣で成育することが確認され、特殊な生育環境を必要とすることが判明した。朝鮮半島に分布し、国内では北

海道、本州、四国、九州、伊豆諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平地や山間地において灯火採集の記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

フクロウの営巣場所の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○													

コウチュウ目コガネムシ科

# アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ)

*Anthracophora (Poecilphilides) rusticola* Burmeister, 1842

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長14–20mm。背面は赤褐色に不規則な小黑紋を有する。成虫は4–9月に出現。晩夏から秋に新成虫が出現してそのまま越冬、翌春に産卵が行われる。主としてクヌギ等の樹液に集まるほか、灯火、まれに花に飛来することも知られている。平地から低山地の広葉樹林に生息する。カワウや猛禽類の巣中から幼虫が見いだされ、これらの鳥類に依存していると推測される。国内では北海

道、本州、四国、九州、国外ではシベリア東部、モンゴル、中国に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部の平野部から低山地、隠岐諸島で記録がある。県中部、西部からの記録はないが生息している可能性は高い。

### 【存続を脅かす原因】

本種が生息する低山地帯の猛禽類などの大型鳥類が多数営巣可能な森林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○					○										○			

コウチュウ目コガネムシ科

# オオチャイロハナムグリ

*Osmoderma opicum* Lewis, 1887

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

老木等に依存する特異な生活様式を持ち、発達した森林の指標昆虫でもある。

### 【概要】

体長22-32mm。体は全体に黒褐色で銅色ないしは紫銅色の光沢を帯びる。成虫は独特の芳香を放つ。成虫は7-8月に、高標高の自然環境の良好な林分に生息し、ブナ、ミズナラ等の立枯れ木、老木に見られる。産卵はこれらの材の腐朽部に行われ、幼虫は腐朽部および樹洞内部の材が堆積した腐植土を摂食して育ち、繭を作り蛹

化することが知られている。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部 (三瓶山)、西部の老木残存するブナ帯森林で採集されている。倒木の不朽部から採取されている。県西部の中国山地は採集例が多い。

### 【存続を脅かす原因】

樹洞を形成するような老木残存する森林の伐採等、生息環境の悪化・消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○											○									

コウチュウ目ヒメドロムシ科

# アヤスジミゾドロムシ

*Graphelmis shirahatai* (Nomura, 1958)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

写真 口絵21

### 【選定理由】

県内での分布は局所的である。河川中下流域に生息するヒメドロムシで、全国的な希少種である。斐伊川下流の個体群は生息数が多く貴重である。

### 【概要】

体長3.4-3.7mm。全体に黄色だが上翅の点刻列に沿って黒条がある。体はやや細長く、肩は明瞭。前胸背板にくびれがない。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は明瞭。肢が著しく長く、爪が大きい。成虫・幼虫共に水中に生息し、ヤナギ類などの流木を食べる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の河川に生息している。斐伊川下流の本流と神戸川中流の支流がおもな生息地である。とりわけ水位変動の大きな斐伊川は本種の生息にとって重要な条件であると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

流木の減少。極端な渇水。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○											○							○				

コウチュウ目ヒメドロムシ科

# ケスジドロムシ

*Pseudamophilus japonicus* Nomura, 1957

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

写真 口絵21

### 【選定理由】

水辺植生の豊かな河川に生息し、生息地における個体数が少ない。

### 【概要】

体長4.8-5.3mm。国内最大のヒメドロムシ。体は長い楕円形。全体に黒色または焦げ茶色。上翅に点刻列があり、間室に毛が生えている。河川の上流から下流まで広く生息する。成虫・幼虫ともに水中にある流木についていることが多い。成虫は灯火に飛来する。小型の幼虫は、川辺の水中に露出したツルヨシの根際にも生息してい

る。幼虫期は2年以上と考えられる。日本固有種で、本州と九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では県東部の河川に生息が確認されている。中部および西部にも分布しているとみられる。隠岐諸島には分布していない。

### 【存続を脅かす原因】

水辺植生の破壊、流木の供給の減少。極端な渇水。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○						○					○							○				

昆虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目ヒメドロムシ科

# ハガマルヒメドロムシ

*Optioservus hagai* Nomura, 1958

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

写真 口絵21

### 【選定理由】

県内の分布は局地的である。また、河川における生息環境も特殊である。

### 【概要】

体長2.2-2.5mm。体は全体に楕円形で、背面側に著しく盛りあがる。黒色で光沢が強いが、上翅の基部と先端に黄褐色の紋がある。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は条溝を伴う。日本固有種で本州、九州、隠岐諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、県東部、中部、隠岐諸島（島後）で確認されている。比較的流れが緩い細流で多産することがある。山地溪流で見つかることもあるが、個体数は少ない。離島での記録は隠岐諸島のみであり、生物地理学的に注目される。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修、大規模な水害。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○		○			○					○								△			

コウチュウ目ヒメドロムシ科

# ヨコミゾドロムシ

*Leptelmis gracilis* Sharp, 1888

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

写真 口絵22

### 【選定理由】

県内の分布は局地的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長2.6-3.0mm。全体に黒色。上翅に黄色い縦スジの模様があるが、不明瞭。体はやや細長く、肩の隆起は不明瞭。前胸背板に顕著なくびれと横溝がある。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は明瞭。肢は著しく長い。近縁種とされたホソヨコミゾドロムシは、本種の長翅型であることが判明している。幼虫は扁平で、日本産ヒメドロムシ科の中では特異な形態をしている。日本固有種で本

州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部に河川下流と溜池で確認されている。長翅型は短翅型に比べて出現率が低い。溜池では短翅型のみが確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

河川や溜池の改修、極端な渇水。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○											○	○				○	○					

コウチュウ目ジョウカイモドキ科

# イソジョウカイモドキ

*Laius asahinai* Nakane, 1955

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

浜田の海岸で発見され、日本海側での初記録として注目された。その後の記録がなかったが、近年の調査で再発見された。岩礁帯の特殊な環境に生息する種で絶滅の危険性が高い。

### 【概要】

体長4.5-5.0mm前後。背面は黒色でやや光沢を欠き、触角の基半分は赤褐色。上翅は微細な印刻があり、オスの触角第3節は異常に太い。海浜性で本州、九州に分布し、成虫は5月ごろから汀線の岩礁に見られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1960年、浜田市福井の岸から離れた岩礁の割れ目で、水際に群棲していた本種が採集されたのが唯一の記録であったが、近年の調査で島根半島から大田市琴ヶ浜までの5カ所の岩場の岩礁帯や隠岐（島後）の岩礁で確認された。高波時には波に覆われるような岩礁の波打ち際の隙間などで採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

大規模工事、漂流物の堆積など環境の改変・悪化を避ける。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○																			◎

コウチュウ目オオキノコムシ科

# オオキノコムシ

*Encaustes praenobilis* Lewis, 1883

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

分布は局地的で個体数も少ない。生息場所であるブナ林の消失や周辺林の伐採等の環境悪化による減少が懸念される。

### 【概要】

体長16－36mm。長楕円形。光沢のある黒色で前胸、上翅肩部および翅端にオレンジ色の斑紋がある。成虫はブナ林中の大径枯死木、倒木に発生したサルノコシカケ等の多孔菌類を食べるほか、アミスギタケ、ハチノスタケ、ツリガネタケに集まる。また、灯火にも飛来することが

観察されている。幼虫は多孔菌類の子実体中や、これら菌糸が蔓延した材部で見つかる。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地のブナ林において記録があり、いずれもブナ大径木が多い場所に限定されている。県西部の採集記録が多い。

### 【存続を脅かす原因】

本種の生息環境であるブナの大木を有する成熟した林分の伐採や道路開設等によるブナ林寸断による林の乾燥化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

コウチュウ目テントウムシ科

# マクガタテントウ

*Coccinula crotchi* (Lewis, 1879)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（西限）

環境省：－

### 【選定理由】

河川敷などの荒地に生息する日本固有のテントウムシ。島根県は分布の西限にあたる。生息地は人為の影響を受けやすい環境であり、河川敷環境の生物多様性の指標として選定した。

### 【概要】

体長約3－4mm。背面は黒色で、特徴的な橙色斑を有する。北海道や東北では比較的普通だが、西日本では分布は局地的。北海道では年1世代、西日本では2世代を経過し、越冬後成虫の発生量は少ない。発育には温帯性

種としては高い温度（約14℃以上）を要求する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川中流域には比較的高い密度の個体群が確認されている。その他、江の川や高津川の河川敷、三瓶山、さらに、鳥取県の弓ヶ浜でも分布が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

河川敷の大規模な土地利用改変により環境が画一化すると個体群が消滅する。また、南西限界付近の個体群として、地球温暖化の影響により気候適応が破綻する可能性がある。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○					○					○					○					

コウチュウ目カミキリムシ科

# ベーツヒラタカミキリ

*Eurypoda batesi* Gahan, 1894

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

シイ類大径木の残存する照葉樹林に生息するが個体数は少なく生息環境も縮小している。

### 【概要】

体長26－34mm。体は扁平で光沢のある赤褐色。成虫は6～9月に出現する。夜行性で日中はスグジイなど寄生木の枯死部にある隙間などに潜み、夜間にこれらの立枯れ木、倒木上を徘徊するほか、灯火にも飛来することが観察されている。関東以西の本州、四国、九州、中国南西部、ラオスに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から県央の沿岸から内陸部にかけて記録があるが、沿岸に近い区域に多い。隠岐諸島にも採集記録がある。7～8月に灯火に飛来したものが得られた例が多い。比較的民家に近い場所で採集されているが、社寺林に寄生樹種の老木が多く残存しているためと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

依存するシイ類の老木を有する照葉樹林の消失。また、貴重な生息場所である社寺林等において景観対策や危険木としての枯死・衰弱木の伐倒による繁殖場所の消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○					△					○								

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目カミキリムシ科

# スネケブカヒロコバナカミキリ

*Merionoeda hirsuta* (Mitono et Nishimura, 1936)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

南方系の特異な形態をしたカミキリで、隠岐（島前・島後）のほか、中国山地の赤来、匹見で採集されていたが、近年、三瓶山山麓でも採集された。個体数が多くない。

### 【概要】

体長 10-14mm。上翅が短く、腿節末端は肥大して暗色の長毛があり、脛節には金色の長毛が密生する。成虫は 7-8 月に出現しカラスザンショウ、アカメガシワ、リョウブなどの花に集まり、メスはネムノキの枯死部に飛来して産卵する。本州（茨城県以西）、四国、九州、

対馬に分布する。近年は近県で採集記録が散見される。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1950 年に匹見町初見で初めて採集された。その後、隠岐（島後）の大満寺山で成虫が採集され、ネムノキの枯死部で幼虫と蛹が確認された。隠岐（島後、西ノ島、中ノ島）、赤来、匹見のほか、近年、三瓶山山麓で採集された。

### 【存続を脅かす原因】

食樹のネムノキはどこでもあるが、本種の分布が限られる理由は不明。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○														○			

コウチュウ目カミキリムシ科

# ヨコヤマヒゲナガカミキリ

*Dolichoprosopus yokoyamai* (Gressitt, 1937)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本州、四国、九州に分布するが個体数は少ない。ブナ林に依存する種で、本県では生息に適したブナ大径木が多く残存する環境は少ない。

### 【概要】

体長 20-30mm。体は黒色で背面に灰白色の微毛を持ち、霜ふり状の斑紋、帯状紋を形成している。ブナ大径木の存在する林分に生息し、成虫は 7-9 月に出現する。ブナの生立木に寄生する。日中根元の落葉樹下に潜む事が観察されている。夜行性で夕刻から夜間、ブナ生立木の

幹上に集まるほか、灯火にも飛来する。成虫の脱出孔はブナ生立木の地際部や、幹の衰弱部に多く観察されている。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部で採集記録がある。近年、三瓶山で少数の個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息確認地域周辺ブナ林の伐採による生息環境の破壊。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

コウチュウ目カミキリムシ科

# イッシキキモンカミキリ

*Gleneacent centroguttata* Fairmaire, 1897

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

関東以西、四国、九州に分布するが局所的。

### 【概要】

体長 11-16mm。黒色微毛のピロード状に覆われた体に、頭部、前胸背及び上翅に鮮やかな美しい黄色紋を持つ。成虫は 7-8 月に出現し、クワ類の葉脈を後食する。夕刻に活動が活発になり、1 本の木に集中して集まることが観察されている。幼虫はヌルデを寄主としている。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部、西部で記録がある。西部での記録は少ないが、三瓶山南西部では桑畑での採集記録が多い。県中部では古くから養蚕用のクワ栽培が盛んであった地域で、桑畑の周辺にヌルデが生育する二次林が広がる場所が多い。

### 【存続を脅かす原因】

成虫、幼虫それぞれの食物であるクワ類、ヌルデの双方が豊富に存在する林が必要。残存するクワの転作や開発等、二次林の消失によって個体数の減少、絶滅が危惧される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

コウチュウ目ハムシ科

# キンイロネクイハムシ

*Donacia japana* Chûjô et Goecke, 1956

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

食草であるミクリ属の生える溜池や水路などが減少しており、それに伴い生息地も減少している。

### 【概要】

体長7mm前後。体全体に金銅色を帯び、上翅に赤または青色の斑紋がある。ヤマトミクリやヒメミクリなどを食草としており、成虫は抽水葉を食べ、幼虫は地下で根を食べる。成虫はおもに5～6月に出現する。日本固有種で北海道、本州、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部のミクリ属の生える溜池や水路などに生息している。生息地では個体数が多く、ミクリの葉には食痕がみられる。

### 【存続を脅かす原因】

ミクリ類の減少。生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○											○									

コウチュウ目ハムシ科

# スゲハムシ

*Plateumaris sericea* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

湿地に生息する北方系のハムシで、県内での記録は1カ所のみである。

### 【概要】

体長7～9mmで体全体に金属光沢がある。成虫は5～6月に出現し、スゲなどの花に集まり花粉を食べる。幼虫はスゲ類の根を食害する。

ヨーロッパから日本まで、旧北区に広く分布する。国内では、北海道、本州、九州、佐渡などに分布する。北海道や本州東部ではもっとも普通にみられるネクイハム

シであるが、西日本で分布は局地的で、中国山地の個体群は希少性が高い。近縁種にシラハタネクイハムシがあり本種に酷似しているが、西日本には分布していない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、県中部の湿地で確認されているのみで、本州での分布の西限となっている。広島県との県境付近の湿地で発見される可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

湿地の自然遷移や乾燥。気候の温暖化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○														

ハチ目アナバチ科

# ヤマトスナハキバチ

*Bembecinus hungaricus japonicus* (Sonan, 1934)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

典型的な海浜性のカリバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度が激減している。

### 【概要】

体長はメスが10～11mm、オスが9～10mm。小型のアナバチである。全体が黒色を呈し、腹部の1～3節板後縁に淡黄色の横縞がある。年1化性で、活動期間は7月上旬から9月下旬である。幼虫餌として、同翅亜目の成虫を狩る。砂地に穿孔し、緩やかに下降した坑道（坑道長：2.5～9cm）の先端に1個だけ育房を作製する単育房制

で、育房内に砂粒の台座を作り、その上に卵を垂直に産下する。最初の貯食は、産卵後しばらく経って行われる。随時給食制で、給餌は育房口をそのつど開閉して行われる。越冬は、育房内の繭中において前蛹態で行う。北海道から屋久島まで広く分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大社砂丘だけで局所的に採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																				○	

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ハチ目スズメバチ科

# キオビホオナガスズメバチ本州亜種

*Dolichovespula media sugare* Ishikawa, 1969

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

近年、中国地方の山岳地帯でも生息が確認された。生息密度は低く、分布の南限にあたる。

### 【概要】

真社会性種で、女王はキイロスズメバチに擬態している。働きバチの腹部斑紋の変異は多様で、「五目蜂」と称される。体長は女王が19-22mm、働きバチが14-19mm、オスが19mm前後である。巣房を樹幹の小枝にぶらさげる。スズメバチ類のなかでは、コロニーのサイズは最小である。年1化性で、秋期に出現した次世代の女王とオスが

交尾し、受精後に女王だけが朽木などに穿孔して越冬する。国内では、本州中部以北の山岳地帯では豊産する。原亜種は (*D. m. media* (Retzius))、旧大陸のほか北海道にも産する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大万木山、安蔵寺山で局所的に採集されている。最近、邑智郡川本町の国有林と三瓶山で巣が発見された。豊かな自然林が残された山岳地帯だけに生息している。

### 【存続を脅かす原因】

豊かな自然林の喪失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○	○																

ハチ目ハキリバチ科

# キヌゲハキリバチ

*Megachile kobensis* Cockerell, 1918

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度の維持が危惧される。ハマゴウの重要な送粉者である。日本固有種。

### 【概要】

体長はメスが9-11mm、オスが8-10mmで、体全体が白毛で覆われた中型のハキリバチである。部分的2化性で、越冬は育房内において前蛹態で行う。活動期間は、大社砂丘では6月中旬から9月中旬までの3カ月間にも及ぶ。広食性種であるが、ハマゴウのスペシャリスト的

な送粉者である。砂地に緩やかに傾斜した単坑を掘り(深さ2-7cm)、その先端に1-3個の育房を直列に配置する。育房は葉片で作製される。国内では、本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内の海浜では、ハマゴウの生育が良好であれば普遍的に生息する。汀線から離れた堆砂垣周辺の砂丘内で営巣する。

### 【存続を脅かす原因】

海浜生態系の破壊。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○																		○	

ハチ目ハキリバチ科

# チビトガリハナバチ

*Coelioxys formosicola* Strand, 1913

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系が喪失し、生息密度の維持が危惧される。

### 【概要】

体長はメスが8-12mm、オスが7-12mmで、雌雄とも胸部の背面に目立つ4つの白斑がある。キヌゲハキリバチの労働寄生蜂である。寄生様式は「空き巣ねらい型」で、寄主の留守中に育房内に侵入して、貯めかけの花粉団子中に数卵を産下する。活動期間は、寄主と同じであ

る。部分的2化性で、寄生した寄主の育房内において前蛹態で越冬する。海浜周辺で生育するコマツナギ、ハギ類のほか海浜性のハマグルマをよく訪花する。国内の分布域は、寄主のそれと同一である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内の海浜では、ハマゴウの生育が良好であれば、寄主ともども普遍的に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○																		○	



ハチ目ハキリバチ科

# ネジロハキリバチ

*Megachile disjunctiformis* Cockerell, 1911

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

準海浜性のハナバチで、国内では局所的に採集されている。

### 【概要】

体長はメスが15-18mm、オスが12-14mm。中型のハキリバチである。全体が黒色を呈し、前伸腹節と腹部の1節背板に白毛が密生する。年1化性で、活動期間は7月下旬から9月下旬である。典型的な広食性で、大社砂丘周辺ではハギ類でよく採集される。また、海浜のハマゴウでもしばしば採集される。営巣は、海浜周辺のブドウ

用ビニールハウスで使用されるフレーム管の内部を利用して行われていると推測される。育房は樹脂を用いて作製される。なぜ、海浜を好んで生息するのか不明である。国内では、本州から南西諸島の西表島まで広く分布する。国外では、台湾・中国・朝鮮半島にも産す。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大社砂丘だけで局所的に採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																				○	

ハチ目ミツバチ科

# シロスジコシブトハナバチ

*Amegilla quadrifasciata* (Villers, 1789)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

準海浜性のハナバチで、国内では採集個体数が少ない。

### 【概要】

体長はメスが15-17mm、オスが13-14mmで、がっしりした体躯をもつ。腹部の1-4節背板後縁に白毛帯がある。名前はこの特徴に由来する。稀種のため、生態に関する知見は皆無に近い。年1化性で、活動期間は7月下旬から9月中旬までである。典型的な広食性で、海浜ではハマゴウの花でしばしば採集される。営巣地は、海浜に流れ込む大小河川脇の切り通しの砂壁と推測される。

内陸部でも、営巣地は砂壁であろう。国内では、本州・四国・九州から分布記録がある。国外では、旧大陸にも産する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大社砂丘（出雲市）、波子海水浴場（浜田市）、三里ヶ浜（益田市）のほか、三瓶山でも局所的に採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

特異な環境に営巣するので、このような環境の喪失は生息を不可にする。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			○	○														○	

ハエ目メバエ科

# ムネグロメバエ

*Conops opimus* Coquillett, 1898

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

国内では、採集個体数がきわめて少ない寄生性種である。

### 【概要】

体長はメスが12-18mm、オスが12-17mm。メバエ類のなかでは大型種である。個体の大小差は、寄主サイズに由来すると考えられる。全体が茶褐色を呈する。両複眼の内縁部には、それぞれ1個の黒点がある。最近の大社砂丘における調査によると、オオズグロメバエよりも早く出現し、活動期間は5月中旬から7月上旬である。寄

主は、ヒメハナラナガツチバチと推定される。寄主がよく訪花するハマヒルガオの花の周辺で待ち伏せが見られる。国内では本州・九州に、国外では中国・韓国にも分布している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

松江市と大社砂丘（出雲市）で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○			○				○											○	

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目マダラガ科

# オキナワルリチラシ

*Eterusia aedeia sugitanii* Matsumura, 1927

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

### 【選定理由】

南方系で隠岐（島後）では、古くから生息が知られ分布上注目されている。隠岐諸島の昆虫相を特徴づける重要種である。

### 【概要】

国内では、本州（伊豆半島以西）、四国、九州、対馬などに分布し、緑色に白い斑紋のある美麗種で、8～9月に出現する。近年、広島県安佐町では著しく黒化した個体が採集され、山口県でも採集されている。八重山諸島には各別亜種が分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の山地に生息し個体数も比較的多い。島前の知夫里島に記録があるが再確認が必要である。メスは昼にソバなどの白い花に来るが、夜灯火に飛来するのはオスだけである。山陰本土側は、これまで未発見であったが、近年、匹見の澄川で採集された。幼虫の食樹はヒサカキ・ツバキなどである。

### 【存続を脅かす原因】

幼虫の食樹のヒサカキは多いが、蜜源のソバ畑が急激に減少しており、発生量に影響するかなが要観察。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○	◎	○														○			

チョウ目シャクガ科

# シロシモフリエダシャク

*Biston melacron* Wehrli, 1941

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生息地が限定され、日本全国的に見ても、その分布が局地的である。

### 【概要】

前翅長18－23mm程度。大きさにはかなり個体差がある。白い翅に特徴ある黒い斑紋を散らしたエダシャクで、成虫は早春にのみ現れる。本州、四国南部、九州、対馬に分布。国外では台湾、朝鮮半島、中国に分布するとされる。生活史等については不明な点が多く、食草なども未知。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺と東部および西部の中国山地沿いの地域で見つかっている。いずれもやや標高の高い場所である。また近年、隠岐郡西ノ島町で生息が確認された。

### 【存続を脅かす原因】

分布および生息環境の調査が必要だが、雑木林を含む森林の消滅が考えられる。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

チョウ目アゲハモドキガ科

# フジキオビ

*Schistomitra funeralis* Butler, 1881

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生息地がきわめて局地的。個体数も多くない。

### 【概要】

前翅長28mm内外。翅は黒の地色に、クリーム色から黄色に近い大きな模様を規則正しく並べているのが特徴。全体的に明るい色彩をもっている。日中に活動する蛾で、成虫の発生は年に一度、6月ごろ。花に集まる。幼虫はナツツバキにつき、蛹で越冬するといわれる。1属1種で、今のところ日本特産種。本州の関東地方以西および四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と中部のいずれも中国山地沿いの地域にごく限られた生息地があるにすぎない。山地の雑木林や周辺に広がる草原などがおもな生息場所と考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

山地の良好な森林やそれと併存する環境（草原など）の減少、消滅。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○			△				○													

チョウ目カイコガ科

# スカシサン

*Prismosticta hyalinata* Butler, 1885

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での採集記録が2例のみで、生息地がきわめて限定される。

### 【概要】

前翅長16mm内外。触角はオス、メスとも櫛歯状。翅の色はメスが明るい茶色で、オスはこげ茶色が主体となる。前翅、翅頂近くには半透明の紋がある。かつてはオビガ科に入れられスカシオビガと呼ばれていたという。成虫は7～8月に出現、幼虫はハイノキ科のサワフタギ、タンナサワフタギを食樹としている。国内では本州（関東

地方以西）、四国、九州に分布する。国外については不詳。いまのところ日本特産種。全国的にもあまり多くないが、特にメスは少ないとされる。県内ではメスが1個体採集されていただけだったが、近年オスも採集された。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部、三瓶山でのみ生息が確認されている。確認地はシデ主体の落葉樹林地帯。

### 【存続を脅かす原因】

良好な落葉樹林帯の減少や消滅。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							△													

チョウ目ヤママユガ科

# クロウスタビガ

*Rhodinia jankowskii hattorie* Inoue, 1965

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での産地が限られ、個体数がきわめて少ない。

### 【概要】

前翅長45mm内外。明るい黄色の翅をもつ近縁種ウスタビガ*Rhodinia fugax fugax* (Butler, 1877) をかなり黒っぽくしたようなヤママユである。まさに名前のお通り。またウスタビガは翅の色や形などが、オスとメスとではなはだしく異なっているのに対し、本種はほぼ同じである。前後翅にはそれぞれに透きとおった三日月型の紋をもつ。成虫は年に1回、秋に出現。幼虫はキハダを食草

としている。寒冷地の種で北海道から本州北部にかけては少なくないといわれるが、西日本では希種となる。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の中国山地沿いと中部の三瓶山、大万木山周辺に生息地がある。

### 【存続を脅かす原因】

良好な落葉樹林帯および里山的環境の減少や消滅。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○							○													

チョウ目シャチホコガ科

# タッタカモクメシャチホコ

*Cerura tattakana* (Matsumura, 1927)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内の生息地が局地的であり、個体数も少ない。

### 【概要】

前翅長34-40mm。大型のシャチホコ。翅、体ともに白と黒を絡めた色彩で、特に前翅の黒い波状の斑紋が特徴的である。成虫は6月ごろに出現、年2化とも考えられるが、県内での詳しい観察報告はない。国内では本州、四国、九州、対馬、屋久島、奄美大島、沖縄諸島、八重山諸島に、国外では台湾、中国南東部、ベトナム、タイ、ミャンマーなどに分布。国内では西部地域に多く見られ、

これは食草であるイイギリの分布と重なるという。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺および西中国山地の一部で生息が確認されている。照葉樹林と落葉樹林が混ざり合った場所に生息地があると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

良好な森林環境の減少、消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヒトリガ科

# ネズミホソバ

*Pelosia angusta* (Staudinger, 1887)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本州における分布が局地的であり、一般的に個体数も少ない。島根県でも分布は局地的であり、既知の生息地のほとんどが人為的な攪乱を受けやすい平地の湿地や里山周辺である。

### 【概要】

開張16-17mm程度、コケガ亜科に属する小型種であり、国内では1906年に隠岐（島後）の西郷で初めて採集された。その後、北海道、本州、対馬で記録されているが、北海道以外では非常に少ない。中国地方では島根県と鳥取県で記録がある。国外ではシベリア南東部、サハリン

に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内ではこれまでに隠岐（島後）の西郷で2個体、邑智から1個体が採集されていたにすぎず、非常にまれな種と考えられていた。しかし、近年の調査で島根半島の複数の地点と三瓶山で生息が確認された。島根半島ではおもに低地の湿地周辺で確認されている。隠岐（島後）では1967年以降の採集例がなく、調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地周辺の林地、植生など自然環境の改変。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		○	○				○					○			○	○				

チョウ目ヤガ科

# ホソバミツモンケンモン

*Cymatophoropsis unca* (Houlbert, 1921)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内の生息地が限定され、国内他地域でも同様に産地は限られる。

### 【概要】

前翅長15mm内外。前翅にある白く縁どられた3つの斑紋が鮮やかで、特徴的である。成虫の出現は、県内では5-8月にかけて。幼虫はネコノチチを食樹とすることが近年判明した。国内では本州（中国地方）、四国、九州に分布する。生息域は狭い。国外では、朝鮮半島、中国、チベットに分布。同属のミツモンケンモン

*Cymatophoropsis trimaculata* (Bremer, 1861) は国内での絶滅が懸念されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の島根半島および雲南市、出雲市、県西部の西中国山地周辺で見つかっている。本種と石灰岩質土壌に固有の植生との関係が再三指摘されているが、県内においては関係は薄いと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

良質な林の減少、消滅。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○				○					○								

チョウ目ヤガ科

# クビグロケンモン

*Viminia digna* (Butler, 1881)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内での生息地がきわめて局地的である。

### 【概要】

前翅長16-22mm。前翅に特異な斑紋を持つ。体、翅の大きさにはかなり個体差がある。成虫は4-5月と8月に出現、年2化と思われる。春に出るものは翅の斑紋は鮮明だが、色は全体に白っぽく、後翅は白に近くなる。夏に出るものは強く黒味を帯びる。幼虫の食草としては、カキツバタ、イタドリなどが報告されている。*Viminia*属はケンモンヤガ類としてはめずらしく、非樹木性で、

灌木や草本につくという。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外では台湾、朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

今のところ生息地は三瓶山のみ。湿地環境に生息するとされ、三瓶では池のカキツバタなどとの関係が考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

湿地環境およびそれに付随する植生の消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○														

チョウ目ヤガ科

# ナマリキリガ

*Orthosia satoi* Sugi, 1960

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

産地・個体数がきわめて限られる。

### 【概要】

前翅長17mm内外。前翅は紫灰色の地色、黒く太いスジを有する。成虫の発生は春4月、年に1度だけである。本種の属する*Orthosia*属は北半球温帯の広葉樹林に多くの種が生息するといわれ、国内には20種ほどが知られている。いずれの種も春にのみ出現、同じような生活サイクルを持っている。本種は日本特産種。東北地方から本州中部にかけて産地があるが、局地的。個体数も少ない。

幼虫の食草や生態などに関しても未知の部分が多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

従来西日本には生息記録が見当たらなかった種であるが、1999年に三瓶山で見つかった。現在までのところ、採集例はこの1例のみ。三瓶山の落葉樹林を生息場所としていると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

三瓶山等、落葉樹林帯の減少や消滅。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

チョウ目ヤガ科

# ムラサキミツボシキリガ

*Eupsilia unipuncta* Scriba, 1919

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生息地が限定される。

### 【概要】

前翅長18-19mm。前翅は紫赤色で、外横線付近に灰色の太い帯がある。中室近くの白点は小さく、その周りの小白点は個体によっては消失することがある。成虫の発生は10月ごろ。越冬した個体は春に見られるというが、県内ではまだ観察がない。幼虫期については未知。国内では本州、四国、九州に分布する。しかし生息地はかなり局地的で見つけにくい。国外では中国に分布している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1990年代終わりに、県中部の三瓶山と西部の中国山地沿いの地域で続けて見つかった。いずれも落葉樹林帯。また川沿いの地域に多く見られるとの観察もある。暖温帯の種とされている。

### 【存続を脅かす原因】

良好な落葉樹林帯の減少や消滅。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

チョウ目ヤガ科

# ヨスジキリガ

*Eupsilia strigifera* Butler, 1879

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での産地・個体数がきわめて限られる。

### 【概要】

前翅長15mm内外。翅は黄褐色、前翅にクリーム色にちかいスジが4本入る。全体的に薄い色あいで、淡い印象がする。成虫は10月ごろに出現し、そのまま越冬して3-4月ごろまで活動する。ただ県内で、春の個体は確認されていない。幼虫期は未知。国内では岩手県以南の本州、四国、九州、対馬に分布する。東北地方では以前見つかっておらず、近年進出したと考えられるという。国

外では台湾、朝鮮半島、中国、ネパールなどに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

現在までのところ生息地は県中部の三瓶山のみ。落葉樹林帯での採集例が1例あるだけである。

### 【存続を脅かす原因】

より多くの調査が必要だが、落葉樹林等の林の減少、消失が考えられる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○				△													

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヤガ科

# ツクシカラスヨトウ

*Callyna contracta* Warren, 1913

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本州における生息確認記録が少なく、局地的である。

### 【概要】

前翅長17mm内外。明るい茶色を基調とした翅を持つ。前翅はこげ茶と白色の紋で特異な模様を形成する。成虫は5～6月および8～9月に出現する。幼虫はムラサキ科のチャノキを食べるといふが、詳しくは分っていない。国内では九州と奄美大島のみ分布するとされてきた。だが近年、中国地方西部や対馬などで新たな生息地の発見が続いている。国外では中国、ベトナム、ネパー

ル、インドに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1999年以降、県中西部および中国山地沿いの地域で生息地が見つかってきている。

### 【存続を脅かす原因】

まだ多くの調査が必要と思われるが、良好な森林環境の減少や消滅が考えられる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

チョウ目ヤガ科

# コシロシタバ

*Catocala actaea* Felder & Rogenhofer, 1874

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【選定理由】

県内での生息地が限定され、さらに減っていく傾向にある。

### 【概要】

前翅長27mm内外。ハネの地色が黒い*Catocala*で、後翅に細長い白色の斑紋を有する。成虫は年に一度、6月終わりごろから出現、秋まで姿が見られる。幼虫はクヌギなどブナ科を食樹としている。

北海道、本州、四国、九州に分布しているが、数は少ない。国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布し

ている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

低地の落葉二次林を主たる生息場所とし、県東部および西部の山口県に近い限られた地域にのみ見られると考えられていたが、全県的に、時に市街地の裏山のようなところにも少数ながら見出せることが分ってきた。

### 【存続を脅かす原因】

クヌギを含む落葉二次林や里山的環境の減少や消滅など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○					○								

チョウ目ヤガ科

# クロシモフリアツバ

*Atuntsea kogii* (Sugi, 1977)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【選定理由】

国内ならびに県内における生息地がきわめて限定される。また本県赤名峠産の個体が模式標本となっている。

### 【概要】

前翅長12-14mm。前翅は茶色、灰白色、黒などが交じり合った複雑な斑紋を有するが、後翅は茶色で無地である。成虫は県内の例でいうと6～8月にかけて発生。幼虫その他については、今のところ不明である。本種は1977年に北海道産のオスと本県赤名峠産のメスをもとにして新種記載されたもので、1属1種。北海道、本州に

分布するが、局地的、個体数も多くない。国外では朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山および赤名峠で採集されている。三瓶の例を見る限り、雑木林の蛾との印象が強い。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む森林環境の減少、消滅が考えられる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○				○													

チョウ目トラガ科

# コトラガ

*Mimeusemia persimilis* Butler, 1878

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【選定理由】

県内における生息地が限られる。

### 【概要】

前翅長21-24mm。前翅は黒の地色に大きな黄色い斑紋を散らす。後翅はオレンジ色、黒の縁どりと紋がある。同じ科のトラガ*Chelonomorpha japana* Motschulsky, 1861と大きさ、色、斑紋等、よく似ている。そのため過去の採集記録においては両者を混同していた可能性がある。成虫は5月の終わりから6月にかけて現れ、昼間に活動する。トラガが4月から5月の初めにかけて出現す

るのに対して、1カ月近く発生が遅い。幼虫はヤブガラシ、ヤマブドウ、マタタビを食草としている。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部、ベトナムに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山およびその周辺、琴引山、また西部の中国山地沿いの地域に生息しているが、個体数は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

森林やそれに付随する草地などの環境改変。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○			○				○													

チョウ目アゲハチョウ科

# オナガアゲハ

*Papilio macilentus* Janson, 1877

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【選定理由】

産地・個体数ともに減少している。

### 【概要】

翅長49-70mm。黒いアゲハの中では、翅の幅が狭く尾状突起が長い特徴があり識別しやすい。5月、8月の2回発生。低山地から山地の落葉樹の多い谷筋の開けた場所によく現われ、ゆるやかに飛翔し、アザミなどの花で吸蜜したり地上で吸水したりする。もともとアゲハの中では個体数の少ない種である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の県境付近の低山地でもよく発生していたが、山が伐採され環境が一変し姿を消したところもある。本種の食草は一般にはコクサギとされるが、県内で確認されている食樹はシキミ、カラスザンショウ。松江市八重垣神社周辺は普通に見られていたが、ここ10年ほどは確認できていない。隠岐(島後)では、1980年代から記録がない。

### 【存続を脅かす原因】

落葉広葉樹林の手入れ不足による荒廃と思われる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○					○								

チョウ目シロチョウ科

# ツマグロキチョウ

*Eurema laeta bethesba* (Janson, 1878)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

### 【選定理由】

全国的に減少しており、本県でも産地、個体数とも減少傾向である。

### 【概要】

翅長18-21mm。河川敷、堤防、海岸草地や、山間地の林周辺に生息する。食草はマメ科のカワラケツメイ。成虫は年2回発生し、夏型はキタキチョウとよく似ていて、混生地では識別が難しいが、食草から離れることなく周辺の花を訪れたり吸水したりしている。10月ごろに秋型が現われ、前翅の先端が尖り独特の褐色条が現われ識別が容易になる。越冬のため分散が著しく、産生地から離れた場所でも見られるようになる。

どに記録が多い。食草カワラケツメイは道路ぎわやガレ場の荒れ地に群落を作るため、人為的な環境変化、他植物の進入など遷移の進行により、本種発生量は変動が大きい。新しくつくられたキャンプ場周辺や、ダム湖周辺などで多数見られることもある。

また、旧・六日市町では農家が豆茶用としてカワラケツメイを無農薬栽培しており、本種が多数発生していたことがある。1985年島根半島の海岸線岩場で、大陸からの飛来によるものと思われる裏面が赤い個体群が多数観察されたこともある。隠岐(島後)では計2例の記録のみで、これも大陸からの飛来によるものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

カワラケツメイ群落地の荒廃。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		△	○							○					○			○		

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目シジミチョウ科

# ゴイシシジミ

*Taraka hamada* (H. Druce, 1875)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内に広く分布しているが減少傾向。

### 【概要】

翅長10－16mm。翅の裏が基石を並べているような斑紋がある。幼虫は笹や熊笹などに付くアブラムシを食べて育つ肉食性で、成虫はアブラムシが出す分泌物を吸う。発生地周辺で見られるが、時には何の種かわからないほど激しい飛び方をする。春から初秋に見られるので年2～3回の発生と思われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平地、低山地から山間地まで、林周辺、山道脇のササ類のある所で発生する。アブラムシに影響され毎年発生するとは限らず、また、今まで見なかった所で突然発生することもあり、アブラムシを求め移動性があるようで、産地は流動的である。隠岐（島後）には確実な採集記録があったが、長く再確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

開発改修、自然遷移。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○					○								

チョウ目シジミチョウ科

# ウラゴマダラシジミ

*Artopoetes pryeyi* (Murray, 1873)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限られ個体数も少ない。

### 【概要】

翅長22－24mm。食樹イボタノキがある平地から低山地の落葉広葉樹が優占する林の林縁部を生息環境としている。年1回6月に発生、オスは日中あまり活発ではなく、イボタやウツギなどで吸蜜する。ミドリシジミ属の中には夕方に活発に飛翔する種がいるが本種もその1種。産卵はイボタの枝に産み付けられるが、赤いUFOのような独特の形をしていてよく目立つ。

### 【県内での生息地域・生息環境】

浜田市周辺など西部にも生息地はあるが、松江市・出雲市・雲南市・奥出雲町など東部に多く生息地が見られる。各地とも道路拡幅などでイボタを含む雑木林の伐採が進行し生息域が狭められている。

隠岐（島後・西ノ島、中ノ島、知夫里島）産は、翅表の黒帯が広くて暗化する地理的変異が見られ、きわめて特異な個体群であり、保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林の荒廃。隠岐諸島では殺虫剤空中散布。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○					○					○					○			

チョウ目シジミチョウ科

# ウラキンシジミ

*Coreana stygiana* (Butler, 1881)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

生息地・個体数共に減少傾向である。

### 【概要】

翅長17－19mm。日本特産種。オスの翅裏は暗い金色、メスは明るい金色をしている。コバノトネリコやマルバアオダモを食樹とし、低山地では6月中旬ごろ、三瓶山のような高標高地では6月下旬から7月上旬ごろ発生。日中はほとんど飛翔することなく、クリの花などで吸蜜し、まれに吸水する姿も見られる。5時ごろより日没直後には活発に活動する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部県境付近の低山地で1997年確認しているが、道路拡張、新設などで環境も悪くなり、現在でも生息しているか不明。呑谷でも1986年の記録がある。船通山、三瓶山、奥出雲町など山地の渓谷沿いや落葉樹林周辺では、現在でも確認されている。隠岐（島後・西ノ島）にも生息しており、特異な個体群であるが、松枯れ対策の殺虫剤空中散布の影響を受けて激減している。

### 【存続を脅かす原因】

トネリコを含む雑木林の伐採、隠岐諸島では殺虫剤空中散布。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													



チョウ目シジミチョウ科

# フジミドリシジミ

*Sibatanozephyrus fujisanus* (Matsumura, 1910)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地に限られ、個体数も少ない。

### 【概要】

翅長16-18mm。日本特産種（近似種が近年、台湾、中国奥地で発見された）。標高600m以上のブナ林に生息。年1回6月に出現するが、樹上で生活しているため発見しにくい。強風の翌朝にブナ林の下草によく降り、気温の高い日には吸水にも降りてくるので、こんなときには発見しやすい。標高の高い地で発生が早いのは、ブナの芽ぶきが早く伸展も早いいため、食樹に合わせて幼虫の成

長も早いためである。

### 【県内での生息地域・生息環境】

温帯落葉樹林に自生するブナ林は、県内で10数カ所あるが、現在確認されている確実な産地は船通山、大万木山、天狗石山、匹見峡の4カ所。匹見峡は標高400m付近のイヌブナが食樹になっている特異な環境である。三瓶山のブナ林ではいまのところまだ発見されていない。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ・イヌブナ帯における林道建設、植林のための野放図な伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

チョウ目シジミチョウ科

# ウラジロミドリシジミ

*Favonius saphirinus* (Staudinger, 1887)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

産地も限られ個体数も少ない。

### 【概要】

翅長17-19mm。ゼフィルスの中でもファボニウスと言われる、オスの翅表が青緑色に輝く一群の仲間、裏面が銀白色しているのでこの名がある。年1回6月にナラガシワ林に発生する。同じ食樹であるヒロオビミドリシジミと混生するところも多いが、県東部低山地の小規模なナラガシワ林では本種のみ発生している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

東部、西部にナラガシワ林が点在するが、開発改修、

道路拡張、稚茸のホダ木にと伐採されることが多く、また、林周辺に存在する所では、放置されて他の樹木に覆い隠されそうになるほど、樹種変換がゆっくりと進行し、本種の存在が数年後には危ぶまれるほど不安定な環境下にある。また、隠岐（島後）では、海岸近くにある小規模なカシワ林に生息が確認されており、きわめて特異な個体群で特別な保全対策が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

カシワやナラガシワを含む雑木林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○					○					○					○			

チョウ目シジミチョウ科

# ハヤシミドリシジミ

*Favonius ultramarinus* (Fixsen, 1887)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

カシワに依存しているため、産地も限定され個体数も少ない。

### 【概要】

翅長20-22mm。オスの翅表が青緑色に輝くファボニウスと呼ばれる一群の仲間、6月下旬から7月上旬の短い期間に出現。標高400m以上の山地のカシワ林が生息地。日中はカシワの葉陰に潜んでいることが多く、朝方や夕方に活動。特に早朝には下草に降りている個体をよく見かけることもある。産卵は大木では下枝の1年枝上

に、ヒコバエには好んで産卵し、林から離れた草地に孤立している若木にも多数の卵が見られることもある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内で確認されているのは三瓶山、大佐山、吾妻山の3カ所。三瓶山では山頂部や室の内は特別保護区として保全され良好であるが、個体数は多くない。他所は道路ができた、近くにスキー場ができた、荒廃している。

### 【存続を脅かす原因】

カシワ林周辺の開発。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

昆虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目シジミチョウ科

# エゾミドリシジミ

*Favonius jezoensis* (Matsumura, 1915)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

局地的で、生息地も限定される。

### 【概要】

翅長18-21mm。食樹ミズナラが、中国地方では標高600m以上の山地に限られるため、発生地も限定されている。6月下旬から7月上旬ごろに出現するが、同じ食樹のジョウザンミドリシジミ、アイノミドリシジミと混成している場所も多く、時間的な棲み分けをしている。早朝にも見られることもあるが、午後からの活動がおもになり、晴天時には午後から夕方にかけて、なわばりをつくり、活発に飛翔する。曇天時は活動時間が早くなる傾

向がある。産卵は太枝、樹幹などに行う。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では船通山、大万木山、三瓶山、益田市匹見町、隠岐（島後）などに記録がある。隠岐（島後）の山地ミズナラ林に生息する本種はきわめて特異な地域個体群であり、特別な保全対策が必要である（久保田直哉氏が発見）。

### 【存続を脅かす原因】

林道開発などによるミズナラを含む落葉広葉樹林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○																	

チョウ目シジミチョウ科

# クロミドリシジミ

*Favonius yuasai* Shirôzu, 1947

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

産地が局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

翅長19-21mm。翅の表が黒褐色で緑色をしないミドリシジミ。クヌギ、アベマキの大木がある林に発生するが、自然林より人家周辺の二次林を好むようで、しかも若木のみでは見られず、ある程度の古木が存在する林に発生し、また、特定の本木に偏って見られる傾向がある。活動は夜明け前の暗いうちに始まり、明るくなるころには活動が終わっている。昼間は樹葉上にいることが多いが、夕方には再び活動を始める。終令幼虫は、一般には

樹の根際に降りてくる習性が知られているが、本県では高所にとどまるという特徴がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西部(旧・六日市町)で1968年初発見(能見豪氏)。以後、旧・柿木村、旧・津和野町などで確認されており、東部でも三瓶山、旧・赤来町、旧・頓原町などから発見された。大木を含むクヌギ林は県内にはごく少なく、発生数も少ない。

### 【存続を脅かす原因】

クヌギの古木を含む自然度の高い雑木林の荒廃。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

チョウ目シジミチョウ科

# ヒサマツミドリシジミ

*Chrysozephyrus hisamatsusanus* (Nagami et Ishiga, 1935)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され個体数も減少傾向。

### 【概要】

翅長18mm前後。日本特産種。ミドリシジミの中で後翅の白帯がV字状になっているのは本種のみ。食樹ウラジロガシのある溪谷沿いで6月中旬ごろより発生する。オスは山頂付近で多く見られ、晴天の日中にかけて活動する。メスは活発に活動することはないが、10月ごろまで生存し、ウラジロガシの頂芽辺りの休眠芽に産卵する。鳥取市の久松山が基準標本産地で、和名は訓読みしたもの。

### 【県内での生息地域・生息環境】

匹見峡、旧・仁多町に産地が知られていたが、近年、調査精度が上がり、旧・金城町、旧・旭町、旧・瑞穂町、大万木山、安来市からも卵、成虫確認の報告がある。旧・仁多町では、落葉樹と常緑樹が混成している溪谷で、道路付近に産卵木が見られる。現在、伐採や遷移が進み生息環境が著しく悪化している。

### 【存続を脅かす原因】

ウラジロガシの混じる自然度の高い広葉樹林帯の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

チョウ目シジミチョウ科

# キシマミドリシジミ

*Thermozyphrus ataxus* (Westwood, 1851)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

生息地も限定され個体数も少ない。

### 【概要】

翅長20－21mm。山地帯でアカガシが多く見られる照葉樹林に7月下旬から8月に発生する。メスの翅裏地色は茶褐色、樹林内の葉上で静止していることが多く、活発に活動することないが、気温が高いときには、地上で吸水もする。オスの翅裏地色は銀白色、表には綺麗に輝く金緑色があり、午前11時ごろより3時過ぎまで、溪谷の斜面や樹林内でもテリトリーを張り活発に活動、交尾も

この時間帯に行われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島では1975年に発見され、1981年に淀江賢一郎氏が津和野町で発見した。隠岐（島後）では、ルーミスシジミと混生しているが、大規模伐採や杉の植林で大きなアカガシ林が減少傾向にあり、さらに1990年代の大型林道造成工事が拍車をかけ憂慮すべき状態になっている。

### 【存続を脅かす原因】

林道建設、植林などによるアカガシ林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○	◎	◎																	

チョウ目シジミチョウ科

# スギタニルリシジミ

*Celastrina sugitanii* Matsumura, 1919

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され、個体数も少ない。

### 【概要】

翅長12－15mm。北海道、本州、四国、九州に分布。年1回、4月中旬ごろに出現。トチノキの見られる山間樹林の溪谷で発生、よく晴れた暖かい日に活動し、オスはよく地上や溪流の岩場で吸水、時には集団にもなる。メスは近くのワサビなど訪花する。ルリシジミと混生するため紛らわしいが、本種は翅の色が灰白色で暗く、また斑紋の構成で識別できる。孵化した幼虫はトチノキの花、

つぼみを食して成長する。県内ではミズキなどでは確認されていない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では匹見峡、船通山など局地的に生息しているが、近年、三瓶山、奥出雲町呑谷からも記録がある。船通山は溪谷沿いが急斜面になり、山頂部のカタクリも保護されているため、開発しにくい状況にあり環境は良い。

### 【存続を脅かす原因】

トチノキの混じる自然度の高い落葉広葉樹林の大規模な伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

チョウ目タテハチョウ科

# ホシミスジ隠岐亜種

*Neptis pryeri yodoei* Fujioka, 1998

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：島根県固有亜種、基準標本産地

環境省：－

写真 口絵22

### 【選定理由】

本種は隠岐諸島のみで生息する個体群で、近年減少傾向である。

### 【概要】

翅長26－32mm。海岸部でミツバイワガサが見られる林縁の明るい場所に年1回6月に出現（例外的に2化）、ゆるやかに飛翔シツギなどに訪花する。8月には食草の一部を綴って巣を作り越冬する。前翅2室の白斑が横に大きく、後翅白斑列が三日月形になるなど顕著な地理的変異が見られ、隠岐諸島の個体群は固有の亜種 (ssp. *yodoei*) として1998年に記載された。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後、西ノ島、中ノ島、知夫里島）ではおもに海岸部の崖や河川下流域の崖地、道路沿いの崖地が生息地になっている。食樹ミツバイワガサが西日のよくあたる崖地に生育しているため、本種も山奥よりも海岸近くに多く見られる。本亜種は特異な地域個体群であり保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

道路開発（道路拡幅や古い露岩地のコンクリート吹き付けなど）。殺虫剤空中散布。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	崖地	森林	草原	農地	河川	湖沼	崖地	林地	草地	砂浜	河口	崖地
			○										○											○

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

# アサマイチモンジ

*Limenitis glorifica* Fruhstorfer, 1909

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

近年産地、個体数が減少傾向にある。

**【概要】**

翅長25-36mm。日本固有種で本州のみに生息。スイカズラやタニウツギなどを食草に、年2回5～6月と8月に発生し樹林周辺で見かける。良く似たイチモンジチョウと混生している場所もあるが、白斑の違いなどで識別できる。発生場所にある花を訪れたり、吸水したりする。幼虫で越冬する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

低山地から山地にかけて生息しているが、良好だった産地も放置されてクズなどが辺りを覆い、衰亡している所が多い。県東部の観察では、遷移による環境の悪化のせいか、よく見られた三瓶山や旧・仁多町も、一時まったく見られなくなった年もあったが、近年少ないながら復活した。隠岐諸島からは未記録である。

**【存続を脅かす原因】**

開発や、遷移の進行、林縁の手入れ不足による荒廃など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○	○				○								

# オオチャバナセセリ

*Polytremis pellucida* (Murray, 1875)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

1990年代より県内全域で減少傾向が見られる。普通種と思われていたが、全国的にも減少傾向にあるという。

**【概要】**

翅長22-23mm。翅裏面の白斑がジグザグに並ぶ所で近似種と識別できる。飛翔は敏速で、ノアザミ、オカトラノオなどの花を訪れ、ときには吸水もする。年2回の発生で、ササ原や雑木林周辺の林縁草地がおもな生息地になるが、河川敷でも見られる。

**【県内での生息地域・生息環境】**

平地から山地まで、林縁のイネ科植物の生える草地やササ草原に広く生息するが、密度は低い。近年、多産していた東部でも著しく減少している。しかし、普通種と思われていたために昔の記録が乏しく、定量的な比較が困難であり、今後のデータ集積が必要である。

**【存続を脅かす原因】**

雑木林周辺（林縁）の荒廃によるものと思われる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			○			○	○	○			○	○	○						

バッタ目コロギス科

## コバネコロギス

*Metriogryllacris magnus* (Matsumura et Shiraki, 1908)

### 【選定理由】

県内のおもな記録は、隠岐（島前）に限られ、その他地域の生息状況はほとんど分かっていない。

### 【概要】

体長約20mm。触角は体長の5倍以上。翅は退化して痕跡的。体は赤褐色で、腹部背面は各節後縁が黒色のために横縞模様が顕著。形態はハネナシコロギスに酷似するが、ごく短い翅を持ち、後脛節背面に特に大きな棘を有しない。樹上性で、広葉樹などの葉の一部を切り、筒状に巻いて巣を作る。本州以南、南西諸島、台湾に分布する。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

西ノ島町の美田ダムでは、ダムサイトの投光器に誘引される本種が8～12月までの間、連続的に確認されている。暖帯海岸の照葉樹林に生息し、他県でも島嶼における多産の報告例がある。

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする森林の伐採など生息域の環境悪化。

バッタ目キリギリス科

## ハタケノウマオイ

*Hexacentrus japonicus* Karny, 1907

### 【選定理由】

おもな生息地が平地であり、市街地化に伴って生息地が減少している。

### 【概要】

体長約30～35mm。体色は淡緑色で、頭部から前胸の背面に濃褐色の太い条がある。前脚の脛節には鋭い棘がある。成虫は8月上旬から中旬にかけて現れ、オスは夜間「ズイチョ、ズイチョ」とせわしなく鳴く。灯火にもよく飛来する。平野部の草原に生息するが、現在では林地に隣接した丈の高い草地で見られる傾向が強く、広域に

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

開けた草地ではあまり見られなくなった。日本固有種で本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本土域および隠岐諸島で記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

平野部における草原環境の減少。河川の改修。市街地化。

バッタ目コオロギ科

## カヤコオロギ

*Euscyrus japonicus* (Shiraki, 1930)

### 【選定理由】

希少種で、局所的な分布を示すため。

### 【概要】

体長約10～20mm。翅は短く腹部の中央にとどく程度。発音器がないため鳴かない。年1化で、成虫は8～10月に見られる。卵で越冬。河川敷や林縁などのイネ科草本に生息する。国内では関東南部から九州、国外では朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部および中部で記録されている。鳴かないために

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

発見が難しいが、地表が湿っている場所のチガヤ草地などを重点的に探せば、生息地はさらに見つかると思われる。

### 【存続を脅かす原因】

草原の減少。手を入れないことによる遷移、特にクズなどの進入によるマント群落化など。

ハサミムシ目ハサミムシ科

## イソハサミムシ

*Anisolabis seirokei* Nishikawa, 2008

### 【選定理由】

自然度の高い礫浜海岸に生息するハサミムシで、県内での生息地は限られている。

### 【概要】

体長13～38mm前後。背面は黒から赤褐色まで変異がある。また腹部先端のハサミも曲がったものから直線的なものまで変異がある。同所的にハサミムシ（ハマベハサミムシ）が生息しており、よく似ているが、大型で背面が赤褐色の個体は本種である可能性が高い。

国内では本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部および隠岐諸島の海岸に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い礫浜海岸の消失。

写真 口絵22

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
絶滅危惧Ⅰ類

絶滅  
絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅  
準絶滅危惧

情報  
情報不足

カメムシ目トゲアワフキ科

## ムネアカアワフキ

*Hindoloides bipunctata* (Haupt, 1923)

### 【選定理由】

本科は熱帯地方に多く、日本産は2属2種。幼虫は石灰質の巣を寄主上につくる。生息地は全国的に限られ、中国地方での記録も少ない。

### 【概要】

体長(翅端まで)オス4mm、メス5mm。オスは小楯板が赤色で他は一樣に黒色。メスは前胸背も赤色。前翅は黒色で、先端部は膜質。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾・中国に分布し、ソメイヨシノなどのサクラ類を寄主とする。成虫は4~5月ごろ現れる。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ふ化した幼虫は巻き貝状の巣を作る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

産地は出雲部から石西部にかけて点在するが、個体数は少ない。おもに里山的環境の植栽されたサクラ樹で発見される。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

里山的環境の開発、殺虫剤散布、大気汚染など。

カメムシ目セミ科

## チツゼミ

*Kosemia radiator* (Uhler, 1896)

### 【選定理由】

本州のセミでは最小であり、見つけにくい。里山的環境に適応した種だが、個体群動態の把握が難しい。

### 【概要】

体長27-32mm、開張48-57mm、メスがやや大きい。体は黒色、体表に銀灰色の鱗毛を有する。腹面の大部分は黄褐色。成虫は県東部平地では8月中旬から11月上旬にかけて現れる。産卵はツツジ類などの生枝中に行う。日本特産種で北海道・本州・四国・九州に生息する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

### 【県内での生息地域・生息環境】

平地の公園などで鳴き声などの生息情報は多い。隠岐諸島でも確認されている。小型で採集しにくいので発生状況の把握が困難である。

### 【存続を脅かす原因】

二次林的環境の破壊、または放置、竹林などへの移行。

カメムシ目ハネビロウンカ科

## キスジハネビロウンカ

*Rhotana satsumana* Matsumura, 1914

### 【選定理由】

山地の広葉樹林で得られるが、生息地が局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長3.5mm、翅端まで7mm。体は淡黄褐色で、前翅は著しく広く大きい。前翅には外縁に平行した暗黄色帯をもつ。詳しい生態は未知であるが、カンランを吸汁している観察記録がある。国内では本州・四国・九州、国外では中国に分布する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部から東部の中国山地沿いの3カ所で得られている。

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目アリヅカウンカ科

## アリヅカウンカ

*Tettigometra bipunctata* Matsumura, 1900

### 【選定理由】

幼虫がアリの巣に共生するという特異な習性を持つ。本科、本属の日本産の種は他に1種のみで、個体数も少ない。

### 【概要】

体長(翅端まで)5mm、ふつうのウンカに比べて体幅が広い。体や前翅は淡褐色で、暗赤褐色と赤色の顆粒を散布する。本州のみから知られる希種で、幼虫はアリの巣内で生活するという。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の中国山地林縁部の1カ所で記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目マルウンカ科

## キボシマルウンカ

*Ishiharanus iguchii* (Matsumura, 1916)

### 【選定理由】

生息地が局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長（翅端まで）5mm、半球形で前翅は橙色に黒褐色の斑紋があり、ある種のテントウムシに似ている。ナガバノヤブマオなどのイラクサ科植物に寄生する。国内では本州・四国・九州・対馬、国外では中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内の数カ所で記録があり、隠岐諸島にも産する。林縁部の草地で得られる。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目マルウンカ科

## カタビロクサビウンカ

*Issus harimensis* Matsumura, 1913

### 【選定理由】

アカマツやネズなどの針葉樹につく希種とされ、県内における生息記録は少なく、アカマツ林の衰退の指標となる。

### 【概要】

体長（翅端まで）8mm程度のウンカのなかまでである。頭部は黄褐色、体は黒褐色でやや扁平。前翅の幅は広く後方に向かってやや狭くなる。前翅の膨出部には白帯がある。本州と四国に分布する。詳しい生態・分布はあきらかでないが、発生期は6月初旬らしい。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐（島後）のアカマツをまじえた丘陵地で生息が確認されている。他にも、やや急峻な丘陵地のアカマツ林で、市街化していない地域に生息しているものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採やアカマツ林の遷移、「松枯れ予防」と称する殺虫剤散布。

カメムシ目アオバハゴロモ科

## キノカワハゴロモ

*Atracis formosana* Jacobi, 1915

### 【選定理由】

最近本州で分布が確認された南方系の種であり、アリと共生するなど独特の生活様式をもつ同翅類である。

### 【概要】

体長（翅端まで）7mm程度のアオバハゴロモの仲間。体は扁平で軍配型。緑色の地に暗黒色の模様が全体にあり、樹皮に似ている。複眼はよく発達し側方に突出する。成虫は各種の広葉樹上に見られ、幼虫は樹皮下で生活し、ヤマアリのなどのアリに保護されている。南西諸島に分布するが、1990年代後半に九州から山口県、千葉県の数カ

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

所で採集されている。県内では1999年に東部低山地で確認され、その後西部の山間で多数採集されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

山間の谷沿いの雑木林（クリ－コナラ林）などに生息する。

### 【存続を脅かす原因】

開発に伴う森林破壊や、殺虫剤散布など。

カメムシ目ハゴロモ科

## スケバハゴロモ

*Euricania fascialis* (Walker, 1858)

### 【選定理由】

自然林の林縁部に生息するが、他のハゴロモ類に比べ、産地も個体数も少ない種である。

### 【概要】

体長6mm、翅端まで10mm程度のハゴロモのなかまでである。体は黒褐色で、前翅は透明で不連続な暗褐色の帯状紋がある。キイチゴ、オウトウ、ブドウ、クワなどを吸汁する。本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中山間地5カ所で確認されているが、隠岐諸島には記

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

録がない。

### 【存続を脅かす原因】

開発に伴う森林破壊や殺虫剤散布など。

カメムシ目ハゴロモ科

## ヒメベッコウハゴロモ

*Ricania taeniata* Stal, 1870

### 【選定理由】

熱帯東洋系の種であり、県内は分布の北限とみられる。

### 【概要】

体長6mm、翅端まで10mm程度、前翅は黄褐色で中央より外方に先端縁に平行な3本の暗色帯がある。平地のイネ科草本上に生息するが、個体数は多くない。国内では本州以南、国外では台湾・インド・フィリピンに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

河川敷などの開けた環境で採集されているが、県東部では個体数は少ない。隠岐諸島では未発見。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

イネ科草原の大規模な火入れや、殺虫剤散布、市街化。

カメムシ目キジラミ科

## シャシャンボキジラミ

*Cacopsylla vaccinii* (Miyatake, 1964)

### 【選定理由】

松枯れによって尾根の植生が変化し、寄主植物であるシャシャンボの生育地が減少している。

### 【概要】

体長約2.5mm。翅は透明で顕著な模様はない。寄主はツツジ科のシャシャンボで、幼虫は虫えい（虫こぶ）を形成しない。新成虫は6月に出現する。成虫は羽化後しばらくすると寄主から分散し、野外での発見は困難になる。日本固有種で、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵22

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の丘陵地で確認されている。隠岐諸島にはシャシャンボが自生しているものの、これまでのところ確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

松枯れによる植生の変化。

カメムシ目ミズカメムシ科

## ミズカメムシ

*Mesovelgia vittigera* Horváth, 1895

### 【選定理由】

生息地が局地的であり、希少であるため。

### 【概要】

体長2.3-3.4mmで、体は緑褐色で光沢がある。オスの腹部第8節腹面中央には黒色の毛束からなる突起があり、これが他種との区別に用いられる形質である。ふつう無翅型であるが、まれに長翅型が出現する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

浮葉植物や抽水植物が豊富な溜池に生息する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化と消失。

カメムシ目ミズムシ科

## ミヤケミズムシ

*Xenocorixa vittipennis* (Horvath, 1879)

### 【選定理由】

水生植物が豊富な池沼に生息する中型のミズムシで、生息環境が局所的で県内での生息確認地点は多くない。

### 【概要】

体長7.2-9.1mm、丸みのある光沢の強い種である。淡青黄色に黒色条斑をもち、前胸背には6-8条の黒色帯がある。本州・四国・九州、台湾・中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

生息確認地は東部4地点、中・西部各1カ所ですべてが平地の溜池であった。生息池での個体群密度は比較的

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

大きい。隠岐諸島では確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

溜池などの止水域の大規模な開発、水路整備や宅地造成など。各種排水の流入や帰化動物の放流。

写真 口絵22



カメムシ目イトアメンボ科

## イトアメンボ

*Hydrometra albolineata* (Scott, 1874)

### 【選定理由】

溜池などの生息場所が失われ、全国的に絶滅が危惧される。隠岐（島後）を含む県内でも生息の記録がある。

### 【概要】

体長11-14mm、暗褐色から黒色で、長翅型と短翅型がある。オスの腹部7節の腹面は縦にくぼみ長毛がある。池沼・水田・河川などの水際にすみ、水面を走ることができる。分布域は国内では本州・四国・九州・トカラ諸島、国外では朝鮮半島・中国・台湾。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内での記録は灯火採集によるものが多く、確実な生息地は確認されていない。本種と同所的に生息する同属のヒメイトアメンボは県内全域に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

水辺の植生破壊、3面コンクリート化、水質汚濁などの環境悪化。

カメムシ目マキバサシガメ科

## キバネアシブトマキバサシガメ

*Prostemma kiborti* (Jakovlev, 1889)

### 【選定理由】

地表性で採集が困難な種であり、全国的に希種とされる。県内では最近になって生息が確認された。

### 【概要】

体長10mm内外、光沢のある黒色で、粗い毛でおおわれている。翅は短く革質部は黄褐色で、膜質部は退化する。地表の石下で生活する。分布域は国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・モンゴル・極東ロシア。

### 【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川や高津川の河川敷で少数が得られている。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

河川敷の破壊、3面コンクリート化、水質汚濁などの環境の悪化。

カメムシ目サシガメ科

## アシマダラアカサシガメ

*Haematoloecha rubescens* Distant, 1883

### 【選定理由】

暖地に棲む地表性のサシガメであり、分布域は広いが個体数は少ない。県内では戦前の記録が1カ所あるが、その後は発見されていない。

### 【概要】

体長11.5-14mmで頭部、前胸背、小楯板は赤色である。前翅は黒色で革質部の前縁と基部、中央の横帯は赤色を呈する。脚も赤色で、各節に黒帯がある。本州・四国・九州・伊豆諸島・小笠原諸島・奄美大島・沖縄本島、朝鮮半島・中国に分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

雲南市三刀屋町での記録が唯一。生息環境はアダチサシガメと同様に海岸部の林床とされるが、当地では河川敷等のような場所であったかもしれない。

### 【存続を脅かす原因】

海岸林や河畔林の汚染や破壊。

カメムシ目サシガメ科

## クロバアカサシガメ

*Labidocoris insignis* Distant, 1883

### 【選定理由】

日本特産のサシガメで、県内での生息地は局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長12mm内外で、前胸背後葉、前翅革質部後縁、腹部が鮮やかな紅色である。山地の草むらで発見され、朽ち木の樹皮下などで成虫越冬する。本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と隠岐（知夫里島）の2カ所で記録がある。こ

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

これらの放牧地に見られる二次草原に生息するものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

草原の物理的破壊、火入れなどの過剰な管理、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

## オオアシナガサシガメ

*Gardema melinarthrum* Dohrn, 1860

### 【選定理由】

細長い大型のサシガメで、南方系の種である。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長20mm内外、体肢は細長く淡褐色で脚は黄色。触角は細長く糸状で体長を超える。ササ藪の地表近くで発見されるが、個体数は少ない。国内では本州・九州、国外ではフィリピン、スリランカに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中部山地の邑南町と隠岐（島後）で記録されている。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

生息環境は雑木林のササ群落である。今のところ他地での記録はない。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林の伐採、林床のササ群落の刈り取り。大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

## マダラカモドキサシガメ

*Empicoris rubromaculatus* (Brachburn, 1889)

### 【選定理由】

細長い小型のサシガメで、日本特産種。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長5mm内外、暗褐色の地に淡色紋がある。触角や脚は黄白色で、多数の暗褐色輪がある。半翅鞘は柔らかく、一見蚊に似ていることからこの和名がついた。草むらの枯れ草に見られるが発見困難。本州・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

近年斐伊川の河川敷や八束町で発見されているが、今

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

のところ他地での記録はない。

### 【存続を脅かす原因】

河川敷の改修、コンクリート化、火入れ、殺虫剤散布。

カメムシ目サシガメ科

## ヒゲナガサシガメ

*Serendiba stalianus* (Horvath, 1879)

### 【選定理由】

細長い中型のサシガメで、日本特産種。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長15mm内外、暗赤褐色で脚は黄色。触角は細長く糸状で、前胸背側角は棘状に突出する。県内で採集されたものはいずれも灯火に飛来した個体で、生態は明らかでない。周辺のコナラ、クヌギなどの樹上で生活し、他の昆虫などを捕食するものと思われる。本州・四国・九州・対馬に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部平野と隠岐（島後）の2カ所で記録がある。環境の良好なクヌギ・コナラの二次林に生息すると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

## クビアカサシガメ

*Redvius humeralis* (Scott, 1874)

### 【選定理由】

大型のサシガメ類で、県内の生息地が局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長13-16mm、光沢のない黒色で、長軟毛を密生する。前胸背の後半が暗赤色で、その中央は黒色。コナラ、クヌギなどの樹上で生活し、鱗翅類の幼虫などを捕食する。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地下部の4カ所で記録がある。環境の良好なクヌギ・コナラの二次林に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

## ウデワユミアシサシガメ

*Polytoxus armillatus* T. Ishikawa, 1998

### 【選定理由】

最近記載された小型のサシガメで、今のところ西日本の数カ所での記録のみである。県内では1991年に発見されたがその後の記録がない。

### 【概要】

体長10mm内外、赤褐色で体正中部に黒帯がある。河川の河口部のヨシ帯に生息すると見られるが、詳しい生態は未知である。本州・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川水系の下流域の河川敷で記録されている。岸辺

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

のヨシ帯で、小昆虫を捕食すると思われる。同属のキベリユミアシサシガメは、県東部の河川敷など2カ所で発見されている。形態・生態は本種とよく似ている。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修に伴うヨシ帯の破壊、水質汚濁などの環境悪化。

カメムシ目ナガカメムシ科

## オオメダカナガカメムシ

*Malcus japonicus* Ishihara et Hasegawa, 1941

### 【選定理由】

日本特産種で、県内の生息地は局限され個体数も少ない。

### 【概要】

体長6mm内外、黒褐色で細長く全身に大きい点刻を密に散布する。前胸背後葉の両端に1対の大きなこぶがある。クワを食草とし、本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

益田市匹見町と出雲市佐田町の2カ所で記録されているが、最近隠岐（島後）でも確認されている。良好な里

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

山環境に生息する種類である。

### 【存続を脅かす原因】

里山環境の開発、環境汚染。

カメムシ目ナガカメムシ科

## ヒメマダラナガカメムシ

*Graptostethus servus* (Fabricius, 1787)

### 【選定理由】

海岸砂丘のハマヒルガオ群落に特異的に生息するカメムシで、県内の生息地は局限され個体数も少ない。

### 【概要】

体長10mm内外、橙赤色の地に頭部、胸背、脚、前翅などに黒色の斑紋がある。前翅の斑紋には変異がある。ハマヒルガオなどを食草とする。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市大社町から大田市にかけての砂質海岸2カ所で

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

海岸砂丘の後退、人為的破壊および海洋汚染。

カメムシ目ノコギリカメムシ科

## ノコギリカメムシ

*Megymenum gracilicorne* Dallas, 1851

### 【選定理由】

農耕地周辺の水辺の草本群落で発見されるカメムシで、生息地は局限され個体数も少ない。

### 【概要】

体長13-16mm、赤紫色を帯びた黒褐色で、頭部はシャベル状に突出する。前胸背の前縁と側縁に突起があり、腹部側縁は鋸歯状となる。カラスウリ、カボチャ、キュウリなどに見られる。国内では本州・四国・九州・トカラ諸島、国外では朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平野部数カ所で確認されている。発見・採集が困難な種類であり、生息域はもっと広いと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

水辺周辺の除草や除草剤散布、水路のコンクリート化。

カメムシ目カメムシ科

## ウシカメムシ

*Alcimocoris japonensis* (Scott, 1880)

### 【選定理由】

農耕地周辺の広葉樹林で発見されるカメムシで、産地は局地的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長8-9mm、光沢のある黄褐色に多数の黒色点刻があり、一見暗褐色に見える。前胸背側角はウシの角状に突出する。小楯板は大きく基部両側に黄白色紋がある。本州・四国・九州・南西諸島に分布し、アセビ、シキミ、フジなどで発見される。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

今まで匹見、隠岐諸島、松江、三瓶、八束、木次で確認されている。関西では都市公園のような場所で発生しており、今後生息域はもっと広がると思われる。

### 【存続を脅かす原因】

農耕地や住宅地周辺の緑地帯の破壊、環境悪化。

カメムシ目カメムシ科

## イシハラカメムシ

*Charazonotum ishiharai* (Linnavuori, 1961)

### 【選定理由】

山地の広葉樹林縁部で発見されるカメムシで、産地は局地的で個体数も少ない。県内では近年確認された。

### 【概要】

体長9-11mm、黄褐色に多数の黒色点刻を散布する。小楯板の先端には黄白色紋がある。幼虫・成虫ともにミツバウツギの実を吸取する。本州・四国・朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

奥出雲町上阿井の林道法面のミツバウツギで発見され

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

た。ミツバウツギは県内ではまれな植物ではないので、今後生息域はもっと広がると思われる。

### 【存続を脅かす原因】

山間部の大規模な開発（道路整備や宅地開発）など。

カメムシ目ツノカメムシ科

## エゾツノカメムシ

*Acanthosoma expansum* Horvath, 1905

### 【選定理由】

中型のツノカメムシで、県内の生息地は局限され、山地の自然度の指標となる。

### 【概要】

体長12-15mm、緑褐色で、前胸背側角は黒く強く突出する。ミズキやニワトコなどの植物上で見られる。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

東部山地と隠岐（島後）に記録がある。山地の広葉樹をまじえた環境の良好な二次林に生息する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【存続を脅かす原因】

山林の伐採や大気汚染などの環境の悪化。

コウチュウ目カワラゴミムシ科

## カワラゴミムシ

*Omphron aequalis* Morawitz, 1863

### 【選定理由】

砂地に生息する地表性甲虫で、全国的に減少している。県内では内陸での古い記録があるが、現在では生息地がほとんど消失している可能性がある。

### 【概要】

体長5.5-6.5mm。ハンミョウ科やオサムシ科に近縁な独立した科として扱われている。体は円形で肢が長い。海岸や砂丘、内陸の砂地（自然堤防など）に生息する。成虫は灯火に飛来する。国内では北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、沿海州、中国に分布する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の内陸部で記録がある。近年の記録はまったくない。

### 【存続を脅かす原因】

砂地環境の消失。

コウチュウ目ハンミョウ科

## コハンミョウ

*Myriochile speculifera* (Chevrolat, 1845)

### 【選定理由】

砂質の河原に生息するが生息に適した環境が減少。

### 【概要】

体長11-13mm。赤みを灰色で鈍い金属光沢がある。上翅には細い白色の斑紋がある。成虫は春から秋にかけて出現し7~8月、夏に多い。成虫は地表を俊敏に歩行・飛翔して小昆虫等を捕食し、幼虫は土中に掘った孔に身を潜め付近を通る小昆虫を捕食する。

河川敷、河口など水辺に見られるが、丘陵地など裸地・乾燥した場所でも生息が確認されている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮半島、台湾、中国、東南アジアに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の河川の中・下流域。隠岐諸島で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

## アイヌハンミョウ

*Cicindela gemmata aino* Lewis, 1891

### 【選定理由】

生息環境である石礫がある河川敷に生息する種で県内の分布も局所的。

### 【概要】

体長16-17mm。体色は青緑色を帯びた鈍い金属光沢。上翅には太くはっきりした白紋があり、青く光る孔点の列がある。

成虫は春期に石礫が多くあるような大型河川の上中流域の河川敷に局所的に出現する。晴れた日中に活発に歩行・飛翔して、小型の昆虫類を捕食する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、シベリア南東部に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の大型河川の上中流域の河川敷に生息。西部地域では比較的多く採集されている

### 【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

## コニワハンミョウ

*Cicindela transbaicalia japonensis* Chaudoir, 1863

### 【選定理由】

砂質の河原に生息するが、生息に適した環境が減少している。

### 【概要】

体長11-13mm。体色は緑を帯びた灰色の金属光沢で、上翅には白い紋がある。成虫は春から秋に出現し7~8月に多い。成虫は地表を俊敏に歩行・飛翔して小昆虫等を捕食し、幼虫は土中に掘った孔に身を潜め付近を通る小昆虫を捕食する。河川敷、河口の掘いた砂地に見られ、丘陵地の裸地・乾燥地にも見られる。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、サハラに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部地域のおもに大型河川で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

## ホソハンミョウ

*Cylindera gracilis* Pallas, 1777

### 【選定理由】

全国的にも減少している種であり、県内の分布も限定される。

### 【概要】

体長10-12mm。細長い体型で、体色は黒みを帯びた金属光沢を持つ。上翅には4つの白色の斑紋を持つ。上翅後半の中央部に赤い紋が出る型もある。

成虫は7~8月に出現する。飛翔することはほとんど無く、素早く地上を徘徊して昆虫など小動物を捕食する。幼虫は土中に穴を掘り中に身を潜めて、近くを通る獲物

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

を待ち伏せて捕食する。

本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、シベリアに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の山地に形成された草原。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による生息地の消滅や、草原、疎林が植生遷移による生息適地の劣化・縮小。

コウチュウ目オサムシ科

## ノツメクラチビゴミムシ

*Rakantrechus (Uozumitrechus) notsui* S. Ueno, 2010

### 【選定理由】

島根半島が本種の基準標本産地となっているが、記載されて以降、新たな採集記録がない。

### 【概要】

九州中央部、四国西部、中国地方西部に分布するラクンメクラチビゴミムシ属の中で秋吉台に分布中心のあるアキヨシメクラチビゴミムシ属のうち本種とミスミメクラチビゴミムシは島根県に産し、他種の分布域から離れて飛び石状になっている。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

2008年に島根半島西部の廃坑で発見された。所属亜属の日本海側での分布東端で、ミスミメクラチビゴミムシとの間には大きな空白地帯を挟んでいる。地中に生息していると思われるが特異な分布の理由も含めて情報が不足している。

### 【存続を脅かす原因】

情報不足のため不明である。同属他種の状況から見ると安定的な地中環境を好むように思われることから、地下水系の変化を引き起こす治水などには注意を要する。

コウチュウ目オサムシ科

## ササジメクラチビゴミムシ

*Stygiotrechus sasajii* S. Ueno et Naito, 2007

### 【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地となっており、記載されて以降、新たな採集記録がない。

### 【概要】

体長約2.5mm。体色がアメ色で後翅が無く、無眼といった、洞窟や地下に生息する昆虫の特徴をもつ。九州北部から瀬戸内に分布するノコメクラチビゴミムシ属のなかで日本海側に産する特異な種である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

2006年に江の川沿い（江津市）の低標高地で地中の礫

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

層から見いだされ、翌年に記載された。2カ所で採集されているが以降の記録はない。おそらく江の川河口周辺の地中環境に生息していると思われるが絶滅リスクを評価するためにはさらなる情報が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

情報が不足しており具体的な危機には言及できないが、江の川河口周辺の大規模な改変や地中環境に影響する護岸などは脅威となり得る。

コウチュウ目オサムシ科

## マシダナガゴミムシ

*Pterostichus mashidai* Ishida, 1959

### 【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地となっている。県内の記録は少なく、詳しい生息状況は不明。

### 【概要】

体長15mm程度。体は細長く、本種が属すナガゴミムシとしては、体が凸型でやや厚みがある。体色は黒く、光沢がある。前胸背の基部に点刻があることが、類似種との区別点。上翅には明瞭な隆条がある。動物質・腐食質の餌を摂食する。中国地方の他県では溪畔の石の下などから比較的普通に採集されるようである。本州中国地方

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1953年県西部冠山で初めて採集されている。生息調査は不十分で、近年県東部から採集されている。その他の地域の生息状況は不明。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の開発等による環境悪化。

コウチュウ目オサムシ科

## オキナガゴミムシ

*Pterostichus okiensis* Nakane, 1989

### 【選定理由】

隠岐（島後）から記載されたナガゴミムシで隠岐固有種であるが、原記載後の記録が少なく生息状況など詳しい状況は不明である。

### 【概要】

体長 17–18mm。黒色で光沢があり前胸背はやや長めで、匹見から記載されたエサキナガゴミムシによく似るが、腹部末端節後半があまり深く凹まず、後縁が波曲しないことで区別できる。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隠岐諸島固有種

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の都万および大満寺山で採集された個体により記載され、その後大満寺山での採集記録がある。シダ類が繁茂する山地の林縁や道路の側溝で採集されており、やや湿った林地が生息域と考えられる。島前では採集記録がなく調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域や生態が明らかでないが、大規模な伐採など生息環境の激変を避ける。

コウチュウ目オサムシ科

## ウミホソチビゴミムシ

*Perileptus morimotoi* S.Ueno, 1955

### 【選定理由】

河口などの潮間帯に生息するゴミムシで、日本海側ではまれである。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長1.8–2.3mm。体は扁平で背面は暗い色をしている。河川の潮感域の石下などに生息する。本州、四国、九州、南西諸島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の河川下流に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

河口の開発、特に干潟的な微環境の消失。河川水の塩分濃度の変化。

コウチュウ目オサムシ科

## ウミミズギワゴミムシ

*Sakagutia marina* S.Ueno, 1955

### 【選定理由】

潮間帯に生息するゴミムシで、全国的な希少種である。県内の生息状況は不明な点が多いが、限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長5.0mm前後。体は扁平で背面に鈍い青色の金属光沢がある。海浜に生息する。

国内では北海道、本州、四国、九州、国外ではサハラに分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵23

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の海浜に生息する。生息地は、砂浜上に礫が堆積するような環境である。

### 【存続を脅かす原因】

海岸の開発、海岸浸食、砂浜への自動車や重機の乗り入れ。

コウチュウ目コガシラミズムシ科

## マダラコガシラミズムシ

*Halipilus sharpi* Wehncke, 1880

### 【選定理由】

県内での記録が少なく、また生息地での個体数も少ない。

### 【概要】

体長3.3–3.8mm。幼虫は藻類を食べることが知られているが、県内では確認されていない。生息地は溜池や水田などの止水域であるが、生息場所の条件など生態面で不明な点が多い。国内では本州、四国、九州、国外では中国に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵23

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部や隠岐諸島で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

## ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

*Canthydrus politus* (Sharp, 1873)

### 【選定理由】

県内での生息地がきわめて限定されている。

### 【概要】

体長2.4–2.6mm。成虫は小型で背面に光沢があり、鮮やかな斑紋を持つ。水生植物の豊富な止水域に生息する。国内では本州、四国、九州、国外では中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部で記録がある。1950年代に松江市の市街地で記録されていたが、その後記録は途絶え、2009年に県西部で再確認された。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵23

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目ゲンゴロウ科

## マルケシゲンゴロウ

*Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的である。他県でも同じような傾向がみられる。

### 【概要】

体長2.4–2.7mm前後。体型は卵形で背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。コマルケシゲンゴロウに似るが、体長はより大きく、点刻と網目状印刻の形状が異なる。水生植物の多い溜池の浅瀬や放棄水田など、やや富栄養な水域をおもな生息地としている。国外では台湾、タイ、インドなどに分布し、国内では北海道、本州、九州、南

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の溜池や放棄水田に生息している。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ミズスマシ科

## ヒメミズスマシ

*Gyrinus gestroi* Regimbart, 1883

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的である。全国的にも減少している。

### 【概要】

体長4.6–5.2mm。成虫の体は幅が狭く、後方に向かって急に狭まる。背面は全体に黒色で強い金属光沢がある。溜池などの水面を旋回しながら遊泳する。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部の溜池に生息しているがまれである。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ミズスマシ科

## コミズスマシ

*Gyrinus curtus* Motschulsky, 1866

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的である。全国的にも減少している。

### 【概要】

体長4.9–5.6mm前後。成虫の体は幅が広く、後方に向かって緩やかに狭まる。背面は全体に黒色で強い金属光沢がある。溜池などの水面を旋回しながら遊泳する。国内では北海道、本州、四国、九州、国外では千島、サハリンに分布する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部の溜池に生息しているがまれである。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ガムシ科

## エゾコガムシ

*Hydrochara libera* (Sharp, 1884)

### 【選定理由】

生息地が局地的で、希少であるため。

### 【概要】

体長16–18mmで、コガムシ *H. affinis* (Sharp, 1873) に非常に似た種類であるが、脚と体腹面が黒っぽいことや上翅基部の点刻の違いで容易に区別される。北海道など寒冷な地域に多く分布し、一年中水を張った休耕田や湿地などの植生が豊かな水深の浅い水域に選好性を示す。国内の分布は北海道、本州、九州で、国外からは朝鮮半島、中国、ロシアの日本海沿岸地域から記録されている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【県内での生息地域・生息環境】

美郷町のみで確認されている。一年中水を張った休耕田や湿地に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化や消失。



コウチュウ目ダルマガムシ科

## クロコブセスジダルマガムシ

*Neochthebius granulosus* (M.Sato, 1963)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵23

### 【選定理由】

自然度の高い岩礁海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長1.5–1.6mm。体は瓢箪型でやや扁平。背面は黒色で光沢は鈍い。本州、四国、伊豆諸島、千島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の岩礁海岸に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の港湾開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目シデムシ科

## ヤマトモンシデムシ

*Nicrophorus japonicus* Harold, 1877

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

平地性の種であり、近年の記録が少ない。

### 【概要】

体長14–25mm前後。背面は黒色で上翅に赤色の鮮やかな4斑紋がある。後脛節が曲がるのが特徴。成虫は灯火に飛来する。国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、モンゴルに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部の平野部や沿岸部で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

本種の減少原因は不明な点が多い。原野的な環境の減少や農業形態（畑作）の変化によって、生息環境や餌資源が減少している可能性がある。

コウチュウ目ハネカクシ科

## ウマヅライソハネカクシ

*Halorhadinus sawadai* Maruyama et Hayashi, 2009

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：情報不足 (DD)

写真 口絵24

### 【選定理由】

自然度の高い礫浜海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長4.6–5.6mm。体は細長く、扁平。イソハネカクシ属の中ではきわめて大型で、潮間帯性のハネカクシとしても最大級。海岸に生息し、地下数10cm程度の潮間帯の礫間に棲む。2006年に島根県内で発見され、新種として記載された。日本固有種で、本州に分布する。これまでのところ島根県のみで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の礫浜海岸に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

礫浜の開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目マルハナノミ科

## ツماغロマルハナノミ

*Scirtes tsumaguro* M. Satô et Chûjô, 1972

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

汽水域に生息する特異なマルハナノミで、県内での生息地は限られている。

### 【概要】

体長3mm前後。成虫の体は細長い楕円形で、背面は黄褐色だが翅端部が黒い。後肢で飛躍する。海岸や河口のヨシ原などに生息する。日本固有種で本州、九州、南西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部の大橋川のヨシ原に生息する。島根県内に

は汽水域のヨシ原がある場所は限られており、大橋川はその中でもっとも規模が大きい。

### 【存続を脅かす原因】

河川敷や海岸部の改修、汽水域のヨシ原の消失。

コウチュウ目マルハナノミ科

## ホソキマルハナノミ

*Elodes elegans* Yoshitomi, 1997

### 【選定理由】

山地溪流の限られた微環境に生息するため。

### 【概要】

体長3.8-4.9mm。山地溪流に生息し、幼虫は水生。山際から湧水が染み出しているような場所に生息する。日本固有種で本州、四国、九州に分布し、産地は太平洋側に多い。

### 【県内の生息地域・生息環境】

県東部および隠岐諸島で確認されている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵24

### 【存続を脅かす原因】

山地溪流の開発。大規模な土砂災害。

コウチュウ目クワガタムシ科

## オニクワガタ

*Prismognathus anglaris* Waterhouse, 1874

### 【選定理由】

県内のブナ林に生息し個体数も多くない。

### 【概要】

オスの体長14-19mm。メスの体長15-18mm。体は黒色。オスの大あごは短く、基部と先端部に歯を持つ。山地のブナ、ミズナラ林に生息する。成虫は7-9月に出現し、倒木上に見られるほか灯火に飛来する。産卵は含水率の高い倒木に行われ、若齢幼虫はメスが産卵時に開けた坑道内の木くずを摂食し2年で成熟して夏に羽化する。羽化後は成虫越冬せず、すぐに材から脱出して活動する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

成虫が餌を食べることは観察されていない。北海道、本州、四国、九州に分布。

### 【県内の生息地域・生息環境】

県西部、安蔵寺山のブナ林で採集されている。県東部や中部のブナ林にも生息している可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採や、道路開設などによる生息域森林の消失・乾燥化。

コウチュウ目クワガタムシ科

## マダラクワガタ

*Aesalus asiaticus* Lewis, 1883

### 【選定理由】

山地性の種で個体数も多くない。

### 【概要】

体長オス4-7mm。メス4-6mm。厚みのある長楕円形で小さくクワガタムシらしくない体型をしている。背面は褐色で黒色の棍棒状の毛が不規則に叢生にする。山地の広葉樹林に生息し、成虫は早春から初夏にかけて出現する。成虫が餌を摂食することは観察されていない。幼虫は広葉樹の朽木を摂食して成長し、2年目の秋に羽化して材内で成虫越冬する。北海道、本州、四国、九州

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

に分布。

### 【県内の生息地域・生息環境】

県西部・東部の中国山地、三瓶山、隠岐の島で記録がある。いずれもブナ帯及びそれよりやや標高の低い広葉樹林帯において、おもに朽木中から採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採による生息環境の消失。

コウチュウ目クワガタムシ科

## ネブトクワガタ

*Aegus laevicollis* E. Saunders, 1854

### 【選定理由】

平野部から低山地に生息するが個体数は少なく、近年記録がない。

### 【概要】

体長オス14-33mm、メスは14-25mm。体は全体黒色。上翅には太い隆条がある。おもに平地の雑木林や沿岸部の照葉樹林に生息する。成虫は6-10月に出現し、ブナ科樹木の樹液に集まるほか、モミの樹液に来ることが知られている。また、灯火に集まる。産卵はシイ類の老木の樹洞内や、樹木の不朽部が腐植土状になった場所など

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

の記録がある。幼虫はそれらの材中等で育ち繭を作って蛹化、秋に羽化して越冬する。国内では本州、四国、九州、国外では台湾、中国に分布。

### 【県内の生息地域・生息環境】

県東部の平野部で採集記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息域での森林伐採など生息環境の消失。

コウチュウ目センチコガネ科

## ムネアカセンチコガネ

*Bolbocerosoma nigroplagiatum* (Waterhouse, 1875)

### 【選定理由】

生息密度が低く、希少であるため。

### 【概要】

体長9-14mm。体色は黄赤褐色で光沢があり、頭部、小楯板、上翅後方などは黒色。前頭の中央にオスは小角状突起、メスは横隆起がある。成虫は5-10月に出現する。平地の芝生が広がる公園や河川敷、山地の放牧地などで発生する。古い牛糞などに来集、灯火にもよくくる。朝鮮半島に分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、伊豆諸島、壱岐島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平地および三瓶山の草原で、おもに灯火で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

草原の消失。

コウチュウ目コガネムシ科

## ツノコガネ

*Liatongus minutus* (Motschulsky, 1860)

### 【選定理由】

生息地が局限されているため。

### 【概要】

体長7-10mm。光沢の無い黒色か黒褐色。オスは、頭部に長く反った角があり、前胸背板には両側と平行に縦の隆起があるが、小型なオスでは目立たない。メスの前胸背板には逆U字型の隆起がある。上翅は平圧される。成虫は、6-10月に発生する。山地の日向にある獣糞に集まる。糞下に坑道を掘り、詰め込こんだ糞に産卵する。朝鮮半島、中国、台湾、インドシナ、ミャンマー、イン

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ド、ヒマラヤ、国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、対馬に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山および県東部の山間地の放牧地で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。

コウチュウ目コガネムシ科

## クロオビマグソコガネ

*Aphodius (Acrossus) unifasciatus* Nomura et Nakane, 1951

### 【選定理由】

県内では、ホンシュウジカが生息する島根半島出雲北山山系にのみ生息する。

### 【概要】

体長7-9mm。体は黒色で上翅が黄土色。上翅の中央より下方に黒帯紋がある。成虫はおもに3月下旬から5月下旬にかけて出現し、秋季にも出現する。日陰にある新しいシカの糞に好んで集まり、糞内に潜って摂食する。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は、シカの糞に依存しているため、出雲北山山系のホンシュウジカ生息域にのみ分布する。

### 【存続を脅かす原因】

シカの生息域の森林伐採や、シカの捕獲などによるシカの個体数の減少。

コウチュウ目コガネムシ科

## セスジカクマグソコガネ

*Rhyparus azumai* Nakane, 1956

### 【選定理由】

生息密度が低く希少であるため。

### 【概要】

体長5-6.5mm。体色は黒褐色から黒色で光沢を欠く。頭頂に4縦隆条、前胸背板に6縦隆条、上翅に各4縦隆条をそなえる。成虫はおもに5-9月に出現する。灯火にあつまる。日本固有種で、本州、伊豆諸島、四国、九州、南西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山北の原の下に位置するスギ人工林や西中国山地

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

東端の二次林で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の森林伐採。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
危惧Ⅰ類

絶滅  
危惧Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報  
不足

コウチュウ目コガネムシ科

## オキチャイロコガネ

*Sericania kadowakii* Nakane, 1983

### 【選定理由】

生息地が局限されており、また、生息密度も少なく希少であるため。

### 【概要】

体長7-8mm。やや卵形でわずかに扁平。背面は暗褐色から赤褐色、腹面は赤褐色、触角は黄褐色。本種は、ナエドコチャイロコガネ*S.mimica* Lewisに近い種とされるが、体型が小さくて頑丈、背面の点刻が密で光沢が鈍いことなどで区別される。成虫は5-6月に出現。林内の低空を飛翔して移動する。隠岐(島後)にのみ分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐(島後)の山林内に局所的に生息。灯火に飛来する。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の山林の伐採。

コウチュウ目コガネムシ科

## オオタケチャイロコガネ

*Sericania ohtakei* Sawada, 1955

### 【選定理由】

生息密度も少なく希少であるため。

### 【概要】

8.5-11.5mm。やや細長い卵形で少し扁平。背面は暗褐色から赤褐色、腹面は暗褐色、脚部は赤褐色、触角は黄褐色。背面は光沢がある。腹面は後胸腹板中央部と腹節に光沢がある。中国地方の個体群は、色彩が暗く、腹節の光沢を欠く、頭盾の前縁に沿った深い横溝がないなどの特徴がある。本州(関東地方以西)に分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中央部の山林が残る江の川沿いで採集された記録があるが、詳細は不明。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の山林の伐採。

### 【特記事項】

本種は、「改訂しまねレッドデータブック2004」では、ヒバチャイロコガネ*Sericania Hirosei* Y. Miyake et Nakamura, 1995と記載していたが、分類学的変更によりオオタケチャイロコガネとした。

コウチュウ目コガネムシ科

## アオアシナガハナムグリ

*Aleurosticus subopacus* (Motschulsky, 1860)

### 【選定理由】

山地の落葉広葉樹林に分布するが島根県での生息地域は局地的で採集記録も少ない。

### 【概要】

体長15-22mm。背面は光沢の無い、緑色ないし銅褐色。前背胸および上翅に白点紋を散布し、上翅には弱い2本の隆条をもつ。成虫は6-8月に出現して、林縁部にある灌木等の花に集まる。メスは朽木に産卵し幼虫はその材を摂食して育つ。おが屑などの腐植を餌にした飼育下では容易に繁殖できるようである。国内では北海道、本

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

州、四国、九州、国外ではシベリア東部、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山麓や県西部の中国山地の標高の高い自然の保たれた森林から記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域の落葉広葉樹林の消失。

コウチュウ目ダエンマルトゲムシ科

## シラホシダエンマルトゲムシ

*Pseudochelonarium japonicum* (Nakane, 1963)

### 【選定理由】

全国的にも分布記録は局所的でまれな種類。

### 【概要】

体長5mm内外。体型は長楕円形。背面には白色の毛斑を有し、上翅には密な点刻がある。成虫は夏季にブナ、サワグルミ、トチノキ等の落葉広葉樹が生育する森林内の沢近くで採集されている。成虫が灯火に飛来することが知られているが、幼虫の食性、生息場所などその他の生態については不明。北海道、本州九州(対馬)に分布。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の自然度の高い落葉広葉樹林において、灯火に飛来した個体が得られている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域周辺の開発等による森林伐採や道路開設等。

コウチュウ目チビドロムシ科

## ババチビドロムシ

*Babalimnichus masamii* M. Sato, 2001

写真 口絵24

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

自然度の高い岩礁海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長2.0mm前後。体は楕円形。背面は黒色で銀色の毛が生えている。本州、四国、九州、南西諸島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の岩礁海岸に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の港湾開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目ヒラタドロムシ科

## ヒゲナガヒラタドロムシ

*Nipponeubria yoshitomi* Lee et M. Sato, 1996

写真 口絵24

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

山地溪流の限られた微環境に生息するため。

### 【概要】

体長2.3–2.8mm。触角のほとんどの節、頭部、前胸背板、小盾板が黒色で、上翅は濃い茶褐色。雄の触角は鋸歯状で長く、体長より僅かに短い程度。日本固有種で本州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部で確認されている。山際から染み出す湧水によって涵養された湿地状の場所において、幼虫は落ち葉

や石に張り付いている。

### 【存続を脅かす原因】

山地溪流の開発、大規模な水害。

コウチュウ目タマムシ科

## ヤマトタマムシ

*Chrysochroa fulgidissima* (Shonherr, 1817)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

以前は普通に見られたようであるが、近年個体数が減少した。

### 【概要】

体長35–40mm。大型の美麗種。全体が緑色金属光沢を持ち背面には縦に2本の赤い縞が入る。成虫は7–8月に出現。エノキ大木の樹冠部周辺を日中によく飛翔することが知られている。成虫はエノキの葉を摂食する。幼虫は主としてエノキ老木の衰弱・枯死した材を摂食して生育する。このほかカキノキ、サクラ類の樹種も幼虫

期の餌として利用されるようで、これらの材から成虫が羽化することが知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島、県東部から西部の平野部から山地での記録がある。市街地ではおもに社寺林のエノキが発生源となっているようである。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による森林伐採。市街地では発生源であるエノキなどの老木の伐採。

コウチュウ目タマムシ科

## アオマダラタマムシ

*Nipponobuprestis amabilis* (Snellen van Vollenhoven, 1864)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内で確認された生息地は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長16–29mm。大型の美麗種で体色は緑色の金属光沢。上翅に縦の隆条と4つの大型および多数の小型白色凹陥紋とを持つ。成虫は5–7月に平地から山地に出現。幼虫の食樹としてはソヨゴ、クロガネモチのほか、サクラ類、ツゲが知られている。成虫および幼虫が材中で越冬していることが観察されている。本州、四国、九州。国外では中国、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から県中部にかけての市街地や内陸部の山地、また、隠岐諸島から記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採による生息地域の消失。市街地に残された発生源樹木の伐採。

コウチュウ目タマムシ科

## クロマダラタマムシ

*Nipponobuprestis querceti* (E. Saunders, 1873)

### 【選定理由】

県内で生息が確認された場所は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長17-28mm。体色は赤味を帯びた黒色で金属光沢があり、上翅には縦の隆条と多数の白色凹陷紋を散布する。成虫は5-7月に出現する。幼虫はエノキの枯死木や、枯死した枝部分を摂食することが知られている。材の中で育った成虫がそのまま越冬している例が知られている。本州、四国、九州。国外では中国に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の市街地周辺部など低地に記録があるのみであるが、県中部、西部でも生息の可能性はある。

### 【存続を脅かす原因】

低地山林の森林伐採による生息場所の消滅、生息域の縮小化。

コウチュウ目コメツキムシ科

## ガロアムネスジダンダラコメツキ

*Harminius galloisi* Miwa, 1928

### 【選定理由】

生息確認場所は局地的で少ない。

### 【概要】

体長14-19mm。体は幅広でやや扁平。体色は褐色で、上翅中央と後方には黒褐色の毛によるV字型の紋がある。成虫は夏季に森林の残された地域で灯火に飛来することが知られているが、幼虫期の生態等は不明。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の広葉樹林で夏に採集されているほか、隠

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

岐諸島での採集記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息域の森林伐採等による森林消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

## オオベニホソヒラタコメツキ

*Corymbitodes rubripennis* (Lewis, 1894)

### 【選定理由】

全国的にも少ない種で県内の生息場所は局限される。

### 【概要】

体長9mm前後。上翅は黄赤から暗赤色で金属光沢を欠く。頭部から前胸背面は黒色。成虫は5-6月に出現し、山地の花上に集まる。早春にブナの朽木中から成虫が得られており、成虫で越冬するものと推察される。幼虫期の生態等は不明。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の高齢級のブナ林から採集されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【存続を脅かす原因】

生息域の森林伐採等によるブナ林の消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

## ムネアカツヤケシコメツキ

*Megapenthes opacus* Canzeze, 1873

### 【選定理由】

全国的にも少なく、県内での分布も局限される。

### 【概要】

体長10-15mm。頭部と上翅は黒色で、前胸が赤い。背面は黒色の短い毛で覆われる。高標高地に花上で見られるが、まれ。自然度の高い森林が生息地で、樹洞付近で見つかることが報告されており、繁殖場所であることが示唆されている。成虫は夏季に出現するがそのほか幼虫期を含めて生態は不明。北海道、本州、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地で7月にイタドリに訪花しているものが採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域の落葉広葉樹林の伐採による森林消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

## カドワキツヤミズギワコメツキ

*Neohypdonus kadowakii* Kishii, 1976

### 【選定理由】

雲南市（大東町）で採集され記載された種であるが、その後の記録がなく分布など不明である。基準標本産地であり再確認し、生息環境を明らかにする必要がある。

### 【概要】

体長4.0mm 前後。全体黒色でつやがあり、触角・上翅肩部は褐色を帯び、肢は黄赤色である。この仲間は微小である上に種類が多く判別が難しいとされる。本種の生態や国内での分布状況などは不明であったが、鳥取県大山で生息が確認された。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は、1967年に大東で採集されたが、その後の記録がなく微小な種であるため発見し難く、同定が難しいことも一因と思われる。最近、鳥取県大山で生息が確認されており、県内でも再確認の可能性が高い。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目ホタル科

## ヒメボタル

*Luciola parvula* Kiesenwetter, 1874

### 【選定理由】

生息地が局地的で、移動性が乏しく、環境変化による影響を受けるため。

### 【概要】

体長5－9mmで、複眼が大きく、触角は短い。上翅は全体に黒色で、前胸背板は大部分が桃赤色で、中央前方に黒斑がある。メスは後翅が退化している。雌雄ともに発光し、閃光的な光を放つ。成虫は6～7月に出現し、出現期間は短い。幼虫は陸生で貝類などを捕食する。日本固有種で、本州、四国、九州、五島列島に分布する。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

体長6mm前後の小型タイプと体長8mm前後の大型タイプが知られるが、島根県からは後者のタイプしか見つかっていない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島や県全域で確認されている。スギなどの生えた古い社寺林や雑木林に生息する。林床は湿っていることが重要である。

### 【存続を脅かす原因】

森林の減少や林床の乾燥化。

コウチュウ目ホタル科

## スジグロボタル

*Pristolycus sagulatus sagulatus* Gorham, 1883

### 【選定理由】

生息地が局地的であり、希少であるため。

### 【概要】

体長7mm前後。複眼が小さく、触角は大きい。上翅は全体に鮮やかな赤色で、周縁と会合部は黒色、黒色縦条がある。前胸背板は茶褐色。成虫になると発光器が痕跡的で、ほとんど発光することなく、雌雄のコミュニケーションには匂い（性フェロモン）が用いられる。幼虫は陸生であるが、湿地や溪流付近に生息し、水中に入って淡水貝類を捕食することがある。日本固有種で、千島列

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

島、北海道、本州、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

飯南町の赤名湿地のみで確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

湿地などの生息できる環境の減少。

コウチュウ目ヒラタムシ科

## ルリヒラタムシ

*Cucujus mniszechi* Grouvelle, 1874

### 【選定理由】

中国地方での生息は少ないようであり、県内の分布は局所的である。

### 【概要】

体長20－27mm。扁平な体型をしており、頭部と前胸は黒色、上翅は鈍いルリ色をしている。

山地の大木樹皮下に生息する昆虫等を捕食する。

他県での観察例では、春季に倒れたブナ等の大木に集まることが観察されている。幼虫は樹皮下を生息環境として生育し、成虫は秋季に羽化して成虫越冬し、翌春出

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

現すると思われる。

北海道、本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の高齢ブナ林から記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

本種の生息に適する高齢級森林の大規模伐採など生息に適した環境の消失。

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

## キイロテントウゴミムシダマシ

*Leiochrodes mashidai* Nakane, 1963

### 【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地。

1954年の記載以降、本県の記録はなく生息状況は不明。

### 【概要】

体長2-3mm。体は半球形で光沢のある黄赤褐色をしている。近似種のクロテントウゴミムシダマシは体色が光沢のある黒褐色であることが区別点。砂質海岸に生息するほか、内陸部でも大きな河川の河川敷にも生息することが確認されており、集団で成虫越冬している例が報告されている。本州に分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

1954年に県西部の砂質海岸から採集され記載された。分布調査は十分でなく、県内の他地域での生息状況は不明。

### 【存続を脅かす原因】

河川の土砂供給量が減少して砂質海岸が縮小している。砂質海岸の地形改変、大型河川の河川敷の改修などによる生息環境の消失。

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

## オキツヤヒサゴゴミムシダマシ

*Misolampidius okiensis* Nakane, 1983

### 【選定理由】

隠岐（島後）から記載されたツヤヒサゴゴミムシダマシで隠岐諸島固有種であるが、分布など詳しい状況は不明である。

### 【概要】

体長13-15mm前後。黒褐色で全体にやや扁平で細長のずん胴型に見え、背面は滑らかで光沢がある。上翅には明瞭な条溝があり、間室は細点刻を装うやや大きく密である。またツヤヒサゴゴミムシダマシ類は、オサムシ類と同様に後翅が退化し移動能力低く、種の分化が著し

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隠岐諸島固有種

環境省：-

いとされている。成虫は朽木で見られ幼虫も朽木を食べると云われている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）から記録されているが、個体数が少ないためか追加記録も少なく、詳しい生息状況は不明である。島前では採集記録はなく、調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目オオハナノミ科

## クロオオハナノミ

*Metoeus satanus* Schilder, 1924

### 【選定理由】

森林に生息するクロスズメバチに寄生して生活しており、森林伐採等、ハチの生息適地の減少によって減少する。

### 【概要】

体長9-13mm。体色は黒色。体型は細長く、脚が長い。クロスズメバチに寄生して成長する。

成虫は8-9月に出現して朽ち木の割れ目などに産卵する。孵化した幼虫は巣材を集めて来たクロスズメバチに乗り移り、巣に運ばれる。巣内でハチの幼虫体内に食

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

い入り過ぎした後、ハチが蛹になる時期に体外に出て寄主の外部から体液を吸って成長して蛹化・羽化して脱出するという。北海道、本州、国外ではサハリン、チベットに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の森林。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採等による寄主であるクロスズメバチの生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ツチハンミョウ科

## クロゲンセイ

*Stenoria oohatai* Morimoto et Maeta 2009

### 【選定理由】

生息密度が低く、分布も局限される。

### 【概要】

体長8-11mm。体色は全身暗褐色。オス、メスともに翅があり、飛ぶことができる。成虫は飼育下では6-7月に出現するが、これまで野外での成虫は1例しか記録されていない。本種は、地中に営巣するエサキムカシハナバチに労働寄生することが知られ、エサキムカシハナバチの巣内からクロゲンセイの擬蛹が得られている。本種は2009年に新種記載され、これまでのところ島根県内

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種

環境省：-

写真 口絵24

の一部でしか生息が確認されておらず、確認例も少ない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の山地にあるエサキムカシハナバチの営巣地で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

寄主となるエサキムカシハナバチの営巣地のある露頭の改変。



コウチュウ目カミキリムシ科

## フタスジカタビロハナカミキリ

*Brachyta bifasciata japonica* (Matsushita, 1933)

### 【選定理由】

山地に生息しており、生息域も限定され個体数も少ない。

### 【概要】

体長16-23mm。頭部と胸部は黒色。上翅は黄色で端と前方に黒色横帯を持つ。成虫は4月下旬から5月上旬に、山地に咲くヤマシャクヤクに訪花し、花卉や花粉を摂食する。地表の枯れ枝、枯れ草の茎などに産卵され、孵化した幼虫は土中に潜り根茎を食入し成長すると再び土中に出て土繭を作って蛹となるという。本州、四国、アジ

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ア北東部、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

5月に県東部から西部の山地のほか、隠岐（島後）において、ヤマシャクヤクに訪花している個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域周辺森林の伐採等、生息地域の環境悪化。寄主植物であるヤマシャクヤクの乱獲。

コウチュウ目カミキリムシ科

## クロソンホソハナカミキリ

*Mimostrangalia kurosonensis* (Ohbayashi, 1936)

### 【選定理由】

本州での分布記録は局限され、その個体数も少ないまれな種。

### 【概要】

体長14-18mm。体型は細長く、体背面は黄褐色。成虫は7-8月に出現。本州での採集記録は少ない。成虫はノリウツギ等の花に訪花することが知られている。ハイノキ、クロバイ、丹那サワフタギが寄主植物として知られている。本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部での記録があり、8月にノブドウの花に訪花しているものが得られている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域の開発等による寄主植物を含む森林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## オオホソコバナカミキリ

*Necydalis solida* Bates, 1884

### 【選定理由】

ブナ林に生息し、分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長18-30mm。体は黒色で上翅は黒から明るい赤褐色まで変化がある。上翅は短く後翅、腹部が露出する。成虫は7-8月に出現する。まれに花に飛来するが、ブナの立枯れに産卵、交尾のため集まっているところを観察されることが多い。産卵は各種の広葉樹を餌とすることが記録されているが、特にブナを好む。幼虫はこれらの材を摂食する。本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の自然度の高いブナ林で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による生息域のブナ林の伐採や、景観対策等による発生源である立枯れの木の除去。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヒゲシロホソコバナカミキリ

*Necydalis odai* Hayashi, 1951

### 【選定理由】

ブナ帯に生息するが分布は局地的。

### 【概要】

体長14-25mm。前翅が短小で後翅が露出する。体は黒色で、触角の第8-10節が白黄から黄褐色。オスの上翅は翅端を除いて赤褐色。メスはほぼ黒色。成虫は7-8月に出現し、太いミズナラの生立木の枯死部や立ち枯れ木に産卵が集まるほか、気流の吹き上げにより山頂部に採集されることがある。各種の広葉樹への産卵記録があるが、特にミズナラを好む。幼虫はこれらの材を摂食。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

北海道、本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地、安蔵寺山においてミズナラ大木に飛来した個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

ミズナラ老木を有する自然度の高い森林の開発等による消失、環境悪化。

コウチュウ目カミキリムシ科

## クロサワヒメコバネカミキリ

*Epania septemtrionallis* Hayashi, 1968

### 【選定理由】

本州での分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長8-11mm。体色は黒色。上翅は短く腹部背面の4分の1程度を覆い、後翅が露出する。暖帯から温帯林に生息し、成虫は6-8月に出現してクリ、ノリウツギ等の花に集まる。幼虫の食樹としてクマノミズキが知られている。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の山林で採集された1例のみで、それ以降新た

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

な記録がなく、生息地の確認が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域における開発等、森林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## トラフホソバネカミキリ

*Thranus variegates* Betes, 1873

### 【選定理由】

分布は局地的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長13-26mm。体は細長く、背面は黄褐色の不規則な暗色の模様があるが、色彩変異も多い。上翅は両側が途中から顕著に狭まり尖った形状で、後翅の一部が露出する。成虫は6-8月に暖-温帯林で見られ、広葉樹倒木に集まる。幼虫はシイ類、アカメガシワ、ハルニレなどの広葉樹が食樹として知られる。北海道、本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の広葉樹林で採集記録があるが、その他の地域では確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域の開発による森林伐採。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ルリボシカミキリ

*Rosalia batesi* Harold, 1877

### 【選定理由】

中国山地沿いと隠岐（島後）で採集されているが、個体数は少なく情報がとぼしい。

### 【概要】

体長16-30mm。全体が灰青色の鱗毛で覆われ、前胸背と上翅に黒色の斑紋がある美麗種である。斑紋に黒色の微毛があり、個体により斑紋の変化がある。触角は体長より長く、オスは第3-5節の先端に黒色の毛の束がある。国内での分布は広く温帯林上部に7-9月に出現して広葉樹の伐採木に集まる。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地沿いの赤名、匹見、六日市および隠岐（島後）に採集記録があるが個体数は少ない。近年、三瓶山山麓でも採集されている。隠岐（島後）では集材場の伐採木で採集され、六日市ではクリの木の葉で採集されているが、近年は路傍に積まれた伐採木を見ない。

### 【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響している可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

## オオアオカミキリ

*Chloridolum thaliodes* Bates, 1884

### 【選定理由】

隠岐（島後）で採集され、松江、匹見、六日市に古い記録がある。個体数が少なく採集例も少ないため、近年の状況は不明である。

### 【概要】

体長23-32mm。大型のカミキリムシで、背面は濃緑色、下面は緑色、前胸背は青緑色、触角と肢は濃紫藍色で触角は長い。北海道、本州、四国、九州、対馬に分布し、成虫は7-8月に出現して樹液や花上で見られるが、サワグルミ、ヤナギ類の伐採木に集まり、サワグル

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ミの材への産卵が知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）では夕刻に新しい伐採木に飛来した個体やサワグルミの衰弱木に集まったものが採集されている。松江および匹見は古い記録で、近年の状況は不明である。島前での採集記録はなく調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響する可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヤノトラカミキリ

*Xylotrechus yanoi* Gressitt, 1934

### 【選定理由】

隠岐（島後・知夫里島）で採集された暖帯系の種で、分布上注目されるが採集例が少なく、生息状況など不明である。

### 【概要】

幅広で体長16–20mm。黒色で前頭および前胸背の前・後縁は黄色の毛で覆われる。上翅基部は赤褐色、その後方に白と黄の斜帯、翅端部は褐色でその前に黄色の帯がある。本州、九州、対馬に分布し、中地方以西の暖帯林帯で7–8月に出現する。食樹はエノキが知られている。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の大満寺山では伐採中のエノキ、知夫里島では道路脇のエノキの伐採木で採集され、いずれも伐採間もない伐木である。また、県西部の津和野で採集記録があるが詳細は不明である。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

## キュウシュウチビトラカミキリ

*Perissus kiusiuensis kiusiuensis* Ohbayashi, 1944

### 【選定理由】

隠岐（島後）で採集されていた暖帯系の種で、分布上注目されるが採集例が少なく、詳細は不明である。

### 【概要】

体長7–10mm。小型のトラカミキリで、体は黒褐色、触角と肢は暗赤褐色、上翅に灰白色の2紋があり、翅端近くに灰白色の微毛を密生する。本州、四国、九州、対馬、屋久島などに分布し、成虫は7月に暖帯林帯のカシ類その他広葉樹の伐採木に集まる。八丈島には別亜種が分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の大満寺山で初めて採集され、その後、横尾山では伐採枝に飛来したものが採集された。また大久ではアカメガシワの伐採木から割り出されている。隠岐（島後）以外での記録を見ない。

### 【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響する可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

## モンクロベニカミキリ

*Purpuricenus lituratus* Ganglbauer, 1886

### 【選定理由】

里山環境に局地的に分布する種で、島根県では1976年の初記録以降採集されていない。

### 【概要】

体長17–23mm。上翅は鮮紅色。前胸背に小黒紋、上翅中央部から後方部に大きな黒紋がある。5月上旬から中旬、クヌギの伐採木から伸長した萌芽に好んで集まることが知られているほか、花にも集まる。幼虫期の餌となる寄主植物はナラガシワ、クヌギ、コナラ、カシワが知られている。中国地方では岡山県での採集記録が多い。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

国内では本州、四国、九州、国外ではシベリア、中国、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1976年5月に島根県東部の平野部でモチノキの花に訪花した個体が得られている。

### 【存続を脅かす原因】

低山地開発による落葉広葉樹林の消失や、管理放棄による植生遷移による繁殖に適した環境の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## タキグチモモトホソカミキリ

*Cleomenes takiguchii* Ohbayashi, 1936

### 【選定理由】

隠岐（島後）で採集された暖帯系の種で、分布上注目されるが、他に採集例がなく詳細は不明である。

### 【概要】

体長7–12.5mm。体は黒色で触角および肢は暗褐色、上翅は黒色で細長く基部と先端は光沢を欠き、4個の黄褐色紋がある。肢の腿節の先端は膨れて太い。成虫は7月ごろ出現しイタドリ、ノブドウなどの花に集まるとされ、カゴノキの伐採木から成虫が羽化している。本州（伊豆半島以西）、四国、九州、屋久島に分布する。（山口県・

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

準絶滅危惧種

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の高尾暖地性潤葉樹林の近くで採集されたのが唯一の記録である。高尾暖地性潤葉樹林が生息域かどうかは不明である。カゴノキがある西ノ島での調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

## クビアカモモトホソカミキリ

*Kururu rhopalophoroides rhopalophoroides* Hayashi, 1951

### 【選定理由】

隠岐（島後）で採集され、本種の分布北限にあたるが、個体数は少なく生息状況も不明である。

### 【概要】

体長10-11mm。体は黒色、頭部の基部・前胸・上翅の小楯板周辺は赤褐色。灰白色の直立した長毛でおおわれるが、赤褐色部では黄褐色毛となる。上翅の点刻は大きくやや粗である。成虫は5~6月ごろに出現し、幼虫はモチノキ、ソヨゴなどの材を食するとされる。本州（近畿以西）、九州、対馬などに分布するが産地は限られ

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：-

る（山口県・絶滅危惧Ⅱ類、岡山県・準絶滅危惧）。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）でコナラなど雑木のピーテングと林道脇の花のスピーングで採集された2例、2個体のみで、個体数はきわめて少ないと推定される。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息域や生態が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

## アヤモンチビカミキリ

*Sybra bordinata* Bates, 1873

### 【選定理由】

本州での分布は局所的で近年の記録がない。

### 【概要】

体長7-12mm。体色は茶から黒褐色で上翅には黄褐色の微毛に覆われ、不規則な暗色の条部がある。

南西諸島では枯れ枝上に多くみられるが、それ以外の地域では個体数は少ない。寄主植物としてトベラ、カラスザンショウ、イヌビワ、アコウが知られている。本州、四国、九州、南西諸島に分布。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の沿岸部および隠岐諸島で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

沿岸部に生育する寄主樹林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ダイセンセダカコブヤハズカミキリ

*Parechthistatus gibber daisen* Miyake et Tsuji, 1980

### 【選定理由】

自然度の高い森林に生息する。移動能力が小さく生息域の環境が破壊された場合、地域個体群の絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長12-18mm。背面は全体茶褐色、腹面は黒色。コブヤハズカミキリ類は後翅が退化し飛翔して移動できないため、地域により種・亜種に分化している。成虫は初秋に新成虫が出現する。出現した成虫は、広葉樹の生葉、枯葉を摂食する。成虫越冬して春から秋に活動する。個

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

体数は多くない。ブナ、アカメガシワなど各種広葉樹の倒木に集まり産卵する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部では低山地から中国山地、西部では中国山地、隠岐諸島に分布し、落葉広葉樹および常緑・落葉樹が混交する林分で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域の森林伐採等による生息環境の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ハンノキカミキリ

*Cagosima sanguinolenta* Thomson, 1864

### 【選定理由】

分布は局所的。主として湿地に生育するハンノキ類に依存するが、近年このような環境が消失しつつあり絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長15-22mm。体色は黒く、頭部・前胸背の周辺部、上翅の開合部および下部は赤色。成虫は5~7月に出現し、主としてハンノキの生葉、枝を後食する。幼虫はハンノキが知られ、ヤシャブシから羽化した例もある。北海道、本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の山間部でハンノキ類の生育する地域で採集されている。出雲市の平野部でヤシャブシ類を発生源として継続した発生が見られる。

### 【存続を脅かす原因】

開発など本種の寄生植物である森林の伐採や、ハンノキが多数生育する湿地環境の、植物遷移による林の衰退。

コウチュウ目カミキリムシ科

## アサカミキリ

*Thyestilla gebleri* (Faldermann, 1835)

### 【選定理由】

寄生植物のアサの栽培の禁止により、生息環境が消失した。1950年前後には県東部、隠岐で複数の採集記録があったが、近年の記録はない。

### 【概要】

体長10-15mm。黒色の背面中央部および両側に灰白色の縦縞を持つ。成虫は5-7月に出現し、アサ、アザミ類の葉や茎を摂食し、幼虫は茎に潜入。全国的にアサ(大麻)の栽培禁止後は激減した。近年、他県では乾性草原のアザミやヨモギで発生が確認されている。県内でもア

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

サに近縁な植物等を餌に生息している可能性がある。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、東シベリア、中国、モンゴルに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部地域の平野部と内陸部、隠岐(島後)で記録があったが、近年の記録はない。

### 【存続を脅かす原因】

生息する可能性のある乾性草原の保全が必要。

コウチュウ目ミツギリゾウムシ科

## ヒメマルミツギリゾウムシ

*Higonius cilo* Lewis, 1884

### 【選定理由】

分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長4-6mm。細長い体型で上翅は光沢のない茶色で中央部に2個の黒点を持つ。成虫越冬する個体が観察されている。森林性で成虫は春から秋に採集記録がある。幼虫の食性等その他の生態については不明。本州、四国、九州、南西諸島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から中部で採集されている。三瓶山山麓では晩

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

秋に落葉広葉樹林の立ち枯れたネムノキの幹の孔に潜入しているところが観察されている。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採等による生息森林の消失。

コウチュウ目ミツギリゾウムシ科

## ミツギリゾウムシ

*Baryrhynchus poweri* Roelofs, 1879

### 【選定理由】

低山地から山地にかけて分布するが、近年とくに低山地では見られなくなった。

### 【概要】

体長10-24mm。体型は細長く、体色は光沢の強い黒色。上翅には赤黄色の斑紋がある。成虫は6-8月に出現し、日中に林内を飛翔するものや広葉樹の枯れ木上に集まる。幼虫は各種の広葉樹枯れ木の材を摂食すると推定されるが詳しい生態等は不明である。本州、四国、九州、国外ではインドシナ、台湾、中国に分布。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部まで。低山地から山地にかけての落葉広葉樹林での採集記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息森林環境の消失。

コウチュウ目ゾウムシ科

## バックinghamカギアシゾウムシ

*Bagous buchingami* O'Brien et Morimoto, 1994

### 【選定理由】

寄主植物が希少植物のガガブタに限定されている。

### 【概要】

体長3mm前後。体は細長く、背面は灰色で上翅の先端付近に白色斑紋がある。脛節の先端はかぎ針状。成虫はガガブタの浮葉上に生息し、浮葉の表面をかじり取るように食べる。幼虫は潜葉性。

国内では本州、九州、国外ではベトナムに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部のガガブタが生える池で確認されている。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【存続を脅かす原因】

ガガブタの減少。ガガブタは「改訂しまねレッドデータブック2013植物編」において準絶滅危惧種に指定されている。

写真 口絵24

コウチュウ目ゾウムシ科

## タカハシトゲゾウムシ

*Dinorhopala takahashii* (Kono, 1930)

### 【選定理由】

分布は局所的で個体数も少ない。隣県においても数例の記録があるのみ。

### 【概要】

体長4mm内外。体全体はほぼ黒色で、前胸、上翅基部に赤褐色部がある。また、上翅には大小の円錐形突起を持つ。黒色の後脚腿節部は三角突起状に肥大する。成虫は5～7月に出現しサクラ類の幼木の葉裏に見られる。幼虫はサクラ、スモモの葉に潜り内部を摂食することが知られている。採集例は少ない。本州、四国、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部、中部の山間部において、落葉広葉樹林での記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

本種の寄生樹種であるサクラ類を有する森林の大規模伐採や針葉樹造林による樹種転換。

コウチュウ目ゾウムシ科

## ババスゲヒメゾウムシ

*Limnobaris babai* Chûjô et Morimoto 1959

### 【選定理由】

生息可能な湿地が県内には非常に限られている。

### 【概要】

体長3.5～4.4mm。黒色小型のゾウムシである。成虫は春から初夏に出現し、大型のスゲ属の葉を食べる。日本固有種で本州と九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の湿地で確認されている。これまでのところ1カ所のみで確認されているが、中国山地の小規模な湿地を調査すれば生息を確認できる可能性がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵24

### 【存続を脅かす原因】

湿地の開発、自然遷移。

コウチュウ目ゾウムシ科

## クロホシタマクモゾウムシ

*Egiona picta* (Roelofs, 1875)

### 【選定理由】

全国的にも少ない種で分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長3mm前後。体型は長楕円形で、灰色の背面に顕著なビロード状の黒紋を有するほか、茶色の横帯を有する。大木の根元の苔や落葉層で成虫越冬しているものが観察されている。そのほかの生態、幼虫の食樹等の詳しいことは不明。本州、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部山林において冬季、ケヤキ大木の樹皮下で越冬している個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息地域の森林の消失。

コウチュウ目ゾウムシ科

## モジャモジャツチイロゾウムシ

*Pseudohylobius setosus* Morimoto, 1962

### 【選定理由】

全国的にもまれな種であり、県内の分布も限定される。

### 【概要】

体長6mm前後。体色は全体茶色で、体の上面は疎生する「もじゃもじゃ」の毛に覆われるほか、太い口吻を持つのが特徴。野外での成虫越冬が観察されている。成虫の出現期や幼虫の食樹等、生態については不明。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山麓の広葉樹林において、秋期に立ち木の地際

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

生息地域の開発等による森林の消失。

ハチ目アナバチ科

## フクイアナバチ

*Sphex inusitatus fukuianus* Tsuneki, 1957

### 【選定理由】

生息地が限定的で、生息環境も人為的影響を受けやすい。

### 【概要】

体長30–35mm。体色は全身黒色で、翅も暗褐色。成虫は夏季に出現し、草のまばらな山道や更地、人家の庭などの平坦な裸地に単独で営巣し、ときにまとまったコロニーを形成する。幼虫の餌として、森林性のハネナシコロギス（バツタ目コロギス科）のみを獲物とするため、営巣地の周辺には森林環境が存在することも生息条件と

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵24

なる。国内では本州、四国、九州に分布するが、いずれの地域も生息地は限定的である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の山間地の裸地で営巣地が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息に適した裸地の消失。

ハチ目コマユバチ科

## ウマノオバチ

*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre, 1898

### 【選定理由】

本州から九州にかけて広く分布するが、生息地は限定的で、採集例も少ない。

### 【概要】

体長15–24mm。産卵管がきわめて長く、体長の6.5–9倍に達する。体全体は黄赤褐色で、腹部は暗褐色。翅は赤みがかった黄色で、前翅の3個、後翅に1個の黒紋がある。シロスジカミキリの幼虫に寄生する。本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【県内での生息地域・生息環境】

平地の里山に局所的に生息していると考えられるが、詳細は不明である。隠岐（島後）にも採集記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

里山の環境の荒廃。

ハチ目アリ科

## ダルマアリ

*Discothyrea sauteri* Forel, 1912

### 【選定理由】

全国的にまれな種である。

### 【概要】

体長2mm。体の全体が赤褐色でずんぐりした形態のアリ。頭盾が前方に突出し大あごは背面からほとんど見えない。腹部の先端は体の下面に大きく湾曲する。照葉樹林内の腐朽した切り株や土中に巣を作る。節足動物の卵に特殊化した食性をしめし、クモヤムカデの卵を摂食する。コロニーサイズは小さく、平均50個体程度の働きアリと1～数個体の女王アリでコロニーが構成される。本

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵25

州、四国、九州、国外では台湾に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平野部照葉樹林の林床土中から採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息地域の森林の消失、環境悪化。

ハチ目アリ科

## キバジュズフシアリ

*Anomalomyrma* sp.

### 【選定理由】

全国的にもきわめてまれな種であり、県内でも1例しか確認されていない。

### 【概要】

体長3mm弱。体色は赤褐色で、複眼が無い。大あごは側方からみて背方に強く隆起し、内側には短く太い剛毛が密生する特異な形態を示す。これまでの採集記録のほとんどはブナ林で、林内の土壌中から得られている。大あごの特異な形態から特殊化した捕食習性を示すと推測されるが、本種も含め、本属の詳しい生態は不明である。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

本州、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の中国山地の森林から採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域周辺の開発等による森林の消失。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ハエ目ハナアブ科

## ケンランアリノスアブ

*Microdon katsurai* Maruyama et Hironaga, 2004

### 【選定理由】

トゲアリを寄主とする特異な生活史を持つハナアブで、トゲアリが営巣する洞のある樹木が点在するような雑木林が減少している。

### 【概要】

体長12-15mm前後。アリノスアブ類としても大型で、体が金緑色を帯び、他種との識別は容易である。成虫は6月から7月に出現し、トゲアリのコロニーに飛来する。幼虫はトゲアリの巣内で成育する。

日本固有種で本州に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

写真 口絵25

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部および中部の2カ所で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

トゲアリが営巣可能な雑木林の減少。トゲアリが生息するだけでは本種の生息条件とはならない。

ハエ目クサアブ科

## ネグロクサアブ

*Coenomyia basalis* Matsumura, 1915

### 【選定理由】

局地的に生息する大型のクサアブ。近年の確認例は少ない。

### 【概要】

体長14-22mm。雄は黒色、雌は赤褐色で、それぞれ腹部に白色斑紋がある。成虫は春から初夏に出現することが知られているが、生態には不明な点が多い。

国内では北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島、国外ではサハリン、千島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部および隠岐諸島で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

不明。

ハエ目ニクバエ科

## ゴヘイニクバエ

*Sarcophila japonica* (Rohdendorf, 1962)

### 【選定理由】

海浜植生を伴った砂丘や砂浜に生息する種であり、その生息地が減少している。

### 【概要】

体長5-6mm前後。ニクバエ科としては小型である。成虫は魚の死体などに飛来する。

国内では本州、国外では沿海州、朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の砂浜で確認されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

### 【存続を脅かす原因】

海浜の開発、特に海浜植生の破壊。海岸浸食。

トビケラ目トビケラ科

## カラフトゴマフトビケラ

*Semblis phalaenoides* (Linnaeus, 1758)

### 【選定理由】

国内で特異な分布を示すトビケラ的美丽種で、赤名湿原での記録は注目されるが、それ以後の記録はなく、分布・生息環境などは不明である。

### 【概要】

体長 21-25mm、翅開張 52-65mm。前翅の地色は乳白色で黒褐色の斑紋を点布する。後翅は乳白色で黒色の縁どりがある。ゴマフトビケラによく似ているが、より大型で斑紋が鮮明である。北海道と本州（広島県）に分布し、6-8月に出現する。国外では樺太、シベリアなど

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

に分布する（広島県・絶滅危惧Ⅱ類）。

### 【県内での生息地域・生息環境】

赤名湿原で採集され、同種と同定されたのが唯一の記録で、その後記録がなく詳細は不明である。広島県三段峡でも採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

湿原の乾燥などによる荒廃は、本種に限らず動植物に致命的である。



トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## ギンボシツツトビケラ

*Setodes turbatus* (Navas, 1933)

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、近年の記録は少ない。

### 【概要】

体長4-6mm前後。成虫は前翅が褐色で銀色の細長い筋状の斑紋がある。この模様はヒメセトトビケラのものに似ている。幼虫は、水田の水路のような流れの緩い場所に生息する。全国的な希少種とされてきたが、地域によっては多い場所もあることが報告されている。島根県内ではこれまでの所、多く生息する場所は確認されておらず、灯火採集を行っても容易に確認はできない。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

北海道、本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部で灯火に飛来した記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、圃場整備。

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## ビワアシエダトビケラ

*Georgium japonicum* (Ulmer, 1905)

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、近年の記録は少ない。

### 【概要】

体長8mm前後。幼虫はヨシの生える池沼や河川に生息する。日本固有種で本州に分布する。全国的に減少した種として知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山の古い幼虫の記録があるが、現在は水質が悪化し、絶滅したとみられる。県中部の江の川水系では1999年の記録がある。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼や河川におけるヨシ群落の消失。

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## モリクサツミトビケラ

*Oecetis morii* Tsuda, 1942

### 【選定理由】

平地の止水に生息するトビケラで、生息地はきわめて限られている。

### 【概要】

体長8mm前後。平地性の種とされ、全国的に少ない種として知られている。日本固有種で本州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の溜池1カ所で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、圃場整備、外来種の進入。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## ウジセトトビケラ(ウジヒメセトトビケラ)

*Setodes ujiensis* (Akagi, 1960)

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、京都府と島根県のみで記録された全国的にも希少な種である。

### 【概要】

前翅長6-7mm前後の小型のトビケラ。同定には雄の生殖器の形状を詳しく観察する必要がある。日本固有種で、本州西部に分布する。全国的に生息地は限られている。基準標本産地は京都府である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の江の川水系に生息している。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川の開発改修、大規模な水害や極端な渇水。

トビケラ目シマトビケラ科

## アイミヤマシマトビケラ

*Diplectrona aiensis* Kobayashi, 1987

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、全国的にも希少な種である。

### 【概要】

体長6.5mm、前翅長8.0mm。奥出雲町（旧仁多町）阿井産の標本を基準標本産地として記載された小型のトビケラである。日本固有種で、本州に分布する。全国的に生息地は限られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の斐伊川水系および神戸川水系に生息している。中流域および上流域で記録があり、幼虫の生息場所

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

は不明であるが、成虫の生息地周辺の河川に生息していると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川の開発改修、大規模な水害や極端な渇水。

チョウ目ツトガ科

## ハマゴウノメイガ

*Herpetograma albipennis* Inoue, 2000

### 【選定理由】

寄主植物であるハマゴウを含めた海浜植生の減少に伴う生息地の減少と、生息密度の低下が危惧される。

### 【概要】

開張15mm程度。翅は黄白色。海浜性のノメイガ類であり、幼虫はハマゴウの蕾や花弁を摂食する。成虫もハマゴウ群落からほとんど離れない。2000年に石川県、伊豆諸島、熊本県、佐賀県産の標本をもとに新種記載された種で、中国地方では島根県と山口県から記録がある。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲・石見地方および隠岐諸島に分布し、大規模なハマゴウ群落がある砂質海岸では個体数が多い。

### 【存続を脅かす原因】

開発や海岸浸食による海浜植生の破壊。

チョウ目ツバメガ科

## ギンツバメ

*Acropteris iphiata* (Guenee, 1857)

### 【選定理由】

県内での生息地が限られる。

### 【概要】

前翅長14–17mm。シヤクガ科の蛾にやや似た姿をしている。白地の翅に明瞭な細い筋が走り、前翅頂付近は普通赤褐色に染まる。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では韓国、中国に分布する。成虫の発生は6–7月および9–10月。灯火に飛来することは少なく、昼間葉上などにとまっていることが多い。幼虫の食草としては、ガガイモ、オオカモメヅル、コカモメヅル、トキ

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

ワカモメヅル、ナンゴクカモメヅルが知られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と中部の平地から低山地にかけて生息地が点在する。

### 【存続を脅かす原因】

里山の環境の消失。

チョウ目シヤクガ科

## クロモンチビヒメシヤク

*Idaea crassipuncta* (Inoue, 1971)

### 【選定理由】

日本固有種であり、本州では神奈川県と島根県で各1例の記録があるのみ。その他には南西諸島で少数の採集例があるだけで著しく少ない。

### 【概要】

開張10mm前後。日本産*Idaea*属のなかでもっとも小型の種である。翅の色は全体的に白色で、前翅と後翅の中央に黒点がある。本種が属するヒメシヤクガ亜科は外見が近似した種が多く、分布や生態の情報が乏しい分類群の一つである。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：分布域局限種

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

雲南市木次町山方が唯一の生息確認地である。採集地周辺は湿地や草地、森林といった多様な環境を含む里山である。

### 【存続を脅かす原因】

生息状況の調査が必要であるが、島根県では里山の近くで採集されているため、多様な環境を含む里山環境の消失。

チョウ目シャクガ科

## ムネシロテンカバナミシャク

*Eupithecia maenamiella* Inoue, 1980

### 【選定理由】

三重県と島根県出雲市で採集され、基準標本産地となっている。このほかには北海道、青森県、秋田県、岩手県、愛知県で確認されているが、分布は局地的で著しく少ない。

### 【概要】

開張15-20mm。翅の色は全体的に淡褐色、前翅の先はとがる。後胸背には白紋を有する。国内のシャクガ科カバナミシャク *Eupithecia*属の蛾は60数種にのぼるが、同定が困難な種が多く、本種もそのひとつである。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市一畑が唯一の生息確認地。島根県では原記載以降に採集例が無い。

### 【存続を脅かす原因】

本種の生息状況の調査が必要であるが、古木の残る寺社林に依存している可能性もあるとされるため、寺社林を含む環境の消失。

チョウ目シャクガ科

## トガリバナミシャク

*Horisme stratata* (Wileman, 1911)

### 【選定理由】

県内での生息地が局地的である。

### 【概要】

前翅長16-18mm程度。翅の地色は褐色、前翅が細長く、縦にとがる。成虫が秋にだけ出現する蛾で、県内では10月から11月にかけて見られるが、少ない。幼虫の食草はセンニンソウ、ボタンヅル。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外ではサハリン、ロシア南東部に分布する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺に生息地があり、山地でのみ採集されていた。しかし、近年隠岐西ノ島でも生息が確認された。数は少なくないという。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な里山の環境の消失が考えられる。

チョウ目シャクガ科

## フタキスジエダシャク

*Gigantalcis flavolinearia* (Leech, 1891)

### 【選定理由】

生息地が限定される。

### 【概要】

前翅長23-28mm。その名のとおり前後翅に黄色い帯状のすじがあるエダシャクである。成虫は秋だけに出現し、越冬態は卵。幼虫は背面に大きな一對の突起をもち、ズミ、アズキナシ、マメザクラなどバラ科の植物を食べることが知られている。北海道、本州、四国、九州に分布。一属一種、日本特産種である。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部三瓶山周辺の山地に生息するが、他地域での生息も予想される。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な森林環境の消滅。

チョウ目カレハガ科

## ワタナベカレハ

*Gastropacha clathrata* Bryk, 1949

### 【選定理由】

本県での採集記録は1例のみ。生息地がきわめて限定される。

### 【概要】

前翅長27-40mm、オスよりメスが大きい。ホシカレハ *Gastropacha populifolia angustipennis* Walker, 1855とよく似ているが、翅の色が赤褐色であること、前後翅の外縁屈曲が弱いことなどで区別される。国内では北海道、本州、四国、九州、屋久島、国外では、朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。産地は局地的で少ない種。特にメ

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

スはまれだという。幼虫の食草などは未知。

### 【県内での生息地域・生息環境】

現在までのところ県中部、中国山地に続く地域での採集記録だけである。

### 【存続を脅かす原因】

生息に関する調査が必要である。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
危惧Ⅰ類

絶滅  
危惧Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報  
不足

チョウ目ヤママユガ科

## オナガミズアオ

*Actias gnoma gnoma* (Butler, 1877)

### 【選定理由】

一般的に湿地性のが類とされ、湿地の減少にともない全国的に減少している。県内での生息状況が不明である。

### 【概要】

開張50mm前後。幼虫はカバノキ科ハンノキ属の植物を寄主とする。本種は同属のオオミズアオとよく似ており、県内における過去の記録はオオミズアオと混同されていた可能性がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

2000年代には大田市と松江市の平地で記録がある。そ

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

れ以前には県東部と中部で複数の記録があるが、オオミズアオと混同されていた可能性もあり標本の再調査が必要である。松江市ではオオバヤシヤブシから幼虫が見つかっている。

### 【存続を脅かす原因】

ハンノキ属を含む林の消失。

チョウ目スズメガ科

## ギンボシスズメ

*Parum colligata* (Walker, 1856)

### 【選定理由】

県内では1990年代以降の採集記録がなく、近隣の岡山県や兵庫県でも減少が危惧されている。

### 【概要】

開張70-90mm。雌雄ともに前翅中室に銀白紋があり、日本産のスズメガ類で近似した種がないため他種との区別は容易である。幼虫の寄主植物としてクワ科のカジノキ、コウゾが知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部・西部の山間地で記録がある。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵25

### 【存続を脅かす原因】

原因は不明である。寄主植物は現在でも県内各地で見られることから、寄主植物の減少が原因とは考えにくい。生息調査とともに今後の調査が必要である。

チョウ目スズメガ科

## スキバホウジャク

*Hemaris radians* (Walker, 1856)

### 【選定理由】

全国的に減少が危惧されている。本県では複数の記録があるが、近年の記録がなく生息状況が不明である。

### 【概要】

開張40-45mm程度。翅は透明で黒く縁取られ、体色は全体的に橙色で腹部に黒帯がある。昼行性で日中に訪花する。幼虫の寄主植物としてスイカズラ科のオミナエシ、オトコエシ、スイカズラ、アカネ科のアカネが知られている。県内では幼虫の確認例がない。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部・中部・西部の山間地で記録がある。隠岐諸島からも記録があるが、別種の誤同定の可能性があり再確認が望まれる。

### 【存続を脅かす原因】

草原などの草地環境の悪化、減少。

チョウ目シャチホコガ科

## ナカスジシャチホコ

*Nerice bipartite* Butler, 1885

### 【選定理由】

県内での生息地が限られ、採集例にも散発的な傾向がある。

### 【概要】

前翅長16-19mm。前翅にある白い条が鮮やかなシャチホコである。成虫の出現は5-6月と7-8月、年2化と考えられる。幼虫はナナカマド、マメザクラを食べる。分布は北海道、本州中部以北および、四国山地といわれてきた。しかし、山陰地方でも採集、生息確認記録が続いている。日本特産種。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部、斐伊川沿いの平地から山地まで、三瓶山およびその周辺、西中国山地の一部に生息している。植栽されたナナカマドなどからの発生も考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、ひとつには里山的環境の消滅。

チョウ目シャチホコガ科

## エゾクシヒゲシャチホコ

*Ptilophora jezoensis* (Matsumura, 1920)

### 【選定理由】

県内での分布がきわめて局地的であり、個体数も少ない。

### 【概要】

前翅長16mm内外。晩秋から初冬にかけて出現するシャチホコ。体は長い毛に覆われているが、翅は鱗粉が少なく、薄く透きとおっている。また直線状の白い外横線が特徴的である。成虫が現れるのは10～11月。しかし成虫で越冬はせず、卵越冬。春に孵化する。幼虫はカエデ類を食樹にしている。国内では北海道、本州、四国、九州、

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

国外ではロシア南東部、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

生息地は県中部の三瓶山と西中国山地の一部。山間部に限られる。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む森林環境の減少と消滅。

チョウ目ドクガ科

## ウスジロドクガ

*Calliteara virginea* (Oberthür, 1879)

### 【選定理由】

全国的に減少が危惧され、個体数も少ない。県内では分布が限られ近年の記録が無い。

### 【概要】

開張はオスで45mm程度、メスで64mm程度。翅は白色で、前翅に2本の黒線が入る。草原性のドクガ類とされ、寄主植物としてハギ類が知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大田市三瓶山が唯一の生息確認地。草原やその周辺を生息地としていると考えられるが、調査が必要である。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

### 【存続を脅かす原因】

草原環境の悪化。

チョウ目ドクガ科

## ナチキシタドクガ

*Ilema nachiensis* (Marumo, 1917)

### 【選定理由】

生息地が限られ、個体数も少ない。

### 【概要】

メスの前翅長24mm内外。オスのそれは19mm程度と思われる。オスとメスの大きさや翅の模様が著しく異なり、別種のように見える。オスは前後翅ともに緑がかった黒褐色、メスは後翅が黄色。成虫の発生は7～8月。メスは灯火に飛来するが、オスはほとんど飛んでこない。幼虫はアラカシ、コナラ、オオバヤシャブシ、ミズキ、アカメガシワ、チシャノキを食べることが知られる。国内

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

では本州（西部）、四国、九州、対馬、屋久島、奄美大島、沖縄本島に、国外では台湾、中国に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平地、県中西部三瓶山周辺、江の川、高津川沿いの地域および隠岐（島前）での採集記録がある。いずれも平地から低山地の里山の環境。

### 【存続を脅かす原因】

低山地の雑木林の減少さらに消滅。

チョウ目ドクガ科

## トラサンドクガ

*Euproctis torasan* (Holland, 1889)

### 【選定理由】

全国的に減少が危惧され、国内での分布が限られ、県内での生息地も限られている。

### 【概要】

開張21～25mm。翅は全体的に橙黄色。オスは前翅の中室に斑紋があり、後翅が黒色になる個体もある。メスの前翅は無紋である。本州、四国、九州に分布する草原性のドクガ類であり、中国地方では本県の他に岡山県と山口県から記録がある。成虫は日中に飛翔し、夜間に灯火にも飛来する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

### 【県内での生息地域・生息環境】

大田市三瓶山の草原で確認されているのみ。

### 【存続を脅かす原因】

生息地である草原環境の悪化。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヒトリガ科

## シロホソバ

*Eliema degenerella* (Walker, 1863)

### 【選定理由】

全国的に減少しているとされる。島根県では十分な調査がされていないが、個体数は多くない。

### 【概要】

開張22mm程度。翅は白色で無紋。日本産のコケガ類では本種に類似した種がないため同定は容易である。幼虫は地衣類を摂食することが知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐（島後）。県東部ではおもに平地や丘陵地の草地や湿地周辺で確認されている。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要であるが、開発や乾燥化による地衣類の減少。

チョウ目コブガ科

## ニセオオコブガ

*Rhynchopalpus protogigas* (Inoue, 1970)

### 【選定理由】

県内での分布がきわめて局地的である。

### 【概要】

1970年、旧・平田市と徳島市で採集された標本を使って新種として記載された種。前翅長15–20mm程度。コブガでは大きい。翅は地色が灰褐色、前翅には前縁部に接する褐色の斑紋がある。成虫は6～7月に出現、生活史等不詳。ただソメイヨシノの枝についていた繭から羽化した例があるという。本州、四国、対馬に分布するが、採集例は非常に少ない。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の旧・平田市のほか中部の中国山地沿いの地域で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要であるが、寺社林などの消失。

チョウ目ヤガ科

## ヒメネグロケンモン

*Colocasia umbrosa* (Wileman, 1911)

### 【選定理由】

県内における生息地がきわめて限定され、生息確認記録も非常に少ない。

### 【概要】

前翅長18mm内外で、ウスベリケンモン亜科のなかでは小型の種類。翅は全体に濃い褐色、前翅には太くて白い帯が現れる。成虫は5月と7～8月に出現、年2化と思われる。幼生期は不明。現在までのところ日本特産種とされている。本州、四国、九州の山地に分布する。北限は東北地方北部という。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の中国山地に近い部分でのみ見つかっている。

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、落葉樹林帯の減少、消滅が考えられる。

チョウ目ヤガ科

## スギタニゴマケンモン

*Harrisimemna marmorata* Hampson, 1908

### 【選定理由】

県内での生息地が限られる。

### 【概要】

前翅長13mm内外。翅の色は茶色が基調、前翅の斑紋が特異で、基部前縁付近と翅頂および後角付近に赤褐色の円形紋を有する。後翅は全体的に褐色。成虫は6月と8～9月に現れ、年2化と考えられる。幼虫の食樹はオオカメノキ。本州、四国、九州に分布する。日本特産種である。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の大万木山およびそれに連なる山塊。ブナ帯に近い場所で見つかっている。

### 【存続を脅かす原因】

良好な森林環境の減少、消滅。

チョウ目ヤガ科

## ゴマシオケンモン

*Triana isocuspis* (Sugi, 1968)

### 【選定理由】

県内での生息地が限定される。

### 【概要】

前翅長18-20mm。前翅の細かく白い斑紋がごま塩のように見えることから来た和名のようだ。成虫の発生は5~6月と7~8月、年2化と考えられる。幼虫の食樹はブナ。日本特産種で、東北地方から中部地方の山地、四国の高標高地に分布するとされていたが、県内でも見つか、九州でも見つかったようだ。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部および西部の中国山地沿いの地域に狭い生息域がある。おおむねブナ-ミズナラ帯が生息場所といわれるが、県内でもほぼそれに重なる。

### 【存続を脅かす原因】

良好な森林環境の減少、消失。

チョウ目ヤガ科

## ウスズミケンモン

*Hylonycta carbonaria* (Graeser, 1889)

### 【選定理由】

全国的に減少が危惧されている。県内では十分な調査がされていないが、生息地は限定され個体数も少ないと考えられる。

### 【概要】

開張45-50mm。前翅は灰褐色で後翅は白色。本州・四国・九州に分布するが、分布は局地的で個体数も多くない。国外では朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。寄主植物としてクヌギが知られている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の松江市と出雲市で記録がある。近年の記録としては、松江市で丘陵地に近い市街地の街灯に飛来した個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

里山林の環境の変化。

チョウ目ヤガ科

## クビジロツメヨトウ

*Oncocnemis campicola* Lederer, 1853

### 【選定理由】

県内の採集記録は隠岐 (島前) での1カ所2例のみ。全国的にも分布は局所的。

### 【概要】

開張31-34mm。前翅は暗い紫灰色、後翅は茶褐色で基部は淡色。和名の由来は、首部の白色毛と前脛節末端にある爪による。全国の既知産地はいずれも石灰岩地や断崖等露岩地であり、県内では隠岐諸島の海岸崖部のほか、本土部の立久恵峡、断魚溪などで生息の可能性が高い。食樹はバラ科シモツケ属とされ、食草を同じくするホシ

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵25

ミスジの記録地を狙った調査が有効と思われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西ノ島町の摩天崖で10月に2例記録されている。隠岐のホシミスジはミツパイワガサを食草としており、本種も同様と推測される。

### 【存続を脅かす原因】

断崖等露岩地の荒廃、生息地への農薬散布等。

チョウ目ヤガ科

## アヤモクメキリガ

*Xylena fumosa* (Butler, 1878)

### 【選定理由】

県内での生息地が限定され、個体数も少ない。

### 【概要】

前翅長27mm内外。大型種である。全体的に濃い茶色を基調とした翅の色、斑紋は目立たないながら木目模様を呈す。成虫は11月ごろに現れ、越冬後3~4月まで活動するというが、県内では1月と2月に採集記録があるにすぎない。幼虫は多食性で、色々な植物につき、サクラ類、ダイズ、アズキ、ジャガイモ、タバコ、ユリ類、ネギ、ノゲシなどの記録がある。北海道、本州、四国、九

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

州に分布するものの、局地的で、個体数も多くない。国外では朝鮮半島とロシア南東部に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

今のところ三瓶山と隠岐西ノ島で見つかっているのみ。三瓶での採集個体は草原近くの灯火に来たもの。

### 【存続を脅かす原因】

草原や里山的環境の消失。

チョウ目ヤガ科

## ムラサキハガタヨトウ

*Blepharita amica* (Treitschke, 1825)

### 【選定理由】

生息地がきわめて限定され、個体数も非常に少ない。

### 【概要】

前翅長20mm内外。紫褐色の翅をもつ。前翅の斑紋はオオハガタヨトウ *Mniotype melanodonta* (Hampson, 1906) に似る。後翅は淡褐色。成虫は10~11月に出現する。食草は国内ではヨモギの記録がある。ヨーロッパではトリカブト、ウワミズザクラほかキク科、セリ科などの植物を食べるといふ。国内では北海道、本州に、国外ではサハリン、朝鮮半島、中国、ロシア南東部からヨー

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ロッパに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

関西以西には生息していないといわれていた種。1990年代後半に三瓶山で見つかった。現在まで生息地は三瓶のみ。

### 【存続を脅かす原因】

森林および高原草地の消失。

チョウ目ヤガ科

## キスジウスキヨトウ

*Archanara sparganii* (Esper, 1790)

### 【選定理由】

湿地の減少にともない全国的に減少している。本県では調査が不十分であり、生息状況が不明である。

### 【概要】

開張29-44mm。翅の色は全体的に薄い茶色で個体によっては赤褐色を帯び、全体的に黒色鱗片が混ざる。湿地性のがで、幼虫はヨシやミクリの茎内に食入する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の中海沿岸で記録がある。灯火に飛来した個体が採集されているため発生地は不明であるが、近隣に

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

は小規模な湿地が点在する。

### 【存続を脅かす原因】

湿地環境の消失。

チョウ目ヤガ科

## トビイロアカガネヨトウ

*Euplexia albilineola* (Wileman & South, 1918)

### 【選定理由】

県内での生息地が局限され、今後もっとも失われやすいと思われる湿地環境に生息すると考えられるため。

### 【概要】

前翅長15mm内外。前翅は銅色の地色に白く縁どられた腎状紋と環状紋、さらに白い内外横線とで印象的な模様を形作っている。成虫は9~11月にかけて湿地で見つかることが多い。年1化と思われる。幼虫期、食草等については未知。本州(福島県以南)、四国、九州に分布する。成虫の発生時期が遅いことと、生息環境が湿地に限定さ

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

れると思われるため、記録の少ない種であるという。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺で1例記録があるのみ。採集地は川のほとりで、水性植物も繁茂している。

### 【存続を脅かす原因】

湿地環境の減少、消滅。

写真 口絵25

チョウ目ヤガ科

## ムラサキシタバ

*Catocala fraxini* (Linnaeus, 1758)

### 【選定理由】

県内での生息地が限られる。

### 【概要】

前翅長45-49mm。Catocala属のなかで唯一後翅に青紫色の帯を有する。大型種で、国内では最大級のシタバガである。成虫の出現は8~10月。年1化。幼虫はヤマナラシおよび栽培種のポプラを食樹とする。国内では北海道、本州、四国、対馬に分布。四国、中国地方ではまれ。国外では東アジアからヨーロッパまで広く分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の鯛ノ巣山、中部の琴引山の2カ所でのみ採集例があった。いずれも標高の高い場所だが、最近、3例目として島根半島でも採集された。

### 【存続を脅かす原因】

食樹であるヤマナラシなどが育つ林の減少。



チョウ目ヤガ科

## ナマリキシタバ

*Catocala columbina yoshikoi* Ishizuka, 2002

### 【選定理由】

生息地が限定され、個体数も多くない。

### 【概要】

開張43–53mm。後翅が黄色のシタバガ類であり、前翅は鉛色を帯びている。本州、四国、九州に分布するが生息地は局地的である。石灰岩地帯や渓谷、海岸などの露岩地に自生するシモツケ属を寄主植物とする。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の神戸川流域および西部の江の川流域の渓谷、隠岐（島後）の海岸で採集されている。いずれの場所も

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

渓谷や海岸の露岩地で、シモツケ属の植物が自生している。県内ではイブキシモツケから幼虫が見つかった。

### 【存続を脅かす原因】

シモツケ属が自生する露岩地の消失や荒廃。成虫は樹液や花蜜を摂食すると考えられるため、周辺の森林の保全も重要である。

チョウ目ヤガ科

## ヨシノキシタバ

*Catocala connexa* Butler, 1881

### 【選定理由】

県内での生息地がきわめて限定される。

### 【概要】

前翅長26–28mm。前翅はキシタバ類によく見られる樹皮模様であるが、オスとメスは色彩が異なる。オスは暗灰褐色、メスは白色を帯びる。また前翅がほとんど黒化する個体もある。成虫は夏から10月にかけて見られる。幼虫の食樹はブナ。北海道、本州、四国、九州に分布し、おおむねブナの分布域と重なる。ただ、いずれの生息地でも多産することはなく、少数が見つかるだけだという。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

国外では中国に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山での採集例があるのみ。ブナ帯で発生する蛾である。

### 【存続を脅かす原因】

ブナを含む森林の減少、消滅。

チョウ目ヤガ科

## ヒメアシブトクチバ

*Dysgonia dulcis* (Butler, 1878)

### 【選定理由】

県内での生息地が局限される。

### 【概要】

前翅長15mm内外。アシブトクチバ類では最も小型の種類である。翅の地色は茶色、前翅の根元から中央にかけて広い紫灰色部がある。成虫は6–7月と8–9月に出現する。年2化と考えられるが、幼虫期も含めて生活史の詳細は不明。国外では中国、朝鮮半島に、国内では宮城県付近より南の本州、四国、九州、対馬に分布する。局地的で少ない。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山および西部の海岸部に生息する。県西部からは記録が途絶えて久しい。

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、林の伐採などの環境改変。

チョウ目シジミチョウ科

## オオミドリシジミ

*Favonius orientalis* (Murray, 1875)

### 【選定理由】

情報が少ないが、まれで衰亡しつつあると思われる。

### 【概要】

翅長19–23mm。ナラガシワやコナラがある低山地で6月頃に発生する。オスの翅表が青緑色をするファボニウスの一群で、午前9時頃から縄張りを張って飛び交う。早朝に山頂で占有行動をとる。メスは不活発で葉陰で休んでいることが多い。ミドリシジミの仲間は似たものが多いが、本種は前翅後翅の裏面に明瞭な短状があるので識別できる。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

食樹がある周辺の山林や畑が、放置により遷移が進行して環境が悪化している。記録がある安来市や旧・木次町でもほとんど見られなくなった。県内での生息実態について調査が待たれる。

### 【存続を脅かす原因】

開発や雑木林林縁部の荒廃が原因と思われる。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
絶滅危惧Ⅰ類

絶滅  
絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅  
準絶滅危惧

情報  
不足

昆  
虫  
類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

准絶滅危惧

情報不足

# 概説

## RED DATA BOOK

# クモ類

## 1. 島根県のクモ類相

本県でこれまでに生息が確認されているクモ類（クモ目）は、43科301種である。これらには古蛛亜目（ハラフシグモ亜目）は含まれていない。従って原蛛亜目（トタデグモ亜目）に属する1科1種を除く42科300種は、すべて新蛛亜目（クモ亜目）に属するクモ類である。種数の多い科は、ヒメグモ科（50種、全体の16.6%）、コガネグモ科（47種、15.6%）、ハエトリグモ科（30種、10.0%）、サラグモ科（29種、9.6%）、コモリグモ科（16種、5.3%）、フクログモ（8種、2.7%）などであり、6科で全体の59.8%を占めている。それら以外の36科は全体の41.2%に過ぎない。

本県のクモ類相の調査は、まだまだ不十分である。従来調査は島根県東部に偏っており、東西に長い島根県の中中部、西部の調査はあまりなされていないのが実情である。

隣接する鳥取県での報告は400種を超しており、近隣の岡山県では約560種の生息が確認されている。

島根県は東西に長く、日本海沿岸から標高1,200mの中国山地まで、自然環境豊かな森林、草原、農耕地が存在し、加えて隠岐諸島がある。調査が進めば新しい知見が多く得られるはずである。

ここで隠岐諸島のクモ類について簡単にふれておく。隠岐諸島でこれまでに生息が確認されているクモ類は、

28科182種である。この内東洋区に生息の主体を持つ南方系種が12種、北方系のクモが10種それぞれ混在している。さらに世界共通種が6種、朝鮮半島、中国と共通に生息する種が104種、日本固有種が34種となっている。

隠岐諸島は暖流と寒流の相克点にあたり、島根県の本土で中国山地でしか見られないタカユヒメグモが海岸で生息するなど少し変わった様子が見られる。

隠岐諸島のクモ類も早急な調査が望まれる。

## 2. 選定種の概要

本県の絶滅危惧種として、イソコモリグモの1種を、準絶滅危惧種としてキノボリトタテグモ、ワスレナグモ、キジロオヒキグモの3種を選定した。

絶滅危惧Ⅱ類のイソコモリグモは、近年県内の海岸に生息する事が判明し、その結果この種の南限は島根県となった。

キノボリトタテグモ、ワスレナグモは環境省レッドリストの準絶滅危惧にも選定されている。キジロオヒキグモは、東洋区に生息の主体をもつ南方系のクモで南西諸島には沢山生息するが県内では1980年に益田地区でメスの成体1頭の生息が確認されただけである。島根県では準絶滅危惧種として選定した。

（景山純孝）

## クモ類掲載種一覧

計14種

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

○ イソコモリグモ

計1種

## 準絶滅危惧 (NT)

・ ワスレナグモ

↓ キノボリトタテグモ

・ キジロオヒキグモ

計3種

## 情報不足 (DD)

・ ムロズミソレグモ

・ コマツエンマグモ

・ テナガマシラグモ

・ タカユヒメグモ

・ タイリクユウレイグモ

・ ムラクモヒシガタグモ

○ ツシマトリノフンダマシ

・ ヤマトカナエグモ

・ アメイロハエトリ

・ カトウツケオグモ

計10種

## 【記号説明】

・ : カテゴリー区分変更なしの種 (11種)

↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)

↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (1種)

○ : 新規掲載種 (2種)

◇ : 情報不足からの変更種 (0種)

◆ : 情報不足への変更種 (0種)

## イソコモリグモ

*Lycosa ishikariana* (S. Saito 1934)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：分布限界種 (南限)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵27

## 【選定理由】

本種は北日本から日本海側は鳥取県までの分布とされていたが、近年県東部から西部までの海岸で、個体数が多くないが記録された。現在のところ島根県が南限となる。

## 【概要】

体長メス23mm、オス17mm。背甲は黒灰色で白毛を生じ、中央に一对の黒点がある。海岸の波打ち際より離れた海浜植物の根元近くに穴を掘って棲む。国内では北海道(石狩海岸)・本州(青森県から日本海側は島根県、太平洋側は茨城県まで)に分布するが一地域での個体数は少なく、各地域での減少が心配されている。

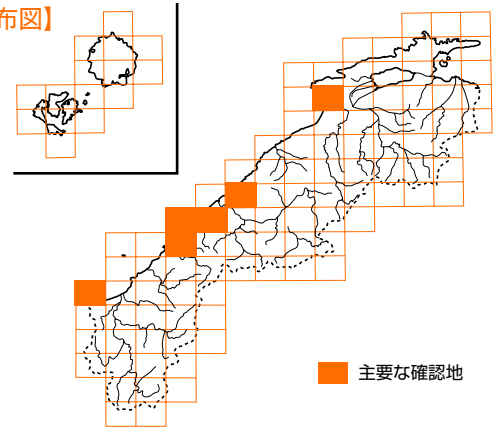
## 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市から益田市までの自然度の高い海浜環境で生息が確認されているが、いずれの海岸も波打ち際から離れた海浜植生の見られる環境に巣穴を掘っていた。

## 【存続を脅かす原因】

護岸工事、車両の進入等による海岸の破壊。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○																	○	○		

クモ目ジグモ科

## ワスレナグモ

*Calommata signatum* Karsch, 1879

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵27

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内の産地がわずかであり、個体数も少ない。

## 【概要】

体長メス18-20mm、オス6-7mm、地中生活。土中に長さ15cm内外の途中で少し折れ曲がった管状の巣をはり、地表面に2mmの管状部を出し放射状に触糸を出す。管状部の最深部に甲虫などの食べかすを置きその上に占座する。日本、朝鮮半島に分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では隠岐（島後）、出雲市大社町及び津和野町に

記録がある。乾いた赤土などの草のない平坦になったところに穴を掘る。入口に扉はない。ジグモは自然の凹みを利用し掘り始めるが、本種は乾燥した明るい平坦なところに掘り始める。

## 【存続を脅かす原因】

乾燥した崖の開発改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○	○	○				○					○								

クモ目トタテグモ科

## キノボリトタテグモ

*Ummidia fragaria* (Dönitz, 1887)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵27

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

隠岐（島後）を含む県内全域に個体数は少ないながら、広く分布することがわかり、環境省レッドリスト2012に準じて準絶滅危惧種とする。

## 【概要】

体長メス10-11mm、オス6-8mm、体全体が黒紫色。産卵は7月下旬から8月上旬、1個体の産卵数は10~70個。幼虫は巣内で越冬し春に巣内から出る。

## 【県内での生息地域・生息環境】

近年隠岐（島後）を含む県内各地で生息が確認された

が、それぞれの地での生息個体数は、きわめて少ない。

## 【存続を脅かす原因】

生息場所が極端な乾燥状態になったり、農薬の空中散布が行われると絶滅に瀕する。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○					○								

クモ目コガネグモ科

## キジロオヒキグモ

*Arachnura logio* Yaginuma, 1956

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：-

## 【選定理由】

県内の産地がまれであり、個体数もごく少ない。

## 【概要】

体長メス25-28mm、大型のクモである。腹部の前方は二分し背甲後方を覆い、後端は長くのびて尾状で、先端に先の丸い突起がある。

地上1.5-2mの樹間にキレ網をはる。

本州、四国、九州および南西諸島に分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、益田市七尾山中腹でメス1個体の記録があ

るのみ。1月の月平均気温2℃以上の地に生息する暖地系のクモである。1980年4月に益田市七尾山中腹のヤブツバキの樹林にキレ網に占座するメスの成体1個体を発見する。一晚室内で造網の様子を観察し同場所にはなすも再度発見されていない。九州南部、南西諸島の亜熱帯性気候の地では山地の樹林でごく普通にみられる。

## 【存続を脅かす原因】

山林の開発・改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

クモ目スオウグモ科

## ムロズミノレグモ

*Zoropsis nishimurai* Yaginuma, 1963

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種

環境省：－

**【選定理由】**

全国的に生息がまれである。

**【概要】**

体長メス・オス共に11mm、腹部は比較的長くコオモリグモに似る。1963年八木沼により日本初記録となる。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では隠岐諸島での記録があるのみ。本州に分布するも関西、中国地方のごく限られた地点での報告のみ。生息環境は不明。

**【存続を脅かす原因】**

不明。

クモ目エンマグモ科

## コマツエンマグモ

*Segestria nipponica* Kishida, 1913

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種

環境省：－

**【選定理由】**

県内では隠岐諸島のみ記録がある。生息がきわめてまれである。

**【概要】**

メス・オス共に体長5－6mm。マツ、スギ古木の樹皮の割れ目に管状住居を作り、入口から数本の糸を引いている。

国内では、本州、九州に分布するが報告例がまれである。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では隠岐諸島での記録があるのみ。直射日光のあたらないマツ、スギの古木のある所に生息する。

**【存続を脅かす原因】**

古木の伐採。

クモ目マシラグモ科

## テナガマシラグモ

*Leptoneta longimana* (Yaginuma, 1970)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種

環境省：－

**【選定理由】**

生息がきわめてまれである。

**【概要】**

洞穴産の小型のクモ。脚はきわめて細く長い。洞穴内の暗所にすむが、まれにリター中にみられる。

この仲間は日本の洞穴ごとに特化が認められる。不規則なシート状の網を張る。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では八束町の洞穴で記録されている。

**【存続を脅かす原因】**

不明。

クモ目ヒメグモ科

## タカユヒメグモ

*Theridion takayense* Saito, 1939

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種

環境省：－

**【選定理由】**

生息がまれである。

**【概要】**

体長3－4mmで小型のクモ。県内では高地にごくまれに生息する。腹背後方に4個の黒点が認められる。

国内では北海道、本州、四国に分布する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では中国山地で見られるが、隠岐諸島では平地にもみられる。樹間の地上からそれほど高くないところに複雑網を張る。

**【存続を脅かす原因】**

不明。

クモ目ユウレイグモ科

## タイリクユウレイグモ

*Pholcus opilionoides* (Schenkel, 1781)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種

環境省：－

**【選定理由】**

県内の産地がまれであり、個体数が少ない。

**【概要】**

体長5mm。イエユウレイグモに似るも小型で胸部に丸みがある。国内では、北海道、本州の高地に分布する。北方系のクモである。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では隠岐諸島のみで記録されている。隠岐諸島では平地や山地の草間や低木のうす暗いところに不規則網を張る。

**【存続を脅かす原因】**

不明。

クモ目ヒメグモ科

## ムラクモヒシガタグモ

*Episinus nibilus* Yaginuma, 1960

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種

環境省：－

**【選定理由】**

山地にきわめてまれに生息する。

**【概要】**

体長メス4-5mm、オス3mm。腹部は後方で鈍く左右に張りひし形に見える。国内では北海道、本州に分布する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

仁多郡鬼の舌震での記録のみである。スリーピングにより採集された。樹間に複雑網を張る。

**【存続を脅かす原因】**

不明。

クモ目コガネグモ科

## ツシマトリノフンダマシ

*Paraplectana tsushimensis* Yamaguchi 1960

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

国内で生息がきわめてまれである。

**【概要】**

体長メス7mm。オスは未発見。腹部は強い赤色で多数の黒色円紋がある。

頭胸部と歩脚は黄褐色。南方系のクモで本州では関東以西に分布するが、個体数はきわめて少ない。

**【県内での生息地域・生息環境】**

近年、隠岐（島後）でメス生体1頭が確認された。夜行性。昼は葉の裏に鳥の糞がついたように静止している。

**【存続を脅かす原因】**

不明。

クモ目コガネグモ科

## ヤマトカナエグモ

*Chorizopes nipponicus* Yaginuma, 1963

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種

環境省：－

**【選定理由】**

生息地がきわめてまれである。

**【概要】**

体長メス4mm。普通にみられるヨツデゴミグモに類似する。網は不明。スリーピングによりまれに採集される。

国内では本州、四国、九州に分布する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

仁多郡内の山地、県西部で記録されている。樹間に生息すると思われる。

**【存続を脅かす原因】**

不明。



クモ目ハエトリグモ科

## アメイロハエトリ

*Synagelides agoriformis* Strand, 1906

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種

環境省：－

### 【選定理由】

生息がきわめてまれである。

### 【概要】

体長メス・オス共に4－5mm、腹背には山形の白斑2が目立った特徴である。

国内では本州、四国、九州および南西諸島に分布する南方系のクモである。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島と県西部で1個体ずつ報告がある。草間の葉上を徘徊する。

### 【存続を脅かす原因】

不明。

クモ目カニグモ科

## カトウツケオグモ

*Phrynarachne katoi* Chikuni, 1955

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

### 【選定理由】

県内では隠岐 (島後) の五箇村で2003年8月に野津・吉岡によってメス1個体が記録されたのが初めてである。

続いて2004年2月に美保関町森山、近年では2012年に隠岐 (島前) 海士町で同様な記録がある。しかし、国内では40数個体が記録されたに過ぎない。

### 【概要】

体長メス7－9mm、脚は一部を除いて白っぽい、背甲に小さい突起、腹背には大きい突起が多数あり、その

頂点に1本ずつ毛を生ずる。

国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布するがきわめてまれである。

### 【県内での生息地域・生息環境】

樹上生活をしており、葉に静止する様子は鳥のフンにそっくりである。

### 【存続を脅かす原因】

不明。

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

一般的に甲殻類と呼ばれている節足動物門甲殻綱（または甲殻上綱）に属する生物種は非常に多岐にわたっており、分類群や種も多く、鳥根県内における甲殻類の全体像については、報告されたものもなくほとんど分かっていない。また、よく知られていると思われるエビやカニの仲間に限ってみても、まとまった報告はわずかしがなく、未解明の部分が多い。このような現状から、このたびのしまねレッドデータブック掲載種の選定に当たっては、甲殻類のうち比較的知見が得られている淡水域および汽水域（その周辺陸上域）に生息する十脚目と等脚目に限って選定を行った。

## 十脚目甲殻類について

十脚目甲殻類は、エビやカニなどの仲間で、国内では約2,200種が報告されている。その形態や生態は多様であり、生息環境も海域（潮間帯から深海まで）、汽水域、淡水域などさまざまである。

鳥根県における十脚目甲殻類については、これまでにまとまって報告されたものはあまりみられないが、近年、県東部を中心に潮間帯や沿岸域、汽水域およびその周辺陸上域、淡水域に生息にする種類についていくつかの報告がされるようになってきている。しかしながら、それらも県内の十脚目甲殻類の一部の種類に限られたものであり、未だ詳細についてはよく分かっていないのが現状である。県内の淡水産エビ類については、淡水エビ類の研究者でもある元鳥根大学教授の故上田常一博士（1903～1981年）の報告や標本があり、1940～1960年代の分布については詳細な記録が残っている。しかし、その後の分布や生息状況については、若干の報告があるのみで現状を把握することは難しい。

前回のしまねレッドデータブック掲載種は、淡水産エビ類のミナミテナガエビ1種（絶滅危惧Ⅱ類）のみであった。これは県内の十脚目甲殻類について情報不足や調査不足から過去における生息状況と、現状とを比較することが難しく、絶滅の危惧等について判断できるだけの情報がそろっていなかったことに起因している。今回の改訂にあたっては、淡水産エビ類のほかに汽水域およびその周辺の陸上域に生息するカニ類についても重点的に調査を行い、現状を少しでも把握することに努めた。

今回、新しくリストに選定されたのはハマガニ、タイワンヒライソモドキ、ベンケイガニ、フタバカクガニ、マメコブシガニのカニ類5種、ヒラテテナガエビ（ヤマトテナガエビ）、トゲナシヌマエビ、ヤマトヌマエビ、

ヒメヌマエビ、ミナミヌマエビのエビ類5種の計10種である。このうち、河口部の土手などに巣穴を掘ってくらしているハマガニは、鳥根県東部、隠岐諸島の限られた地域にのみ生息し、生息数もきわめて少ないことから絶滅のおそれが高いと考えられたため、絶滅危惧Ⅰ類とした。また、ベンケイガニ、マメコブシガニ、ヒラテテナガエビ、ヤマトヌマエビ、ヒメヌマエビは、生息地での生息数が少なく、今後、生息条件の悪化が進むと絶滅のおそれがあるため準絶滅危惧とした。また、ミナミヌマエビは県内全域で比較的多数の生息が確認されているエビであるが、近年、外国産の近似種のエビが県内においても確認されており、交雑による遺伝子汚染の影響を受けている可能性が考えられるため準絶滅危惧に選定した。タイワンヒライソモドキ、フタバカクガニ、トゲナシヌマエビは、生息数は少ないが、近年、県内での生息が確認されるようになった南方系種であり、今後も新たな生息地が確認できる可能性が考えられるため、情報不足とした。なお、前回の改訂で掲載されたミナミテナガエビは、隠岐島後の一部の小河川でしか確認されず絶滅危惧Ⅱ類とされていたが、今回の改訂調査の結果より、県本土の河川の比較的広範囲に分布していることが明らかになったため、準絶滅危惧へと変更した。

汽水域から淡水域に生息する身近な甲殻類については、人間の生活に密着していることも多く、その生息環境は人間活動の影響を強く受けやすいことから都道府県版のレッドデータブックに掲載されるようになってきている。鳥根県産十脚目甲殻類に関する調査は県西部や隠岐諸島の情報が少ないなど、未だ不十分なところが多いため、今後はより詳細な調査と正確な情報収集を行い、現状を把握するとともに、保護を要する種については専門家の指導にそった適切な対策をとることが必要である。

（桑原友春）

## 等脚目について

鳥根県産等脚目のファウナに関するまとまった報告は、陸産種15種の記録を整理した山内・布村（2003）のみである。同論文によると、良好な自然海岸の指標種とされるニホンハマワラジムシとニッポンヒイロワラジムシの記録が隠岐島後にみられる。この2種は全国的な希少種で、千葉県、鳥取県、山口県といった他県のレッドデータブックにも掲載されている。陸域以外の種について、まとまった報告はみられないが、鳥根県の地下水中

から2種、宍道湖・中海から14種の等脚目が記録されている。しかし、海産種のファウナがほぼ未解明な状態にあるなど、一般的に島根県産等脚目のファウナ解明度は低く、今後、大幅な種数の増加が期待される。

島根県内を基準標本産地とする種には、シンジコスナウミナナフシ、ニシカワホラワラジウムシ、ニシカワハヤ

シワラジウムシ、そしてシロコシビロダンゴムシの4種がある。これらのうち、シンジコスナウミナナフシは宍道湖、シロコシビロダンゴムシは隠岐島後のみから記録されている。

(山内健生)

## 甲殻類掲載種一覧

計17種

### 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

○ハマガニ

計1種

### 準絶滅危惧 (NT)

↓ ミナミテナガエビ

○ ヒラテナガエビ(ヤマトテナガエビ) ○ ヒメヌマエビ

○ ヤマトヌマエビ

○ ミナミヌマエビ

○ マメコブシガニ

○ ベンケイガニ

計7種

### 情報不足 (DD)

○ トゲナシヌマエビ

○ タイワンヒライソモドキ

○ フタバカクガニ

・ シンジコスナウミナナフシ

・ ニシカワホラワラジウムシ

・ ニホンハマワラジウムシ

・ ニッポンヒロワラジウムシ

・ ニシカワハヤシワラジウムシ

・ シロコシビロダンゴムシ

計9種

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (6種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (1種)
- : 新規掲載種 (10種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)

# ハマガニ

*Chasmagnathus convexus* (De Haan, 1833)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵26

島根県固有評価: -

環境省: -

**【選定理由】**

日本海側では島根県と鳥取県に分布。県西部・東部や隠岐諸島で生息が確認されていたが、近年はほとんど確認例がない。現在、生息が確認されているのは、県東部と隠岐島後の日本海に面した一部の河口域だけである。生息地域が局所的であり、生息数も少ないことから県内における絶滅が危惧される。

**【概要】**

甲幅50mmほどに達する大型種。甲は横に丸みを帯びた四角形で、前後に湾曲する。甲面は短毛で覆われ、中央には深い溝がある。甲は紫色を帯びた褐色。甲の前側縁には2つの切れ込みがあり、眼窩外歯を含めて3歯ある。はさみ脚は大きく、鮮やかな紫色で全体に毛は少なく、平滑である。歩脚は細く上縁に短毛が密生。夜行性で、河口の汽水域上部付近のヨシ原や土手などに深い穴を掘って生息している。ゾエア幼生は海に放たれ、メガロパ期に海岸河口域に戻ってくる。宮城県から沖縄諸島、

朝鮮半島、中国大陸沿岸、台湾に分布。

**【県内での生息地域・生息環境】**

過去の報告では、県西部と隠岐島前で生息が確認されていたが、近年、県西部および隠岐島前での生息は確認できていない。また、現在、生息が確認できている県東部や隠岐島後においても生息数はごくわずかで、目撃情報も極端に少ない。日本海に面した河口の汽水域上部付近にある土手に深い穴を掘って生息している。県内の生息地では、タヘイガニやタカバガニ、ダケガニなどの地方名で呼ばれている。

**【存続を脅かす原因】**

河川改修やコンクリート護岸化による生息地の消失、護岸による海への移動経路の消失など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○		○	○																			○

エビ目(十脚目)テナガエビ科

# ミナミテナガエビ

*Macrobrachium formosense* Bate, 1868

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【選定理由】

南方系のエビで、近年、県内の中小規模河川での生息確認の情報が集まってきている。生息環境は人為的影響を受けやすく、今後も分布域や生息状況の動向に注目する必要がある。日本海側では、隠岐諸島で確認されており分布の北限と考えられる。

### 【概要】

体長90-100mm。メスはオスよりも小型。はさみ脚は著しく長く、特に成熟したオスでは体長の2倍ほどに達する。テナガエビによく似るが、はさみ脚に生える剛毛は少なく(テナガエビは剛毛が密生)、歩脚の指節は太く短い(テナガエビは細く長い)。生時には頭胸甲側面に太い3本線の横縞模様があり(テナガエビは不規則

な模様)、見分けることができる。繁殖期は3~9月頃。淡水性両側回遊型でゾエア幼生は海で育ち、稚エビは河川を遡上する。房総半島以南、南西諸島、台湾、小笠原に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

過去に県中部・西部、隠岐諸島で記録があり、近年では、県東部のほぼ全域でも生息が確認されている。日本海に面する中小規模河川で、河川床にある大きめの転石下や川岸の植物の中などに生息する。

### 【存続を脅かす原因】

農業や化学物質などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○					○					○

エビ目(十脚目)テナガエビ科

# ヒラテテナガエビ(ヤマトテナガエビ)

*Macrobrachium japonicum* (De Haan, 1849)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵26

### 【選定理由】

県内では日本海に面する中小規模河川で生息が確認されているが、生息地域は限られ、生息数も少ない。日本海側では、隠岐諸島で確認されており分布の北限と考えられる。

### 【概要】

体長70-90mm。はさみ脚はミナミテナガエビに比べるとかなり太く、上下に扁平で断面は円筒形。オスのはさみ脚は体長の1.5倍ほどに達する。額角は木の葉状で、上縁には9~12個の歯があり、眼窩より後ろには4~5個の歯がある。下縁には4~5個の歯がある。生時の体色は不透明な茶褐色で、目立った模様はない。淡水性両

側回遊型でゾエア幼生は海で育ち、稚エビは河川を遡上する。遡上能力は比較的高く、おもに河川の上中流域に分布する。本州中南部以南、四国、九州、南西諸島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部で記録があるほか、近年では、県中部や東部の中小規模河川や隠岐島前でも生息が確認されている。日本海に面する河川上中流域で、水がきれい流れがあり、河川床にある大きめの転石下や流木の下などに生息する。

### 【存続を脅かす原因】

農業や化学物質などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○					○					○

エビ目(十脚目)ヌマエビ科

# ヒメヌマエビ

*Caridina serratirostris* De Man, 1892

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵26

### 【選定理由】

県内では日本海に面する中小規模河川で生息が確認されているが、生息範囲は狭く、他のヌマエビ類に比べ生息数が少ない。

### 【概要】

体長10-20mm。オスはメスよりも小型。額角の上縁には約20~23個の歯がほぼ等間隔に並び、眼窩より後ろの頭胸甲上に7~8個の歯がある。下縁には普通5~6個の歯がある。生時のメスの体色は、全体が赤褐色で背面の正中線に幅広い1本の白っぽい帯があるものと、紫がかかった褐色と灰白色の横縞が交互にあるものの2型がある。成体は河口より上流側の比較的水のきれいで、流れ

の緩やかな場所に生息する。淡水性両側回遊型でゾエア幼生は海で育ち、稚エビは河川を遡上する。日本海側では能登半島が分布の北限記録である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部で記録があるほか、近年では、県中部や東部、隠岐島前でも生息が確認されている。水のきれいな河川下流域で、岸辺の植物の周りや落葉の堆積するような環境に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

農業や化学物質などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○					○					○

エビ目 (十脚目) ヌマエビ科

# ヤマトヌマエビ

*Caridina multidentata* Stimpson, 1860

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵26

### 【選定理由】

県内では日本海に面する河川のごく一部で生息が確認されているのみで、生息範囲は限られ、生息数もわずかである。日本海側では、隠岐諸島が分布の北限。

### 【概要】

体長30～40mm。額角は短く、上縁には13～27個の歯が並ぶが、眼窩より後ろの頭胸甲上にはない。生時には体側に褐色や赤褐色の縞模様または点々模様があり、尾部には青色の斑紋がみられる。繁殖期は2～9月頃。淡水性両側回遊型でゾエア幼生は海で育ち、稚エビは河川を遡上する。おもに河川上流域に分布。遡上能力は高く、河川の最上流部まで遡上する。東アジア沿岸が分布の中

心で、千葉県 (太平洋側) および島根県 (日本海側) 以南の国内、韓国、台湾などに分布。ペット用のエビとしても人気が高く、熱帯魚店などで販売されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部や中部で記録が残っているが、近年、生息を確認しているのは県東部の小規模河川の上流域と隠岐島前のみである。渓流域の堰下の転石や垂下植物の周辺に生息している。

### 【存続を脅かす原因】

農薬などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。業者による乱獲。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○					○					○					○

エビ目 (十脚目) ヌマエビ科

# ミナミヌマエビ

*Neocaridina denticulata* (De Haan, 1844)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵26

### 【選定理由】

近年、韓国や中国から釣り餌などとして輸入される近似種との交雑などが懸念される。

### 【概要】

体長10～28mm。額角は長く、上縁には8～20個の歯がある。下縁には0～9個の歯がある。前側角部には棘がある。生時の体色は、透明感のある暗褐色や暗緑色で、背側の正中線にオリーブ色の縞模様がある個体もいる。湖、池、沼、水田の用水路、流れの緩やかな河川の中流域に生息している。一生を淡水域で生活する。大卵型で、ふ化した幼生はそのまま淡水域にとどまり、親と

同じ底生生活にはいる。家庭用水槽でも容易に繁殖が可能なエビであり、観賞用として広く販売されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本土のはほぼ全域で生息が確認されている。近年では、隠岐島後でも生息が確認されている。用水路や流れの緩やかな河川の中下流域で、水草が生い茂る場所に特に多く生息する。

### 【存続を脅かす原因】

釣り餌や観賞用の近似種の逸出や交雑、農薬や化学物質などによる水質汚染、親水工事や河川改修による生息条件の悪化など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○	○				○	○				○	○				

エビ目 (十脚目) コブシガニ科

# マメコブシガニ

*Philyra pisum* De Haan, 1841

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵26

### 【選定理由】

内湾の潮間帯域にごく普通に生息しているが、近年、生息条件が悪化し、生息数が減少傾向にある。

### 【概要】

甲幅20mmほどの小型種。甲は半球形をしており、表面には顆粒が散在する。額、前側縁、後縁に歯はない。はさみ脚は比較的長大で、長節は顆粒に富む。歩脚は短い。おもに干潟や内湾の比較的きれいな砂底や砂泥底の潮間帯に生息している。生時の色彩には、個体差が大きい。繁殖期には、オスがメスを抱いている (交尾前ガード)

姿を見かける。本種は横ではなく縦方向に歩くことが知られている。岩手県以南、九州、韓国、中国北部に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

おもに宍道湖・大橋川・中海などの汽水域で生息が確認されている。内湾に広がる砂底や砂泥底の潮間帯付近に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の人為的改変や良好な底質環境の減少などによる生息条件の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
○																					○	○

甲殻類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

## ベンケイガニ

*Sesarmops intermedius* (De Haan, 1835)

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵26

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

個体数・個体群の減少、生息条件の悪化。

## 【概要】

甲幅35mmほど。甲は四角形で、前側縁には深い切れ込みがあり、眼窩外歯を含めて2歯ある。甲やはさみ脚、歩脚は赤橙色をしているが、濃淡には個体差がみられる。河口域のヨシ原や土手、石垣、草原などに生息。昼間は巣穴の中や転石、流木、ゴミなどの下に隠れ、夜に活発に活動する。水辺の暗く湿った環境を好む。冬場は土手になどに掘った巣穴の中で冬眠する。抱卵したメスは、

川や海に移動してゾエア幼生を放つ。房総半島・男鹿半島以南、インド・西太平洋沿岸に分布。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県本土および隠岐諸島の日本海に面した河口域や淡水が流入する海岸で確認されている。土手に掘った巣穴や石垣、転石のすき間、ゴミの下などに生息する。

## 【存続を脅かす原因】

河川改修やコンクリート護岸化による生息地の消失、護岸による海への移動経路の消失など。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○																○	○		○



エビ目(十脚目)ヌマエビ科

## トゲナシヌマエビ

*Caridina typus* H. Milne Edwards, 1837

### 【選定理由】

南方系のエビで、隠岐島前で確認されているが、近年、県東部においても生息が確認されるようになった。県内における生息地および生息数は少ない。

### 【概要】

体長25-35mm。額角は短く、上縁には普通歯がない。下縁の先端近くに0-3個の歯がある。河口域から上流域まで広く分布する。淡水性両側回遊型で、ゾエア幼生は海で育つ。繁殖期は7-8月頃。日本海側では能登半島が北限記録である。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵26

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐諸島で生息が確認されている。今後、日本海に面する中小規模河川において調査をすれば、新たな生息地が確認できるものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

農薬や化学物質などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。

エビ目(十脚目)モクスガニ科

## タイワンヒライソモドキ

*Ptychognathus ishii* Sakai, 1939

### 【選定理由】

全国的にも希少で、日本海側では島根県でのみ生息が確認されている。

### 【概要】

甲幅10mm程度。甲は平滑で、前側縁の2歯は鈍い。オスのはさみ脚の基部には長い軟毛が密生する。淡水の影響の強い汽水域上部付近の転石帯に生息する。繁殖期は夏から秋期。相模湾、伊豆半島、紀伊半島、四国、九州、対馬、種子島、奄美大島、沖縄島、石垣島などの沿岸の限られた地域で分布が確認されている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵27

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の小川や隠岐島前で記録されている。日本海に面した中小規模河川の淡水の影響の強い汽水域上部付近の転石下に生息。今後、生息に適した環境を調査すれば、新たな生息地が確認できるものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修や河口堰建設などによる生息地の破壊。

エビ目(十脚目)ベンケイガニ科

## フタバカクガニ

*Perisesarma bidens* (De Haan, 1835)

### 【選定理由】

南方系のカニで、県内における分布は局所的で、生息数も少なく情報も少ない。

### 【概要】

甲幅25mm程度。甲は四角形で、フタバの名前の通り前側縁には眼窩外歯を含めて2歯ある。甲は褐色で、甲面には短い毛が散在する。はさみ脚は黄色みを帯び、ゴツゴツした感じがある。可動指上縁には13-16個の顆粒が並ぶ。日本海側では山口県と島根県でのみ記録がある。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵27

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐島後で記録されている。日本海に面する河川の河口域周辺や港内などで、淡水が流入する用水路やその周辺の石垣などで生息が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息条件の悪化など。

ワラジムシ目(等脚目)スナウミナナフシ科

## シンジコスナウミナナフシ

*Cyathura shinjikoensis* Nunomura, 2001

### 【選定理由】

宍道湖固有種と考えられるため。

### 【概要】

体長約10-20mm。体は円筒形で、体長は体幅の11.5倍。第1胸脚のみが鉤状である。目を有し、第1小顎先端の歯の数が少なく、顎脚第2節の長い剛毛を欠くことなどで他種と区別できる。これまで本水域からキクチスナウミナナフシ *Cyathura kikuchii* Nunomura, 1977として記録された個体は本種のことである。湖底の砂質部に生息する。性比に偏りがあり、オスが採集されることは少

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：-

ない。宍道湖(大橋川を含む)から知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖湖底の砂質部から記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

宍道湖の環境変化。

ワラジムシ目（等脚目）ナガワラジムシ科

## ニシカワホラワラジムシ

*Hyloniscus nishikawai* Nunomura, 1990

### 【選定理由】

大田市石見銀山と大森町間の廃鉱のみで記録されているため。

### 【概要】

体長5mmまで。色素を完全に欠き、体は白色。眼を欠く。丸くすることができない。顎脚やオスの腹肢の形態などから他種と区別できる。基準標本産地のみから記録されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1984年9月5日に大田市石見銀山と大森町間に位置

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

する廃鉱で採集された個体が知られているのみである。

### 【存続を脅かす原因】

不明。

ワラジムシ目（等脚目）ウミベワラジムシ科

## ニホンハマワラジムシ

*Armadilloniscus japonicus* Nunomura, 1984

### 【選定理由】

良好な自然海岸の指標種として重要と考えられるため。

### 【概要】

体長5.5mmまで。体色は赤紫色。幅広く平たい体形で、丸くすることができない。第2触角の形態、頭部前縁中央の突起、尾節板後部の形状などから他種と区別できる。自然海岸の砂利のたまったところや、転石海岸の適当な湿り気のある飛沫帯に生息する。日本全国に分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵27

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では松江市、出雲市、および隠岐（島後）で記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

自然海岸の環境変化。

ワラジムシ目（等脚目）ヒメワラジムシ科

## ニッポンヒイロワラジムシ

*Littorophiloscia nipponensis* Nunomura, 1986

### 【選定理由】

自然海岸のみ生息し、良好な自然海岸の指標種として重要であるため。

### 【概要】

体長5mmまで。体色は赤褐色。丸くすることができない。体は楕円形で、長さは幅の約2.6倍。近縁種とは尾節板の形態や尾肢の相対的な長さにより区別される。岩礁または砂利の自然海岸で、適当な湿り気のある飛沫帯にのみ生息する。日本全国、および韓国に分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵27

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では松江市、出雲市、および隠岐（島後）で記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

自然海岸の環境変化。

ワラジムシ目（等脚目）トウヨウワラジムシ科

## ニシカワハヤシワラジムシ

*Agnara nishikawai* (Nunomura, 1987)

### 【選定理由】

松江市枕木山が基準標本産地で、分布が山陰地方に限られるため。

### 【概要】

体長7mmまで。生時の体色は白または薄い褐色。丸くすることができない。胸部腹節とオスの第7胸肢腕節の形態などによって近縁種と区別できる。森林内の土壌リター中に生息する。山陰地方（鳥取県、島根県、山口県）に分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：中国地方固有種、基準標本産地

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

松江市枕木山のみで記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

不明。

ワラジムシ目（等脚目）コシビロダンゴムシ科

## シロコシビロダンゴムシ

*Venezillo albus* (Nunomura, 1990)

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

### 【選定理由】

隠岐（島後）固有種と考えられるため。

### 【概要】

体長約4－6mm。色素を欠き、体は白色。丸くなることが出来る。体色とオスの第1腹肢および第2腹肢の形態で他種と区別できる。隠岐（島後）に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1984年8月21日に、隠岐島後の鷺ヶ峰で採集された個体が知られているのみである。

### 【存続を脅かす原因】

隠岐（島後）の環境変化。

甲  
殻  
類

絶  
滅  
野  
生  
絶  
滅

絶  
滅  
危  
惧  
Ⅰ  
類

絶  
滅  
危  
惧  
Ⅱ  
類

準  
絶  
滅  
危  
惧

情  
報  
不  
足

甲殼類

絕滅  
野生絕滅

絕滅  
危懼 I 類

絕滅  
危懼 II 類

準絕滅  
危懼

情報  
不足

# 概説

## RED DATA BOOK

# 陸・淡水産貝類

本県における陸・淡水産貝類は現在約150種が記録されている。このうち今回のレッドデータブックには33種が掲載された。

陸・淡水産貝類は海産貝の様な面白い形はなく、形が単調で、色彩も地味な見栄えのしない貝のため、海産貝を手がける人は多いが、陸・淡水産貝類を手がける人は残念ながら少ない。

鳥根県は東西に長く、隠岐諸島などの離島もある。南側には中国山地脊梁をもつ山地があり平野の少ない県である。反面自然が豊かに残っているということが言える。これだけの範囲があるため今回の改訂では調査ができていない地域も多い。さらに、前回のレッドデータブック改訂委員であり、本県の陸・淡水産貝類の調査研究に尽力された岡村一郎先生が2013年に他界され、知見のある貴重な人材を失ってしまった。本県の陸・淡水産貝類については、調査の空白地帯も多く、課題が残されている。

このような背景から今回の改訂は、本土側の限られた新知見、及び隠岐諸島での現地調査で得られた情報を反映させているが、十分な情報に基づく改訂はできなかった。

本県の陸産貝類調査を最初に行ったのは日本貝類学会の元会長の黒田徳米博士であった。明治39年（1906）に隠岐と山陰の各地を調査採集している。隠岐には1カ月余り滞在し調査採集され、この結果、隠岐固有種として、オキシメクチマイマイ、オキビロウドマイマイ、オキゴマガイ、オキノクニビキガイ、オキムシオイガイ、オキマイマイ、オキニシキマイマイが記載された。報告文は「介類雑誌」I(6)～II(4)に掲載された。現在、隠岐諸島に生息する陸産貝類は約50種を確認している。

隠岐諸島を除く陸産貝類の県内分布については岡村先生の文章を引用する。県内全域に何処でも見られる種は、サンインマイマイである。しかし県西部に行く程個体数は少なくなる。サンインマイマイの基準標本産地は鳥取

県日南町印賀である。山間部のサンインマイマイは大型であるが里部のものは矮小型である。次によく見られるのは、イズモマイマイである。全県的に見られるが、個体数はサンインマイマイに比べると少ない。基準標本産地は松江市竹矢であり、中国山地の高地にも生息している。チクヤケマイマイも基準標本産地は松江市竹矢である。このマイマイも県内のほぼ全域に分布しているが、個体数はイズモマイマイよりもはるかに少ない。県下でもっとも大型のキセルガイはオオナミギセルである。本種は出雲市の鰐淵寺を基準標本産地としてMartensが1877年に記載したものである。しかし現在はナミギセルの同種異名扱いとなっている。サンインコベソマイマイとコベソマイマイの境界は県中部のようである。県中部以東はサンインコベソマイマイで、以西はコベソマイマイの分布である。セトウチマイマイも県中・西部に多く、県東部には少ない。

淡水貝類では、カラスガイは県東部に生息地が数カ所あるものの幼貝が確認できていない箇所もあり、健全な生息状況か否か不明である。今回の改訂では、マツカサガイとニセマツカサガイを追加した。マツカサガイは県東部で3河川、県西部で2河川に生息しているが、他の小河川でも生息が期待できる種である。ニセマツカサガイについては、現在県東部の1河川のみに生息している。

前回の改訂しまねレッドデータブック2004では、斐伊川水系に生息しているマルドブガイ、ナガタニシを掲載しているが、いずれも琵琶湖固有種であるため今回対象外とした。

最後に、環境省第4次レッドリスト（2012）では、新たに汽水・海産貝類が追加されており、このうちヨシダカワザンショウ、ウミニナ、ミヤコドリなどの多くの種は鳥根県内に生息する。今後はこれら汽水や内湾の貝類を含めた詳細な調査が望まれる。

（戸田顕史）

# 陸・淡水産貝類掲載種一覧

計33種

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

- ・ ニシノシマガセル
- ・ オキヒロウドマイマイ
- ・ アラハダシロマイマイ
- ・ カワシンジュガイ

計4種

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- ・ オキムシオイガイ
- ・ オキゴマガイ
- ・ ヒメナミギセル
- ・ オキノクニキビガイ
- ・ オキシメクチマイマイ
- ・ オキニシキマイマイ

計7種

## 準絶滅危惧 (NT)

- ・ ヤマクルマガイ
- ・ アズキガイ
- ・ イトウムシオイガイ
- ・ オカムラムシオイガイ
- ・ ヤママメタニシ
- ・ オオゴマガイ
- ・ ミズゴマツボ
- ・ クリイロキセルガイモドキ
- ・ ハンジロギセル
- ・ カワモトギセル
- ・ モリヤギセル
- ・ オオタキコギセル(ヒメコギセル)(注)
- ・ シイボルトコギセル
- ・ ヘソアキコベソマイマイ
- ・ ヤマタカマイマイ
- ・ ダイセンニシキマイマイ
- ・ トンガリササノハガイ
- ・ カラスガイ
- マツカサガイ
- ニセマツカサガイ

計20種

## 情報不足 (DD)

- ・ サイゴクヒロウドマイマイ
- ・ イワミマイマイ

計2種

## 今回の改訂により掲載対象外となった種

- ユウグレナミギセル
- ナガタニシ
- マルドブガイ

計3種

(注) 今回の改訂で種名が変更になった種

(前回改訂) ヒメコギセル → (今回改訂) オオタキコギセル (ヒメコギセル)

### 【記号説明】

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (31種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (2種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)

マイマイ目(柄眼目)キセルガイ科

# ニシノシマガセル

*Stereophaedusa nishinoshimana* (Pilsbry, 1909)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵28

島根県固有評価:島根県固有種、基準標本産地

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

### 【選定理由】

名前が示すとおり、隠岐(西ノ島)の固有種である。本種は西ノ島においてきわめて限られた場所に生息し、個体数も少なく絶滅が危惧される。

### 【概要】

比較的小型のキセルガイで、殻高18-20mm、殻径4mm、12~13層。殻の形は紡錘形で殻口は卵形になっており、殻の表面は暗褐色で粗く鋭い線条がある。唇縁は褐色で、幅広く反転し厚い。上板は少し斜位で唇縁に達している。

生息環境は常緑広葉樹林内の朽ち木の下や落ち葉が積もり湿っている場所である。確認範囲から数m離れるだけで、生息していない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

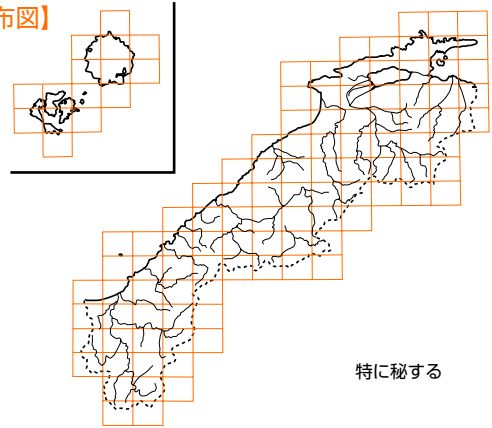
隠岐(西ノ島)固有種で、それ以外には生息が確認されていない。上部にかさとなる大木がないなどの原因により直射日光が差し込み、乾燥の激しい場所には生息していない。過去の記録のある産地においても、放牧等で

乾燥化し、生息を確認できない場所が多く、生息地はきわめて少ない。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、放牧地の拡大、台風等による大木の倒木等生息地の乾燥化。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

マイマイ目(柄眼目)ナンバンマイマイ科

# オキビロウドマイマイ

*Nipponochloritis okiensis* (Pilsbry et Hirase, 1908)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵28

島根県固有評価:隠島根県固有種、基準標本産地

環境省:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

### 【選定理由】

隠岐(島後)にのみ生息する陸貝であるが、生息数がきわめて少なく、生息地も限られる。さらに、生息に適した環境が年々減少している。

### 【概要】

殻高18-19mm。殻は著しく扁平で、濃い暗褐色である。螺塔部は扁平で中央へわずかに落ち込んでいる。殻表は、やや粗草で覆われている。殻高は斜位で半月に見える。軸心はわずかに広がり、内唇の薄い滑層に連なっている。臍孔は広く深く開いている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は隠岐諸島内にすむ陸貝の中でも個体数が少なく特にまれな種である。

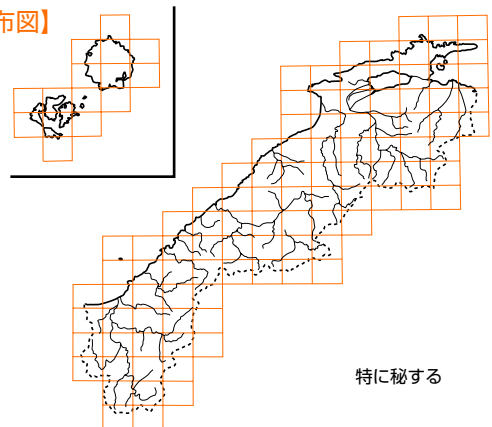
生息環境は、人の手が加わっていない自然林が多く残る場所であり、転石がある場所に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木

等生息地の乾燥化。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

陸淡水産貝類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

マイマイ目(柄眼目) オナジマイマイ科

# アラハダシロマイマイ

*Trishoplita pergranosa* Pilsbry et Hirase, 1908

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵28

島根県固有評価:島根県固有種、基準標本産地

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

### 【選定理由】

隠岐の西ノ島と島後に生息しており、生息個体数も少ない。

### 【概要】

殻は小型で、殻径14mmで白色。幅広い褐色帯が殻底に現れる。周縁の上には細い褐色帯がある。

常緑広葉樹林の林縁を好んで生息しており、建物の壁面や、遊歩道の手すり等に匍匐する個体を見かけることが多い。

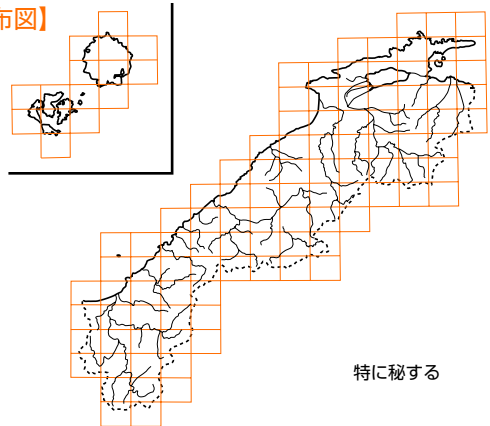
### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐(西ノ島、島後)のごく限られた場所に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による倒木等生息地の乾燥化。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

イシガイ目カワシンジュガイ科

# カワシンジュガイ

*Margaritifera laevis* (Haas, 1910)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵28

島根県固有評価:分布限界種(南限)

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

### 【選定理由】

本種は、かつて島根県の中央部を流れる周布川水系の上流には、普通に生息していたものである。これらは1937年にカワシンジュガイの南限地として、国の天然記念物に指定され、旧・金城町波佐では保護されていた。しかし再三にわたる水害とまた河川の改修のため生息が見られなくなり1971年天然記念物の指定は解除された。だが、これらの水系のいずれかには生息しているものと考えられる。

### 【概要】

本種は淡水に生息する二枚貝で、殻長は最大140mmに達する。殻幅は42mm前後の横長の貝で、殻はやや厚質で、殻長は前方に寄り、腹線はわずかにくぼみ、殻表は黒い殻皮に覆われている。内面は真珠光沢が強く美しい。山間地域の清流の砂礫底に後端を立て生息しているので、生息地ではタチガイ(島根県)、タチツガイ(広島県)という方言で呼ばれている。カワシンジュガイの名の由

来は、昔ヨーロッパではこの貝から真珠を採っていたのでこの名がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

上記のように、旧・金城町波佐の周布川水系に生息するものは、国内での生息南限地の一つということで天然記念物の指定を受けたが、その後の大水害のために流出した土砂でカワシンジュガイはすべて埋没し、その後も再三にわたって水害のため、波佐地区のカワシンジュガイは消滅した。周布川水系、あるいは三隅川水系で生息している可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修、土砂の流入、水温上昇、宿種であるサケ科魚類の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		△									◎										



二ナ目（中腹足目）ムシオイガイ科

# オキムシオイガイ

*Chamalycaeus satsumanus okiensis* Kuroda (MS)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地  
環境省：－

写真 口絵28

### 【選定理由】

隠岐（西ノ島、中ノ島、島後）のみに生息している陸貝であるが、森林の伐採等により生息環境が悪化し、個体数が減少している。

### 【概要】

殻径約4mm、殻高約2mm、5層のきわめて微小な陸貝である。殻は円く偏平で円錐形であり、螺頂は低平である。

直射日光のあまり差し込まない林下の落ち葉や石の下などに生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

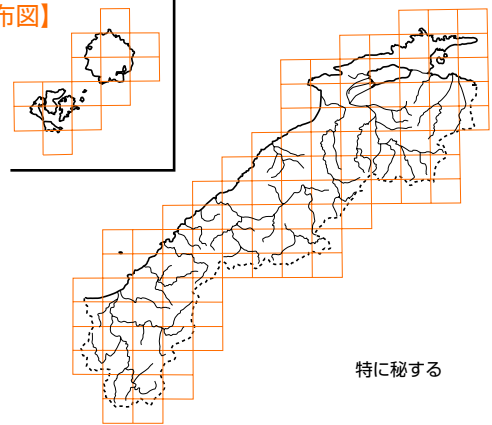
隠岐（西ノ島、中ノ島、島後）に生息が確認されている。海岸に面した灌木の中や、山地でも広葉樹林下に生息している。樹間の落ち葉や石の下などで見かけることが多い。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木

等生息地の乾燥化。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

二ナ目（中腹足目）ゴマガイ科

# オキゴマガイ

*Diplomatina (Sinca) collarifera okiensis* Pilsbry et Hirase, 1908

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地  
環境省：－

写真 口絵28

### 【選定理由】

隠岐諸島のみに生息している陸貝であるが、自然林の減少等や森林の乾燥化で生息域が狭められている。

### 【概要】

殻径2mm、殻高4mm、7層でゴマガイの仲間としては大きい方である。殻の色は赤みがかかった黄褐色で、成体の外観はイブキゴマガイに似ている。国内では隠岐のみに生息している。

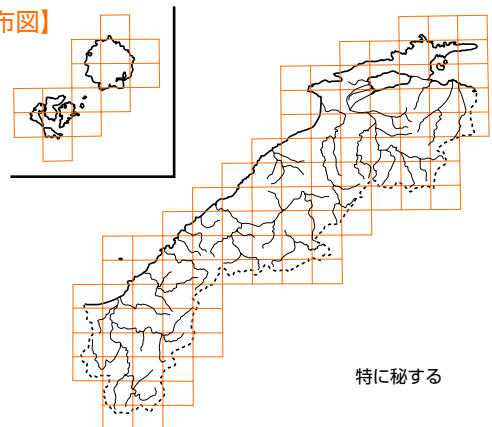
### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（西ノ島、中ノ島、島後）に生息しているが、島外での生息地は確認されていない。広葉樹林等の林床の石や落ち葉が堆積する湿潤な環境に生息している。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木等生息地の乾燥化。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎				◎													

マイマイ目（柄眼目）キセルガイ科

# ヒメナミギセル

*Stereophaedusa ultima* (Pilsbry,1909)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵28

### 【選定理由】

隠岐（島後）の中村から記録された種で、他の島からは確認されていない。おもな生息地では、植林の伐採や台風による倒木等で、個体数の減少が増大している。

### 【概要】

殻高27-29mm、殻径5.3-5.5mm、紡錘形状で褐色から紫褐色を呈するが、縫合の下は白く、光沢が強い。

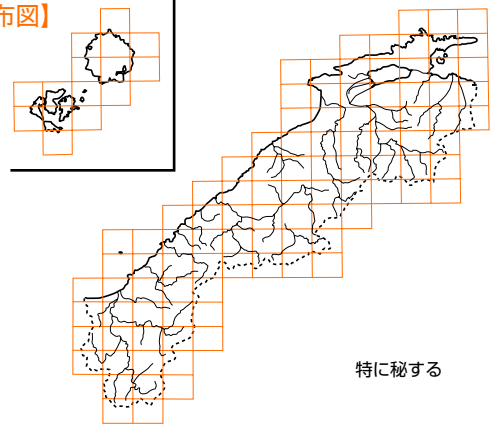
### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島の内、島後だけに生息するキセルガイである。森林下の下草が繁茂する礫の多い斜面や朽ちた木などの下に生息する。また、海岸の乾燥した環境にも生息する。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木等生息地の乾燥化。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎	◎													○	○		

マイマイ目（柄眼目）ベッコウマイマイ科

# オキノクニキビガイ

*Trachchlamys okiensis*

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：情報不足（DD）

写真 口絵28

### 【選定理由】

隠岐（島後）だけに生息する陸貝だが生息地は限られ、近年の生息報告も減少しており、生息個体数が激減している。

### 【概要】

殻径が3.6mm、殻高が2.7mm、6-7層で臍孔をもち周縁に糸状竜骨をもつ。殻は薄い半透明で黄褐色から褐色で光沢がある。なお、分類学的な再検討も必要である。

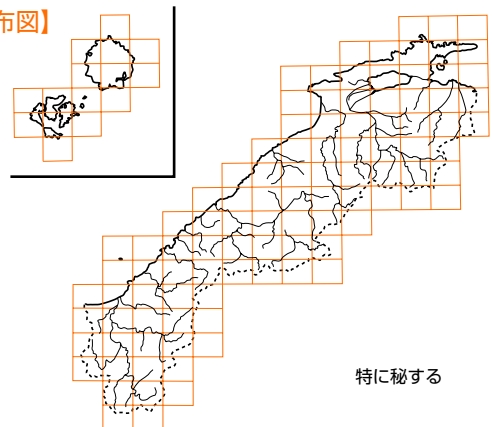
### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は隠岐（島後）だけに分布し、個体数の少ない種である。広葉樹林内の湿潤な場所を好み、落ち葉、倒木、石の下に生息している。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木等生息地の乾燥化。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

マイマイ目 (柄眼目) ナンバンマイマイ科

# オキシメクチマイマイ

*Satsuma okiensis* (Pilsbry et Hirase, 1908)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵29

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地  
環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

隠岐諸島に生息する固有の陸貝であるが、森林の環境変化により、山地の広葉樹林の減少で生息数が減少している

### 【概要】

殻高17mm前後の中型で、栗褐色。体層周縁に淡黄褐色帯をめぐらす。広葉樹林等の林内で落ち葉や転石が多く湿度が高い環境に生息する。

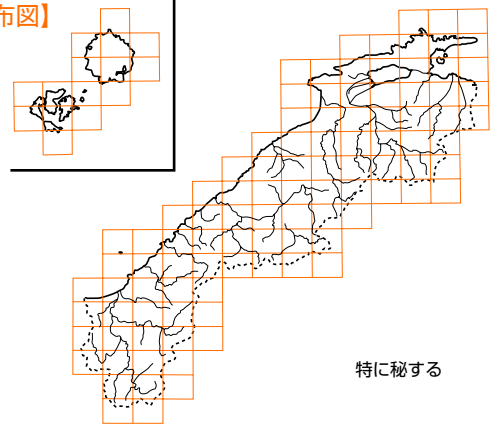
### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島の常緑広葉樹が茂る森林で確認されるが、個体数は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木等生息地の乾燥化。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

マイマイ目 (柄眼目) オナジマイマイ科

# オキシキマイマイ

*Euhadra sandai oki* Pilsbry, 1928

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵29

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地  
環境省：—

### 【選定理由】

隠岐 (島後) にのみ生息する陸貝で、近年の自然環境の変化で個体数は激減している。また、殻の美しい大型の陸貝であり、保護対策が必要である。

### 【概要】

殻高27mm、殻径43mm、殻が6層の個体が多い。殻は黒褐色であるが、色帯はツクシマイマイそっくりの模様がある。偏圧されない形で、明るい黄色の条が顕著に現れ美しい色彩といえよう。軟体部の背面中央に太い黒縦条があり、よく目立つ。類似種としてダイセンニシキマイマイなどがあり、コガネマイマイの仲間に近い陸貝である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

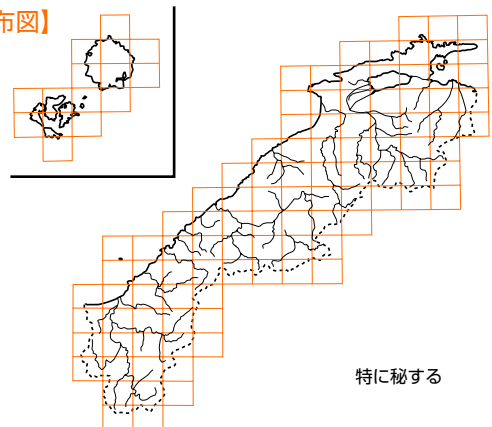
島後のみにみられ、常緑広葉樹が茂る森林に生息する。神社の境内や深山で見かけることが多い。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木

等生息地の乾燥化。採集圧。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

陸淡水産貝類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

マイマイ目（柄眼目）オナジマイマイ科

# オキマイマイ

*Euhadra okicola* (Pilsbry, 1927)

## 島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵29

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【選定理由】

サンインマイマイの小型矮小化した種といわれている。隠岐諸島にのみ見られる固有のタイプの陸貝である。サンインマイマイは隠岐諸島にいないがよく似ている。このことから、隔離による環境条件の変化と生物進化を考える上で貴重な種といえる。

### 【概要】

殻高18.8mm-20mmで、殻径は18.5-24.5mm、5-6層になっている。殻口はやや下降しており斜位であり卵形に近い。周縁は薄く大きく広く反転しており、臍孔は狭いながら存在する。軟体は色帯の無帯型では乳白色であり、頭瘤のみ暗黒色となっている。触角はやや褐色に近い。隠岐（島前）の個体には殻の有帯のものが多い。島後では大部分が殻の色は黄色がかかったクリーム色で無帯の個体である。比較的明るい広葉樹林を好んですみ、樹木の幹や葉などで見かけることが多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

分布域は隠岐諸島内全域に生息している。森林や社寺林の林内や林縁で、適度の湿度がある環境に生息を確認することができる。

### 【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木等生息地の乾燥化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎				◎													

二ナ目（中腹足目）ヤマクルマガイ科

# ヤマクルマガイ

*Spirostoma japonicum japonicum* (A. Adams, 1867)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

ヤマクルマガイは、本州の近畿以西から、四国、九州にわたって、広い地域に分布する陸産貝である。しかし中国地方においては、山陽側では分布域の広い陸産貝であるが、山陰側では分布が少なく、県西部の限られた地域にしか見られない。

### 【概要】

殻はかなり小さく、殻経14mm前後の扁平状である。螺層はほとんど高まらない。臍孔は広く深い。殻口は甚だ斜めでほぼ円形である。殻色は黄褐色である。蓋は高い

円錐形で中空、角質の螺旋板をもつ、面白い形をした蓋ということである。活動している時、体の近くにある蓋は殻の臍孔の空いた所に入れている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の鹿足郡の広葉樹林の砂礫の多いようなところに生息する。

### 【存続を脅かす原因】

開発により生息地が失われている。広葉樹林の保護維持を図ることが必要である。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

二ナ目（中腹足目）アズキガイ科

# アズキガイ

*Pupinella rufa* (Sowerby, 1864)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

アズキガイは、本州（中部以西）から四国、九州にわたって、広い範囲に分布生息する陸産貝である。分布範囲は広いが、生息地が限られおり、中国地方の場合、山陽側は生息地がかなり点在しているようであるが、山陰側は生息地がきわめて少ないのが現状で、県西部の益田市のみであり稀産種である。

### 【概要】

殻の殻高は10mm前後、殻径は5mm前後、螺層は6～5層位の小型の陸産貝である。殻は厚く堅固で殻色は深紅

色のアズキ色をしているのでこの名がある。殻口は垂直的で円く、口縁には1対の深い溝状の切れ込みがある。蓋はうすい革角質で円い。臍孔は軸唇に覆われて殆ど閉じる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

山陽側では広い範囲で確認されているが、県内にもまだ未調査の生息地がある可能性が考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹林等生息地の保護維持を図ることが必要である。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

二ナ目（中腹足目）ムシオガイ科

# イトウムシオイガイ

*Chamalycaeus itonis itonis* Kuroda, 1943

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

### 【選定理由】

奇抜な貝殻を持つムシオイガイの亜種である。本種は岡山県、広島県、山口県の石灰岩地帯と島根県、愛媛県の非石灰岩地帯に分布する稀産種である。県中部や東部からは未記録である。

### 【概要】

貝殻は微小で殻径4.5mm、殻高2.0mm、低円錐形。呼吸管が出る付近の螺管部が極端にくびれた後、急に膨らんで殻口へ向かう。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は上述したような微小な陸産貝である。これらが生息できる場所は、広葉樹林の茂る沢などの腐葉や朽木が堆積した砂礫の多い十分に湿りの保たれたところが生息地である。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採、その他の不法採集。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

陸淡水産貝類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

二ナ目（中腹足目）ムシオイガイ科

# オカムラムシオイガイ

*Cipangocharax okamurai* (Azuma, 1980)

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

### 【選定理由】

県東部の猿政山が基準標本産地である。県東部猿政山周辺と広島県に生息するきわめて限られた地域に生息する稀産種である。猿政山の生息地では、森林伐採や道路工事によって生息環境が悪化しており、絶滅が心配されている。

### 【概要】

殻は殻高4.5-4.9mm、殻径2.3-2.5mm、螺層は4.5層、低円錐形状。ムシオイガイとしてはやや大型で、殻は堅固、殻色は淡黄褐色にうすい桃色、殻形は扁平された蝸牛形、

殻口はほとんど円形、その周縁は厚く乳白色で光沢がある。底部は乳白色の滑層が著しく発達して臍孔部をほとんど閉じている。蓋は石灰質で厚く円形。軟体はうすいあめ色である。ムシオイガイという名の由来は殻口近くの体層背部縫合部に横たわる管状のものが「虫」を背負っているように見えるので、ムシオイガイと名がつけられた。

### 【存続を脅かす原因】

近年生息地付近は伐採が進んでおり、生息環境は著しく悪化した。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

二ナ目（中腹足目）イツマテガイ科

# ヤママメタニシ

*Blanfordia integra* Pilsbry, 1924

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

### 【選定理由】

イツマテガイ科に属するヤママメタニシは、おもに日本海沿岸地域に見られる微小な陸産貝である。分布は島根県東部より日本海沿岸沿いに秋田県大平山まで点在する。基準標本産地は松江市枕木山である。

### 【概要】

殻は微小で、殻高4.5mm、殻径は3mm、薄質、高円錐形状で殻色は淡黄緑褐色を呈する。螺層はほぼ5層で、各層は多少膨れ縫合は深い。殻口は卵形で殻口縁は厚くならない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は樹上性にアオキ等の低灌木などの葉裏に付着していることが多い。県東部に生息するものはアオキの葉裏に付着していることが多い。生息地はいずれの地域でも個体数はきわめて少なくまれである。また生息地は各地とも開発が進められ、生息域は年々狭められているのが現状である。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○													

二ナ目（中腹足目）ゴマガイ科

# オオゴマガイ

*Diplommatina labiosa hirasei* Pilsbry, 1909

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

### 【選定理由】

本種は県東部の限られた地域に生息する種で、基準標本産地である鰐淵寺の境内においてもなかなか見られない稀産種である。

### 【概要】

ゴマガイ科ゴマガイ属に属する、小さな陸産貝である。殻は約4.8mm、殻径は約2.5mm、7層で、殻は赤褐色、内唇滑層が縫合近くまで広がり、腔壁は内唇滑層の近くまでのびる。1906年（明治39年）黒田徳米博士が山陰地方と隠岐地方の陸産貝の調査をした時に現在の出雲市別所

鰐淵寺周辺において採集されたもので、それをPilsbryによって学名を *Diplommatina labiosa hirasei* 和名をオオゴマガイとして記載されたものである。

### 【県内での生息地域・生息環境】

基準標本産地である鰐淵寺は広大な落葉自然林に覆われてはいるが、この自然林内においても稀産である。こういった寺社叢林における自然林の現状維持を図ることが必要である。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

ニナ目（中腹足目）ミズゴマツボ科

# ミズゴマツボ

*Stenothyra japonica* Kuroda, 1962

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

### 【選定理由】

島根県におけるミズゴマツボの出現を確認した記録は、これまでにわずか数例しかなく、生息地が局所的である。

### 【概要】

殻高4mm、殻幅2mm程度。微小な巻貝で、淡水域または海水の影響のある汽水域に棲息する。主として、低塩分で流れのない水域の泥上という特殊な環境に生息する。本種は、岩手から鹿児島までの11府県で生息していることが記録されている。各地の地方目録にも出現の記

録は多く、かつてはまれな種ではなかったと考えられる。しかし、近年報告された例はごくわずかであり、激減したものと推測される。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部では宍道湖および中海の流入河川河口部に生息する。県西部は不明である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川・湖沼の改修、埋め立て。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																					○

マイマイ目（柄眼目）キセルガイモドキ科

# クリロキセルガイモドキ

*Mirus andersonianus* (Moellendorff, 1885)

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【選定理由】

本種は本州西部より北海道にかけて分布する。中国山地では落葉樹林帯のブナの植生の多い地域にしか生息していない稀産種である。

### 【概要】

殻は中小型で、殻高は21mm前後、殻径は8mm前後、7.5～8層で、殻色は濃いブドウ酒色がかった栗褐色である。口唇は白く殻口内は紫色である。中国山地では脊梁山脈のブナ林帯のブナの樹上に生息する稀産種である。夏季にはブナ樹のかなり上部まで登っている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では船通山、大万木山、三瓶山、鷹ノ巣山、奥匹見峽、安蔵寺山などのブナ林帯に生息している。安蔵寺山は分布の西限地ということである。

### 【存続を脅かす原因】

現在中国山地の落葉樹林帯は年々伐採され、その他に杉檜といった針葉樹が植林されている。落葉樹林が伐採されると本種は生息する場を失うと共に、絶滅の道をたどることとなる。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

マイマイ目（柄眼目）キセルガイ科

# ハンジロギセル

*Pinguiphaedusa hemileuca hemileuca* (Pilsbry, 1909)

## 島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

### 【選定理由】

大田市祖式の大江高山が基準標本産地のキセルガイであり、大江高山の他、県西部地域にも生息するが、限られた地域にしか生息していない稀産種である。

### 【概要】

貝殻は中型で、殻高は17-21mm、殻径は3.8-4mmで細長い紡錘形状。螺層は10-11層、各層の下半部は暗赤褐色、上半分は淡黄白色と完全に色分けされる。2色に明瞭に染め分けられた美しいキセルガイである。和名のハンジロギセルはこれによる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大江高山では山麓から頂上まで自然の残る落葉樹林帯で見られる。本種は樹上性で夏季の活動期は広葉樹の古木の樹幹などに付着する。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採。ブナ等広葉樹の自然林の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○													

マイマイ目(柄眼目)キセルガイ科

# カワモトギセル

*Tyrannophaedusa kawamotoi* Kuroda et Takai, 1944

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県内では県西部の益田市、鹿足郡の山間地域の広葉樹林帯に生息が見られる稀産である。

### 【概要】

貝殻は中型で、殻高は19-24mm、殻径は4.5-5mm、紡錘形状を呈し、重厚、堅固である。螺層は11-12層。殻表には微細な成長脈が認められる。角白色の光沢を有する。殻口はわずかに突き出て、斜位。唇縁は全縁ひろがり反転し白色の滑層がある。和名のカワモトギセルは、採集者である河本卓介氏に献名されたものである。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種の県内での生息地は、県西部の益田市旧・匹見町と鹿足郡旧・日原町、旧・六日市町、旧・柿木村の山間地に生息している。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

マイマイ目(柄眼目)キセルガイ科

# モリヤギセル

*Vastina moriyai* (Kuroda et Taki, 1944)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本種は広島県東部の比婆郡口和町を基準標本産地として、1944年に黒田、滝岡博士によって記載された。記載時はわずか数個体を得たのみで、原記載文にも「今後他の個体を得て本稿のつくさざる点を補足したい」と記されているほど当時は稀産であった。しかしその後中国地方や四国で採集された。県内においても山間地において採集されるが、個体数は少なく稀産種である。

### 【概要】

貝殻は中型で、殻高は32mm、殻径7.8mm、12(1/3)層。

紡錘形で螺頂部は鈍く、次体層はもっとも広い。殻口は洋梨形で唇縁は全縁で白色。その唇縁はひろがり反転する。殻色は黄褐色。和名のモリヤギセルは当時広島師範学校教諭をしていた守屋勝太郎氏が本種を採集されたものであるから同氏に献名されたものである。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は県東部より県西部に及ぶ広い範囲に点々と分布するが生息地は限られている。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採。自然林の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○				○													

マイマイ目(柄眼目)キセルガイ科

# オオタキコギセル(ヒメコギセル)

*Digonophyx comes* (Boettger, 1877)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【選定理由】

本種はPilsbry氏が1900年兵庫県揖保郡新宮町篠首を基準標本産地として記載されたものである。県内では県東部の限られた地域に生息しているが生息個体数も少なく稀産種である。

### 【概要】

貝殻は小型で、殻高は13-14mm、殻径約3mmの細長い紡錘形で、暗褐色から黄褐色を呈する。殻表には粗い成長線がある。殻口は体層より前方にわずかに突き出てやや洋梨形。唇縁は白く厚く広がり反転する。上板はやや

小さく縁位。下板は引き込み上板の方へ寄る。下軸板は現れない。主襞は側位、やや長い。上下腔襞は短くやや平行である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部出雲地方にのみ分布するが、どちらかというとしり山の樹林帯や社叢林に生息が見られる。しかし近年は次第に姿を消している。松江市の城山内もかつてかなり見られたが現在ではまったくみられなくなった。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○					○								



マイマイ目（柄眼目）キセルガイ科

# シイボルトコギセル

*Phaedusa sieboldtii* (Kuster, 1847)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種は九州全域及び四国西部と中国西部（山口県）に広く分布するキセルガイで、温暖海流の影響を受ける地域に分布するといわれている。県内では県西部にはまったく見られず、県東部と隠岐（西ノ島、中ノ島）のみに生息する稀産種である。

### 【概要】

貝殻は中型で、殻長18mm前後、殻径は4mm前後、螺層は10層で殻色は黄褐色か暗黄褐色。殻口は卵形で、唇縁は全縁で白く厚く広がり反転する。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○															○			

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種の県内生息地は県東部での美保神社の社叢林を中心とした狭い範囲の自然林と隠岐（島前）に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採。自然林の減少。

マイマイ目（柄眼目）ナンバンマイマイ科

# ヘソアキコベソマイマイ

*Satsuma myomphala euomphala* (Pilsbry et Hirase, 1908)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵29

### 【選定理由】

本種は隠岐諸島と島根県東部、鳥取県など限られた場所に生息している。

### 【概要】

殻高24mm前後で、殻径は36mmの個体が多い。殻は6～7層で、殻皮は薄く、扁平である。臍孔は半開していて、軟体は淡い飴色である。サインコベソマイマイと同種とされることがあるが、本種は殻高が大きく、臍孔が広く開く特徴がある。

### 【県内での生息地・生息環境】

隠岐諸島では、山地部から明るい森や放牧地、海浜部と広範囲の環境で生息を確認することができる種である。

### 【存続を脅かす原因】

特になし。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			◎	◎	○			◎		○			○	○	○			○	○	○	

マイマイ目（柄眼目）ナンバンマイマイ科

# ヤマタカマイマイ

*Satsuma papilibormis* (Kobelt, 1875)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（日本海側西限）

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【選定理由】

近畿地方北部より中部地方北部へとかなり広い範囲に分布するが、中国地方東部になると生息が少なくなり、島根県では県東部の山地で報告がある。県西部ではまったく見られない稀産種である。

### 【概要】

貝殻は殻高30mm前後、螺塔の高い卵形。殻色は淡茶褐色で、周縁に細く淡い茶褐色の色帯があることが多い。軟体部は淡茶褐色（まれに黒褐色）である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内での生息は山地部であるが、確認情報は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採。自然林の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

マイマイ目(柄眼目) オナジマイマイ科

# ダイセンニシキマイマイ

*Euhadra sandai daisenica* Kuroda, 1931

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵29

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種は島根県の脊梁をなす中国山地の広葉樹林のブナ林帯に生息する大型の陸産貝である。県内の分布は限られた地域にのみ生息しているもので稀産である。

### 【概要】

殻は大型強固である。殻径は40mm前後、殻高は30mm前後、螺層は6.5層。螺塔はやや扁平した円錐形である。殻色は黄褐色から黒褐色で、淡黄色の火炎彩模様は斑に美しく現れる。色帯はツクシマイマイ模様である。殻口は斜めで、周縁は幅広く円く広がり反転している。臍孔

は狭く深い。軟体部は背面中央に黒く幅の広い縦条がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内の分布は県東部の船通山より県西部の安蔵寺山まで広い範囲に及ぶが限られた地域にのみ生息している。個体数は少なく稀産種である。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採。広葉樹林のブナ林の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

イシガイ目イシガイ科

# トンガリササノハガイ

*Lanceolaria grayana cuspidata* Kira, 1959

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本種は本州中部以西の広い範囲にわたる河川に分布する淡水貝であるが、生息する河川や地域は限られている。県内では江の川水系にのみ見られる稀産種である。

### 【概要】

本種はササノハガイの地方型といわれるもので、本州中部以西と四国、九州、奄岐に分布する。河川の流水域の砂質泥底に生息する。殻は超長卵形というが、殻頂は前方に極端に片寄り、貝の姿は笹の葉のような形をしているように見えるのでこの和名がつけられた。殻の内面は美しい真珠光沢である。殻皮はピロード状で

細い成長線が密にある。殻長は70-80mm前後であるが、120mmに達するものもある。稀産である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内で本種が採取されたのは、江の川水系の浜原ダムの下流側で採取されたのみである。江の川の上流にあたる広島県側からも本種の生息が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

水質汚濁、大雨による生息地の消失・土砂の堆積、渇水、河川改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○										○										

イシガイ目イシガイ科

# カラスガイ

*Cristaria plicata plicata* (Leach, 1879)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵29

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内の河川、沼、池等によく見られる黒く大きな貝を一般にはカラスガイと呼んでいるが、それらのほとんどはドブガイやイシガイである。カラスガイの県内での生息分布は東部の限られた河川であり、稀産種である。

### 【概要】

カラスガイは翼卵円形で、殻長は最大30cmに達する。翼状突起の付け根には顕著なシワ状の褶曲がある。幼貝では後背縁の翼状突起が特に発達する。幼貝は緑色の入った褐色であるが、成貝になると黒褐色となる。殻の

内面は美しい真珠色である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内ではかつて松江城山堀川に多数生息していたが、宍道湖の汽水を通水したために多くの個体を湖沼に移植されたが、その後の生息状況は不明である。県東部の平野部の河川で生息しているが、個体数は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修、水質汚濁。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																○	○				

イシガイ目イシガイ科

# マツカサガイ

*Pronodularia japonensis* (Lea, 1859)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵29

### 【選定理由】

県内の小川に生息地は限定され、生息数はきわめて少なく稀産種である。

### 【概要】

殻は卵円形で、膨らみは弱く平たい。殻長は最大9cmに達する。殻表には逆V字型の模様が顕著であるが、成長につれて腹縁近くの模様が消失し、平滑となる。後背縁の放射状の模様は顕著で、その間隔は粗い。小川や用水路の砂礫から砂泥底に多く生息する。2年で性成熟し、繁殖期は初夏から夏である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、県東部および県西部地域の小川において5河川で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

水質汚濁、大雨による生息地の消失・土砂の堆積、渇水、河川改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○									○					○					

イシガイ目イシガイ科

# ニセマツカサガイ

*Inversiunio yanagawensis* (Kondo, 1882)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵29

### 【選定理由】

県内の小川で近年確認された種であり、生息分布は1河川のみ稀産種である。

### 【概要】

殻は卵円形で膨らみがあり、後縁は丸く少し湾曲している。殻長は最大7cmに達する。殻頂付近に顆粒状の模様があり、後背縁には不明瞭な放射状の模様がある。放射状の模様の間隔は狭い。小川や用水路の砂礫から砂泥底に生息する。2年で性成熟し、繁殖期は秋が主である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では県東部地域の河川で、マツカサガイと同所にみられる。

### 【存続を脅かす原因】

水質汚濁、大雨による生息地の消失・土砂の堆積、渇水、河川改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○											○					○					

マイマイ目（柄眼目）ナンバンマイマイ科

## サイゴクビロウドマイマイ

*Nipponochloritis occidentalis* Azuma, 1982

### 【選定理由】

本種は東正雄氏が1982年県西部鹿足郡吉賀町安蔵寺山を基準標本産地として記載されたものである。きわめて稀産である。

### 【概要】

本種は原記載によると、殻はこの属としてはやや大きく殻径18.5mm、殻高13.7mm、4（4/5）層、殻は薄くもろく球状に近い暗褐色。殻皮上にはきわめて細かい毛状体の付属物がある。軟体部は黒い。分布は島根県安蔵寺山、枕木山、山口県、大分県、福岡県と記載されている。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：情報不足（DD）

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内産のビロウドマイマイについては、今後検討を要する。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採等生息地の乾燥。

マイマイ目（柄眼目）オナジマイマイ科

## イワシミマイマイ

*Euhadra senkenbergiana occidentalis* Azuma, Takewaki et Okamura, 1987

### 【選定理由】

本種は1987年に県西部鹿足郡津和野町を基準標本産地としてクロイワマイマイ種群の亜種として報告されたが、アワマイマイ種群にも類似していることから、今後さらに検討を要する種である。

### 【概要】

殻は大型（殻径50mm）、重厚でツクシマイマイ模様を示す。殻口はゆるく曲がった斜位で円味ある三角形。唇縁は淡紫色厚く広く反転する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は津和野町上横道を基準標本産地として記載された当時は、県西部の山間部の限られた地域に分布するものと思われたが、その後山口県東部地区、広島県北西部からも記録された。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採等生息地の乾燥。

# サンゴ類

日本近海は、海洋生物地理学的にインド-西太平洋区、東亜区、北太平洋区の三つの生物地理区が展開していることから、生物種の多様性を生み出し、寒帯から熱帯域に生息するさまざまな海洋生物が確認される。実際には、各区の接する境界域にはそれぞれ推移帯が存在していることから、ミクロ的に七つの海洋生物地理学区が日本を取り巻いている。このような背景から日本列島の各所で多彩な動物分布が見られ、太平洋側および日本海側の東西南北の地域間には特異的な動物相が展開している。

本県の生物地理区は島根半島日御碕を起点に南北に分けるように、北側は中間温帯海区、南側は暖温帯海区の動物相が展開しており、島根県の海域にはそれぞれの海区の北限と南限の生物が共に分布していることになる。

しまねレッドデータブックの改訂にあたって、環境省第4次レッドリストには掲載されていないサンゴ類（刺胞動物門花虫綱）を本県が独自に提起した理由は、このような島根県海岸域の海洋生物地理学的特殊性が存在するためである。一方で、海洋生物の多くは、生活史の中で海流に乗って移動が可能である事、さまざまな環境的要因によって10~20年の周期で変動する一次的な“擬集団”なのか、明らかに“土着”の種群であるかの確認が必要な事、この点が今回のレッドデータブック掲載種として選定する重要なポイントになっている。

本県のサンゴ類は対馬暖流の影響が強い隠岐諸島域、大田から日御碕、島根半島域の岩礁を中心に、八放サンゴ類であるイソバナやウミトサカ、ヤギの仲間、六放サンゴ類であるイシサンゴ類（非造礁性および造礁性）が透明度の高い海域に豊富に生息している。これまでの学術的調査によって明らかにされた隠岐諸島の非造礁性イシサンゴ類は5科15種に及ぶ。ピワガライシ科フタリビワガライシ、チョウジガイ科アオチョウジガイモドキ、センスガイ科ツボセンスガイ、ニイノタコアシサンゴ、キサンゴ科ジュウジキサンゴ、キサンゴ、ヘンペイキサンゴ、ナガイボキサンゴ、イボヤギ、タバネイボヤギ、ムツサンゴ、ツボサンゴの2種、シオガマサンゴ科ジュズサンゴ、シオガマサンゴである。

ムツサンゴとシオガマサンゴは日本海北部に分布する種であり、それ以外の種は温帯-亜熱帯域に分布するインド-西太平洋区に分布する種である。日御碕域では、バルベツサンゴ、アワサンゴ、アミメサンゴ、キクメイシモドキ、フタリビワサンゴ等が報告されているが、島根県近海のサンゴ類の生物地理学的研究は非常に乏しく、今後の調査次第では、生息種の増加や生息域が拡大する可能性が多大である。

今回選定したイソバナ（八放サンゴ）、イボヤギとムツサンゴ（六放サンゴ）の3種は、かなり広範囲に分布が見られる比較的安定した種であるが、水深1-5m以内の浅海にも生息していることから、人為的な影響を受けやすく、堤防建設、港湾浚渫作業等の海事工事、油汚染や漂着物によりその生息域が脅かされる危険性があることが選定した理由である。また、これらの生物は、透明度の高い海域に見られることから、海洋汚染の指標生物として、準絶滅危惧種として選定した。今回は選定されなかったサンゴ類や学術的に意味のあるシライボヤ（脊索動物門尾索綱）のような貴重種を注意喚起種として情報不足種に選定する事も考えたが、環境省が提言している定量的な概念をとり入れた調査を広範囲に実施して、より詳細な分布域の確認をする必要と、今後の環境省の海棲無脊椎動物に対する見解（ガイドライン）を参考にしながら、次回の改訂版作業に間に合うように調査を実施する方向で検討している。

隠岐諸島および島根県の海岸域は日本海南部に位置していることから、日本海特有の海洋現象がこの海域に生息している生物、特に温暖帯域の動物に与える影響は非常に大きい。南からの対馬暖流と北からのリマン寒流の勢いの強弱による海水温度の変化、両海流のバランス、冬の季節風の吹き出しによる深海の冷水湧流の影響など、不安定な環境の中で、常に生息が脅かされるギリギリの状況の中で生き続けていると思われる、10~20年の周期でかれらを見守っていく必要がある。

（秋吉英雄）

# サンゴ類掲載種一覧

計3種

## 準絶滅危惧 (NT)

・ イソバナ

・ イボヤギ

○ ムツサンゴ

計3種

## 今回の改訂により掲載対象外となった種

オノミチキサンゴ

計1種

### 【記号説明】

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (2種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (1種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)

花虫綱ヤギ目イソバナ科

# イソバナ

*Melithaea flabellifera* Kükenthal, 1908

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵30

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

防波堤の建設などで海岸の岩礁域が減少しているほか、排水の流出によって海水の汚濁が進んできており、減少傾向にあると思われる。

### 【概要】

紅色、朱色、黄色など色の変化に富み、高さ、幅ともに20cmまでの一平面状で、しばしば癒着して網状の扇形の群体を作る。ポリプは枝の両側と上面に配列し、花夾の中に完全に退縮する。日本海側における生息域は、男鹿半島以南から九州南西部の岩礁壁にみられる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

潮の流れがはやい岩礁壁、水深1-10mのところで集団の群生を作って生息している。

### 【存続を脅かす原因】

沿岸域の埋め立ておよび生活廃水などの流出による海水の汚濁。漂着ゴミによる生息環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中
○		○	◎																			○

花虫綱イシサンゴ目キサンゴ科

# イボヤギ

*Tubastraea faulkneri* Wells, 1982

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵30

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

防波堤の建設、波消ブロックの設置などで海岸の岩礁域が減少しているほか、排水の流出によって海水の汚濁が進んできており、減少傾向にあると思われる。

### 【概要】

群体は塊状で、1cm前後の円筒形のサンゴ個体が並んでおり、全体の大きさは径10cm以下が多い。褐虫藻を持たないので、岩陰に生息する。群体の色は赤色、橙色、黄色が多い。日本海側における生息域は、本州中部以南に普通に見られ、地域変異が多い種である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

潮の流れの速い外洋の岩礁壁から内湾の岩陰までさまざまな環境に生息しており、水深1-10mに集団で群生している。隠岐諸島では傾斜した岩盤一面に大集団で生息する箇所が見られる。イソバナとよく混生している。

### 【存続を脅かす原因】

沿岸域の埋め立ておよび生活廃水などの流出による海水の汚濁。漂着ゴミによる生息環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中
○		○	◎																			○

花虫綱イシサンゴ目キサンゴ科

# ムツサンゴ

*Rhizopsammia minuta mutsuensis* Yabe & Eguchi, 1932

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵30

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

防波堤の建設などによる生息域の縮小、港湾浚渫、生活排水の流出によって海水の汚濁が進んできており、減少傾向にあると思われる。

### 【概要】

群生性に岩礁域で見られ、薄い根様で連結された円筒形の群体を形成しており、共肉および触手とも鮮やかな黄色をしている。比較的浅い海域の平坦部で見られることもあり、海藻であるホンダワラ類が生育する仮根周辺にも生育している。陸奥湾が基準標本産地で、日本海側

における生息域は若狭湾以北の日本海沿岸に生息する北方種であるが、隠岐諸島海域にも生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島では潮の流れのはやい岩礁壁で水深5-10mのところに群生しているが、生息地は局限している。

### 【存続を脅かす原因】

沿岸域の堤防の設置や埋め立てなどの漁港の整備・拡張に伴う生息環境の破壊が懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中
			◎																			○

サンゴ類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

サンゴ類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足



## 淡水海綿類

海綿は水中の岩や石やその他のほとんどすべての固形物の表面に付着し、水の中の細菌や微生物、それらの死骸やその他の生物の死骸から生じる小さな断片の有機物を餌として取り入れ生活している固着動物である。そして多細胞動物のなかでもっとも簡単な体の構造をし、筋肉も神経もないので、幼生時期以外は自ら動くことはできない。したがって17世紀頃は体の形状などから植物に分類されていたこともある。

体の表面にある顕微鏡レベルの小さな多くの穴(小孔)から餌を水と共に取り入れる。水を取り入れる力は体内の水の通路に存在する鞭毛室と呼ばれる細胞群の鞭毛によって引き起こされている。そして不要な餌以外のものや老廃物は別のやや大きな穴(大孔)から水とともに排出される。

このような海綿動物のうち、淡水に生息するものを淡水海綿と呼ぶ。淡水海綿の形状は樹枝状、平盤状、塊状そしてそれらの表面が滑らかなもの、大小の突起をもつもの、畝をもつものとさまざまである。しかし形状のみからは種の同定は中々困難である。体は顕微鏡レベルの小さな針状の骨片(骨格骨片)が長い束を作り、それらが網目状をなす骨格によって、さらに種によっては遊離小骨片を加えた骨格によって支えられている。しかし体の構造は強くないため流水域よりも止水域を好み、河川よりも湖や池に多く生息している。河川に生息する場合は浮石の裏面の場合が多く、流れが弱くなった部分を好んで付着している。淡水海綿の色は色素細胞を持たないので、基本的には白からクリーム色であるが、多くは周りの水の汚れに染まって黄土色から黒みがかかったものまでとさまざまである。したがって色からも種を同定することはできない。しばしば緑色をした淡水海綿もいるが、それは体内に共生する緑藻の色によるものである。

淡水海綿の生殖方法には二通りあり、卵と精子による有性生殖と、もう一つは出芽による無性生殖である。有性生殖は淡水海綿の成長にとって良い季節の6~7月にかけて行われることが多い。雌の体内で受精した卵は幼生となり泳ぎ出て、新たな場所に付着後、変態して新し

い海綿となる。無性生殖の出芽はさらに外部出芽と内部出芽に分かれる。内部出芽とは芽球と呼ばれる構造物によっておこなわれる生殖法である。芽球の中には栄養をもった細胞(芽球細胞)が数千個以上、詰まっている。芽球細胞群は芽球殻によって保護されていて、その殻を支える骨片(芽球骨片)の形は種の特徴をよく表している。芽球細胞群は凍結にも乾燥にも耐えることができる。海綿は芽球を体内に数多く作るとやがて退縮し死んで冬を迎えるが、芽球細胞群は生き残り、翌春の水温が上昇すると、殻の一部を溶かして外に出て(発芽)分化した後、新しい海綿となる。また冬期に水位が下がり、乾燥した芽球は骨格から離れた場合は水に浮遊する。それらは浮遊芽球と呼ばれ、流れに乗って他の場所に運ばれる。湖や池では浮遊芽球が岸に多量に吹き寄せられていることがある。

淡水海綿の寿命は海産の海綿と異なりほとんどの種が1年以内である。淡水海綿にとって生存を脅かす凍結や乾燥にであいやすい冬期は上記の芽球の形で越し、種を維持している。少数種の日本産淡水海綿は越冬するが、それらもやがて芽球を残して寿命を終えている。

淡水海綿の種数は世界からは150種を超え、国内では現在、25種が記録されている。鳥根県内からはシロカイメン、ヨワカイメン、アナンデルカイメン、フンカコウカイメン、カワカイメン、ミュラーカイメン、カワムラカイメン、ジーカイメン、ツツミカイメン、ヨコトネカイメンの7属10種の海綿の生息が確認されており、多くは溜池からの記録である。

淡水海綿は固着動物なので、環境指標動物として有望な動物と考えられる。現在、淡水海綿の多くは中腐水性水域に生息しているとされている。その水域は他の生物も種数、生息量ともに豊富なところである。淡水海綿のそれぞれの種が環境指標動物となりうるかは今後の研究にかかっているが、少なくとも宍道湖に豊富に生息するシロカイメンだけはその生息地が汽水域であることを示す環境指標動物である。

(益田芳樹)

# 淡水海綿類掲載種一覧

計3種

---

## 準絶滅危惧 (NT)

- ・ シロカイメン
- ・ ヨコトネカイメン

計2種

---

## 情報不足 (DD)

- ・ ツツミカイメン

計1種

---

### 【記号説明】

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (3種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (0種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)

ザラカイメン目タンスイカイメン科

# シロカイメン

*Spongilla alba* Carter, 1849

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵30

### 【選定理由】

汽水域の塩分濃度がある程度の範囲内と安定したところで、さらに生息域として一定以上の広さを必要とするので、生息地が限られる。

### 【概要】

水中の固形物の表面を平盤状に覆うように付着する。表面には多くの不規則な形の短い突起をもつことが多い。汽水域のみに生息し、冬期は芽球の形で越冬する。国内では茨城県涸沼、鳥取県東郷湖と島根県の宍道湖のみに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖全域とそこから流出する河川の湖寄りの区域に分布するが、塩分がより高濃度な中海や、より低濃度な宍道湖の流入河川には生息していない。

### 【存続を脅かす原因】

塩分濃度を変化させるような開発工事。生息地の富栄養化による水質変化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	汽水	林地	草地	砂浜	河口
○																		○				

ザラカイメン目タンスイカイメン科

# ヨコトネカイメン

*Sanidastra yokotonensis* Volkmer et Watanabe, 1983

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵30

### 【選定理由】

生息記録がわずかで、しかも常時、確認できるほど多くは生息していない。

### 【概要】

水中の固形物の表面を薄層状に覆うようにまたは塊状になって付着し、その表面に多くの不規則な長さや形の突起をもつ。冬期は芽球の形で越冬する。

茨城県の横利根川から発見され新属新種として記載されたが、採集記録は国内ではその後の宍道湖の記録との2つしかない。どちらもカワカイメンと同所的分布をし

ていた。芽球の殻に含まれる骨片は突起を不規則な方向に出すことやその数も一定でない点の特徴である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖の船川河口近くの岸から一度だけ確認された。その生息地の水深は浅く、塩分濃度は淡水に近かった。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の物理的な環境変化と富栄養化による水質変化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	汽水	林地	草地	砂浜	河口
○																		○				

淡水海綿類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ザラカイメン目タンスイカイメン科

# ツツミカイメン

*Trochospongilla latouchiana* Annandale, 1907

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵30

## 【選定理由】

全国的に生息記録が少なく、今後の生息地や生息量の変化には要注意。

## 【概要】

水中の固形物の表面を薄盤状に覆うように付着する。表面に突起をもたない。冬期は芽球の形で越冬する。芽球は多種に比べて小さい。芽球骨片は鼓型をしていることよりこの和名がついている。国内の記録は岡山県、滋賀県、兵庫県と島根県の4県からのみである。

## 【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖の船川河口近くの岸から一度だけ確認されている。その生息地の水深は浅く、塩分濃度は淡水に近かった。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の物理的な環境変化と富栄養化による水質変化。

# 資 料



# 執 筆 者 一 覧

## 【哺乳類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
26	ニホンアシカ	絶滅	佐藤仁志	絶滅	佐藤仁志	-	-
26	ニホンオオカミ	絶滅	大畑純二	絶滅	大畑純二	-	-
27	ニホンカワウソ	絶滅	大畑純二	絶滅	大畑純二	-	-
27	ニホンカモシカ	絶滅	大畑純二	絶滅	大畑純二	-	-
28	ツキノワグマ	絶滅危惧Ⅰ類	大畑純二	絶滅危惧Ⅰ類	大畑純二	緊急保護種	田中幾太郎
29	ミズラモグラ	絶滅危惧Ⅱ類	大畑純二	情報不足	大畑純二	-	-
29	ニホンモモンガ	絶滅危惧Ⅱ類	大畑純二	絶滅危惧Ⅱ類	大畑純二	緊急保護種	田中幾太郎
30	ヤマネ	絶滅危惧Ⅱ類	大畑純二	絶滅危惧Ⅱ類	大畑純二	緊急保護種	田中幾太郎
31	カワネズミ	準絶滅危惧	大畑純二	準絶滅危惧	大畑純二	要注意種	大畑純二
31	コモグラ(西日本産小型アズマモグラ)	準絶滅危惧	大畑純二	情報不足	大畑純二	-	-
31	キクガシラコウモリ	準絶滅危惧	大畑純二	準絶滅危惧	大畑純二	要注意種	大畑純二
32	コキクガシラコウモリ	準絶滅危惧	大畑純二	準絶滅危惧	大畑純二	要注意種	大畑純二
32	モモジロコウモリ	準絶滅危惧	大畑純二	準絶滅危惧	大畑純二	要注意種	大畑純二
32	ユビナガコウモリ	準絶滅危惧	大畑純二	準絶滅危惧	大畑純二	要注意種	大畑純二
33	テングコウモリ	準絶滅危惧	大畑純二	準絶滅危惧	大畑純二	要注意種	大畑純二
33	コテングコウモリ	準絶滅危惧	大畑純二	準絶滅危惧	大畑純二	要注意種	大畑純二
33	ニホンイタチ	準絶滅危惧	大畑純二	準絶滅危惧	大畑純二	要注意種	大畑純二
34	ホンドノレンコウモリ※	情報不足	大畑純二	情報不足	大畑純二	-	-
34	ニホンリス	情報不足	大畑純二	情報不足	大畑純二	-	-

(今回の改訂により掲載対象外となった種)

-	ホンシュウジカ	-	-	準絶滅危惧	大畑純二	要保護種	大畑純二
---	---------	---	---	-------	------	------	------

(2004改訂により掲載対象外となった種)

-	キュウシュウノレンコウモリ	-	-	-	-	要注意種	大畑純二
---	---------------	---	---	---	---	------	------

※ 25 ページ参照

## 【鳥類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
37	トキ	絶滅	佐藤仁志	絶滅	佐藤仁志	-	-
38	カラスバト	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	緊急保護種	佐藤仁志・井山明
38	ヒメクロウミツバメ	絶滅危惧Ⅰ類	森茂晃・佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	-	-
39	ヨシゴイ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	要注意種	井山 明
39	オオヨシゴイ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	要注意種	佐藤仁志・井山明
40	カンムリウミスズメ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志・森茂晃	情報不足	佐藤仁志	-	-
40	ハチクマ	絶滅危惧Ⅰ類	森 茂晃	絶滅危惧Ⅰ類	森 茂晃	緊急保護種	井山明・佐藤仁志
41	オオタカ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	-	-
41	サシバ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	要保護種	井山 明
42	クマタカ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	緊急保護種	佐藤仁志・井山明
42	ブッポウソウ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	要注意種	井山 明
43	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	緊急保護種	佐藤仁志・井山明
43	ヤイロチョウ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要保護種	佐藤仁志・井山明
44	ウチヤマセンニュウ	絶滅危惧Ⅰ類	森 茂晃	-	-	-	-
44	イワミセキレイ	絶滅危惧Ⅰ類	佐藤仁志・森茂晃	情報不足	佐藤仁志	要保護種	佐藤仁志・井山明
45	コイカル	絶滅危惧Ⅰ類	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	要注意種	井山 明
46	ヒシクイ	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要注意種	佐藤仁志・井山明
46	カリガネ	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	-	-

掲載 ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
47	オオハクチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	-	-
47	アカツクシガモ	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要保護種	佐藤仁志・井山明
48	ミゾゴイ	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	-	-
48	クロツラヘラサギ	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	-	-
49	クイナ	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	要注意種	井山 明
49	ヒクイナ	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	要注意種	井山 明
50	ヨタカ	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	要注意種	井山 明
50	タマシギ	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	要注意種	井山 明
51	コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	要注意種	井山 明
51	ミサゴ	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要保護種	佐藤仁志・井山明
52	オジロワシ	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要保護種	井山 明
52	チュウヒ	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
53	オオコノハズク	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要注意種	井山 明
53	コノハズク	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要注意種	佐藤仁志・井山明
54	アカショウビン	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要保護種	佐藤仁志・井山明
54	ヤマセミ	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	要注意種	井山 明
55	マガン	準絶滅危惧	佐藤仁志	準絶滅危惧	佐藤仁志	要注意種	井山 明
55	コハクチョウ	準絶滅危惧	佐藤仁志	準絶滅危惧	佐藤仁志	要注意種	井山 明
55	ツクシガモ	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
56	オシドリ	準絶滅危惧	佐藤仁志	準絶滅危惧	佐藤仁志	要注意種	井山 明
56	トモエガモ	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
56	サンカノゴイ	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
57	クロサギ	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	要注意種	井山 明
57	イカルチドリ	準絶滅危惧	佐藤仁志	準絶滅危惧	佐藤仁志	-	-
57	シロチドリ	準絶滅危惧	森茂晃・星野由美子	準絶滅危惧	佐藤仁志	-	-
58	ハマシギ	準絶滅危惧	佐藤仁志	準絶滅危惧	佐藤仁志	-	-
58	ハイイロチュウヒ	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
58	フクロウ	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
59	アオバズク	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
59	トラフズク	準絶滅危惧	佐藤仁志	準絶滅危惧	佐藤仁志	-	-
59	コミミズク	準絶滅危惧	佐藤仁志	準絶滅危惧	佐藤仁志	-	-
60	チョウゲンボウ	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
60	ホオアカ	準絶滅危惧	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	要注意種	井山 明
61	コクガン	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	-	-
61	オオミズナギドリ	情報不足	佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	-	-
61	コウノトリ	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	-	-
61	ヘラサギ	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	-	-
62	ササゴイ	情報不足	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
62	マナヅル	情報不足	佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	-	-
62	ナベヅル	情報不足	佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	-	-
62	セイタカシギ	情報不足	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
63	オオジシギ	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	要保護種	井山 明
63	ハウロクシギ	情報不足	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	-	-
63	ズグロカモメ	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	-	-
63	マダラウミスズメ	情報不足	佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	-	-
64	ウミスズメ	情報不足	佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	-	-
64	コウミスズメ	情報不足	佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	-	-
64	オオワシ	情報不足	佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	-	-
64	ツミ	情報不足	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	要注意種	井山 明
65	ハイタカ	情報不足	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	要注意種	井山 明



掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
65	イヌワシ	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	-	-
65	コチョウゲンボウ	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	-	-
65	サンショウクイ	情報不足	森 茂晃	絶滅危惧Ⅱ類	森 茂晃	-	-
66	サンコウチョウ	情報不足	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	要注意種	井山 明
66	アカモズ	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	要注意種	井山 明
66	コシアカツバメ	情報不足	星野由美子	-	-	-	-
66	コヨシキリ	情報不足	佐藤仁志	情報不足	佐藤仁志	要注意種	井山 明
67	ホシムクドリ	情報不足	森 茂晃	準絶滅危惧	森 茂晃	要注意種	井山 明
67	コルリ	情報不足	森 茂晃	-	-	-	-
67	ノビタキ	情報不足	森 茂晃	情報不足	森 茂晃	要注意種	井山 明
67	コサメビタキ	情報不足	星野由美子	-	-	-	-
68	クロジ	情報不足	森 茂晃	-	-	-	-

### 【両生類・爬虫類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
72	オオサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類	松野焯・秋吉英雄	絶滅危惧Ⅱ類	松野焯・秋吉英雄	要保護種	松野 焯
72	オキサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要保護種	野津 大
73	カスミサンショウウオ	準絶滅危惧	秋吉英雄・松野焯	-	-	-	-
73	ブチサンショウウオ	準絶滅危惧	秋吉英雄・松野焯	準絶滅危惧	秋吉英雄・松野焯	-	-
73	ヒダサンショウウオ	準絶滅危惧	秋吉英雄・松野焯	準絶滅危惧	秋吉英雄・松野焯	要保護種	松野 焯
74	ハコネサンショウウオ	準絶滅危惧	秋吉英雄・松野焯	準絶滅危惧	秋吉英雄・松野焯	-	-
74	タゴガエル	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄・井上明日香	-	-
74	オキタゴガエル	準絶滅危惧	岩田貴之	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大
75	モリアオガエル	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄・井上明日香	要注意種	松野 焯
75	カジカガエル	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄・井上明日香	要注意種	松野 焯
75	ジムグリ	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄	-	-
76	ヒバカリ	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄	-	-
76	シロマダラ	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄	-	-
76	タカチホヘビ	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄	-	-
77	ナガレタゴガエル	情報不足	岩田貴之	-	-	-	-

### 【汽水・淡水魚類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
82	ドウクツミズハゼ	絶滅	山口勝秀	絶滅	佐藤仁志	-	-
83	ミナミアカヒレタビラ	絶滅危惧Ⅰ類	鴛海智佳	絶滅危惧Ⅰ類	山口勝秀	要保護種	越川敏樹
83	イシドジョウ	絶滅危惧Ⅰ類	山口勝秀	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要保護種	田中幾太郎
84	ゴギ	絶滅危惧Ⅰ類	山口勝秀	絶滅危惧Ⅰ類	青山徳久	要保護種	田中幾太郎
84	日本海系イトヨ	絶滅危惧Ⅰ類	中野浩史	絶滅危惧Ⅱ類	越川敏樹	要注意種	越川敏樹
85	クルマサヨリ	絶滅危惧Ⅰ類	田久和剛史	絶滅危惧Ⅱ類	越川敏樹	-	-
85	オヤニラミ	絶滅危惧Ⅰ類	中野浩史	絶滅危惧Ⅰ類	佐々木興	要保護種	田中幾太郎
86	スナヤツメ南方種	絶滅危惧Ⅱ類	桑原友春	絶滅危惧Ⅱ類	越川敏樹	要注意種	田中幾太郎
86	カワヤツメ	絶滅危惧Ⅱ類	山口勝秀	絶滅危惧Ⅱ類	越川敏樹	要保護種	越川敏樹
87	サクラマス	絶滅危惧Ⅱ類	山口勝秀	絶滅危惧Ⅱ類	越川敏樹	-	-
87	ヨウジウオ	絶滅危惧Ⅱ類	山口勝秀	-	-	-	-
88	サンゴタツ	絶滅危惧Ⅱ類	山口勝秀	-	-	-	-
88	ガジ(大卵型:河川陸封型)※	絶滅危惧Ⅱ類	山口勝秀	-	-	-	-
89	イシドンコ	絶滅危惧Ⅱ類	中野浩史	準絶滅危惧	佐藤仁志	-	-

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
89	ルリヨシノボリ	絶滅危惧Ⅱ類	山口勝秀	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要保護種	越川敏樹
90	シンジコハゼ	絶滅危惧Ⅱ類	山口勝秀	絶滅危惧Ⅱ類	越川敏樹	要保護種	越川敏樹
91	アブラボテ	準絶滅危惧	山口勝秀	準絶滅危惧	青山徳久	要注意種	越川敏樹
91	ズナガニゴイ	準絶滅危惧	山口勝秀	準絶滅危惧	佐藤仁志	要注意種	越川敏樹
91	サンインコガタスジシマドジョウ	準絶滅危惧	中野浩史	情報不足	越川敏樹	-	-
92	アカザ	準絶滅危惧	山口勝秀	準絶滅危惧	越川敏樹	要注意種	越川敏樹
92	アユカケ (カマキリ)	準絶滅危惧	山口勝秀	準絶滅危惧	山口勝秀	要注意種	越川敏樹
92	ウツバカサ (小卵型・中卵型・両側回遊型) ※	準絶滅危惧	山口勝秀	-	-	-	-
93	オオヨシノボリ	準絶滅危惧	中野浩史	準絶滅危惧	佐藤仁志	要保護種	越川敏樹
94	カワアナゴ	情報不足	佐々木興	情報不足	佐藤仁志	-	-

(今回の改訂により掲載対象外等となった種)

-	タモロコ	-	-	情報不足	越川敏樹	-	-
-	カジカ ※	-	-	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	要注意種	越川敏樹

※ 81 ページ参照

### 【昆虫類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
106	ヒメシロチョウ	絶滅	淀江賢一郎	-	-	-	-
107	コバネアオイトトンボ	絶滅危惧Ⅰ類	大浜祥治	絶滅危惧Ⅰ類	大浜祥治	-	-
107	モートンイトトンボ	絶滅危惧Ⅰ類	大浜祥治	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
108	ヒロシマサナエ	絶滅危惧Ⅰ類	大浜祥治	絶滅危惧Ⅰ類	大浜祥治	-	-
108	マイコアカネ	絶滅危惧Ⅰ類	大浜祥治	絶滅危惧Ⅰ類	大浜祥治	要注意種	大浜祥治
109	コカワゲラ	絶滅危惧Ⅰ類	剣持康弘	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志	-	-
109	カワラバツタ	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	絶滅危惧Ⅰ類	山内健生	-	-
110	タガメ	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	絶滅危惧Ⅱ類	林 成多	要保護種	尾原和夫
110	トゲナバブタムシ	絶滅危惧Ⅰ類	尾原和夫	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	-	-
111	ハラビロハンミョウ	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志	絶滅危惧Ⅱ類	門脇久志	要保護種	福井修二・永幡嘉之
111	カワラハンミョウ	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志	-	-
112	オオヒョウタンゴミムシ	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志	要保護種	福井修二
112	イワタメクラチビゴミムシ	絶滅危惧Ⅰ類	新部一太郎・星川和夫	絶滅危惧Ⅰ類	星川和夫・新部一太郎	要保護種	門脇久志
113	イソチビゴミムシ	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志	要注意種	淀江賢一郎・増田耕作
113	マルコガタノゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	-	-
114	ゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	絶滅危惧Ⅱ類	林 成多	要注意種	福井修二・永幡嘉之
114	シャープゲンゴロウモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	要保護種	門脇久志・永幡嘉之
115	ダイコクコガネ	絶滅危惧Ⅰ類	鈴木謙治	絶滅危惧Ⅰ類	鈴木謙治	要保護種	福井修二
115	オオハナカミキリ	絶滅危惧Ⅰ類	福井修二	絶滅危惧Ⅰ類	福井修二	要保護種	福井修二
116	カバフキシタバ	絶滅危惧Ⅰ類	三島秀夫	絶滅危惧Ⅰ類	三島秀夫	要注意種	大島弘・門脇久志
116	キマダラルリツバメ	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎	-	-	-	-
117	ルーミスジミ	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	緊急保護種	淀江賢一郎
117	ウラナミアカシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
118	クロシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎
118	シルビアシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
119	ヒメシジミ本州・九州亜種	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
119	ゴマシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎
120	ウラギンスジヒョウモン	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
120	オオウラギンヒョウモン	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	緊急保護種	淀江賢一郎
121	ヒョウモンモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	緊急保護種	淀江賢一郎

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
121	ウスイロヒヨウモンモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	中園洋行・星川和夫	絶滅危惧Ⅰ類	中園洋行・星川和夫	要保護種	淀江賢一郎
122	シータテハ	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
122	ホシミスジ近畿地方以西亜種	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
123	ウラナミジャノメ本土亜種	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
123	クロヒカゲモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎・佐々木保
124	ウラジャノメ	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎
124	キバネセセリ	絶滅危惧Ⅰ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎・佐々木保
125	コキマダラセセリ	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
125	ホシチャバネセセリ	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅰ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎・佐々木保
126	オツネトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	長瀬 翔	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	要注意種	大浜祥治
126	グンバイトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	要注意種	大浜祥治
127	ベニイトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	-	-	-	-
127	ネアカヨシヤンマ	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	準絶滅危惧	大浜祥治	要注意種	三島秀夫
128	ナゴヤサナエ	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	要保護種	大浜祥治
128	ハネピロエブトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	長瀬 翔	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	要注意種	三島秀夫
129	キイロヤマトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	長瀬 翔	絶滅危惧Ⅱ類	祖田 周	要保護種	祖田 周
129	ハッチョウトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	大浜祥治	準絶滅危惧	祖田 周	要注意種	大浜祥治
130	コオイムシ	絶滅危惧Ⅱ類	林 成多	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	-	-
130	ズイムシハナカメムシ	絶滅危惧Ⅱ類	尾原和夫	絶滅危惧Ⅱ類	尾原和夫	-	-
131	ゴミアシナガサシガメ	絶滅危惧Ⅱ類	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
131	コエゾゼミ	絶滅危惧Ⅱ類	尾原和夫	絶滅危惧Ⅱ類	尾原和夫	-	-
132	サイカチマダラキジラミ	絶滅危惧Ⅱ類	林 成多	-	-	-	-
132	ハマベゴミムシ	絶滅危惧Ⅱ類	林 成多	-	-	-	-
133	コガタノゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅱ類	林 成多	絶滅危惧Ⅰ類	林 成多	-	-
133	オキチビハネカクシ	絶滅危惧Ⅱ類	門脇久志	絶滅危惧Ⅱ類	門脇久志	要注意種	福井修二
134	オオツノハネカクシ	絶滅危惧Ⅱ類	林 成多	-	-	-	-
134	アオハナムグリ島前亜種	絶滅危惧Ⅱ類	門脇久志	準絶滅危惧	門脇久志	-	-
135	ツヤネクイハムシ	絶滅危惧Ⅱ類	林 成多	-	-	-	-
135	ニッポンハナダカバチ	絶滅危惧Ⅱ類	前田泰生	絶滅危惧Ⅱ類	前田泰生	-	-
136	キバラハキリバチ	絶滅危惧Ⅱ類	前田泰生	絶滅危惧Ⅱ類	前田泰生	要保護種	杉浦直人・前田泰生
136	オオズグロメバエ	絶滅危惧Ⅱ類	前田泰生	絶滅危惧Ⅱ類	前田泰生	要保護種	杉浦直人・前田泰生
137	ギフチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎
137	ジャコウアゲハ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
138	スジボソヤマキチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	情報不足	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
138	カラスシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
139	ミヤマカラスシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	情報不足	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
139	ウスイロオナガシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
140	オナガシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
140	ヒロオビミドリシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎
141	ミドリシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
141	クモガタヒヨウモン	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
142	メスグロヒヨウモン	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
142	ミスジチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎・佐々木保
143	オオムラサキ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎・佐々木保
143	ヒメカゲ中部・近畿・中国地方亜種	絶滅危惧Ⅱ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎
144	ギンイチモンジセセリ	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
144	スジグロチャバネセセリ	絶滅危惧Ⅱ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	情報不足	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
145	ミヤマチャバネセセリ	絶滅危惧Ⅱ類	淀江賢一郎・坂田国嗣	情報不足	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
146	アオハダトンボ	準絶滅危惧	祖田 周	準絶滅危惧	祖田 周	要注意種	大浜祥治
146	ムスジイトンボ	準絶滅危惧	大浜祥治	準絶滅危惧	大浜祥治	-	-

掲載 ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
146	ホソミイトトンボ	準絶滅危惧	祖田 周	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
147	ムカシトンボ	準絶滅危惧	大浜祥治	準絶滅危惧	大浜祥治	要注意種	祖田 周
147	サラサヤンマ	準絶滅危惧	長瀬 翔	準絶滅危惧	祖田 周	要注意種	大浜祥治
147	アオヤンマ	準絶滅危惧	祖田 周	準絶滅危惧	祖田 周	要注意種	祖田 周
148	カトリヤンマ	準絶滅危惧	祖田 周	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
148	ルリボシヤンマ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	祖田 周	要注意種	祖田 周
148	ヒメサナエ	準絶滅危惧	大浜祥治	準絶滅危惧	大浜祥治	要注意種	大浜祥治
149	タバサナエ	準絶滅危惧	大浜祥治	準絶滅危惧	大浜祥治	-	-
149	キイロサナエ	準絶滅危惧	長瀬 翔	準絶滅危惧	大浜祥治	要注意種	祖田 周
149	ムカシヤンマ	準絶滅危惧	祖田 周	準絶滅危惧	祖田 周	要注意種	三島秀夫
150	エゾトンボ	準絶滅危惧	大浜祥治	-	-	-	-
150	ヒメアカネ	準絶滅危惧	祖田 周	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
150	ミヤマアカネ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
151	ウスバカマキリ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	山内健生	-	-
151	ハマスズ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	山内健生	-	-
151	ショウリョウバッタモドキ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	山内健生	-	-
152	セグロイナゴ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	山内健生	-	-
152	ヤマトマダラバッタ	準絶滅危惧	林 成多	-	-	-	-
152	ガロアムシ類	準絶滅危惧	門脇久志	準絶滅危惧	門脇久志	要注意種	門脇久志
153	マエグロハネナガウンカ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
153	シリアカハネナガウンカ	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-	-	-
153	アヤヘリハネナガウンカ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
154	エゾゼミ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
154	アカエゾゼミ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	要注意種	尾原和夫
154	ハルゼミ	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-	-	-
155	エゾハルゼミ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	要注意種	尾原和夫
155	ヒメハルゼミ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	要注意種	尾原和夫
155	エノキカイガラキジラミ	準絶滅危惧	林 成多	-	-	-	-
156	ヒメミズカマキリ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
156	ホッケミズムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	絶滅危惧Ⅱ類	尾原和夫	-	-
156	オオミズムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-	-	-
157	ウミミズカメムシ	準絶滅危惧	林 成多	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
157	オヨギカタビロアメンボ	準絶滅危惧	川野敬介	-	-	-	-
157	エサキアメンボ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	要保護種	村路雅彦
158	アカスジオオカスミカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
158	アダチアカサシガメ	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-	-	-
158	ハマベナガカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-	-	-
159	ヨツモンカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
159	シロヘリツチカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
159	ハマベツチカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-	-	-
160	フタテンカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	絶滅危惧Ⅱ類	尾原和夫	要注意種	林原毅一郎
160	アカアシクチブトカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
160	アオクチブトカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-	-	-
161	フトハサミツノカメムシ	準絶滅危惧	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
161	ハマベウスバカゲロウ	準絶滅危惧	林 成多	-	-	-	-
161	セアカオサムシ	準絶滅危惧	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
162	イズモメクラチビゴミムシ	準絶滅危惧	新部一太郎	-	-	-	-
162	タイシャクナガチビゴミムシ※	準絶滅危惧	新部一太郎	-	-	-	-
162	コマルケシゲンゴロウ	準絶滅危惧	林 成多	準絶滅危惧	林 成多	-	-
163	コオナガミズスマシ	準絶滅危惧	林 成多	-	-	-	-

掲載 ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
163	ミズスマシ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	林 成多	-	-
163	チュウブホソガムシ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	林 成多	-	-
164	ルリクワガタ	準絶滅危惧	福井修二	準絶滅危惧	福井修二	-	-
164	キンキコルリクワガタ	準絶滅危惧	福井修二	準絶滅危惧	福井修二	-	-
164	ヒメオオクワガタ	準絶滅危惧	福井修二	準絶滅危惧	福井修二	要注意種	福井修二
165	オオセンチコガネ	準絶滅危惧	鈴木謙治	準絶滅危惧	鈴木謙治	-	-
165	シナノエンマコガネ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	鈴木謙治	-	-
165	ミツノエンマコガネ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	鈴木謙治	-	-
166	ニセマグソコガネ	準絶滅危惧	鈴木謙治	準絶滅危惧	鈴木謙治	-	-
166	コブナシコブスジコガネ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	鈴木謙治	-	-
166	アマガダハナムケ (アマガダコガネ) ※	準絶滅危惧	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
167	オオチャイロハナムグリ	準絶滅危惧	福井修二	準絶滅危惧	福井修二	要保護種	福井修二
167	アヤスジミゾドロムシ	準絶滅危惧	林 成多	-	-	-	-
167	ケスジドロムシ	準絶滅危惧	林 成多	-	-	-	-
168	ハガマルヒメドロムシ	準絶滅危惧	林 成多	-	-	-	-
168	ヨコミゾドロムシ	準絶滅危惧	林 成多	-	-	-	-
168	イソジョウカイモドキ	準絶滅危惧	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
169	オオキノコムシ	準絶滅危惧	福井修二	準絶滅危惧	福井修二	要注意種	福井修二
169	マクガタテントウ	準絶滅危惧	星川和夫	準絶滅危惧	星川和夫・本田あい	要注意種	星川和夫
169	ペーツヒラタカミキリ	準絶滅危惧	福井修二	準絶滅危惧	福井修二	要注意種	門脇久志
170	スネケブカヒロコバネカミキリ	準絶滅危惧	門脇久志	準絶滅危惧	門脇久志	要保護種	門脇久志
170	ヨコヤマヒゲナガカミキリ	準絶滅危惧	福井修二	準絶滅危惧	福井修二	要注意種	福井修二
170	イッシキキモンカミキリ	準絶滅危惧	福井修二	準絶滅危惧	福井修二	要注意種	門脇久志・永幡嘉之
171	キンイロネクイハムシ	準絶滅危惧	林 成多	情報不足	林 成多	-	-
171	スゲハムシ	準絶滅危惧	林 成多	準絶滅危惧	林 成多	-	-
171	ヤマトスナハキバチ	準絶滅危惧	前田泰生	準絶滅危惧	前田泰生	-	-
172	キオビホナガスズマバチ本州亜種	準絶滅危惧	前田泰生	準絶滅危惧	前田泰生	要注意種	前田泰生・杉浦直人
172	キヌゲハキリバチ	準絶滅危惧	前田泰生	準絶滅危惧	前田泰生	-	-
172	チビトガリハナバチ	準絶滅危惧	前田泰生	準絶滅危惧	前田泰生	要注意種	前田泰生・杉浦直人
173	ネジロハキリバチ	準絶滅危惧	前田泰生	準絶滅危惧	前田泰生	-	-
173	シロスジコシブトハナバチ	準絶滅危惧	前田泰生	準絶滅危惧	前田泰生	要注意種	杉浦直人・前田泰生
173	ムネグロメバエ	準絶滅危惧	前田泰生	準絶滅危惧	前田泰生	-	-
174	オキナワルリチラス	準絶滅危惧	門脇久志	準絶滅危惧	門脇久志	要注意種	門脇久志
174	シロシモフリエダシャク	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
174	フジキオビ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
175	スカシサン	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
175	クロウスタビガ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
175	タツカカモクメシャチホコ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
176	ネズミホソバ	準絶滅危惧	松田隆嗣	絶滅危惧Ⅱ類	門脇久志	要保護種	大島弘・門脇久志
176	ホソバミツモンケンモン	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
176	クビグロケンモン	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
177	ナマリキリガ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
177	ムラサキミツボシキリガ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
177	ヨスジキリガ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
178	ツクシカラスヨトウ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
178	コシロシタバ	準絶滅危惧	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
178	クロシモフリアツバ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	要注意種	大島弘・門脇久志
179	コトラガ	準絶滅危惧	三島秀夫	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
179	オナガアゲハ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	情報不足	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
179	ツマグロキチョウ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-

掲載 ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
180	ゴイシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	情報不足	淀江賢一郎・坂田国嗣	-	-
180	ウラゴマダラシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
180	ウラキンシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
181	フジミドリシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
181	ウラジロミドリシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
181	ハヤシミドリシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
182	エゾミドリシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
182	クロミドリシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
182	ヒサマツミドリシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	要注意種	淀江賢一郎
183	キリシマミドリシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	絶滅危惧Ⅱ類	坂田国嗣・淀江賢一郎	要保護種	淀江賢一郎
183	スギタニルシジミ	準絶滅危惧	淀江賢一郎・坂田国嗣	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
183	ホシミスジ隠岐亜種	準絶滅危惧	淀江賢一郎	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
184	アサマイチモンジ	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-	-	-
184	オオチャバネセセリ	準絶滅危惧	坂田国嗣・淀江賢一郎	情報不足	坂田国嗣・淀江賢一郎	-	-
185	コバネコロギス	情報不足	大浜祥治	情報不足	山内健生	-	-
185	ハタケノウマオイ	情報不足	林 成多	情報不足	山内健生	-	-
185	カヤコオロギ	情報不足	林 成多	情報不足	山内健生	-	-
185	イソハサミムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
186	ムネアカアワフキ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
186	チッチゼミ	情報不足	尾原和夫	-	-	-	-
186	キスジハネビロウンカ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
186	アリヅカウンカ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
187	キボシマルウンカ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
187	カタビロクサビウンカ	情報不足	尾原和夫	準絶滅危惧	尾原和夫	-	-
187	キノカワハゴロモ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
187	スケバハゴロモ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
188	ヒメベッコウハゴロモ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
188	シャシャンボキジラミ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
188	ミズカメムシ	情報不足	川野敬介	-	-	-	-
188	ミヤケミズムシ	情報不足	尾原和夫	-	-	-	-
189	イトアメンボ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
189	キバネアシブトマキバサシガメ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
189	アシマダラアカサシガメ	情報不足	尾原和夫	-	-	-	-
189	クロバアカサシガメ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
190	オオアシナガサシガメ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
190	マダラカモドキサシガメ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
190	ヒゲナガサシガメ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
190	クビアカサシガメ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
191	ウデワユミアシサシガメ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
191	オオメダカナガカメムシ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
191	ヒメマダラナガカメムシ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
191	ノコギリカメムシ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
192	ウシカメムシ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
192	イシハラカメムシ	情報不足	尾原和夫	-	-	-	-
192	エゾツノカメムシ	情報不足	尾原和夫	情報不足	尾原和夫	-	-
192	カワラゴミムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
193	コハンミョウ	情報不足	福井修二	-	-	-	-
193	アイヌハンミョウ	情報不足	福井修二	-	-	-	-
193	コニワハンミョウ	情報不足	福井修二	-	-	-	-
193	ホソハンミョウ	情報不足	福井修二	-	-	-	-

掲載 ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
194	ノツメクラチビゴミムシ	情報不足	新部一太郎	-	-	-	-
194	ササジメクラチビゴミムシ	情報不足	新部一太郎	-	-	-	-
194	マシダナガゴミムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
194	オキナガゴミムシ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
195	ウミホソチビゴミムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
195	ウミミズギワゴミムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
195	マダラコガシラミズムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
195	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	情報不足	川野敬介	-	-	-	-
196	マルケシゲンゴロウ	情報不足	林 成多	情報不足	林 成多	-	-
196	ヒメミズスマシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
196	コミズスマシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
196	エゾコガムシ	情報不足	川野敬介	-	-	-	-
197	クロコブセスジダルマガムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
197	ヤマトモンシデムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
197	ウマツライソハネカクシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
197	ツマグロマルハナノミ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
198	ホソキマルハナノミ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
198	オニクワガタ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
198	マダラクワガタ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
198	ネプトクワガタ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
199	ムネアカセンチコガネ	情報不足	鈴木謙治	情報不足	鈴木謙治	-	-
199	ツノコガネ	情報不足	鈴木謙治	情報不足	鈴木謙治	-	-
199	クロオビマグソコガネ	情報不足	鈴木謙治	情報不足	鈴木謙治	要注意種	福井修二
199	セスジカクマグソコガネ	情報不足	鈴木謙治	情報不足	鈴木謙治	-	-
200	オキチャイロコガネ	情報不足	鈴木謙治	情報不足	鈴木謙治	-	-
200	オオタケチャイロコガネ※	情報不足	鈴木謙治	情報不足	鈴木謙治	-	-
200	アオアシナガハナムグリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
200	シラホシダエンマルトゲムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
201	ババチビドロムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
201	ヒゲナガヒラタドロムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
201	ヤマトタマムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
201	アオマダラタマムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	要注意種	福井修二・永幡嘉之
202	クロマダラタマムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
202	ガロアムネスジダンダラコメツキ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
202	オオベニホソヒラタコメツキ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
202	ムネアカツヤケシコメツキ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
203	カドワキツヤミズギワコメツキ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
203	ヒメボタル	情報不足	川野敬介	情報不足	林 成多	-	-
203	スジグロボタル	情報不足	川野敬介	-	-	-	-
203	ルリヒラタムシ	情報不足	福井修二	-	-	-	-
204	キイロテントウゴミシダマシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
204	オキツヤヒサゴミシダマシ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
204	クロオオハナノミ	情報不足	福井修二	-	-	-	-
204	クロゲンセイ	情報不足	皆木宏明	-	-	-	-
205	フタスジカタビロハナカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
205	クロソンホソハナカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
205	オオホソコバナカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
205	ヒゲシロホソコバナカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
206	クロサワヒメコバナカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
206	トラフホソバナカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-

掲載 ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
206	ルリボシカミキリ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
206	オオアオカミキリ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
207	ヤノトラカミキリ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
207	キュウシュウチビトラカミキリ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
207	モンクロベニカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
207	タキグチモモトホソカミキリ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
208	クビアカモモトホソカミキリ	情報不足	門脇久志・八幡浩二	絶滅危惧Ⅰ類	門脇久志・八幡浩二	-	-
208	アヤモンチビカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
208	ダイセンセダカコブヤハズカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
208	ハンノキカミキリ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
209	アサカミキリ	情報不足	福井修二	絶滅危惧Ⅰ類	福井修二	-	-
209	ヒメマルミツギリゾウムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
209	ミツギリゾウムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
209	バッキンガムカギアシゾウムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
210	タカハシトゲゾウムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
210	ババスゲヒメゾウムシ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
210	クロホシタマクモゾウムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
210	モジャモジャツチイロゾウムシ	情報不足	福井修二	情報不足	福井修二	-	-
211	フクイアナバチ	情報不足	皆木宏明	-	-	-	-
211	ウマノオバチ	情報不足	宮永龍一	情報不足	宮永龍一	-	-
211	ダルマアリ	情報不足	伊藤文紀・福井修二	-	-	-	-
211	キバジュズフシアリ	情報不足	伊藤文紀・福井修二	-	-	-	-
212	ケンランアリノスアブ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
212	ネグロクサアブ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
212	ゴハイニクバエ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
212	カラフトゴマフトビケラ	情報不足	門脇久志	情報不足	門脇久志	-	-
213	ギンボシツツトビケラ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
213	ビワアシエダトビケラ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
213	モリクサツミトビケラ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
213	ウジセトビケラ(ウジシメトビケラ)	情報不足	林 成多	-	-	-	-
214	アイミヤマシマトビケラ	情報不足	林 成多	-	-	-	-
214	ハマゴウノメイガ	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
214	ギンツバメ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
214	クロモンチビヒメシャク	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
215	ムネシロテンカバナミシャク	情報不足	松田隆嗣・三島秀夫	情報不足	三島秀夫	要注意種	大島弘・門脇久志
215	トガリバナミシャク	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
215	フタクスジエダシャク	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
215	ワタナベカレハ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
216	オナガミズアオ	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
216	ギンボシスズメ	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
216	スキバハウジャク	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
216	ナカスジシャチホコ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
217	エゾクシヒゲシャチホコ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
217	ウスジロドクガ	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
217	ナチキシタドクガ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
217	トラサンドクガ	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
218	シロソソバ	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
218	ニセオオコブガ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	要注意種	大島弘・門脇久志
218	ヒメネグロケンモン	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
218	スギタニゴマケンモン	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-



掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
219	ゴマシオケンモン	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
219	ウスズミケンモン	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
219	クビジロツメヨトウ	情報不足	大浜祥治	-	-	-	-
219	アヤモクメキリガ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
220	ムラサキハガタヨトウ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
220	キスジウスキヨトウ	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
220	トビイロアカガネヨトウ	情報不足	三島秀夫	-	-	-	-
220	ムラサキシタバ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
221	ナマリキシタバ	情報不足	松田隆嗣	-	-	-	-
221	ヨシノキシタバ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
221	ヒメアシプトクチバ	情報不足	三島秀夫	情報不足	三島秀夫	-	-
221	オオミドリシジミ	情報不足	坂田国嗣・澁江賢一郎	-	-	-	-

(今回の改訂により掲載対象外等となった種)

-	オオカワトンボ	-	-	準絶滅危惧	大浜祥治	-	-
-	マルタンヤンマ	-	-	準絶滅危惧	大浜祥治	-	-
-	オオルリボシヤンマ	-	-	準絶滅危惧	大浜祥治	要注意種	大浜祥治
-	アオサナエ	-	-	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
-	クロサナエ	-	-	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
-	コサナエ	-	-	準絶滅危惧	大浜祥治	-	-
-	トラフトンボ	-	-	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
-	タイリクアカネ	-	-	準絶滅危惧	大浜祥治	-	-
-	コノシメトンボ	-	-	準絶滅危惧	大浜祥治	-	-
-	キトンボ	-	-	準絶滅危惧	祖田 周	-	-
-	クツワムシ	-	-	準絶滅危惧	山内健生	-	-
-	カヤキリ	-	-	情報不足	山内健生	-	-
-	キュウシュウエゾゼミ	-	-	情報不足	尾原和夫	-	-
-	ハマダナガチビゴミムシ※	-	-	準絶滅危惧	門脇久志	要注意種	増田耕作・澁江賢一郎
-	ダイセンナガチビゴミムシ※	-	-	情報不足	福井修二	-	-
-	ミスミメクラチビゴミムシ	-	-	情報不足	福井修二	-	-
-	オキオサムシ	-	-	情報不足	福井修二	-	-
-	オキマイマイカブリ	-	-	情報不足	福井修二	-	-
-	ハマダラハルカ	-	-	情報不足	星川和夫	-	-
-	ウスベニトガリバ	-	-	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
-	ウスズミカレハ	-	-	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
-	ヒサゴズメ	-	-	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
-	コシロオビドクガ	-	-	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
-	シロフヒメケンモン	-	-	情報不足	三島秀夫	-	-
-	ウスアカヤガ	-	-	情報不足	三島秀夫	-	-
-	アミメキシタバ	-	-	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
-	ウスイロキシタバ	-	-	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
-	テングアツバ	-	-	準絶滅危惧	三島秀夫	-	-
-	オオウラギンスジヒョウモン	-	-	情報不足	坂田国嗣・澁江賢一郎	-	-
-	キマダラモドキ	-	-	情報不足	坂田国嗣・澁江賢一郎	-	-

(2004改訂により掲載対象外となった種)

-	アカスジオオメクラガメ	-	-	-	-	要注意種	尾原和夫
-	キバリゴマフエダシヤク	-	-	-	-	要注意種	大島弘・門脇久志
-	ムラサキツバメ	-	-	-	-	要注意種	澁江賢一郎

※ 105 ページ参照

【クモ類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
225	イソコモリグモ	絶滅危惧Ⅱ類	景山純孝	-	-	-	-
226	ワスレナグモ	準絶滅危惧	景山純孝	準絶滅危惧	景山純孝	-	-
226	キノボリトタテグモ	準絶滅危惧	景山純孝	絶滅危惧Ⅰ類	景山純孝	-	-
226	キジロオヒキグモ	準絶滅危惧	景山純孝	準絶滅危惧	景山純孝	-	-
227	ムロズミソレグモ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-
227	コマツエンマグモ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-
227	テナガマシラグモ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-
227	タカユヒメグモ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-
228	タイリクユウレイグモ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-
228	ムラクモヒシガタグモ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-
228	ツシマトリノフンダマシ	情報不足	景山純孝	-	-	-	-
228	ヤマトカナエグモ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-
229	アメイロハエトリ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-
229	カトウツケオグモ	情報不足	景山純孝	情報不足	景山純孝	-	-

【甲殻類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
233	ハマガニ	絶滅危惧Ⅰ類	桑原友春	-	-	-	-
234	ミナミテナガエビ	準絶滅危惧	桑原友春	絶滅危惧Ⅱ類	佐藤仁志	-	-
234	ヒラテナガエビ(ヤマトテナガエビ)	準絶滅危惧	桑原友春	-	-	-	-
234	ヒメヌマエビ	準絶滅危惧	桑原友春	-	-	-	-
235	ヤマトヌマエビ	準絶滅危惧	桑原友春	-	-	-	-
235	ミナミヌマエビ	準絶滅危惧	桑原友春	-	-	-	-
235	マメコブシガニ	準絶滅危惧	桑原友春	-	-	-	-
236	ベンケイガニ	準絶滅危惧	桑原友春	-	-	-	-
237	トゲナシヌマエビ	情報不足	桑原友春	-	-	-	-
237	タイワンヒライソモドキ	情報不足	桑原友春	-	-	-	-
237	フタバカクガニ	情報不足	桑原友春	-	-	-	-
237	シンジコスノウミナナフシ	情報不足	山内健生	情報不足	山内健生	-	-
238	ニシカワホラワラジムシ	情報不足	山内健生	情報不足	山内健生	-	-
238	ニホンハマワラジムシ	情報不足	山内健生	情報不足	山内健生	-	-
238	ニッポンヒイロワラジムシ	情報不足	山内健生	情報不足	山内健生	-	-
238	ニシカワハヤシワラジムシ	情報不足	山内健生	情報不足	山内健生	-	-
239	シロコシビロダンゴムシ	情報不足	山内健生	情報不足	山内健生	-	-

【陸・淡水産貝類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
243	ニシノシマガセル	絶滅危惧Ⅰ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅰ類	野津 大	要保護種	野津 大
243	オキビロウドマイマイ	絶滅危惧Ⅰ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅰ類	野津 大	要注意種	野津 大
244	アラハダシロマイマイ	絶滅危惧Ⅰ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅰ類	野津 大	要保護種	野津 大
244	カワシンジュガイ	絶滅危惧Ⅰ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅰ類	岡村一郎	要注意種	岡村一郎
245	オキムシオイガイ	絶滅危惧Ⅱ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大
245	オキゴマガイ	絶滅危惧Ⅱ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大
246	ヒメナミギセル	絶滅危惧Ⅱ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大
246	オキノクニキビガイ	絶滅危惧Ⅱ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
247	オキシメクチマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大
247	オキシシキマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大
248	オキマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類	戸田顕史	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大
249	ヤマクルマガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
249	アズキガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
249	イトウムシオイガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
250	オカムラムシオイガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
250	ヤママメタニシ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
250	オオゴマガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
251	ミズゴマツボ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	戸田顕史	-	-
251	クリイロキセルガイモドキ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
251	ハンジロギセル	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
252	カワモトギセル	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要注意種	岡村一郎
252	モリヤギセル	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要注意種	岡村一郎
252	オオタキコギセル(ヒメコギセル)	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要注意種	岡村一郎
253	シイボルトコギセル	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
253	ヘソアキコベソマイマイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	野津 大	要注意種	野津 大
253	ヤマタカマイマイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
254	ダイセンニシキマイマイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
254	トンガリササノハガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要注意種	岡村一郎
254	カラスガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	準絶滅危惧	岡村一郎	要注意種	岡村一郎
255	マツカサガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	-	-	-	-
255	ニセマツカサガイ	準絶滅危惧	戸田顕史	-	-	-	-
256	サイゴクピロウドマイマイ	情報不足	戸田顕史	情報不足	岡村一郎	要保護種	岡村一郎
256	イワミマイマイ	情報不足	戸田顕史	情報不足	岡村一郎	要注意種	岡村一郎

(今回の改訂により掲載対象外となった種)

-	ユウグレナミギセル	-	-	絶滅危惧Ⅱ類	野津 大	要注意種	野津 大
-	ナガタニシ	-	-	情報不足	岡村一郎	-	-
-	マルドブガイ	-	-	情報不足	岡村一郎	-	-

### 【サンゴ類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
259	イソバナ	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄	-	-
259	イボヤギ	準絶滅危惧	秋吉英雄	準絶滅危惧	秋吉英雄	-	-
259	ムツサンゴ	準絶滅危惧	秋吉英雄	-	-	-	-

今回の改訂により掲載対象外となった種

-	オノミチキサンゴ	-	-	準絶滅危惧	秋吉英雄	-	-
---	----------	---	---	-------	------	---	---

### 【淡水海綿類】

掲載ページ	種名	2014		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
263	シロカイメン	準絶滅危惧	益田芳樹	準絶滅危惧	益田芳樹	-	-
263	ヨコトネカイメン	準絶滅危惧	益田芳樹	準絶滅危惧	益田芳樹	-	-
264	ツツミカイメン	情報不足	益田芳樹	情報不足	益田芳樹	-	-

# 文 献

## 哺乳類文献

- 阿部 永 (1988) 日本産モグラ類の分類と類縁関係. 哺乳類科学, 28 (1) : 63-68.
- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 (1994) 「日本の哺乳類」. 195pp. 東海大学出版会.
- Abe, H. (1995) Revision of the Asian Mole of the Genus *Mogera*. *J. Mammal. Soc. Japan*, 20 (1) : 51-68.
- Abe, H. (1996) On the Specific names of the Japanese moles of the Genus *Mogera* (Insectivora, Talpidae). *Mammal Study*, 21: 115-123.
- Corbet, G. B. (1978) *The Mammals of the Palearctic Region: a taxonomic review*. British Museum (Natural History). 314pp. Cornell University Press.
- Ciles, R. H. (Ed.) (1971) *Wild life management techniques (3rd ed.)*. 633pp. The Wildlife Society, Washington.
- 藤原 仁 (1959) 比婆山・道後山周辺の哺乳類. 「比婆・船通・道後・帝釈. 郷土科学資」: 39-50. 比婆科学教育振興会.
- 船越公威 (1988) ノレンコウモリの活動期における生息場所と個体群動態. 地域総合研究, 16 (2) : 137-147. 鹿児島経済大学.
- 日高敏隆監修 (1996) 「日本動物大百科1・2」. 156 pp. , 155pp. 平凡社.
- 広島哺乳類談話会 (2000) 「広島県の哺乳類」. 169pp. 中国新聞社.
- 今泉吉晴 (1973) 失われゆく日本の野生動物記-カワウソ最後の生息地をさぐる. アニマ, 5: 5-16.
- 今泉吉典 (1969) 「原色日本哺乳類図鑑」. 196pp. 保育社.
- 今泉吉典 (1970) 「日本哺乳動物図説」. 350pp. 新思潮社.
- 今泉吉典 (1991) 「分類から進化論へ」. 286pp. 平凡社.
- 今西錦司 (1972) 「生物の世界」. 194pp. 講談社.
- 岩瀬純二 (1973) 山岳の主-カモシカを追って. アニマ, 8: 18-24.
- 岩瀬純二 (1978) 県内の哺乳類の概要. 動物分布調査報告書(哺乳類). 第2回自然環境保全基礎調査: 1-30. 鳥根県.
- 金森弘樹・井ノ上二郎・周藤靖雄 (1994) 鳥根半島弥山山地におけるニホンジカの生息環境・生息実態・被害発生の相互関係. 鳥根県林業技術センター研究報告, (45) : 35-46.
- 加藤貞享 (2003) 鳳来寺山のホンドモモンガの生息状況. 鳳来寺山自然科学博物館館報, (32) : 61-68.
- 加藤琢矛・大畑純二 (1994) 哺乳類. 木村コレクション隠岐産動物標本目録 (2). 隠岐の文化財, (11) : 1-10.
- 加藤嘉太郎 (1972) 「増訂改版家畜比較解剖図説 (第4版)」. 290pp. 養賢堂.
- 桑原一司・奥田雅史 (2002) 鳥根県瑞穂町におけるコウモリの越冬洞と繁殖洞. 高原の自然史, (7) : 59-83.
- 前田喜四雄 (1984) 日本産翼手目の採集記録 (I). 哺乳類科学, (49) : 55-78.
- 前田喜四雄 (1986) 日本産翼手目の採集記録 (II). 哺乳類科学, (52) : 79-97.
- 盛永俊太郎・安田健編・谷口澄夫解題 (1987) 隠岐・出雲・播磨・備前・備中. 享保元文諸国産物帳集成第Ⅶ巻9: 124-350. 科学書院.
- 中川顕允 (1820) 工藤忠孝複製 (1973) 石見外記 (全). 113pp. 石見地方未刊資料研究会. 鳥根県立大田高等学校図書館.
- 中島福男 (1997) 徳島県内におけるヤマネ発見の意義. 哺乳類科学, 37 (1) : 75-80. 日本哺乳類学会.
- 中島福男 (2001) 「日本のヤマネ」. 169pp. 信濃毎日新聞社.
- 直良信夫 (1965) 「日本産狼の研究」. 290pp. 校倉書房.
- 日本哺乳類学会編 (1997) 「レッドデータ日本の哺乳類」. 279pp. 日本哺乳類学会.
- 日本哺乳類学会種名・標本検討委員会・目名問題検討作業部会 (2003) 哺乳類の高次分類群および分類階級の日本語名称の提案について. 哺乳類科学, 43 (2) : 127-134.
- 小原秀雄 (1971) 「人類が生き残るために」. 205pp. 国土新書.
- 小原秀雄・川那部浩哉 (1999) 「対論-多様性と関係性の生態学」. 195pp. 農産漁村文化協会.
- 織田鉄一 (1994) スクラーズ (二糖類水解酵素) 活性から見た食虫類: とくにトガリネズミ亜科とジネズミ亜科について. 哺乳類科学, 34 (1) : 59-65.
- 大畑純二 (1983) 部分白化のコキクガシラコウモリ見つけた! 科学朝日, 43 (9) : 12.
- 大畑純二 (1984) 石見銀山の哺乳類-コウモリ. 郷土石見, (13) : 90-94.
- 大畑純二 (1986) 1982年に採集したネズミ類と食虫類. 鳥根野生研会報, (4) : 32-34.
- 大畑純二 (1988) 江津市内の廃坑C洞のコウモリ. 鳥根野生研会報, (5) : 15-18.
- 大畑純二 (1989) 鳥根県で初の、ノレンコウモリの日撃と採集. 鳥根野生研会報, (6) : 12.
- 大畑純二 (1989) 鳥根県におけるコウモリの分布. 鳥根野生研会報, (6) : 1-6.
- 大畑純二 (1990) 鳥根のコウモリ. 鳥根県立江津高校研究紀要, (2) : 25-32.
- 大畑純二 (2003) 鳥根県で初めて棲息が確認されたコモグラとミズラモグラ. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (1) : 3-8.
- 大畑純二 (2013) 三瓶山北の原で採集されたミズラモグラ. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (11) : 55-58.
- Riney, T. (1982) *Study and Management of Large Mammals*. 552pp. JOHN & SONS Ltd.
- 佐藤國康 (2002) 住宅難か電線のクランプカバーにいたヤマネ. 岡山自然保護センターだより, 11 (7) : 5.
- 沢田 勇 (1976) 条虫相からみた日本産キクガシラコウモリ科コウモリの分布に関する2, 3の知見. 動物学雑誌, 35: 40-155.
- 沢田 勇 (1984) 山陰地方における洞穴棲コウモリの分布及びそ

の内部寄生虫相. 奈良教育大学紀要, 33: 33-44.

沢田 勇 (1986) 隠岐諸島における洞穴棲コウモリの分布及びその内部寄生虫相. 奈良産大紀要, 33: 145-151.

Seton, E. T. (1925-28) 今泉吉晴訳 (1998) 「シートン動物誌」, 2: 77-292, 11: 137-190. 紀伊国屋書店.

芝田史仁 (2000) ヤマネ. 「冬眠する哺乳類」: 162-186. 東京大学出版会.

島根県環境生活部自然環境課 (1997) 「しまねレッドデータブック - 島根県の保護上重要な野生動植物 - (動物編)」. 417pp. 島根県.

島根県農林水産部 (1980) 「島根県に分布する獣類」. 105pp. 島根県.

島根県農林水産部森林整備課 (1986, 1991, 1993, 1996) 島根半島弥山山地におけるニホンジカに関する調査, I: 1-56, II: 1-54, III: 1-42, IV: 1-32. 島根県.

清水善吉 (1989) モモンガの演習林. アニマ, (206) : 62-63.

土屋公幸 (1988) 日本産モグラ科の染色体による分類. 哺乳類科学, 28 (1) : 49-61.

Wemmer, C. M. (Ed.) (1982) *Biology and Management of the Cervidae*. 577pp. Smithsonian Institution Press, London.

山根 積 (1976) カワウソ. 大國天河内教育史: 181. 大國天河内教育史をつくる会.

吉田博一 (1961) 大山の小哺乳類に関する二、三の知見. 哺乳動物学雑誌, 14 (4-6) : 127-131.

## 鳥類文献

東 淳樹 (2005) 里山の猛禽類 - サシバ概観. BIRDER, 19 (6) : 20-25.

バードライフ・アジア編 (2003) 「絶滅危惧種・日本の野鳥 バードライフ編レッドデータブックに見る日本の鳥」. 207pp. 東洋館出版社.

遠藤公男編 (1993) 「夏鳥たちの歌は、今」. 262pp. 三省堂.

遠藤孝一・平野敏明 (1983) 栃木県におけるノビタキの繁殖分布と繁殖環境. STRIX, (2) : 12-18.

遠藤孝一・平野敏明 (1986) 栃木県におけるオオジシギの分布と生息環境. STRIX, (5) : 47-52.

遠藤孝一・平野敏明 (1990) 市街地周辺におけるツミの繁殖記録と営巣環境. 日本鳥学会誌, (39) : 35-39.

雁を保護する会 (1994) 圏央道とオオヒシクイについて. 雁のたより, (43) : 13-16.

濱田義治 (1966) イワミセキレイの記録. 野鳥, (243) : 401.

濱田義治・長廻哲雄・森田 進・石本賢治・安井賢次 (1994) 「しまねの野鳥II」. 123pp. 山陰中央新報社.

濱田義治・長廻哲雄・森田 進・佐藤仁志 (1984) 「しまねの野鳥」. 123pp. 山陰中央新報社.

林 宏・岡田 徹 (1992) わが国におけるコアジサシの繁殖状況. STRIX, (11) : 157-168.

林 正敏 (1982) 長野県におけるヤイロチョウの繁殖初記録. STRIX, (1) : 123-124.

日高敏隆監修/樋口広芳・森岡弘之・山岸 哲編 (1996a) 「日本動物大百科 鳥類I」. 182pp. 平凡社.

日高敏隆監修/樋口広芳・森岡弘之・山岸 哲編 (1996b) 「日本動物大百科 鳥類II」. 180pp. 平凡社.

東 陽一・桑原和之・金井 裕 (1996) コアジサシ *Sterna albifrons* の営巣地の現状と保全策. STRIX, (14) : 143-157.

樋口広芳 (1992) カラスバト - 密猟にさらされる照葉樹林の黒いハト. アニマ, (242) : 41.

平野敏明・安井さち子 (2001) 渡良瀬遊水地周辺における冬期のチュウビの食性. STRIX, (19) : 43-47.

広島県 (2012) 「広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) - レッドデータブックひろしま2011-」. 633pp.

<http://www.wbsj.orj/activity/conservation/endangered-species/bfs-census/#summary>

飯田知彦 (1991) オオジシギの繁殖行動と生息環境. STRIX, (10) : 31-50.

飯田知彦 (1992) 電柱を営巣場所にするブッポウソウの繁殖分布. STRIX, (11) : 99-108.

飯田知彦 (2006) ブッポウソウの巣箱かけプロジェクト. BIRDER, 20 (6) : 43-45.

池田善英・井上陽一・須藤一成・夜久保徳・安田亘之・久保上宗次郎・遠間真弓 (1990) 若狭湾における営巣ハヤブサの狩猟行動と給餌行動. STRIX, (9) : 15-22.

池田善英・須藤一成・真崎 健 (1992) 石川県加賀地方におけるハチクマとオオタカの繁殖記録. STRIX, (11) : 353-355.

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 「日本の野鳥550 山野の鳥」. 359pp. 文一総合出版.

石部 久 (1992) ヤマセミ河川構造によって採食成功率に変化が. アニマ, (242) : 45.

石本賢治 (2009) 島根県におけるウチヤマセンニューウの繁殖記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (12) : 343-346.

石塚 徹 (1990) 金沢市におけるアカモズの亜種間交雑例. STRIX, (9) : 71-75.

出雲市トキによるまちづくり推進協議会 (2011) 「出雲市トキによるまちづくり構想」. 19pp.

神保健次 (1985) 初めて記録をとったヤマセミの子育て. アニマ, (148) : 73-79.

香川敏明 (1990) なわばりのしくみを調べる. アニマ, (212) : 22-24.

Kaname Kamiya and Kiyooki Ozaki (2002) Satellite Tracking of Bewick's Swan Migration from Lake Nakaumi, Japan. *Waterbirds*, (25) : 128-131.

金井 裕・磯部清一・成末雅恵・桑原和之 (1991) 東京湾におけるコアジサシの繁殖地の分布変化. STRIX, (10) : 263-267.

環境庁 (1981) 「日本産鳥類の繁殖分布」. 554pp.

環境省 (2004) 希少猛禽類調査 (イヌワシ・クマタカ) の結果について. 報道発表資料.

環境省 (2012) 環境省第4次レッドリスト. 鳥類.

環境省自然環境局 (2013) 「第43回ガンカモ類の生息調査報告書」. 195pp.

環境省自然環境局生物多様性センター (2006) 隠岐諸島. 平成17年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (モニタリングサイト1000) 海鳥調査業務報告書: 4-16.

- 環境省自然環境局生物多様性センター (2011) 隠岐諸島. 平成22年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (モニタリングサイト1000) 海鳥調査業務報告書:68-82.
- 環境省自然環境局生物多様性センター (2013) 平成24年度 (第44回) /都道府県別羽数確定値. ガンカモ類の生息調査.
- 環境省自然環境局野生生物課 (2010) 改訂レッドリスト付属説明資料.鳥類.
- 環境省自然環境局野生生物課編 (2002) 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—2鳥類」. 278pp.
- 叶内拓哉・安部直哉・植田秀雄 (1998) 「山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥」. 623pp. 山と溪谷社.
- 加藤琢矛 (1995) 木村コレクション隠岐産動物標本目録 (3) 鳥類 (第1部). 隠岐の文化財, (12) : 1-29.
- 加藤琢矛 (1996) 木村コレクション隠岐産動物標本目録 (3) 鳥類 (第2部). 隠岐の文化財, (13) : 1-18.
- 川上和人 (2002) ミゾゴイが絶滅する日. 野鳥,67 (6) :13-15.
- 川上和人 (2005) サシバが空から消える時. BIRDER,19 (6) :30-33.
- 川上和人 (2009) ミゾゴイ. バードリサーチニュース, (6) 12: 4-5.
- 川上和人・樋口広芳 (2003) 日本の低山に生息するミゾゴイ *Gorsachius goisagi*, オオタカ *Accipiter gentilis*, サシバ *Butastur indicus* の個体数推移の推定 (英文). 山階鳥類学雑誌,35:19-29.
- 川上洋一 (2007) 「絶滅危惧の野鳥事典」. 232pp. 東京堂出版.
- 川本美千夫・澤田千晶・角永 登 (1993) オシドリによる橋脚の穴利用. STRIX, (12) : 231-233.
- 川名国男 (2012) 「ミゾゴイ〜その生態と習性〜」. 165pp. ジャパンプリント株式会社.
- 建設省中国地方建設局出雲工事事務所 (1997) 「斐伊川水系の鳥類」. 171pp.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸 (2000) 「日本の野鳥550 水辺の鳥」. 351pp. 文一総合出版.
- 清棲幸保 (1978a) 「増補改訂版日本鳥類大図鑑I」. 652pp. 講談社.
- 清棲幸保 (1978b) 「増補改訂版日本鳥類大図鑑II」. 654pp. 講談社.
- 清棲幸保 (1978c) 「増補改訂版日本鳥類大図鑑III」. 536pp. 講談社.
- 国際湿地保全連合 (2012) 「世界の水鳥の個体群推定, 第5版 (the Waterbird Population Estimates online database)」
- 米田重玄 (1990) 繁殖期の行動を見る. アニマ, (212) : 36-38.
- 小海途銀二郎 (1974) 猛禽クマタカの巣を追って. アニマ, (15) : 5-18.
- 久野公啓 (2006) ハチクマってどんな鳥?ハチクマの八不思議. BIREDR,20 (10) :19-33.
- 呉地正行 (1983) 日本にはオオヒシクイのほうが多かった. アニマ, (129) : 18-22.
- 黒田治男 (1991) ヤマセミのとまり場の利用様式. STRIX, (10) : 51-61.
- 真木広造・大西敏一 (2000) 「日本の野鳥590」. 654pp. 平凡社.
- 美馬秀夫・中村正博・中坂学夫 (1988) アカショウビンがスズメバチの古巣で繁殖. STRIX, (7) : 283-284.
- 宮林泰彦 (1994) 野生動物保護における国際協力—北東アジアにおけるガン類個体群の現状とその保護—. 雁のたより, (43) : 3-12.
- 森 茂晃・佐藤仁志 (2003) 斐伊川・神戸川水系におけるヤマセミの営巣状況. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 51-58.
- 森 茂晃・佐藤仁志 (2005) ヤマセミの造巣場所選択について. ホシザキグリーン財団研究報告, (8) : 247-253.
- 森本 栄・飯田知彦 (1992) クマタカの生態と保護について. STRIX, (11) : 59-90.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男 (1995) 「図鑑日本のワシタカ類」. 631pp. 文一総合出版.
- 中林光生 (1980) 湿田のタマシギ. アニマ, (86) : 13-19.
- 中村浩志 (2004) 「甕れ、ブッポウソウ」:199pp. 山と溪谷社.
- 中村浩志 (2006) ブッポウソウの未来. BIRDER, 20 (6) : 20-29.
- 中村浩志・田畑孝宏 (1990) ブッポウソウの雛の食物. 日本鳥学会誌, (38) : 131-139.
- 中村登流・中村雅彦 (1995a) 「原色日本野鳥生態図鑑 <水鳥編>」. 304pp. 保育社.
- 中村登流・中村雅彦 (1995b) 「原色日本野鳥生態図鑑 <陸鳥編>」. 301pp. 保育社.
- 根岸啓二監修 (1978) 「鳥根県鳥類目録」. 鳥根県.
- 日本鳥学会 (2000) 「日本鳥類目録 改訂第6版」. 345pp.
- 日本鳥学会 (2012) 「日本鳥類目録 改訂第7版」. 438pp.
- 日本野鳥の会 (2009) カンムリウミスズメ事業報告 (1995年度〜2008年度). 28p
- 日本野鳥の会 (2010) カンムリウミスズメ保護プロジェクト 2009年度事業報告. 47pp.
- 日本野鳥の会 (2011) カンムリウミスズメ保護プロジェクト 2010年度事業報告. 48pp.
- 日本野鳥の会 (2013) カンムリウミスズメ保護プロジェクト 2012年度事業報告. 30pp.
- 日本野鳥の会広島県支部 (1982) 西中国山地鳥類調査報告. STRIX, (1) : 113-119.
- 日本野鳥の会鳥根県支部 (1997) 「しまねの鳥」. 184pp.
- 日本野鳥の会山口県支部 (1990) 「山口県版鳥類繁殖地図調査報告書」. 337pp.
- 西村昌彦 (1979) カワセミとヤマセミの造巣場所選択について. 山階鳥類研究所研究報告書, (54) : 39-48.
- 大谷善啓・脇坂英弥 (1998) 鳥根県東部におけるヤマセミの営巣状況. ホシザキグリーン財団研究報告, (2) : 231-234.
- 小川光昭・湯川 仁 (1976) 広島県備北地方の鳥類 (2). 比和町立科学博物館研究報告, (19) : 5-8.
- 岡山県生活環境部自然環境課 (2009) 「岡山県版レッドデータブック2009 動物編」. 416pp.
- 阪本周一 (1991) 岩場を渡り歩くクロサギ. 日本の生物, (52) : 36-37. 文一総合出版.
- 佐藤仁志 (1989) 鳥根県のガン類. 雁のたより, (32) : 6-9.
- 佐藤仁志編 (1985) 「宍道湖の自然」. 179pp. 山陰中央新報社.
- 佐藤仁志・濱田義治・長廻哲雄 (1986) 大社町におけるミサゴの繁殖記録について. 鳥根野生生物研究会報, (4) : 54-55.
- 佐藤仁志・森 茂晃・八幡浩二 (2012) 隠岐諸島におけるカンムリ

## 両生類・爬虫類文献

- ウミズズメ *Synthliboramphus wumizusume* の生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) : 299-306.
- 嶋田 忠 (1985) 緑の樹林に餌を求めるアカシヨウビン. アニマ, (148) : 68-72.
- 島根県 (1975) 「出雲砂質海岸島根県自然環境保全地域学術調査報告書」. 32pp.
- 島根県環境生活部景観自然課 (1997) 「しまねレッドデータブック- 島根県の保護上重要な野生動植物- (動物編)」. 417pp.
- 島根県農林水産部林政課 (1970) 「島根県に分布する鳥類」. 74pp.
- 白木彩子 (2013) 北海道におけるオジロワシの繁殖の現状と保全上の課題. オホーツクの生態系とその保全 (桜井ほか編著) : 319-324.
- 鈴木 明 (2005) 希少猛禽類調査 (クマタカ) から見えてきたこと. BIRDER, 19 (2) : 32-33.
- 鈴木勝利・嶋田哲郎 (2012) 宮城県北部の湖沼におけるマガン個体数の季節変化. 伊豆沼・内沼研究報告, (6) : 63-69.
- 高野伸二 (1980) 「野鳥識別ハンドブック」. 336pp. 日本野鳥の会.
- 高野伸二 (1981) 「カラー写真による日本産鳥類図鑑」. 481pp. 東海大学出版会.
- 高野伸二編 (1986) 「日本の野鳥」. 591pp. 山と溪谷社.
- 武下雅文 (1996) 日本におけるズグロカモメの生息記録. STRIX, (14) : 182-185.
- 鳥取県生物学会編 (2012) 「レッドデータブックとっとり改訂版」. 337pp. 鳥取県生活環境部公園自然課.
- 内田 映 (1997) 「島根県の鳥類」. 75pp. 報光社.
- 内田 博・松田 喬 (1990) ヨシゴイの集団繁殖. 日本鳥学会誌, (39) : 53-61.
- 植田陸之 (1991) 都市近郊でツミを見るには. 日本の生物, (5) 3: 18-20. 文一総合出版.
- 植田陸之 (1996) ツミの繁殖成功率の低下とその原因. STRIX, (14) : 65-71.
- 植田陸之・遠藤孝一・東條一史・永石文明 (1991) オオタカ・ハイタカ・ツミ3種を比べる. 日本の生物, (50) : 22-29. 文一総合出版.
- 上野吉雄・保井 浩・山本 裕 (1996) 広島県芸北町の鳥類. 高原の自然史, (1) : 291-393.
- 山口県環境生活部自然保全課 (2002) 「レッドデータブックやまぐち 山口県の絶滅のおそれのある野生生物」. 511pp.
- 山本健次郎・三宅貞敏 (1992) 光市牛島におけるカラスバトの生息状況と生態. 山口県立山口博物館研究報告, (20) : 1-25.
- 山本浩伸・大畑孝二 (2000) 石川県片野鴨池におけるトモエガモの個体数変動と採食場所への飛びたち行動. STRIX, (18) : 55-63.
- 山階鳥類研究所編 (1975) 「この鳥を守ろう」. 285pp. 霞会館.
- 山崎 亨 (1992) クマタカ多様な森林生態系を必要とする大型猛禽. アニマ, (242) : 38.
- 米川 洋 (1987) 日本ハヤブサ物語. アニマ, (172) : 82-85.
- 林成多 (2013) 隠岐諸島西ノ島の高崎山でオキタゴガエルを撮影. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8) : 110.
- 平田市立鯉淵小学校猪目分校 (2000) 「カジカガエルと猪目分校の子どもたちII」. 64pp.
- 生駒義博編 (1973) 「日本ハンザキ集覧」. 478pp. 津山科学教育博物館.
- 岩田貴之・西川完途・松井正文・吉川夏彦 (2007) 島根半島のヒダサンシヨウウオについて. 爬虫両棲類学会報, 2007 (2) : 129-132.
- 井上明日香・秋吉英雄・内藤富夫 (2003) 島根県のタゴガエル *Rana tagoi tagoi* の生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 193-199.
- 川内一憲・藤井豊 (2010) 福井県でナガレタゴガエルを発見した経緯と状況について. 福井陸水生生物会報, (17) : 7-15.
- 小原二郎 (1979) オオサンシヨウウオ. 「第2回自然環境保全基礎調査-動物分布調査報告書(両生類・は虫類) 全国版」 : 41-45. 日本自然保護協会.
- 前田憲男・松井正文 (1989) 「日本カエル図鑑」. 223pp. 文一総合出版.
- 前田憲男・松井正文 (1999) 「改訂版日本カエル図鑑」. 223pp. 文一総合出版.
- 松橋利光・奥山風太郎 (2002) 山溪ハンディ図鑑9 「日本のカエル」. 191pp. 山と溪谷社.
- 松野 焯・大氏正巳 (1979) 飼育下におけるオオサンシヨウウオ *Megarobatorachus japonica* (Temminck) 幼生の成長. 山陰文化研究紀要, (19) : 105-115.
- 松野 焯 (1997) オオサンシヨウウオ. 「しまねレッドデータブック- 島根県の保護上重要な野生動植物- (動物編)」 : 122-123. 島根県環境生活部景観自然課.
- 瑞穂町教育委員会編 (1995) 「ザ・ハンザケシンポジウム in 瑞穂報告書」. 86pp. 瑞穂町.
- 瑞穂町教育委員会編 (1999) 「瑞穂町エコミュージアムシンポジウム報告書」. 47pp.
- 内藤順一 (2013) 船通山の小型サンシヨウウオ. 比婆科学, (247) : 1-6, 3pls.
- 野津 大 (1983) 「隠岐の生物」. 245 pp. 読売新聞社松江支局
- 岡田 純・田中 浩・徳永浩之・岡田珠美 (2009) 中国地方西部からのナガレタゴガエルの初記録. 爬虫両棲類学会報, 2009 (2) : 101-103.
- 大野正男 (1991) 日本産主要動物の文献目録 (23) オオサンシヨウウオ (1). 東洋大学紀要教養課程篇 (自然科学), (35) : 61-135.
- 大氏正巳 (1978) オキサンシヨウウオに関する知見. 動物と自然, 8 (9) : 25-29.
- 大氏正巳 (1988) 「島根の環境保全」. 270pp. 島根県環境保健部.
- 大氏正巳・松野 焯 (1976) 島根県におけるオオサンシヨウウオについて. 山陰文化研究紀要, 16 : 1-11. 島根大学.
- 大氏正巳・松野 焯 (1976) 島根県におけるオオサンシヨウウオ *Megarobatorachus japonicus* (Temminck) について. 山陰

文化研究紀要, (16) : 1-11.

大氏正巳・松野 焯・杵村喜則・稲葉 茂 (1977) 島根県能義郡  
広瀬町西谷川に棲息するオオサンショウウオ *Megarobatora-*  
*chus japonicus* (Temminck) の行動について. 山陰文化研究  
紀要, (17) : 109-116.

大氏正巳・松野 焯・杵村喜則・稲葉 茂 (1979) 飼育下における  
オオサンショウウオ *Megarobatorachus japonicus*  
(Temminck) 幼生の成長. 山陰文化研究紀要, (19) : 105-115.

佐藤井岐雄 (1943) 「日本産有尾類総説」. 520pp. 日本出版社.

島田孝 (2005) 隠岐島前の西ノ島からオキタゴガエルの初記録. ホ  
シザキグリーン財団研究報告, (8) : 218.

島根県編 (1975) オオサンショウウオ生息地. 「自然環境保全地  
域学術調査報告 (候補地) 2」 : 28.

島根県邑智郡瑞穂町教育委員会編 (1995) 「特別天然記念物オ  
オサンショウウオ生息分布調査報告書」. 24pp. +18figs.

玉湯町教育委員会 (2002) 「玉湯のモリアオガエル-社会教育施設  
の機能向上を図るための事業実施報告書」. 12pp.

内山りゅう・前田憲男・沼田研児 (2002) 「日本の両生爬虫類」.  
335pp. 平凡社.

## 汽水・淡水魚類文献

Aizawa, T., Hatsumi, M., and K. Wakahama (1994) Systematic  
study on the *Chaenogobius* species (family Gobiidae) by  
analysis of allozyme polymorphisms. *Zoological Science*,  
11 (3) : 455-465.

Arai, R., Fujikawa, H. and Y. Nagata (2007) Four New  
Subspecies of *Acheilognathus* Bitterlings (Cyprinidae:  
*Acheilognathinae*) from Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci.*,  
Ser. A, Suppl. 1, pp. 1-28.

道津喜衛 (1989) シンジコハゼ (仮称) の生態と種苗生産. 「ハゼ  
科魚類の保護・移植に関する研究成果報告書」 : 1-14.

江田伸司・坂本明弘 (1993) 隠岐の淡水魚類調査. 倉敷市立自然  
史博物館研究報告, (8) : 47-50.

後藤悦郎・三浦常廣・森山 勝 (2002) 淡水魚増殖試験 -ゴギ種  
苗生産試験-. 島根県内水面水産試験場事業報告, (4) : 187-  
190.

林 成多・山口勝秀・中野浩史・寺岡誠二・越川敏樹 (2007) 出  
雲平野の水路における水生生物調査 (2005年). ホシザキグ  
リーン財団研究報告, (10) : 1-18.

Higuchi, A. and A. Goto (1996) Genetic evidence supporting  
the existence of two distinct species in the genus  
*Gasterosteus* around Japan. *Environ. Biol. Fish.*, 47 : 1-16.

樋口正仁 (2003) 日本列島周辺のイトヨ族魚類の遺伝的多様性と  
分化. Pages 49-60 in 後藤 晃・森 誠一編, トゲウオの自  
然史-多様性の謎とその保全-. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

平塚純一 (1988) 大根島の幻のメクラハゼ近況. 島根県野生生物研  
究会会報, (4) : 29-30.

平塚純一・桑原弘道 (2000) 中海本庄水域の魚類相とその特性.  
陸水学雑誌, 61 (2) : 109-118.

今西錦司 (1967) イワナ属その日本における分布. 「自然生態学的

研究」. 3-46. 中央公論社.

石川正樹・久米 学 (2010) イトヨ日本海型と太平洋型の高水温  
耐性実験. ホシザキグリーン財団研究報告, (13) : 265-268.

石飛 裕・平塚純一・桑原弘道・山室真澄 (2000) 中海・宍道湖  
における魚類および甲殻類相の変動. 陸水学雑誌, 61 (2) :  
129-146.

岩田正俊 (1934) 大根島溶岩隧道内の動物相. 日本学術協会報  
告, 9 (2) : 301-304.

岩田明久 (1999) 遺伝的に著しく異なるドンコ2グループの高津川  
水系およびその近隣河川における分布. 魚類学雑誌, 46 (2) :  
109-114.

Iwata A. and H. Sakai (2002) *Odontobutis hikimius* n. sp.: A  
new freshwater Goby from Japan, with a key to species  
of the genus. *Copeia*, 2002 (1) : 104-110.

神代哲朗 (1963) 益田市遠田川のイトヨに就いて. 「高津川総合学  
術調査研究報告」 : 112-113. 島根県立益田高等学校.

神代哲朗 (1965) 高津川の魚類 (補遺). 「高津川総合学術調査  
研究報告/補編」 : 42-44. 島根県立益田高等学校.

神代哲朗・波多野捷二・椋 勇三 (1963) 高津川の魚類. 「高津川  
総合学術調査研究報告」 : 77-97. 島根県立益田高等学校.

上田常一 (1967) 「宍道湖の動物たち」 : 51-118. 上田常一先生退  
官記念事業会.

環境省自然環境局野生生物課 (2003) 「改訂・日本の絶滅のおそ  
れのある野生生物-レッドデータブック-4 汽水・淡水魚類」.  
230pp. 財団法人自然環境研究センター.

環境庁 (1987) 第3回自然環境保全基礎調査「河川調査報告書  
32」. 99pp.

河端政一 (1976) 食性から見たヤマメとゴギの相互関係. 「山岳森  
林生態学 今西錦司博士古希記念論文集」 : 417-432. 中央  
公論社.

Kawanabe H., Y. Tezuka Saito, T. Sunaga, I. Maki and M.  
Azuma (1968) Ecology and Biological Production of  
Lake Naka-umi and Adjacent Reagions. 4. Distribution of  
Fishes and their Foods. *Spec. Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*  
Series II. Part II : 45-73.

川那部浩哉 (1969) 中海水系の魚たち. 「川と湖の魚たち」 : 60-  
82. 中央公論社.

川那部浩哉・水野信彦 (1989) 「日本の淡水魚」. 720pp. 山と溪  
谷社.

北川忠生・吉岡 基・柏木正章・岡崎登志夫 (2000) ミトコンド  
リアDNA分析からみた中国地方におけるイシドジョウ河川集団  
間の遺伝的分化. ホシザキグリーン財団研究報告, (4) : 63-  
72.

Kitagawa, T., Watanabe, M., Kobayashi, T., Yoshioka, M.,  
Kashiwagi, M. and T. Okazaki (2001) Two genetically  
divergent groups in the Japanese spined loach, *Cobitis*  
*takatsuensis*, and their phylogenetic relationships among  
Japanese *Cobitis* inferred from mitochondrial DNA  
analyses. *Zoological Science*, 18 (2) : 249-259.

越川敏樹 (1983) 変わりゆく宍道湖と中海 (気になる魚カワヤツ  
メ・イトヨ). 淡水魚, (9) : 76-81.

越川敏樹 (1989) 汽水域に生息するハゼ科魚類の分布形態につい



- て、「公益信託Takaraハーモニストファンド平成元年度研究活動報告」: 101-114.
- 越川敏樹 (1992) 宍道湖・中海水域におけるハゼ類の分布 (1) - チブ属4種とウキゴリ属2亜種について-. 汽水湖研究, (2): 49-56.
- 越川敏樹 (1997a) 汽水魚・淡水魚. 「しまねレッドデータブック・動物編」. 142-143. 島根県景観自然課
- 越川敏樹 (1997b) 中海本庄水域の魚類. LAGUNA, (4): 19-27.
- 越川敏樹 (1998) 本庄工区と北部承水路浅域における底生魚類相. 汽水湖研究, (6): 35-40.
- 越川敏樹 (1999) 中海南岸域における魚類の生息状況-安来市論田における小型定置網の漁獲内容から-. ホシザキグリーン財団研究報告, (3): 239-249.
- 越川敏樹 (2000) 中海における魚介類の生息状況の変遷-小型定置網漁の10数年間の变化より-. ホシザキグリーン財団研究報告, (4): 203-214.
- 越川敏樹 (2001) 中海北東部3地点における底棲性魚類の分布の比較. ホシザキグリーン財団研究報告, (5): 131-138.
- 越川敏樹 (2011) 宍道湖・中海における魚類の減少状況-減少のいちじるしい10種の傾向から-ホシザキグリーン財団研究報告, (14): 319-325.
- 越川敏樹・佐藤仁志 (1986) 宍道湖に生息するウキゴリ属の1種 (第1報). 淡水魚, (12): 51-55.
- 越川敏樹・佐藤仁志・水野信彦 (1985) 島根県におけるヨシノボリのすみ分け. 淡水魚, (11): 100-107.
- 越川敏樹・田中幾太郎 (1997) 汽水魚・淡水魚. 「しまねレッドデータブック-島根県の保護上重要な野生動植物-(動物編)」. 138-167. 島根県環境生活部景観自然課.
- 松浦啓一 (1994) 「国立科学博物館淡水魚類標本目録 旧資源科学研究所標本 (3)」. 335pp.
- 松浦啓一・土井 敦・篠原現人 (2000) 「国立科学博物館所蔵標本に基づく日本産淡水魚類の分布」. 256pp.
- 宮地伝三郎編 (1962) 「中海干拓・淡水化事業に伴う魚族生態調査報告」. 50-57, 149-179.
- 宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦 (1976) 「原色日本淡水魚類図鑑」. 462pp. 保育社.
- 瑞穂町教育委員会編 (1990) 「江川水系出羽川オヤニラミ生息調査報告書」. 8pp.
- 水野信彦 (1972) 高津川水系での魚類の棲息状態. 「高津川水系の生物に関する総合開発調査」: 113-212. 島根県漁政課.
- 長田芳和・藤川博史 (1998a) アカヒレタビラ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (V)」: 20-24. 日本水産資源保護協会.
- 長田芳和・藤川博史 (1998b) アカヒレタビラ. 水産庁編「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」: 120-121. 日本水産資源保護協会.
- 長田芳和・藤川博史・福原修一 (1981) 鳥取県多鯨が池で採集されたアカヒレタビラについて. 日本生物地理学会報, 36: 48-53.
- 中坊徹次編 (2013) 「日本産魚類検索全種の同定第三版」. 2428pp. 東海大学出版会.
- Nakajima, J. (2012) Taxonomic study of the *Cobitis striata* complex (Cypriniformes, Cobitidae) in Japan. Zootaxa, 3586: 103-130.
- 中島 淳・州澤 讓・清水孝昭・斉藤憲治 (2012) 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59 (1): 86-95.
- 中村守純 (1969) アカヒレタビラ. 「日本のコイ科魚類」: 42-44. 資源科学研究所, 東京.
- 中村守純 (1993) 「原色日本淡水魚検索図鑑」. 262pp. 北隆館.
- 日本水産資源保護協会編 (1998) 「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」. 437pp. 水産庁.
- 野津 大 (1983) 「隠岐の動物」: 64-68. 読売新聞社松江支局.
- 農水省編 (1983) 宍道湖・中海の魚類. 「宍道湖・中海淡水化に関する水理水質及び生態の挙動について-中間報告-」: 625, 635-638.
- Oshiumi, C. and J. Kitamura (2009) The reproductive ecology of the southern red tabira bitterling *Acheilognathus tabira jordani* in Japan. Journal of Fish Biology, 75, 655-667
- 鴛海智佳・北村淳一・星川和夫 (2003) アカヒレタビラ山陰地域個体群の生活史. 2003年度魚類学会年会講演要旨: 66.
- 碓井星二・加納光樹・荒山和則・中里亮治 (2010) 北浦の沿岸帯におけるクルマサヨリ仔稚魚の生息場所利用パターン. 日本生物地理学会会報, (65): 29-38.
- 斉藤憲治・藤川博史・長田芳和 (1988) 島根県大田市大原川から採集されたアカヒレタビラ. 日本生物地理学会, 43: 57-60.
- 酒井治己・矢部 衛 (2003) トゲウオ科魚類の現状と問題点. Pages 23-45 in 後藤 晃・森 誠一編, トゲウオの自然史-多様性の謎とその保全-. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- Sakai, H., Iwata, A., Byeon, H-K. (2002) Genetic relationships between Japanese and Korean *Odontobutis obscura*. *Biogeography*, (4): 39-44.
- Saitoh, K. and Aizawa, H. (1987) Local Differentiation within the Striated Spined Loach (the *striata* Type of *Cobitis taenia* Complex). Japanese Journal of Ichthyology, 34, 334-345.
- 佐藤仁志 (1989) 島根県におけるウキゴリ属の一種 *Chaenogobius taranetzii* について. 島根野生生物研究会報, (6): 26-33.
- 佐藤仁志編 (1985) 「宍道湖の自然」. 180pp. 山陰中央新報社.
- 佐藤仁志・林 公義・岩田明久 (2001) 宍道湖とシンジコハゼ. 14-17. In: 山口勝秀・佐々木興・淀江賢一郎 (編) 「宍道湖自然館第1回特別展 ハゼのなかまたち 展示解説 ハゼの世界に多様性を見る」. 島根県立宍道湖自然館ゴビウス/(財)ホシザキグリーン財団. 34pp.
- 島根県 環境生活部景観自然課 (1997) 「しまねレッドデータブック-島根県の保護上重要な野生動植物-(動物編)」. 417pp.
- 島根県河川課 (1999a) 「江の川水系河川水辺の国勢調査 (魚介類編) 八戸川・家古屋川・出羽川」. 49pp.
- 島根県河川課 (1999b) 「高津川水系河川水辺の国勢調査 (魚介類編) 高津川・白上川・匹見川・津和野川」. 27pp.
- 島根県景観自然課 (1982) 「河川調査報告書-三刀屋川・三隅川・三瓶川・匹見川」. 127pp.
- 島根県景観自然課 (1991) 「河川調査報告書-飯梨川・神戸川・周布川・静間川・伯太川・三隅川・八戸川・出羽川」. 148pp.

- 島根県景観自然課 (1994) 「河川調査報告書-意宇川・田儀川・敬川・浜田川・益田川-」. 63pp.
- 島根県景観自然課 (1995a) 「河川調査報告書-隠岐諸島-」. 99pp.
- 島根県景観自然課 (1995b) 汽水・淡水魚類15種. 「島根県の貴重野生動植物リスト」. 34pp.
- 島根県景観自然課 (1997) 「河川調査報告書 (島根半島)」. 88pp.
- 島根県景観自然課 (1998) 「河川調査報告書 (江の川水系)-小谷川・晩谷川・三谷川・早水川・沢谷川・角谷川・細貝川・堂所川・亀谷川-」. 67pp.
- Stevenson, D. E. (2002) Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genera *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes: Perciformes: Gobiidae), with the description of a new species. *Species Diversity*, 7 (3) : 252-312.
- 鈴木寿之・陳 義雄 (2011) 田中茂穂博士により記載されたヨシノボリ属3種. 大阪市立自然史博物館研報. 65 : 9-24.
- 田中幾太郎 (1982) 「消えゆく六日市の野生動物」: 11-33. 自刊.
- 田中幾太郎 (1996) 「いのちの森・西中国山地」: 37-83. 光陽出版社.
- Yamada, M., M. Higuchi and A. Goto (2001) Extensive introgression of mitochondrial DNA found between two genetically divergent forms of threespine stickleback, *Gasterosteus aculeatus*, around Japan. *Environ. Biol. Fish.*, 61 : 269-284.
- 山口勝秀 (1999) 島根県の淡水魚 (既報の整理). ホシザキグリーン財団研究報告, (3) : 1-38.
- 山口勝秀 (2003) 島根県におけるカワアナゴの初採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 64.
- 安江安宣 (1967) 奥出雲のイワナ-世界的にみたゴギの問題点-. 釣りの友, (198) : 40-45.
- 安江安宣 (1981) 南限地帯のイワナ. 「別冊フィッシング-イワナ・ヤマメ」: 59-66.
- 吉郷英範 (2001) 隠岐島後で採集された陸水域の魚類. 比和科学博物館研究報告, (40) : 1-15. +3pls.
- 吉郷英範・内藤順一・中村慎吾 (2001) 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 比和科学博物館標本資料報告, (2) : 119-168.
- 吉郷英範・中村慎吾 (2002) 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (II). 比和科学博物館標本資料報告, (3) : 85-136. + 1pl.
- 吉郷英範・中村慎吾 (2003) 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). 比和科学博物館標本資料報告, (4) : 31-75.
- (財)ホシザキグリーン財団監修 (2002) 「みんなの宍道湖～自然観察ガイドブック～」. 143pp.
- 秋山耕治 (2006) 思わずにんまり紀行—島根県. SPINDA, (21) : 33-36.
- 秋山達朗 (1973) 私の採集した島根県の鞘翅類目録. 邇摩高校研究紀要, (4) : 92-96.
- 秋山達朗 (1974) 私の採集した島根県の鱗翅類目録. 邇摩高校研究紀要, (5) : 1-6.
- 秋山美文・坂本 充 (2000) 広島県の水生食肉甲虫類 (コウチュウ目, オサムシ上科). 比和科学博物館研究報告, (39) : 5-33.
- Anderson, N. M. and J. R. Spence (1992) Classification and phylogeny of the Holarctic water strider genus *Limnoporus* Stal (Hemiptera, Gerridae). *Can. J. Zool.*, 70 : 753-785.
- 青木英勝 (1963) 高津川周辺の蝶類分布. 「高津川総合学術調査研究報告」: 115-117.
- 青木新吾 (2010) 島根県初記録となるエゾコガムシの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13) : 110.
- 青木新吾・川野敬介 (2010) 島根県2例目となるムツボシツヤコツブゲンゴロウの記録. (13) : 82.
- 青戸 賢 (1973) ヒサマツミドリシジミを内尾谷で採集. *Longicorn*, (5) : 12.
- 有田 齊・前田善広 (2012a) 「珠玉の標本箱 (1) ウラキンシジミ・アイノミドリシジミ・メスアカミドリシジミ・ヒサマツミドリシジミ」. 33pp.
- 有田 齊・前田善広 (2012b) 「珠玉の標本箱 (2) ミドリシジミ・クロミドリシジミ・ヒロオビミドリシジミなど」. 37pp.
- 有田 齊・前田善広 (2012c) 「珠玉の標本箱 (4) キマダラルリツバメ」. 37pp.
- 朝比奈正二郎 (1965) 「原色日本昆虫大図鑑Ⅲ」. 358pp. , 156pls. 北隆館.
- 朝比奈正二郎 (1974) 島根県産モイワサナエの正体. *TOMBO*, (17) : 23.
- 浅野 隆・小椋英勇 (2000) 中国山地のオナガシジミの変異. 蝶研フィールド, 7 (15) : 15-19.
- 伴 一利 (2010) マンシュウアカネを島根県で採集. 山口のむし, (9) : 152.
- 近木英哉 (1962) 島根県の昆虫目録Ⅰ鱗翅目. 島根農科大学研究報告, 10 (A) : 36-45.
- 近木英哉 (1963) 島根県の昆虫目録Ⅲ鞘翅目 (コガネムシ科). 島根農科大学研究報告, 12 (A) : 24-31.
- 近木英哉 (1971a) 「山陰の蝶」松江今井書店. 145pp.
- 近木英哉 (1971b) 三瓶の昆虫. 「三瓶山の自然」: 46-53.
- 近木英哉 (1974) 赤名湿地性植物群落の昆虫. 「自然環境保全地域候補地学術調査報告書第1集」: 22-28.
- 近木英哉 (1977) 浅利黒松海岸の昆虫. 「島根県自然環境保全地域候補地学術調査報告書第4集」: 17-34.
- 近木英哉 (1980a) 島根県のガロアムシ. すかしば, (14) : 1-2.
- 近木英哉 (1980b) 「島根半島の昆虫 (改訂版)」. 86pp.
- 近木英哉 (1980c) 隠岐島の昆虫. 自然環境保全地域候補地学術調査報告書 (第2集) : 35-39.
- 近木英哉 (1981) 「山陰の虫たち」. 205pp, 近木英哉教授定年退職記念事業会.
- 近木英哉 (1985) 島根県におけるルリクワガタ属について. すかし

## 昆虫類文献

- 相田正人 (1989-1990) 濃尾平野のナゴヤサナエ (1) ~ (7). 月刊むし, (211) : 9-13., (223) : 8-13., (227) : 11-15., (230) : 12-15., (232) : 20-25., (234) : 12-18., (236) : 11-17.

- ば, (24) : 8.
- 近木英哉 (1987) 「三瓶山の昆虫」. 32pp. たたら書房.
- 近木英哉 (1992) 江津市でベーツヒラタカミキリを採集. すかしば, (37/38) : 66.
- 近重克幸・福井修二・鈴木謙治・山崎克友 (1988) 鷓鴣半島・ホンシュウジカの糞に集まる食糞性コガネムシ. すかしば, (30) : 45-48.
- 土畑重人・淀江賢一郎・奥島雄一 (2008) 島根県産ヒメシロチョウ標本の発見と記録の検証. すかしば, (56) : 65-77.
- 江崎佛三 (1941) 隠岐に於ける注目すべき二三の昆虫. 動物学雑誌, 53 (6) : 303-305.
- 江崎佛三ほか (1957) 「原色日本蛾類図鑑」. Vol.1:1-318, pls.1-64; Vol.2:1-304, pls.65-136. 保育社.
- 筆谷憲一 (2007) 島根県・鳥取県・岡山県北部の蝶観察記録2006年. すかしば, (55) : 41-43.
- 筆谷憲一 (2008) 島根県・岡山県・山口県の蝶観察記録2007年. すかしば, (56) : 27-28.
- 筆谷憲一 (2009) 島根県・鳥取県・岡山県北部の蝶観察記録2008年. すかしば, (57) : 4-5.
- 筆谷憲一 (2010) 島根県・鳥取県・岡山県北部・広島県北部の蝶観察記録2009年. すかしば, (58) : 14-15.
- 筆谷憲一 (2013) 蝶たちとの出会いを求めて 山陰および隣接地域2011年~2012年. すかしば, (60) : 36-37.
- 藤井正治 (2003) 安来市佐久保町の野生生物相第II報コウチュウ目その他の採集目録. すかしば, (51) : 17-29.
- 藤村俊彦 (1957) いずも虫だより. 新昆虫, 10 (5) : 20-24.
- 藤村俊彦 (1959) モイワサナエ, 島根県に産す. 新昆虫, 12 (5/6) : 45.
- 藤村俊彦 (1960) 知られざる中国地方の好採集地I. Insect Magazine, (48) : 23-26.
- 藤村俊彦 (1966a) 隠岐島未記録のカミキリムシ (Ⅲ). 昆虫, 34 (2) : 157.
- 藤村俊彦 (1966b) 島根県のカミキリムシ. 比和科学博物館研究報告, (9) : 9-17.
- 藤村俊彦 (1969) 島根県のギフチョウ. 昆虫と自然, 4 (4) : 38.
- 藤岡知夫 (1981) 「改訂増補・日本産蝶類大図鑑」. 図版編152pls., 解説編329pp., 資料編163pp. 講談社.
- 藤岡知夫 (1998) 世界のホシザキグリーン財団研究報告, (2) : 263-274.
- 藤岡知夫・築山洋・千葉秀幸 (1997) 「日本産蝶類及び世界近縁種大図鑑・I」. 図版編162pls., 解説編302pp., 資料編196pp. 出版芸術社.
- 藤田 宏 (2007) 島根県・隠岐島後のハナカミキリ2種. 月刊むし, 454:11.
- 藤田 宏 (2010) 「世界のクワガタムシ大図鑑」解説編472pp. むし社
- 藤田 宏 (2013) 「藤田宏の解体虫書」. 168pp. むし社.
- 藤原淳一 (2008) 松江市島根町でネグロクサアブを採集. すかしば, (56) : 26.
- 藤原淳一・沼田京子 (2009) 隠岐諸島および島根半島の流水性甲虫相. ホシザキグリーン財団研究報告, (12) : 259-272.
- 福田晴夫ほか (1982) 「原色日本蝶類生態図鑑I」. 277pp. 保育社.
- 福田晴夫ほか (1983) 「原色日本蝶類生態図鑑II」. 325pp. 保育社.
- 福田晴夫ほか (1984a) 「原色日本蝶類生態図鑑III」. 373pp. 保育社.
- 福田晴夫ほか (1984b) 「原色日本蝶類生態図鑑IV」. 373pp. 保育社.
- 福井修二 (1979) 私が採集した島根県のカミキリムシ. すかしば, (12) : 31-32.
- 福井修二 (1987) 松江市のオオハナカミキリの記録. すかしば, (27) : 10.
- 福井修二 (1988) 隠岐諸島甲虫採集リスト (1988.6). すかしば, (30) : 39-41.
- 福井修二 (1990) 赤来町でオオキノコムシを採集. すかしば, (34) : 17.
- 福井修二 (1994a) 瑞穂町の甲虫類. 「島根県瑞穂町の昆虫類」: 27-37. 島根県昆虫研究会.
- 福井修二 (1994b) 三瓶山の鞘翅目. 「三瓶山の昆虫相とその保全」: 31-57. 島根県昆虫研究会.
- 福井修二 (2006) 飯南町でゲンバイトンボが採集される. すかしば, (55) : 50.
- 福井修二 (2012a) ケンランアリノスアブの採集記録. すかしば, (59) : 39-40.
- 福井修二 (2012b) ショウリョウバッタモドキの記録. すかしば, (59) : 43.
- 福井修二・鬼頭剛・鈴木謙治・山崎克友 (1989) 匹見産昆虫目録 4. 匹見町の鞘翅目 (2). すかしば, (31) : 13-18.
- 福間一雅 (1996) ハネビロエゾトンボ採集の報告. すかしば, (43/44) : 51.
- 二橋 亮・二橋弘之 (2002) イソアカネ極東亜種 (マンシュウアカネ) の日本国内における記録. Tombo, (45) : 29-30.
- 後藤和夫・田中正文 (1989) クロミドリシジミの新分布地. 山口県の自然, 5 (9) : 45-46.
- 後藤雅人 (1969) ゴマシジミの新産地. NECYDALIS, 2 (5) : 18.
- 後藤 伸 (1987) 和歌山県産ハネナガウンカ類. 南紀生物, 29 (1) : 58-61.
- 浜田 康・井上 清 (1985) 「日本産トンボ大図鑑」. 図版編371pls., 解説編 364pp., 講談社.
- 波根康夫 (1957) クロシジミの採集記録. 千鳥, (3) : 29.
- 長谷川仁 (1965) シリアカハネナガウンカ. 「原色昆虫百科図鑑」: 338. 集英社, 東京.
- 長谷川道明 (2011) 昆虫類IV. 豊橋市立自然史博物館所蔵日本産チョウ類標本目録I. 豊橋市立自然史博物館資料集, (23) : 1-163.+4pls.
- 橋本説朗 (2007) 日本のヒメシジミの変異. 蝶研フィールド, (252) : 15-30.
- 端山 武 (2010a) 島根県益田市喜阿弥海岸からのウミミズギワゴムシ (コウチュウ目オサムシ科) の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13) : 147-148.
- 端山 武 (2010b) 島根県出雲市坂浦海岸からのイソハサミムシ (ハサミムシ目ハサミムシ科) の記録. ホシザキグリーン財団

- 研究報告, (13) : 149-150.
- 端山 武 (2010c) 島根県におけるイソジョウカイモドキ (コウチュウ目ジョウカイモドキ科) の採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13) : 151-154.
- 端山 武 (2012a) 浜山公園のオオヒョウタンゴミムシの記録. すかしば, (59) : 29.
- 端山 武 (2012b) 隠岐の島町のウミミズカメムシの記録. すかしば, (59) : 38-39.
- 林 匡夫・森本 桂・木元新作 (1984) 原色日本甲虫図鑑Ⅳ 438 pp. 保育社
- 林 成多 (2005) 「改訂しまねレッドデータブック」に掲載された直翅類の観察記録. すかしば, (53) : 38-39.
- 林 成多 (2006a) オオヒョウタンゴミムシ成虫の出現時期について. すかしば, (54) : 65
- 林 成多 (2006b) 飯南町赤名のツヤネクイハムシとバババゲヒメゾウムシ. すかしば, (54) : 65.
- 林 成多 (2006c) 「改訂しまねレッドデータブック」に掲載された直翅類の観察記録 (その2) . すかしば, (54) : 66-67.
- 林 成多 (2007a) 島根県におけるバッタ・コオロギ・キリギリス類の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (10) : 119-141.
- 林 成多 (2007b) 島根県雲南市水次町ふるさと尺の内公園の昆虫相 (2) レッドデータブック掲載種と希少種の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (10) : 225-229.
- 林 成多 (2009a) 「大万木山産キウシュウエゾゼミ」の標本はコエゾゼミ. すかしば, (58) : 16.
- 林 成多 (2009b) 日本産ヒラタドロムシ科概説. ホシザキグリーン財団研究報告, (12) : 35-85.
- 林 成多 (2010) 島根県産カミキリムシ類の文献記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13) : 17-43.
- 林 成多 (2011a) 島根県のセミ類に関する知見. ホシザキグリーン財団研究報告, (14) : 87-96.
- 林 成多 (2011b) 島根県の水生甲虫. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (1) : 1-117.
- 林 成多 (2012a) 山陰のダルマガムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) : 53-63.
- 林 成多 (2012b) 島根県の海浜におけるアリジゴク4種の分布. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) : 201-206.
- 林 成多 (2012c) 島根県松江市大橋川産のツマグロマルハナノミについて. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) : 248.
- 林 成多 (2012d) 島根県松江市でバッキンガムカギアシゾウムシを採集. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) : 274.
- 林 成多 (2013) 島根県の海岸性甲虫. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (9) : 1-98.
- Hayashi, M. (2007) Ecological notes on the adult stage of *Graphelmis shirahatai* (Nomura) (Coleoptera, Elmidae). *Elytra*, Tokyo, 35 (1) : 102-107.
- Hayashi, M. (2013) Descriptions of Larva and Pupa of *Graphelmis shirahatai* (Nomura) (Coleoptera, Elmidae). *Elytra*, New Series, 3 (1) : 53-63.
- Hayashi, M., S. D. Song and T. Sota (2013) Patterns of hind-wing degeneration in Japanese riffle beetles (Coleoptera: Elmidae). *Eur. J. Entomol.* 110 (4) : 689-697.
- 林 成多・門脇久志 (2012) 隠岐諸島の甲虫目録 (1930-2011). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (5) : 1-120.
- 林 成多・門脇久志 (2013) 隠岐諸島産直翅系昆虫類 (昆虫綱多新翅亜節) の目録. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8) : 75-90.
- 林 成多・門脇久志・深谷 治・近見芳恵 (2011) 隠岐諸島における昆虫類分布調査. ホシザキグリーン財団研究報告, (14) : 299-306.
- 林 成多・松田隆嗣・門脇久志・深谷 治・近見芳恵 (2012) 隠岐諸島における昆虫分布調査Ⅱ. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) : 287-297.
- 林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔 (2003) 中国山地およびその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 1-25.
- 林 成多・山口勝秀 (2012) グンバイトンボを旧瑞穂町内で確認. すかしば, (59) : 33.
- 林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵 (2013) 隠岐諸島における昆虫類分布調査 (2009-2012年調査のまとめ). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8) : 1-73.
- 林 成多・藤原淳一・島田 孝・米田友祐・六車恭子・成田行弘 (2006) 隠岐諸島の昆虫相に関する一資料. ホシザキグリーン財団研究報告, (9) : 245-263.
- 林 成多・宮武頼夫 (2012) 山陰地方のキジラミ図鑑. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (6) : 1-97.
- 林 成多・宮武頼夫・門脇久志 (2011) 島根県のキジラミ相. ホシザキグリーン財団研究報告, (14) : 213-250.
- 林 正美 (1998) 埼玉県の中翅類. 埼玉県昆虫誌 I : 147-234.
- 林 正美 (1999) キノカワハゴロモの本州および九州からの記録. *Rostria*, (48) : 38.
- 林 正美・税所康正 (2011) 「日本産セミ科図鑑」. 220pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 林 長閑編 (1985) 「生物大図鑑 昆虫II甲虫」. 399pp. 世界文化社.
- 林 長閑 (1986) 「甲虫の生活」. 177pp. 築地書館.
- 林原毅一郎 (1992) 知夫里島のカメムシ類. すかしば, (37/38) : 61-63.
- 平野幸彦 (1989) *Micropeplus satoi* Y. Watanabe (ハネカクシ科) 隠岐に産す. 甲虫ニュース, (81) : 3.
- 平島義宏監修 (1989) ガロアムシ目. 「日本産昆虫総目録」: 61. 九州大学農学部昆虫教室・日本野生生物研究センター.
- 平嶋義宏・緒方一夫 (1992) 昆虫, この素晴らしき生き物たち. 「昆虫採集学」: 7-121.
- 平田信夫 (1990) 昭和20年代の島根県のカミキリムシ目録. すかしば, (34) : 1-11.
- 広江寅三 (1931) 三瓶山採集行. ユーグレナ, 2 (3) : 17-19.
- 広島県 (1995) 「広島県の絶滅のおそれのある野生生物」. 437pp.
- 広渡一成・渡辺一雄 (2000) 西日本産ギフチョウ *Leuhdorfia japonica* のミトコンドリアND5 遺伝子に認められたスニップス (一塩基多型: SNPs) とその意味. ホシザキグリーン財団研究報告, (4) : 215-224.
- 蛭川憲男 (1985) 「日本の昆虫2. クロシジミ」. 145pp. 文一総合出版.

- 日浦 勇 (1962) 日本におけるジャノメチョウ科の採集記録. 大阪市立自然史博物館業績, (74) : 29-63.
- 日浦 勇・宮武頼夫ほか (1977) 「原色日本昆虫図鑑 下巻」. 385pp. 保育社.
- 星川和夫 (1994) 瑞穂町の蛾類群集. 「鳥根県特定地域野生生物緊急調査報告書, 瑞穂町の昆虫類」: 58-71.
- 星川和夫 (2001) ウスイロヒョウモンモドキ三瓶山個体群の保全計画 (試案). 淀江賢一郎編「ウスイロヒョウモンモドキの衰亡と保護-激減する草索性チョウ類の保護をめざして-結果報告書」: 81-84.
- 星川和夫 (2005) 三瓶山のウスイロヒョウモンモドキ: モニタリングの結果と保全対策. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (3) : 89.
- 星川和夫ほか (1994) 三瓶山の環境構造: 蛾類相からの解析. 「鳥根県特定地域野生生物緊急調査報告書, 三瓶山の昆虫相とその保全」: 113-140.
- 星川和夫・門脇和也 (2003) イワタメクラチビゴミムシの追加記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 98.
- 星川和夫・中蘭洋行 (2005) 三瓶山のウスイロヒョウモンモドキ: モニタリングの結果と保全対策の概要. 日本鱗翅学会中国支部報, (6) : 5.
- 星川和夫・小倉久和 (1998) 松江市近郊の植生の異なるため池における水生昆虫群集. ホシザキグリーン財団財団研究報告, (2) : 235-253.
- 星川和夫・津下麻樹 (1998) 西日本におけるマクガタテントウの生活史—分布南限における気候適応の破綻—. 中国昆虫, (12) : 31-35.
- 星川和夫・森 孝之 (2000) 西日本におけるカワトンボ属2種の河川空間利用: ある混生地における移植実験の結果から. *New Entomol.*, 49 (1/2) : 18-25.
- 船城保明 (1988) 鳥根県未記録のカミキリ2種. すかしば, (29) : 12.
- 市田忠夫 (1996) 青森県のウンカ下目. *Celastrina*, (31) : 41-76.
- 市川顕彦 (1995) 中国地方のヒシバツタ類. すかしば, (41/42) : 23-24.
- 市川顕彦 (2002) 2002年版、日本産直翅目チェックリスト. ぱったりぎす, (131) : 33-49.
- 市川顕彦・門脇久志 (1998) 隠岐諸島の昆虫17. 隠岐諸島の直翅類. すかしば, (46) : 47-55.
- 市川顕彦・村井貴史・本田恵理 (2000) 総説・日本のコオロギ. ホシザキグリーン財団研究報告, (4) : 257-332.
- 池田一喜 (1993) 1992年の採集日記から. 蝶州, (6) : 13-16.
- 井村有希・水沢清行 (2013) 「日本産オサムシ図説」. 368pp. 六本脚.
- 今坂正一・中條道崇 (1984) ヒサゴゴミムシダマシ属の系統と進化 (8). 月刊むし, (157) : 23-29.
- 稲田和久・門脇久志・祖田 周・大浜祥治 (2001) 隠岐諸島の昆虫19. 隠岐・島後のカワゲラ類 (第1報). すかしば, (49) : 71-79.
- 稲田和久・祖田 周 (1999) 鳥根県斐伊川水系のカワゲラ相 (予報). ホシザキグリーン財団研究報告, (3) : 131-140.
- 猪又敏男 (1990) 「原色蝶類検索図鑑」. 223pp. 北隆館.
- 猪又敏男 (2005) 日本の蝶 (17) キチョウ. 月刊むし, (408) : 33-37.
- 猪又敏男・池田真澄・岸田泰則・板垣有而・金田吉高 (1986) 「大図録・日本の蝶」. 499pp.+86pls. 竹書房.
- 井上 寛ほか (1982) 「日本産蛾類大図鑑」. 968pp.+556pp.+393pls. 講談社.
- Inoue, H. (1998) A new species of the *Herpetogramma* Ledere (*Pyraustinae*, *Crambidae*) From Japan. *Trans. Lepid. Soc. Japan*, 51 (4) : 316-318.
- 井上雅仁・三島秀夫・大畑純二 (2009) 赤名湿地でみられる動植物について (中間報告). 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (7) : 37-52.
- 井上雅仁・三島秀夫・大畑純二 (2011) 世界遺産石見銀山遺跡周辺で確認された動植物目録. 三瓶自然館研究報告, (9) : 49-75.
- 犬飼拓展 (2013) 雨の中の宝石-中国地方、蝶の旅.SPINDA, (28) : 10-12.
- 石田明儀 (1968) 出雲市のゼフィルス. *Necydalis*, 1 (2) : 8.
- 石田明儀・西田秀行 (1980) イワタメクラチビゴミムシの記録. すかしば, (13) : 31.
- Ishikawa, T. (1998) A New Species of the Genus *Polytoxus* (Heteroptera, Reduviidae) from Japan. *Jpn. J. syst. Ent.*, 4 (2) : 325-330.
- 石川 忠ほか編 (2012) 「日本原色カメムシ図鑑第3巻」. 573pp. 全国農村教育協会.
- 石川佳宏 (2004) ギフチョウ属とその食草カンアオイ属文献資料一覧. ホシザキグリーン財団研究報告, (7) : 179-260.
- 石本信博・佐々木保 (1979) 浜田市で採集したギンイチモンジセセリとクロヒカゲモドキ. すかしば, (12) : 30.
- 石谷正字・門脇久志 (2000) ゴミムシ相およびその生物学的研究 (4) 鳥根半島のゴミムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (4) : 27-39.
- 一色周知監修 (1969) 「原色日本蛾類幼虫図鑑 (上)」. 237 pp. 保育社.
- 一色周知監修 (1969) 「原色日本蛾類幼虫図鑑 (下)」. 237 pp. 保育社.
- 板垣 治 (2008) 鳥根県安来市でキマダラルリツバメを採集. すかしば, (56) : 32.
- 板倉宏文 (1970) 浜山にて得た甲虫2種. *Necydalis*, 3 (1) : 9.
- 板倉宏文 (1984) フタスジカタビロハナカミキリを採集. すかしば, (22) : 25.
- 伊藤文紀・久保田直哉 (1984) 匹見産昆虫目録1. 匹見町の鱗翅目. すかしば, (21) : 1-14.
- 伊藤 宏 (1986) 三瓶山でウラキンシジミを採集. すかしば, (25) : 14.
- 伊藤 宏・三島秀夫 (2000) 鳥根県三瓶山のウスイロヒョウモンモドキ. 24-27. In: 淀江賢一郎 (編) 「検討会討議資料集 ウスイロヒョウモンモドキの衰亡と保護-激減する草索性チョウ類の保護をめざして-」. (財) ホシザキグリーン財団, 94 pp.
- 伊藤 寿 (2005) 鳥根県鳥根半島でウラナミジャノメを採集. 月刊むし, (418) : 18.
- 伊藤 寿 (2006a) 鳥根県におけるホシミスジとウラナミジャノメの採集例. すかしば, (54) : 15.
- 伊藤 寿 (2006b) 中国地方のホシミスジの謎. 日本鱗翅学会中国支部報, (7) : 4-6.

- 伊藤 寿 (2007) 鳥根県浜田市・江津市でホシミスジを採集. すかしば, (55) :32.
- 岩田久二雄 (1936) 擬鼻高蜂と鼻高蜂の習性. 昆虫, 10 (5) :233-250.
- 和泉浩行 (1985a) 赤来町の鞘翅目 (I) -中間報告-. すかしば, (23) :11-16.
- 和泉浩行 (1985b) 赤来町の鞘翅目 (II) -中間報告-. すかしば, (24) :5-7.
- 和泉浩行 (1985c) 赤来町でウラキンシジミを採集. すかしば, (24) :7.
- 和泉浩行 (1988) 赤来町の蝶類 -赤名・谷地区を中心にして-. すかしば, (29) :1-6.
- 門脇久志 (1958) 隠岐島昆虫目録. 謄写自刊. 8pp.
- 門脇久志 (1968) 隠岐島の昆虫1. スネケブカヒロコバナカミキリの生態. 採集と飼育, (30) :91-99.
- 門脇久志 (1976) 隠岐島の昆虫2. 隠岐島の蝶類. すかしば, (6) :3-23.
- 門脇久志 (1977a) 隠岐島の蝶類 (補遺1). すかしば, (7) :14.
- 門脇久志 (1977b) 隠岐島の昆虫3. 隠岐島のカミキリムシ. すかしば, (7) :15-38.
- 門脇久志 (1977c) 隠岐島の昆虫4. 隠岐島のトンボ類. すかしば, (8) :1-9.
- 門脇久志 (1977d) 鳥根むしノート4. コメツキムシ・クワガタムシ・ハンミョウの記録. すかしば, (8) :16-17.
- 門脇久志 (1978) 隠岐島の昆虫5. 隠岐島のコメツキムシ. すかしば, (10) :27-36.
- 門脇久志 (1979) 隠岐島の昆虫7. 隠岐島のオサムシ. すかしば, (12) :17-21.
- 門脇久志 (1980) 隠岐島の昆虫8. 隠岐島のジョウカイボン. すかしば, (13) :29-30.
- 門脇久志 (1982) 隠岐島の昆虫9. 隠岐島のアリ類. すかしば, (17) :27-30.
- 門脇久志 (1983) 隠岐島の昆虫10. 隠岐島の甲虫類目録. すかしば, (20) :3-20.
- 門脇久志 (1985) 隠岐島の昆虫11. 隠岐島のセミ. すかしば, (23) :21-23.
- 門脇久志 (1990) 隠岐島の昆虫14. 隠岐島のトビケラ. すかしば, (33) :13-18.
- 門脇久志 (1991) 隠岐島の昆虫15. 隠岐島のゴムシダマシ. すかしば, (35) :9-14.
- 門脇久志 (1994) 三瓶山のバッタ類. 三瓶山の昆虫相とその保全: 17-19. 鳥根県昆虫研究会.
- 門脇久志 (1996) 隠岐諸島の昆虫16. 隠岐のカワトンボ. すかしば, (43/44) :73-78.
- 門脇久志 (1998) 鳥根県のトビケラ類. すかしば, (46) :1-12.
- 門脇久志 (2001a) 隠岐諸島の昆虫18. 中根猛彦博士同定の隠岐の昆虫類. すかしば, (49) :39-55.
- 門脇久志 (2001b) タガメの1卵塊からの飼育例. すかしば, (49) :63-69.
- 門脇久志・岸田泰則 (1977) 隠岐島の蛾 (II). 蛾類通信 (91) :506-513.
- 門脇久志・岸田泰則 (1987) 隠岐島の昆虫13. 隠岐島の蛾 (3). すかしば, (27) :1-14.
- 門脇久志・三島秀夫 (2006) 隠岐島の蛾 (IV). すかしば, (54) :23-29.
- 門脇久志・那須 敏 (2001) 1994年隠岐・島後のカミキリムシ採集紀行. すかしば, (49) :29-32.
- 門脇久志・淀江賢一郎 (1979) 鹿足郡津和野町地倉沼で得た昆虫類. すかしば, (12) :33-34.
- 門脇久志・淀江賢一郎 (1988) 隠岐の昆虫. 日本の生物, 2 (4) :43-52.
- 門脇久志・淀江賢一郎・大島弘 (1992) 鳥根県で採集された蛾類目録. すかしば, (37/38) :1-44.
- 柿沼 進 (2009) 鳥根県浜田市でゴヘイニクバエを採集. はなあぶ, (27) :56.
- 神垣健司 (1994) キマダラモドキの研究I. 比婆科学, (159) :1-21.
- 神垣健司 (2005) 中国地方のシルビアシジミの衰亡と考察. 蝶研フィールド, (227) :27-30.
- 上田常一 (1961) 松江市堀川の生物. 山陰文化研究紀要, (1) :1-25.
- 上田常一 (1964) 山陰の珍チョウ. 「山陰の動物誌」:121-129. 松江今井書店.
- 上田常一 (1965) 「隠岐の動物」:49-56. 松江園山書店.
- 神谷一男・山本 玄 (1934) 甲虫目録1, 隠岐島の昆虫相. 関西昆虫学会会報, (53) :308-309.
- 金子岳夫 (2012) クロモンチビヒメシヤクの鳥根県からの記録. 誘蛾燈, (210) :142.
- 環境庁編 (1980) 「日本の重要な昆虫類・中国版」第2回自然環境保全基礎調査.
- 環境庁編 (1982) 「日本の重要な昆虫類の分布・全国版」第2回自然環境保全基礎調査.
- 環境庁編 (1991) 「日本の絶滅のおそれのある野生生物」. 271pp. (財) 自然環境研究センター.
- 環境庁編 (1993) 「動植物分布調査報告書 (昆虫 (トンボ) 類)」. 259pp.
- 環境庁編 (1993) 「動植物分布調査報告書 (昆虫 (セミ・甲虫) 類)」. 351pp.
- Katsuma, N. (2009) A new species of the genus *Setodes* Rambur (Trichoptera, Lepitoceridae) from Japan. Biogeography, 11: 41-46.
- 桂孝次郎 (1999) 大阪でも見つかった, 最近, 新種記載されたユミアシサシガメの一種 (*Polytoxus armillatus* T. Ishikawa). かめむしニュース, (19) :2.
- 桂孝次郎・宮武頼夫 (1993) ウシカメムシの幼生期, 分布及び生活史の概略について. 大阪市立自然史博物館研報, (47) :37-44.
- 川井信矢 (2000) ムネアカセンチコガネの穴掘り採集法. 鯉角通信, (1) :54-56.
- 川井信矢 (2003) 砂地性マグソコガネ類の篩いによる採集法. 鯉角通信, (6) :53-58.
- 川井信矢・河原正和 (2001) 隠岐・知夫里島の秋季の糞虫について. 鯉角通信, (2) :45-48.
- 川合禎次・谷田一三 (2005) 「日本産水生昆虫 - 科・属・種への

- 検索]. 1342pp. 東海大学出版会
- 河上康子・林 成多 (2007) 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 37-76.
- 川元 裕 (2010) 島根県西部におけるウラナミジャノメの採集記録. 山口のむし, (9) :48.
- 川野敬介 (2005) 島根県東部の止水性水生昆虫の分布記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (8) :77-97.
- 川野敬介・中野浩史・林 成多・山内健生 (2006) 出雲市平田地域のため池生物調査 (2) 止水性水生昆虫類の生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告, (9) : 13-37.
- 川野敬介・尾原和夫・大木克行・吉岡誠人・青木新吾・林 成多・皆木宏明 (2011) 島根県産水生半翅類の分布記録. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (2) :104pp.
- 川野敬介・皆木宏明 (2012) 島根県におけるホタル類の分布記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) :235-247.
- 川久保千恵・星川和夫 (2011) 三瓶山姫逃池におけるトンボ群集の変遷. 島根県立三瓶自然館研究報告, (9) :25-33.
- 河瀬直幹・林 成多 (2009) 島根県安来市で採集されたギンボシツツトビケラ *Setodes argentatus* の記録 (毛翅目ヒゲナガトビケラ科). ホシザキグリーン財団研究報告, (12) : 323-324.
- 河瀬直幹・林 成多 (2010) 島根県奥出雲町船通山で採集されたトビケラ目成虫の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13) : 83-86.
- 河瀬直幹・林 成多 (2011) 島根県出雲市で採集されたトビケラ成虫の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (14) : 189-193.
- 河瀬直幹・林 成多 (2012) 2009~2011年に島根県で採集したトビケラ成虫の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) : 253-258.
- 建設省中国地方建設局出雲工事事務所編 (1994) 「斐伊川水系の昆虫」200pp.
- 木村正明 (1989) 隠岐のホシミスジの分布とその食餌植物について. NEPTIS, (2) :23-26.
- 木村康信 (1932) 島前に於ける動植物分布. 「概観島前地誌」: 54-56. 隠岐地理学会.
- 木村康信 (1939a) 「隠岐黒木村ニ分布セル動物植物目録」. 1-23. 自刊.
- 木村康信 (1939b) 島前ニ於ケル動植物分布. 「増補改訂・概観島前地誌」:19-34. 隠岐地理学会.
- 木村康信 (1975) 隠岐の蝶. 島前の文化財, (5) :10-14.
- 衣笠弘直・桂孝次郎 (1992) 隠岐島 (島後, 島根県隠岐郡) で採集したトンボ. すかしば, (37/38) :143.
- Kishii, T. (1991) New Negastrinae with some notes "some new forms of Elateridae in Japan (X)". Bulletin of the Heian High School, (20) :17-45.
- 岸本 修・中島久朋・小椋英勇・河野広光 (1983) 島根県のウラジャノメの2産地. すかしば, (19) :8
- 岸田泰則 (2011a) ドクガ科. 岸田泰則編「日本産蛾類標準図鑑2」:139-147. 学研教育出版, 東京.
- 岸田泰則 (2011b) ヒトリガ科. 岸田泰則編「日本産蛾類標準図鑑2」:148-167. 学研教育出版, 東京.
- 岸田泰則・柳田慶浩・清野昭夫・石塚勝巳 (2011) ヤガ科シタバガ亜科. 岸田泰則編「日本産蛾類標準図鑑2」:244-264. 学研教育出版, 東京.
- 岸田泰則編 (2011) 日本産蛾類標準図鑑1. 2. 学研教育出版, 東京.
- 小早川誠 (2004) 島根県内にて希少ゲンゴロウを採集. すかしば, (52) :8.
- 小早川誠 (2007) 島根県内にてシャープゲンゴロウモドキを採集. すかしば, (55) :49-50.
- 小早川誠・大浜祥治 (2007) 隠岐・島前で得られた水生昆虫. すかしば, (55) :51-54.
- 小早川誠・永田正人 (2006) 島根県内にてコガタノゲンゴロウを採集. すかしば, (54) :30-31.
- 小林一彦 (1957) 毛無山を中心とした島根広島県境の蝶類採集報告. 千鳥, (3) :31-42.
- 小林一彦 (1958) ミスジチョウと市街地. 千鳥, (4) :1-3.
- 小林一彦 (1993) 鳥取県およびその周辺のヒメハルゼミ生息地について. 鳥取生物, (27) :11-21
- 小林一彦 (1994) 山陰地方のギフチョウとカンアオイ. 「山陰のチョウたち」:166-169. 山陰中央新報社.
- 小林裕和・松本 武 (2011) 「日本産コガネムシ上科図説 第3食葉群II」178pp. 昆虫文献六本脚
- Kobayashi, M. (1987) Caddisflies or Trichoptera from Shimane Prefecture in Japan (Insecta). Bull. Kanagawa Pref. Mus., (17) :13-35.
- 児玉 洋 (1984a) 匹見産昆虫目録2. 匹見町の鞘翅目. すかしば, (22) :11-19.
- 児玉 洋 (1984b) 松江市でコブナシコブスジコガネを採集. すかしば, (22) :19.
- 児玉 洋 (1985) 出雲北山のホンシュウジカの糞に集まる食糞コガネ. すかしば, (23) :19-20.
- 小島圭三・林 匡夫 (1969) 原色日本昆虫生態図鑑Iカミキリ編. 294pp, 56pls. 保育社.
- 国土交通省中国地方整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所 (2007) 「尾原ダム自然環境調査業務 報告書」
- 国土交通省中国地方整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所 (2010) 「尾原ダム自然環境モニタリング調査業務 報告書」
- 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 (2011) 「尾原ダム自然環境モニタリング調査業務 報告書」
- 小坂一章 (2009a) 高津川河畔のツマグロキチョウとシルビアシジミ. 山口のむし, (8) :31.
- 小坂一章 (2009b) 江の川中流域に居すキイロヤマトンボ. 山口のむし, (8) :79-91.
- 小坂一章 (2010a) 中国太郎下流域に散居するキイロヤマトンボ. 山口のむし, (9) :117-126.
- 小坂一章 (2010b) 石州高津川にキイロヤマトンボあり. 山口のむし, (9) :127-134.
- 小坂敏和 (1994) 広島県産甲虫ノート (14). 広島虫報, (33) :11-15.
- 小柳二三夫 (2013) ゴマシジミ異常型を雲南市で採集. すかしば, (60) :22.
- 近藤万里・星川和夫 (2009) ホシミスジ隠岐個体群の成虫の発生消長と生息空間. ホシザキグリーン財団研究報告, (12) :229-234.

- 久保田直哉 (1985) 松江市近郊の蝶類の分布に関する知見. すかしば, (24) :13-14.
- 久保田直哉 (1986) 隠岐諸島・中ノ島で得たチョウ類. すかしば, (26) :14.
- 久保田直哉 (1987) 隠岐諸島・島後でエゾミドリシジミを発見. すかしば, (27) :16.
- 久保田直哉 (1988) 隠岐・西ノ島でシルビアシジミを採集. すかしば, (30) :54.
- 久保田直哉・伊藤文紀 (1983) 隠岐新記録の蝶2種. すかしば, (20) :46.
- 久保康彦・横山 隆 (2013) 「珠玉の標本箱 (5) ウラゴマダラシジミ」. 33pp.有田 齊・前田善広編.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編 (1985) 「原色日本甲虫図鑑 (III)」. 500pp. 保育社.
- 京都大学蝶類研究会 (2004) 2003年日本産蝶類採集情報. SPINDA, (19) :120-149.
- 京都大学蝶類研究会 (2005) 2004年日本産蝶類採集情報. SPINDA, (20) :106-142.
- 京都大学蝶類研究会編 (2011) 「京大蝶研の標本箱」,234pp.
- 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター編 (1989) 「日本産昆虫総目録」. 1767pp. 九州大学農学部昆虫学教室.
- 町田禎之 (1985) 匹見産昆虫目録3. 匹見町の半翅目. すかしば, (23) :1-8.
- 前田泰生 (2006) 島根県産メバエ類の採集記録. すかしば, (54) :1-6.
- 前田泰生・北村憲二 (2006) 島根県産ネジレバネ類. すかしば, (54) :7-8.
- 丸山宗利ほか (2013) アリヅカウシカ, キノカワハゴロモ: 「アリの巣の生き物図鑑」,110-111.,東海大学出版会.
- Maruyama, M. and M. Hayashi (2009) Description of the intertidal aleocharine *Halorhadinus sawadai* sp. n. from Japan, with notes on the genus *Halorhadinus* Sawada, 1971. *Koleopterologische Rundschau*, 79: 71-82.
- 益田耕作 (1966) 恐羅漢山のウラジャノメ. 昆虫と自然, 1 (5) : 38.
- 増田耕作 (1954) チビゴミムシの一種. *Rare Insects*, (9) :11-15.
- 増田耕作 (1955) 石見地方のチビゴミムシ亜科の甲虫. 島根県立益田産業高校研究報告集, (3) :1-4.
- 増田耕作 (1985) 「昆虫採集と新種」. 14pp. 自刊.
- 益本仁雄 (1973) 「フン虫の採集と観察」. 96pp. ニューサイエンス社.
- 益野俊行 (1954) 中部中国山脈の蝶類 (1). *Amateur Entomology*, 4 (3) :6-11.
- 益野俊行 (1954) 中国山脈中部の蝶類. *Amateur Entomology*, 5 (1/2) :18-19.
- 松原 至 (2001) 中国地方産リクワガタ属分布資料 (1). 鯉角通信, (3) :25-28.
- 松原 至 (2002) 中国地方産リクワガタ属分布資料 (2). 鯉角通信, (4) :15-17.
- 松田 賢・中村慎吾 (1999a) 島根県高津川の昆虫相. ホシザキグリーン財団研究報告, (3) :57-119.
- 松田 賢・中村慎吾 (1999b) 江の川水系の昆虫類. 比和科学博物館研究報告, (37) :39-176.
- 松田隆嗣 (2009) 松江市で採集されたガ類について. すかしば, (57) :29-30.
- 松田隆嗣 (2012a) ナマリキシタバの幼虫を立久恵峡で採集. すかしば, (59) :6.
- 松田隆嗣 (2012b) ムラサキシタバを島根半島で採集. すかしば, (59) :8.
- 松田隆嗣 (2012c) 鳥取県大山におけるネズミホソバの採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (7) :16.
- 松田隆嗣 (2012d) ハマゴウノメイガを島根県で採集. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) :298.
- 松田隆嗣・野口祐美子 (2013a) 松江市各地でウスズミカレハを確認. すかしば, (59) :10.
- 松田隆嗣・野口祐美子 (2013b) 松江市でオナガミズアオを採集. すかしば, (60) :17-18.
- 松村雅史 (1979) 島根・鳥取両県での甲虫数種の採集記録. すかしば, (11) :21.
- 松野 宏 (1972) 山口県産蝶類数種の記録. 山口県の自然, 3 (6) :20-22.
- 松浦 誠・山根正気 (1984) 「スズメバチ類の比較行動学」. xvi+428pp.北海道大学図書刊行会.
- 松崎 隆 (2009a) ギフチョウ採集記録2001~2004年. 緑蝶, (9) :23-37.
- 松崎 隆 (2009b) ルーミスシジミ採集記録2001~2004年. 緑蝶, (9) :49-52.
- 三上秀彦 (1995) 中国産ギフチョウの変異と分布を考える. 蝶研フィールド, 10 (3) :4-9.
- Miyatake, Y. (1980) Notes on the genus *Pachypsylla* of Japan, with description of a new species (Homoptera: Psyllidae). *Bull. Osaka Mus. Nat. Hist.*, (33) :61-70, pl. 18.
- 皆木宏明 (2007a) 島根県初記録となるフクイアナバチ (ハチ目: アナバチ科) について. 島根県立三瓶自然館研究報告, (5) :25-26.
- 皆木宏明 (2007b) 島根県西部で初記録となるコバネアオイトトンボ (トンボ目: アオイトトンボ科) について. 島根県立三瓶自然館研究報告, (5) :27-28.
- 皆木宏明 (2008) 島根県中央部で確認されたベニイトトンボ (トンボ目: イトトンボ科). 島根県立三瓶自然館研究報告, (6) :33-34.
- 皆木宏明・前田泰生 (2000) 海浜における送粉生態系の保全に関する研究. 1. 大社砂丘における訪花昆虫の種類とそれらの季節消長. ホシザキグリーン財団研究報告, (4) :139-160
- 三島秀夫 (1983) 三瓶山でギフチョウを採集. すかしば, (20) :46.
- 三島秀夫 (1986) 温泉津町でギフチョウを採集. すかしば, (25) :14.
- 三島秀夫 (1991) キイロサナエとゲンバイトンボの記録. すかしば, (35) :5.
- 三島秀夫 (1998) ホソバミツモンケンモンを採集. すかしば, (46) :56.



- 三島秀夫 (2001a) 鳥根県「春の夜蛾・秋の夜蛾」. すかしば, (49) :1-7.
- 三島秀夫 (2001b) 三瓶山でスギタニルリシジミを採集. すかしば, (49) :86.
- 三島秀夫 (2002) 蛾の記録3つ. すかしば, (50) :76.
- 三島秀夫 (2007) 注目すべき鳥根県のガ数種について. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (5) :31-33.
- 三島秀夫 (2011) 注目すべき鳥根県のガ数種2010. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (9) :103-105.
- 三島秀夫 (2012) 注目すべき鳥根県のガ数種2011. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (10) :63-64.
- 三島秀夫 (2013) 鳥根県のガ. 谷田昌也編「六虫会25周年記念誌」:48-49.
- 三島秀夫・尾原和夫 (2005) 2004・鳥根県西部の蛾類あれこれ. すかしば, (53) :39.
- 三島秀夫・大浜祥治 (2009) 隠岐諸島の蛾類 (I). すかしば, (57) :45-104.
- 三島秀夫・矢田猛士 (2008) 鳥根県大田市富山町の蛾類. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (6) :21-31.
- 三島秀夫・矢田猛士 (2009) 鳥根県大田市富山町の蛾類II. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (7) :107-119.
- 三島秀夫・米浦道子 (2010) 鳥根県大田市久手町の蛾類. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, (8) :25-32.
- 三島昭一 (1977) ウラナミジャノメの採集例. すかしば, (8) :22.
- 三島昭一 (1988) 三瓶山でクロミドリシジミ幼虫を採集. すかしば, (30) :53.
- 三島昭一 (1990) 三瓶山でウラキンシジミを採集する. すかしば, (34) :20.
- 三島昭一 (1991a) 鳥根県東部のゴマシジミ調査記録. すかしば, (36) :14.
- 三島昭一 (1991b) 頓原町都加賀でのゼフィルス調査記録. すかしば, (36) :14.
- 三島昭一 (1993) 未記録種2種を含む三瓶山のチョウ採集記録 (1993年). すかしば, (39/40) :52.
- 三島昭一 (1995a) Thymelicus属2種の採集記録. すかしば, (41/42) :13.
- 三島昭一 (1995b) ウラジロミドリシジミを鳥根半島で採集. すかしば, (41/42) :13.
- 三島昭一 (1995c) 出雲市でスジボソヤマキチョウを採集する. すかしば, (41/42) :13.
- 三島昭一 (1997a) 江川水系でミスジチョウを観察する. すかしば, (45) :12.
- 三島昭一 (1997b) 1995年夏・ゼフィルス三瓶山での記録. すかしば, (45) :58.
- 三島昭一 (1998a) ヒサマツミドリシジミ卵を金城町で採集. すかしば, (46) :64.
- 三島昭一 (1998b) 鳥根県大万木山のブナ林でヒサマツミドリシジミを採集. すかしば, (46) :65-66.
- 三島昭一 (1998c) ゴマシジミの吉田村民谷における衰亡の記録. すかしば, (46) :66-67.
- 三島昭一 (2004a) ヒサマツミドリシジミを鳥根県旭町で採集する. すかしば, (52) :22.
- 三島昭一 (2004b) ギフチョウの新産地. すかしば, (52) :30.
- 三島昭一 (2007a) 鳥根県三瓶山産ホシミスジの覚え書き. すかしば, (55) :33-34.
- 三島昭一 (2007b) 鳥根県産ホシミスジの分布と一考察. すかしば, (55) :34-35.
- 三島昭一 (2007c) スギタニルリシジミを鳥根県赤来町で採集. すかしば, (55) :34-35.
- 三島昭一 (2012) ヒメシジミを匹見町で採集する. すかしば, (59) :18.
- 三島昭一 (2013a) ウラギンシジヒョウモン♀を三瓶山で撮影. すかしば, (60) :25.
- 三島昭一 (2013b) メスグロヒョウモン♀を鳥根半島で目撃. すかしば, (60) :25.
- 三島昭一 (2013c) 鳥根県西部金城町のヒメシジミとコキマダラセセリを採集. すかしば, (60) :27-28.
- 三島寿雄 (1970) 鳥根県東部のヒロオビミドリシジミ. 昆虫と自然, 5 (12) :7-8.
- 三島寿雄 (2007) 枕木山でオオルリボシヤンマを採集. すかしば, (55) :12.
- 三島寿雄・松岡嘉之 (1979) 「大山の蝶」. 205pp. 米子今井書店.
- 水戸野武夫 (1955) スネケブカヒロコバナカミキリについて. 鳥根県生物学会報, (5) :9-10.
- 水戸野武夫 (1959) 隠岐島で採れた珍しい昆虫. 新昆虫, 12 (2) :46.
- 三宅 登・福井修二・金子信博・片桐成夫 (1990) 鳥根大学農学部付属三瓶演習林の鞘翅目. 山陰地域研究 (森林資源), (6) :175-188.
- 三宅恒方 (1908) 隠岐島の昆虫相に就て. 日本昆虫学会報, 2 (8) :182-186.
- 三宅誠治 (2007) 中国地方のクロミドリシジミ. 月刊むし, (437) :42-47.
- Miyake, T (1907) An annotated list of the Lepidoptere of OKI. Annot. Zool. Japan, 6 (3) :163-217.
- Miyake, Y. and S. Nakamura (1995) Descripton of a new species of genus *Sericania* preserved in the Hiwa Museum for Natural History (Insecta: Coleoptera: Scarabaeidae). *HIBAKAGAKU*, (164) :9-12.
- Miyamoto, S. and Yasunaga, T. (1988) A new genus and species of the Miridae from Japan (Hemiptera, Heteroptera). *ESAKIA*, (26) :133-138.
- 宮本正一 (1977) 日本産異翅半翅類の学名について (2). *Rostria*, (27) :207-209.
- 宮本正一・石原 保ほか (1964) 「原色日本昆虫大図鑑III」. 358pp, 北隆館.
- 宮本詔子 (2010) 益田市の冬季におけるクロマダラソテツシジミ観察記録2009年. すかしば, (58) :17-20.
- 宮本詔子・宮本聡史 (2008a) 益田市でベニイトトンボを採集する. すかしば, (56) :45-47.
- 宮本詔子・宮本聡史 (2008b) 益田市でタイワンウチワヤンマの成虫と羽化殻を採集. すかしば, (56) :49-51.
- 宮本詔子・宮本聡史 (2008c) 鳥根県におけるヒロシマサナエの新

- 産地発見と生態の記録. すかしば, (56) : 53-64.
- 宮本詔子・宮本聡史 (2009) 益田市でオナガアカネを採集. すかしば, (57) : 34-35.
- 宮本詔子・宮本聡史 (2010a) 益田市におけるベニイトトンボの分布調査. すかしば, (58) : 27-29.
- 宮本詔子・宮本聡史 (2010b) 益田市中垣内町でハッチョウトンボを確認する. すかしば, (58) : 30.
- 宮武頼夫・加納康嗣編 (1992) 「検索入門セミ・バッタ」. 215pp. 保育社.
- 宮武頼夫編 (1996) 「青木浩昆虫コレクション目録」. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第28集
- 水田國康 (1993) 広島県のフン虫雑記 (4). ふくがん, (6) : 4-6.
- 森 正人・北山 昭 (2002) 「改訂版 図説日本のゲンゴロウ」. 231pp. 文一総合出版.
- 森川比呂志 (1977) 隠岐採集記. *Sakaiensis*, 14 (1) : 4-7.
- Morimoto, K and Maeta, Y (2009) A New Species of *Stenoria* (Coleoptera, Meloidae) from Japan, with Description of the First Instar Larva. *Jpn. J. syst. Ent.*, 15 (2) : 475-480.
- 森田誠司 (1993) 海棲のオサムシ科甲虫について. *昆虫と自然*, 28 (11) : 17-22.
- 森山正治 (1978) 私の採集した蝶とカミキリ (一). すかしば, (10) : 22.
- 森山正治 (1979a) 私の採集した蝶とカミキリ (二). すかしば, (11) : 23-24.
- 森山正治 (1979b) 私の採集した蝶とカミキリ (三). すかしば, (12) : 35-36.
- 森山正治 (1980) 私の採集した蝶とカミキリ (四). すかしば, (13) : 25-26.
- 守安 敦 (2002) ヒロシマサナエの新産地. *昆虫と自然*, 37 (14) : 43.
- 村井貴史・伊藤ふくお (2011) 「バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑」. 北海道大学出版会, 札幌.
- 村路雅彦・加藤正雄 (1990) エサキアメンボ *Limnoporos esakii* の生活史に関する知見. *中国昆虫*, (4) : 1-5.
- 長見和正 (1958) ウミズカメムシの新産地. *新昆虫*, 11 (2) : 48-49.
- 長瀬 翔 (2007a) 神戸川でキロヤマトンボの幼虫を採集. すかしば, (55) : 28.
- 長瀬 翔 (2007b) 島根半島でムカシトンボの幼虫を確認. すかしば, (55) : 44.
- 長瀬 翔 (2012a) 島根半島部でハネビロエゾトンボを採集. すかしば, (59) : 29.
- 長瀬 翔 (2012b) 飛来種のおオギンヤンマを採集. すかしば, (59) : 29.
- 長瀬 翔 (2013) 神戸川でナゴヤサナエの幼虫を採集. すかしば, (60) : 50.
- 柳楽泰久 (1936) 分布三件. *昆虫界*, 4 (23) : 69.
- 長島孝行 (1982) ガロアムシの生活史. *インセクトリウム*, 19 (3) : 4-17.
- 中原正登 (1982) 旅伏山でのオオムラサキ採集例. すかしば, (16) : 4.
- 中井 衛 (1954) 松江付近の蟬類. *昆虫界*, (120) : 2-4.
- 中川邦隆 (1997) ハナムグリ採集紀行PART II, 隠岐西ノ島、中ノ島. *みやくに通信* (77) : 1-3.
- 中村慎吾 (1973) 中国山地におけるヒメシジミの分布. *蝶と蛾*, 22 (3/4) : 104-105.
- 中村慎吾 (1987) 帝釈峡昆虫記6. タイシャクナガチビゴミムシと鍾乳洞の昆虫たち. *帝釈文化*, (17) : 8-15.
- 中村慎吾・亀山 剛・片山舜輔 (2001) 江の川の昆虫類. *ホシザキグリーン財団研究報告*, (5) : 17-114.
- 中村慎吾・松田 賢 (2005) 島根県高津川の昆虫類, 2000年の調査結果. *ホシザキグリーン財団研究報告*, (8) : 99-172.
- 中村慎吾・関本生人・小田信明 (1999) 比和町立自然史科学博物館に寄贈された故伊藤弘氏の日本産蝶類標本. *比和町立自然科学博物館標本資料報告*, (1) : 23-50.
- 中村泰士 (1969) 匹見町のミドリシジミ類-付・恐羅漢のウラジャノメについて-. すかしば, (4) : 3-5.
- 中村泰士 (1977) 島根県下のオオムラサキ杉谷型. すかしば, (7) : 39.
- 中村泰士 (1978) ヒサマツミドリシジミ♀の斑紋変異. すかしば, (10) : 1-4.
- Nakane T. (1983) New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent Regions. *xxxvi. Frag. Coleop.*, 35/37 : 141.
- 中根猛彦 (1963) 「原色昆虫大図鑑 II」: 443pp., 192pls. 北隆館.
- 中根猛彦 (1989) 日本の雑甲虫覚え書. *北九州の昆虫*, 36 (3) : 143-152.
- 中蘭洋行 (2004) ハマバツチカメムシを島根県で採集. すかしば, (52) : 16.
- 中蘭洋行・星川和夫 (2003) ウスイロヒョウモンモドキ三瓶山個体群の動態: 2002年度モニタリング調査の報告. *中国昆虫*, (16) : 35-44.
- 中蘭洋行・宮永龍一・伊藤 宏・淀江賢一郎・星川和夫 (2001) 三瓶山のウスイロヒョウモンモドキ個体群の現状 (速報). *ホシザキグリーン財団研究報告*, (5) : 265-269.
- 直海俊一郎 (1994) 本州から未記録のハネカクシ2種. *房総の昆虫*, (11) : 22.
- 成瀬吾朗・佐々田護 (1951) 西部中国山脈の蝶類第一報. *昆虫石見*, (2) : 9-11.
- 日本鞘翅目学会編 (1984) 「日本産カミキリ大図鑑」565pp. 講談社.
- 日本直翅類学会編 (2006) 「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」. 北海道大学出版会, 札幌.
- 西田秀行 (1980a) シルビアシジミを加賀で採集. すかしば, (14) : 4.
- 西田秀行 (1980b) ゴマシジミの一産地. すかしば, (14) : 11.
- 西脇淳浩・星川和夫 (2001) 宍道湖におけるナゴヤサナエとウチワヤンマの羽化消長. *ホシザキグリーン財団研究報告*, (5) : 215-221.
- 延 栄一 (1997) 山陰のギフチョウの変異と未来ギフ. *蝶研フィールド*, (131) : 8-12.
- 野津 裕 (1978) 島根県の甲虫. すかしば, (9) : 9-12.
- 野津幸夫 (1990) 三瓶山の食糞性コガネムシ. すかしば, (34) : 17.
- 野津幸夫 (1993) 島根県のセミの分布記録2例. すかしば,

- (39/40) : 36.
- 野津幸夫 (1995a) 枕木山のホタルの記録. すかしば, (41/42) : 53.
- 野津幸夫 (1995b) 鳥根県未記録種を含む稀な蛾類の採集記録. すかしば, (41/42) : 55-56.
- 野津幸夫 (1996) 隠岐諸島産ヒメボタルの記録. すかしば, (43/44) : 68.
- 野津幸夫 (1997a) キボシマルウンカを石見銀山で採集. すかしば, (45) : 12.
- 野津幸夫 (1997b) 鳥根県産昆虫類の分布記録 (1). すかしば, (45) : 54-55.
- 野津幸夫 (1997a) ケシマグソコガネ類 2 種の記録. すかしば, (45) : 81.
- 野津幸夫 (1997d) ホソバミツモンケンモンを鳥根県から初記録. すかしば, (45) : 82.
- 野津幸夫 (1998a) 飯石郡のアカエゾゼミとエゾハルゼミの分布記録. すかしば, (46) : 22.
- 野津幸夫 (1998b) ミツノエンマコガネを鳥根県から初記録. すかしば, (46) : 67.
- 野津幸夫 (2012a) ナマリキシタバ 鳥根県にて採集. すかしば, (59) : 4-5.
- 野津幸夫 (2012b) シロシモフリエダシヤクを安来市布部ダムで採集. すかしば, (59) : 12.
- 野津幸夫 (2012c) 浜田市金城町傍示峠8月初旬の蜻蛉. すかしば, (59) : 32-33.
- 野津幸夫 (2013a) グンバイトンボを江の川水系濁川で採集. すかしば, (60) : 43.
- 野津幸夫 (2013b) 浜田市雲月山でヒメクロサナエ、ムカシヤンマ、ミヤマアカネを確認. すかしば, (60) : 43.
- 能美 豪 (1969) 鹿足郡六日市町の蝶. *NECYDALIS*, 2 (2) : 9-13.
- 野崎隆夫 (2000) 広島県産カラフトゴマフトビケラの確認. 比和科学博物館研究報告, (39) : 1-4.
- 野崎隆夫・中村慎吾 (2005) 鳥根県で採集されたトビケラ成虫の記録. 比和科学博物館研究報告, (45) : 217-229.
- 尾原和夫 (1983) 鳥根県西部で採集した陸生カメムシ類. すかしば, (20) : 51-56.
- 尾原和夫 (1986) 鳥根県東部で採集した陸生カメムシ類. すかしば, (26) : 5-11.
- 尾原和夫 (1988) 鳥根県東部で採集した陸生カメムシ類 (2). すかしば, (29) : 7-9.
- 尾原和夫 (1989) 浜山のオオヒョウタンゴミムシ. すかしば, (32) : 31.
- 尾原和夫 (1990) 鳥根県と同翅類 (1) -セミを除く頸吻群-. すかしば, (33) : 7-9.
- 尾原和夫 (1991a) 第1回斐伊川放水路環境調査委員会資料 : 179-183, 建設省中国建設局出雲工事事務所.
- 尾原和夫 (1991b) 隠岐・島後で採集した半翅類. すかしば, (36) : 12-13.
- 尾原和夫 (1993a) 1993年隠岐で採集した半翅類. すかしば, (39/40) : 27-28.
- 尾原和夫 (1993b) 三瓶山のセミ. すかしば, (39/40) : 36.
- 尾原和夫 (1994) 瑞穂町の直翅型昆虫類. 「鳥根県瑞穂町の昆虫相」 : 13-14. 鳥根県昆虫研究会.
- 尾原和夫 (1997) 鳥根県の両生・水生カメムシ類. すかしば, (45) : 13-16.
- 尾原和夫 (1999a) 出雲市郊外における脱皮殻調査によるセミ類 7種の羽化消長. ホシザキグリーン財団研究報告, (3) : 265-272.
- 尾原和夫 (1999b) 隠岐・島後で採集した異翅半翅類. すかしば, (47) : 19-22.
- 尾原和夫 (2000a) 鳥根県で採集された未公表の異翅半翅類. すかしば, (48) : 33-41.
- 尾原和夫 (2000b) ユミアシサシガメ属 *Polytoxus* の鳥根県における記録. すかしば, (48) : 42.
- 尾原和夫 (2000c) トゲナベブタムシ匹見町で採集される. すかしば, (48) : 43.
- 尾原和夫 (2001) キノカワハゴロモの鳥根県内での記録. すかしば, (49) : 56.
- 尾原和夫 (2002a) カタビロクサビウンカの鳥根県における記録. すかしば, (50) : 49.
- 尾原和夫 (2002b) 鳥根県における山地性セミ類の記録. すかしば, (50) : 50.
- 尾原和夫 (2002c) 鳥根県で採集記録の少ない異翅半翅類について. すかしば, (50) : 73-75.
- 尾原和夫 (2003) 2003年大万木山域におけるエゾゼミ類の記録. すかしば, (51) : 29.
- 尾原和夫 (2005) 2004年ツマガグロキチョウの観察記録. すかしば, (53) : 30.
- 尾原和夫 (2006a) 隠岐諸島のアメンボ類. *Rostria*, (52) : 61-63.
- 尾原和夫 (2006b) 鳥根県の半翅類. 「新鳥根の生物」 : 189-202. 日本生物教育会第61回全国大会記念誌.
- 尾原和夫 (2008a) 島田孝氏採集の隠岐産カメムシ類. すかしば, (56) : 1-7.
- 尾原和夫 (2008b) 鳥根県で採集された未公表の異翅半翅類 (2). すかしば, (56) : 9-22.
- 尾原和夫 (2008c) 中海南岸における半翅類の定点調査. すかしば, (56) : 19-22.
- 尾原和夫 (2008d) 鳥根県におけるナベブタムシ類の分布. ホシザキグリーン財団研究報告, (11) : 211-215.
- 尾原和夫 (2009) 島田孝氏採集の隠岐産同翅類. すかしば, (57) : 19-26.
- 尾原和夫 (2010a) 大根島の陸生半翅類. すかしば, (58) : 7-11.
- 尾原和夫 (2010b) 珍種イシハラカメムシを奥出雲町で発見. すかしば, (58) : 12.
- 尾原和夫 (2011) 脱皮殻調査によるヒメハルゼミの羽化曲線. *CI-CADA*, 20 (1/2) : 18-20.
- 尾原和夫 (2012) 鳥根県のセミ類, 近年の生息情報. すかしば, (59) : 34-35.
- 尾原和夫 (2013) 西中国山地のコオイムシ. すかしば, (60) : 40-41.
- 尾原和夫・三島秀夫 (2007a) 安来市東赤江町の蛾類. すかしば, (55) : 19-22.
- 尾原和夫・三島秀夫 (2007b) 出雲市塩冶町の蛾類. すかしば, (55) : 25-27.

- 尾原和夫・三島秀夫・淀江賢一郎 (2001) 鳥根県佐田町高津屋農道の昆虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (5) :139-160.
- 尾原和夫・大浜祥治・三島秀夫 (2007) 2005年鳥根県浜田市弥栄村程原林道の蛾類記録. すかしば, (55) :27-28.
- 越智輝雄 (2000) 日本産コブスジコガネの解説 (1). 鯉角通信, (1) :57-67.
- 越智輝雄 (2001) 日本産コブスジコガネの解説 (2). 鯉角通信, (2) :73-82.
- 岡 義人 (1969a) 出雲市のゼフィルスII. NECYDALIS, 2 (4) :1-3.
- 岡 義人 (1969b) 出雲市産蝶類目録II. 自刊. 8pp.
- 岡 義人 (1969c) 大田市三瓶山7月の蝶. NECYDALIS, 2 (5) :1-3.
- 岡 義人 (1971) 鳥根県未記録の蝶5種. 蝶と蛾, 22 (3/4) :109-111.
- 岡 義人 (1979) 三隅町でゲンイチモンジセセリを採集. すかしば, (12) :37.
- 岡 義人 (1983) 中国地方のオサムシ (2). 江川～高津川流域における地理的分布. すかしば, (20) :41-43.
- 岡 義人・曾田貞滋 (1979) 中国地方のオサムシ (1) -日野川流域～江川流域における地理的分布-. すかしば, (12) :1-15.
- 岡部武夫 (1931) 隠岐島の動植物. 鳥根教育, (430) :10-15.
- 岡部武夫 (1950) 隠岐雑俎. 隠岐郷土選書, (2) :17-29.
- 岡田雅裕 (1950) 浜田市近辺の蝶. 浜田高校生物部部報, 2 (1) :7-11.
- 岡田雅裕 (1952a) アサマイチモンジとシルビアシジミ. 昆虫石見, (2) :13-14.
- 岡田雅裕 (1952b) 三瓶山及びその付近の蝶 (1). 比婆科学, (27) :12-16.
- 岡田雅裕 (1952c) 「鳥根県石見地方産蝶類採集目録」. 26pp. 浜田昆虫同好会.
- 岡田雅裕・成瀬吾朗 (1949) 三瓶生物誌. 浜田高等学校生物学部部報, 2 (1) :4-24.
- 岡田雅裕・成瀬吾朗 (1951) 石見地方の蝶類第一報. 浜田高校生物学部部報, (6) :1-16.
- 岡田正哉 (1984) 竹節虫を調べやう5. ぱったりぎす, (61) :1972-1983.
- 岡島秀治・荒谷邦雄 (2012) 「日本産コガネムシ上科標準図鑑」. 444pp. 学研
- 岡本土朗 (1951) ホシミスジの新産地. 昆虫石見, (2) :18.
- 岡村一郎 (1989) 吾妻山でフジキオビを採集. すかしば, (31) :18.
- 岡山県 (2003) 「岡山県野生生物目録」. 397pp.
- 岡山県生活環境部自然環境課 (2003) 「岡山県レッドデータブック」. 465pp.
- 岡山県生活環境部自然環境課 (2010) 「岡山県レッドデータブック2009 動物編」. 416pp.
- 小村制伸 (2003) 山陰のギフチョウ採集案内. ゆずりは, (17) :27-28.
- 大林延夫・新里達也 (2007) 「日本産カミキリムシ」880pp. 東海大学出版会.
- 大田高校生物部 (1965) 三瓶山の蝶. 「三瓶研究総合誌第一集」:34-40.
- 大浜祥治 (1986) 匹見・益田周辺におけるトンボの記録. すかしば, (26) :1-4.
- 大浜祥治 (1987) 鳥根県のトンボ10種の新産地. すかしば, (28) :17-18.
- 大浜祥治 (1988) 布部ダム周辺のトンボとチョウ. すかしば, (30) :49-51.
- 大浜祥治 (1991) 斐川町でヒメハルゼミの鳴き声を確認. すかしば, (36) :4.
- 大浜祥治 (1996) 1995年隠岐諸島セミの記録. すかしば, (43/44) :62.
- 大浜祥治 (1998) 鳥根県のセミ分布メモ. すかしば, (46) :20-21.
- 大浜祥治 (2001a) 隠岐・島後でタガメが採集される. すかしば, (49) :26-27.
- 大浜祥治 (2001b) 隠岐のエゾゼミの生息状況. すかしば, (49) :27.
- 大浜祥治 (2001c) 神戸川でムスジイトトンボを発見. すかしば, (49) :28.
- 大浜祥治 (2002) 隠岐諸島のトンボ相 補遺. すかしば, (50) :1-36.
- 大浜祥治 (2003a) 隠岐・島前の海士町でモノサシトンボが確認される. すかしば, (51) :15.
- 大浜祥治 (2003b) 八雲村屋上山でヒメハルゼミの鳴き声を確認. すかしば, (51) :33.
- 大浜祥治 (2004) 隠岐・島後の油井ノ池でコバネアオイトトンボが大発生. すかしば, (52) :13.
- 大浜祥治 (2006) 鳥根県のトンボ類. 新鳥根の生物, 日本生物教育会鳥根大会実行委員会:171-187.
- 大浜祥治 (2007a) 隠岐・西ノ島でオオギンヤンマとハネビロトンボを採集. すかしば, (55) :24.
- 大浜祥治 (2007b) 2006年隠岐・島前で確認した直翅類. すかしば, (55) :55-60.
- 大浜祥治 (2008) 島前自然観察記. 隠岐の文化財, (25) :27-28.
- 大浜祥治 (2009a) 隠岐・島前で確認した直翅類-第2報-. すかしば, (57) :9-12.
- 大浜祥治 (2009b) 2008年、鳥根県のタイワンウチワヤンマ分布状況調査. すかしば, (57) :27-28.
- 大浜祥治 (2009c) 隠岐・島前でタガメを確認. すかしば, (57) :36.
- 大浜祥治 (2009d) 隠岐・島前のトンボ追加記録. すかしば, (57) :37-44.
- 大浜祥治 (2012) 2009～2011年、山陰地方沿岸部におけるタイワンウチワヤンマ分布状況調査. すかしば, (59) :30-31.
- 大浜祥治 (2013) 鳥取県初記録のタイワンウチワヤンマを境港市で採集. すかしば, (60) :42.
- 大浜祥治・門脇久志・祖田 周・三島秀夫・淀江賢一郎 (1996) 隠岐諸島のトンボ相-鳥根県のトンボ相 [IV] -. すかしば, (43/44) :1-26.
- 大浜祥治・小早川誠・長瀬 翔・林 成多 (2012) 鳥根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園のトンボ相. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) :65-68.
- 大浜祥治・三島秀夫・祖田 周・淀江賢一郎 (1992) 鳥根県のトンボ相Ⅲ. すかしば, (37/38) :81-106.

- 大浜祥治・坂田国嗣 (2010) カトリヤンマに寄生するヤンマタケ (冬虫夏草) を発見! . すかしば, (58) : 31.
- 大浜祥治・祖田 周・淀江賢一郎・三島秀夫 (2003) 島根県のトンボ相 V. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 215-290.
- 大浜祥治・淀江賢一郎 (1995) ナゴヤサナエの生活史. 「斐伊川水系の昆虫」: 78-81.
- 大浜祥治・淀江賢一郎・大浜靖子 (1991) 宍道湖のナゴヤサナエ (2). すかしば, (35) : 15-17.
- 大畑純二・三島秀夫 (2000a) 三瓶山昆虫標本目録 (II) 鱗翅目. 島根県立三瓶自然館収蔵標本目録, (5) : 1-85.
- 大畑純二・三島秀夫 (2000b) 山田昆虫コレクション目録 (鱗翅目). 島根県立三瓶自然館収蔵標本目録, (6) : 1-40.
- 大畑純二・三島秀夫 (2002) 三瓶山昆虫標本目録 (III). 島根県立三瓶自然館収蔵標本目録, (7) : 1-70.
- Oohata, J., Minagi, K. and Maeta, Y. (2010) Some Bionomical Notes on Newly Discovered Blister Beetle, *Stenoria oohatai* Morimoto et Maeta from Japan (Coleoptera, Meloidae, Nimognathinae). Bulletin of the Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe. No.8 : 13-15.
- 大畑純二・皆木宏明・三島秀夫 (2003) 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録, (8) : 1-100.
- 大平仁夫 (1999) 隠岐諸島のコムツキムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (3) : 223-237.
- 大木克行 (2000) キュウシュウエゾゼミを山口県で採集. CICADA, 15 (2) : 21-22.
- 大木克行 (2001) 山口県におけるキノカワハゴロモとスカシハゴロモモドキの記録. Rostria, (50) : 57-58.
- 大木克行 (2003) 山口県および愛媛県で得られたユミアシサシガメ類とアシナガサシガメ類. Rostria, (51) : 27-36.
- 大木克行・三時輝久 (2001) 山口県のアメンボ類の分布資料と生息環境. 山口県立山口博物館研究報告, (27) : 1-14.
- 大桃定洋・福富宏和 (2013) 「日本産タマシ大図鑑」208pp. むし社.
- 大村 誠 (1969a) 浜田市近辺のチョウ. NECYDALIS, 2 (2) : 3-9.
- 大村 誠 (1969b) 三階山と私. NECYDALIS, 3 (2) : 1-2.
- 大野正男 (2000a) 日本産主要動物の種別知見総覧 (54), オオヒョウタンゴムシ (1). 東洋大学紀要教養課程篇 (自然科学), (44) : 133-162.
- 大野正男 (2000b) 日本産主要動物の種別知見総覧 (54), カワラハンミョウ (1). 東洋大学紀要教養課程篇 (自然科学), (44) : 163-201.
- 大野正男 (2001) 日本産主要動物の種別文献目録 (18a) ベーツヒラタカミキリ (2). ホシザキグリーン財団研究報告, (5) : 311-333.
- 大野正男・門脇久志 (1983) 島根県産ハムシ科分布資料 (1). すかしば, (20) : 47-49.
- 大阪府 (2000) 「大阪府野生生物目録」. 351pp.
- 大島益堂 (1951) 浜田・長者原に産するホシチャバネセセリについて. 昆虫石見, (2) : 16.
- 大島 弘 (1994a) 浜田市・江津市の蛾類. 「島根県特定地域野生生物緊急調査報告書, 浜田・江津地区の昆虫類」: 26-31.
- 大島 弘 (1994b) 邑智町内田温泉地区の蛾. 「島根県特定地域野生生物緊急調査報告書, 邑智地区の昆虫類」: 24-29.
- 大浦清介 (1962) 時代別病害虫の被害状況. 「島根県植物防疫史」: 1-44. 島根県植物防疫協会.
- 大屋厚夫 (1991) 那賀郡三隅町岡見のチョウ40年の記録. すかしば, (36) : 1-3.
- オリックス浜田開発株式会社 (1994) 昆虫類確認種目録. 「島根中央地域リゾート構想環境影響評価書 (資料編)」.
- 長田 勝 (1997) 灯火で採集したカワラバタ. ぱったりぎす, (113) : 54.
- Owada M. (1998) Moths of *Eterusia aedea* (Lepidoptera, Zygaenidae) from the Islands of Okinoshima, off Fukuoka, North Kyusyu. Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (30) : 7-12.
- 尾添 暁・川島逸郎・二橋 亮 (2012) 「日本のトンボ」. 531pp. 文一総合出版, 東京.
- 西城 洋 (2001) 島根県の水田と溜め池における水生昆虫の季節的消長と移動. 日本生態学会誌, 51 (1) : 1-11.
- 西城 洋 (2002) 止水性水生昆虫の生活史における養魚水田の役割. 日本生態学会誌, 52 (2) : 155-165.
- 税所康正 (2004) 大万木山のエゾゼミ類. CICADA, 18 (1) : 9-10.
- 酒井 香 (1996) 隠岐諸島西ノ島産のアオハナムグリの1新亜種. 月刊むし, (309) : 10-11.
- 酒井 香・藤岡昌介 (2007) 「日本産コガネムシ上科図説 第2巻 食葉群 I」173pp. 昆虫文献六本脚
- 坂本 充 (2001) 広島県のキリギリス類 (バッタ目: キリギリス科). 比和科学博物館研究報告, (40) : 99-121. 5pls.
- 坂田国嗣 (1996a) 安来市内でギフチョウ採集. すかしば, (43/44) : 44.
- 坂田国嗣 (1996b) 三瓶山と恐羅漢山でサツマシジミ確認. すかしば, (43/44) : 44.
- 坂田国嗣 (1997a) 蝶類の配偶行動の観察. すかしば, (45) : 1-8.
- 坂田国嗣 (1997b) 仁多町にてスジグロチャバネセセリ多数確認. すかしば, (45) : 58.
- 坂田国嗣 (1997c) 安来市の蝶相. すかしば, (45) : 65-70.
- 坂田国嗣 (1998) 1997年に出会った蝶たち. すかしば, (46) : 39-46.
- 坂田国嗣 (1999a) 蝶・その産地の衰亡. すかしば, (47) : 5-8.
- 坂田国嗣 (1999b) 仁多町呑谷にてコムシジミ異常型とアカエゾゼミ採集. すかしば, (47) : 41.
- 坂田国嗣 (2000) 1999年キリシマミドリシジミの行動観察. すかしば, (48) : 50-51.
- 坂田国嗣 (2004) チョウの観察記録. すかしば, (52) : 41-46.
- 坂田国嗣 (2005) 2004年チョウの観察記録. すかしば, (53) : 1-3.
- 坂田国嗣 (2010) 松江市と安来市でメスグロヒョウモン♀確認. すかしば, (58) : 13.
- 坂田国嗣 (2012) 安来市でメスグロヒョウモン再確認. すかしば, (59) : 3.
- 坂田国嗣 (2013a) 2012年度・蝶観察記録. すかしば, (60) : 31-34.
- 坂田国嗣 (2013b) 安来市でハッチョウトンボの発生確認. すかしば, (60) : 35.
- 三田隆生 (1988) 潮風のオオウラギン. 蝶研サロン, (17) : 1-3.
- 山陰むしの会編 (1993) 「山陰のトンボ」. 208pp. 山陰中央新報

- 社.
- 山陰むしの会編(1994)「山陰のチョウたち」. 208pp. 山陰中央新報社.
- 指田春樹(2005)ギフチョウ採集記録. 多摩虫, (47) : 49-53.
- 佐藤陽路樹(1994)隠岐プロテ採集報告. プロテニュース, (10) : 4-5.
- 佐藤仁志(1986)宍道湖岸でナゴヤサナエの大量羽化を確認. すかしば, (26) : 12-13.
- 佐藤仁志(1992)ナゴヤサナエの新産地(静間川). すかしば, (37/38) : 51.
- 妹尾俊男(1989)中央大学附属高校に寄贈された昆虫標本I 鱗翅目(蝶類). 教育・研究, (3) : 39-69.
- 繁浪和夫(1962)作物別病害虫の発生と被害状況. 「島根県植物防疫史」: 45-142. 島根県植物防疫協会.
- 島田 孝(2004a)隠岐島後からエサキアメンボを発見. すかしば, (52) : 19.
- 島田 孝(2004b)隠岐自然館甲虫標本目録. すかしば, (52) : 33-40.
- 島田 孝(2006a)隠岐島後の重栖川河口の地表性甲虫(1)ハマベゴミムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9) : 126.
- 島田 孝(2006b)隠岐島後の重栖川河口の地表性甲虫(2)オオツノハネカクシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9) : 144.
- 島田 孝・石川忠(2004)隠岐島後からアダチアカサシガメを発見. すかしば, (52) : 16.
- 島田 孝・尾原和夫・大浜祥治(2005)隠岐の水生食肉甲虫類. すかしば, (53) : 41-48.
- 島根県(1975)隠岐島に生息する昆虫. 島根県自然環境保全地域候補地学術調査報告書第2集, 別表2-6.
- 島根県(1991)「匹見自然林(安蔵寺山加令谷)学術調査報告書」: 80pp.
- 島根県(1995)「島根県の貴重野生動植物リスト」: 34pp.
- 島根県環境生活部景観自然課(1997)「しまねレッドデータブック-島根県の保護上重要な野生動植物-(動物編)」. 417pp.
- 島根県昆虫研究会編(1994a)「三瓶山の昆虫相とその保全」. 221pp.
- 島根県昆虫研究会編(1994b)「島根県瑞穂町の昆虫類」. 82pp.
- 島根県自然保護読本編集委員会編(1975)船通山と吾妻山. 「しまねの自然」: 60-62.
- 島根県農林水産部林政課(1987)島根半島弥山山地におけるニホンジカに関する調査.
- 宍道湖のナゴヤサナエ研究グループ(1988)宍道湖のナゴヤサナエ. 島根野生生物研究会会報, (5) : 1-14.
- 新海義春(2004)ヒサマツミドリシジミの採集記録. わたしたちの自然史, (88) : 22.
- 白水 隆(1951)日本産ミドリシジミ類の1新種. 昆虫, 19(2) : 60-66.
- 白水 隆(1980)島根県那賀郡大佐山のヒョウモンモドキなど. すかしば, (9) : 6.
- 白水 隆(1985)「日本産蝶類文献目録」. 873pp. 北隆館.
- 白水 隆(1988)オオウラギンヒョウモンはなぜ消えたか. SA-TSUMA, (100) : 363-365.
- 白水 隆(2002)「続・日本産蝶類文献目録」. 1272pp.+21pp. 白水隆文庫刊行会・ホシザキグリーン財団.
- 白水 隆・松香宏隆(2003)蝶類交尾飛翔の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 99-137.
- 曾田貞滋(1977)島根半島高尾山山塊及び松江平野のカミキリムシ. すかしば, (7) : 1-13. 2pls.
- 曾田貞滋(2003)ミトコンドリアDNA分析に基づく西日本のオオオサムシ亜属の系統地理学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 153-166.
- 祖田 周(1988)安来市周辺のトンボ相 -スライド目録-. 1979-87. すかしば, (29) : 17-19.
- 祖田 周・大浜祥治(2002)安来市でムスジイトトンボが発見される. すかしば, (50) : 76.
- 祖田 周・大浜祥治(2004)2003年タイリクアキアカネ・オナガアカネの記録. すかしば, (53) : 15.
- 祖田 周・大浜祥治(2006)2004年・2004年、島根県の飛来アカトンボの記録. すかしば, (54) : 22.
- 祖田 周・大浜祥治(2007)2006年島根県の飛来アカトンボの記録. すかしば, (55) : 60.
- 祖田 周・大浜祥治(2008)2007年島根県の飛来アカトンボの記録. すかしば, (56) : 26.
- 祖田 周・大浜祥治(2012)2009-2011年島根県の飛来アカトンボの記録. すかしば, (59) : 31-32.
- Sugi, S. (1990) Two new species of *Sugitania* Matsumura (Noctuidae, Cuculliinae) from Japan. *Tinea*, (13) : 55-60
- 杉 繁郎(2000)「日本産蛾類大図鑑以後の追加種と学名の変更」. 171pp. 日本蛾類学会.
- 杉 繁郎・中村正直(1986)キバラケンモンとその近縁種たち. 月刊むし, (189) : 4-11.
- 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司(1999)「原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」. 917pp. 北海道大学図書刊行会.
- 杉村光俊・小坂一章・吉田一夫・大浜祥治(2008)「中国・四国のトンボ図鑑」. 255pp. いかだ社, 東京.
- 杉浦直人・皆木宏明・前田泰生(1999)島根県産ミヤコアオイ(ウマノスズクサ科)の受粉と結実. ホシザキグリーン財団研究報告, (3) : 195-208.
- 隅江直子・阪口津希子(1982)ヒョウモンモドキの生活史. すかしば, (16) : 11-24. , (17) : 19-25.
- 鈴木謙治(1994)三瓶山の糞虫相. 「三瓶山の昆虫相とその保全」: 164-170.
- 鈴木謙治(2006)ニセマグソコガネの採集記録. すかしば, (54) : 32.
- 鈴木邦雄(1998)日本産カワトンボ属(均翅亜目, カワトンボ科)の分類, 地理的分布および地理的変異(概説)付: 新動物境界線'カワトンボ線の提唱'. ホシザキグリーン財団研究報告, (2) : 289-314.
- 鈴木邦雄・宮地加織(1996)日本産カワトンボ属(均翅亜目, カワトンボ科)4種におけるテリトリー占有オスのメス認知能力. *Tombo*, 39(1/4) : 2-12.
- 小路嘉明(1990a)オオウラギンヒョウモンの探し方. 蝶研サロン, (40) : 14-16.
- 小路嘉明(1990b)中国地方のゴマンジミの探し方. 蝶研サロン,

- (41) :1-3.  
 小路嘉明 (1993a) ルーミスジミのポイントの探し方. 蝶研サロン, (42) :1-12.  
 小路嘉明 (1993b) ヒメヒカゲ産地一覧. 蝶研サロン, (74) :16-19.  
 小路嘉明 (1994) 広島県のヒョウモンモドキの保護. 比婆科学, (159) :29-42.  
 立川周二 (1985) エサキアメンボは絶滅するか-その分布と生息地から-. *Rostria*, (37) :521-525.  
 高橋 昭 (1976) 名古屋地方のヒョウモンモドキ特にそのextinction消滅について. 佳香蝶, 28 (107) :33-37.  
 高橋真弓ら (1982-1984) 「原色日本蝶類生態図鑑 I」. 277pp. 保育社.  
 高橋真弓・淀江賢一郎 (1992) 鳥根県三瓶山産ヤマキマダラヒカゲの生態的知見と地理的変異. 蝶と蛾, 43 (2) :107-119.  
 高橋寿郎 (1997a) 隠岐島のコガネムシに関する文献目録. すかしば, (45) :41-48.  
 高橋寿郎 (1997b) 中国山地をめぐる地域のコガネムシ相. ホシザキグリーン財団研究報告, (1) :205-219.  
 高橋寿郎 (1998) 日本海島嶼のコガネムシに関する文献目録. すかしば, (46) :23-37.  
 高橋寿郎 (1999) 鳥根県のコガネムシに関する文献目録・追加 (1). すかしば, (47) :43-44.  
 高橋寿郎・淀江賢一郎 (1996) 鳥根県昆虫文献目録5. 鳥根県のコガネムシに関する文献目録. すかしば, (43/44) :27-41.  
 高橋佳孝 (1994) 「三瓶山牧野の変遷と残された課題」. 39pp. 中国農業試験場畜産部.  
 高橋佳孝・井上雅仁・Ondopa,J (2008) ウスイロヒョウモンモドキの食草オミナエシの推移からみた三瓶山東の原草地の植生管理. 三瓶自然館研究報告, (6) :1-6.  
 高坂 寿 (1992) 西日本のオナガシジミ. 蝶研フィールド, 7 (4) :6-12.  
 竹内 亮 (1983) エゾミドリシジミをアカガシより採卵. ゆらぎあ, (7) :14.  
 竹内 亮 (1993a) キリシマミドリシジミ. 「鳥取県のすぐれた自然 (動物編)」 :158-159.  
 竹内 亮 (1993b) ヒョウモンモドキ. 「鳥取県のすぐれた自然 (動物編)」 :174-175.  
 竹内 亮 (1993c) ミスジチョウ. 「鳥取県のすぐれた自然 (動物編 9)」 :178-179.  
 田中俊明 (2005) 2005年採集メモ帳. 蝶道, (337) :1744.  
 谷 幸三・富永 修・土井仲治郎 (1982) 隠岐島の水生昆虫. すかしば, (16) :29-41.  
 谷本幹夫 (1957) ホシミスジ立久恵で採る. 千鳥, (3) :30.  
 谷田一三監修 (2000) 「原色 川虫図鑑」. 240pp. 全国農村教育協会.  
 館林治志 (1957) ウラナミアカシジミ茶臼山で採集. 千鳥, (3) :26.  
 手塚 浩 (2009) ゴマシジミ採集記録2001~2004年. 緑蝶, (9) :46-49.  
 富永 修 (1994) 隠岐島の直翅類の記録. ぱったりぎす, (101) :5-6.  
 富永 修編 (1996) 図鑑 日本のクサキリ. ぱったりぎす, (106) :1-24.  
 富沢 章 (2000) 石川県におけるハマゴウノメイガの分布と生態. 蛾類通信, (211) :208-212.  
 友国雅章 (1985) 隠岐諸島の異翅半翅類. 国立科博専報, (18) :153-161.  
 友国雅章監修 (1993) 「日本原色カメムシ図鑑」. 380pp. 全国農村教育協会.  
 鳥取県生活環境部環境政策課 (2002) 「レッドデータブックとっとり-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物- (動物編)」. 214pp.  
 土江好子・淀江賢一郎 (1997) 1996年ナゴヤサナエ羽化殻調査. ホシザキグリーン財団研究報告, (1) :39-41.  
 津田松苗 (1954) 三瓶山浮布池のトビケラ. 新昆虫, 7 (12) :26-27.  
 塚本圭一 (1994) 「日本糞虫記」. 231pp. 青土社.  
 塚本圭一 (2003) 日本フン虫誌 (4) :絶滅に瀕するフン虫. 鯉角通信, (6) :33-41.  
 Tsuneki,K. (1956,1957,1958) Ethological studies on *Bemix nipponica* Smith, with emphasis on the psychobiological analysis of behavior inside the nest (Hymenoptera, Sphecidae). Part I,II,III. *Mememory of Faculty of Liberal Arts, Fukui University, Series II, Natural Science*,6 :77-172,4pls.; 7 :1-115; 8 :1-78,4pls  
 鶴崎展巨 (2012) ハマベツチカメムシ. 「レッドデータブックとっとり」改定版. :93.鳥取県.  
 内田俊夫 (2013) 2012年の採集記録と確認報告. すかしば, (60) :23.  
 内田臣一・稲田和久・祖田 周 (1999) 鳥根県斐伊川にコカワゲラ (カワゲラ科) が多産. 兵庫陸水生物, (50) :87-90.  
 内田正吉 (2003) クツワムシはなぜ減ったのか?. 寄せ蛾記, (108) :5-6.  
 上田昇平・潘 宇・小藪紅仁・占部由香・淀江賢一郎・宇佐美真一 (2005) 隠岐と鳥根県本土に生息するチョウ類の地理変異に関する系統学的解析. ホシザキグリーン財団研究報告, (8) :25-30.  
 上野俊一 (1986) 特殊環境と生活. 「原色日本甲虫図鑑 I」 :113-121.  
 Ueno, S. (1956) New *Halophilous* Trechids of Japan (Coleoptera, Harpalidae). *Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, seies B*, 23 (1) :61-68.  
 Ueno, S. (1958a) The cave beetles from Akiyoshi-dai Karst and its vicinities. II. *Uozumitrechus*, a new group of the genus *Rakantrechus*. *Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, seies B*, 25 (1) :49-61.  
 Ueno, S. (1958b) The cave trechids from the central part of the Chugoku District, Japan. I. A new species of *Trechiamia* from the Taishaku limestone area. *Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, series B*, 25 (3) :181-184.  
 Ueno, S. (1958c) The Cave Trechids from the Central Part of the Chugoku District, Japan II. *Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, series B*, 25 (3) :185-197.  
 Ueno, S. (1970) The Fauna of the Insular Lava Caves in West Japan III. Trechinae (Coleoptera). *Bull. Nat. Sci. Mus.*, 13

- (4) : 603-622.
- Ueno, S. (1971) The Fauna of the Insular Lava Caves in West Japan IX. Trechinae (Additional). *Bull. Nat. Sci. Mus.*, 14 (2) : 181-185.
- Ueno, S. (1978) The *Thalassoduvallius* (Coleoptera, Trechinae) of the Izu area, Central Japan. *Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, (11) : 123-130., pl.6.
- Ueno, S. (1985) The Cave Trechids from the Central Part of the Chugoku District, Japan II. *Memo. Coll. Sci. Univ. Kyoto*, series B, 25 (3) : 185-197.
- Ueno, S. (1994) Occurrence of *Thalassoduvallius* (Coleoptera, Trechinae) on two isolated Islands off Kyusyu, West Japan. *Elytra*, 22 (1) : 45-48.
- Ueno, S. (2007) Blind Trechine Beetles (Coleoptera, Trechinae) from the Tsushima Islands, West Japan. *Elytra*, 35 (2) : 385-399.
- Ueno, S. (2008) Occurrence of a New *Stygiotrechus* (Coleoptera, Trechinae) in the Shimane Peninsula, West Japan. *J. speleol. Soc Japan*, 33 : 1-5.
- Ueno, S. (2010) Occurrence of a New *Uozumitrechus* (Coleoptera, Trechinae) in the Shimane Peninsula, West Japan. *Elytra*, 38 (1) : 131-136.
- 上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 (1989) 「原色日本甲虫図鑑 (II)」. 514pp. 保育社.
- Ueno, S. and Naito, T. (2007) Occurrence of *Stygiotrechus* (Coleoptera, Trechinae) on the Japan Sea Side of Western Honshu, Japan. *Ent. Rev. Japan*, 62 (1) : 11-15.
- 碓井 徹 (2003) 島根県隠岐諸島における水生半翅類の分布記録. *Rostris*, (51) : 25-26.
- 若槻匡志 (1957a) 松江市近郊におけるギフチョウとその生活史. *千鳥*, (1) : 5-11.
- 若槻匡志 (1957b) シルビアシジミの採集記録. *千鳥*, (3) : 29.
- 若槻匡志 (1959) 第3回中国山地遠征報告. *千鳥*, (5) : 1-7.
- Watanabe Y. (1990) A New *Micropeplus* (Coleoptera, Staphylinidae) from the Islands of Oki, West Japan. *Proc. Soc. Syst. Zool.*, (42) : 37-41.
- 渡辺 隆・須藤 勲 (1959) 中国山脈のウラジャノメ. 2pp. 島根県高等学校文化連盟研究集録.
- 渡辺一雄 (1993) 中国山地における氷期の遺存種ウラジャノメ. 「日本産蝶類の衰亡と保護第2集」 : 111-124.
- 渡辺一雄 (1995) ギフチョウの生息環境と共存への課題. *昆虫と自然*, 30 (4) : 5-15.
- 渡辺一雄 (1998) ギフチョウの飛翔行動と分布論—地形依存的集合・散開運動による散逸の防止と生殖. *ホシザキグリーン財団研究報告*, (2) : 165-223.
- 渡辺一雄・淀江賢一郎・難波通孝・山中捷二・後藤和夫 (2000) 中国地方におけるギフチョウ—分布図および分布論. *ホシザキグリーン財団研究報告*, (4) : 225-237.
- 渡辺通人 (2007) 越 英夫先生採集の収蔵標本. *山梨の昆虫*, (50) : 1325-1380.
- 渡辺泰明 (1979) チビハネカクシ亜科 (Micropeplinae) 概説. *甲虫ニュース*, (45) : 1-8.
- 渡辺康之編 (1996) 「ギフチョウ」 269pp. 北海道大学図書刊行会.
- 養父志乃夫・淀江賢一郎 (1983) 島根県のトンボ相・II : 解説と考察. *すかしば*, (20) : 57-68.
- 山田 学 (1999) 匹見町の甲虫採集記録. *すかしば*, (47) : 9-18.
- 山田 学 (2001a) 匹見町のセミ・ナナフシ・カマキリ・ゴキブリの記録. *すかしば*, (49) : 17-19.
- 山田 学 (2001b) 匹見町におけるオキナワリチラシの発見. *すかしば*, (49) : 19.
- 山田 学 (2001c) 匹見町におけるトゲナベバタムシの生息環境. *すかしば*, (49) : 20.
- 山田 学 (2003a) 匹見町におけるオオチャイロハナムグリの採集記録. *すかしば*, (51) : 16.
- 山田 学 (2003b) 匹見町・高津川にてカワラバタの生息を確認. *すかしば*, (51) : 30.
- 山田 学 (2003c) 島根県西部地域におけるハンミョウ類・ヒョウタンゴミムシ類の採集および観察記録. *すかしば*, (51) : 34-36.
- 山田 学 (2004a) 西中国山地のオオキノコムシ類の採集・観察記録. *すかしば*, (52) : 11.
- 山田 学 (2004b) 美濃郡匹見町でのヒラタムシ類の採集記録. *すかしば*, (52) : 12-13.
- 山口英夫 (1994a) シャープゲンゴロウモドキ (4) 分布図. *越虫*, (25) : 18-22.
- 山口英夫 (1994b) シャープゲンゴロウモドキ (5) 資料編. *越虫*, (25) : 25-34.
- 山口県環境生活部自然保護課 (2002) 「レッドデータブックやまぐち」. 513pp.
- 山本正志 (1974) カラスシジミを採集. *すかしば*, (1) : 5.
- 山本正志 (1978) 仁多郡内のミスジチョウの記録. *昆虫と自然*, 13 (13) : 18.
- 山本正志 (1981) 津和野町でヒサマツミドリシジミ卵を採卵. *すかしば*, (15) : 16.
- 山本正志 (1982) 船通山でフジミドリシジミを採集. *すかしば*, (18) : 27.
- 山本正志 (1983) 中国山地のゴマシジミ調査記録. *すかしば*, (19) : 7-8.
- 山本正志 (1989) 三瓶山でクロミドリシジミ幼虫を採集. *すかしば*, (31) : 19.
- 山本正志 (2002) ツマグロキチョウの調査報告. *すかしば*, (50) : 37-38.
- 山本正志 (2005a) 島根県中部地域 (江の川流域) における岩場の蝶 (ホシミスジ・ウラナミジャノメ・ヘリグロチャバネセセリ) の採集及び観察記録. *すかしば*, (53) : 23-25.
- 山本正志 (2005b) 江の川流域でシルビアシジミを採集. *すかしば*, (53) : 22.
- 山本正志 (2005c) 江津市の海岸でゲンイチモンジセセリを採集. *すかしば*, (53) : 25.
- 山本正志 (2005d) 島根県石見町冠山のギフチョウ. *すかしば*, (53) : 25-26.
- 山本正志 (2005e) ツマグロキチョウの調査報告 (2). *すかしば*, (53) : 28-29.



- 山本正志 (2005f) ヒサマツミドリシジミを島根県瑞穂町で採集. すかしば, (53) : 29.
- 山本正志 (2005g) 島根県中部地域 (江の川流域) におけるハンミョウ類の採集及び観察記録. すかしば, (53) : 31-34.
- 山本正志 (2006a) 島根県中部地域 (江の川流域) におけるゼフィロスの採集報告. すかしば, (54) : 41-43.
- 山本正志 (2006b) 島根県金城町弥畝牧場にてヒメシジミ・コキマダラセセリを採集. すかしば, (54) : 44-45.
- 山本正志 (2006c) 島根県中部地域 (江の川流域) におけるオオムラサキの採集・観察記録. すかしば, (54) : 45-46.
- 山本正志 (2006d) 江の川河岸のギフチョウ (大和村長藤高梨のギフチョウの一習性). すかしば, (54) : 46.
- 山本正志 (2006e) 島根県中部地域 (江の川流域) におけるクモガタヒョウモンの採集・観察記録. すかしば, (54) : 48-49.
- 山本正志 (2006f) 島根県中部地域 (江の川流域) におけるツマグロキチョウの越冬地を確認. すかしば, (54) : 49.
- 山本正志 (2006g) 三瓶山麓で採集したカミキリ2種 (スネケブカヒロコバナカミキリ, ルリボシカミキリ). すかしば, (54) : 54-55.
- 山本正志 (2006h) 島根県中部地域 (江の川流域) におけるハッチョウトンボの採集・観察記録. すかしば, (54) : 50.
- 山本正志 (2006i) 島根県瑞穂町久喜にてゲンバイトンボを採集. すかしば, (54) : 50-51.
- 山本正志 (2006j) 山陰地方のセミ類の採集・鳴き声等の観察記録 (エゾ・アカエゾゼミ, チッチゼミ). すかしば, (54) : 60-61.
- 山本正志 (2006k) 島根県中部地域 (江の川流域) におけるカワラバタの採集・観察記録. すかしば, (54) : 58.
- 山本直樹 (1994) シャープゲンゴロウモドキ島根県で採集. 越虫, (25) : 13.
- 山本直樹 (1995) 中国地方のヒメヒカゲ (上). 蝶研フィールド, 10 (7) : 15-20.
- 山本直樹・山岡幸雄 (1997) 島根県のシャープゲンゴロウモドキ. 月刊むし, (321) : 34-35.
- 山中捷二 (1994) ホシチャバネセセリ. 「山陰のチョウたち」 : 148.
- 柳田慶浩 (1999) 春の夜蛾・秋の夜蛾. やどりが, (183) : 2-19.
- 柳橋浩一 (1987) 三瓶山でクロミドリシジミを採集. 蝶州, (1) : 25.
- 矢野高広・岸田泰則 (2011) スズメガ科. 岸田泰則編「日本産蛾類標準図鑑1」 : 327-329. 学研教育出版, 東京.
- 矢代 学・市川顕彦 (2002) 島根県多伎町でハマスズを発見. 月刊むし, (372) : 48.
- 安田正利 (1989) 島根県鹿足郡柿木村でヒサマツミドリシジミ卵を採卵. 蝶州, (3) : 7.
- 安田正利 (1993) 島根県六日市町でタガメを採集. 蝶州, (6) : 2.
- 安江安宣 (1957) シルビアシジミの分布とその食草について考えること. すずむし, 7 (2) : 19-28.
- 安松京三 (1931) *Megachile kobensis* Cockerell 及び *M. perfervida* Cockerell に就いて. 昆虫世界, 35 (5) : 150-158.
- 安永智秀ほか (2001) 「日本原色カメムシ図鑑第2巻」. 350pp. 全国農村教育協会.
- 八幡浩二 (2001) アオマダラタマムシの採集記録. すかしば, (49) : 8.
- 八幡浩二 (2004) 隠岐・島後でまたタガメが採集される. すかしば, (52) : 29.
- 淀江賢一郎 (1976) 隠岐島産キリシマミドリシジミの生活史. すかしば, (6) : 24-27.
- 淀江賢一郎 (1977) 島根県における湿原性蝶類3種の採集記録. すかしば, (8) : 13-15.
- 淀江賢一郎 (1978) 三瓶山の蝶類 (1). すかしば, (10) : 37-47.
- 淀江賢一郎 (1979a) 松江市近郊のギフチョウ調査記録 (1). すかしば, (11) : 27.
- 淀江賢一郎 (1979b) 松江市近郊のギフチョウ調査記録 (2). すかしば, (12) : 29-30.
- 淀江賢一郎 (1980) 松江市近郊のギフチョウ調査記録 (3). すかしば, (14) : 19-20.
- 淀江賢一郎 (1981) 島根県からキリシマミドリシジミを発見する. すかしば, (15) : 16.
- 淀江賢一郎 (1982a) 松江市近郊のギフチョウ調査記録 (4). すかしば, (16) : 27-28.
- 淀江賢一郎 (1982b) 島根県昆虫文献目録 I. 島根県のトンボに関する文献目録. すかしば, (17) : 1-10.
- 淀江賢一郎 (1982c) エゾゼミの採集記録. すかしば, (17) : 10.
- 淀江賢一郎 (1983a) 三瓶山でカラスシジミを採集. すかしば, (19) : 4.
- 淀江賢一郎 (1983b) 隠岐 (島後) でヘリグロチャバネセセリとアカシジミを採集する. すかしば, (20) : 56.
- 淀江賢一郎 (1984a) ゲンバイトンボを六日市で発見. すかしば, (21) : 17.
- 淀江賢一郎 (1984b) エゾゼミを忌部高原で確認. すかしば, (21) : 19.
- 淀江賢一郎 (1984c) ガロアムシの新産地. すかしば, (22) : 19.
- 淀江賢一郎 (1985) 大社・日御碕でシルビアシジミを採集. すかしば, (23) : 24.
- 淀江賢一郎 (1986a) 「ギフチョウ88カ所めぐり」 : 182-183. 蝶研出版.
- 淀江賢一郎 (1986b) 島根県東部のヒロオビミドリシジミ新産地. すかしば, (25) : 16.
- 淀江賢一郎 (1987) 島根県のトンボに関する文献目録 [3]. すかしば, (27) : 15-16.
- 淀江賢一郎 (1988a) 隠岐・知夫里島における殺虫剤空中散布によるオオウラギンヒョウモンの衰亡. 日本昆虫学会中国支部平成2年度例会発表資料. 1p.
- 淀江賢一郎 (1988b) 島根県加賀でミヤマチャバネセセリを採集. すかしば, (29) : 23.
- 淀江賢一郎 (1988c) 島根県昆虫文献目録2. 島根県のカミキリムシに関する文献目録. すかしば, (30) : 21-38.
- 淀江賢一郎 (1988d) 隠岐島産ルーミスシジミの記録2題. すかしば, (30) : 54.
- 淀江賢一郎 (1988e) 松江市内のミヤマチャバネセセリ. すかしば, (30) : 55.
- 淀江賢一郎 (1992a) 島根県昆虫文献目録3. 島根県のセミに関する文献目録. すかしば, (37/38) : 75-80.
- 淀江賢一郎 (1992b) ロシア沿海州のチョウと自然. すかしば,

(37/38) :107-140.

淀江賢一郎 (1993a) 県別レッドデータリスト (隠岐). 「日本産蝶類の衰亡と保護第2集」:56-57. 日本鱗翅学会・日本自然保護協会.

淀江賢一郎 (1993b) 島根県昆虫文献目録4. 島根県の水生昆虫に関する文献目録. すかしば, (39/40) :29-35.

淀江賢一郎 (1994a) 三瓶山の蝶類. 「三瓶山の昆虫相とその保全」:77-95.

淀江賢一郎 (1994b) 瑞穂町のチョウ相. 「島根県特定地域野生生物緊急調査 (平成4年度) 報告書」:51-57.

淀江賢一郎 (1999) 隠岐島でムラサキツバメを採集. すかしば, (47) :42.

淀江賢一郎編 (2000) 「ウスイロヒョウモンモドキの衰亡と保護ー激減する草原性チョウ類の保護をめざしてー」. 94pp. ホシザキグリーン財団.

淀江賢一郎編 (2001) 「ウスイロヒョウモンモドキの衰亡と保護ー激減する草原性チョウ類の保護をめざしてー」. 86pp. ホシザキグリーン財団.

淀江賢一郎 (2002) 県別レッドデータリスト (島根) 「日本産蝶類の衰亡と保護第5集」:104-107. 日本鱗翅学会.

淀江賢一郎 (2003) 日本産蝶類県別レッドデータ・リスト (2002年)・島根県. 「日本産チョウ類の衰亡と保護第5集」:104-107.

淀江賢一郎 (2005) 島根県で採集されたクジャクチョウのことなど. Butterflies (フジ), (39) :53-55.

淀江賢一郎 (2009) 日本産蝶類都道府県別レッドリスト (三訂版). 「日本産チョウ類の衰亡と保護第6集」:214-217.

淀江賢一郎・中井博喜 (2010a) 山陰地方における最近の蝶の話題. Butterflies (フジ), (50) :49-54.

淀江賢一郎・中井博喜 (2010b) クロマダラソテツジミ島根県における分布拡大 (2009). すかしば, (58) :21-26.

淀江賢一郎・中井博喜・山本正志 (1976) 赤名湿原で得た蝶類. すかしば, (6) :30.

淀江賢一郎・岡 義人 (1980) 瑞穂湿原の蝶とトンボ. すかしば, (14) :13-15.

淀江賢一郎・佐藤仁志 (1986) 匹見峡でガロアムシを発見. 島根県野生生物研究会報, (4) :36.

淀江賢一郎・鶴崎展巨 (1997) 島根県の動物相に関する文献目録 (1993-1995年). ホシザキグリーン財団研究報告, (1) :15-33.

淀江賢一郎・鶴崎展巨 (1998) 島根県の動物相に関する文献目録 Part2 (1996-1997年). ホシザキグリーン財団研究報告, (2) :91-107.

淀江賢一郎・鶴崎展巨 (2000) 島根県の動物相に関する文献目録 Part3 (1998-1999年). ホシザキグリーン財団研究報告, (4) :7-26.

淀江賢一郎・山本正志 (1978) 広島県東部のキバネセセリとクロヒカゲモドキ. 比婆科学, (109) :27-28.

淀江賢一郎・星川和夫・門脇久志・尾原和夫・三島秀夫 (2000) 松江市円木池とその周辺の昆虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (4) :161-192.

淀江賢一郎・星川和夫・斉藤光男・門脇久志・尾原和夫 (1998) 島

根県斐伊川水系の昆虫類 (1997年の調査結果). ホシザキグリーン財団研究報告, (2) :7-86.

淀江賢一郎・和泉浩行・佐々木保 (1993) 県別レッドデータリスト (28) 島根県. 「日本産蝶類の衰亡と保護第2集」:54-56. 日本鱗翅学会・日本自然保護協会.

淀江賢一郎・尾原和夫・三島秀夫 (2000) 島根県宍道町の昆虫相. 宍道町歴史叢書5, 町史研究 (Ⅲ) :20-78.

淀江賢一郎・坂田国嗣・藤原泰樹・山本正志 (2006) 島根県の蝶類ー島根県には何種類の蝶類がいるのか? 「新島根の生物」:219-245. 日本生物教育会島根大会実行委員会.

淀江賢一郎・養父志乃夫 (1982) 島根県のトンボ相. I:基礎データ集. すかしば, (18) :1-26.

横倉 明 (2005) ヒメジミの魅力. Butterflies (fuji), (39) :15-20.

米田淳二 (1988) ヒメハルゼミを八雲村で確認. すかしば, (30) :44.

吉田浩二 (1972) 横田のオオムラサキ. Longicorn, (2) :4-5.

(財) ホシザキグリーン財団監修 (2002) 「みんなの宍道湖ー自然観察ガイドブックー」. 143pp.

## クモ類文献

景山純孝 (1966) 山陰地方の真正蜘蛛類第1報. 松江市立教育研究所研究集録, (3) :94-102.

景山純孝 (1967) 隠岐島産真正蜘蛛類について. 松江市立教育研究所研究集録, (4) :75-86.

景山純孝 (1968) 隠岐島産真正蜘蛛類について (続報). 松江市立教育研究所研究集録, (5) :97-104.

景山純孝 (1970) 島根県仁多郡鬼の舌震の真正蜘蛛類. 松江市立女子高等学校研究紀要, (1) :17-29.

景山純孝 (1971) 島根県美濃郡匹見峡の真正蜘蛛類. 松江市立女子高等学校研究紀要, (2) :39-46.

加村隆英・淀江賢一郎・斉藤光男 (1999) 島根県斐伊川水系のクモ類 (1997年の調査結果). ホシザキグリーン財団研究報告, (3) :39-56.

環境省 (2006) 日本レッドデータブック. 環境省自然環境局野生生物課 (編)

皆木宏明 (2012) 島根県におけるキノボリトタテグモの分布について. 島根県立三瓶自然館研究報告 (10) :35-38.

皆木宏明・景山純孝 (2013) 島根県西部で初記録となるワスレナグモ (クモ目:ジグモ科) について. 島根県立三瓶自然館研究報告 (10) :65-67.

野津幸夫・吉岡武雄 (2004) 隠岐の文化財.

小川光昭 (1997) 江の川流域の真正クモ類. 比和科学博物館研究報告, (34) :195-204.

小川光昭 (2003) 江の川流域の真正クモ類 (第2報). 比和科学博物館研究報告, (42) :181-197.

小川光昭・松田 賢・中村慎吾 (2000) 島根県高津川の真正クモ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (4) :41-48.

坂本 巖 (1961) 琴引山にクモをたずねて. 松江生物懇談会会報, (2) :1-3.

坂本 巖 (1962) 三瓶山の真正クモ目. 「三瓶総合調査報告書」:

57-60.

- 島根県 (2003) 「都市計画道路仁摩湯乃津線環境影響評価準備書」.
- 島根県 (2003) 「都市計画道路浜田三隅線環境影響評価準備書」.
- 新海 明・谷川明男 (2003) 島根県で観察したクモ類. *Kishidaia*, 84: 69-71.
- 新海 明・谷川明男 (2006) 東京蜘蛛談話会2006年度合宿報告 島根県大田市温泉津 (ゆのつ) 温泉周辺のクモ. *Kishidaia*, 90: 52-61.
- 新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 (2010) 県別クモ類分布図ver.2010. 著者自刊 (CD-ROM)
- Suzuki, K. and Tsurusaki, N. & Kodama, Y. (2006) Distribution of an endangered burrowing spider *Lycosa ishikariana* in the San'in Coast of Honshu, Japan (Araneae: Lycosidae). *Acta Arachnologica*, 55 (2) : 79-86.
- 植村利夫 (1941) 佐藤井岐雄氏採集隠岐島産真正蜘蛛類概報. *Acta Arach.*, 6 (2) : 36-42.
- 八木沼健夫 (1938) 中国地方の蜘蛛相概要. *Acta Arach.*, 3 (4) : 142-151.
- 八木沼健夫 (1986) 「原色日本クモ類図鑑」. 305pp. 保育社.

## 甲殻類文献

- 林 成多 (2012) 島根県東部で採集した陸棲等脚目の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 15: 195-200.
- 林 成多 (2013) 隠岐諸島中ノ島で観察した淡水産十脚目甲殻類. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8) : 95-96.
- 林 成多・佐々木興・中野浩史・寺岡誠二・山口勝秀・越川敏樹 (2008) 出雲市平田地域の河川に生息する水生生物. ホシザキグリーン財団研究報告, (11) : 1-60.
- 林 成多・辻井要介・中野浩史・山口勝秀・越川敏樹 (2011) 島根県出雲市の河川に生息する水生生物. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (3) : 1-108.
- 今井 正 (2012) 能登半島および能登島における淡水産コエビ類の分布. 日本生物地理学会会報, (67) : 153-162.
- 板木孝典 (2009) 島根県東部におけるエビ類の分布調査. ホシザキグリーン財団研究報告, (12) : 299-307.
- 板木孝典 (2010) 島根県東部におけるエビ類の分布調査II. ホシザキグリーン財団研究報告, (13) : 279-288.
- 上田常一 (1951) 山陰における石見と出雲の陸水エビ類. 島根大学論集, (1) : 71-82.
- 上田常一 (1963) 山陰地方 (隠岐群島を含む) 及びその付近海域のカニ類について. *Researches on Crustacea*, (7) : 20-31.
- 上田常一 (1964) 「山陰の動物誌」157pp. 今井書店.
- 上田常一 (1965) 「隠岐の動物」172pp. 園山書店.
- 上田常一 (1970) 「日本淡水エビ類の研究 (改訂増補版)」. 213pp. 園山書店.
- 加藤琢彦・池田 等 (1992) 木村コレクション隠岐産動物標本目録 (1) 十脚甲殻類. 隠岐の文化財, (9) : 1-29.
- 川井唯史・中田和義 (2011) 「エビ・カニ・ザリガニ-淡水甲殻類の保全と生物学」. 460pp. 生物研究社.
- 古林敏彦 (2008) 宍道湖・中海のエビ・カニ類. Pp.14-17. 宍道湖自然館第15回特別展「エビ・カニ大図鑑」展示解説 しまねのエビ・カニ. 島根県立宍道湖自然館ゴビウス. 65pp.
- 桑原弘道 (2000) エビのなかま (節足動物門/甲殻綱/十脚目), カニのなかま (節足動物門/甲殻綱/十脚目), その他の甲殻類. Pp.76-85. 斐伊川水系の底生動物. 建設省中国地方建設局出雲工事事務所, 出雲, 170pp.
- 桑原友春 (2011) 島根県松江市の境水道で採集されたフタバカクガニ. ホシザキグリーン財団研究報告, (14) : 262.
- 桑原友春 (2012) 島根県東部のカニ図鑑~陸上・潮間帯・淡水編~. Pp.28-36. 宍道湖自然館第23回特別展「かにつ記~陸を歩くカニとそのなかまたち~」展示解説 かにつ記. 島根県立宍道湖自然館ゴビウス. 60pp.
- 桑原友春・中野浩史・本尾 洋 (2012) 日本海から初記録のタイワンヒライソモドキ. ホシザキグリーン財団研究報告, (15) : 263-265.
- 桑原友春・山口勝秀・中野浩史 (2013) 隠岐諸島におけるカニ類の分布調査. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8) : 97-107.
- 本尾 洋 (2003) 日本海産カニ類-I. 既知種. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (9) : 55-68.
- 本尾 洋 (2008a) 日本海産エビ類-I. 既知種. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (14) : 13-27.
- 本尾 洋 (2008b) 日本海で近年採捕された暖流系のいわゆる稀少大型甲殻類. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (14) : 28-42.
- 丹羽信彰 (2010) 外来輸入エビ, カワリヌマエビ属エビ (*Neocaridina* spp.) および *Palaemonidae* spp. の輸入実態と国内の流通ルート. *CANCER*, (19) : 75-80.
- Nunomura, N. (1984) Studies on the terrestrial crustaceans in Japan II. Taxonomy of the family Scyphacidae. *Bull. Toyama Sci. Mus.*, (6) : 1-43.
- Nunomura, N. (1986) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan. III. Taxonomy of the Families Scyphacidae (continued), Marinoniscidae, Halophilosciidae, Philosciidae and Oniscidae. *Bull. Toyama Sci. Mus.*, (9) : 1-72.
- Nunomura, N. (1987) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan. IV. Taxonomy of the families Trachelipidae and Porcellionidae. *Bull. Toyama Sci. Mus.*, (11) : 1-76.
- Nunomura, N. (1990) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan V. Taxonomy of the families Armadillidiidae, Armadillidae and Tylidae, with taxonomic supplements to some other families. *Bull. Toyama Sci. Mus.*, (13) : 1-58.
- Nunomura, N. (2001) A new species of the genus *Cyathura* (Crustacea: Isopoda) from the Lake Shinji-ko, Shimane Prefecture, western Japan. *Bull. Toyama Sci. Mus.*, (24) : 19-23.
- 大畑純二 (2008) 島根の淡水エビ類 (上田コレクションについて). Pp.48-53. 宍道湖自然館第15回特別展「エビ・カニ大図鑑」

- 展示解説 しまねのエビ・カニ. 島根県立宍道湖自然館ゴビウス. 65pp.
- 佐藤仁志・加藤琢矛(1996)「上田常一動物標本コレクション目録～甲殻類～」. 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録第1号. 138pp. 島根県立三瓶自然館.
- 武田正倫・古田晋平・宮永貴幸・田村昭夫・和田年史(2011)日本海南西部鳥取県沿岸およびその周辺に生息するカニ類. 鳥取県立博物館研究報告, (48): 29-94.
- 辻井要介(2014) 島根県出雲市の湧水環境に生息するトゲナシマエビとミナミテナガエビ. ホシザキグリーン財団研究報告, (17). 印刷中.
- 宇田川弘康・佐藤仁志(1991) 山陰地方における淡水エビ類の分布について. 島根野生生物研究会会報, (7): 19-21.
- Yamauchi T. (2004) A Checklist of Published Crustacean Species from Brackish Lakes, Shinjiko and Nakami, Japan. LAGUNA, (11): 69-86.
- 山内健生・布村 昇(2003) 島根県産陸棲等脚目分布資料 (I) 既報の整理. ホシザキグリーン財団研究報告, (6): 167-171.

## 陸・淡水産貝類文献

- 東 正雄(1995)「原色日本陸産貝類図鑑」. 保育社.
- 福田 宏(1996) ミズゴマツボ. 和田恵次編「日本における干潟海岸とそこに棲息する底生生物の現状. WWW Japan Science Report,」3: 1-182.
- 福田 宏(2000) 巻貝類I－総論. 佐藤正典編「有明海の生きものたち」: 100-137, 海游舎.
- 波部忠重(1993) 第4回自然環境保全基礎調査.
- Hosaka, K. & Fukuda, H. (1996) Discovery of a population of an endangered brackish-water snail *Stenothyra japonica* (Gastropoda: Neotaenioglossa: Stenothyridae) and characteristics of the accompanied molluscan fauna in Onoda City, Yamaguchi Prefecture, western Japan, with a comment on the conservation value. *The Yuriyagai*, 4: 65-96.
- 建設省地方建設局出雲工事事務所(2000) 斐伊川水系の底生動物. 133pp.
- 吉良哲明(1939) 隠岐島及び山陰地方の採集. 附うそのなみまいの和名の問題. *Venus*, 9 (3/4): 170-174.
- 清井武志・秋吉英雄(2007) 島根県内の社寺林叢における陸産貝類(軟体動物門腹足綱)の生態学的評価. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 227-287.
- 近藤高貴(2002) 日本産イシガイ類図鑑.
- Kuroda, T. (1962) Notes on the Stenothyridae (aquatic Gastropoda) from Japan and adjacent region. *Venus*, 22: 59-69, pl. 4.
- 黒住耐二(1996) ミズゴマツボ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料, (3), I. 軟体動物」(日本水産資源保護協会編): 22-28, 83-84, 日本水産資源保護協会.
- 黒住耐二・一澤 圭・川上 靖(2011) 鳥取県立博物館に寄贈された石坂元貝類コレクション－非海産腹足類－.
- 湊 宏(1971) 隠岐諸島のキセルガイ. *ちりばたん*, 6 (7): 165-

- 167.
- 湊 宏(1972) 隠岐の陸産貝類相. *ちりばたん*, 7 (4): 78-82.
- 湊 宏(1980)「陸産貝類の観察と研究」. 85pp. ニューサイエンス社.
- 湊 宏(1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *貝類学雑誌 (Venus)*, Supplement, (2): 212pp. +6 tables +74 pls.
- 湊 宏(2005a) イトウムシオイガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-. 58pp.
- 湊 宏(2005b) ハンジロギセル. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-. 109pp.
- 湊 宏(2005c) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-. 58pp.
- 野津 大(1983)「隠岐の生物」. 245 pp. 読売新聞松江支局.
- 谷山 浩(2002a) アズキガイ. レッドデータブックとっとり, 172 pp.
- 谷山 浩(2002b) クリイロキセルガイモドキ. レッドデータブックとっとり, 177pp.
- 谷山 浩(2002c) キセルガイモドキ. レッドデータブックとっとり, 178pp.
- 谷山 浩・宇野 明(2012) ヤママメタニシ. レッドデータブックとっとり改訂版, 149pp.
- 戸田顕史・馬掘望美・福田 宏・品川 明(2003) 宍道湖におけるミズゴマツボの出現と分布. ホシザキグリーン財団研究報告, (6): 59-63.
- 宇野 明(2002a) オオゴマガイ. レッドデータブックとっとり, 174 pp.
- 宇野 明(2002b) ヤママメタニシ. レッドデータブックとっとり, 175 pp.

## サンゴ類文献

- 秋吉英雄(1985) 山陰海中散歩. (山陰中央新報15回連載記事)
- 秋吉英雄(2002)「海辺の博物学 島根県海辺の生物たち」. 42pp. (財) 島根ふれあい環境財団21.
- 秋吉英雄(2003)「島根漂着物図鑑」. 41pp. (財) 島根ふれあい環境財団21.
- 江口元起(1968) 生物学御研究所編「相模産ヒドロ珊瑚類及び石珊瑚類」. 丸善.
- 波部忠重(1971) 大社町日御碕沿岸の無脊椎動物相. 「日御碕海岸海中公園調査報告書」: 31-38.
- 波部忠重(1973) 隠岐海中公園候補地の無脊椎動物相. 「海中公園センター調査報告書」: 27-35.
- 堀越増興・永田豊・佐藤任弘(1987)「日本列島をめぐる海」. 299pp. 岩波書店.
- 井田 齊・福田照雄(1973) 島根県隠岐周辺の魚類. 「海中公園センター調査報告書」: 37-45.
- 海中公園センター(1973)「島根県海中公園学術調査報告書」. 76pp.
- 幸塚久則・秋吉英雄(2006) 隠岐の島周辺海域から採集された浅海産非造礁性イシサンゴ類. *日本生物地理学会会報*, 61: 53-66

- 幸塚久則・秋吉英雄 (2007) 隠岐諸島に生息する浅海産非造礁性  
イシサンゴ類. うみうし通信, 54 : 4-6
- 西村三郎 (1992) 「原色検索日本海岸動物図鑑 I」. 425pp. 保育  
社.
- 野村恵一・梶村光男・内田紘臣 (1994) 隠岐諸島における造礁性  
イシサンゴ類について. 海中公園情報, (106) :7-11.
- 島根大学理学部附属隠岐臨海実験所 (1995) 隠岐臨海実験所周  
辺の動・植物リスト, 53pp
- 島根県水産試験場 (1963) 「沿岸水族幼稚魚生態調査研究報告  
書」.
- 白井祥平 (1976) 「島根半島海中公園海中調査結果 (概要)」.  
10pp.
- 田村剛・齊藤一雄 (1973) 島根県隠岐地区海中公園の保護及び利  
用計画の概要. 「海中公園センター調査報告書」: 53-76.
- 矢島孝昭 (1986) 能登九十九湾周辺海域におけるキクメイシモド  
キ *Oulastrea crispata* La,arl の生態分布. 金沢大学日本海域  
研究所報告, (18) : 21-36.

## 淡水海綿類文献

- 益田芳樹 (2001) 淡水海綿類. 浜島繁隆ら編「ため池の自然」:  
102-109. 信山社サイテック, 東京
- 益田芳樹・佐藤国康 (1990) 宍道湖及びその周辺の淡水海綿につ  
いて. Kawasaki Medical Society, (16) : 67-82.
- 益田芳樹・佐藤国康 (1991-2000) 淡水海綿の話ーその1～6ー.  
兵庫陸水生物, (39/40) : 17-20., (41) : 49-52., (42) : 43-46.,  
(43) : 59-66., (51/52) : 345-356.

## 写真撮影者等一覧

### 【哺乳類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日 (採集日)※	撮影者 (採集者)※	備考
口絵1	ニホンアシカ	絶滅	竹島	1931年7月	-	標本
	ニホンカモシカ	絶滅	山梨県	1980年	大畑純二	
	ツキノワグマ	絶滅危惧Ⅰ類	邑南町	2006年6月6日	鳥根県中山間地域研究センター	
	ヤマネ	絶滅危惧Ⅱ類	-	2007年4月28日	鳥根県立三瓶自然館	
	カワネズミ	準絶滅危惧	江津市	1982年	大畑純二	
	キクガシラコウモリ	準絶滅危惧	大田市	1992年1月6日	大畑純二	
	ユビナガコウモリ	準絶滅危惧	江津市	1983年4月8日	大畑純二	
	ニホンイタチ	準絶滅危惧	江津市	-	大畑純二	

### 【鳥類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所	撮影日	撮影者	備考
口絵2	カラスバト	絶滅危惧Ⅰ類	益田市	2002年10月14日	石本賢治	
	ヒメクロウミツバメ	絶滅危惧Ⅰ類	西ノ島町	1986年	野津 大	
	ヨシゴイ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	1996年6月17日	川上 章	
	カンムリウミスズメ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐諸島近海	2013年4月22日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ハチクマ	絶滅危惧Ⅰ類	益田市	2003年8月13日	石本賢治	
	オオタカ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	2003年12月14日	北脇 努	
	サシバ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	1986年4月25日	佐藤仁志	
	クマタカ	絶滅危惧Ⅰ類	浜田市	1987年6月	石本賢治	
口絵3	ブッポウソウ	絶滅危惧Ⅰ類	奥出雲町	1984年5月28日	飯塚洋一	
	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	1987年4月25日	佐藤仁志	
	ヤイロチョウ	絶滅危惧Ⅰ類	雲南市	1994年5月24日	佐藤仁志	
	ウチヤマセンニユウ	絶滅危惧Ⅰ類	鳥根県島嶼	2008年7月13日	石本賢治	
	イワミセキレイ	絶滅危惧Ⅰ類	浜田市	1987年4月	石本賢治	
	コイカル	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	2000年4月1日	秦 智秋	
	ヒシクイ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1984年12月22日	佐藤仁志	
	カリガネ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	2000年3月16日	佐藤仁志	
口絵4	オオハクチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1986年1月9日	佐藤仁志	
	アカツクシガモ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1986年1月30日	佐藤仁志	
	ミゾゴイ	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	2006年6月24日	石本賢治	
	クロツラヘラサギ	絶滅危惧Ⅱ類	松江市	2009年11月19日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	クイナ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1995年10月16日	川上 章	
	ヒクイナ	絶滅危惧Ⅱ類	江津市	2011年2月19日	石本賢治	
	ヨタカ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	2013年5月14日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	タマシギ	絶滅危惧Ⅱ類	浜田市	1991年6月	石本賢治	
口絵5	コアジサン	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1984年5月19日	秦 智秋	
	ミサゴ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1995年12月11日	佐藤仁志	
	オジロワシ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1983年3月19日	佐藤仁志	
	チュウビ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1997年3月30日	秦 智秋	
	オオコノハズク	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	2000年7月9日	佐藤仁志	
	アカショウビン	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	1993年7月25日	佐藤仁志	
	ヤマセミ	絶滅危惧Ⅱ類	浜田市	1996年10月10日	井山 明	
	マガン	準絶滅危惧	出雲市	1992年3月8日	佐藤仁志	
口絵6	コハクチョウ	準絶滅危惧	出雲市	1982年12月10日	佐藤仁志	
	ツクシガモ	準絶滅危惧	益田市	2003年3月2日	秦 智秋	
	オシドリ	準絶滅危惧	出雲市	1996年1月21日	北脇 努	
	サンカノゴイ	準絶滅危惧	出雲市	2002年11月24日	秦 智秋	
	コシアカツバメ	情報不足	江津市	2013年5月21日	星野由美子	
	コルリ	情報不足	益田市	2003年5月10日	石本賢治	
	コサメビタキ	情報不足	浜田市	1998年5月14日	石本賢治	
	クロジ	情報不足	浜田市	1997年3月4日	石本賢治	

【両生類・爬虫類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所	撮影日	撮影者	備考
口絵7	オオサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類	邑南町	2013年9月18日	鳥根県立宍道湖自然館	
	オキサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	2012年6月6日	隠岐ジオパーク推進協議会	
	カスミサンショウウオ	準絶滅危惧	安来市	2010年2月25日	岩田貴之	
	ブチサンショウウオ	準絶滅危惧	奥出雲町	2003年5月23日	岩田貴之	
	ヒダサンショウウオ	準絶滅危惧	安来市	2013年3月3日	岩田貴之	
	オキタゴガエル	準絶滅危惧	西ノ島町	2013年9月11日	鳥根県立宍道湖自然館	
	シロマダラ	準絶滅危惧	安来市	2002年7月2日	秋吉英雄	
	ナゲレタゴガエル	情報不足	吉賀町	2012年5月7日	岩田貴之	

【汽水・淡水魚類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日 (採集日)※	撮影者 (採集者)※	備考
口絵8	ドウクツミミズハゼ	絶滅	長崎県	-	-	標本(国立科学博物館所蔵)
	ミナミアカヒレタビラ	絶滅危惧Ⅰ類	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	イシドジョウ	絶滅危惧Ⅰ類	三隅川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	ゴギ	絶滅危惧Ⅰ類	江の川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	日本海系イトヨ	絶滅危惧Ⅰ類	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	クルメサヨリ	絶滅危惧Ⅰ類	斐伊川水系	2012年10月20日	鳥根県立宍道湖自然館	
	オヤニラミ	絶滅危惧Ⅰ類	江の川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	スナヤツメ南方種	絶滅危惧Ⅱ類	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
口絵9	カワヤツメ	絶滅危惧Ⅱ類	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	サクラマス	絶滅危惧Ⅱ類	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	ヨウジウオ	絶滅危惧Ⅱ類	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	サンゴタツ	絶滅危惧Ⅱ類	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	カジカ(大卵型:河川陸封型)	絶滅危惧Ⅱ類	神戸川水系	1994年7月17日	佐藤仁志	
	イシドンコ	絶滅危惧Ⅱ類	高津川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	ルリヨシノボリ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	シンジコハゼ	絶滅危惧Ⅱ類	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
口絵10	アブラボテ	準絶滅危惧	江の川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	ズナガニゴイ	準絶滅危惧	江の川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	サンインコガタスジシマドジョウ	準絶滅危惧	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	アカザ	準絶滅危惧	江の川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	アユカケ(カマキリ)	準絶滅危惧	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	ウツセミカジカ(小卵型・中卵型:両側回遊型)	準絶滅危惧	江の川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	オオヨシノボリ	準絶滅危惧	高津川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	カワアナゴ	情報不足	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)

【昆虫類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日 (採集日)※	撮影者 (採集者)※	備考
口絵11	ヒメシロチョウ	絶滅	奥出雲町	1952年7月12日	平田信夫	標本(倉敷市立自然史博物館所蔵)
	コバネアオイトトンボ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	1995年11月4日	大浜祥治	
	モートンイトトンボ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	2005年5月28日	高木 聡	
	ヒロシマサナエ	絶滅危惧Ⅰ類	益田市	2007年6月8日	宮本詔子	
	マイコアカネ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	1988年9月18日	大浜祥治	
	コカワゲラ	絶滅危惧Ⅰ類	雲南市	1998年7月10日	稲田和久	
	カワラバツタ	絶滅危惧Ⅰ類	益田市	2002年8月22日	山田 学	
	タガメ	絶滅危惧Ⅰ類	鳥根県東部	-	-	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
口絵12	トゲナベブタムシ	絶滅危惧Ⅰ類	兵庫県	2001年5月27日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ハラビロハンミョウ	絶滅危惧Ⅰ類	鳥取県	-	-	標本(ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	カワラハンミョウ	絶滅危惧Ⅰ類	益田市	2002年8月5日	山田 学	
	オオヒョウタンゴミムシ	絶滅危惧Ⅰ類	鳥取県	-	-	標本(ホシザキ野生生物研究所所蔵)

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日 (採集日)※	撮影者 (採集者)※	備考
口絵12	イワタメクラチビゴミムシ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	—	星川和夫	標本
	イソチビゴミムシ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	2006年6月28日	(公財)ホシザキグリーン財団	標本(ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	マルコガタノゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅰ類	島根県東部	—	島根県立宍道湖自然館	飼育個体(島根県立宍道湖自然館)
	ゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅰ類	島根県東部	—	川野敬介	
口絵13	シャープゲンゴロウモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	石川県	2003年10月20日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ダイコクコガネ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	1996年9月14日	鈴木謙治	
	オオハナカミキリ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	1986年6月6日	福井修二	
	キマダラルリツバメ	絶滅危惧Ⅰ類	安来市	1965年6月	板垣 治	標本(裏面)
	ルーミスジミ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	1986年7月31日	淀江賢一郎	
	ウラナミアカシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	岡山県	2002年6月9日	坂田国嗣	
	クロシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	岡山県	1998年6月30日	坂田国嗣	
	シルビアシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	1994年8月30日	坂田国嗣	
口絵14	ヒメシジミ本州・九州亜種	絶滅危惧Ⅰ類	岡山県	2002年6月23日	坂田国嗣	
	ゴマシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	飯南町	1996年8月13日	坂田国嗣	
	ウラギンズジヒョウモン	絶滅危惧Ⅰ類	安来市	1996年7月1日	坂田国嗣	
	オオウラギンヒョウモン	絶滅危惧Ⅰ類	山口県	1996年7月7日	坂田国嗣	
	ヒョウモンモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	—	1993年6月20日	淀江賢一郎	
	ウスイロヒョウモンモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	2002年7月2日	中蘭洋行	
	シータテハ	絶滅危惧Ⅰ類	長野県	2003年7月28日	坂田国嗣	
	ホシミスジ近畿地方以西亜種	絶滅危惧Ⅰ類	江津市	2007年6月12日	三島秀夫	
口絵15	ウラナミジャノメ本土亜種	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	2009年6月17日	三島秀夫	
	クロヒカゲモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	浜田市	1996年7月29日	坂田国嗣	
	ウラジャノメ	絶滅危惧Ⅰ類	益田市	1978年7月2日	中村泰士	標本(島根県立三瓶自然館所蔵)
	キバナセセリ	絶滅危惧Ⅰ類	山梨県	2003年7月29日	坂田国嗣	
	コキマダラセセリ	絶滅危惧Ⅰ類	岡山県	1999年7月12日	坂田国嗣	
	ホシチャバナセセリ	絶滅危惧Ⅰ類	浜田市	1995年7月30日	坂田国嗣	
	オツネトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2004年	竹本耕一	
	グンバイトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	—	—	—	
口絵16	ベニイトトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	2008年8月11日	大浜祥治	
	ネアカヨシヤンマ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1991年7月20日	大浜祥治	
	ナゴヤサナエ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	2004年8月28日	大浜祥治	
	ハネビロエゾトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	岡山県	2011年7月31日	守安 敦	
	キイロヤマトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	安来市	2001年6月2日	大浜祥治	
	ハッチョウトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	松江市	2004年7月3日	大浜祥治	
	コオイムシ	絶滅危惧Ⅱ類	安来市	—	川野敬介	
	ズイムシハナカメムシ	絶滅危惧Ⅱ類	安来市	2005年10月13日	尾原和夫	標本
口絵17	コエゾゼミ	絶滅危惧Ⅱ類	奥出雲町	1972年8月7日	尾原和夫	標本
	サイカチマダラキジラミ	絶滅危惧Ⅱ類	江津市	2009年7月3日	(公財)ホシザキグリーン財団	標本(ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	ハマベゴミムシ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	—	—	標本(ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	コガタノゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅱ類	高知県	—	—	飼育個体(島根県立宍道湖自然館)
	オオツノハネカクシ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	—	—	標本(ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	アオハナムグリ島前亜種	絶滅危惧Ⅱ類	西ノ島町	1999年6月13日	大浜祥治	
	ツヤネクイハムシ	絶滅危惧Ⅱ類	広島県	2001年6月16日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ニッポンハナダカバチ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2011年8月24日	中村唯史	
口絵18	キバラハキリバチ	絶滅危惧Ⅱ類	—	—	前田泰生	標本
	オオズグロメバエ	絶滅危惧Ⅱ類	—	—	前田泰生	標本
	ギフチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	安来市	1997年4月14日	坂田国嗣	
	ジャコウアゲハ	絶滅危惧Ⅱ類	鳥取県	1999年5月16日	坂田国嗣	
	スジボソヤマキチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	奥出雲町	1998年9月20日	坂田国嗣	
	カラスシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2001年6月10日	坂田国嗣	
	ウスイロオナガシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	安来市	2001年6月15日	坂田国嗣	
	オナガシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	1996年8月5日	坂田国嗣	



写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日 (採集日)※	撮影者 (採集者)※	備考
口絵19	ヒロオビミドリシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	飯南町	1992年6月27日	坂田国嗣	
	ミドリシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	-	2002年7月8日	坂田国嗣	
	クモガタヒョウモン	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	1995年6月25日	坂田国嗣	
	メスグロヒョウモン	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2001年6月10日	坂田国嗣	
	ミスジチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	奥出雲町	1994年7月5日	坂田国嗣	
	オオムラサキ	絶滅危惧Ⅱ類	安来市	1995年7月24日	坂田国嗣	
	ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種	絶滅危惧Ⅱ類	浜田市	1995年7月30日	坂田国嗣	
ギンイチモンジセセリ	絶滅危惧Ⅱ類	鳥取県	1997年5月11日	坂田国嗣		
口絵20	スジグロチャバネセセリ	絶滅危惧Ⅱ類	奥出雲町	2000年7月10日	坂田国嗣	
	ミヤマチャバネセセリ	絶滅危惧Ⅱ類	岡山県	2000年7月1日	坂田国嗣	
	エゾトンボ	準絶滅危惧	飯南町	2004年7月4日	高木 聡	
	ヤマトマダラバッタ	準絶滅危惧	出雲市	2005年11月12日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	シリアカハネナガウンカ	準絶滅危惧	隠岐の島町	2004年8月21日	尾原和夫	標本
	ハルゼミ	準絶滅危惧	大田市	2009年6月1日	三島秀夫	
	エノキカイガラキジラミ	準絶滅危惧	大田市	2010年6月22日	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
アダチアカサシガメ	準絶滅危惧	隠岐の島町	2004年1月21日	島田 孝		
口絵21	ハマベナガカメムシ	準絶滅危惧	雲南市	2002年7月16日	尾原和夫	標本
	ハマベツチカメムシ	準絶滅危惧	出雲市	2003年4月27日	尾原和夫	標本
	アオクチブトカメムシ	準絶滅危惧	飯南町	1994年8月9日	尾原和夫	標本
	ハマバウスバカゲロウ	準絶滅危惧	出雲市	2011年10月25日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	コオナガミズスマシ	準絶滅危惧	安来市	-	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	アヤスジミゾドロムシ	準絶滅危惧	出雲市	2006年7月14日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ケスジドロムシ	準絶滅危惧	出雲市	2006年8月6日	(公財)ホシザキグリーン財団	
ハガマルヒメドロムシ	準絶滅危惧	飯南町	-	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)	
口絵22	ヨコミゾドロムシ	準絶滅危惧	出雲市	2005年10月27日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ホシミスジ隠岐亜種	準絶滅危惧	西ノ島町	1987年6月10日	淀江賢一郎	
	イソハサミムシ	情報不足	出雲市	2011年5月4日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	チッチゼミ	情報不足	出雲市	1996年8月26日	大浜祥治	
	シャシャンボキジラミ	情報不足	出雲市	-	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	ミヤケミズムシ	情報不足	大田市	2009年9月9日	尾原和夫	
	イシハラカメムシ	情報不足	奥出雲町	2009年9月23日	尾原和夫	
カワラゴミムシ	情報不足	青森県	2006年6月30日	(公財)ホシザキグリーン財団		
口絵23	コハンミョウ	情報不足	-	-	福井修二	標本
	アイヌハンミョウ	情報不足	-	-	福井修二	標本
	コニワハンミョウ	情報不足	-	-	福井修二	標本
	ホソハンミョウ	情報不足	-	-	福井修二	標本
	ウミズギワゴミムシ	情報不足	益田市	-	-	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	マダラコガシラミズムシ	情報不足	出雲市	2003年6月16日	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	ムツボシツヤコツゲンゴロウ	情報不足	益田市	2009年9月29日	-	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
クロコブセスジダルマガムシ	情報不足	出雲市	-	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)	
口絵24	ウマツライソハネカクシ	情報不足	出雲市	2006年6月28日	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	ホソキマルハナノミ	情報不足	飯南町	-	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	ババチビドロムシ	情報不足	出雲市	-	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	ヒゲナガヒラタドロムシ	情報不足	飯南町	-	(公財)ホシザキグリーン財団	標本 (ホシザキ野生生物研究所所蔵)
	クロゲンセイ	情報不足	-	2010年7月9日	皆木宏明	
	バッキンガムカギアシゾウムシ	情報不足	出雲市	2012年10月10日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ババステヒメゾウムシ	情報不足	広島県	2001年6月16日	(公財)ホシザキグリーン財団	
フクイアナバチ	情報不足	邑南町	2010年7月28日	皆木宏明		
口絵25	ダルマアリ	情報不足	-	-	福井修二	標本
	ケンランアリノスアブ	情報不足	雲南市	2013年7月1日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ギンボシスズメ	情報不足	大田市	1998年5月25日	三島秀夫	標本
	スキバホウジャク	情報不足	飯南町	2008年8月18日	三島秀夫	
	ウスジロドクガ	情報不足	大田市	1992年6月3日	三島秀夫	標本

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日 (採集日)※	撮影者 (採集者)※	備考
口絵25	トラサンドクガ	情報不足	大田市	2013年5月25日	三島秀夫	標本
	クビジロツメヨトウ	情報不足	西ノ島町	2008年10月20日	大浜祥治	
	トビイロアカガネヨトウ	情報不足	雲南市	2008年10月6日	三島秀夫	標本

### 【クモ類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日	撮影者	備考
口絵27	イソコモリグモ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2010年5月6日	皆木宏明	
	ワスレナグモ	準絶滅危惧	津和野町	2012年10月1日	皆木宏明	
	キノボリトタテグモ	準絶滅危惧	松江市	1974年7月	景山純孝	

### 【甲殻類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日 (採集日)※	撮影者 (採集者)※	備考
口絵26	ハマガニ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	2008年7月1日	鳥根県立宍道湖自然館	
	ヒラテナガエビ(ヤマトテナガエビ)	準絶滅危惧	出雲市	2010年8月2日	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	ヒメヌマエビ	準絶滅危惧	出雲市	2010年10月27日	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	ヤマトヌマエビ	準絶滅危惧	出雲市	2011年10月21日	辻井要介	飼育個体
	ミナミヌマエビ	準絶滅危惧	出雲市	2012年6月12日	辻井要介	
	マメコブシガニ	準絶滅危惧	斐伊川水系	-	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
	ベンケイガニ	準絶滅危惧	松江市	2011年6月22日	鳥根県立宍道湖自然館	
	トゲナシヌマエビ	情報不足	出雲市	2010年10月27日	鳥根県立宍道湖自然館	飼育個体(鳥根県立宍道湖自然館)
口絵27	タイワンヒライソモドキ	情報不足	松江市	2012年5月28日	鳥根県立宍道湖自然館	
	フタバカクガニ	情報不足	松江市	2012年6月11日	鳥根県立宍道湖自然館	
	ニホンハマワラジムシ	情報不足	出雲市	2011年4月25日	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ニッポンヒイロワラジムシ	情報不足	出雲市	2011年4月14日	(公財)ホシザキグリーン財団	

### 【陸・淡水産貝類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所 (採集場所)※	撮影日 (採集日)※	撮影者 (採集者)※	備考
口絵28	ニシノシマガセル	絶滅危惧Ⅰ類	西ノ島町	-	野津 大	
	オキビロウドマイマイ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	-	野津 大	
	アラハダシロマイマイ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	2013年8月21日	増野和幸	
	カワシンジュガイ	絶滅危惧Ⅰ類	広島県	-	岡村一郎	標本
	オキムシオイガイ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	-	野津 大	標本
	オキゴマガイ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	-	野津 大	標本
	ヒメナミギセル	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	-	野津 大	
	オキノクニキビガイ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	-	野津 大	標本
口絵29	オキシメクチマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	-	野津 大	
	オキニシキマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	-	野津 大	
	オキマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	-	野津 大	
	ヘソアキコベソマイマイ	準絶滅危惧	隠岐の島町	-	野津 大	
	ダイセンニシキマイマイ	準絶滅危惧	飯南町	1982年7月25日	岡村一郎	
	カラスガイ	準絶滅危惧	松江市	2003年1月20日	戸田顕史	
	マツカサガイ	準絶滅危惧	出雲市	2005年6月1日	戸田顕史	標本
	ニセマツカサガイ	準絶滅危惧	出雲市	2005年6月1日	戸田顕史	標本

### 【サンゴ類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所	撮影日	撮影者	備考
口絵30	イソバナ	準絶滅危惧	知夫村	2002年8月4日	秋吉英雄	
	イボヤギ	準絶滅危惧	知夫村	2002年8月4日	秋吉英雄	
	ムツサンゴ	準絶滅危惧	隠岐の島町	2011年7月9日	幸塚久典	

## 【淡水海綿類】

写真掲載ページ	和名	2014カテゴリー	撮影場所	撮影日	撮影者	備考
口絵30	シロカイメン	準絶滅危惧	出雲市	2001年7月16日	益田芳樹	
	ヨコトネカイメン	準絶滅危惧	出雲市	1990年7月14日	益田芳樹	
	ツツミカイメン	情報不足	岡山県	1999年10月2日	益田芳樹	

※「撮影場所（採集場所）」及び「撮影日（採集日）」が不明等の場合は「-」で表示。

※「備考」欄で「標本」又は「飼育個体」と記載した「撮影場所（採集場所）」、「撮影日（採集日）」及び「撮影者（採集者）」はそれぞれ「採集場所」、「採集日」及び「採集者」を記載。

※「標本」及び「飼育個体」については博物館等で所蔵等されている場合、「備考」欄に博物館等の施設名を（ ）内に記載。

# 索引 (五十音順)

ア	アイヌハンミョウ……………	口絵23、193	イワミマイマイ……………	256
	アイミヤマシマトビケラ……………	214	ウシカメムシ……………	192
	アオアシナガハナムグリ……………	200	ウジセトトビケラ (ウジヒメセトトビケラ) ……	213
	アオクチブトカメムシ……………	口絵21、160	ウスイロオナガシジミ……………	口絵18、139
	アオバズク……………	59	ウスイロヒョウモンモドキ……………	口絵14、121
	アオハダトンボ……………	146	ウスジロドクガ……………	口絵25、217
	アオハナムグリ島前亜種……………	口絵17、134	ウスズミケンモン……………	219
	アオマダラタマムシ……………	201	ウスバカマキリ……………	151
	アオヤンマ……………	147	ウチヤマセンニューウ……………	口絵3、44
	アカアシクチブトカメムシ……………	160	ウツセミカジカ (小卵型・中卵型・両側回遊型) ……	口絵10、92
	アカエゾゼミ……………	154	ウデワユミアシサシガメ……………	191
	アカザ……………	口絵10、92	ウマヅライソハネカクシ……………	口絵24、197
	アカショウビン……………	口絵5、54	ウマノオバチ……………	211
	アカスジオオカスミカメムシ……………	158	ウミスズメ……………	64
	アカツクシガモ……………	口絵4、47	ウミホソチビゴミムシ……………	195
	アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ) ……	166	ウミミズカメムシ……………	157
	アカモズ……………	66	ウミミズギワゴミムシ……………	口絵23、195
	アサカミキリ……………	209	ウラキンシジミ……………	180
	アサマイチモンジ……………	184	ウラギンスジヒョウモン……………	口絵14、120
	アシマダラアカサシガメ……………	189	ウラゴマダラシジミ……………	180
	アズキガイ……………	249	ウラジャノメ……………	口絵15、124
	アダチアカサシガメ……………	口絵20、158	ウラジロミドリシジミ……………	181
	アブラボテ……………	口絵10、91	ウラナミアカシジミ……………	口絵13、117
	アメイロハエトリグモ……………	229	ウラナミジャノメ本土亜種……………	口絵15、123
	アヤスジミゾドロムシ……………	口絵21、167	エサキアメンボ……………	157
	アヤヘリハネナガウンカ……………	153	エゾクシヒゲシャチホコ……………	217
	アヤモクメキリガ……………	219	エゾコガムシ……………	196
	アヤモンチビカミキリ……………	208	エゾゼミ……………	154
	アユカケ (カマキリ) ……	口絵10、92	エゾツノカメムシ……………	192
	アラハダシロマイマイ……………	口絵28、244	エゾトンボ……………	口絵20、150
	アリヅカウンカ……………	186	エゾハルゼミ……………	155
	イカルチドリ……………	57	エゾミドリシジミ……………	182
	イシドジョウ……………	口絵8、83	エノキカイガラキジラミ……………	口絵20、155
	イシドンコ……………	口絵9、89	オオアオカミキリ……………	206
	イシハラカメムシ……………	口絵22、192	オオアシナガサシガメ……………	190
	イズモメクラチビゴミムシ……………	162	オオウラギンヒョウモン……………	口絵14、120
	イソコモリグモ……………	口絵27、225	オオキノコムシ……………	169
	イソジョウカイモドキ……………	168	オオコノハズク……………	口絵5、53
	イソチビゴミムシ……………	口絵12、113	オオゴマガイ……………	250
	イソハサミムシ……………	口絵22、185	オオサンショウウオ……………	口絵7、72
	イソバナ……………	口絵30、259	オオジシギ……………	63
	イッシキキモンカミキリ……………	170	オオズクロメバエ……………	口絵18、136
	イトアメンボ……………	189	オオセンチコガネ……………	165
	イトウムシオイガイ……………	249	オオタカ……………	口絵2、41
	イヌワシ……………	65	オオタキコギセル (ヒメコギセル) ……	252
	イボヤギ……………	口絵30、259	オオタケチャイロコガネ……………	200
	イワタメクラチビゴミムシ……………	口絵12、112	オオチャイロハナムグリ……………	167
	イワミセクレイ……………	口絵3、44	オオチャバネセセリ……………	184

オオツノハネカクシ	口絵17、134	ガロアムシ類	152
オオハクチョウ	口絵4、47	ガロアムネスジダングラコメツキ	202
オオハナカミキリ	口絵13、115	カワアナゴ	口絵10、94
オオヒョウタンゴミムシ	口絵12、112	カワシンジュガイ	口絵28、244
オオベニホソヒラタコメツキ	202	カワネズミ	口絵1、31
オオホソコバネカミキリ	205	カワモトギセル	252
オオミズナギドリ	61	カワヤツメ	口絵9、86
オオミズムシ	156	カワラゴミムシ	口絵22、192
オオミドリシジミ	221	カワラバッター	口絵11、109
オオムラサキ	口絵19、143	カワラハンミョウ	口絵12、111
オオメダカナガカメムシ	191	カンムリウミスズメ	口絵2、40
オオヨシゴイ	39	キイロサナエ	149
オオヨシノボリ	口絵10、93	キイロテントウゴミムシダマシ	204
オオワシ	64	キイロヤマトンボ	口絵16、129
オカムラムシオイガイ	250	キオビホオナガスズメバチ本州亜種	172
オキゴマガイ	口絵28、245	キクガシラコウモリ	口絵1、31
オキサンショウウオ	口絵7、72	キジロオヒキグモ	226
オキシメクチマイマイ	口絵29、247	キスジウスキョトウ	220
オキタゴガエル	口絵7、74	キスジハネビロウンカ	186
オキチビハネカクシ	133	キヌゲハキリバチ	172
オキチャイロコガネ	200	キノカワハゴロモ	187
オキツヤヒサゴゴミムシダマシ	204	キノボリトタテグモ	口絵27、226
オキナガゴミムシ	194	キバジュズフシアリ	211
オキナワルリチラシ	174	キバネアシブトマキバサシガメ	189
オキニシキマイマイ	口絵29、247	キバネセセリ	口絵15、124
オキノクニキビガイ	口絵28、246	キバラハキリバチ	口絵18、136
オキピロウドマイマイ	口絵28、243	ギフチョウ	口絵18、137
オキマイマイ	口絵29、248	キボシマルウンカ	187
オキムシオイガイ	口絵28、245	キマダラルリツバメ	口絵13、116
オシドリ	口絵6、56	キュウシュウチビトラカミキリ	207
オジロワシ	口絵5、52	クリシマミドリシジミ	183
オツネントンボ	口絵15、126	ギンイチモンジセセリ	口絵19、144
オナガアゲハ	179	キンイロネクイハムシ	171
オナガシジミ	口絵18、140	キンキコルリクワガタ	164
オナガミズアオ	216	ギンツバメ	214
オニクワガタ	198	ギンボシスズメ	口絵25、216
オヤニラミ	口絵8、85	ギンボシツツトビケラ	213
オヨギカタピロアメンボ	157	クイナ	口絵4、49
<b>カ</b> カジカ (大卵型：河川陸封型)	口絵9、88	クビアカサシガメ	190
カジカガエル	75	クビアカモモブトホソカミキリ	208
カスミサンショウウオ	口絵7、73	クビグロケンモン	176
カタビロクサビウンカ	187	クビジロツメヨトウ	口絵25、219
カトウツケオグモ	229	クマタカ	口絵2、42
カトリヤンマ	148	クモガタヒョウモン	口絵19、141
カドワキツヤミズギワコメツキ	203	クリイロキセルガイモドキ	251
カバフキシタバ	116	クルメサヨリ	口絵8、85
カヤコオロギ	185	クロウスタビガ	175
カラスガイ	口絵29、254	クロオオハナノミ	204
カラスシジミ	口絵18、138	クロオビマグソコガネ	199
カラスバト	口絵2、38	クロゲンセイ	口絵24、204
カラフトゴマフトビケラ	212	クロコブセスジダルマガムシ	口絵23、197
カリガネ	口絵3、46	クロサギ	57

クロサワヒメコバネカミキリ	206	ココシキリ	66
クロジ	口絵6、68	コルリ	口絵6、67
クロシジミ	口絵13、118	<b>サ</b> サイカチマダラキジラミ	口絵17、132
クロシモフリアツバ	178	サイゴクピロウドマイマイ	256
クロソンホソハナカミキリ	205	サクラマス	口絵9、87
クロツラヘラサギ	口絵4、48	ササゴイ	62
クロバアカサシガメ	189	ササジメクラチビゴミムシ	194
クロヒカゲモドキ	口絵15、123	サシバ	口絵2、41
クロホシタマクモゾウムシ	210	サラサヤンマ	147
クロマダラタマムシ	202	サンインコガタスジシマドジョウ	口絵10、91
クロミドリシジミ	182	サンカノゴイ	口絵6、56
クロモンチビヒメシヤク	214	サンコウチョウ	66
グンバイトンボ	口絵15、126	サンゴタツ	口絵9、88
ケスジドロムシ	口絵21、167	サンショウクイ	65
ゲンゴロウ	口絵12、114	シータテハ	口絵14、122
ケンランアリノスアブ	口絵25、212	シイボルトコギセル	253
コアジサシ	口絵5、51	シナノエンマコガネ	165
コイカル	口絵3、45	ジムグリ	75
ゴイシシジミ	180	シャープゲンゴロウモドキ	口絵13、114
コウノトリ	61	ジャコウアゲハ	口絵18、137
コウミスズメ	64	シャシャンボキジラミ	口絵22、188
コエゾゼミ	口絵17、131	ショウリョウバッタモドキ	151
コオイムシ	口絵16、130	シラホシダエンマルトゲムシ	200
コオナガミズスマシ	口絵21、163	シリアカハネナガウンカ	口絵20、153
コガタノゲンゴロウ	口絵17、133	シルビアシジミ	口絵13、118
コカワゲラ	口絵11、109	シロカイメン	口絵30、263
ゴギ	口絵8、84	シロコシピロダンゴムシ	239
コキクガシラコウモリ	32	シロシモフリエダシヤク	174
コキマダラセセリ	口絵15、125	シロスジコシブトハナバチ	173
コクガン	61	シロチドリ	57
コサメビタキ	口絵6、67	シロヘリツチカメムシ	159
コシアカツバメ	口絵6、66	シロホソバ	218
コシロシタバ	178	シロマダラ	口絵7、76
コチョウゲンボウ	65	シンジコスナウミナナフシ	237
コテングコウモリ	33	シンジコハゼ	口絵9、90
コトラガ	179	ズイムシハナカメムシ	口絵16、130
コニワハンミョウ	口絵23、193	スカシサン	175
コノハズク	53	スギタニゴマケンモン	218
コハクチョウ	口絵6、55	スギタニルリシジミ	183
コバネアオイトトンボ	口絵11、107	スキバハウジャク	口絵25、216
コバネコロギス	185	ズグロカモメ	63
コハンミョウ	口絵23、193	スケバハゴロモ	187
コブナシコブスジコガネ	166	スゲハムシ	171
ゴヘイニクバエ	212	スジグロチャバネセセリ	口絵20、144
ゴマシオケンモン	219	スジグロボタル	203
ゴマシジミ	口絵14、119	スジボソヤマキチョウ	口絵18、138
コマツエンマグモ	227	ズナガニゴイ	口絵10、91
コマルケシゲンゴロウ	162	スナヤツメ南方種	口絵8、86
ゴミアシナガサシガメ	131	スネケブカヒロコバネカミキリ	170
コミズスマシ	196	セアカオサムシ	161
コミミズク	59	セイタカシギ	62
コモグラ (西日本産小型アズマモグラ)	31	セグロイナゴ	152

セスジカクマグソコガネ	199	ニシカワハヤシワラジムシ	238
<b>夕</b> ダイコクコガネ	口絵13、115	ニシカワホラワラジムシ	238
タイシャクナガチビゴミムシ	162	ニシノシマギセル	口絵28、243
ダイセンセダコブヤハズカミキリ	208	ニセオオコブガ	218
ダイセンニシキマイマイ	口絵29、254	ニセマグソコガネ	166
タイリクユウレイグモ	228	ニセマツカサガイ	口絵29、255
タイワンヒライソモドキ	口絵27、237	ニッポンハナダカバチ	口絵17、135
タカチホヘビ	76	ニッポンヒイロワラジムシ	口絵27、238
タカハシトゲゾウムシ	210	ニホンアシカ	口絵1、26
タガメ	口絵11、110	ニホンイタチ	口絵1、33
タカユヒメグモ	227	ニホンオオカミ	26
タキグチモモブトホソカミキリ	207	日本海系イトヨ	口絵8、84
タゴガエル	74	ニホンカモシカ	口絵1、27
タッタカモクメシャチホコ	175	ニホンカワウソ	27
タベサナエ	149	ニホンハマワラジムシ	口絵27、238
タマシギ	口絵4、50	ニホンモモンガ	29
ダルマアリ	口絵25、211	ニホンリス	34
チッチゼミ	口絵22、186	ネアカヨシヤンマ	口絵16、127
チビトガリハナバチ	172	ネグロクサアブ	212
チュウヒ	口絵5、52	ネジロハキリバチ	173
チュウブホソガムシ	163	ネズミホソバ	176
チョウゲンボウ	60	ネプトクワガタ	198
ツキノワグマ	口絵1、28	ノコギリカメムシ	191
ツクシガモ	口絵6、55	ノツメクラチビゴミムシ	194
ツクシカラスヨトウ	178	ノビタキ	67
ツシマトリノフンダマシ	228	<b>八</b> ハイイロチュウヒ	58
ツツミカイメン	口絵30、264	ハイタカ	65
ツノコガネ	199	ハガマルヒメドロムシ	口絵21、168
ツマグロキチョウ	179	ハコネサンショウウオ	74
ツマグロマルハナノミ	197	ハタケノウマオイ	185
ツミ	64	ハチクマ	口絵2、40
ツヤネクイハムシ	口絵17、135	バッキングムカギアシゾウムシ	口絵24、209
テナガマシラグモ	227	ハッチョウトンボ	口絵16、129
テングコウモリ	33	ハネビロエゾトンボ	口絵16、128
ドウクツミミズハゼ	口絵8、82	ババスケヒメゾウムシ	口絵24、210
トガリバナミシャク	215	ババチビドロムシ	口絵24、201
トキ	37	ハマガニ	口絵26、233
トゲナシヌマエビ	口絵26、237	ハマゴウノメイガ	214
トゲナベブタムシ	口絵12、110	ハマシギ	58
トビイロアカガネヨトウ	口絵25、220	ハマスズ	151
トモエガモ	56	ハマベウスバカゲロウ	口絵21、161
トラサンドクガ	口絵25、217	ハマベゴミムシ	口絵17、132
トラフズク	59	ハマベツチカメムシ	口絵21、159
トラフホソバネカミキリ	206	ハマバナガカメムシ	口絵21、158
トンガリササノハガイ	254	ハヤシミドリシジミ	181
<b>ナ</b> ナカスジシャチホコ	216	ハヤブサ	口絵3、43
ナガレタゴガエル	口絵7、77	ハラビロハンミョウ	口絵12、111
ナゴヤサナエ	口絵16、128	ハルゼミ	口絵20、154
ナチキシタドクガ	217	ハンジロギセル	251
ナベヅル	62	ハンノキカミキリ	208
ナマリキシタバ	221	ヒクイナ	口絵4、49
ナマリキリガ	177	ヒゲシロホソコバネカミキリ	205

ヒゲナガサシガメ	190	ホソバミツモンケンモン	176
ヒゲナガヒラタドロムシ	口絵24、201	ホソハンミヨウ	口絵23、193
ヒサマツミドリシジミ	182	ホソミイトトンボ	146
ヒシクイ	口絵3、46	ホツケミズムシ	156
ヒダサンショウウオ	口絵7、73	ホンドリレンコウモリ	34
ヒバカリ	76	ママイコアカネ	口絵11、108
ヒメアカネ	150	マエグロハネナガウンカ	153
ヒメアシブトクチバ	221	マガン	口絵5、55
ヒメオオクワガタ	164	マクガタテントウ	169
ヒメクロウミツバメ	口絵2、38	マシダナガゴミムシ	194
ヒメサナエ	148	マダラウミスズメ	63
ヒメシジミ本州・九州亜種	口絵14、119	マダラカモドキサシガメ	190
ヒメシロチョウ	口絵11、106	マダラクワガタ	198
ヒメナミギセル	口絵28、246	マダラコガシラミズムシ	口絵23、195
ヒメヌマエビ	口絵26、234	マツカサガイ	口絵29、255
ヒメネグロケンモン	218	マナヅル	62
ヒメハルゼミ	155	マメコブシガニ	口絵26、235
ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種	口絵19、143	マルケシゲンゴロウ	196
ヒメベッコウハゴロモ	188	マルコガタノゲンゴロウ	口絵12、113
ヒメボタル	203	ミサゴ	口絵5、51
ヒメマダラナガカメムシ	191	ミズカメムシ	188
ヒメマルミツギリゾウムシ	209	ミズゴマツボ	251
ヒメミズカマキリ	156	ミスジチョウ	口絵19、142
ヒメミズスマシ	196	ミズスマシ	163
ヒョウモンモドキ	口絵14、121	ミズラモグラ	29
ヒラテテナガエビ(ヤマトテナガエビ)	口絵26、234	ミゾゴイ	口絵4、48
ヒロオビミドリシジミ	口絵19、140	ミツギリゾウムシ	209
ヒロシマサナエ	口絵11、108	ミツノエンマコガネ	165
ビワアシエダトビケラ	213	ミドリシジミ	口絵19、141
フクイアナバチ	口絵24、211	ミナミアカヒレタビラ	口絵8、83
フクロウ	58	ミナミテナガエビ	234
フジキオビ	174	ミナミヌマエビ	口絵26、235
フジミドリシジミ	181	ミヤケミズムシ	口絵22、188
フタキスジエダシヤク	215	ミヤマアカネ	150
フタスジカタビロハナカミキリ	205	ミヤマカラスシジミ	139
フタテнкаメムシ	160	ミヤマチャバネセセリ	口絵20、145
フタバカクガニ	口絵27、237	ムカシトンボ	147
ブチサンショウウオ	口絵7、73	ムカシヤンマ	149
ブッポウソウ	口絵3、42	ムスジイトトンボ	146
フトハサミツノカメムシ	161	ムツサンゴ	口絵30、259
ベーツヒラタカミキリ	169	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	口絵23、195
ヘソアキコベソマイマイ	口絵29、253	ムネアカアワフキ	186
ベニイトトンボ	口絵16、127	ムネアカセンチコガネ	199
ヘラサギ	61	ムネアカツヤケシコメツキ	202
ベンケイガニ	口絵26、236	ムネグロメバエ	173
ハウロクシギ	63	ムネシロテンカバナミシヤク	215
ホオアカ	60	ムラクモヒシガタグモ	228
ホシチャバネセセリ	口絵15、125	ムラサキシタバ	220
ホシミスジ隠岐亜種	口絵22、183	ムラサキハガタヨトウ	220
ホシミスジ近畿地方以西亜種	口絵14、122	ムラサキミツボシキリガ	177
ホシムクドリ	67	ムロズミソレグモ	227
ホソキマルハナノミ	口絵24、198	メスグロヒョウモン	口絵19、142

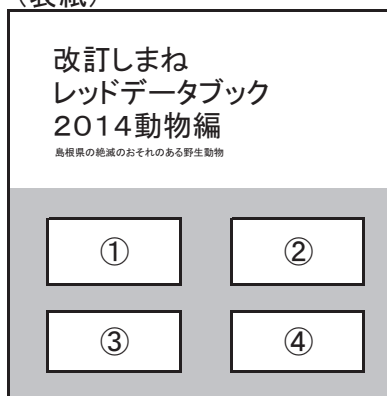


モートナイトトンボ	口絵11、107
モジャモジャツチイロゾウムシ	210
モモジロコウモリ	32
モリアオガエル	75
モリクサツミトビケラ	213
モリヤギセル	252
モンクロベニカミキリ	207
<b>ヤ</b> ヤイロチョウ	口絵3、43
ヤノトラカミキリ	207
ヤマクルマガイ	249
ヤマセミ	口絵5、54
ヤマタカマイマイ	253
ヤマトカナエグモ	228
ヤマトスナハキバチ	171
ヤマトタマムシ	201
ヤマトスマエビ	口絵26、235
ヤマトマダラバッタ	口絵20、152
ヤマトモンシデムシ	197
ヤマネ	口絵1、30
ヤマメタニシ	250
ユビナガコウモリ	口絵1、32
ヨウジウオ	口絵9、87
ヨコトネカイメン	口絵30、263
ヨコミゾドロムシ	口絵22、168
ヨコヤマヒゲナガカミキリ	170
ヨシゴイ	口絵2、39
ヨシノキシタバ	221
ヨスジキリガ	177
ヨタカ	口絵4、50
ヨツモンカメムシ	159
<b>ラ</b> ルーミスシジミ	口絵13、117
ルリクワガタ	164
ルリヒラタムシ	203
ルリボシカミキリ	206
ルリボシヤンマ	148
ルリヨシノボリ	口絵9、89
<b>ワ</b> ワスレナグモ	口絵27、226
ワタナベカレハ	215





(表紙)



- ① ルームスシジミ
- ② カンムリウミスズメ
- ③ カワラハンミョウ
- ④ オキサシヨウウオ

(裏表紙)



- ⑤ オキビロウドマイマイ
- ⑥ アカシヨウビン
- ⑦ ヤマネ
- ⑧ ダイコクコガネ
- ⑨ ミナミアカヒレタビラ
- ⑩ ハマガニ

---

## 改訂しまねレッドデータブック2014動物編

～島根県の絶滅のおそれのある野生動物～

平成26年3月発行

- 発行 島根県環境生活部自然環境課  
島根県松江市殿町1番地  
TEL 0852-22-6377
- 協力 公益財団法人しまね自然と環境財団  
公益財団法人ホシザキグリーン財団
- 印刷 株式会社 島根県農協印刷

ISBN978-4-9906997-1-0

---



# 改訂 しまねレッドデータブック 2014 動物編

島根県の絶滅のおそれのある野生動物

